

# 外国語学部 英米学科 (2021年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■教育の基礎的理解に関する科目等 ■必修科目	教職論	1学期	1	2	1
	EDU111M 楠 凡之	1年			
	教育原理	1学期	1	2	2
	EDU110M 見玉 弥生	1年			
	教育心理学	2学期	1	2	3
	PSY120M 山下 智也	1年			
	教育社会学	1学期	2	2	4
	EDU223M 恒吉 紀寿	2年			
	教育課程論	2学期	2	2	5
	EDU260M 見玉 弥生	2年			
	道徳教育指導論	2学期	2	2	6
	EDU264M 船原 将太	2年			
	特別活動・キャリア教育論	2学期	2	2	7
	EDU265M 楠 凡之	2年			
	教育の方法と技術・総合的な学習の時間の指導法	2学期	1	2	8
	EDU160M 下地 貴樹	1年			
	生徒指導論	2学期	2	2	9
	EDU262M 楠 凡之	2年			
	教育相談	1学期	2	2	10
	EDU261M 山下 智也	2年			
教育実習 1	2学期	3	2		
EDU380C 休講	3年				
教育実習 2	1学期	4	2		
EDU480C 休講	4年				
教育実習 3	1学期	4	2		
EDU481C 休講	4年				
教職実践演習(中・高)	2学期	4	2		
EDU490C 休講	4年				
特別支援教育論	1学期	2	2	11	
EDU263M 楠 凡之	2年				

外国語学部 英米学科 (2021年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■教育の基礎的理解に関する科目等 ■選択科目	発達心理学 PSY220M 税田 慶昭	1学期	2	2	12
		2年			
	障害児の心理と指導 PSY221M 税田 慶昭	2学期	2	2	13
		2年			
人権教育論 EDU222M 休講	1学期	2	2		
	2年				
生涯学習学 EDU220M 恒吉 紀寿	1学期	2	2	14	
	2年				
■教科及び教科の指導法に関する科目	英語科教育法I EDU250C 森 千鶴	1学期	2	2	15
		2年			
	英語科教育法II EDU251C 森 千鶴	2学期	2	2	16
		2年			
英語科教育法III EDU252C 雪丸 尚美	1学期	3	2	17	
	3年				
英語科教育法IV EDU253C 雪丸 尚美	2学期	3	2	18	
	3年				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教職関連科目	日本史 古賀 康士	2学期	1	2	19
		1年			
	東洋史 植松 慎悟	2学期	1	2	20
		1年			
	西洋史 疇谷 憲洋	1学期	1	2	21
		1年			
	人文地理学 外护保 大介	2学期	1	2	22
		1年			
土地地理学 野井 英明	1学期	1	2	23	
	1年				
地誌学 外护保 大介	2学期	1	2	24	
	1年				
日本国憲法 中村 英樹	2学期	1	2	25	
	1年				

外国語学部 英米学科 (2021年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教職関連科目	教育とコンピューター 浅羽 修丈	1学期	2	2	26
		教職2年			
■地域科目	地域特講A (現代社会と新聞ジャーナリズム) 日本新聞社、基盤教育センター 稲月正、外国語学部 中野博文	1学期	1	2	27
		1年			
	地域特講B (Innovation and Regional Development) SPL201F ダンカン・ウォトリイ	2学期	1	2	28
		1年			
	都市と地域 RDE002F 奥山 恭英	2学期	1	2	29
		1年			
	地域の社会と経済 ECN170F 李 錦東	1学期	1	2	30
		1年			
	地域の文化と歴史 HIS170F 南 博	1学期	1	2	31
		1年			
	地域の達人 CAR212F 休講	2学期	1	2	32
		1年			
	地域のにぎわいづくり RDE270F 南 博	2学期	1	2	33
		1年			
	地域と国際 RDE003F 吉村 英俊	1学期	1	2	34
		1年			
	地域防災への招待 SSS001F 加藤 尊秋 他	1学期	1	2	35
		1年			
	地域防災への招待 SSS001F 休講	1学期	1	2	36
		1年			
	北九州市の都市政策 PLC270F 内田 晃	1学期	2	2	37
		2年			
	まなびと企業研究I CAR270F 小林 敏樹	2学期	2	2	38
		2年			
	まなびと企業研究II CAR370F 見館 好隆	1学期	3	2	39
		3年			
■環境科目	環境特講A SPL102F 休講	1学期	1	2	40
		1年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■環境科目	環境特講B (現代社会とエシカル消費) SPL202F 大平 剛	1学期	1	2	37
	1年				
	環境都市としての北九州 ENV001F 日高 京子 他	2学期	1	2	38
	1年				
	生命と環境 BIO100F 日高 京子 他	1学期	1	2	39
	1年				
	環境問題概論 ENV100F 廣川 祐司	1学期	1	2	40
	1年				
	未来を創る環境技術 ENV003F 上江洲 一也 他	1学期	1	2	41
	1年				
動物のみかた ZOL001F 到津の森公園、文学部 竹川大介	2学期	1	2	42	
1年					
自然学のまなざし ENV002F 竹川 大介 他	1学期	1	2	43	
1年					
生命科学入門 BIO200F 日高 京子	2学期	1	2	44	
1年					
環境ESD入門 ENV102F 石川 敬之	2学期	1	2	45	
1年					
■世界 (地球) 科目	世界 (地球) 特講A (テロリズム論) SPL103F 戸蒔 仁司	1学期	1	2	46
	1年				
	世界 (地球) 特講B SPL203F 休講	2学期	1	2	
	1年				
	韓国の社会と文化 ARE010F 休講	2学期	1	2	47
	1年				
	国際学入門 IRL110F 伊野 憲治	2学期	1	2	48
1年					
安全保障論 PLS111F 戸蒔 仁司	2学期	1	2	49	
1年					
現代の国際情勢 IRL003F 北 美幸 他	1学期	1	2	50	
1年					



外国語学部 英米学科 (2021年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■世界(地球)科目	国際社会と日本 IRL004F 中野 博文 他	2学期	1	2	51
		1年			
	グローバル化する経済 ECN001F 魏 芳 他	1学期	1	2	52
		1年			
	近代史入門 PLS110F 藤田 俊	2学期	1	2	53
		1年			
	Japanese Culture and Society ARE221F ロジャー・ウィリアムソン	2学期	2	2	54
		2年			
	English Speaking Cultures and Societies ARE231F ローズマリー・リーダー	2学期	2	2	55
		2年			
現代社会と文化 ANT210F 神原 ゆうこ	1学期	2	2	56	
	2年				
可能性としての歴史 HIS200F 藤田 俊	1学期	2	2	57	
	2年				
■知の技法科目	アカデミック・スキルズI GES101F 藤田 俊	1学期	1	2	58
		英1-A・英1-I			
	アカデミック・スキルズI GES101F 伊野 憲治 他	1学期	1	2	59
		英1-U・英1-E			
	アカデミック・スキルズI GES101F 神原 ゆうこ	1学期	1	2	60
		英1-O・英1-C			
	アカデミック・スキルズI GES101F 廣渡 栄寿	1学期	1	2	61
		中1-A・英1-K			
	アカデミック・スキルズI GES101F 浅羽 修丈	2学期	1	2	62
		1学期未修得者再履			
アカデミック・スキルズII(論理的に生きる) GES102F 中尾 泰士	2学期	1	2	63	
	1年				
アカデミック・スキルズII GES102F 休講(浅羽 修丈)	2学期	1	2		
	1年				
アカデミック・スキルズII(レポートを書くために) GES102F 神原 ゆうこ	2学期	1	2	64	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■知の技法科目	アカデミック・スキルズII ( 安全保障を哲学する ) GES102F 休講	2学期	1	2	65
	1年				
	アカデミック・スキルズII ( 豊かな大学生活のために ) GES102F 永末 康介	2学期	1	2	65
	1年				
	アカデミック・スキルズII ( 教養を磨く『新聞のちから』 ) GES102F 読売新聞西部本社、基盤教育センター 永末 康介	2学期	1	2	65
	1年				
	アカデミック・スキルズII ( 論理的思考、批判的思考、対 GES102F 高木 駿	2学期	1	2	66
	1年				
	知の技法特講A SPL104F 休講	1学期	1	2	66
	1年				
	知の技法特講B SPL204F 休講	2学期	1	2	66
	1年				
情報社会への招待 INF100F 中尾 泰士	2学期	1	2	67	
1年					
法への誘い LAW001F 中村 英樹 他	2学期	1	2	68	
1年					
コンピューターリテラシー INF101F 古川 洋章	2学期	1	1	69	
1年					
データ分析 INF201F 浅羽 修丈	1学期/2学期	2	2	70	
2年					
データ分析 INF201F 佐藤 貴之	2学期	2	2	71	
2年					
■知の創造科目	知の創造特講A SPL105F 休講	1学期	1	2	71
	1年				
	知の創造特講B ( 戦後の日本経済 ) SPL205F 土井 徹平	2学期	1	2	72
	1年				
社会学的思考 SOC002F 稲月 正	1学期	1	2	73	
1年					
ことばの科学 LIN110F 漆原 朗子	2学期	1	2	74	
1年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■知の創造科目	現代人のこころ PSY003F 松本 亜紀 他	1学期	1	2	75
		1年			
	企業と社会 BUS001F 山下 剛	1学期	1	2	76
		1年			
	民主主義とは何か PLS002F 中井 遼	1学期	1	2	77
		1年			
	社会哲学入門 PHR110F 高木 駿	1学期	1	2	78
		1年			
	文化を読む LIT001F 真鍋 昌賢 他	1学期	1	2	79
		1年			
	芸術と人間 PHR006F 真武 真喜子	2学期	1	2	80
		1年			
	現代正義論 PHR003F 重松 博之	2学期	1	2	81
		1年			
情報表現 INF230F 廣渡 栄寿	2学期	1	2	82	
	1年				
倫理思想史 PHR005F 高木 駿	2学期	1	2	83	
	1年				
言語・認知・コミュニケーション LIN210F 漆原 朗子 他	2学期	2	2	84	
	2年				
戦争論 PLS210F 戸蔭 仁司	2学期	2	2	85	
	2年				
■共生と協働科目	共生と協働特講A SPL106F 休講	1学期	1	2	
		1年			
	共生と協働特講B SPL206F 休講	2学期	1	2	
		1年			
	異文化理解の基礎 ANT110F 神原 ゆうこ	2学期	1	2	86
	1年				
人権論 SOC004F 柳井 美枝	1学期	1	2	87	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■共生と協働科目	ジェンダー論 GEN001F カ武 由美	1学期	1	2	88
		1年			
	サービスラーニング入門I CAR110F 石川 敬之	1学期	1	2	89
		1年			
	サービスラーニング入門II CAR180F 石川 敬之	2学期	1	2	90
		1年			
	市民活動論 RDE001F 西田 心平	2学期	1	2	91
		1年			
	地域福祉論 SOW011F 坂本 毅啓	2学期	1	2	92
		1年			
	障がい学 SOW001F 伊野 憲治	1学期	1	2	93
		1年			
	共生社会論 SOW200F 伊野 憲治	2学期	2	2	94
		2年			
	基盤演習I (防衛セミナー) GES201F 休講 (戸蒔 仁司)	1学期	2	2	
		2年			
	基盤演習I (発達障がいセミナー) GES201F 伊野 憲治	1学期	2	2	95
		2年			
	基盤演習I GES201F 休講 (浅羽 修丈)	1学期	2	2	
		2年			
基盤演習I GES201F 石川 敬之	1学期	2	2	96	
	2年				
基盤演習II (文化論セミナー) GES202F 休講 (神原 ゆうこ)	2学期	2	2		
	2年				
基盤演習II (防衛セミナー) GES202F 休講 (戸蒔 仁司)	集中	2	2		
	2年				
基盤演習II GES202F 休講 (浅羽 修丈)	2学期	2	2		
	2年				
基盤演習II GES202F 石川 敬之	2学期	2	2	97	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■共生と協働科目	基盤力応用 (地域課題解決のためのICT活用) GES301F 浅羽 修丈	2学期	3	2	98
		3年			
	基盤力応用 (政治的暴力<応用編>) GES301F 戸蒔 仁司	2学期	3	2	99
		3年			
■ライフ・デザイン科目	ライフ・デザイン特講A (税理士による租税講座) SPL107F 廣渡 栄寿	2学期	1	2	100
		1年			
	ライフ・デザイン特講B (海外学習プログラム) SPL207F 友松 史子	集中	1	2	101
		1年			
	キャリア・デザイン CAR100F 眞鍋 和博	1学期	1	2	102
		1年			
	キャリア・デザイン CAR100F 石川 敬之	1学期	1	2	103
		1年			
	キャリア・デザイン CAR100F 見館 好隆	1学期	1	2	104
		1年			
	メンタル・ヘルス PSY001F 寺田 千栄子	1学期	1	2	105
		1年			
	自己管理論 HSS003F 日高 京子 他	1学期	1	2	106
		1年			
	フィジカル・ヘルス HSS001F 高西 敏正	1学期	1	2	107
		1年			
	フィジカル・ヘルス HSS001F 柴原 健太郎	1学期	1	2	108
		1年			
	フィジカル・ヘルス HSS001F 徳永 政夫	1学期	1	2	109
		1年			
フィジカル・ヘルス HSS001F 高西 敏正	2学期	1	2	110	
	1年				
フィジカル・ヘルス HSS001F 柴原 健太郎	2学期	1	2	111	
	1年				
フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 黒田 次郎	1学期	1	1	112	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ライフ・デザイン科目	フィジカル・エクササイズI (ソフトバレー / バレーボール) HSS081F 倉崎 信子	1学期	1	1	113
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (外種目) HSS081F 黒田 次郎	1学期	1	1	114
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (ソフトバレー / バレーボール) HSS081F 小幡 博基	1学期	1	1	115
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 梨羽 茂	1学期	1	1	116
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 山本 浩二	1学期	1	1	117
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) HSS081F 下釜 純子	1学期	1	1	118
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 梨羽 茂	2学期	1	1	119
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 黒田 次郎	2学期	1	1	120
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) HSS082F 黒田 次郎	2学期	1	1	121
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (ソフトバレー / バレーボ HSS082F 小幡 博基	2学期	1	1	122
	1年				
フィジカル・エクササイズII (外種目) HSS082F 梨羽 茂	2学期	1	1	123	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (外種目) HSS082F 仲里 清	2学期	1	1	124	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 徳永 政夫	2学期	1	1	125	
	1年				
世界での学び方 CAR001F 二宮 正人 他	1学期/2学期	1	2	126	
	1年				
プロフェッショナルの仕事 CAR210F 見館 好隆	1学期	2	2	127	
	2年				

外国語学部 英米学科 (2021年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ライフ・デザイン科目	企業・団体の課題解決 CAR211F 見館 好隆	2学期	2	2	128
	2年				
■外国語教育科目 ■第一外国語	Communicative English I〔英米〕(英1-A) ENG101F アーノルド・ウエイン	1学期	1	1	129
	英1-A				
	Communicative English I〔英米〕(英1-B) ENG101F クリスティン・マイスター	1学期	1	1	130
	英1-B				
	Communicative English I〔英米〕(英1-C) ENG101F ポール・ガラフ・スティール	1学期	1	1	131
	英1-C				
	Communicative English I〔英米〕(英1-D) ENG101F アーノルド・ウエイン	1学期	1	1	132
	英1-D				
	Communicative English I〔英米〕(英1-E) ENG101F クリスティン・マイスター	1学期	1	1	133
	英1-E				
	Communicative English I〔英米〕(英1-F) ENG101F アダム・ヘイルズ	1学期	1	1	134
	英1-F				
	Communicative English II〔英米〕(英1-A) ENG111F ポール・ガラフ・スティール	1学期	1	1	135
	英1-A				
	Communicative English II〔英米〕(英1-B) ENG111F ブルック 前田	1学期	1	1	136
	英1-B				
	Communicative English II〔英米〕(英1-C) ENG111F クリスティン・マイスター	1学期	1	1	137
	英1-C				
	Communicative English II〔英米〕(英1-D) ENG111F カール・マックナマラ・ベイジ	1学期	1	1	138
	英1-D				
Communicative English II〔英米〕(英1-E) ENG111F ホロウェイ グレゴリー キース	1学期	1	1	139	
英1-E					
Communicative English II〔英米〕(英1-F) ENG111F ロドルフォ デルガド	1学期	1	1	140	
英1-F					
Communicative English III〔英米〕(英1-A) ENG102F クリスティン・マイスター	1学期	1	1	141	
英1-A					
Communicative English III〔英米〕(英1-B) ENG102F オム ウォンソブ	1学期	1	1	142	
英1-B					





外国語学部 英米学科 (2021年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	Communicative English V〔英米〕(英1C-F) ENG201F 未定	2学期	1	1	158
		英1C-F			
	Communicative English VI〔英米〕(英1C-A) ENG211F クリスティン・マイスター	2学期	1	1	159
		英1C-A			
	Communicative English VI〔英米〕(英1C-B) ENG211F デニス・ジョーンズ	2学期	1	1	160
		英1C-B			
	Communicative English VI〔英米〕(英1C-C) ENG211F 藤下 友子	2学期	1	1	161
		英1C-C			
	Communicative English VI〔英米〕(英1C-D) ENG211F 未定	2学期	1	1	162
		英1C-D			
	Communicative English VI〔英米〕(英1C-E) ENG211F 未定	2学期	1	1	163
		英1C-E			
	Communicative English VI〔英米〕(英1C-F) ENG211F 未定	2学期	1	1	164
		英1C-F			
	Communicative English VII〔英米〕(英1C-A) ENG202F 木原 謙一	2学期	1	1	165
		英1C-A			
	Communicative English VII〔英米〕(英1C-B) ENG202F クリスティン・マイスター	2学期	1	1	166
		英1C-B			
	Communicative English VII〔英米〕(英1C-C) ENG202F クリスティン・マイスター	2学期	1	1	167
		英1C-C			
Communicative English VII〔英米〕(英1C-D) ENG202F 未定	2学期	1	1	168	
	英1C-D				
Communicative English VII〔英米〕(英1C-E) ENG202F 未定	2学期	1	1	169	
	英1C-E				
Communicative English VII〔英米〕(英1C-F) ENG202F 未定	2学期	1	1	170	
	英1C-F				
Communicative English VIII〔英米〕(英1C-A) ENG212F アショク アシタ	2学期	1	1	171	
	英1C-A				
Communicative English VIII〔英米〕(英1C-B) ENG212F オム ウォンソブ	2学期	1	1	172	
	英1C-B				

外国語学部 英米学科 (2021年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	Communicative English VIII〔英米〕(英1C-C) ENG212F カール・マックナマラ・ベイジ	2学期	1	1	173
		英1C-C			
	Communicative English VIII〔英米〕(英1C-D) ENG212F 未定	2学期	1	1	174
		英1C-D			
	Communicative English VIII〔英米〕(英1C-E) ENG212F 未定	2学期	1	1	175
		英1C-E			
	Communicative English VIII〔英米〕(英1C-F) ENG212F 未定	2学期	1	1	176
		英1C-F			
	Higher English I〔英米〕(英1H-A) ENG302F ホロウェイ グレゴリー キース	2学期	1	2	177
		英1H-A			
	Higher English I〔英米〕(英1H-B) ENG302F アダム・ヘイルズ	2学期	1	2	178
		英1H-B			
	Higher English I〔英米〕(英1H-C) ENG302F フィオナ・クリーサー	2学期	1	2	179
		英1H-C			
	Higher English I〔英米〕(英1H-D) ENG302F 未定	2学期	1	2	180
		英1H-D			
	Higher English I〔英米〕(英1H-E) ENG302F 未定	2学期	1	2	181
		英1H-E			
	Higher English I〔英米〕(英2H-A) ENG302F ロジャー・ウィリアムソン	1学期	2	2	182
		英2H-A			
Higher English I〔英米〕(英2H-B) ENG302F ロジャー・ウィリアムソン	1学期	2	2	183	
	英2H-B				
Higher English I〔英米〕(英2H-C) ENG302F ホロウェイ グレゴリー キース	1学期	2	2	184	
	英2H-C				
Higher English I〔英米〕(英2H-D) ENG302F ホロウェイ グレゴリー キース	1学期	2	2	185	
	英2H-D				
Higher English II〔英米〕(英1H-A) ENG312F アダム・ヘイルズ	2学期	1	2	186	
	英1H-A				
Higher English II〔英米〕(英1H-B) ENG312F フィオナ・クリーサー	2学期	1	2	187	
	英1H-B				

外国語学部 英米学科 ( 2021年度入学生 )

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	Higher English II〔英米〕(英1H-C) ENG312F カール・マックナマラ・ベイジ	2学期	1	2	188
		英1H-C			
	Higher English II〔英米〕(英1H-D) ENG312F 未定	2学期	1	2	189
		英1H-D			
	Higher English II〔英米〕(英1H-E) ENG312F 未定	2学期	1	2	190
		英1H-E			
	Higher English II〔英米〕(英2H-A) ENG312F カール・マックナマラ・ベイジ	1学期	2	2	191
		英2H-A			
Higher English II〔英米〕(英2H-B) ENG312F カール・マックナマラ・ベイジ	1学期	2	2	192	
	英2H-B				
Higher English II〔英米〕(英2H-C) ENG312F ホロウェイ グレゴリー キース	1学期	2	2	193	
	英2H-C				
Higher English II〔英米〕(英2H-D) ENG312F フィオナ・クリーサー	1学期	2	2	194	
	英2H-D				
■第二外国語	中国語I CHN101F 板谷 秀子	1学期	1	1	195
		英1-1・1-2・1-3			
	中国語I CHN101F 小椋 吾郎	1学期	1	1	196
		英1-4・1-5・1-6			
	中国語II CHN111F 板谷 秀子	2学期	1	1	197
		英1-1・1-2・1-3			
	中国語II CHN111F 小椋 吾郎	2学期	1	1	198
		英1-4・1-5・1-6			
	中国語III CHN102F 陳 青鳳	1学期	1	1	199
		英1-1・1-2・1-3			
	中国語III CHN102F 黄 健	1学期	1	1	200
		英1-4・1-5・1-6			
	中国語IV CHN112F 陳 青鳳	2学期	1	1	201
		英1-1・1-2・1-3			
中国語IV CHN112F 黄 健	2学期	1	1	202	
	英1-4・1-5・1-6				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	中国語V CHN201F 有働 彰子	1学期	2	1	203
		英済営人律政群 2年			
	中国語VI CHN211F 有働 彰子	2学期	2	1	204
		英済営人律政群 2年			
	中国語VII CHN202F 黄 健	1学期	2	1	205
		英済営人律政群 2年			
	中国語VIII CHN212F 黄 健	2学期	2	1	206
		英済営人律政群 2年			
	上級中国語I CHN301F 唐 雋	1学期	3	1	207
		英国済営比人 3年			
	上級中国語II CHN311F 唐 雋	2学期	3	1	208
		英国済営比人 3年			
	朝鮮語I ( 1 - a ) KRN101F 吳 香善	1学期	1	1	209
		英中比人 1年			
	朝鮮語I ( 1 - b ) KRN101F 金 貞愛	1学期	1	1	210
		英中比人 1年			
	朝鮮語I ( 1 - c ) KRN101F 安 滌珠	1学期	1	1	211
	英中比人 1年				
朝鮮語I ( 1 - d ) KRN101F 金 光子	1学期	1	1	212	
	英中比人 1年				
朝鮮語II ( 1 - a ) KRN111F 吳 香善	2学期	1	1	213	
	英中比人 1年				
朝鮮語II ( 1 - b ) KRN111F 休講	2学期	1	1	214	
	英中比人 1年				
朝鮮語II ( 1 - c ) KRN111F 安 滌珠	2学期	1	1	215	
	英中比人 1年				
朝鮮語II ( 1 - d ) KRN111F 金 光子	2学期	1	1	216	
	英中比人 1年				
朝鮮語III ( 1 - a ) KRN102F 金 惠媛	1学期	1	1	217	
	英中比人 1年				

科目区分	科目名	担当者	学期	履修年次	単位	索引
			クラス			
	備考					
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	朝鮮語Ⅲ ( 1 - b )		1学期	1	1	218
	KRN102F	金 貞愛	英中比人 1年			
	朝鮮語Ⅲ ( 1 - c )		1学期	1	1	219
	KRN102F	安 滯珠	英中比人 1年			
	朝鮮語Ⅲ ( 1 - d )		1学期	1	1	220
	KRN102F	金 光子	英中比人 1年			
	朝鮮語Ⅳ ( 1 - a )		2学期	1	1	221
	KRN112F	金 惠媛	英中比人 1年			
	朝鮮語Ⅳ ( 1 - b )		2学期	1	1	222
	KRN112F	休講	英中比人 1年			
	朝鮮語Ⅳ ( 1 - c )		2学期	1	1	223
	KRN112F	安 滯珠	英中比人 1年			
	朝鮮語Ⅳ ( 1 - d )		2学期	1	1	224
	KRN112F	金 光子	英中比人 1年			
	朝鮮語Ⅴ		1学期	2	1	225
	KRN201F	金 貞愛	英中 2年			
	朝鮮語Ⅵ		2学期	2	1	226
	KRN211F	金 光子	英中 2年			
	朝鮮語Ⅶ		1学期	2	1	227
	KRN202F	安 滯珠	英中 2年			
朝鮮語Ⅷ		2学期	2	1	228	
KRN212F	安 滯珠	英中 2年				
上級朝鮮語Ⅰ		1学期	3	1	229	
KRN301F	安 滯珠	英中国済営比人 3年				
上級朝鮮語Ⅱ		2学期	3	1	230	
KRN311F	安 滯珠	英中国済営比人 3年				
ドイツ語Ⅰ		1学期	1	1	231	
GRM101F	山下 哲雄	英中国 1年				
ドイツ語Ⅱ		2学期	1	1	232	
GRM111F	山下 哲雄	英中国 1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	ドイツ語III GRM102F 山下 哲雄	1学期	1	1	233
		英中国 1年			
	ドイツ語IV GRM112F 山下 哲雄	2学期	1	1	234
		英中国 1年			
	ドイツ語V GRM201F 山下 哲雄	1学期	2	1	235
		英中国済営比人律政 2年			
	ドイツ語VI GRM211F 山下 哲雄	2学期	2	1	236
		英中国済営比人律政 2年			
	ドイツ語VII GRM202F 山下 哲雄	1学期	2	1	237
		英中国済営比人律政 2年			
	ドイツ語VIII GRM212F 山下 哲雄	2学期	2	1	238
		英中国済営比人律政 2年			
	フランス語I FRN101F 山下 広一	1学期	1	1	239
		英中国 1年			
	フランス語II FRN111F 山下 広一	2学期	1	1	240
		英中国 1年			
	フランス語III FRN102F 小野 菜都美	1学期	1	1	241
		英中国 1年			
	フランス語IV FRN112F 小野 菜都美	2学期	1	1	242
		英中国 1年			
フランス語V FRN201F 小野 菜都美	1学期	2	1	243	
	英中国済営比人律政 2年				
フランス語VI FRN211F 小野 菜都美	2学期	2	1	244	
	英中国済営比人律政 2年				
フランス語VII FRN202F 小野 菜都美	1学期	2	1	245	
	英中国済営比人律政 2年				
フランス語VIII FRN212F 小野 菜都美	2学期	2	1	246	
	英中国済営比人律政 2年				
スペイン語I SPN101F 青木 文夫	1学期	1	1	247	
	英 1 - 1・ 1 - 2・ 1 - 3				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	スペイン語I SPN101F 野村 明衣	1学期	1	1	248
		英 1 - 4・ 1 - 5・ 1 - 6			
	スペイン語II SPN111F 青木 文夫	2学期	1	1	249
		英 1 - 1・ 1 - 2・ 1 - 3			
	スペイン語II SPN111F 野村 明衣	2学期	1	1	250
		英 1 - 4・ 1 - 5・ 1 - 6			
	スペイン語III SPN102F 辻 博子	1学期	1	1	251
		英 1 - 1・ 1 - 2・ 1 - 3			
	スペイン語III SPN102F ミヨコ・ フジヨシ	1学期	1	1	252
		英 1 - 4・ 1 - 5・ 1 - 6			
	スペイン語IV SPN112F 辻 博子	2学期	1	1	253
		英 1 - 1・ 1 - 2・ 1 - 3			
	スペイン語IV SPN112F ミヨコ・ フジヨシ	2学期	1	1	254
		英 1 - 4・ 1 - 5・ 1 - 6			
スペイン語V SPN201F 青木 文夫	1学期	2	1	255	
	英中国済営比人律政 2年				
スペイン語VI SPN211F 青木 文夫	2学期	2	1	256	
	英中国済営比人律政 2年				
スペイン語VII SPN202F 辻 博子	1学期	2	1	257	
	英中国済営比人律政 2年				
スペイン語VIII SPN212F 辻 博子	2学期	2	1	258	
	英中国済営比人律政 2年				
■留学生特別科目	日本語I JSL101F 清水 順子	1学期	1	1	259
		留学生 1年			
	日本語II JSL102F 金 元正	1学期	1	1	260
		留学生 1年			
	日本語III JSL103F 小林 浩明	1学期	1	1	261
		留学生 1年			
	日本語IV JSL111F 清水 順子	2学期	1	1	262
		留学生 1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■留学生特別科目	日本語V JSL112F 小林 浩明	2学期	1	1	263
		留学生 1年			
	日本語VI JSL113F 金 元正	2学期	1	1	264
		留学生 1年			
	日本語VII JSL104F 則松 智子	1学期	2	1	265
		留学生 2年			
	日本語VIII JSL114F 清水 順子	2学期	2	1	266
		留学生 2年			
	日本事情(人文)A JPS101F 清水 順子	1学期	1	2	267
		留学生 1年			
	日本事情(人文)B JPS102F 清水 順子	2学期	1	2	268
		留学生 1年			
	日本事情(社会)A JPS103F 則松 智子	1学期	1	2	269
		留学生 1年			
日本事情(社会)B JPS104F 小林 浩明	2学期	1	2	270	
	留学生 1年				
■専門教育科目 ■ゼミ・卒業課題科目	ゼミ A 1 SEM311M ロジャー・ウィリアムソン	1学期	3	2	271
		3年			
	ゼミ A 1 SEM311M フィオナ・クリーサー	1学期	3	2	272
		3年			
	ゼミ A 1 SEM311M 伊藤 健一	1学期	3	2	273
		3年			
	ゼミ A 1 SEM311M 鮫島 千明	1学期	3	2	274
		3年			
ゼミ A 1 SEM311M ローズマリー・リーダー	1学期	3	2	275	
	3年				
ゼミ A 1 SEM311M アダム・ヘイルズ	1学期	3	2	276	
	3年				
ゼミ A 1 SEM311M アーノルド・ウェイン	1学期	3	2	277	
	3年				



科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■ゼミ・卒業課題科目	ゼミ A 1 SEM311M 木原 謙一	1学期	3	2	278
		3年			
	ゼミ A 1 SEM311M ジェニファー・ラーソンホール	1学期	3	2	279
		3年			
	ゼミ A 1 SEM311M 雪丸 尚美	1学期	3	2	280
		3年			
	ゼミ A 1 SEM311M 平野 圭子	1学期	3	2	281
		3年			
	ゼミ A 1 SEM311M 寺田 真一郎	1学期	3	2	282
		3年			
	ゼミ A 1 SEM311M 齊藤 園子	1学期	3	2	283
		3年			
	ゼミ A 1 SEM311M ロドルフォ デルガド	1学期	3	2	284
		3年			
	ゼミ A 1 SEM311M ブルック 前田	1学期	3	2	285
		3年			
	ゼミ A 1 SEM311M オム ウォンソブ	1学期	3	2	286
		3年			
ゼミ A 1 SEM311M アショク アシタ	1学期	3	2	287	
	3年				
ゼミ A 2 SEM312M ロジャー・ウィリアムソン	2学期	3	2	288	
	3年				
ゼミ A 2 SEM312M フィオナ・クリーサー	2学期	3	2	289	
	3年				
ゼミ A 2 SEM312M 伊藤 健一	2学期	3	2	290	
	3年				
ゼミ A 2 SEM312M 鮫島 千明	2学期	3	2	291	
	3年				
ゼミ A 2 SEM312M ローズマリー・リーダー	2学期	3	2	292	
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■ゼミ・卒業課題科目	ゼミ A 2 SEM312M アダム・ヘイルズ	2学期	3	2	293
		3年			
	ゼミ A 2 SEM312M アーノルド・ウェイン	2学期	3	2	294
		3年			
	ゼミ A 2 SEM312M 木原 謙一	2学期	3	2	295
		3年			
	ゼミ A 2 SEM312M ジェニファー・ラーソンホール	2学期	3	2	296
		3年			
	ゼミ A 2 SEM312M 雪丸 尚美	2学期	3	2	297
		3年			
	ゼミ A 2 SEM312M 平野 圭子	1学期	3	2	298
		3年			
	ゼミ A 2 SEM312M 寺田 真一郎	2学期	3	2	299
		3年			
	ゼミ A 2 SEM312M 齊藤 園子	2学期	3	2	300
		3年			
	ゼミ A 2 SEM312M ロドルフォ テルガド	2学期	3	2	301
		3年			
ゼミ A 2 SEM312M ブルック 前田	2学期	3	2	302	
	3年				
ゼミ A 2 SEM312M オム ウォンソブ	2学期	3	2	303	
	3年				
ゼミ A 2 SEM312M アショク アシタ	2学期	3	2	304	
	3年				
ゼミ B 1 SEM411M 未開講	1学期	4	2		
	4年				
ゼミ B 2 SEM412M 未開講	2学期	4	2		
	4年				
■Academic English	Academic English I ENG101M 伊藤 健一	1学期	1	2	305
		1 - 5			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■Academic English	Academic English I ENG101M 齊藤 園子	1学期	1	2	306
		1 - 6			
	Academic English I ENG101M 齊藤 園子	1学期	1	2	307
		1 - 1			
	Academic English I ENG101M 木原 謙一	1学期	1	2	308
		1 - 2			
	Academic English I ENG101M 木原 謙一	1学期	1	2	309
		1 - 3			
	Academic English I ENG101M 木原 謙一	1学期	1	2	310
		1 - 4			
	Academic English II ENG111M アショク アシタ	2学期	1	2	311
		1 - 3			
	Academic English II ENG111M アショク アシタ	2学期	1	2	312
		1 - 6			
	Academic English II ENG111M クリストファー・オサリバン	2学期	1	2	313
		1 - 1			
	Academic English II ENG111M 藤下 友子	2学期	1	2	314
		1 - 2			
	Academic English II ENG111M ポール・ガラフ・スティール	2学期	1	2	315
		1 - 5			
Academic English II ENG111M 藤下 友子	2学期	1	2	316	
	1 - 4				
Academic English III ENG201M 廣田 恵美	1学期	2	2	317	
	2 - 1				
Academic English III ENG201M ロドルフォ デルガド	1学期	2	2	318	
	2 - 2				
Academic English III ENG201M ロドルフォ デルガド	1学期	2	2	319	
	2 - 3				
Academic English III ENG201M ジェイムズ・ヒックス	1学期	2	2	320	
	2 - 4				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■Academic English	Academic English III ENG201M ジェイムズ・ヒックス	1学期	2	2	321
		2 - 5			
	Academic English III ENG201M ジェイムズ・ヒックス	1学期	2	2	322
		2 - 6			
	Academic English IV ENG211M リーサ ハンズバーガー	2学期	2	2	323
		2 - 1			
	Academic English IV ENG211M ジェニファー・ラーソンホール	2学期	2	2	324
		2 - 2			
	Academic English IV ENG211M ジェニファー・ラーソンホール	2学期	2	2	325
		2 - 3			
	Academic English IV ENG211M クリストファー・オサリバン	2学期	2	2	326
		2 - 4			
	Academic English IV ENG211M クリストファー・オサリバン	2学期	2	2	327
		2 - 5			
Academic English IV ENG211M リーサ ハンズバーガー	2学期	2	2	328	
	2 - 6				
Professional English I ENG431M 未開講		1学期	4	2	
		4年			
Professional English II ENG432M 未開講		2学期	4	2	
		4年			
■専門入門科目	English for Core Program ENG151M アダム・ヘイルズ 他	1学期	1	2	329
		1年			
	Introduction to English Linguistics LIN101M ジェニファー・ラーソンホール	2学期	1	2	330
		1年			
	Introduction to Cultural Comparison MCC101M ロジャー・ウィリアムソン	2学期	1	2	331
		1年			
	Introduction to Film, Literature, and Theatre LIT101M アダム・ヘイルズ	2学期	1	2	332
		1年			
	Introduction to Tourism Management BUS102M ロドルフォ デルガド	2学期	1	2	333
		1年			

外国語学部 英米学科 (2021年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■専門入門科目	Introduction to Economics ECN101M オム ウォンソブ	2学期	1	2	334
	1年				
	Introduction to Business BUS101M 寺田 真一郎	2学期	1	2	335
	1年				
■English Studies 科目 ■Language and Education Program	English Conversation ENG251M ポール・ガラフ・ステイール	1学期	2	2	336
	2年				
	英語リスニング演習 ENG252M 平野 圭子	2学期	2	2	337
	2 - 1・2 - 2				
	英語リスニング演習 ENG252M 平野 圭子	2学期	2	2	338
	2 - 3・2 - 4				
	英語リスニング演習 ENG252M 廣田 恵美	2学期	2	2	339
	2 - 5・2 - 6				
	Second Language Acquisition LIN253M 雪丸 尚美	1学期	2	2	340
	2年				
	Phonetics and Phonology LIN211M ジェニファー・ラーソンホール	1学期	2	2	341
	2年				
	社会言語学 LIN212M 平野 圭子	1学期	2	2	342
	2年				
	英文法I LIN231M 廣田 恵美	1学期	2	2	343
	2年				
	英文法II LIN232M 廣田 恵美	2学期	2	2	344
	2年				
	Language Teaching LIN251M 雪丸 尚美	2学期	2	2	345
	2年				
	Language Learning LIN352M ジェニファー・ラーソンホール	1学期	3	2	346
	3年				
	Presentation and Writing A ENG253M ジェイムズ・ヒックス	2学期	2	2	347
	2 - 1・2 - 2				
	Presentation and Writing A ENG253M ジェイムズ・ヒックス	2学期	2	2	348
	2 - 3・2 - 4				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■English Studies 科目 ■Language and Education Program	Presentation and Writing A ENG253M ジェイムズ・ヒックス	2学期	2	2	349
		2 - 5・2 - 6			
	Presentation and Writing B ENG352M ホロウェイ グレゴリー キース	2学期	3	2	350
		3 - 1・3 - 2			
	Presentation and Writing B ENG352M ホロウェイ グレゴリー キース	2学期	3	2	351
		3 - 3・3 - 4			
	Presentation and Writing B ENG352M クリストファー・オサリバン	2学期	3	2	352
		3 - 5・3 - 6			
	Reading and Discussion I ENG254M ホロウェイ グレゴリー キース	2学期	2	2	353
		2 - 1・2 - 2			
	Reading and Discussion I ENG254M ホロウェイ グレゴリー キース	2学期	2	2	354
		2 - 3・2 - 4			
	Reading and Discussion I ENG254M ホロウェイ グレゴリー キース	2学期	2	2	355
		2 - 5・2 - 6			
	Reading and Discussion II ENG351M ホロウェイ グレゴリー キース	1学期	3	2	356
		3 - 1・3 - 2			
	Reading and Discussion II ENG351M 藤下 友子	1学期	3	2	357
	3 - 3・3 - 4				
Reading and Discussion II ENG351M 藤下 友子	1学期	3	2	358	
	3 - 5・3 - 6				
統語論・形態論 LIN332M ローズマリー・リーダー	1学期	3	2	359	
	3年				
Semantics LIN333M ローズマリー・リーダー	2学期	3	2	360	
	3年				
語用論 LIN334M 平野 圭子	1学期	3	2	361	
	3年				
History of English Language LIN335M ホロウェイ グレゴリー キース	2学期	3	2	362	
	3年				
Bilingualism LIN336M ジェニファー・ラーソンホール	2学期	3	2	363	
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■English Studies 科目 ■Society and Culture Program	British Studies ARE231M 木原 謙一	1学期	2	2	364
		2年			
	Travel Cultures MCC201M アーノルド・ ウェイン	1学期	2	2	365
		2年			
	Media and Communication Studies MCC211M アダム・ ヘイルズ	1学期	2	2	366
		2年			
	Urban Studies MCC212M アーノルド・ ウェイン	2学期	2	2	367
		2年			
	英米文化研究 MCC213M 伊藤 健一	2学期	2	2	368
		2年			
	通訳翻訳の世界 MCC231M 伊藤 健一	1学期	2	2	369
		2年			
	通訳理論と技術 MCC232M 伊藤 健一	2学期	2	2	370
		2年			
	American Societies and Cultures ARE221M デニス・ ジョーンズ	2学期	2	2	371
		2年			
	日英翻訳演習 ENG281M ローズマリー・ リーダー	2学期	2	2	372
	2 - 1・ 2 - 2				
日英翻訳演習 ENG281M ローズマリー・ リーダー	2学期	2	2	373	
	2 - 3・ 2 - 4				
日英翻訳演習 ENG281M ローズマリー・ リーダー	2学期	2	2	374	
	2 - 5・ 2 - 6				
国際法入門 LAW251M 二宮 正人	集中	2	2	375	
	2年				
国際関係基礎 IRL211M 大平 剛	1学期	2	2	376	
	2年				
国際機構論 (概論) IRL311M 磯村 英司	1学期	3	2	377	
	3年				
Cross-cultural Fieldwork MCC314M ロジャー・ ウィリアムソン	1学期	3	2	378	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■English Studies 科目 ■Society and Culture Program	Gender and Communication Studies	1学期	3	2	379
	MCC341M フィオナ・クリーサー	3年			
	Gender and Japanese Popular Culture	2学期	3	2	380
	MCC342M フィオナ・クリーサー	3年			
	Theatre and Performance Studies	1学期	3	2	381
	MCC351M アダム・ヘイルズ	3年			
	Film and Society	2学期	3	2	382
	MCC352M アーノルド・ウェイン	3年			
	Literature in English	1学期	3	2	383
	LIT333M 齊藤 園子	3年			
	American Studies	2学期	3	2	384
	ARE321M アーノルド・ウェイン	3年			
	Irish Culture	2学期	3	2	385
	ARE341M 木原 謙一	3年			
	通訳実技初歩	1学期	3	2	386
	ENG381M ノリス 志津代	3 - 1・ 3 - 2			
	通訳実技初歩	1学期	3	2	387
	ENG381M ノリス 志津代	3 - 3・ 3 - 4			
	通訳実技初歩	1学期	3	2	388
	ENG381M ノリス 志津代	3 - 5・ 3 - 6			
通訳実技実践	2学期	3	2	389	
ENG382M ノリス 志津代	3 - 1・ 3 - 2				
通訳実技実践	2学期	3	2	390	
ENG382M ノリス 志津代	3 - 3・ 3 - 4				
通訳実技実践	2学期	3	2	391	
ENG382M ノリス 志津代	3 - 5・ 3 - 6				
英日翻訳演習	1学期	3	2	392	
ENG383M 鮫島 千明	3年				
英語映像翻訳	2学期	3	2	393	
ENG384M 鮫島 千明	3年				



科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■English Studies 科目 ■Society and Culture Program	対外経済政策論 ECN301M カール・マックナマラ・ベイジ	2学期	3	2	394
		3年			
	英米の近代文学Ⅰ LIT233M 今川 京子	2学期	2	2	395
		2年			
	英米の近代文学Ⅱ LIT231M 江頭 理江	1学期	2	2	396
		2年			
	英米文学概論Ⅰ LIT131M 田部井 世志子	1学期	2	2	397
		2年			
	英米文学概論Ⅱ LIT130M 前田 譲治	2学期	2	2	398
		2年			
	英米の現代文学Ⅰ LIT232M 田部井 世志子	2学期	3	2	399
		3年			
英米の現代文学Ⅱ LIT230M 江頭 理江	2学期	3	2	400	
	3年				
■Global Business Program	Introduction to Statistics ECN205M ブルック 前田	1学期	2	2	401
		2年			
	簿記 ACC110M 長束 航	1学期	2	2	402
		2年			
	Management Strategy BUS211M 寺田 真一郎	1学期	2	2	403
		2年			
	Innovation Theory BUS212M 寺田 真一郎	2学期	2	2	404
		2年			
	Tourism PolicyⅠ PLC211M ロドルフォ デルガド	1学期	2	2	405
		2年			
	Tourism PolicyⅡ PLC212M ロドルフォ デルガド	2学期	2	2	406
		2年			
International Trade and Finance ECN201M ブルック 前田	2学期	2	2	407	
	2年				
Management System BUS213M アショク アシタ	2学期	2	2	408	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■English Studies 科目 ■Global Business Program	Marketing BUS214M オム ウォンソブ	2学期	2	2	409
		2年			
	Tourism Geography ( World Heritage ) MCC343M ロドルフォ テルガド	1学期	3	2	410
		3年			
	International Business Management BUS311M オム ウォンソブ	1学期	3	2	411
		3年			
	Human Resource Strategy BUS312M アショク アシタ	1学期	3	2	412
		3年			
	Finance BUS313M ブルック 前田	1学期	3	2	413
		3年			
	Hospitality Management BUS314M 後藤 純子	2学期	3	2	414
		3年			
	Global Logistics BUS315M ブルック 前田	2学期	3	2	415
	3年				
Venture Business BUS316M 寺田 真一郎	2学期	3	2	416	
	3年				
Leadership Theory BUS317M アショク アシタ	1学期	3	2	417	
	3年				
Business Case Studies BUS318M オム ウォンソブ	2学期	3	2	418	
	3年				
Introduction to MBA Seminar SEM401M 未開講	1学期	4	2		
	4年				
■実践科目 ■特定課題科目	特定課題演習 A SEM201M 齊藤 園子	1学期	1	2	419
		1年			
	特定課題演習 B ( 異文化理解 ) SEM202M 休講	2学期	1	2	
		1年			
	特定課題演習 B ( ダイバーシティ ) SEM202M フィオナ・クリーサー 他	2学期	1	2	420
	1年				
特定課題演習 C SEM203M 中野 博文 他	集中	1	2	421	
	1年				

外国語学部 英米学科 (2021年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■実践科目 ■特定課題科目	特定課題演習 D		1	2	
	SEM204M 休講	1年			
■留学プログラム科目	留学国際活動 2 B	1学期	1	2	422
	MCC284M フィオナ・クリーサー	1年			
	留学国際活動 2 B	2学期	1	2	423
	MCC284M ロジャー・ウィリアムソン	1年			
	Global Research Project	1学期	3	2	424
	MCC361M 柴田 弓子 他	3年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■教育の基礎的理解に関する科目等 ■必修科目	教職論 EDU111M 楠 凡之	1学期	1	2	425
		1年			
	教育原理 EDU110M 見玉 弥生	1学期	1	2	426
		1年			
	教育心理学 PSY120M 山下 智也	2学期	1	2	427
		1年			
	教育社会学 EDU223M 恒吉 紀寿	1学期	2	2	428
		2年			
	教育課程論 EDU260M 見玉 弥生	2学期	2	2	429
		2年			
	道徳教育指導論 EDU264M 船原 将太	2学期	2	2	430
		2年			
	特別活動・キャリア教育論 EDU265M 楠 凡之	2学期	2	2	431
		2年			
	教育の方法と技術・総合的な学習の時間の指導法 EDU160M 下地 貴樹	2学期	1	2	432
		1年			
	生徒指導論 EDU262M 楠 凡之	2学期	2	2	433
	2年				
教育相談 EDU261M 山下 智也	1学期	2	2	434	
	2年				
教育実習 1 EDU380C 見玉 弥生 他	2学期	3	2	435	
	3年				
教育実習 2 EDU480C 恒吉 紀寿 他	1学期	4	2		
	4年				
教育実習 3 EDU481C 恒吉 紀寿 他	1学期	4	2		
	4年				
教職実践演習 ( 中・高 ) EDU490C 楠 凡之 他	2学期	4	2		
	4年				
特別支援教育論 EDU263M 楠 凡之	1学期	2	2	436	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■教育の基礎的理解に関する科目等 ■選択科目	発達心理学 PSY220M 税田 慶昭	1学期	2	2	437
		2年			
	障害児の心理と指導 PSY221M 休講	2学期	2	2	
		2年			
	人権教育論 EDU222M 河嶋 静代	1学期	2	2	438
		2年			
	生涯学習学 EDU220M 休講	1学期	2	2	
		2年			
■教科及び教科の指導法に関する科目	英語科教育法I EDU250C 森 千鶴	1学期	2	2	439
		2年			
	英語科教育法II EDU251C 森 千鶴	2学期	2	2	440
		2年			
	英語科教育法III EDU252C 休講	1学期	3	2	
		3年			
	英語科教育法IV EDU253C 休講	2学期	3	2	
		3年			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■環境科目	自然史へのいざない BIO001F 日高 京子 他	2学期	1	2	441
		1年			
	生命と環境 BIO100F 日高 京子 他	1学期	1	2	442
		1年			
	環境問題概論 ENV100F 廣川 祐司	2学期	1	2	443
		1年			
	生命科学入門 BIO200F 休講	2学期	1	2	
		1年			
■世界(地球)科目	国際学入門 IRL110F 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	安全保障論 PLS111F 戸蒔 仁司	2学期	1	2	444
		1年			
	現代の国際情勢 IRL003F 北 美幸 他	1学期	1	2	445
		1年			

外国語学部 英米学科 ( 2021年度入学生 )

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■世界(地球)科目	国際社会と日本 IRL004F 休講	2学期	1	2	
		1年			
	グローバル化する経済 ECN001F 休講	1学期	1	2	
		1年			
	近代史入門 PLS110F 藤田 俊	2学期	1	2	446
		1年			
現代社会と文化 ANT210F 神原 ゆうこ	1学期	2	2	447	
	2年				
可能性としての歴史 HIS200F 休講	2学期	2	2		
	2年				
■知の技法科目	アカデミック・スキルズI GES101F 中尾 泰士	2学期	1	2	448
		1学期未修得者再履			
	情報社会への招待 INF100F 中尾 泰士	2学期	1	2	449
		1年			
■知の創造科目	ことばの科学 LIN110F 漆原 朗子	2学期	1	2	450
		1年			
	現代人のこころ PSY003F 福田 恭介	1学期	1	2	451
		1年			
	企業と社会 BUS001F 山下 剛	1学期	1	2	452
		1年			
	民主主義とは何か PLS002F 休講	1学期	1	2	
		1年			
	社会哲学入門 PHR110F 高木 駿	1学期	1	2	453
		1年			
	文化を読む LIT001F 休講	1学期	1	2	
		1年			
現代正義論 PHR003F 休講	2学期	1	2		
	1年				
倫理思想史 PHR005F 休講	2学期	1	2		
	1年				

外国語学部 英米学科 (2021年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■知の創造科目	戦争論 PLS210F 休講	2学期	2	2	
		2年			
■共生と協働科目	異文化理解の基礎 ANT110F 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	人権論 SOC004F 休講	1学期	1	2	
		1年			
	ジェンダー論 GEN001F 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	市民活動論 RDE001F 西田 心平	2学期	1	2	454
		1年			
	地域福祉論 SOW011F 坂本 毅啓	2学期	1	2	455
		1年			
障がい学 SOW001F 閉講	1学期	1	2		
	1年				
共生社会論 SOW200F 閉講	2学期	2	2		
	2年				
■ライフ・デザイン科目	メンタル・ヘルス PSY001F 中島 俊介	2学期	1	2	456
		1年			
	フィジカル・ヘルス HSS001F 山本 浩二	1学期	1	2	457
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 山本 浩二	2学期	1	1	458	
	1年				

# 教職論 【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

教職論は、通常の場合、4年間の教職課程への導入的性格を持つ科目である。  
本授業では、教職という仕事の社会的意義と役割、また、教員に求められる資質や倫理の内容を理解するとともに、本学出身者の若手の教員の体験報告とその後の意見交流、ベテラン教員の講演と意見交流を通して、教員という仕事の喜びや困難さを理解し、自らの進路選択を検討するとともに、めざすべき教員像を探求する。  
また、教員の職務内容の全体像と教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解するとともに、今日の学校が担うべき役割を実現していくために必要不可欠な教職員や多様な専門職種との連携の在り方について検討する。

なお、この科目は「教職に関する科目」のカリキュラムマップでは、1類-1 に該当する科目である。

到達目標 教職という仕事に関する基本的な知識を理解している。

## 教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回の授業で必要な資料は配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

岩田康之・高野和子編 「教職論」 学文社  
文科省 中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション 本授業の目的と進め方、「教職課程を履修する目的」に関するアンケート
2. 教育に求められる実践的指導力と学校ボランティア体験の意義(外部講師の報告)
3. 教員に求められる資質 その1 共感的理解と対話力
4. 今日の教員に求められる役割と職務内容について(講師 森恵美先生)
5. 教員に求められる資質その2 生徒指導と学級経営(学級づくり) - 実践報告を手がかりに
6. 教員に求められる資質その3 教科指導と授業づくり(本学出身の教員の実践報告と意見交流)
7. チーム学校と専門職との連携 その1 「特別なニーズ」を持つ子どもへの支援
8. チーム学校と専門職との連携 その2 被虐待・貧困状況にある子どもと家族への支援
9. 教員に求められる資質その4 特別活動と学級づくり(本学出身の教員の報告と意見交流)
10. 学級づくりに関するグループワーク
11. 現代社会における学校教育の課題 その1 セクシュアルマイノリティの生徒と学校づくり
12. 現代社会における学校教育の課題 その2 部活動・体罰問題を考える。
13. 現代社会における学校教育の課題 その3 「道徳教育」をめぐる問題を考える。
14. 若手教員からみた教員の仕事の生きがいと悩み(本学出身の中学校教員の報告と意見交流)
15. 全体のまとめと課題の説明

\* 講師の都合などにより、計画が変更になることがある点、了解されたい。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(授業内で実施するミニレポート等) 50点、レポート試験50点

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 新聞記事やテレビなどを通して日常的に生じている教育の問題に関心を持ち、自分自身の見解を持つ努力をすること
- ・ 授業での現職教員との出会いを通して、自分自身が理想とする教師像を育てていくこと
- ・ 学校現場でのボランティア体験などを通して、教師としての実践的指導力の獲得に向けての自己教育の課題に取り組むこと

## 履修上の注意 /Remarks

この授業はすべての回に出席し、毎回のミニレポートを提出してもらうことを前提として進めます。



# 教職論 【昼】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では多くの学校現場の先生に来ていただいて、教師という仕事の魅力と困難さを語っていただきます。  
この半年の授業のなかで皆さん自身がめざすべき「教師像」を育んでもらえることを願っています。

## キーワード /Keywords

教職の意義と役割、教員の仕事、理想の教師像

# 教育原理【昼】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

### 課題

発達と教育、教育思想や教育史等、教育についての基礎的な知識を習得し、現代の教育における課題について学ぶ。

### 到達目標

教育に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

- ①教育に関わる基礎的な専門知識を習得する。
- ②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

(以下、平成26年度以降入学生)

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-1」に分類される科目である。

## 教科書 /Textbooks

なし。  
プリント資料配布。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じ、授業時に提示。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：教育とは何か
- 2回 教育の関係：教育のモデル・家族・学校
- 3回 生涯にわたる発達と教育：生涯発達
- 4回 発達課題と教育支援：思春期・青年期
- 5回 教育思想①：諸外国の教育思想
- 6回 教育思想②：日本の教育思想
- 7回 教育史①：西洋の教育史
- 8回 教育史②：日本の教育史
- 9回 学ぶ意欲と教育指導
- 10回 学校教育の機能：基礎集団としての学級
- 11回 学校教育の課題：学校で生じる問題
- 12回 メディアと教育：メディアと子ども・教材・方法
- 13回 国際化と教育：言語・文化
- 14回 仕事と教育：進路形成
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。  
配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。  
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教育心理学【昼】

担当者名 /Instructor 山下 智也 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

教育心理学とは、教育活動を効果的に推進するために役立つ心理学的な知見や技術を提供する学問である。

この授業では、まず【学習】分野として、幼児、児童及び生徒の教育場面に関連する学習理論を学ぶことを通して、より効果的な教育活動を展開するための教育心理学の基礎的事項について理解する。次に【発達】分野として、子どもの発達段階について学んだ上で、教育現場での個々人に応じた教育及び発達支援について理解を深める。さらに、知的障害・発達障害のある幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程についても学ぶ。また、教育心理学の知見を生かした多様な【教授法】について学ぶとともに、学級集団や子どものパーソナリティ理解、教育評価等の理解を深め、教育現場へと【応用】する術を学ぶ。

授業形態は講義とする。授業内で出される課題についてのグループディスカッション、心理学実験、プレゼンテーション等のアクティブラーニングを部分的に取り入れる。

<到達目標>

【知識】教育現場に生かすための教育心理の基礎（学習理論や教授法等）を幅広く理解している。

この科目は、履修ガイドの「教育の基礎的理解に関する科目等」カリキュラムマップの「I類-2」に分類される科目である。

## 教科書 /Textbooks

適宜レジユメを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

やさしい教育心理学 第4版 鎌原 雅彦(著), 竹網 誠一郎(著) 有斐閣

# 教育心理学【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：教育心理学が心理学の分野においてどのように発展してきたのか、また教育心理学とは何を目的とした学問なのかについて学ぶ。
- 第2回：【学習①】古典的条件づけやオペラント条件づけ等の基本的な学習理論（経験説）について教育との関係から学ぶ。
- 第3回：【学習②】洞察説やサイン・ゲシュタルト説等の基本的な学習理論（認知説）について教育との関係から学ぶ。
- 第4回：【学習③】学習における動機づけや原因帰属理論について学ぶ。また動機づけを高め、維持するための働きかけ方についても学ぶ。
- 第5回：【学習④】記憶に関する基礎理論（長期記憶、短期記憶、忘却等）を学ぶ。また、学習活動における記憶の役割や記憶の定着を促す学習方法について学ぶ。
- 第6回：【発達①】発達に及ぼす遺伝要因と環境要因の相互作用の影響に焦点を当てる。特に発達における環境要因としての教育が果たす役割について理解する。
- 第7回：【発達②】発達初期における養育者との愛着形成と初期経験の重要性について理解する。また、生涯発達の視点からピアジェの認知発達理論についても学ぶ。
- 第8回：【発達③】生涯発達の視点からエリクソンのライフサイクル論を理解し、特に思春期・青年期に関して、発達段階を踏まえた適切な学習方法について理解を深める。
- 第9回：【発達④】発達障害（自閉症スペクトラムや学習障害、注意欠陥多動性障害等）の特徴について学ぶとともに、発達障害児との関わりについて理解を深める。
- 第10回：【教授法①】発見学習や有意味受容学習等の学習指導法について、その特徴と提唱された理論的背景について学ぶ。
- 第11回：【教授法②】プログラム学習やバズ学習、ジグソー学習等の学習指導法について、その長所と短所を理解し、実践場面での使い分け方について学ぶ。
- 第12回：【応用①】学級集団の諸相を仲間集団の発達の変容や測定方法など仲間関係の側面から学ぶ。また教師のリーダーシップや教師期待効果などの教師の役割についても学ぶ。
- 第13回：【応用②】教育場面での評価の形態（絶対評価、相対評価、個人内評価等）について学び、その特徴を理解する。また子どものパーソナリティ理解についても学びを深める。
- 第14回：【応用③】知能の定義や考え方の歴史的変遷や諸理論について学ぶ。また、知能の測定と知的障害の定義及び特徴について理解する。
- 第15回：【応用④】特別な支援を必要とする子ども（知的障害・発達障害等）への対応・支援や、子どもの不適応問題（いじめ・不登校等）への対応・支援について、教育心理学的観点から学ぶ。
- 定期試験

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・ミニレポート・・・40%  
最終試験・・・60%

（出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。）

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回回の予告を行い、関連キーワードを調べておくなど、次回までの課題を提示する（必要な学習時間の目安は60分）。  
事後学習：授業の冒頭で、前回の授業内容について振り返りをしたり、グループで発表し合ったりするため、授業で学習した学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努める。（必要な学習時間の目安は90分）

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義だけでなく、個人ワークやペアワーク、グループワークを行います。  
授業への主体的な参加を期待します。

## キーワード /Keywords

子どもの発達、子どもの学習、子どもへの関わり方

# 教育社会学【昼】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

社会学的な視点から学校教育と学校をめぐるとして、国内外の動向も紹介しながら、政策・実践課題について考えていきます。あわせて、子どもや子どもをめぐるとして社会変化についても理解を深めていきます。

日本については近年の様々な課題や政策動向など状況の変化について理解を深めます。

国外については日本との比較を念頭に置きながら、少子化への対応や、教育への考え方、取り組みの違いなどを理解し、社会全体で子どもを育成していく視点の重要性、教育の役割について説明します。

学校教育と家庭教育、社会教育（地域教育）の連携や協働についても具体的な事例を取り上げながら理解を深めていきます。また、自然災害に対する子どもの安全を含めた、子どもの安全への対応についても事例を取り上げて考えます。

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

(到達目標)

【知識】

教育に関する社会学的な知識を身につけている。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回オリエンテーション ー教育に関する社会学とは
- 第2回学校をめぐるとして近年の動向 ー初等教育
- 第3回学校をめぐるとして近年の動向 ー中等教育
- 第4回子どもをめぐるとして社会の変化 ー少子高齢化、地域・社会の変容
- 第5回諸外国の子ども・子育ての動向 ー家族支援、教育支援
- 第6回諸外国の教育 ー学校教育
- 第7回諸外国の教育 ー青少年の社会参加・参画
- 第8回日本における教育政策・改革の動向
- 第9回子どもの生活の変化と指導の課題 ー家族、少子化
- 第10回子どもの生活の変化と指導の課題 ー孤食、栄養と食育
- 第11回子どもの生活の変化と指導の課題 ーメディアと遊び
- 第12回子どもの生活の変化と指導の課題 ー社会性、自主性
- 第13回学校と地域の連携 ー地域の変化、学校と地域の連携・協働、開かれた学校づくり
- 第14回学校や子ども活動での子どもの安全
- 第15回子どもの生活安全、交通安全、災害安全

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポート・・・30%、課題レポート・・・70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

子どもや教育に関する情報収集を行い、統計や社会動向、社会の反応などを踏まえて、予習に関しては授業時の小レポートに、復習に関しては課題レポートに記載すること。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

## 履修上の注意 /Remarks

教職や社会教育主事資格の関連科目とあわせて受講すると、本講義の理解がより深いものになります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実践的な取り組みを視聴覚教材を活用しながら紹介します。

## キーワード /Keywords

公教育制度、地域、連携、協働、学校安全

# 教育課程論 【昼】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

### 概要

教育課程に関わる概念や学校における教育課程編成・方法、学習指導要領に関する基礎的な知識を習得し、今日の教育課程の課題について学ぶ。

### 到達目標

教育課程に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

- ①教育課程に関わる基礎的な知識を習得する。
- ②教育課程の課題について整理し、対応策などを考えることができるようになる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 3」に分類される科目である。

## 教科書 /Textbooks

なし。

プリント（講義レジュメ及び資料）を配布。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義中に配布するプリントに提示するものの他、必要に応じ適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 教育課程の基本原則 (1) カリキュラムとは
- 第 2回 教育課程の基本原則 (2) カリキュラムの類型
- 第 3回 教育課程の変遷と学習指導要領
- 第 4回 学力と教育課程 (1) 教育課程設計の前提となる「力」
- 第 5回 学力と教育課程 (2) 学習状況調査の影響
- 第 6回 諸外国の教育課程
- 第 7回 教育課程の編成 (1) 教科教育
- 第 8回 教育課程の編成 (2) 教科外教育
- 第 9回 学習環境のデザイン
- 第10回 教育課程の評価
- 第11回 教育課程の開発
- 第12回 カリキュラム・マネジメントと学校改善
- 第13回 今日の課題と教育課程 (1) 異文化理解
- 第14回 今日の課題と教育課程 (2) ESD
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題 (試験) 70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。  
配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。  
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 道徳教育指導論【昼】

担当者名 /Instructor 船原 将太 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

本授業では、道徳・道徳教育とは何かを問う作業から始め、現在の学校教育における道徳教育の目的と内容について学ぶ。そのために講義の前半では、私たちが日ごろ行っている些細な「正しさについての判断」を検討し、この判断の妥当性が形成される歴史的過程を追っていくこととなる。また、いくつかの現代的課題について取り上げ、道徳教育に必要な思考力を鍛える。さらに、「道徳の授業」に関する著名な教材の分析を行うとともに、実際に指導する場面を想定し、学習指導案の作成などを行っていく。このことより、道徳教育の実践的な指導力の育成をはかるものとする。

本科目の到達目標は、道徳教育指導に必要な基本的な知見を身につけているものとする。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しない。各回、必要な資料を配布し、これをもとに講義を実施する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義の際に、適宜提示するものとする。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、道徳とは何か
- 第2回：社会における「正しさの基準」について
- 第3回：道徳教育の変遷①ー戦前
- 第4回：道徳教育の変遷②ー戦後
- 第5回：「道徳」の特別教科化をめぐる諸問題
- 第6回：道徳教育の目標と各教科・特別活動等における指導内容
- 第7回：道徳教育の現代的課題①(グループ討論)
- 第8回：道徳教育の現代的課題②(グループ討論)
- 第9回：道徳教育の現代的課題③(グループ討論)
- 第10回：道徳教育の現代的課題④(グループ討論)
- 第11回：道徳科の学習指導案の作成方法
- 第12回：道徳教育の教材研究①
- 第13回：道徳教育の教材研究②
- 第14回：指導案作成
- 第15回：道徳教育の今日的な意義について

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学習指導案：50%  
コメントシート：20%  
小テスト：30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜、指示する。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 特別活動・キャリア教育論【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

### 授業の概要

本講義の主な内容は以下のとおりである。

1. 文科省の中学校及び高等学校の学習指導要領・特別活動の目標と内容について
2. 学級活動や学校行事、生徒会活動を通じた「人間関係形成」「社会参加」「自己実現」の課題と方法
3. 特別活動の取り組みを進めていくための教職員の共同や家庭・地域との連携の課題と方法
4. 学校における進路指導、キャリア教育の位置づけと学校教育全体を通じたキャリア教育の課題
5. 職場体験学習などの体験活動を通じたキャリア教育の意義と進め方
6. キャリアカウンセリングの基本的な課題と方法について

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

到達目標 文科省の学習指導要領「特別活動」の課題と方法についての基本的な知識を修得している。

## 教科書 /Textbooks

文科省 中学校学習指導要領解説「特別活動編」 東山書房

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

折出健二編 「特別活動」(教師教育テキストシリーズ) 学文社

○文部科学省 中学校キャリア教育の手引き

○見美川孝一郎 権利としてのキャリア教育 明石書店

○キャリア発達論 - 青年期のキャリア形成と進路指導の展開 ナカニシヤ出版

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

### 授業計画

- 1回 特別活動の目標と内容
- 2回 教育課程の中での特別活動の位置づけと各教科との関連
- 3回 学級活動の目標と内容
- 4回 学級活動の実際 その1 中学校の取り組み
- 5回 学級活動の実際 その2 高等学校の取り組み
- 6回 学級活動における対立解決プログラムの取り組み
- 7回 学校行事の目標と内容
- 8回 学校行事の実際
- 9回 生徒会活動の目標と内容
- 10回 生徒会活動の実際
- 11回 キャリア教育の課題について
- 12回 今日の若者の就労問題とキャリア教育の課題
- 13回 北九州キャリア教育研究会 夢授業の取り組み(講師 北九州キャリア教育研究会 木原大助さん)
- 14回 キャリアカウンセリングの課題と方法(ポートフォリオの活用を含む)
- 15回 中学校におけるキャリア教育の取り組み

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 30点

キャリア教育に関する学習指導案 20点

期末試験 50点

本授業は原則としてすべての授業回に出席して、課題を提出してもらうことが原則です。介護等体験などで欠席した場合には、その回のレジュメを読んで課題を提出してください。その感想文の提出をもって出席扱いとします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

この授業では多くのグループワークと意見発表の機会を設け、教師としての実践的な指導力の育成を目指します。  
大変かと思いますが、よろしくお願いします。



## 特別活動・キャリア教育論【昼】

### 履修上の注意 /Remarks

遅刻に対しては厳しく対応するので、十分に注意すること

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

### キーワード /Keywords

特別活動の目標、学級活動、生徒会活動、学校行事、キャリア教育

# 教育の方法と技術・総合的な学習の時間の指導法【昼】

教育の基礎的理解に関する科目等  
必修科目

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

近年、課題解決型授業やアクティブラーニングといった確かな学力を求めるための、教育のあり方が議論されている。この授業では、授業の構成要素である「教材・教師・生徒」の視点からそれぞれのあり方を捉えながら、授業理論やICT教育の求められる背景を講義する。また学校ごとに特色ある「総合的な学習の時間」について、その内容の取り扱いや目標のあり方を理解し、各教科との関連を踏まえて捉えるようにする。そのために、講義形式以外にもグループ活動やペアワークなど実際に作業することで教育方法の理論の一部を体験しながら、教材開発や教材研究を行っていく。

### 到達目標

【知識】 これからの子ども達に求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法、技術、情報機器及び教材の活用に関する基本的知識を身につけている

## 教科書 /Textbooks

新しい時代の教育方法 改訂版 (2019 有斐閣アルマ)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

中学校学習指導要領 (平成29年3月告示 文部科学省)  
高等学校学習指導要領 (平成30年告示 文部科学省)  
他にも授業内で随時紹介する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
  - 第2回：西洋における教育思想と教育方法の歴史
  - 第3回：日本における教育改革と教育方法の歴史
  - 第4回：現代教育方法学の論点と課題
  - 第5回：子どもは何を学ぶのか・学習とは何か
  - 第6回：「学力」について考える・学力とは何か
  - 第7回：授業のデザイン・教師・生徒・教材
  - 第8回：教育の道具・素材・環境を考える
  - 第9回：何をどう評価するのか・評価と評定・基準と規準
  - 第10回：教科外活動を構想する
  - 第11回：授業研究・授業をいかに捉えるか
  - 第12回：総合的な学習の意義と課題
  - 第13回：総合的な学習の指導計画と取り扱い
  - 第14回：教師の専門性・専門職性
  - 第15回：まとめ
- 定期試験

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 (グループワークや質疑などへの参加) (30%)  
発表・レジュメ作成 (20%)  
定期試験・課題レポート (50%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

人数によって課題の方法は変化するが、テキストについてまとめた資料 (レジュメ) を作成してもらう。  
また担当でない者も、内容について疑問点や感想などを報告してもらいたいので、事前にテキストを読んでおくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

講義の3分の2以上の出席が試験受験の前提となる。  
欠席の際は、連絡を入れるようにしましょう。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

総合的な学習の時間は、各学校や地域ごとに特色ある活動を行っています。どのような実態があるかを考えるためには、他者との交流や対話的な学びが不可欠です。

能動的・積極的な姿勢を身に着けていきましょう。

## キーワード /Keywords

# 生徒指導論【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

### 授業の概要

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義、生徒指導の3機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、問題解決的生徒指導の区別と関連などを検討していくこと
- ② 教育課程と生徒指導、生徒指導に関する法制度、生徒指導における家庭・地域・関係諸機関との連携等に関する基本的な知識・理解を修得すること
- ③ 養育環境や発達障害、セクシュアルマイノリティ等の何らかの要因による困難を抱える子どもの自立を支援する生徒指導のあり方を学習すること。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

到達目標 生徒理解と生徒指導に対する基本的な知識を修得している。

## 教科書 /Textbooks

文部科学省編 「生徒指導提要」 教育図書  
楠凡之 「虐待・いじめ 悲しみから希望へ」 高文研

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

### テキスト

#### 参考書・参考資料等

桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書  
嶋崎政男 「法規+教育で考える 生徒指導ケース100」 ぎょうせい

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

### 授業計画

- 1回 生徒指導の意義と目的 - 子どもたちの自己存在感を育むために
- 2回 生徒指導における個別指導と集団指導、積極的生徒指導と生活指導
- 3回 教育相談と生徒指導、不登校問題と生徒指導
- 4回 教育課程と生徒指導 その1 - 教科教育と生徒指導
- 5回 教育課程と生徒指導 その2 - 総合的な学習の時間、道徳教育と生徒指導
- 6回 教育課程と生徒指導 その3 - 学級づくりを通じた生徒指導
- 7回 生徒指導に関する法制度等(第7章他)
- 8回 生徒指導における規範意識の醸成をめぐる諸問題(ゼロトレランスの問題も含めて)
- 9回 生徒指導における体罰問題を考える - 家父長制的学校観を乗り越えるために
- 10回 性の多様性、セクシュアルマイノリティへの理解と性教育の課題
- 11回 生徒指導における関係諸機関の連携 - スクールカウンセラーとの連携
- 12回 生徒指導における関係諸機関の連携 - スクールソーシャルワーカーその他との連携
- 13回 青少年の自殺予防の取り組み
- 14回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その1 学校での支援
- 15回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その2 関係諸機関との連携

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート20点、試験80点

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」のテキストはしっかり読み込んで内容を修得しておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

全学の教職課程履修学生の必修科目ではありますが、人間関係学科の学生で、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの仕事に関心がある学生にも対応した内容になっているので、積極的に履修してください。

# 生徒指導論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活指導、生徒指導の3機能、積極的生徒指導と消極的生徒指導、児童虐待問題

# 教育相談【昼】

担当者名 /Instructor 山下 智也 / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

本授業では、学校での教育相談の意義、生徒の問題行動の理解、教育相談の理論と技法（積極的傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など）を習得する。

また、不登校やいじめ、発達障害、非行、自傷・自殺、虐待等、様々な問題を表出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて検討するとともに、教育相談の組織的な体制づくりや関係諸機関との連携の課題を考察する。

<到達目標>

【知識】教育相談の意義を理解し、関連する専門的な知識を身につけている。

【思考・判断・表現力】教育相談に関する知識を元に、適切な支援の道筋を見出すことができる。

この科目は、履修ガイドの「教育の基礎的理解に関する科目等」カリキュラムマップの「II類-2」に分類される科目である。

## 教科書 /Textbooks

虐待 いじめ 悲しみから希望へ 楠凡之（著） 高文研  
その他、適宜レジュメを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

生徒指導提要 文部科学省  
Next教科書シリーズ 教育相談 津川律子、山口義枝、北村世都（著） 弘文堂  
子どものこころの支援 連携・協働ワークブック 前川あさみ（編著） 金子書房

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：本講義のオリエンテーション、教育相談の歴史
- 第2回：学校における教育相談の現代的意義と課題
- 第3回：教育相談とカウンセリング（カウンセリングマインドの理解も含む）
- 第4回：子どもの問題行動の意味（子ども理解も含む）
- 第5回：教育相談の実際①（発達障害、不登校、いじめ等）
- 第6回：教育相談の実際②（非行、自傷・自殺、虐待等）
- 第7回：教育相談の基本的な理論の修得（来談者中心療法等）
- 第8回：教育相談の基本的なスキル①（受容、傾聴、共感的理解、開かれた質問等）
- 第9回：教育相談の基本的なスキル②（感情の明確化、共感的応答、直面化等）
- 第10回：教育相談に役立つ心理的支援①（アサーション、ブリーフセラピー等）
- 第11回：教育相談に役立つ心理的支援②（行動療法、認知行動療法等）
- 第12回：教育相談に役立つ心理的支援③（ストレスコーピング、ストレスマネジメント等）
- 第13回：教育相談のための連携と協働①（保護者との相談、学内での体制づくり等）
- 第14回：教育相談のための連携と協働②（関係諸機関との連携）
- 第15回：本講義全体のまとめ  
定期試験

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・ミニレポート 40%  
最終試験 60%  
(出席について、原則として3分の2以上の出席を最終試験受験資格とする。)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回次回の予告を行い、関連キーワードを調べておくなど、次回までの課題を提示する（必要な学習時間の目安は60分）。  
事後学習：授業の冒頭で、前回の授業内容について振り返りをしたり、グループで発表し合ったりするため、授業で学習した学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努める。（必要な学習時間の目安は90分）

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義だけでなく、個人ワークやペアワーク、グループワーク、ロールプレイ等を行います。  
授業への主体的な参加を期待します。

# 教育相談【昼】

## キーワード /Keywords

教育相談、いじめ、不登校、虐待

# 特別支援教育論 【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

本授業での概要は以下の通りである。  
 ①特別な支援を必要とする子どもの障害特性や心身の発達を理解するとともに、特別な支援を必要とする子どもの教育課程と支援方法について、その背後にあるインクルーシブ教育の理念も踏まえて検討する。  
 ②貧困や虐待的な養育環境に置かれている子どもや外国にルーツを持つ子ども、セクシュアルマイノリティの子どもなど、多様な「特別なニーズ」を持つ子どもの抱える問題への理解と支援の課題を考察する。  
 ③ 学校での福祉教育や職場体験などで求められる社会福祉施設入所者に対する理解と援助の在り方について、とりわけ認知症の高齢者の問題やその支援の課題について学習する。

到達目標 特別なニーズを持つ子ども、特別支援教育に関する基礎的な知見を修得している。

## 教科書 /Textbooks

楠 凡之 2012 「自閉症スペクトラム障害の子どもへの援助と学級づくり」 高文研

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

文科省特別支援学校学習指導要領

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

### 授業計画

1. オリエンテーション + 昨年度のテキスト感想レポートの紹介
2. 特別支援教育の教育制度と教育課程
3. 発達障害・軽度知的障害の子どもに対する理解と援助
4. 自閉スペクトラム症の当事者研究
5. 外国にルーツを持つ子どもへの理解と支援 その1 日本語学習支援の取り組み
6. 外国にルーツを持つ子どもへの理解と支援 その2 学力問題とアイデンティティ問題に視点をあてて
7. セクシュアルマイノリティの子ども・青年の抱える生きづらさについて
8. 性の多様性が尊重される学級づくりの課題
9. 肢体不自由・重度心身障害児・者についての理解と支援 (外部講師)
10. 知的障害の特別支援学校での教育実践と支援の留意点(外部講師)
11. 学校における福祉教育の課題 - 高齢者・認知症の問題に視点をあてて(外部講師)
12. 被虐待児に対する理解と指導 - 不安定な愛着の問題に視点をあてて
13. インクルーシブ教育と集団づくり その1 小学校
14. インクルーシブ教育と集団づくり その2 中学校
15. インクルーシブ教育と集団づくり その3 高等学校  
全体のまとめ

注 この中の第9回目から第11回目までの授業は「介護等体験事前指導」の授業を兼ねます。  
 なお、この4回の事前指導とは別に「介護等体験事前説明会」を7月の中旬に実施します。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート 25点、平常点 25点(+ ボーナス点)、期末試験 50点

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストは早めに読んでレポートにまとめて提出すること。  
 介護等体験に行く学生は、9回目から11回目の内容を介護等体験ノートにまとめること。

## 履修上の注意 /Remarks

特別支援教育論は2019年度入学の学生から、教職課程の学生の必修科目になっています。  
 ただし、9回目から11回目の授業については、2018年度以前入学生の「介護等体験事前指導」との合同の授業となる点、ご了解いただきたい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業は全学の教職課程の学生の必修授業であると同時に、人間関係学科の専門教育科目、地域創生学群のスクールソーシャルワーカー課程の専門科目を兼ねています。  
 そのような多様な興味・関心や背景を持つ学生同士の中での学び合いを期待しています。



# 特別支援教育論【昼】

## キーワード /Keywords

特別支援教育、特別なニーズ、自閉スペクトラム症、セクシュアルマイノリティ、外国にルーツを持つ子ども

# 発達心理学【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である ( Butterworth, 1994 )。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。

また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

(到達目標)

【知識】発達心理学に関する基礎的な知識を身につけている。

## 教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著 『発達心理学 周りの世界とかわりながら人はいかに育つか (いちばんはじめに読む心理学の本3)』 ミネルヴァ書房 ¥2750

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

文部科学省 (2011) 「生徒指導提要」

その他、授業中に適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とはどのような学問か
- 第2回 胎児期・乳児期の赤ちゃんの発達【知覚】
- 第3回 乳児期の赤ちゃんの認知と言語の発達【認知、言語】
- 第4回 赤ちゃんのもつ能力と生後1年間の変化について
- 第5回 乳児期の人との関係のはじまりについて【発達早期のコミュニケーション】
- 第6回 愛着の形成【愛着、内的作業モデル】
- 第7回 愛着の形成【成人の愛着、愛着の世代間伝達】
- 第8回 まとめ と レポート課題1
- 第9回 乳幼児期のコミュニケーション発達【共同注意】
- 第10回 他者とのコミュニケーション、心を推測する力【表象、心の理論】
- 第11回 児童期における思考の深まり【論理的思考、メタ認知】
- 第12回 自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
- 第13回 成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
- 第14回 児童生徒の心理と理解【発達障害の基本的理解】
- 第15回 まとめ と レポート課題2

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 20% レポート課題 ... 80%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業範囲を予告するので、教科書等の該当部分を予習してくる。また、授業終了後には教科書や配布プリントを用いて各自復習すること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 障害児の心理と指導【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

「障害」とは何か。その社会的定義、障害者観を踏まえ、障害を有する人々が示す特徴について理解を深める。また、障害児・者の抱える発達課題、支援のあり方について具体的なアセスメント・臨床技法を交えて考える。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

(到達目標)

【知識】発達における障害とその支援に関する基礎的な知識を身につけている。

## 教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：障害児の心理と指導について
- 第2回 障害の概念とノーマライゼーション
- 第3回 人々の障害者観：障害をどう捉えるか
- 第4回 障害の重積・深化の過程と発達援助
- 第5回 視覚障害について
- 第6回 聴覚障害について
- 第7回 知覚障害の理解と支援
- 第8回 まとめ・レポート課題1
- 第9回 姿勢・運動の障害について
- 第10回 知的障害について
- 第11回 障害のアセスメント【発達評価・心理検査】
- 第12回 発達障害について①【自閉スペクトラム症】
- 第13回 発達障害について②【注意欠如多動症・限局性学習症】
- 第14回 家族支援・地域支援について
- 第15回 まとめ・レポート課題2

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポート含む) ... 20% レポート課題 ... 80%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業範囲を予告するので、各自予習してくる。また、授業終了後には配布プリント等を用いて各自復習すること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 生涯学習学【昼】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、学校教育以外の社会教育（家庭教育を含む）、それを踏まえた学校教育を含む生涯学習の基礎的内容について説明します。その意義や歴史的背景、法制度、国内外の動向について理解を深め、社会教育施設（公民館、図書館、博物館等）の役割・状況についても考えます。

「学習権宣言」で述べられた、成り行き任せの客体から、自らの歴史つくる主体へ、という意味と、それを支援する専門性という視点から、生活課題や地域課題の解決に向けた教育・学習について理解を深めます。

そのことを通して、社会教育、学習活動の支援についての基礎的能力を養います。

授業に含まれる事項は以下の通りです。生涯学習の意義、学習者の特性と学習の継続発展、生涯学習と家庭教育、生涯学習と学校教育、生涯学習と社会教育、生涯学習社会における各教育機能相互の連携と体系化、生涯学習社会の学習システム、生涯学習関連施策の動向、社会教育の意義、社会教育と社会教育行政、社会教育の内容、社会教育の方法・形態、社会教育指導者、社会教育施設の概要、学習情報提供と学習相談の意義等

なお、この科目は、社会教育主事や学芸員資格の必修、教職課程の選択であり、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-2」に分類される科目である。

(到達目標)

【知識】

生涯学習に関する基礎的な知識を身につけている。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所
- 雑誌『月刊 社会教育』旬報社
- 雑誌『公民館』全国公民館連合会
- 雑誌『社会教育』日本青年館

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 生涯学習・社会教育の意義
- 第2回 生涯学習ボランティア -学習への支援と学習成果の活用-
- 第3回 社会教育の内容・方法・形態-学級・講座の企画
- 第4回 成人教育の国際的動向 -日本の特質と学習権-
- 第5回 社会教育と生涯学習関連の法制度
- 第6回 社会教育の歴史と発展-生涯学習関連施策の動向
- 第7回 社会教育行政と事業 -学習相談、サービス、学習情報の提供
- 第8回 社会教育施設 -地域公民館
- 第9回 公民館の実践 -社会教育と地域づくり
- 第10回 社会教育指導者と事業の連携・発展
- 第11回 社会教育施設-博物館
- 第12回 社会教育施設と生涯学習施設
- 第13回 社会教育施設-図書館
- 第14回 図書館、博物館における学習・グループ活動
- 第15回 住民の力量形成と地域づくり -家庭教育・学校教育・社会教育の連携-

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポート...70% 課題レポート...30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に、これまでや次回、今後の講義テーマ・内容について案内するので、その指示に従い準備してのぞむこと

## 履修上の注意 /Remarks

学芸員資格や社会教育主事資格として受講する場合、必修科目の基本科目としてこの授業を先に受講するか、他の関連科目とあわせて受講すると、資格科目の理解が深まります。教職に関する科目として受講する場合、学校との連携、学校教育以外の教育活動を意識して受講すると視野が広がります。専門科目として受講する場合、権利としての社会教育・生涯学習という視点で考えると、理解が深まります。

# 生涯学習学 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 英語科教育法I【昼】

担当者名 /Instructor 森 千鶴 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

〈概要〉

この授業は中学校・高等学校の英語科教員になるための基礎的な知識と技能を身につける。特に、中学校の英語教育に中心をおき、学習指導案の書き方および基本的な指導技術を学ぶ。

< 授業の到達目標 >

- ・ 英語科教育実践の目標、学力、内容、評価に関する基本的な知識を有している。
- ・ 新学習指導要領の特徴や課題を理解している。
- ・ 英語科教育実践の諸問題とその解決の課題についての意見を述べることができる。
- ・ 英語科教育実践の諸問題を意欲的に考察し、改善を図ろうとする態度を養う。

## 教科書 /Textbooks

『中等英語教育』 深澤清治 編著 協同出版

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

適宜プリントを配布する。

なお、以下の教科書は教職資料室に保管しています。

新里真男ほか著、SUNSHINE ENGLISH COURSE 1～3 開隆堂 2012年 310円

松本茂ほか著、ONE WORLD English Course 1～3 教育出版 2012年 310円

高橋貞雄ほか著、"NEW CROWN ENGLISH SERIES New Edition 1～3"三省堂 2012年 310円

笠島準一、関典明ほか著、NEW HORIZON English Course 1～3 東京書籍 2012年 310円

矢田裕士、吉田研作ほか著、TOTAL ENGLISH 1～3 教育出版 2012年 310円

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション
2. 英語教育の目的
3. 英語の指導法(1) コミュニカティブ・アプローチ以前
4. 英語の指導法(2) コミュニカティブ・アプローチとその後
5. より良い指導のために(1) 音声指導
6. より良い指導のために(2) コミュニケーションにつながる文法指導の基本
7. より良い指導のために(3) コミュニケーションにつながる文法指導(コミュニケーション活動)
8. 評価の方法と学習指導案の書き方
9. 学習指導案の書き方(1)
10. 学習指導案の書き方(2)
  11. 模擬授業の準備
  12. 模擬授業(中学校1年生)
  13. 模擬授業(中学校2年生)
  14. 模擬授業(中学校3年生)
15. まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 70%、提出物10%、模擬授業20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習 教科書の指定ページを読んでくる。

事後学習 課題に取り組む。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# 英語科教育法I【昼】

キーワード /Keywords

# 英語科教育法Ⅱ【昼】

担当者名 森 千鶴 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

〈概要〉

この授業は中学校・高等学校の英語教員になるための、基礎的な知識と技能を身につけることを目的とする。特に高等学校の英語教育を中心に、学習指導案の書き方と基礎的な指導技術を学ぶ。

< 授業の到達目標 >

- ・ 英語科教育実践の目標、学力、内容、評価に関する基本的な知識を踏まえて、授業を行う際に留意すべき事柄に関する知識を有している。
- ・ 英語科教育実践の諸問題とその解決の課題について、多角的な観点から意見を述べることができる。
- ・ 学習材を基に学習指導案を作成し、意欲的に授業を設計することができる。
- ・ 第二言語習得理論とその活用について理解し、授業指に生かすことができる。

## 教科書 /Textbooks

『中等英語教育』 深澤清治 編著 協同出版

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

適宜プリントを配布する。なお、以下の教科書は教職資料室に保管しています。

松本世志子ほか著、ENGLISH NOW Revised Edition I・II 開隆堂 2012年、630円

NEW WORLD ENGLISH COURSE I・II 三友社

南村俊夫著、Vivid Reading MEW EDITION第一学習社、2007年、765円

Onstage English Course I・II 池田書店

EXCEED English Series New Edition I・II 三省堂

田辺正美ほか著、PROMINENCE English I・II 東京書籍、2012年、630円

山本良一ほか著、"MAINSTREAM ENGLISH COURSE Second Edition I・II" 増進堂 2012年 570円

Minton, T.D. ほか著 Revised POLESTAR English Course I・II 数研出版 2012年 570円 "Revised Edition SUNSHINE English Course I・II" 開隆堂

田中茂範、武田修一ほか著、"PRO-VISION New Edition ENGLISH COURSE I・II" 桐原書店 2013年、650円 卯城祐司ほか著、ELEMENT English Course I・II 啓林館 2013年、650円

Voyager English Course NEW EDITION I・II 第一学習社

市川泰男、高橋和久ほか著、"NEW EDITION UNICORN 2012年、630円 ENGLISH COURSE I・II" 文英堂

Genius English Course Revised I・II 大修館書店 霜崎寛ほか著、CROWN English Series New Edition I・II 三省堂 2012年、630円

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. コミュニケーション能力および評価について
2. 第二言語習得と英語教育
3. 4技能統合の理念とタスクの意義 (PCPPモデル)
4. リーディングの理論と実践
5. ライティングの理論と実践
6. 4技能統合の実践方法
7. 「コミュニケーション英語I,II」指導案の考え方
8. 「コミュニケーション英語I,II」指導案の書き方
9. 「コミュニケーション英語I,II」指導案の書き方
10. モデル授業準備
11. モデル授業準備
12. モデル授業(1)
13. モデル授業(2)
14. モデル授業(3)
15. まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

試験70%、提出物10%、模擬授業20% 「



# 英語科教育法II 【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習 教科書の指定箇所を読んでくる。  
事後学習 学習課題に取り組む。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 英語科教育法Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 雪丸 尚美 / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

本講義は、中学校・高等学校の英語科教員を志望する学生を対象として、実践的な英語授業力の養成に重点を置く。具体的には、それぞれが実際に教壇に立って授業を行うことができるように、(1) 英語教育の施策に関する知識の習得、(2) 各言語技能の指導技術や教室運営の基礎知識、(3) 今日の英語教育に対する問題意識の育成を目指す。また、実際に模擬授業(中学校)を行い相互に評価・批判しあうことで、授業実践の力をつけさせる。模擬授業は一人1回を予定しているが、他の受講生の発表も真摯に聞き、自らの英語授業力を向上させようという態度が必要である。

なお、森千鶴先生担当の「英語科教育法A」(1学期)は主に2年生を対象としており、授業内容が異なる。そのため、3年生以上は原則として「英語科教育法C」を受講することを強く勧める。

また、「Second Language Acquisition」(1学期)や「Language Teaching(英語学研究Ⅱ(英語教育))」(2学期)では、言語習得や教授法、ワークシートやテストの作成に関する内容を扱う。英語教育に携わるうえで必須の知識となるため、それらの科目も併せて受講することを推奨する。(他学科生の聴講も歓迎)

### < 授業の到達目標 >

- ・ 小中高の英語科における様々な指導法、教材分析法、今日の課題について理解するとともに、授業実践にかかわる諸能力を習得する。
- ・ 小中高の英語科における様々な指導法、教科の背景となる学問領域と関係付けた教材分析法、授業を設計する際の留意点等について説明することができる。
- ・ 開発した学習材を基に学習指導案を作成し、留意点に注意しながら模擬授業に臨むことができる。
- ・ 様々な視点から英語科教育について考察を加えることができ、グループ活動、自由討議等に参加することができる。

◎この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「Ⅱ類 - 3」に分類される科目である。

## 教科書 /Textbooks

- (1) 『Here We Go! ENGLISH COURSE 1』(中学検定教科書)(光村図書)328円 ※大学の近隣書店で購入
- (2) 『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語編』(文部科学省)
- (3) 『「学ぶ・教える・考える」ための実践的英語科教育法』(酒井英樹・廣森友人・吉田達弘編著,2018年)(大修館)2640円

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『英語教育』(大修館、月刊雑誌)

その他の文献は授業で紹介する。また、各出版社の検定教科書は教職資料室(本館12階)で閲覧することができる。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画は以下のとおりであるが、履修者の理解や人数に応じて内容を調整する。

1. オリエンテーション
2. 日本における英語教育政策、英語教育の目的、英語教育課程
3. 多様な学習者・学びのユニバーサルデザイン
4. 言語習得と教授法
5. 中学校の英語科教育および小学校の外国語活動
6. 中学学習指導要領の解説及び指導案作成法(略案・細案の書き方)
7. 模擬授業(中学校、導入の実践 Unit1, 3, 5)
8. 模擬授業(中学校、会話文指導の実践①教科書Unit1,2,3)
9. 模擬授業(中学校、会話文指導の実践②教科書Unit4, 5, 6)
10. 模擬授業(中学校、リーディング指導の実践①教科書Unit1,2,3)
11. 模擬授業(中学校、リーディング指導の実践②教科書Unit4, 5, 6)
12. 模擬授業(中学校、文法指導の実践①教科書Unit1, 2, 3)
13. 模擬授業(中学校、文法指導の実践②教科書Unit4, 5, 6)
14. 模擬授業(中学校、タスク指導の実践)
15. まとめ(英語科教員としての責任と課題、質疑応答)

# 英語科教育法III 【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- ( 1 ) 指導案作成 30%
- ( 2 ) 模擬授業 20%
- ( 3 ) 模擬授業の振り返り報告書 20%
- ( 4 ) 学び報告書 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

<事前学習> 該当する教科書の部分を読んでおく。模擬授業担当者は指導案の添削を受け、模擬授業の準備をする。  
 <事後学習> 授業内容の復習を行う。また、模擬授業担当者は、授業の様子を録画した映像を視聴し「振り返り報告書」をMoodleで提出する。  
 模擬授業を担当していない者は、模擬授業で気づいた点や学んだ点を「学び報告書」にまとめ、Moodleで提出する。

## 履修上の注意 /Remarks

- ( 1 ) 教員免許状を取得し、将来教職に就くことを強く希望する学生を対象とする。やむを得ない場合を除き、無断欠席は履修放棄とみなす。また、4回以上欠席した者は、成績評価の対象外とする。
- ( 2 ) 模擬授業を行う際は、服装や振る舞いまで教育実習と同じ想定で行う（発表者はスーツ着用）。
- ( 3 ) 模擬授業のスケジュール等、詳細については初回授業で説明する。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 検定教科書は生協で購入することができないため、大学近隣の書店で購入する。購入方法については、初回授業で説明する。
- 留学等の理由で所属学部開講の「英語科教育法C」が履修できない場合には、授業担当者（雪丸）にメールをください。

## キーワード /Keywords

# 英語科教育法Ⅳ【昼】

担当者名 雪丸 尚美 / 英米学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

## 教科書 /Textbooks

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

## 成績評価の方法 /Assessment Method

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 日本史【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 康士 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

「歴史」を学ぶとはどういうことでしょうか？ それは単に過去の出来事を暗記することでも、書かれた歴史を受動的に受け入れるだけのことでもありません。

この授業では、日本史に関する重要なテーマ・トピックスを掘り下げ、歴史を学び / 教えるのに必要となる考え方を学習します。具体的には歴史学・日本史で使われる基礎的な知識・概念の習得を目指し、歴史の諸問題を主体的に考えられる能力を身に付けることを目標とします。

## 教科書 /Textbooks

各回でレジユメ、資料などを配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業担当者が必要に応じて紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：「歴史」を学ぶとはどういうことか？ —過去・史料・歴史家—
- 第3回：ヒトはどこから来たのか？ —人類の拡散と日本列島—
- 第4回 狩猟採集社会と農耕社会 —気候変動と縄文・弥生人—
- 第5回：前方後円墳とヤマト王権 —初期国家の成立—
- 第6回 日本の古代国家 —東アジアの律令国家—
- 第7回：日本の中世社会 —分権化する国家と社会—
- 第8回：越境するヒトとモノ —銭貨・倭寇・鉄砲—
- 第9回：世界史のなかの「近世」 —東アジアにおける伝統社会の形成—
- 第10回：歴史人口学の世界
- 第11回：結婚と離婚 —歴史のなかの男と女—
- 第12回：貨幣からみる近世社会
- 第13回：日本の「近代」
- 第14回：「日本人」と戦争
- 第15回：まとめ —「歴史」を学ぶということ—

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ( 50%、小レポートなどを含む )、期末試験 ( 50% ) によって評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業のなかで紹介する関係図書・文献を事前・事後学習として読む必要がある。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 東洋史【昼】

担当者名 植松 慎悟 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

近くて遠い国、中国。わが国の歴史とも密接な関係をもつ中国は、国際的な影響力も大きく、この中国について学ぶことは非常に重要であろう。しかしながら、中国について学ぶとき、多くの現代日本人に欠けている視点が歴史的な考察・分析といえる。

本講義では、秦の始皇帝による中国統一から、三国時代までの歴史を主な内容として扱う。とくに、各時代に活躍した改革者を講義の中軸に据え、その人物像や時代背景、改革の内容・結果・影響などを中心に論じる。本講義は、専門的な基礎知識を習得したうえで、東洋史に対する理解・関心を深めることを目標としたものである。

## 教科書 /Textbooks

特に使用しない。資料が必要な場合は、プリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義のガイダンス
  - 2回 古代の中国と日本 -日中交流史-
  - 3回 秦の始皇帝
  - 4回 前漢の高祖
  - 5回 前漢の武帝
  - 6回 前漢の昭帝
  - 7回 前漢の宣帝
  - 8回 前漢の元帝
  - 9回 前漢の成帝
  - 10回 新の王莽
  - 11回 後漢の光武帝
  - 12回 後漢時代と『三国志』の幕開け
  - 13回 魏の曹操
  - 14回 蜀の劉備と呉の孫権
  - 15回 まとめ
- 期末試験(場合によってはレポートなどの課題提出に変更する)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・70% 日常の授業への取り組み・・・30%  
\*なお、欠席・遅刻・私語など授業態度については、成績評価の際に適宜考慮する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本講義では、前回までの内容をふまえ、講義を進めていく。毎回、授業の板書やプリントを見直し、しっかりと復習すること。理解が不十分な部分は、初回で紹介した推薦図書などで確認をとっておくこと。(60分)  
予習については、東洋史を含めて書籍・報道などで幅広く知識や教養を身に付けること。特に、大学生として恥ずかしくない読書量を確保すること。(60分)

## 履修上の注意 /Remarks

講義の進行具合によって授業計画を変更する場合があります、その際は授業中に指示する。  
また、講師および他の学生が円滑な授業を進めるうえで、これを阻害する一切の行為を禁止する。違反した学生に対しては厳正に対処する。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義のテーマは、中国史を中心とした東洋史の概説です。なじみのない学生には少々難易度の高い授業になりますので、高校レベルの世界史を独自に学習しておく、理解が深まるでしょう。

## キーワード /Keywords

中国 歴史 政治 社会 文化 皇帝支配

# 西洋史【昼】

担当者名 /Instructor 曠谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。地中海や大西洋、インド洋、東・南シナ海といった海域世界の発展と相互の接続を見ることによって、ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、そして近代世界の形成を理解します。

## 教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

講義中に指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ( 【 】 内はキーワード )
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ 【バックス・モンゴリカ】
  - 2回 ヨーロッパ進出以前のアジア海域世界 【港市国家】
  - 3回 イベリア諸国の形成 【レコンキスタ】
  - 4回 「中世の危機」とポルトガルの海外進出【エンリケ航海王子】
  - 5回 新世界到達と「世界分割」【トルデシリャス条約】
  - 6回 ポルトガル海洋帝国の形成① 【香辛料】
  - 7回 ポルトガル海洋帝国の形成② 【点と線の支配】
  - 8回 スペインによる植民地帝国の形成① 【ポトシ】
  - 9回 スペインによる植民地帝国の形成② 【モナルキア・イスパニカ】
  - 10回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編①【東インド会社】
  - 11回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編②【砂糖革命】
  - 12回 環大西洋世界の展開① 【第二次英仏百年戦争】
  - 13回 環大西洋世界の展開② 【環大西洋革命】
  - 14回 ヨーロッパ勢力とアジアの海 【近代世界システム】
  - 15回 まとめ 【「コロンブスの交換」】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%  
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)。  
毎回講義プリントを配布し、それに基づいて講義します。講義後も配布プリントとノートを見直し、整理・復習を心がけてください。

## 履修上の注意 /Remarks

特にありません。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

高校時代に世界史が苦手だった方、大歓迎です。

## キーワード /Keywords

13世紀世界システム、中世の危機、「海洋帝国」、植民地化、環大西洋世界

# 人文地理学 【昼】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、人文地理学の基礎的な理論や概念を概説する。  
人文地理学は、地域、環境、空間に関する多様な対象を扱う学問領域である。  
講義を5つのセクションに分け、「人文地理学の基礎」「社会・文化と地域」「経済発展と人口移動」「都市構造と都市システム」「産業立地と集積」について講義を行う。人文地理学の領域に含まれる社会地理学、文化地理学、人口地理学、経済地理学、都市地理学などから主要なトピックを取り上げる。  
具体的な事例を通じて、人文地理学のキーコンセプトに対する理解を深めてもらいたい。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 人文地理学の基礎(1) 地理学の歴史
- 第2回 人文地理学の基礎(2) 地域概念と重力モデル、時間地理学、空間認識
- 第3回 社会・文化と地域(1) 言語と地域
- 第4回 社会・文化と地域(2) 食文化と地域
- 第5回 社会・文化と地域(3) 町並み保存
- 第6回 経済発展と人口移動(1) 近世・近代日本の都市発展
- 第7回 経済発展と人口移動(2) 現代日本の都市発展
- 第8回 都市構造と都市システム(1) 世界都市、オフィスの立地、大都市の構造と動態(東京)
- 第9回 都市構造と都市システム(2) 都市の内部構造、大都市の構造と動態(大阪)
- 第10回 都市構造と都市システム(3) 都市と郊外、規制緩和と郊外商業地の拡大
- 第11回 都市構造と都市システム(4) 都市システム、広域中心都市、大都市の構造と動態(福岡)
- 第12回 産業立地と集積(1) チェーンストアの配送と立地
- 第13回 産業立地と集積(2) 産業集積、企業城下町
- 第14回 産業立地と集積(3) コンテンツ産業の集積
- 第15回 産業立地と集積(4) 空間分業

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ( 80% )、ミニレポート ( 20% )

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の事前・事後に、授業の理解に有益な文献を精読すること。

## 履修上の注意 /Remarks

オンライン開講の場合、成績評価等が一部変更になることがあります。  
授業中の説明に注意してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 土地地理学 【昼】

担当者名 /Instructor 野井 英明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

地理学は、地球表面で起こる自然・人文の様々な現象を「地域的観点」から究明する科学です。そのため、地理学を学習・研究するためには、位置を知るための地図が必要で、地図は「地理学の言語」と言われるくらい重要です。この科目では、地図を通じて基礎的な地理学的知見を深めることを目的とします。あわせて、地図や空中写真を利用して地表の環境を読み取る実習を行い、地理学の基礎的研究手法も学びます。

この授業の学位授与方針に基づく主な到達目標は以下の通りです。  
人間と自然の関係を地理学を通して理解する。  
地理学的な考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。  
課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。

## 教科書 /Textbooks

教科書はありません。適宜プリントを配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○山本博文監修「古地図から読み解く城下町の不思議と謎」実業之日本社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地理学では何を学ぶか
- 2回 地図の役割と地図の能力 【地理的情報を整理する働き】
- 3回 地図の歴史 【文字を持たない未開の民族も地図は持っていた】
- 4回 地図にはどのような種類があるか 【地図には様々な種類がある】
- 5回 地図は、どのように作られるか 【地図投影・図法と図式】
- 6回 地図記号と景観 【地図を読む楽しみ】
- 7回 山の地形を地形図から描く1 (講義・実習) 【行ったことのない山の形を地図から描くことができる】
- 8回 山の地形を地形図から描く2 (実習)
- 9回 地図を利用して地表を計測する 【山の堆積を地図から測定できる】
- 10回 地形図を利用して景観を読みとる1 (実習) 【海岸砂丘の環境と土地利用。自然景観を読む】
- 11回 地形図を利用して景観を読みとる2 (実習) 【中世の集落の立地。歴史景観を読む】
- 12回 リモートセンシングと空中写真の利用 【直接行けない場所の状態を知る】
- 13回 空中写真を利用して高さを測定する (講義・実習)
- 14回 衛星データを利用して地表の環境を調べる
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...30% 試験...70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に、授業内容に関連する新聞記事やインターネット情報を読む、関連するテレビ番組を見るなどするとより理解が深まります。授業後には、ノートを整理し、配付された資料等をよく読んで理解したうえで、それらを将来的に使えるようファイルボックスなどに整理しておきましょう。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 地誌学 【昼】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

グローバル化が進行しつつある現代世界において、世界や日本の諸地域を正確に認識することがますます重要となっている。この科目では、様々な空間スケールにおける、先進国地域の地誌をテーマとする。欧米諸国や日本の諸地域は、近現代においてどのような変化・発展を遂げ、今日に至っているのか、それらの比較を通じて、動態的な地誌について理解を深めてもらいたい。必要に応じて、講義内容に関係する時事的事項を扱う。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

松原 宏編 『先進国経済の地域構造』 東京大学出版会 2003年 4,800円  
平岡昭利編 『地図で読み解く日本の地域変貌』 海青社 2008年 3048円

高校で使用する程度の「地図帳」を持参しておくことが望ましい。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 欧米地誌(1) ヨーロッパ総論(1): ヨーロッパの地形・気候と農業、ヨーロッパの諸民族と市民生活など
- 第3回 欧米地誌(2) ヨーロッパ総論(2): ヨーロッパ統合の歩み、EUによる地域統合など
- 第4回 欧米地誌(3) イギリス地誌
- 第5回 欧米地誌(4) ドイツ地誌
- 第6回 欧米地誌(5) スペイン・フランス地誌
- 第7回 欧米地誌(6) イタリア・北欧地誌
- 第8回 欧米地誌(7) ベネルクス・スイス地誌
- 第9回 欧米地誌(8) アメリカ合衆国地誌
- 第10回 日本地誌(1) 近世城下町の変容: 島根県松江市、鹿児島県鹿児島市
- 第11回 日本地誌(2) 干拓地域の変容: 山口県防府市、県庁所在地の変容: 宮崎県宮崎市
- 第12回 日本地誌(3) 軍事都市の変容: 広島県呉市、熊本県熊本市
- 第13回 日本地誌(4) 鉱業地域の変容: 福岡県筑豊地域、愛媛県新居浜市
- 第14回 日本地誌(5) 港湾都市の変容: 山口県下関市
- 第15回 日本地誌(6) 工業都市の変容: 福岡県北九州市

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ( 80% )、日常の授業の取り組み ( 20% )

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の事前・事後に、授業の理解に有益な文献を精読すること。

## 履修上の注意 /Remarks

オンライン開講の場合、成績評価等が一部変更になることがあります。授業中の説明に注意してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 日本国憲法 【昼】

担当者名 中村 英樹 / 法律学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

国家の基本法といわれる憲法に関する基本的な考え方を学ぶ。  
受講対象者を考慮して、日本国憲法全体を通観するのではなく、いくつかの重要テーマを取り上げて講義する中で、憲法学の基本的な考え方や社会との関係などを学べるように努める。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しない。  
適宜、レジュメ・資料を配付する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 駒村圭吾編『プレステップ憲法 第2版』(弘文堂、2018年)
- 斎藤一久・堀口悟郎編『図録 日本国憲法』(弘文堂、2018年)
- 芦部信喜『憲法 第7版』(岩波書店、2019年)
- 渋谷秀樹『憲法への招待 新版』(岩波書店、2014年)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 憲法とは何か①-国家と憲法
- 第2回 憲法とは何か②-民主主義と立憲主義
- 第3回 平和主義①-平和主義と「正しい」戦争
- 第4回 平和主義②-日本国憲法の平和主義
- 第5回 表現の自由とその限界①-表現の自由の保障根拠
- 第6回 表現の自由とその限界②-規制の根拠と手段の妥当性
- 第7回 自己決定権とは何か①-憲法上の根拠と内容
- 第8回 自己決定権とは何か②-生命の自己決定?
- 第9回 統治のしくみ①-全体像・内閣
- 第10回 統治のしくみ②-国会
- 第11回 統治のしくみ③-内閣と国会の関係・裁判所
- 第12回 憲法と死刑制度①-日本国憲法と死刑制度
- 第13回 憲法と死刑制度②-立法政策上の諸問題
- 第14回 法の下での平等①-合理的な区別と不合理な差別
- 第15回 法の下での平等②-具体的事例

## 成績評価の方法 /Assessment Method

講義内容の理解度をはかる期末試験による(100%)。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

上記参考書をはじめ、授業内容の理解に有益な読書を行ったり、講義内容を復習すること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

憲法史 立憲主義 基本的人権 統治機構

# 教育とコンピューター 【昼】

担当者名  
 /Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 教職2年  
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

文部科学省は「GIGAスクールネットワーク構想」を掲げ、2022年度までに一人一台の学習用コンピューター、全学校での高速・大容量・機密性の高いネットワークの実現を目指している。学校におけるICT環境が整備される中、教師は、情報教育・教科指導における情報通信技術の活用・校務の情報化を3本柱とする「教育の情報化」に適応した能力が求められる。

本授業では、「教育の情報化」に適応するための基礎的スキルの習得を目指す。具体的には、以下の基礎的スキルを習得することが目標である。

- ・ 「教育の情報化」の重要性について説明することができる。
- ・ 文書作成ソフトを用いて、教材や書類を作成することができる。
- ・ 表計算ソフトを用いて、教材作成や校務処理を行うことができる。
- ・ プレゼンテーションソフトを用いて、教材を作成することができる。

## 教科書 /Textbooks

『情報リテラシー Windows10 /Office2019対応』, FOM出版, 2,000円 (税抜)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目：教育の情報化とは何か【オリエンテーション】
- 2回目：教育の情報化の現状と重要性
- 3回目：文書作成レッスン(1)【レポートの作成】【図や表の挿入】
- 4回目：文書作成レッスン(2)【表現カアツ】【長文レポートの編集】
- 5回目：文書作成演習
- 6回目：表計算レッスン(1)【データの入力】【表の作成】
- 7回目：表計算レッスン(2)【表の編集】【表の印刷】【グラフ作成】
- 8回目：表計算レッスン(3)【データベースの操作】【複数シートの操作】
- 9回目：表計算レッスン(4)【高度な関数】
- 10回目：表計算レッスン(5)【条件付き書式設定】【高度なグラフ作成】【ピボットテーブル】
- 11回目：表計算演習
- 12回目：プレゼンテーションレッスン(1)【プレゼンテーションの作成】【オブジェクトの挿入】【構成の変更】
- 13回目：プレゼンテーションレッスン(2)【動きの設定】【印刷】【別アプリのデータの利用】【スライド共通のデザイン設定】
- 14回目：プレゼンテーション演習
- 15回目：まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

教育の情報化に関するレポート・・・10%, 文書作成課題・・・20%, 表計算課題・・・50%,  
 プレゼンテーション課題・・・20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、教科書の内容をよく読み、事前に練習をしておくこと。  
 事後学習として、パソコン自習室や自宅のパソコンなどを用いて、授業で習った内容に沿って操作練習を行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

コンピューターの基本的な操作(キーボードでの文字入力、マウス操作など)ができるようになっておくことと受講しやすい。「コンピューターリテラシー」を受講しておくこと、受講しやすい。  
 この科目は、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もある。詳細は、初回の授業中に説明する。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピューターを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進捗や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

## キーワード /Keywords

教育の情報化, 文書作成ソフト, 表計算ソフト, プレゼンテーションソフト

# 地域特講B ( Innovation and Regional Development ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
地域科目

担当者名 /Instructor                      ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year    1年次                      単位 /Credits    2単位                      学期 /Semester    2学期                      授業形態 /Class Format    講義                      クラス /Class    1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPL201F	◎		○		○
科目名	地域特講B				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

- My concept is to help people learn about the goals of local and regional development and revitalization and give learners the skills, inspiration and knowledge to realize ideas, ideals and visions in Kitakyushu City and the Chikuho region.  
1.私のコンセプトは、北九州と筑豊でアイデアやビジョンを実現するためのスキル、インスピレーション、知識を学習者に与えることです。目標は、生徒が自分の夢と野心を地域の発展と活性化にどのように相乗させるかの見つけ方を手助けすることです。
  - Students will learn about Kitakyushu and Chikuho, including its history, culture and its unique characteristics. They will understand the challenges and opportunities that are present now and in the future.  
2.学生は、北九州と筑豊の歴史、文化、地域の特徴を学びます。彼らは、現在そして未来に存在するであろう課題と機会を理解します。
  - Learners will learn about regional development policy and revitalization - both globally and locally. Case studies in Japan and in other cities and regions across the world will be examined. 学生は、世界と近隣地域の両方で、一般に農村および地域の開発と活性化について学びます。世界の他の都市や地域の事例研究と検討します。
  - They will be encouraged to develop, debate and discuss their own ideas about products, services and local infrastructure as they gain knowledge of current legal, political and social conditions and policy. 彼らは、開発者が遭遇する現在の法的、政治的、社会的背景を探るケーススタディと参考資料を通じて必要なことを学びながら、製品、サービス、インフラストラクチャに関する独自のアイデアを開発する動機を得るでしょう。
  - Learners will learn the importance of understanding legal issues such as sustainable environmental practices, liability management and intellectual property law, and how to leverage government efforts to encourage regional development.  
5.学習者は、持続可能な環境慣行、法的責任管理や知的財産法などの法的問題を理解することの重要性と、地域開発を奨励する政府の取り組みを活用する方法を学びます。
  - They will learn about building connections between local governments, local businesses, research institutions and communities.  
6.また、起業家精神や地方自治体、地方の商業および研究機関、コミュニティのメンバーなどの利害関係者との相乗効果をどのように実現できるかについても学びます。
- Due to the global pandemic the following instructions have been issued.
- 1) The first two classes will be held 'ON DEMAND' or remotely.
  - 2) Later classes will be held in the CALL classroom.
  - 3) Please bring your own personal headset/earphones

## 教科書 /Textbooks

No text book.  
The teacher will provide materials.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

The teacher will give you guidance about materials available in the library and online.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Class Contents

Class 1 Introduction : What is this course about? Start of our imagining a future journal.

Class 2 What are the goals of regional development? Regional development across the world: Case Studies: Glasgow (UK), Pittsburg (USA)

Class 3 Regional Development and Revitalization in Japan: A historical overview of Kitakyushu and Chikuho. Challenges and Opportunities

Class 4 Opening the Debate. Populate and Perish vs Smaller and Smarter

Class 5 Finding out 1 - Environmental and Commercial Sustainability

Class 6 Reaching Out 1 - Assessing Community Attitudes and Expectations

Class 7 Finding Out 2 - Getting Technical Advice.

Class 8 Reaching Out 2 - Approaching Local Businesses.

Class 9 Finding out 3 - Legal issues, liabilities, responsibilities, intellectual property

Class 10 Reaching Out 3 - Local Government, National and Local incentives. Special Zones. Guest lecture from a local government representative.

Class 11 Communication 1 - the media, social media and community surveying

Class 12 Communication 2- establishing partnerships with local business.

Class 13 Building a business. Guest lecture from successful entrepreneur from Australia

Class 14 Adapting to change and learning from perceived failure.

Class 15 Exhibition: Visions of Kitakyushu and the Chikuho Region

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- 1) Reports 20%
- 2) Unit quizzes 30%
- 3) Project 30%
- 4) Class Participation 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please check Moodle each week for information about tasks, homework, projects and news on the class forum.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

I am looking forward to meeting you and learning about, 'Innovation and Regional Development' together.

## キーワード /Keywords

# 都市と地域【昼】

担当者名 /Instructor 岡山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE002F	◎		○		○
科目名	都市と地域				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

日本や海外における都市や地域についての紹介や、それらを捉えるための概念や枠組み、現状での課題や将来の展望などについて議論する。より幅広く俯瞰的な視点を持つことにより都市や地域を様々な形でまた複眼的に捉え、そこから社会に対する新しい視点が生まれることを促す。都市と地域という概念の多様さを学びながら実際の事例を通して都市・地域の形状、規模、その成り立ちを考察する。また、その延長として都市・地域間の係わりを社会、経済、交通などの側面から分析する枠組みや手法を紹介する。「都市と地域」の最終的な目的としては、都市と地域の概念の理解と個人としての定義の形成、それらを基にした柔軟な着想を習得することにある。

## 教科書 /Textbooks

特になし。適宜文献や資料を紹介する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

特になし。適宜文献や資料を紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 共通 : クラス紹介および注意事項
- 2回 地域1 : 地域概念: 『地域』とは何か?
- 3回 地域2 : 地域学と地域科学
- 4回 地域3 : 地域開発とは
- 5回 地域4 : 地域間という視点
- 6回 地域5 : 地域を分析する
- 7回 地域6 : 地域事例 ( L Qによる分析 )
- 8回 地域7 : 地域最終クイズ
- 9回 都市1 : 都市はなぜ存在するか?
- 10回 都市2 : 都市の理論
- 11回 都市3 : 都市の構造
- 12回 都市4 : 都市の変遷・動態
- 13回 都市5 : 都市を分析する
- 14回 都市6 : 都市事例
- 15回 都市7 : 都市最終クイズ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

クイズ (合計) ... 30% 授業内貢献... 10% 最終クイズ (2回合計) ... 60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日頃から「都市」や「地域」という言葉がどのように使われているかを注意深く観察・考察して授業に臨むこと。新聞やTVニュース、もしくはインターネットニュースサイトなどで使われている「都市」や「地域」という言葉の意味を吟味することを心がける。授業で紹介した様々な「都市」や「地域」の概念を授業後に自らの考えと照らし合わせて考察し、身近な事例に当てはめて次回の授業に臨むこと。



## 都市と地域【昼】

### 履修上の注意 /Remarks

本授業は毎週行われ、講義および討論の形式をとります。授業に毎回出席すること、予習・復習等の準備を行うこと、授業内討論への活発な参加を行うことなどに付け加え、複数の ( Moodleによる ) クイズへの回答、および2回の最終クイズへの回答が必須。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業貢献は授業内ディスカッションでの発言回数および発言内容を重要視する  
また、不正行為が発覚した場合は、当該項目だけでなくすべての点数 ( 授業貢献を含む ) が0点になる。

### キーワード /Keywords

地域科学、地域学、都市構造、都市政策  
SDGs 11. まちづくり



# 地域の社会と経済【昼】

担当者名 李 錦東 / 地域戦略研究所  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN170F	◎		○		○
科目名	地域の社会と経済				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

この授業は、北九州・下関地域の社会的・経済的特性について様々な観点から学び、理解を深めることを通じて、地域の課題を発見し、何をすべきか、自ら考えることを目指している。

本授業では、各トピックに関して現場での経験や造詣が深い方々をゲストとしてお招きし、北九州・下関地域出身者はもとより地域外出身にとっても、学生生活を過ごす地域への理解深化や自身のキャリア形成等にとって学びとなるお話をさせていただく。

(到達目標)

【知識】北九州・下関地域の社会と経済を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】北九州・下関地域の社会と経済について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】地域の社会と経済に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：北九州の産業・社会
- 第3回：北九州市政と市民
- 第4回：人口でみる北九州地域の概況
- 第5回：下関地域の概況と北九州との関係
- 第6回：人口でみる北九州地域の産業構造・経済
- 第7回：データでみる北九州地域の社会・生活
- 第8回：地域の企業① 【地元企業関係者等による説明】
- 第9回：地域の企業② 【地元企業関係者等による説明】
- 第10回：地域の企業③ 【地元企業関係者等による説明】
- 第11回：地域の起業環境 【NPO等の専門家による説明】
- 第12回：地域社会とのつながり 【関連活動に参加している団体との座談会】
- 第13回：地域社会を新しく考えるための思考 【NPO等の専門家による説明】
- 第14回：地域を新しく考えるための思考 【NPO等の専門家による説明】
- 第15回：まとめ・住みたいまちのために

※講義のテーマ、順番等については一部変更となる場合がある。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

各回ごとのショートレポート(14回)：100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

北九州・下関地域の社会や経済に関する情報は常にアップデートされ、メディアでも多く扱われている。日ごろから新聞、TV、インターネット等を通じて、アンテナを張って事前・事後に情報収集に努めること。

また、授業中に興味を持った事項について、各授業後に各自調べて理解を深めること。

## 地域の社会と経済【昼】

### 履修上の注意 /Remarks

ゲストスピーカーの都合等により、トピックの順番・内容が一部変更する場合があります。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

皆さんがこれから学生時代を過ごす北九州・下関地域の社会や経済を学ぶことで、皆さんがこれからの学習やキャリア形成にとってプラスとなる知識等を得ることができ、地域に対する関心が増やして有意義な学生生活を送ることにつながる授業になると考えます。また、地域の現状と事情に密着した人材として、創造性の持つ人材として、地域での活躍ができる一歩であるとも考えています。

### キーワード /Keywords

シビックプライド、地域愛着、グローカル化、地域活性化  
SDGs8 . 働きがい・経済成長、SDGs11 . まちづくり

# 地域の文化と歴史【昼】

担当者名 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HIS170F	◎		○		○
科目名	地域の文化と歴史				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

受講者が学生時代を過ごす北九州・下関地域のあゆみ、及びその過程で生まれた地域における様々な文化に関して基本的な事項を学ぶ。そのことを通じ、自らが関わる地域への関心・愛着を深めるとともに、地域の特長や課題を分析・考察する基礎的な力を得ることを目指す。

授業においては、各トピックに関する北九州・下関地域の第一人者である専門実務家をゲストとしてお招きする回を中心とする。北九州・下関地域出身者のみならず、その他の地域の出身者にとっても、今後の学生生活や就職、社会活動の充実につながる学びを得ることができる内容で構成する。

(到達目標)

【知識】北九州・下関地域の文化と歴史を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】北九州・下関地域の文化と歴史について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】地域の文化と歴史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回： ガイダンス、本授業で対象とする「地域」とは
- 第 2 回： 《歴史》現在の地域
- 第 3 回： 《歴史》古代の地域
- 第 4 回： 《歴史》中世・近世の地域
- 第 5 回： 《歴史》幕末期の地域
- 第 6 回： 《歴史》明治以降の日本の近代化と地域
- 第 7 回： 《歴史》昭和期の地域
- 第 8 回： 《文化》北九州市の文化芸術政策の概要
- 第 9 回： 《文化》地域の漫画文化、ポップカルチャー
- 第 10 回： 《文化》地域の美術、現代アート（北九州市立美術館のコレクション）
- 第 11 回： 《文化》地域の映画文化
- 第 12 回： 《文化》地域の文化財
- 第 13 回： 《文化》地域の芸術、音楽、演劇
- 第 14 回： 《文化》地域の文学
- 第 15 回： 《文化》文芸活動等による地域への政策効果

※この授業における「地域」とは、基本的に「北九州・下関地域」を指す。

※ゲスト（各分野の専門実務家）の御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。

※参考：2020年度のゲストの所属組織の例（2021年度も概ね同様の予定だが、一部変更となる可能性がある）

《北九州市立いのちのたび博物館、北九州市立美術館、北九州市漫画ミュージアム、北九州フィルム・コミッション、北九州芸術劇場、北九州市立文学館、北九州市文化企画課、下関市立歴史博物館、下関市教育委員会文化財保護課 など》

## 地域の文化と歴史【昼】

### 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み（各回で課す提出課題）： 100%  
※課題はMoodleで提出することを基本とする。

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：各回授業のテーマに関し、各自、事前に自分自身が知りたい内容を考えて授業に臨むこと。  
事後：各回で課す提出課題に取り組むこと。併せて、授業中に興味を持った事項について、各回授業後に各自が文献やインターネット情報等を用いて自主的に調べること。

### 履修上の注意 /Remarks

授業計画については、ゲストの御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

皆さんが学生時代を過ごす北九州・下関地域の文化や歴史を学ぶことで、皆さんのこれからの学習やキャリア形成、また教養を深める活動にとってプラスとなる知識を得ることができ、さらに、地域に対する関心が増して有意義な学生生活を送ることにつながる授業にしたい。

北九州市・下関市の博物館等の学芸員や文化行政担当者等が、オムニバス形式で各専門分野に関する北九州・下関地域の文化や歴史について解説し、地域への関心や愛着の醸成を図る。

### キーワード /Keywords

北九州・下関地域（関門地域）、歴史、文化、文学、芸術

-----  
SDGs 4.質の高い教育を、SDGs 11.まちづくり、SDGs 16.平和と公正

-----  
実務経験のある教員による授業

# 地域のにぎわいづくり【昼】

担当者名 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE270F	◎		○		○
科目名	地域のにぎわいづくり				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

観光やイベントの振興等を通じ北九州・下関地域をにぎわい溢れる地域とするために必要な視点や方策について学ぶ。学生の主体的な学びを重視し、地域のにぎわいづくりに向けた現状と課題を把握・分析し、自らの考えをまとめたり対応方策を考えたりすること等を通じ、地域課題の解決に向けた基礎的な力を得ることを目指す。

2021年度授業においては、主にスポーツ・文化芸術関連のイベントや取り組み、観光振興政策、市民主体のにぎわいづくりに着目し、にぎわいづくりの実務に関わっておられるゲストの講話等を通じて、にぎわいづくりの意義や課題、今後求められる視点などについて学んでいく。本授業は、行政および地域の各種団体等の協力のもとで実施する。

(到達目標)

【知識】北九州・下関地域におけるにぎわいづくりの可能性や意義を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】北九州・下関地域におけるにぎわいづくりについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力身につけている。

【自立的行動力】地域のにぎわいづくりに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 ガイダンス
- 第 2回 《スポーツ》スポーツとにぎわいづくりの関係性① 【総論】
- 第 3回 《スポーツ》スポーツとにぎわいづくりの関係性② 【事例研究】
- 第 4回 《スポーツ》スポーツとにぎわいづくりの関係性③ 【スタジアム・アリーナ整備】
- 第 5回 《スポーツ》プロスポーツとにぎわいづくり
- 第 6回 《スポーツ》国際スポーツ大会の開催効果
- 第 7回 《文化芸術》文化芸術とにぎわいづくりの関係性
- 第 8回 《文化芸術》東アジア文化都市について
- 第 9回 《文化芸術》文化財を活かしたにぎわいづくり
- 第 10回 《文化芸術》MICE、大型イベントによるにぎわいづくり
- 第 11回 《観光等》観光振興によるにぎわいづくり
- 第 12回 《観光等》港湾をいかしたにぎわいづくり
- 第 13回 《市民主体》食を活かしたにぎわいづくり
- 第 14回 《市民主体》企業の視点からみたにぎわいづくり
- 第 15回 まとめ

※ゲスト(にぎわいづくりの実務家)の御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。

※参考：2020年度のゲストの所属組織の例(2021年度も概ね同様の予定だが、変更・追加の可能性ある)

《北九州市役所(観光課、MICE推進課、クルーズ・交流課、東アジア文化都市推進室)、下関市教育委員会、特定非営利活動法人門司赤煉瓦倶楽部、株式会社ギラヴァンツ北九州》

# 地域のにぎわいづくり【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み（各回で課す提出課題）： 100%  
※課題はMoodleで提出することを基本とする。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：各回授業のテーマに関し、各自、事前に自分自身が知りたい内容を考えて授業に臨むこと。  
事後：各回で課す提出課題に取り組むこと。併せて、授業中に興味を持った事項について、各回授業後に各自が文献やインターネット情報等を用いて自主的に調べること。

## 履修上の注意 /Remarks

授業計画については、ゲストの御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州を中心とする地域のにぎわいづくりに関し現実に即した視点や取り組み事例等を学ぶことで、学生の皆さんのこれからの多様な学習やキャリア形成にとってプラスとなる知識を得ることができる授業をめざす。

-----  
民間シンクタンクでまちづくりのコンサルタント実務経験のある教員が、地域活性化の視点からにぎわいづくりの重要性について論じるとともに、北九州市役所や地域団体等のにぎわいづくり関連事業に取り組んでおられる実務家をゲストとしてお招きし、学生の地域への関心の醸成や理解の深化等を図る。

## キーワード /Keywords

観光、イベント、MICE、集客、スポーツをいかしたまちづくり

-----  
SDGs 11.まちづくり、 SDGs 12.作る・使う責任

-----  
実務経験のある教員による授業

# 地域と国際【昼】

担当者名 /Instructor 吉村 英俊 / YOSHIMURA, Hidetoshi / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE003F	◎		○		○
科目名	地域と国際				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

企業は、人口の減少や市場の成熟により国内市場の成長が期待できない中、新たな市場を求めて海外展開を進めています。また労働力人口が減少し、さらに高齢者が増加する中、外国人労働者の受入れを余儀なくされています。さらに外国人観光客も年々増加するものと思われます。こういった状況にあつて、北九州地域の企業や公的機関（市役所など）がどのように取り組んでいるのか、本授業では原則毎回、企業や公的機関から海外事業に携わっている担当者を招聘して、国際化の実状についてお話ししていただき、みなさん方と意見交換を行います。

(到達目標)

【知識】国際化の実情と地域の取り組みを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断】国際化の実情と地域の取り組みの諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】国際化の実情と地域の取り組みに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

適宜、書籍や資料を紹介します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜、書籍や資料を紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
  - 第2回 公的機関の国際化の現状(例、北九州市の国際交流・多文化共生)
  - 第3回 公的機関の国際化の現状(例、北九州市の国際環境保全)
  - 第4回 公的機関の国際化の現状(例、北九州市の水ビジネス)
  - 第5回 公的機関の国際化の現状(例、国の国際貢献活動)
  - 第6回 公的機関の国際化の現状(例、国の企業の海外展開支援)
  - 第7回 企業の海外事業の現状(例、製造業)
  - 第8回 企業の海外事業の現状(例、サービス業)
  - 第9回 企業の海外事業の現状(例、金融業)
  - 第10回 企業の海外事業の現状(例、建設業)
  - 第11回 本学における取組み事例①(例、カンボジア：人材育成)
  - 第12回 本学における取組み事例②(例、ベトナム：中小企業振興)
  - 第13回 国際化が進展する中で、いかに生きるか①
  - 第14回 国際化が進展する中で、いかに生きるか②
  - 第15回 まとめ
- ※講師(ゲストスピーカー)の都合により、授業の内容や順番に変更があります。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート：100% (原則毎回レポートを提出、期末テストは行いません。)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞や雑誌、インターネットなどを通じて、国際情勢にかかわる情報の収集に努めて下さい。  
北九州地域の企業や公的機関の国際化の実状を理解し説明ができるようにして下さい。さらにこれらの実状に対して、独自の考えを述べることもできるようにして下さい。

## 履修上の注意 /Remarks

積極的に質問したり、意見を述べたりして下さい。  
授業を受け身で捉えるのではなく、授業をつうじて、学生生活の過ごし方や、将来のあるべき姿・生き方を考えて下さい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

海外にかかわっている企業や公的機関の方が、その取組み内容を"熱く"語ります。

## キーワード /Keywords

実務経験のある教員による授業



# 地域防災への招待【昼】

担当者名 /Instructor 加藤 尊秋 / Takaaki KATO / 環境生命工学科 (19~), 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 (19~)  
 村江 史年 / Fumitoshi MURAE / 基盤教育センターひびきの分室, 城戸 将江 / Masae KIDO / 建築デザイン学科 (19~)  
 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SSS001F	◎		○		○

科目名	地域防災への招待	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
-----	----------	----------------------------------

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、防災の基礎知識及び自治体の防災体制・対策等を学ぶことを通じ、学生自身の防災リテラシーと地域での活動能力を向上させることを目的とする。  
 地震や風水害などの代表的な災害のメカニズム、自然災害に対する北九州市の防災体制・対策について、本学および北九州市役所を中心とする専門家が全15回にわたって講義し、防災の基礎、自治体の防災、市民・地域主体の防災の3つの知識を身につける。北方・ひびきのの学生同士、また、学生と講師が協力しながら地域防災のあり方を考える。  
 さまざまな分野を担当する北九州市役所の職員が講師として参画するため、防災を軸としつつ地方自治体の業務の実際を幅広く知るためにも役立つ。

到達目標  
 地域防災を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。  
 地域防災の課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現することができる。  
 地域防災に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

なし、授業で必要に応じて資料を配付

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

岡田恒男、土岐憲三(2006)：地震防災のはなし、朝倉書店  
 京都大学防災研究所編(2011)：自然災害と防災の事典、丸善出版  
 金吉晴(2006)：心的トラウマの理解とケア、第2版、じほう  
 片田敏孝(2012)：人が死なない防災、集英社新書

# 地域防災への招待【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス：災害についての考え方（北九大：加藤）
- 2 組織連携のための課題と訓練（北九大：加藤）
- 3 気象と地震（北九州市危機管理室）
- 4 防災と河川：降雨を安全に流すために（北九州市建設局）
- 5 大災害と消防：最前線で戦う消防をとりまく環境と現状（北九州市消防局）
- 6 学校における防災教育：災害時に主体的に行動する力を育む取組み（北九州市教育委員会）
- 7 災害時のこころのケア（北九州市保健福祉局）
- 8 都市防災：建物の耐震性とは何か（北九大：城戸）
- 9 ジェンダーと防災：地域での実践（北九大：二宮）
- 10 産官学連携による消防技術の革新（北九大：上江洲）
- 11 大学生にもできる防災・災害ボランティア活動（北九大：村江）
- 12 北九州市の防災体制と減災への取組み（北九州市危機管理室）
- 13 学生にもできる防災・災害ボランティア活動（北九大：担当教員一同）
- 14-15 人が死なない防災（外部講師）

北九大講師の回は、オンライン（オンデマンド）講義を予定（教室は使わない）

市派遣講師の回は、北方・ひびきの各キャンパスの教室での実施を予定（来学不能な学生にはTeamsでライブ配信）

14-15回は、北九州市主催の大学生向け防災講座の一環として、通常の講義とは別に、土曜日にオンラインライブ配信を予定（5月中を予定）

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- 活発な授業参加 20%  
レポートおよび小テスト 80%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に関連する社会的・技術的事項について予習しておくこと。授業の後は、学んだ内容の活かし方について考察を行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

北九州市派遣講師の回は、教室での対面講義を予定しているため、受講人数制限あり。  
講義時に復習や次回の講義に向けた予習として読むべき資料を提示するので、各自学習を行うこと。  
本年度は、新型コロナウイルス対策のため、会場での合同ワークショップは実施しない。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者は、授業終了後も地域防災について各自が取り組めることを続けて欲しい。そのための学習や活動の機会を北九州市役所と連携して継続的に提供する。

## キーワード /Keywords

地域防災、危機管理、大学生の役割、実務経験のある教員による授業  
SDGsで関連するゴール（3. 健康と福祉を、5. ジェンダー平等、6. 水とトイレを、13. 気候変動対策）

# 北九州市の都市政策【昼】

担当者名 /Instructor 内田 晃 / AKIRA UCHIDA / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLC270F	◎		○		○
科目名	北九州市の都市政策		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

北九州市の都市政策について、都市づくり、港湾、産業、保健福祉、環境など分野ごとの政策、及び個別プロジェクトに至るまで包括的に学ぶことで、地域への愛着を深めるとともに、地域の課題を考察するきっかけをつかむことを目指す。

本授業においては、各テーマに関して精通している北九州市役所の担当者等をゲストスピーカーとしてお招きし、北九州市出身者のみならず、市外出身者の双方にとって学びとなるお話をさせていただく。

(到達目標)

【知識】北九州市の都市政策全般を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】北九州市の都市政策の課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】都市政策に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス / 北九州市の都市政策の歴史【五市合併、ルネッサンス構想、「元気発進！北九州」プラン】
- 第2回 北九州市のコミュニティ施策【まちづくり協議会、自治会、市民センター】
- 第3回 北九州市の都市計画【都市計画マスタープラン、立地適正化計画】
- 第4回 北九州市の都市交通政策【環境首都総合交通戦略、モビリティマネジメント】
- 第5回 北九州市の空き家対策、空き家活用【空き家、住宅セーフティネット】
- 第6回 公共施設マネジメント【公共施設管理、公共施設集約化】
- 第7回 市民に親しまれる道づくり【バリアフリー、国家戦略特区を活用した賑わいづくり】
- 第8回 北九州市の港湾政策【響灘コンテナターミナル、北九州空港、インバウンド】
- 第9回 北九州市の産業・雇用政策【新成長戦略、企業誘致】
- 第10回 北九州市の保健福祉政策【子育て支援、高齢者支援】
- 第11回 公害克服と環境協力・環境学習【公害克服、環境国際協力、環境ビジネス、ESD、環境首都検定】
- 第12回 環境保全の幅広い取組み【公害防止法令、環境監視、PCB処理、リスクマネジメント、生物多様性】
- 第13回 ごみの適正処理と資源循環【ごみ分別と有料化、資源循環、北九州エコタウン事業、環境未来助成】
- 第14回 地球温暖化と環境エネルギー対策【地球環境問題、京都議定書、再生可能エネルギー】
- 第15回 まとめ / 期末レポートの説明

※ゲストスピーカーは主に行政施策を担当している北九州市役所の担当部局職員の方を想定しています。なお、ゲストスピーカーの御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性があります。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・20% 毎回の授業レポート・・・30% 期末レポート・・・50%

# 北九州市の都市政策 【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の資料を事前にMoodleにUPするので予習をすること。(必要な学習時間の目安は60分)  
授業内容の復習を行うこと。(必要な学習時間の目安は60分)

講義で習得する都市政策に関する知見や情報は、皆さんが普段から居住、通学している市街地に常に存在しています。普段から都市政策やまちづくりの事を意識しながら、まちを観察してみてください。講義中に興味を持った事は、事後に各自調べて理解を深めること。

## 履修上の注意 /Remarks

毎回授業に出席することが大前提です。出席せずにレポートだけ提出しても評価できません。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州市のこれまでの都市づくり、これからの都市づくりを理解する上で、大変参考となる話を聞くことができます。本講義を受けることで、北九州市への愛着が増し、将来的に北九州市に定住する意向を強めてくれることを期待します。

北九州市の都市政策に従事する市職員が、各担当の施策について解説する。

## キーワード /Keywords

実務経験のある教員による授業

# まなびと企業研究I【昼】

担当者名 小林 敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR270F	◎		○		○
科目名	まなびと企業研究 I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

北九州・下関地域の企業、団体について現状、課題、展望を認識し、考察することで理解を深めることがねらいです。特に本講義では、地域づくり、まちづくり、都市づくり、地域貢献といった分野についての事業や取り組みに焦点を当てます。本講義で取り上げる業界、分野の視点としては、「経済・産業」、「福祉」、「交通」、「都市計画」、「地域経済」、「まちづくり」、「文化・芸術」、「金融」などを取り上げます。身近な地域企業や地域人材について学ぶことを通じ、働くことの価値、キャリア、幅広い視点から社会動向や自らの将来のビジョンを考える契機になることを期待します。なお、この科目は「主に北九州市や下関市の企業団体を視野に入れた就職活動のプランニング」を目的とした「まなびと企業研究II」（3年次）の準備講座としての役割も果たしています。

(到達目標)

【知識】北九州・下関地域における企業の動向を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】北九州・下関地域における企業の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】地域企業に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しません。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- ・北九州市立大学地域戦略研究所・キャリアセンター(2019)「学生による学生のための北九州・下関地域 業界MAP」  
<https://manabitopia.jp/pdf/businessmap.pdf> から入手可
- 大室悦賀(2016)「サステナブル・カンパニー入門: ビジネスと社会的課題をつなぐ企業・地域」学芸出版社
- 饗庭伸ほか(2016)「まちづくりの仕事ガイドブック: まちの未来をつくる63の働き方」学芸出版社
- 日本都市計画学会関西支部(2011)「いま、都市をつくる仕事: 未来を拓くもうひとつの関わり方」学芸出版社
- 山崎亮(2015)「ふるさとを元気にする仕事」筑摩書房
- 山崎亮ほか(2014)「ハードワーク! グッドライフ! 新しい働き方に挑戦するための6つの対話」学芸出版社
- ・北九州・下関まなびとぴあホームページ (<https://manabitopia.jp/>)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2～15回 企業・団体等によるプレゼンテーション、質疑、議論(グループワーク)、レポート記述
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- 各回の講義で出題されるレポート(全14回)・・・90%
- 質疑応答、議論・・・10%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の講義前に、その企業、団体についてホームページ等で調べ、全体像を把握しておく。  
毎回の講義後に、その企業、団体についてさらに調べてみる。また、関連する企業や団体についても調べてみる。さらに、講義内で知った取り組み、事業内容を各自が担当してさらに展開すると想定した場合、どういった展開の可能性、方向性があるか検討してみる。

## 履修上の注意 /Remarks

講義時の途中入室、途中退室は原則禁止とします。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一般的な企業説明会ではなかなか聞くことができない、業界や企業、団体の地域創生、地域（社会）貢献、まちづくりなどについての事業や取り組みについて重点的に学ぶことができる貴重な機会です。

## キーワード /Keywords

企業研究、就職、まちづくり、都市づくり、地域創生、地方創生、地域貢献、社会貢献、CSR、SDGs、地域づくり、地域活性化、関門地域、地域志向

SDGs : Goal11(住み続けられるまちづくりを)

# まなびと企業研究II 【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義・演習  
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR370F	◎		○		○
科目名	まなびと企業研究II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

<目的> 北九州市や下関市および周辺の企業団体と連携しながら、代表的なキャリアに関する理論やモデルを学び、大学時代の活動を、今後の就職活動を具体的にプランすることが目的です。

2018年9月3日、経団連が従来の「就活」「新卒採用」のルールを廃止すると宣言しました。慌てた政府が引き続きルールを提示していますが、それに拘束力はなく、完全に自由化になりました。これは同時に今までの「就活」が終焉し、それに対応していた従来の「キャリア教育」もゼロリセットされたと考えていいでしょう。従来の就職支援は、3年生は業界研究を皮切りに、夏のインターンシップ、秋からの就職ガイダンス、自己分析、企業研究、エントリーシートや面接対策、そして3年生3月の合説解禁からの選考といった流れでした。しかし、自由化になった以上、いつ、何をするかは、大学や企業団体に決められたルールに乗る必要はもうありません。リクルートキャリア「就職白書2019」によると、「プレエントリー受付」以外は2018年卒を下回る一方で、2018年度のインターンシップ実施率は95.9%となり、2017年度よりも11.3ポイント増加しています。つまり、夏から始まるインターンシップ経由での採用が増えたことを意味しています。また「キャリアタス就活2020 学生モニター調査」（3月1日）によると、エントリーシート提出者は52.0%で、筆記試験受験者は54.6%、面接試験受験者は46.4%と、いずれも前年同期から10ポイント以上増えています。さらに「キャリアタス就活2020 学生モニター調査」（4月1日）によると、2020年春卒業予定の大学生・大学院生の4月1日時点の内定率（内々定を含む）が26.4%と発表。3月1日時点（13.9%）に比べて12.5ポイント、昨年度同時期（18.8%）に比べ7.6ポイント上回りました。これは学生優位の売り手市場が鮮明となるなか、企業の採用活動の前倒しがさらに進んだことを意味します。

以上のように、従来の就職活動より早まっている中、少なくとも5月から始まるインターンシップ募集までに、今、何をすべきでしょうか。それは、本学が持つ北九州や下関地域の企業団体のネットワークを活用し、自らのキャリアの方向性を明確に掴むことです。

本授業では、履修者一人一人のキャリア支援のために作られました。様々なキャリア形成の理論を用いて「自分を知る」、そして本学のネットワークを駆使して「相手（企業団体）を知る」、さらに夏のインターンシップに向けてどうすればいいのか「キャリアプランを創る」ことを目標とします。

<進め方> 形式は問題基盤型学習（Problem-based-Learning）です。

【通常授業】あらかじめ課題を提示しますので、課題から学びと、その学びを就職活動にどう活かすかについて発表してください。

【最終課題】北九州市や下関市などの企業団体の一つを選び、取材し、取材したからこそ理解したことを、最終授業でプレゼンします。

<目標> 自分を知る（自己分析）、相手を知る（企業団体研究）、就職活動のプランを創る。

（到達目標）【知識】北九州・下関地域における企業の動向を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。【思考・判断・表現力】北九州・下関地域における企業の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。【自立的行動力】地域企業に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

なし。資料を随時配布します。



# まなびと企業研究II【昼】

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 課題を解く時の参考にしてください。
- 見館好隆、保科学世ほか『新しいキャリアデザイン』九州大学出版会
- 金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
- キャロル S.ドゥエック『「やればできる!」の研究-能力を開花させるマインドセットの力』草思社
- アンジェラ・ダックワース『やり抜く力 GRIT (グリット)-人生のあらゆる成功を決める「究極の能力」を身につける』ダイヤモンド社
- リンダ グラットン『ワーク・シフト-孤独と貧困から自由になる働き方の未来図』プレジデント社
- リンダ グラットン、アンドリュースコット『LIFE SHIFT (ライフ・シフト)』東洋経済新報社
- 松尾睦『「経験学習」入門』ダイヤモンド社
- 児美川孝一郎『キャリア教育のウソ』筑摩書房
- 本田由紀『教育の職業的意義-若者、学校、社会をつなぐ』筑摩書房
- スプツニ子!『はみだすカ』宝島社
- J.D.クランボルツ・A.S.レヴィン『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社
- ジェームス W.ヤング『アイデアのつくり方』CCCメディアハウス
- 嶋浩一郎『嶋浩一郎のアイデアのつくり方』ディスカヴァー・トゥエンティワン
- 大嶋祥誉『マッキンゼー流入社1年目問題解決の教科書』SBクリエイティブ
- 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター『体験の言語化』成文堂
- 茂木健一郎『最高の結果を引き出す質問力:その問い方が、脳を変える!』河出書房新社
- 上野千鶴子『情報生産者になる』筑摩書房
- 安斎勇樹、塩瀬隆之『問いのデザイン:創造的対話のファシリテーション』学芸出版社
- 伊藤羊一『1分で話せ 世界のトップが絶賛した大事なことだけシンプルに伝える技術』SBクリエイティブ
- 宇田川元一『他者と働く 「わかりあえなさ」から始める組織論』NewsPicksパブリッシング
- 見館好隆『「いっしょに働きたくない人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス
- 2回 振り返りの仕方
- 3回 マインドセット
- 4回 計画された偶発性
- 5回 企業団体研究事例①DX
- 6回 インターンシップ対策(経験学習)
- 7回 グリット(やり抜く力)
- 8回 企業団体研究事例②グリット
- 9回 問いを立てる力
- 10回 デザイン思考
- 11回 企業団体研究事例③VUCA
- 12回 GD対策(アイデアの作り方)
- 13回 自己分析(アイデンティティ資本)
- 14回 面接対策(インプロビゼーション)
- 15回 企業団体研究成果発表会

## 成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業のプレゼンテーション...75% 最終プレゼンテーション...20% 最終レポート...5%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【通常授業】あらかじめ課題を提示しますので、課題から学びと、その学びを就職活動にどう活かすかについて発表してください。

【最終課題】フィールドワーク先のアポイントメントを取り、取材し、グループメンバーとの議論を重ねて、発表の準備をしてください。なお、アポイントメントについては教員がフォローアップしますので、安心してください。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業では、就職活動や進学など将来のキャリアについての悩みを払拭し、見通しを立て、自信をもって就職活動などに挑めるように支援します。奮ってご参加ください。また、結果的に北九州市や下関市以外の企業を志望しても問題ありません。

※人事経験を持ち、北九州市や下関市および近郊の企業団体に人脈を持つ教員が、それらの企業団体への訪問を軸とした問題基盤型学習をコーディネート

## キーワード /Keywords

キャリア、成長、アイデンティティ、キャリア発達、キャリア形成、キャリアデザイン、プレゼンテーション、フィールドリサーチ、問題基盤型学習、経験学習

SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命

実務経験のある教員による授業



# 環境特講B ( 現代社会とエシカル消費 ) 【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPL202F	◎		○		○
科目名	環境特講B		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

グローバル化が進むことによって、人、モノ、カネ、情報の流れが加速化し、感覚的に私たちは地球を小さく感じるようになった。また、相互依存が深化したことで、今や遠い地の出来事を他人事として済ますことはできなくなってきた。私たちの豊かな暮らしは誰かの犠牲の上に成り立っているのではないかと、そのような不正義は許されるのかという意識、すなわち「グローバルな倫理」が問われる時代になっている。

本講義では、具体的な事例をもとに、私たちの消費活動を倫理的観点から捉え直してみたい。そのためにいくつかの具体的な事例を取り上げ、主にDVD鑑賞を通して倫理的消費について受講生とともに考えたい。

この講義を通して、受講生が日々の暮らしを見つめ直し、先進国の大量消費活動の裏側でどのような事態が進行しているのかを考え、環境に負荷をかけない生活を考える契機にしたい。

【知識】 設定されたテーマを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】 設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】 設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

特に指定はありません。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に指示しますが、次に挙げる文献はとも参考になります。

○子島進他『館林発フェアトレード - 地域から発信する国際協力』上毛新聞社、2010年。

末吉里花『はじめてのエシカル』山川出版社、2016年。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション(講義の目的、進め方、文献案内など)、「エシカル消費」とは何か?
- 第2回 【ファッション】『ザ・トゥルー・コスト』(DVD)前半の鑑賞
- 第3回 『ザ・トゥルー・コスト』(DVD)後半の鑑賞、論点整理
- 第4回 ファッション、綿花栽培に関するディスカッション
- 第5回 【種子】『種子-みんなのもの? それとも企業の所有物?』(DVD)の鑑賞、論点整理、ディスカッション
- 第6回 【食べ物】『甘いバナナの苦い真実』(DVD)の鑑賞、論点整理、ディスカッション
- 第7回 『Food Inc.』(DVD)前半の鑑賞
- 第8回 『Food Inc.』(DVD)後半の鑑賞、論点整理、ディスカッション
- 第9回 【フードロス】『0円キッチン』(DVD)の観賞
- 第10回 【アニマル・ウェルフェア】論点整理、ディスカッション
- 第11回 【プラスチック】『プラスチックごみ-日本のリサイクルの幻想』(DVD)の鑑賞、論点整理、ディスカッション
- 第12回 【鉱物資源】『スマホの真実』(DVD)の鑑賞、論点整理、ディスカッション
- 第13回 【フェアトレード】『もっと!フェアトレード』(DVD)の鑑賞
- 第14回 フェアトレードの展開、役割、課題
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

3回のレポート(60%)、エッセイ(40%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、各回のキーワードについてウェブサイトなどで調べておいてください。事後学習としては、レポート(A4一枚程度)を3回課しますので、振り返りをしてください。

## 環境特講B ( 現代社会とエシカル消費 ) 【昼】

### 履修上の注意 /Remarks

数多くのDVDを視聴し、理解を深めます。その際、ディスカッションを行いますので、他人と議論するのを恐れずに、積極的に参加してください。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

### キーワード /Keywords

フェアトレード、エシカル

「SDGs 1. 貧困をなくそう」「SDGs 3. 健康と福祉を」「SDGs 5. ジェンダーと平等」「SDGs 10. 不平等をなくす」  
「SDGs 12. 作る・使う責任」「SDGs 14. 海洋保全」「SDGs 15. 環境保全」「SDGs 16. 平和と公正」  
「SDGs 17. パートナーシップ」

# 環境都市としての北九州【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科  
三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程  
村江 史年 / Fumitoshi MURAE / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV001F	◎		○		○
科目名	環境都市としての北九州		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

環境問題の全体像を把握し、持続可能な社会作りに向けた行動の重要性を理解する。そのために、学内の専門分野の異なる教員、学外からは行政・企業・NPO等の実務担当者を講師として迎え、オムニバス形式で様々な視点（自然・経済・市民）から環境問題とそれに対する取り組みについて学習する。北九州市はかつてばい煙に苦しむ街であったが、公害を克服した歴史を踏まえ、現在は環境モデル都市として世界をリードしている。北九州市の実施する「環境首都検定」の受検を通して、市のさまざまなプロジェクトや環境についての一般知識を広く学ぶほか、環境関連施設（環境ミュージアムなど）見学により、その体験を講義での学習につなげる。

### 到達目標

- 【知識】北九州市の環境問題に対する取り組みを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】北九州市の環境問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】北九州市の環境問題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

北九州市環境首都検定公式テキスト 1000円(税込み)  
[http://www.city.kitakyushu.lg.jp/kurashi/menu01\\_0438.html](http://www.city.kitakyushu.lg.jp/kurashi/menu01_0438.html)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(日高)
- 2回 持続可能な社会をめざして～ESD～(法学部・三宅)
- 3回 北九州の自然と環境(基盤・村江)
- 4回 北九州における環境政策(外部講師)
- 5回 環境問題と市民の関わり(外部講師)
- 6回 環境ビジネスとエコタウン事業(マネジメント研究科・松永)
- 7回 北九州の環境経済(経済学部・牛房)
- 8回 環境問題とソーシャルビジネス(外部講師)
- 9回 施設見学・環境ミュージアム
- 10回 環境首都検定に向けて(外部講師)
- 11回 環境問題と企業の取り組み(外部講師)
- 12回 環境問題とエネルギー政策(外部講師)
- 13回 特別講演(外部講師)
- 14回 環境問題と学生の取り組み(地域共生教育センター)
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

環境首都検定の成績・・・40%  
授業ごとのMoodle課題(確認テストやミニレポートなど)・・・60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：北九州市環境首都検定公式テキストに関連する箇所を学習しておくこと。  
事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、Moodleで提出すること。  
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

# 環境都市としての北九州【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

環境首都検定受検および施設見学（環境ミュージアム）は原則として必須とする。

- ・ 環境ミュージアム見学は授業期間中に各自で行うこと。
- ・ 環境首都検定は12月12日（日）の予定。

\*スケジュールは変更の可能性もある。第1回目ガイダンス時に確認すること。

\*環境ミュージアムまでの交通費は自己負担とする。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は副専攻「環境ESD」と深く関連しています。この講義をきっかけに副専攻にもトライしてみませんか。

<https://www.kitakyu-u.ac.jp/kankyo-esd>

## キーワード /Keywords

環境、ESD、SDGs、北九州市

SDGsとの関連について

7. エネルギーをみんなに 12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

# 生命と環境 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BI0100F	◎		○		○
科目名	生命と環境		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。生命とはなにか。生物は何からできており、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では、(1) 宇宙と生命がどのような物質からできているか、(2) 生物の多様性と影響を与えてきた環境とはどのようなものか、(3) 進化の原動力となった突然変異とは何かなどについて広く学ぶとともに、(4) 生命や宇宙がこれまでにどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方や考え方についても学びます。

### 到達目標

- 【知識】多様な生命とそれを生み出した環境を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】多様な生命とそれを生み出した環境について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

なし。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2020年(羊土社)3080円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円
- 宇宙と生命の起源—ビッグバンから人類誕生まで 嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年(岩波ジュニア新書)990円

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ガイダンス(日高・中尾)	
2回	自然科学の基礎(1)ミクロとマクロ(日高・中尾)	【物質の単位】【自然科学】
3回	自然科学の基礎(2)宇宙で生まれた物質(中尾)	【元素】【原子】【超新星爆発】
4回	自然科学の基礎(3)生命と分子(日高)	【DNA】【タンパク質】
5回	生物の多様性(1)生物の分類と系統(日高)	【種】【学名】【系統樹】
6回	生物の多様性(2)ウイルスは生物か(日高)	【ウイルス】
7回	生物の多様性(3)単細胞生物と多細胞生物(日高)	【細胞膜】【共生説】
8回	生物の多様性(4)生態系と進化(日高)	【食物連鎖】【絶滅】【進化】
9回	生物の多様性(5)多様な生命(日高)	【生物多様性】
10回	遺伝子の多様性(1)遺伝子の名前(日高)	【突然変異】【遺伝学】
11回	遺伝子の多様性(2)多様性を生む生殖(日高)	【有性生殖】【減数分裂】
12回	科学的な方法とは(1)科学と疑似科学(日高・中尾)	【血液型】【星座】
13回	科学的な方法とは(2)太陽と地球の環境(中尾)	【太陽活動】【地球温暖化問題】
14回	科学的な方法とは(3)人類の起源(日高)	【ミトコンドリア】
15回	質疑応答とまとめ(日高)	

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中ごとのMoodle課題(確認テスト、ミニレポート等)100%

# 生命と環境 【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。  
事後学習：授業中の課題に沿って学習し、Moodle (e-learningシステム) で提出すること。  
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

## 履修上の注意 /Remarks

- ・ 高校で生物を履修していない者は教科書または参考書を入手し、授業に備えること。
- ・ 遠隔授業 ( オンデマンド動画配信 ) の予定。
- ・ 詳細については第1回目にMoodle上で説明するので必ず閲覧すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基盤教育センターの専任教員・日高 ( 生物担当 ) および中尾 ( 物理担当 ) による自然科学の入門講座です。この分野が苦手な者や初めて学ぶ者も歓迎します。参考書やインターネットを活用し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んで下さい。暗記中心の受験勉強とは違った楽しみが生まれるかもしれません。

## キーワード /Keywords

SDGsとの関連：  
13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

# 環境問題概論 【昼】

担当者名  
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV100F	◎		○		○
科目名	環境問題概論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

農林水産業の第一次産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」について、基礎的な知識を充足することを目的とする。望ましい人間と自然、または自然を介した人と人との関係性について、環境問題に対する総合的な理解を促すことが狙いである。

また、農林水産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」についての知識を生かし、SDGs（持続可能な開発目標）に関するテーマとして、③食の問題、④捕鯨問題、⑤・⑥山の管理（治水・利水）、そして⑩経済優先の消費活動に関すること等をテーマに、持続可能な社会となるための考え方を模索する授業である。

（到達目標）

【知識】人間と自然の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】人間と自然の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】人間と自然の関係性における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

特になし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション -環境問題を見る視点について-
- 第2回 資源の在り方を問う
- 第3回 日本の捕鯨の行方
- 第4回 日本人の自然観
- 第5回 環境と経済の関係性
- 第6回 山を管理するとは？
- 第7回 環境問題の原因と焼畑農業
- 第8回 レポート試験の実施（※レポート試験は日程が前後する可能性があります）
- 第9回 里山の開発① -なぜ里山の宅地開発問題が生じるのか？-
- 第10回 里山の開発② -映画監督 高畑勲氏からのメッセージ-
- 第11回 里山の開発③ -動物視点で見る真の共生の形-
- 第12回 「農業」と SATOYAMAイニシアティブ① -農業の多面的機能-
- 第13回 「農業」と SATOYAMAイニシアティブ② -「共生」社会の在り方-
- 第14回 復習
- 第15回 総括 -おわりに-

## 成績評価の方法 /Assessment Method

不定期に何回か実施する課題：20%  
小レポート試験：20%  
最終試験：60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本授業は、最終試験での成績評価をするウエイトが高くなっている。そのため、各自で毎回の授業後に最終試験に向けた復習をすることが求められる。また、授業で使用するスライド資料は、学習支援フォルダに掲載しているため、事前の予習も試みてもらいたい。

# 環境問題概論 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境問題の中でも本授業は都市環境問題や地球温暖化等の問題ではなく、自然環境に特化した授業となる。  
特に専門的な知識は必要ないが、中学生レベルの生物および、安易な生態学（食物連鎖等）的な基礎的な知識に対する言及や説明を行うことを想定し、履修していただきたい。

## キーワード /Keywords

SDGs3.「健康と福祉」、SDGs 6.「安全な水とトイレ」、SDGs12.「作る責任使う責任」、SDGs14.「海の豊かさ」、SDGs15.「森の豊かさ」に強い関連がある、



# 未来を創る環境技術 【昼】

担当者名 /Instructor 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 (19~), 永原 正章 / Masaaki NAGAHARA / 環境技術研究所  
松本 亨 / Toru MATSUMOTO / 環境技術研究所, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科  
金本 恭三 / Kyoza KANAMOTO / 環境技術研究所, 河野 智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV003F	◎		○		○
科目名	未来を創る環境技術				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

環境問題は、人間が英知を結集して解決すべき課題である。環境問題の解決と持続可能な社会の構築を目指して、環境技術はどのような役割を果たし、どのように進展しているのか、今どのような環境技術が注目されているのか、実践例を交えて分かりやすく講義する（授業は原則として毎回担当が変わるオムニバス形式）。

具体的には、北九州市のエネルギー政策、特に洋上風力発電に関する取り組みと連動して、本学の特色のある「環境・エネルギー」研究の拠点化を推進するための活動を、様々な学問分野の視点で紹介する。

授業の到達目標は、以下の通りです。

豊かな「知識」：

環境問題や環境技術を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

次代を切り開く「思考・判断・表現力」：

環境問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

社会で生きる「自立的行動力」：

環境問題に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて授業中に紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス、社会における環境技術の役割、
- 第2回：北九州市の環境エネルギー政策と風力産業拠点化政策
- 第3回：世界における再生可能エネルギー
- 第4回：日本における風力発電【洋上風力発電事業の取り組み】
- 第5回：日本における風力発電【風力発電のメンテナンス】
- 第6回：日本における風力発電【海洋産業従事者の安全技術教育】
- 第7回：再生可能エネルギーの産業【電力システム】
- 第8回：再生可能エネルギーの産業【エネルギーマネジメント】
- 第9回：都市の環境とエネルギー【経済学からのアプローチ】
- 第10回：都市の環境とエネルギー【機械工学からのアプローチ】
- 第11回：都市の環境とエネルギー【情報学からのアプローチ】
- 第12回：都市の環境とエネルギー【建築学からのアプローチ】
- 第13回：都市の環境とエネルギー【環境工学からのアプローチ】
- 第14回：都市の環境とエネルギー【化学・生物工学からのアプローチ】
- 第15回：まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 30%  
レポート70%

# 未来を創る環境技術 【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前・事後学習については担当教員の指示に従うこと。また、新聞・雑誌等の環境技術に関連した記事にできるだけ目を通すようにすること。期末課題に備えるためにも、授業で紹介された技術や研究が、社会・地域・生活などの身の回りの環境問題解決にどのようにつながり、活かされているか、授業後に確認すること。

## 履修上の注意 /Remarks

私語をしないこと。ノートはこまめにとること。都合により、授業のスケジュールを変更することがある。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州市における次世代産業『洋上風力発電』について、現状と将来像を理解できます。皆さんのキャリアプランにもつながると思います。文系学生にもわかりやすい授業内容ですので、「ひびきの」および「北方」両キャンパスの多くの学生の受講を期待しています。

環境技術について、外部講師を招き、実践例を交えて学ぶ。

## キーワード /Keywords

持続可能型社会、エネルギー循環、機械システム、建築デザイン、環境生命工学、超スマート社会、Society 5.0、人工知能、自動制御、エネルギー経済、環境経済、実務経験のある教員による授業  
「SDGs 7. エネルギーをクリーンに、SDGs 9. 産業・技術革命、SDGs 13. 気候変動対策」

# 動物のみかた 【昼】

担当者名 /Instructor 到津の森公園、文学部 竹川大介

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ZOL001F	◎		○		○
科目名	動物のみかた		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

動物園とそのかかわる事項等を検証し、環境や教育など様々な問題を考える。

動物園は教育機関としてのみならず、情感に影響を与える施設として様々な広がりを持っている。  
動物園の本来の姿を追求し、どうすれば地域の施設として欠くべからざる施設となりうるのかを検証する。

(到達目標)

【知識】

人間と動物の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】

人間と動物の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】

人間と動物の関係性における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

テキストなし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

『戦う動物園』島泰三編 小菅正夫・岩野俊郎共著

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 動物園学概論1 (動物園の歴史)
- 2回 動物園学概論2 (人と公園の歴史)
- 3回 キーパーの仕事1 (動物の飼育と歴史)
- 4回 キーパーの仕事2 (動物園のみかた)
- 5回 キーパーの仕事3 (動物の接し方と飼育員のもう一つの小さな役割)
- 6回 キーパーの仕事4 (どうぶつと人間のくらい)
- 7回 キーパーの仕事5 (動物園とデザイン)
- 8回 キーパーの仕事6 (動物園の植栽)
- 9回・10回 校外実習(到津の森公園)
- 11回 獣医の仕事1 (どうぶつの病気)
- 12回 獣医の仕事2 (どうぶつたちとくらし)
- 13回 動物園学まとめ1 (動物園を振り返る)
- 14回 動物園学まとめ2 (新しい動物園とは)
- 15回 まとめ(外部講師講演)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート... 80% 平常の学習状況... 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め動物園関連の参考書籍をよんでおき、授業終了後にはその日の講義内容をまとめておくこと。

# 動物のみかた 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

講義では実際の動物園施設の見学もあります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

動物のことだけでなく、動物を知ることによって人間のことも考えてみましょう。  
自然のことや地球のことも考えてみましょう

動物園の園長・獣医・飼育員らがオムニバス形式で、動物園のあり方、人と動物の関係性について講義をする。

## キーワード /Keywords

動物園、実務経験のある教員による授業

# 自然学のまなざし【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV002F	◎		○		○
科目名	自然学のまなざし		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を2つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま(文化)」と「からだ(自然)」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のまなざし」の講義をつうじて、たくさんの智慧を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。教室の中の講義だけでなく、講義中に紹介するさまざまな活動に参加してほしい。大学生活を変え、自分の生き方を考えるための入り口となればと願っています。

(達成目標) 双方向的な学びを楽しんで下さい。

### 【知識】

自然の営みを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

### 【思考・判断・表現力】

自然の営みについての考え方をを用いて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

### 【自立的行動力】

自然の営みに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- 『風の谷のナウシカ』 1-7宮崎 駿 徳間書店
- 『イルカとナマコと海人たち』 NHKブックス
- 「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司
- 「自然学の未来」黒田末寿

# 自然学のまなざし【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 竹川
- 第1講 自然学で学ぶこと
- 第2講 今西錦司という人がいた
- 第3講 バックミンスターフラーという人がいた
- 第4講 人類の進化と狩猟採集生活
- 第5講 自然学における日常実践
- 第6講 カボチャ島の自然学【食と資源】
- 第7講 風の谷のナウシカの自然学【闘争と共存】
- 第8講 自然学の視点の重要性
- 岩松
- 第9講 近世の旅にみる自然の名所性
- 第10講 古民家に求める日本の故郷
- 第11講 山村の伝統的景観と村落社会
- 第12講 森林風景の認識と森林文化論
- 第13講 自然を言語化する曖昧さ
- 第14講 木の文化の伝統と変容
- 第15講 9～14講のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- (竹川)
- 講義で紹介するさまざまな活動に参加する . . . 15%
- 講義で紹介するさまざまな本を読み考える . . . 15%
- 講義の内容を元に人間の生き方について小論を書く . . . 20%
- (岩松)
- 小レポート...25% 試験...25%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前半の講義では、専用のウェブサイトを設置し、講義の補足や双方向的なやりとりを進め、課題の提示と提出をおこないます。インタラクティブな学びを楽しんで下さい。

## 履修上の注意 /Remarks

学ぶことはまねること。さまざまな活動に参加するなかで、ソーシャルスキルは伸びていきます。  
講義は教室の中だけでは終わりません。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人の暮らしと自然の関わりに興味がある人。好奇心が旺盛な人、受講してください。  
大学のもっとも大学らしい、自由で驚きのある講義を心がけています。  
そして教えられるのでも覚えるのでもなく、自分から学ぶことを重視します。  
講義では、行動すること、考えること、楽しむことを一番に心がけて下さい。

## キーワード /Keywords

人類学  
環境学  
フィールドワーク

# 生命科学入門 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BI0200F	◎		○		○
科目名	生命科学入門		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

ヒトの体は約60兆個の細胞からなり、生命の設計図である遺伝子には2万数千もの種類がある。近年、「ヒトゲノム計画」が完了し、すべての遺伝情報が明らかとなった。個々の遺伝情報のわずかな違いが体質の違いや個性につながり、これを利用した個の医療が行われる時代も近い。そこで(1)体はどのような物質からできているか、(2)遺伝子は体の何をどのように決めているのか、(3)細胞の社会とはどういうものでそれが破綻するとどのような疾患につながるのか、(4)体を維持し守るしくみは何かなど、人体を構成する細胞と遺伝子の不思議を学ぶことによって、新しい時代を生き抜くための生命科学の基礎知識を身につけることを目標とする。

### 到達目標

- 【知識】生命科学を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】生命科学の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】生命科学に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

なし。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2020年(羊土社)3080円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 体を作る物質(1)細胞の構成成分 【多糖・脂質・タンパク質・核酸】
- 3回 体を作る物質(2)食物分子と代謝 【酵素】【触媒】
- 4回 体を作る物質(3)遺伝物質DNA 【二重らせん】
- 5回 体を作るしくみ(1)遺伝子が働くしくみ 【RNA】【セントラルドグマ】
- 6回 体を作るしくみ(2)遺伝子でできること 【ゲノム】【体質】【遺伝病】
- 7回 体を作るしくみ(3)発生と分化 【転写因子】【クローン】【iPS細胞】
- 8回 細胞の社会(1)そのとき染色体は 【細胞周期】【染色体異常】
- 9回 細胞の社会(2)細胞のコミュニケーション 【受容体】【シグナル分子】
- 10回 細胞の社会(3)社会の反逆者・がん 【がん遺伝子】
- 11回 関連ビデオ鑑賞
- 12回 体を守るしくみ(1)寿命と老化 【早老症】【テロメア】
- 13回 体を守るしくみ(2)免疫とウイルス 【ウイルス】【抗体】
- 14回 体を守るしくみ(3)私たちと微生物 【腸内細菌】
- 15回 質疑応答・まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中ごとのMoodle課題(確認テスト、ミニレポート等)100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
- 事後学習：授業中に与えられた課題に沿って学習し、Moodle(e-learningシステム)で提出すること。  
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

## 履修上の注意 /Remarks

高校で生物を履修していなかった者は教科書または参考書を入手して備えること。  
遠隔授業の予定です。詳細については第1回目にMoodle上で説明します。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人体を構成する細胞やその働きを操る遺伝子について、ここ数十年程の間で驚く程いろいろなことがわかってきました。その緻密で精巧なしくみは知れば知るほど興味深いものですが、ヒトの体について良く知ること、生命科学の基礎を学ぶことは、これから皆さんが生きて行く上でも非常に大切です。苦手だからと怯まずに、一緒に頑張りましょう。

## キーワード /Keywords

SDGsとの関連：  
3. すべての人に健康と福祉を



# 環境ESD入門 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV102F	◎		○		○
科目名	環境ESD入門				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

現在、世界で起きている様々な問題、例えば「環境破壊」「異常気象」「国際紛争」などは、ESDの観点から読み解くことができます。ESDとは「持続可能な開発のための教育」のことであり、「環境」「国際理解」「気候変動」「生物多様性」「防災」「エネルギー」など幅広い分野において、これからの地球の将来を見据えた議論を進めています。本講義は、上述のような多様な問題にESDの視点からアプローチしていきます。本講義を通じて受講生がESDの基本的な考え方を習得し、さらなる問題意識をもって私たちの生きる社会や環境を見つめ直すことを目指します。

### 到達目標

- 【知識】ESDの諸問題を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】ESDの諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】ESDに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

授業内で適宜、指示します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業内で適宜、紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション：環境ESDについて
- 第2回 北九州市と環境ESD
- 第3回 路上ゴミについて考える -日本人は果たしてきれい好きなのか-
- 第4回 海洋プラスチックゴミ問題について
- 第5回 経済活動とゴミ問題
- 第6回 ゴミ問題とリサイクル
- 第7回 環境に配慮した生活とは
- 第8回 地球の環境問題と私たちにできること
- 第9回 食から考える環境問題
- 第10回 環境問題と国際理解
- 第11回 環境問題と国際協力
- 第12回 環境問題とジェンダー問題
- 第13回 環境問題とエネルギー
- 第14回 北九州市のSDGsとESDの取り組み
- 第15回 まとめ・副専攻環境ESDプログラムの紹介

## 成績評価の方法 /Assessment Method

各回の授業において課すレポートにて評価(100%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日頃から環境問題に対する関心を持ち、意識して様々な情報に触れるようにしてください。それが大きな事前学習になります。各回の講義テーマに関しては事前に紹介しますので、書籍やインターネットなどで予備知識を得ておいてください(事前学習)。また受講後は、その回の内容に関連した復習用の自習課題(関連する映像資料や書籍・新聞記事などのレビュー)を提示しますので、次回の講義までに各自行ってください(自習時間の目安は60分程度)。

# 環境ESD入門【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

各講義終了後に小レポートの作成と提出を求めます。  
講義内でのディスカッション、および質疑応答に積極的に参加できるよう、事前・事後の自発的学習を求めます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境ESDに関する入門的な講義となります。  
本講義を履修したうえで、さらなる発展的な学びとして「副専攻環境ESDプログラム」を受講することを薦めます。

## キーワード /Keywords

環境、持続可能性、国際理解、生物多様性

# 世界（地球）特講A（テロリズム論）【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター  
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPL103F	◎		○		○
科目名	世界（地球）特講A		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

2001年の911以降の国際社会を考える上で、テロリズム問題を避けて通ることはできません。しかし、テロは以前から歴然と脅威の対象であり続けました。特にわが国は、日本赤軍やオウム真理教など、これまでのテロの「進化」に「貢献」してきたテロの先進国でもあるので、もっとテロリズム全般の知識があってもよいのかなと考えます。この授業は、テロリズムの体系的な理解を得ることを目的とします。

コロナ対応で、動画配信となります。動画は、各回編集カット作業してBGMやテロップ付きのyouTube仕様を心がけます。

### 到達目標

- 【知識】テロリズムを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断】テロリズムについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】テロリズムに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを用意する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※昨年度に配信した動画タイトルは以下の通りです。今年度は、部分的に作り替えたり、組み替えたりしていきます。授業回数は15回で、1回45～60分程度の視聴時間になります。各回の内容は変更する可能性があります。

- ガイダンス / 問題の所在（テロから何を学び取るのか）
- 自由の戦士としてのテロリスト像 / ルクソール事件
- 犯罪としてのテロ / テロに政治目的は必要か。 / テロの定義はたくさんある！
- 911の衝撃 / テロによる社会的動揺 / 対人テロ / 対物テロ
- テロリストとは誰か、残された課題
- 行動によるプロパガンダ（アナキズム） / 近代日本とテロ
- 政治的脅迫としてのテロ（アイルランドのナショナリズム）
- ナショナリズムとテロ（サライェヴォ事件とスラブ主義） / 民族解放（シオニズムとイスラエル建国）
- 爆弾テロという手法
- 国際テロの誕生（パレスチナ人の闘争）
- 学生運動の過激化と日本赤軍（ロッド空港事件）
- 劇場型テロ（ミュンヘン・オリンピック事件）
- 現代テロとテロ対策
- 動機が多様化（右翼・保守テロ、オクラホマシティ連邦ビル爆破テロ）
- 動機が多様化（環境テロ、ユナボマー）

## 成績評価の方法 /Assessment Method

1～3回に1度、小テストを実施する。最終的に、小テストの合計点数から成績を評価する。  
 小テスト（8回）100%、ただし、小テストの回数は若干前後する可能性がある。

# 世界（地球）特講A（テロリズム論）【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
世界（地球）科目

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容についてのフィードバックは、WEB掲示板を用意しますので、不明な点は書き込んでください。メールでも質問受付ます。

事後学習ですが、頻繁に小テストがあるので、何回でもいいので動画を視聴してください。

## 履修上の注意 /Remarks

通信環境を整えてください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

説明が主体になる講義については、教室での授業や生配信よりも、録画された動画の方が学習効果が高いと考えています。皆様の期待を裏切らないように、可能な限り、魅力的な動画を配信していくつもりです。

## キーワード /Keywords

# 韓国の社会と文化【昼】

担当者名  
/Instructor

休講

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE010F	◎		○		○
科目名	韓国の社会と文化		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

授業では、適宜映像などを用いながら韓国全般、とりわけ韓国の社会と文化における様々な事象や、歴史を含めた日韓関係のあり方を考えるための幅広い教養的学知を習得し、等身大の韓国について理解を深める。これをベースに異文化理解とは何かについて考えてみる。また、つねに日韓比較的な視点を念頭に入れながら自国文化についても見つけなおす時間としたい。

並行して事前事後学習の一環として、日韓の歴史についても学習を深める。

(到達目標)

【知識】韓国の社会と文化に関する基本的な知識を習得している。

【思考・判断・表現力】文化の多様性や理解を深め、適切な思考・判断力・表現力を習得している。

【自立的行動力】設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

特に無し。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業にて提示

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 韓国のいろは①【韓国の基本的な知識を知る】
- 3 韓国のいろは②【国を象徴するものを中心に】
- 4 韓国の文字・ハングルの仕組みについて
- 5 韓国人の名字と名前①【苗字について】
- 6 韓国人の名字と名前②【名前について】
- 7 現代韓国社会と文化の特徴I (外部講師)
- 8 ドラマで「植民地時代」を追体験する
- 9 韓国(人)にとって日本(人)とは？
- 10 日本(人)にとって韓国(人)とは？
- 11 韓国における日本大衆文化の受容政策
- 12 グローバル化するK-POP
- 13 現代韓国社会と文化の特徴II (外部講師)
- 14 歴代大統領でみる韓国の社会と文化
- 15 韓国の宗教&詩人・尹東柱

\* 上記スケジュール及びテーマはあくまで目安であり、受講生のニーズや進行状況などの都合により変更となる場合もある。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の視聴レポート	25%
毎回のコメントカード	40%
その他、小レポートなど	35%

# 韓国の社会と文化【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日韓関係にかかわる歴史や問題点などについて学習できる資料と映像を適宜、提示し、課題を課す。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

韓国 社会 文化 歴史 異文化理解 日韓関係

# 国際学入門【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
IRL110F	◎		○		○
科目名	国際学入門				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究（国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など）と②世界の多様化に対応するための研究（地域研究、比較文化論、比較政治論など）である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

（到達目標）

【知識】現代の国際社会で生起する様々な問題を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断力・表現力】現代の国際社会で生起する諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】現代の国際社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

適宜指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
- 第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
- 第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
- 第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
- 第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
- 第13回：地域研究の視点（人間関係）【人間関係】
- 第14回：まとめ
- 第15回：質問

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

## 履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs「16. 平和と公正」



# 安全保障論【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS111F	◎		○		○
科目名	安全保障論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連	

## 授業の概要 /Course Description

安全保障について多角的に検討する授業です。中盤からは防衛問題が中心となります。安全保障・防衛に関心がある受講者はもちろんですが、もともとあまり関心がない、全く知らない、という受講者でも理解できるように丁寧な解説を心がけます。ぜひ、受講してください。

動画は、各回、編集カットをほどこし、BGMやテロップを付け、youTube仕様で配信します。なるべく楽しく学習できるような動画を作りたいと思っています。

### 到達目標

- 【知識】安全保障を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断】安全保障上の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】安全保障に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

なし。レジュメを用意します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし。適宜指示。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業は15回で、1回45～60分程度、動画視聴してもらいます。以下は、昨年度配信した動画タイトルですが、今年度は、多少、整理したり、新作も作りしたいと思います。(19タイトルありますが、19回授業があるわけではありません)

- 1 ガイダンス / 安全保障の考え方その1 (抑止について)
- 2 安全保障の考え方その2 (国際環境について)
- 3 安全保障とは何か / 専守防衛と日本
- 4 安全保障と外交
- 5 自衛隊の海外派遣
- 6 安全保障の非軍事的な側面
- 7 日米同盟と自衛隊
- 8 自衛隊の任務
- 9 防衛出動 / 存立危機事態と集団的自衛権
- 10 海上警備行動
- 11 企画動画
- 12 安全保障流の地図の読み方
- 13 スクランプル
- 14 弾道ミサイル防衛 (BMD)
- 15 イージス・アショアと代替

## 成績評価の方法 /Assessment Method

1～3回に一度、小テストを実施し、その合計点から成績評価を行います。  
小テスト(8回)100%、ただし、小テストの実施回数は若干前後する可能性があります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

掲示板を用意するので、質問や感想がある場合、書き込んでください。また、YouTube配信なので、コメント欄も活用できます。

頻繁に小テストがあるので、何回でも動画を視聴して、理解することが事後学習ですが、関連動画の視聴もお勧めします。

## 履修上の注意 /Remarks

通信環境を整えてください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく退屈しないように、面白い動画づくりを心がけます。

## キーワード /Keywords

# 現代の国際情勢【昼】

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科, 大平 剛 / 国際関係学科  
ローズマリー・リーダー / Rosemary Reader / 英米学科, 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科  
白石 麻保 / 中国学科, 久木 尚志 / 国際関係学科  
篠崎 香織 / 国際関係学科, 柳 学洙 / 国際関係学科  
政所 大輔 / Daisuke MADOKORO / 国際関係学科, 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際情勢について理解を深める。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会における問題を認識した上で、分析を行い、解決方法を考察する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の国際情勢に対して、継続的な関心を持ち、学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代の国際情勢
			IRL003F

## 授業の概要 /Course Description

現代の国際情勢を、政治、経済、社会、文化などから多面的に読み解きます。近年、国際関係および地域研究の分野で注目されている出来事や言説を紹介しながら講義を進めます。

### 到達目標

- 【知識】現代の国際情勢を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】現代の国際情勢について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自律的行動力】現代の国際情勢に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

使用しません。必要に応じてレジュメと資料を配布します。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
  - 第2回 北 日系アメリカ人の歴史と今日(1) 概況と歴史【アメリカ合衆国】【日系人】【エスニシティ】
  - 第3回 北 日系アメリカ人の歴史と今日(2) 現代のエスニシティ状況への視座【アメリカ合衆国】【日系人】【エスニシティ】
  - 第4回 阿部 米中の技術覇権争いと日本経済【貿易摩擦】【DX革命】【知的財産権】
  - 第5回 政所 国際連合の活動と日本【集団安全保障】【国連中心主義】【多国間外交】
  - 第6回 政所 国内紛争と国連平和活動【「新しい戦争」】【平和維持活動】【平和構築】
  - 第7回 久木 2010年代以降のイギリス(1)【政権交代】【国民投票】
  - 第8回 久木 2010年代以降のイギリス(2)【EU離脱】
  - 第9回 篠崎 東南アジアの多文化・多宗教社会【イスラム教】【上座仏教】【自律史観】
  - 第10回 篠崎 世界文化遺産ベナン島ジョージタウンを歩こう【マレーシア】【マラッカ海峡】【華僑華人】【イスラム教】【ヒンドゥー教】
  - 第11回 リーダー Humour in British Politics (イギリス政治におけるユーモア)【British politics (イギリス政治)】【Protest (抵抗)】【Humour (ユーモア)】
  - 第12回 白石 中国経済の課題と展望【経済成長】【SNA】【投資】
  - 第13回 柳 朝鮮半島の冷戦体制と南北分断【朝鮮戦争】【体制競争】【民族主義】
  - 第14回 柳 北朝鮮の核開発と北東アジアの安全保障【冷戦体制】【駐留米軍】【対話と圧力】
  - 第15回 下野 台湾の多元化社会【民主化】【中国】【移民】
- ※都合により変更もあり得ます。変更がある場合は授業で指示します。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(各担当者ごとに最低1回は行います。最少9回、最大14回)100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の担当者の指示に従ってください。授業終了後には復習を行ってください。

## 履修上の注意 /Remarks

この授業は、複数の教員が、各自の専門と関心から国際関係や地域の情勢を論じるオムニバス授業です。授業テーマと担当者については初回授業で紹介します。

小テストを実施する際は、授業の最後に行います。授業中は集中して聞き、質問があればその回のうちに出してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では今の国際情勢を様々な角度から取り上げていきます。授業を通じて自分の視野を広げていききっかけにしてください。

## キーワード /Keywords

SDGsとの関連

第4回 阿部 9「産業・技術革命」

第5回、第6回 政所 16「平和と公正」

第9回、第10回 篠崎 11「まちづくり」

第12回 白石 17「グローバル・パートナーシップ」

第15回 下野 5「ジェンダー平等」、16「平和と公正」

# 国際社会と日本【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
IRL004F	◎		○		○
科目名	国際社会と日本		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

戦後日本政治史を講じる。

[到達目標]

- 【知識】国際社会と日本の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】国際社会と日本の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】国際社会と日本のあり方に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

五百旗頭真編『第3版補訂版 戦後日本外交史』(有斐閣 2014)、定価税込み2,160円を使用する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

ガイダンスの時、あるいは授業中に紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 戦後日本外交の構図
- 3回 占領下日本の外交1【日本国憲法】【占領改革】
- 4回 占領下日本の外交2【サンフランシスコ講和】【日米安保条約】
- 5回 独立国の条件1【自主外交】【二大政党制】
- 6回 独立国の条件2【日米安保条約改定】
- 7回 経済大国外交の原型1【高度経済成長】
- 8回 経済大国外交の原型2【沖縄復帰】
- 9回 自立的協調の模索1【デタント】
- 10回 自立的協調の模索2【石油危機】
- 11回 「国際国家」の使命と苦悩1【日米同盟】
- 12回 「国際国家」の使命と苦悩2【経済摩擦】
- 13回 冷戦後の外交1【軍縮】【湾岸戦争】
- 14回 冷戦後の外交2【テロとの戦い】
- 15回 授業の総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 50% テスト 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までにあらかじめ資料や教科書で授業内容を調べておくこと。授業終了後には、授業ノートと資料や教科書を照らしながら、理解を深めること。

## 履修上の注意 /Remarks

複数の先生の担当授業です。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業前には予め教科書で該当箇所を学習し、終了後は復習を行うこと。

## キーワード /Keywords

近現代 国際関係史 東アジア

# グローバル化する経済【昼】

担当者名 /Instructor 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科  
柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科, 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科  
田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科, 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科  
専門職学位課程  
王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN001F	◎		○		○

科目名	グローバル化する経済	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
-----	------------	----------------------------------

## 授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

(到達目標)

【知識】グローバル化する経済を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断】グローバル化する経済について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【行動力】グローバル化社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

使用しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクションーグローバル化とは何か
- 2回 自由貿易【比較優位】【貿易の利益】【保護貿易】
- 3回 地域貿易協定【自由貿易協定】【関税同盟】【経済連携協定】
- 4回 企業の海外進出と立地(1)【直接投資】
- 5回 企業の海外進出と立地(2)【人件費】【為替レート】
- 6回 海外との取引の描写【経常収支と資本移動の関係について】
- 7回 先進国と途上国間の資本移動【経済成長と資本移動について】
- 8回 内なる国際化と地域経済(1)【外国人労働者】【自動車産業】
- 9回 内なる国際化と地域経済(2)【外国人労働者】【サービス業】
- 10回 アジアにおける日系企業の事業展開【経営現地化】
- 11回 外資系による日系企業の買収合併【外資政策による規制】【S社の事例】
- 12回 国際労働移動(1)【日本における外国人労働者の受け入れ】【賃金決定理論の基礎】
- 13回 国際労働移動(2)【移民と所得分配】【移民の移動パターン】【移民の経済的同化】
- 14回 グローバル化の要因とメリット【消費者余剰】
- 15回 グローバル化のデメリット【所得格差】【金融危機の伝染】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験: 100%。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習を行うこと、また授業の理解に有益な読者や映像視聴などを行うこと。

# グローバル化する経済【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
世界(地球)科目

## 履修上の注意 /Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけてほしい。授業で使用するプリントはMoodleにアップするので、きちんと復習すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 近代史入門【昼】

担当者名 藤田 俊 / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS110F	◎		○		○
科目名	近代史入門				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

本授業では、第一次世界大戦から太平洋戦争終結までの日本近代史を講義します。授業を通して、学校教育や日常生活の中で学んできた「史実」の根拠となっている史料や諸研究に触れ、「史実」の実態をより深く理解すると共に、「史実」を相対化して歴史を多角的に捉える力の修得を目指します。その上で、近代日本の歴史が、現代の政治・外交・軍事・社会・文化・メディア等のあり方にいかなる影響を与えているのかを考え、各履修生が歴史を身近なものとして捉えられるようにします。

- ・ 本授業の到達目標  
「知識」  
→日本の近代史を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。  
「思考・判断・表現力」  
→日本の近代史について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。  
「自立的行動力」  
→日本の近代史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

指定はありません。授業では、教員作成のレジュメ・画像・映像等を使用します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業の中で適宜紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 大学で学ぶ歴史
- 第2回 現代の起点としての第一次世界大戦
- 第3回 言論の「中立」化
- 第4回 国際協調体制と戦争の違法化
- 第5回 1920年代の日本と中国
- 第6回 近代日本と災害
- 第7回 政治の大衆化
- 第8回 軍縮をめぐる政治と世論
- 第9回 満洲事変と「熱狂」の創出
- 第10回 政党政治の崩壊と軍の政治的台頭
- 第11回 日中戦争の諸相
- 第12回 新体制運動
- 第13回 日米交渉・日米開戦
- 第14回 戦時体制下における情報・宣伝・報道
- 第15回 太平洋戦争の終結と聖断

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験70%、日常の授業への取り組み30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後は、レジュメ等の配布資料や各自が作成したノートを読み返し、授業中に紹介した参考文献にも目を通しておいて下さい。

# 近代史入門【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
世界(地球)科目

## 履修上の注意 /Remarks

第1回授業において、授業の進め方や受講する上での注意事項について説明しますので、受講希望者は必ず出席して下さい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# Japanese Culture and Society 【昼】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE221F	◎		○		○
科目名	Japanese Culture and Society				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

知識：日本の文化と社会を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

思考・判断・表現力：日本の文化と社会についての考え方をういて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現することができる。

自立的行動力：日本の文化と社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

The objective of this course is to cover and discuss various aspects of Japanese society and culture from the past till present. Topics will include subjects ranging from traditional customs to pop culture and the influence of different religions. One specific goal will be to analyze the way Japan has been influenced by outside cultural influences throughout its long history. Another aspect of this course will be to see Japan from the perspective of non-Japanese students in order to help international students adapt to their new surroundings as well as encourage Japanese students to realize their own cultural identity.

## 教科書 /Textbooks

Hood, Christopher P. Japan: The Basics, Routledge 2015 ISBN: 978-0-415-62971-3 (pbk) 2657円 or 978-1-315-74568-6 (ebk) 2398円

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Ellington, Lucien. Japan: A Global Studies Handbook (ebk)

Other printed materials will be supplied by instructor.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction and Orientation
- 2回 Studying about Japan
- 3回 Demographic challenges
- 4回 Japan on the move
- 5回 Natural Japan
- 6回 Student Led Discussion & Presentations I: Demographic challenges
- 7回 Student Led Discussion & Presentations II: Japan on the move
- 8回 Student Led Discussion & Presentations III: Natural Japan
- 9回 Japanese Core Values
- 10回 Pure Japanese
- 11回 One for all, all for one/ Re)building Japan
- 12回 Student Led Discussion & Presentations IV: Core Values
- 13回 Student Led Discussion & Presentations V: Pure Japanese
- 14回 Student Led Discussion & Presentations VI: One for all, all for one /
- 15回 Student Led Discussion & Presentations VII: Re)building Japan and submission of final paper

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Presentation and Participation -50%

Final Paper -50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to participate actively in discussion and make presentations on materials presented in this course. Students should read assigned materials before class.

## 履修上の注意 /Remarks

All coursework will be done in English.  
A TOEIC Score of 650 or higher before registration is highly recommended

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# English Speaking Cultures and Societies 【昼】

担当者名 /Instructor                      ローズマリー・リーダー / Rosemary Reader / 英米学科

履修年次 /Year                      2年次                      単位 /Credits                      2単位                      学期 /Semester                      2学期                      授業形態 /Class Format                      講義                      クラス /Class                      2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE231F	◎		○		○
科目名	English Speaking Cultures and Societies				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
 知識：英語圏の文化と社会を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。  
 思考・判断・表現力：英語圏の文化と社会についての考え方をを用いて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現することができる。  
 自立的行動力：英語圏の文化と社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

This class aims to provide an overview of the English speaking cultures and societies that exist, and provide a springboard for students to research the topics that interest them in particular in greater detail. This covers historical aspects such as British mythology as well as British expansion spreading English all over the globe, a variety of conflicts that have shaped some of the communities in different ways, and religious beliefs that underpin some cultural attitudes. We will also look at topics such as food, sport, and entertainment as well as exploring some well known festivals.

## 教科書 /Textbooks

None

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Suggestions to be made when necessary in class

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction
- 第2回 Legends and Lore
- 第3回 Three Chords and the Truth
- 第4回 Protest and Politics
- 第5回 Ghost Stories
- 第6回 Empire to Empire
- 第7回 The Clearances and the Troubles
- 第8回 Masters of War
- 第9回 Fusion Culture
- 第10回 Blood † Body
- 第11回 Silly Point
- 第12回 Food
- 第13回 Christmas
- 第14回 A Barrel of Laughs
- 第15回 POP!

## 成績評価の方法 /Assessment Method

60% group projects  
 40% individual projects

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Instructions to be given in class. Try to pay attention to English media and news, and keep up-to-date with topics that may intersect with those we cover in class to help deepen your understanding of relevant issues.

## 履修上の注意 /Remarks

# English Speaking Cultures and Societies 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
世界（地球）科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 現代社会と文化【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / 単位 /Credits 2単位 / 学期 /Semester 1学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ANT210F	◎		○		○
科目名	現代社会と文化				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

グローバルな現代世界において、異なる文化同士の共生が必要とされている。しかし、どの文化とも共生が可能になる万能のマニュアルのようなものは存在しない。ケースに応じて対応する能力が必要であり、本講義では、現代社会が抱える文化に関する問題を取り上げながら、判断のための基礎知識を身につけることを目的とする。

講義の前半は、「文化を知る」という行為そのものが持つ政治的意味について講義を行う。後半は、私たちが異なる文化を持つ人々とも認識を共有していると考えがちな身体に関する文化についての講義を行う。外国の文化については解説を無批判にうのみにしてしまいがちであるが、文化を理解することについての前提が正しいか常に問い返すことができるような総合的な知識の獲得をめざす。

(到達目標)

【知識】現代社会と文化の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】現代社会と文化の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】現代社会と文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。ただし、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。また、講義に関する映画（有料動画の場合もあります）を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません（観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書を用いた課題などは指示します）。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 池田光穂・奥野克巳編 2007『医療人類学のレッスン』学陽書房
- 太田好信編 2012『政治的アイデンティティの人類学』
- 陳天璽 2005『無国籍』新潮社
- 本多俊和ほか 2011『グローバル化の人類学』放送大学教育振興会
- 塩原良和 2010『変革する多文化主義へ』法政大学出版局

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

# 現代社会と文化【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：授業の説明 / 本講義において文化とは何を意味するのか

- 第1部 現代社会において異文化を理解すること
- 第2回 文化を「知る」とはどういうことか？
- 第3回 ナショナリズムと文化
- 第4回 「未開の人々」へのエキゾチズム
- 第5回 植民地主義と文化
- 第6回 レポートについての注意と課題レポート①の説明
- 第7回 マイノリティ文化の保護と多文化主義
- 第8回 多文化主義の可能性と限界
- 第9回 国籍・人種などの分類の不明瞭さ
- 第10回 課題レポート①の解説と課題レポート②の説明

第II部 文化の違いを超えて？

- 第11回 近代・ポスト近代という時代の認識と文化
- 第12回 身体の近代化
- 第13回 医療の持つ権力と文化
- 第14回 癒しの多様性
- 第15回 課題レポート②の解説と課題レポート③の説明

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート（3回） 60%、毎回の授業課題 40%  
毎回の授業課題については、提出時期や授業への貢献により得点が変化します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 毎回何らかの課題があります。計画的に取り組みましょう。
- ・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。
- ・ 講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。
- ・ 高校レベルの世界史、地理、現代社会などに自信がない学生は、背景となる事象を知らないままにせず、調べておきましょう。高校の教科書は図書館にあります。

## 履修上の注意 /Remarks

- ・ 遠隔授業の場合は、オンデマンド配信となりますが、毎回の課題は提出時期により得点が変わるので、計画的に受講すること。
- ・ 受講にあたっては、基本的なPC操作環境が整っていることが望ましいです。
- ・ 評価方法や電子ブックの閲覧方法などは第一回の講義で説明します。
- ・ 提出課題において剽窃などの不正が発覚した場合、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 講義で自分が学んだことを用いて、現代の文化に関する問題を自分なりに理解しようとするのが重要です。意欲的な学生の受講を歓迎します。
- ・ 「異文化理解の基礎」を受講済み・受講中の学生は理解が深まると思います。

## キーワード /Keywords

文化、ナショナリズム、マイノリティ、グローバリゼーション、多文化主義、身体、SDGs10 不平等をなくす、SDGs 16 平和と公正



# 可能性としての歴史【昼】

担当者名 藤田 俊 / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HIS200F	◎		○		○
科目名	可能性としての歴史				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

本授業では、本来はタブーとされる「歴史のif」に注目し、近代日本の政策決定に参画した政治家・官僚・軍人等の行動とその背景や動機に迫り、歴史とは別の選択肢が存在したのか、存在していたとすれば、異なる選択をした日本はいかなる道を行っていたのかについて考えていきます。講義の中で「あり得たかもしれない歴史」を考察することを通して、予測困難で不透明な未来を考える思考力の涵養を目指します。

- ・ 本授業の到達目標
- 「知識」  
→歴史的過去の可能性を理解するための基盤となる 知識を総合的に身につけている。
- 「思考・判断・表現力」  
→歴史的過去の可能性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 「自立的行動力」  
→歴史的過去の可能性を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

指定はありません。授業では、教員作成のレジユメ・画像・映像等を使用します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業の中で適宜紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 歴史学とは何か
- 第2回 「反実仮想」と歴史学
- 第3回 鎖国か、開国か
- 第4回 国土・国境・共通語
- 第5回 「望ましい」首都
- 第6回 通過儀礼
- 第7回 教育のあり方
- 第8回 日中戦争
- 第9回 日独伊三国同盟とソ連
- 第10回 日米開戦への道
- 第11回 太平洋戦争
- 第12回 核を巡る問題
- 第13回 敗戦と占領
- 第14回 天皇制
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験70%、日常の授業への取り組み30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後は、レジユメ等の配布資料や各自が作成したノートを読み返し、授業中に紹介した参考文献にも目を通して下さい。

## 履修上の注意 /Remarks

第1回授業において、授業の進め方や受講する上での注意事項について説明しますので、受講希望者は必ず出席して下さい。

## 可能性としての歴史【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# アカデミック・スキルズI【昼】

担当者名 藤田 俊 / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英1-ア・英  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 1-イ

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES101F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、大学生活に必要な「考える力」の基礎となるスキルを身に付けることである。様々な問題が発生する現代社会においては、こうすれば大丈夫という誰にも共通な正解が存在しない。しかし、その正解のない課題について考えていく姿勢が大切である。考えることは、学びを深めていく上で大切な能力のひとつであり、「考える力」の習得こそが、複雑で予想しがたい現代社会を生き抜いていくための基盤を作り上げる。本授業では、様々なテーマを題材にアクティブ・ラーニングの授業形態を取りながら、以下の2点に関する能力の習得を目指す。また、大学での学びや生活に必要な知識や情報リテラシーについての学習も行う。

- ・ 情報技術を活用して、自分の考えを表現することができる。
- ・ 正解のない課題の解決に向けて、諦めることなく考え抜くことができる。

(到達目標)

- 【技能】大学生活に必要な「考える力」の基礎となる技能を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、大学ポータルサイトの説明【ID、パスワード等】
- 2回 情報リテラシー1【大学ICT環境、e-Learningシステム等】
- 3回 情報リテラシー2【情報モラル、情報セキュリティ、著作権等】
- 4回 情報リテラシー3【文書作成】
- 5回 情報リテラシー4【表計算、グラフ】
- 6回 情報リテラシー5【情報リテラシーの振り返り】
- 7回 大学での学びや生活について【剽窃と引用、キャンパス・マナー】
- 8回 考える力1【受け取る力の説明】
- 9回 考える力2【受け取る力の演習】
- 10回 考える力3【処理する力の説明】
- 11回 考える力4【処理する力の演習】
- 12回 考える力5【発信する力の説明】
- 13回 考える力6【発信する力の演習】
- 14回 振り返り
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題への積極的な参加 ... 70%

宿題や振り返りレポート ... 30%

ただし、授業中に実施する情報リテラシー(情報モラル・情報セキュリティ、文書作成・表計算)の必須課題に合格しなければならない。

# アカデミック・スキルズI【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当者の指示に従い、毎回、授業開始前までに必要な授業の準備を行い、授業終了後に学んだことを振り返り、まとめておくこと。また、大学生活で欠かせない情報リテラシー能力の習熟には日々の練習が欠かせないため、正規の授業時間外の時間に、パソコン自習室や自宅にて積極的に操作練習を行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。また、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もある。詳細は、授業中に説明する。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各回に適したワークや質疑応答等を繰り返しながら、授業を展開していく。このため、積極的に授業に参加して欲しい。

## キーワード /Keywords

考える力、情報リテラシー、アクティブ・ラーニング

# アカデミック・スキルズI【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 /Class クラス 英1-ウ・英1-工

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES101F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、大学生活に必要な「考える力」の基礎となるスキルを身に付けることである。様々な問題が発生する現代社会においては、こうすれば大丈夫という誰にも共通な正解が存在しない。しかし、その正解のない課題について考えていく姿勢が大切である。考えることは、学びを深めていく上で大切な能力のひとつであり、「考える力」の習得こそが、複雑で予想しがたい現代社会を生き抜いていくための基盤を作り上げる。本授業では、様々なテーマを題材にアクティブ・ラーニングの授業形態を取りながら、以下の2点に関する能力の習得を目指す。また、大学での学びや生活に必要な知識や情報リテラシーについての学習も行う。

- ・ 情報技術を活用して、自分の考えを表現することができる。
- ・ 正解のない課題の解決に向けて、諦めることなく考え抜くことができる。

(到達目標)

- 【技能】 大学生活に必要な「考える力」の基礎となる技能を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】 設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【コミュニケーション力】 異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、大学ポータルサイトの説明【ID、パスワード等】
- 2回 情報リテラシー1【大学ICT環境、e-Learningシステム等】
- 3回 情報リテラシー2【情報モラル、情報セキュリティ、著作権等】
- 4回 情報リテラシー3【文書作成】
- 5回 情報リテラシー4【表計算、グラフ】
- 6回 情報リテラシー5【情報リテラシーの振り返り】
- 7回 大学での学びや生活について【剽窃と引用、キャンパス・マナー】
- 8回 考える力1【受け取る力の説明】
- 9回 考える力2【受け取る力の演習】
- 10回 考える力3【処理する力の説明】
- 11回 考える力4【処理する力の演習】
- 12回 考える力5【発信する力の説明】
- 13回 考える力6【発信する力の演習】
- 14回 振り返り
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題への積極的な参加 ... 70%

宿題や振り返りレポート ... 30%

ただし、授業中に実施する情報リテラシー(情報モラル・情報セキュリティ、文書作成・表計算)の必須課題に合格しなければならない。

# アカデミック・スキルズI【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当者の指示に従い、毎回、授業開始前までに必要な授業の準備を行い、授業終了後に学んだことを振り返り、まとめておくこと。また、大学生活で欠かせない情報リテラシー能力の習熟には日々の練習が欠かせないため、正規の授業時間外の時間に、パソコン自習室や自宅にて積極的に操作練習を行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。また、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もある。詳細は、授業中に説明する。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各回に適したワークや質疑応答等を繰り返しながら、授業を展開していく。このため、積極的に授業に参加して欲しい。

## キーワード /Keywords

考える力、情報リテラシー、アクティブ・ラーニング

# アカデミック・スキルズI【昼】

担当者名 中原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英1 - オ・英  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 1 - カ

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES101F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、大学生活に必要な「考える力」の基礎となるスキルを身に付けることである。様々な問題が発生する現代社会においては、こうすれば大丈夫という誰にも共通な正解が存在しない。しかし、その正解のない課題について考えていく姿勢が大切である。考えることは、学びを深めていく上で大切な能力のひとつであり、「考える力」の習得こそが、複雑で予想しがたい現代社会を生き抜いていくための基盤を作り上げる。本授業では、様々なテーマを題材にアクティブ・ラーニングの授業形態を取りながら、以下の2点に関する能力の習得を目指す。また、大学での学びや生活に必要な知識や情報リテラシーについての学習も行う。

- ・ 情報技術を活用して、自分の考えを表現することができる。
- ・ 正解のない課題の解決に向けて、諦めることなく考え抜くことができる。

(到達目標)

【技能】大学生活に必要な「考える力」の基礎となる技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、大学ポータルサイトの説明【ID、パスワード等】
- 2回 情報リテラシー1【大学ICT環境、e-Learningシステム等】
- 3回 情報リテラシー2【情報モラル、情報セキュリティ、著作権等】
- 4回 情報リテラシー3【文書作成】
- 5回 情報リテラシー4【表計算、グラフ】
- 6回 情報リテラシー5【情報リテラシーの振り返り】
- 7回 大学での学びや生活について【剽窃と引用、キャンパス・マナー】
- 8回 考える力1【受け取る力の説明】
- 9回 考える力2【受け取る力の演習】
- 10回 考える力3【処理する力の説明】
- 11回 考える力4【処理する力の演習】
- 12回 考える力5【発信する力の説明】
- 13回 考える力6【発信する力の演習】
- 14回 振り返り
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題への積極的な参加 ... 70%

宿題や振り返りレポート ... 30%

ただし、授業中に実施する情報リテラシー（情報モラル・情報セキュリティ、文書作成・表計算）の必須課題に合格しなければならない。

# アカデミック・スキルズI【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当者の指示に従い、毎回、授業開始前までに必要な授業の準備を行い、授業終了後に学んだことを振り返り、まとめておくこと。また、大学生活で欠かせない情報リテラシー能力の習熟には日々の練習が欠かせないため、正規の授業時間外の時間に、パソコン自習室や自宅にて積極的に操作練習を行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。また、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もある。詳細は、授業中に説明する。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各回に適したワークや質疑応答等を繰り返しながら、授業を展開していく。このため、積極的に授業に参加して欲しい。

## キーワード /Keywords

考える力、情報リテラシー、アクティブ・ラーニング



# アカデミック・スキルズI【昼】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 中1 - ア・英  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 1 - キ

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES101F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、大学生活に必要な「考える力」の基礎となるスキルを身に付けることである。様々な問題が発生する現代社会においては、こうすれば大丈夫という誰にも共通な正解が存在しない。しかし、その正解のない課題について考えていく姿勢が大切である。考えることは、学びを深めていく上で大切な能力のひとつであり、「考える力」の習得こそが、複雑で予想しがたい現代社会を生き抜いていくための基盤を作り上げる。本授業では、様々なテーマを題材にアクティブ・ラーニングの授業形態を取りながら、以下の2点に関する能力の習得を目指す。また、大学での学びや生活に必要な知識や情報リテラシーについての学習も行う。

- ・ 情報技術を活用して、自分の考えを表現することができる。
- ・ 正解のない課題の解決に向けて、諦めることなく考え抜くことができる。

(到達目標)

- 【技能】大学生活に必要な「考える力」の基礎となる技能を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、大学ポータルサイトの説明【ID、パスワード等】
- 2回 情報リテラシー1【大学ICT環境、e-Learningシステム等】
- 3回 情報リテラシー2【情報モラル、情報セキュリティ、著作権等】
- 4回 情報リテラシー3【文書作成】
- 5回 情報リテラシー4【表計算、グラフ】
- 6回 情報リテラシー5【情報リテラシーの振り返り】
- 7回 大学での学びや生活について【剽窃と引用、キャンパス・マナー】
- 8回 考える力1【受け取る力の説明】
- 9回 考える力2【受け取る力の演習】
- 10回 考える力3【処理する力の説明】
- 11回 考える力4【処理する力の演習】
- 12回 考える力5【発信する力の説明】
- 13回 考える力6【発信する力の演習】
- 14回 振り返り
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題への積極的な参加 ... 70%

宿題や振り返りレポート ... 30%

ただし、授業中に実施する情報リテラシー(情報モラル・情報セキュリティ、文書作成・表計算)の必須課題に合格しなければならない。

# アカデミック・スキルズI【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当者の指示に従い、毎回、授業開始前までに必要な授業の準備を行い、授業終了後に学んだことを振り返り、まとめておくこと。また、大学生活で欠かせない情報リテラシー能力の習熟には日々の練習が欠かせないため、正規の授業時間外の時間に、パソコン自習室や自宅にて積極的に操作練習を行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。また、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もある。詳細は、授業中に説明する。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各回に適したワークや質疑応答等を繰り返しながら、授業を展開していく。このため、積極的に授業に参加して欲しい。

## キーワード /Keywords

考える力、情報リテラシー、アクティブ・ラーニング

# アカデミック・スキルズI【昼】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1学期未修得者再履

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES101F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、大学生活に必要な「考える力」の基礎となるスキルを身に付けることである。様々な問題が発生する現代社会においては、こうすれば大丈夫という誰にも共通な正解が存在しない。しかし、その正解のない課題について考えていく姿勢が大切である。考えることは、学びを深めていく上で大切な能力のひとつであり、「考える力」の習得こそが、複雑で予想しがたい現代社会を生き抜いていくための基盤を作り上げる。本授業では、様々なテーマを題材にアクティブ・ラーニングの授業形態を取りながら、以下の2点に関する能力の習得を目指す。また、大学での学びや生活に必要な知識や情報リテラシーについての学習も行う。

- ・ 情報技術を活用して、自分の考えを表現することができる。
- ・ 正解のない課題の解決に向けて、諦めることなく考え抜くことができる。

(到達目標)

- 【技能】大学生活に必要な「考える力」の基礎となる技能を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、大学ポータルサイトの説明【ID、パスワード等】
- 2回 情報リテラシー1【大学ICT環境、e-Learningシステム等】
- 3回 情報リテラシー2【情報モラル、情報セキュリティ、著作権等】
- 4回 情報リテラシー3【文書作成】
- 5回 情報リテラシー4【表計算、グラフ】
- 6回 情報リテラシー5【情報リテラシーの振り返り】
- 7回 大学での学びや生活について【剽窃と引用、キャンパス・マナー】
- 8回 考える力1【受け取る力の説明】
- 9回 考える力2【受け取る力の演習】
- 10回 考える力3【処理する力の説明】
- 11回 考える力4【処理する力の演習】
- 12回 考える力5【発信する力の説明】
- 13回 考える力6【発信する力の演習】
- 14回 振り返り
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題への積極的な参加 ... 70%

宿題や振り返りレポート ... 30%

ただし、授業中に実施する情報リテラシー(情報モラル・情報セキュリティ、文書作成・表計算)の必須課題に合格しなければならない。

# アカデミック・スキルズI【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当者の指示に従い、毎回、授業開始前までに必要な授業の準備を行い、授業終了後に学んだことを振り返り、まとめておくこと。また、大学生活で欠かせない情報リテラシー能力の習熟には日々の練習が欠かせないため、正規の授業時間外の時間に、パソコン自習室や自宅にて積極的に操作練習を行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。また、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もある。詳細は、授業中に説明する。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各回に適したワークや質疑応答等を繰り返しながら、授業を展開していく。このため、積極的に授業に参加して欲しい。

## キーワード /Keywords

考える力、情報リテラシー、アクティブ・ラーニング

# アカデミック・スキルズII ( 論理的に生きる ) 【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES102F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

この授業は「アカデミック・スキルズ」で培ってきた考える力をさらに活用して、大学での学びに必要な論理的思考能力を伸ばすことを目的とします。データ収集からはじめて、それを取捨選択して加工、可視化して、他者に向けて発信するという一連の過程を具体的に実践していきます。

具体的には、以下のような項目を身につけます：

- 情報収集を行い、その情報の信頼性をチェックすることができる
- 表計算ソフトなどを利用し、データを可視化することができる
- プログラミングを基礎から学ぶことで、論理的な思考力を鍛え、現在不足しているといわれるデータサイエンス人材への一歩を踏み出す
- グループ活動を通じて、他者とのコミュニケーションをとることができる

( 到達目標 )

【技能】 大学生生活に必要な「考える力」に必要な技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】 設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】 異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

## 教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に適宜、紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 データを集める【検索】 【情報の信頼性】 【着眼点】
- 3回 データを加工する(表計算の復習)
- 4回 論理的思考力1(プログラミングの基礎)
- 5回 論理的思考力2(図形の描画)
- 6回 論理的思考力3(変数の利用)
- 7回 論理的思考力4(条件分岐, ループ)
- 8回 論理的思考力5(双方向性)
- 9回 論理的思考力6(配列)
- 10回 データの可視化1(グラフの種類)
- 11回 データの可視化2(棒グラフ)
- 12回 データの可視化3(折れ線グラフ)
- 13回 データの可視化4(円グラフ)
- 14回 現実のデータを活用する
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 90%

積極的な授業参加 ... 10%

# アカデミック・スキルズII ( 論理的に生きる ) 【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「Moodle」に授業資料などを提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、授業中に提示した課題を次回の授業時に提出したりしてもらいますので、授業時間外の作業が必要となります。特にグループ活動においては、グループメンバーと議論する時間を確保してください。

## 履修上の注意 /Remarks

受講生の理解度や授業進度、そのほかの社会状況に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現在、ビッグデータやAIなど、ICTスキルやデータを活用できる人材が世の中で求められています。いわゆる「文系」という枠に自分を限定するのではなく、自分の将来に向けてプログラミングを学んでみませんか？

## キーワード /Keywords

ロジカルシンキング ( 論理的な思考 ) , プログラミング , データの可視化 , コミュニケーション能力 , 思考力 , SDGs 17:パートナーシップ

# アカデミック・スキルズII ( レポートを書くために ) 【 昼 】

基盤教育科目  
教養教育科目  
知の技法科目

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES102F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、アカデミック・スキルズIで身につけた考える力を活用して大学生活に必要なコミュニケーション能力を伸ばし、より深く考えられるようになることです。最終的な目標は、テーマに沿って自分で問いを設定し、文献を読んで考えをまとめるレポート（高校までの小論文でも調べ学習でも感想文でもなく）を書くことです。比較的読みやすいテキストを批判的に読解することを通して、レジュメの作りかた、論点の見つけ方、文献の探し方を学び、それをわかりやすく報告するコミュニケーション能力を養います。後半では、受講者同士の議論を経て、レポートの作成を目指します。

( 到達目標 )

【技能】大学生活に必要な「考える力」の基礎となる技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている

## 教科書 /Textbooks

黒木登志夫 2020『新型コロナの科学：パンデミック、そして共生の未来へ』中公新書（940円＋税）

新型コロナに関連する問題は、科学の分野の知識のみで解決できるとは限りません。それぞれの地域の様々な問題と結びついています。今年度は現在進行形の問題について思索を深めることを試みます。このテキストは2020年12月に発売されました。授業が始まるころには状況も変化していると思いますが、それを含めて議論したいと思います。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- 慶応義塾大学教養研究センター 2014『ダメレポート脱出法』慶應大学出版会
- 佐渡島沙織ほか編 2015『レポート・論文をさらによくする書き直しガイド』大修館書店
- 白井利明・高橋一郎2008『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房

そのほかMoodleに参考となる電子書籍のリンクを貼ります。必要に応じて閲覧してください。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：レポートを書くとは
- 第2回 大学における本の読みかた・探しかた
- 第3回 読んだ本の理解を深めるには・レジュメの作りかた
- 第4回 テキスト輪読型の演習における報告と議論①
- 第5回 議論のしかた
- 第6回 テキスト輪読型の演習における報告と議論②
- 第7回 テキスト輪読型の演習における報告と議論③
- 第8回 テーマの見つけかた
- 第9回 レポート構想報告①
- 第10回 レポートの書きかた
- 第11回 レポート構想報告②
- 第12回 レポート構想報告③
- 第13回 文章を推敲する：レポートの相互添削
- 第14回 文章のブラッシュアップ
- 第15回 これまで学んだことの総括

※受講者の人数によって内容を変更することもある。

# アカデミック・スキルズII ( レポートを書くために ) 【 昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
知の技法科目

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業貢献 ( 報告内容、積極的な発言など ) 50%  
( 第13回で学生相互にレポートを添削し、その後最終的に書き直したレポートを評価の対象とします。 )  
※報告者の無断欠席は厳しく減点します。  
※学期末レポートの最低文字数は2000字です。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ レジユメの作成、レポートの執筆およびそのための資料収集などはそれなりに時間がかかります。計画的かつ真摯に取り組んでください。

## 履修上の注意 /Remarks

- ・ 履修を希望する学生は、第1回の授業から必ず出席してください。
- ・ 問題意識は、漠然と本を読み、授業を聞くだけで生まれるものではありません。受講する段階で特定の学問的興味関心を持つことは求めませんが、学期末までには課題に対する問題意識を見つけることを心がけてください。
- ・ 演習の準備に時間がかかることを嫌がらないでください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

・ 大学での本の読みかたやレポートの書きかたを基礎から学ぶので、どの学部の学生でも怖気づかずに履修してください。レポートをあまり書かない学部の学生も、学期末には2000字以上のレポートを頑張って書いています。レポートに慣れている学部の学生は、この機会に自分の書き方を点検し、より高く評価されるレポートを目指してみましょう。

## キーワード /Keywords

思考力、アクティブ・ラーニング、コミュニケーション能力



# アカデミック・スキルズII ( 豊かな大学生活のために ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
知の技法科目

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES102F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、アカデミック・スキルズIで身につけた考える力を活用して大学生活に必要なコミュニケーション能力を伸ばし、より深く考えられるようになることである。

身近なことをテーマに考えたり自分の考えを表現したりすることを、様々な学部（学群）の学生と行ってもらおう。

（到達目標）

【技能】大学生活に必要な「考える力」に必要な技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

## 教科書 /Textbooks

なし。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜授業を通じて紹介。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：オリエンテーション
- 2回：考える力
- 3回：コミュニケーション能力
- 4回：ことばを有効に活用するためのスキル
- 5回：自分を理解する①【大切にするもの】
- 6回：自分を理解する②【違和感のあるもの】
- 7回：相手を理解する
- 8回：自分を理解してもらおう
- 9回：個人発表
- 10回：ここまでの振り返り
- 11回：北九大を理解する①【キャンパス探訪】
- 12回：北九大を理解する②【課題設定】
- 13回：北九大を理解する③【表現する】
- 14回：個人発表（または、グループ発表）
- 15回：まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加（事前・事後学習を含む） ... 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に役立つ活動を行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

# アカデミック・スキルズII ( 豊かな大学生活のために )

## 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
知の技法科目

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の興味や関心に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。  
たくさんのインプットとたくさんのアウトプットをしていただくことを期待しています。  
よく考えて、受講してください。

### キーワード /Keywords

思考力、アクティブ・ラーニング、コミュニケーション能力、率

関連するSDGsゴール：17.「パートナーシップで目標を達成しよう」

# アカデミック・スキルズII ( 論理的思考、批判的思考、対話 ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
知の技法科目

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES102F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

この授業は、「アカデミック・スキルズI」で養った「考える力」をより伸ばしていくことを目的とします。では、考える力とはどんな力なのでしょうか。あるいは、考えるとはどんな行為なのでしょう。授業では、これらの問いを改めて問い直し、他者（他の参加者）との対話を行うを通じて、考えることの中でも論理的思考、批判的思考と呼ばれるものを学んでいきます。

まずは、論理的思考に触れます。論理についての講義をしたうえで、実際に論理トレーニングを行い、小さなレポートを書いてもらいます。次に、批判的思考を学びます。論理的思考と批判的思考の違いについて抑えたいので、「哲学対話」という方法を通じて、批判的思考を実践していきます。批判と聞くと悪口や非難を想像するかもしれませんが、この場合の「批判」とは、ある事柄に疑問符をつける、あるいは、問いを立てることです。例えば、「大企業の人は勝ち組である」といった言説に対して、批判的思考は、「勝ち組って何？」「幸福って何？」「勝ち負けだけなの？」などとどんどん問いを投げつけ、その問いをその根本にある本質にまで掘り下げていきます。これによって新しい選択肢や価値観を獲得することができます。その過程では、他者の存在が不可欠であることも実感できるでしょう。

### 【到達目標】

《技能》大学生活に必要な「考える力」に必要な技能を身につけている。

《思考・判断・表現力》設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

《コミュニケーション力》異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

## 教科書 /Textbooks

野矢茂樹『論理トレーニング101題』, 産業図書, ISBN-13 : 978-4782801369, ( 2,200円 + 税 )

\* 論理トレーニングに使用します。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- ・ 梶谷真司『考えるとはどういうことか 0歳から100歳までの哲学入門』, 幻冬舎新書
- ・ ○E. B.ゼックミスタラ『クリティカルシンキング: あなたの思考をガイドする40の原則』, 北大路書房

などなど。授業中にも紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 思考と論理の歴史について①【論理的思考の出自】
- 第3回 思考と論理の歴史について②【論理的思考の発展】
- 第4回 論理トレーニング①【論証の構造】
- 第5回 論理トレーニング②【演繹】
- 第6回 論理トレーニング③【推測】
- 第7回 論証してみよう！【小レポートを書く】
- 第8回 論証を確認しよう！【相互添削とコーヒーブレイク】
- 第9回 論理的思考から批判的思考へ
- 第10回 批判的思考と対話
- 第11回 サイレント・ダイアログ【書く対話】
- 第12回 根っこゲーム【問いを疑ってみよう】
- 第13回 哲学対話①【対話と批判的思考の実践】
- 第14回 哲学対話②【対話と批判的思考の実践】
- 第15回 まとめ

# アカデミック・スキルズII ( 論理的思考、批判的思考、対話 ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
知の技法科目

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業貢献および小テスト 50%  
( 小テストは論理トレーニング回に宿題として出す予定です。 )
  - ・ 期末レポート 50%  
( 期末レポートは、批判的思考を用いて問いを立てるというレポートです )
- \* 授業を5回欠席した場合は、レポートを出しても成績評価の対象とはなりません。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 論理トレーニングについては、予習と復習が欠かせません。小テストも出題します。
- ・ 小レポートについては、事前にお題を出しますので、データなどの素材を前もって集めてください。

## 履修上の注意 /Remarks

- ・ 初回は、いわゆるイントロダクション ( 導入 ) ですが、講義全体の進め方や成績の付け方についても説明するので、必ず出席してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

僕もツイッターやっていますが、140字ぐらいの短い文章 ( 短文 ) が当たり前になると、長い文章で論理的に考えることができなくなります。ネトウヨが典型的ですが、思考が短絡的になり、態度や価値観も独善的で短絡的になる傾向にあります。皆さんには、絶対にそうなってほしくない。そのために、ぜひこの授業で論理的・批判的な思考方法を身につけて欲しいと思います。と同時に、他者の存在に配慮し、その声に耳を傾けることがどれほど重要なことなのかも考えて欲しいと思います。皆さんと対話できることを、とても楽しみにしています！

## キーワード /Keywords

哲学、思考力、アクティブ・ラーニング、コミュニケーション能力

# 情報社会への招待【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF100F		◎	○		
科目名	情報社会への招待		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、現在の情報社会を俯瞰的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎とし、変化し続ける情報技術と正しくつき合えるような適応力を身につけることを目指します。

(到達目標)

【技能】 情報社会を正しく理解するために必要な技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】 情報社会の課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

また、この授業で学ぶICT（情報通信技術）は、国連が定めたSDGs（持続可能な開発目標）のうち、「4．質の高い教育をみんなに」「8．働きがいも経済成長も」「9．産業と技術革新の基盤をつくろう」「10．人や国の不平等をなくそう」「17．パートナーシップで目標を達成しよう」に関連していると考えています。授業を通じて、これらの目標についても考えを深めてみてください。

## 教科書 /Textbooks

なし。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし。随時紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル、炎上、個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光、音、匂い、味、触覚、電気】
- 3回 コンピュータはどのようにして情報を取り扱うか【2進数、ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置、出力装置、解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU、メモリ、記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS、拡張子とアプリケーション、文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換、パケット交換、LAN、IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名、DNS、サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン、位置情報、GPS、GIS、プライバシー】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス、スパイウェア、不正アクセス、詐欺、なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信、ファイアウォール、クッキー、セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア、防犯カメラ、ライブログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン、Wikipedia、フリーミアム、クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権、コンテンツのデジタル化、クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

# 情報社会への招待【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「Moodle」に授業資料を提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます(必要な学習時間の目安は予習60分、復習60分)。  
その他、ICTに関するニュースを視聴するなど、日常的、能動的に情報社会に関する事柄に興味をもつことをお勧めします。

## 履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

## キーワード /Keywords

情報社会，ネットワーク，セキュリティ，SDGs 4．質の高い教育を，SDGs 8．働きがい・経済成長，SDGs 9．産業・技術革命，SDGs 10．不平等をなくす，SDGs 17．パートナーシップ

# 法への誘い【昼】

担当者名 /Instructor  
 中村 英樹 / 法律学科, 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科  
 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科, 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科  
 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科, 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科  
 今泉 恵子 / 法律学科, 堀澤 明生 / Akio Horisawa / 法律学科  
 水野 陽一 / 法律学科, 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科  
 岡本 舞子 / OKAMOTO MAIKO / 法律学科, 土井 和重 / Kazushige Doi / 法律学科  
 林田 幸広 / 法律学科, 矢澤 久純 / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW001F		◎	○		○
科目名	法への誘い				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、法律学科の教員たちが、社会のさまざまな問題を法というフィルターを通して眺めるとどのように捉えられるのかについて講義する。この講義を通じて、法というツールを用いて問題を読み解く技能を獲得することが本授業の目的であり、あわせて、発見したさまざまな課題への対処を考える思考・判断力、そしてそれらを活かして公共的な問題を解決していく自立的行動力を身につけることを目指す。

(到達目標)

- 【技能】法律の世界を正しく理解するために必要な技能を身につけている
- 【思考・判断・表現力】法的課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている
- 【自立的行動力】社会における法的課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

## 教科書 /Textbooks

特になし。  
各回、必要な資料があれば配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

各種の法学入門書など。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 法によって人を規制するということ - 感染症をめぐる公法学
- 第3回 検察庁法の改正法案は何が問題だったのか? - 行政権と内閣
- 第4回 肉1ポンドを担保にしてお金を借りることは許されるか? - ヴェニス商人に見る同意
- 第5回 高齢者の罪は許すべき?
- 第6回 人間はAIとどのように向き合うべきか? - AIと法
- 第7回 電気は「物」か? - 物に関する法
- 第8回 女性にだけ再婚禁止期間が原則100日も設けられているのはなぜか? - 民法における再婚禁止期間と嫡出推定の関係
- 第9回 法律と年齢 - ○○オになったら□□ができる!?
- 第10回 災害リスク管理制度としての保険
- 第11回 年金って私たちはもらえないんでしょ? - 公的年金の役割
- 第12回 長時間労働はなぜ起きるのか?
- 第13回 自分の臓器を売る自由? - 自己所有権の限界
- 第14回 裁判しない法専門家 - ADRとそのねらい
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末のレポートによる (100%)。

## 法への誘い 【昼】

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回のテーマについて事前に情報を収集し、自分の考えを整理しておくこと。

### 履修上の注意 /Remarks

受講態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

### キーワード /Keywords



# コンピューターリテラシー 【昼】

担当者名 /Instructor 古川 洋章 / 情報総合センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF101F		◎			
科目名	コンピューターリテラシー		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、コンピューターやインターネットを正しく扱うための知識や技術を学習し、情報社会において自らの考えや判断を表現・伝達する手段として利活用する能力を身につけることです。そのため、本授業では実際にコンピューターを操作しながら、以下のような項目を達成できる技能の習得を目指します。

### 【情報モラル・情報セキュリティ】

- ・ インターネットにおけるリスクを把握し正しい使い方について説明することができる
- ・ 著作権と引用のルールについて説明することができる

### 【電子メール】

- ・ 電子メールの特性および仕組みについて説明することができる
- ・ ビジスマナーを意識した電子メールの作成・送受信ができる

### 【文章作成】

- ・ 基礎的な文章の作成ができる
- ・ 文章作成ソフトの機能を活用した文章の装飾ができる
- ・ 長文レポートの作成ができる

### 【表計算・グラフ作成】

- ・ 基礎的な表の作成ができる
- ・ 数式や関数を用いたデータの集計ができる
- ・ 基礎的なグラフの作成ができる
- ・ 条件に応じて出力結果を変えることができる

なお、本授業は初心者を対象としています。

(到達目標)

【技能】コンピューターを適切に利用する技能を身につけている。

## 教科書 /Textbooks

『情報リテラシー Windows10 /Office2019対応』 FOM出版、2,000円 (税抜)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて授業中に紹介します。

# コンピューターリテラシー 【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 コンピューターの操作方法
- 3回 情報モラル・情報セキュリティ：インターネットにおけるリスクとコミュニケーション
- 4回 電子メール：大学における電子メール
- 5回 文章作成1：文章作成の基本操作
- 6回 文章作成2：文章作成ソフト機能の活用
- 7回 文章作成3：レポート作成
- 8回 文章作成4：文章作成練習
- 9回 演習1：文章作成
- 10回 表計算・グラフ作成1：表作成の基本操作
- 11回 表計算・グラフ作成2：グラフ作成
- 12回 表計算・グラフ作成3：条件に応じた出力
- 13回 表計算・グラフ作成4：表計算・グラフ作成練習
- 14回 演習2：表計算・グラフ作成
- 15回 ふり返り・まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ インターネット・情報モラル・情報セキュリティに関する課題...15%
- ・ 電子メールの課題...10%
- ・ 文章作成演習の課題...25%
- ・ 表計算・グラフ作成演習の課題...25%
- ・ 授業支援ツールを用いた授業への積極的な参加...25%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに、予め授業テーマについて予習してください。また授業終了後には、パソコン自習室や自身のパソコン等で積極的に授業内容を復習してください。

## 履修上の注意 /Remarks

この科目は、パソコンを使った演習が必須ですので、自由に利用できるパソコンを持っていることが望ましいです。パソコンを持っていない場合は、大学内のパソコン自習室を利用するなど、パソコンが利用できる環境を準備してください。

また、コンピューターの基本的な操作（キーボードによる文字入力、マウス操作など）ができるようになっておくことと受講しやすいです。

なお、受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

この科目は、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もあります。また、受講者数調整を実施する可能性もあります。詳細は、初回の授業中に説明します。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業では、初心者を対象に、情報社会においてコンピューターやインターネットを正しく扱うための基本的な知識や技術について学習し、利活用する能力の体得を目指します。実際にコンピューターを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に練習に取り組む姿勢が大切です。わからないことがあれば、随時、質問をしてください。

## キーワード /Keywords

文章作成、表作成、グラフ、電子メール、情報モラル、情報セキュリティ

# データ分析 【昼】

担当者名  
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期/2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF201F		◎	△		
科目名	データ分析		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

情報社会と呼ばれる現代では、インターネットを通じて多種多様なデータが常に世界中を行き交っている。ICTの高度化は、分散する端末から高速ネットワークを通じてデータを収集し、収集した大量のデータを瞬時に分析することを可能にした。これらの事実は、社会のあらゆる場面において、データに基づいた意思決定が求められることを意味する。この背景から言えることは、社会は、大量のデータから何らかの意味のある情報や法則、関連性などを導き出し、そこから知識を獲得できる人材を求めているということである。

本授業は、データを分析する基本を学ぶ。具体的には、以下の能力を身につけることが目標である。

- ・ データ分析の必要性について説明することができる。
- ・ 表計算ソフトを用いて、与えられたデータから平均や散らばり度合いなどを明らかにすることができる。
- ・ 表計算ソフトを用いて、与えられたデータからどの要素が関連するかを考え、その関係性を明らかにすることができる。
- ・ 表計算ソフトを用いて、与えられたデータから時系列的な変化を明らかにすることができる。

(到達目標)

【技能】データを適切に分析する技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 小島寛之：完全独習 統計学入門，ダイヤモンド社，2006年，1,800円（税抜）
- 西内啓：統計学が最強の学問である，ダイヤモンド社，2013年，1,600円（税抜）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.オリエンテーション，データ分析の必要性
- 2.表計算ソフト演習1【表作成】【グラフ作成】
- 3.表計算ソフト演習2【数式を使った計算】【関数を使った計算】
- 4.度数分布表とヒストグラム
- 5.データの平均と散らばり
- 6.正規分布とその特長
- 7.母集団と区間推定
- 8.演習1：分布に関する演習
- 9.質的データの要因比較のための集計
- 10.量的データの2要因間の関係
- 11.量的データの2要因間の関係から予測へ
- 12.演習2：要因比較に関する演習
- 13.時系列的なデータの変遷
- 14.総合演習
- 15.まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

分布に関する演習・・・20%，要因比較に関する演習・・・20%，総合演習・・・40%，レポート・・・20%

# データ分析【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、授業内容・計画に従って予め調べて学習しておくこと。  
事後学習として、授業内容を反復すること。  
また、データ分析能力の習熟には日々の練習が欠かせないため、正規の授業時間以外に、積極的にデータ分析の練習を行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

この科目は、パソコンを使った演習が必須なので、自由に使えるパソコンを持っていることが望ましい。パソコンを持っていない場合は、大学内のパソコン自習室を利用するなど、パソコンが使える環境を準備しておくこと。また、表計算ソフトを使った演習が中心となるので、表計算ソフトがある程度使えれば、受講しやすくなる。  
受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や内容を変更することがある。その場合は、授業中に説明する。  
この科目は、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もある。また、受講者数調整を実施する可能性もある。詳細は、初回の授業中に説明する。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画・内容から、難しい数式が出てくる印象を与えるが、本授業では中学校レベルの数学で理解できるように設計している。データサイエンティストの入り口に立つための授業という位置づけであるので、興味のある学生は積極的に受講して欲しい。

## キーワード /Keywords

分布，要因比較，時系列分析，統計学，表計算ソフト，データからの知識獲得

# データ分析 【昼】

担当者名 佐藤 貴之 / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF201F		◎	△		
科目名	データ分析		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

情報社会と呼ばれる現代では、インターネットを通じて多種多様なデータが常に世界中を行き交っている。ICTの高度化は、分散する端末から高速ネットワークを通じてデータを収集し、収集した大量のデータを瞬時に分析することを可能にした。これらの事実は、社会のあらゆる場面において、データに基づいた意思決定が求められることを意味する。この背景から言えることは、社会は、大量のデータから何らかの意味のある情報や法則、関連性などを導き出し、そこから知識を獲得できる人材を求めているということである。

本授業は、データを分析する基本を学ぶ。具体的には、以下の能力を身につけることが目標である。

- ・ データ分析の必要性について説明することができる。
- ・ 表計算ソフトを用いて、与えられたデータから平均や散らばり度合いなどを明らかにすることができる。
- ・ 表計算ソフトを用いて、与えられたデータからどの要素が関連するかを考え、その関係性を明らかにすることができる。
- ・ 表計算ソフトを用いて、与えられたデータから時系列的な変化を明らかにすることができる。

(到達目標)

【技能】データを適切に分析する技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 小島寛之：完全独習 統計学入門，ダイヤモンド社，2006年，1,800円（税抜）
- 西内啓：統計学が最強の学問である，ダイヤモンド社，2013年，1,600円（税抜）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.オリエンテーション，データ分析の必要性
- 2.表計算ソフト演習1【表作成】【グラフ作成】
- 3.表計算ソフト演習2【数式を使った計算】【関数を使った計算】
- 4.度数分布表とヒストグラム
- 5.データの平均と散らばり
- 6.正規分布とその特長
- 7.母集団と区間推定
- 8.演習1：分布に関する演習
- 9.質的データの要因比較のための集計
- 10.量的データの2要因間の関係
- 11.量的データの2要因間の関係から予測へ
- 12.演習2：要因比較に関する演習
- 13.時系列的なデータの変遷
- 14.総合演習
- 15.まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

分布に関する演習・・・20%，要因比較に関する演習・・・20%，総合演習・・・40%，レポート・・・20%

# データ分析 【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、授業内容・計画に従って予め調べて学習しておくこと。  
事後学習として、授業内容を反復すること。  
また、データ分析能力の習熟には日々の練習が欠かせないため、正規の授業時間以外に、積極的にデータ分析の練習を行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

この科目は、パソコンを使った演習が必須なので、自由に使えるパソコンを持っていることが望ましい。パソコンを持っていない場合は、大学内のパソコン自習室を利用するなど、パソコンが使える環境を準備しておくこと。また、表計算ソフトを使った演習が中心となるので、表計算ソフトがある程度使えれば、受講しやすくなる。  
受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や内容を変更することがある。その場合は、授業中に説明する。  
この科目は、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もある。また、受講者数調整を実施する可能性もある。詳細は、初回の授業中に説明する。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画・内容から、難しい数式が出てくる印象を与えるが、本授業では中学校レベルの数学で理解できるように設計している。データサイエンティストの入り口に立つための授業という位置づけであるので、興味のある学生は積極的に受講して欲しい。

## キーワード /Keywords

分布，要因比較，時系列分析，統計学，表計算ソフト，データからの知識獲得

# 知の創造特講B (戦後の日本経済) 【昼】

担当者名 /Instructor 土井 徹平 / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPL205F			◎		
科目名	知の創造特講B		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

かつて日本は、今よりずっと活気ある国としてありました。そしてこの時代の日本人は自信に満ちていました。彼らは今年より来年、来年より再来年、自分たちの生活はどんどん「豊か」で「贅沢」なものになっていくと信じていましたし、それが彼らの目標でもありました。

しかし現在、かつての活力は失われ、これとは対称的に、慢性的な不況や「少子高齢化」、地方の「過疎化」など、「衰退」を象徴するような、ネガティブな側面ばかりが目立っています。そして私たちは「豊かさ」や「贅沢」を追い求めることをやめ、積極的にお金を使い、物を買うことすら控えるようになっていきます。

では、それはなぜなのでしょう？

なぜかつての日本には活力があつて今はなく、私たちはかつての「豊かさ」を求めなくなってしまったのでしょうか。そしてそんな中、私たちは今、どんな生活を理想として生きているのでしょうか。

私たちは過去、何を経験し、その結果、今、未来に何を期待しているのでしょうか。

この講義は、私たち日本人が戦後、どのような時代を生き、そこで何を経験し、そのことでどう変わってきたのか、私たち自身の過去と現在、そして未来を客観的に理解するための授業です。そしてここではそれを、日本人の生活条件の変化、つまり日本経済の歴史をもとに考えていきます。

私たちの生活は、各時代の経済によって規定されています。

したがって、経済が過去からどう変化して来たのか知ることは、私たちの生活がこれまでどう変化して来たのか知ることもできます。そして私たちの生活がどう変化して来たのか理解出来れば、上の問いに対する答えを見つけることもできるようになります。

ここではぜひ皆さんに、経済と歴史をもとに現在の私たち自身を理解する、経済学的・歴史学的な思考を実践し、身に付けていただきたいと思ひます。

☆到達目標

【思考・判断・表現力】

設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

## 教科書 /Textbooks

なし。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業内で適宜紹介します。

## 知の創造特講B ( 戦後の日本経済 ) 【昼】

### 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 なぜ「経済史」を学ぶのか
- 第2回 敗戦直後の日本経済
- 第3回 戦後復興の始まり - 「鉄は国家なり」 -
- 第4回 「団塊の世代」
- 第5回 人口の急増と経済危機 - 「人口転換」 -
- 第6回 「人口ボーナス」
- 第7回 産業基盤の整備と「高度経済成長」
- 第8回 「高度経済成長」と人口移動
- 第9回 「団塊の世代」の世帯形成と日本経済
- 第10回 日本人の生活水準の向上 - 都市的な生活様式への憧れ -
- 第11回 「一億総中流」 - 「ホワイトカラー」の台頭 -
- 第12回 「高度経済成長」の終焉 - 「オイルショック」と「団塊ジュニア」 -
- 第13回 「安定成長期」 - 産業構造の転換と「鉄冷え」 -
- 第14回 「バブル崩壊」
- 第15回 「失われた20年」と現在

### 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 80% 日常での授業への取り組み... 20%

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回、授業内容に沿ったレジユメを配布します。配布済みのレジユメを用い前回の講義内容を復習して授業に臨み、授業後には同じくレジユメをもとに、その日の授業内容を反復するようにしてください。

### 履修上の注意 /Remarks

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「歴史」と言えば「暗記科目」という印象を抱いている方も多いと思います。しかし大学で学ぶ「歴史」は「歴史学」であり、「歴史学」は、歴史をもとに過去そして現代について“考える”社会科学です。これまで「歴史」が苦手であった方、「歴史」に関する知識に自信がないという方であっても、「歴史」をもとに考える意思のある方であれば主体的にご参加ください。

### キーワード /Keywords

日本経済史 戦後史 人口転換 団塊の世代 高度経済成長 オイルショック 安定成長期 団塊ジュニア バブル崩壊 失われた20年 口  
ストジェネレーション



# 社会学的思考 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOC002F			◎	○	
科目名	社会学的思考		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、人間と社会との関係性を総合的に理解することにある。まず、社会学の基本的な考え方について、E.デュルケム、M.ウェーバーなどの古典的著作を例にとりながら紹介していく。その中で、社会的行為、社会規範、社会制度、社会構造、社会的役割、社会集団等の基本概念についても説明する。さらに、現代の社会問題を社会学的に考えていく。

上記の内容を踏まえ、授業では以下の4点を目標とする。

- (1) 現代社会とはどのような社会なのか、社会学の基礎を学び、それを踏まえた上で現代社会の特性を理解する。
- (2) 多様な生き方を尊重することが望ましい現代において、生活の多様性における実態について理解する。
- (3) どのような社会構造の中で人が生活をしているのかを理解することを通して、人と社会のあり方を望ましいあり方について考えることができるようになる。
- (4) 社会問題とは何か、どのような背景によって社会問題は形成されるのかを理解し、社会政策等の社会問題への対策のあり方について考えることができるようになる。

なお、本科目は、SDGs1「貧困をなくそう」、SDGs3「すべての人に健康と福祉を」、SDGs10「人や国の不平等をなくそう」、SDGs17「パートナーシップで目標を達成しよう」に関連するものである。

### 到達目標

- 【思考・判断・表現力】現代の社会問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【コミュニケーション力】他者と協働して、現代の社会問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

## 教科書 /Textbooks

使用しない。  
適宜資料を配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『現代の社会学的解説』,山本努・辻正二・稲月正著,学文社,2014年,¥2640(古書)
- 『最新 社会福祉士養成講座◎ 社会学と社会システム』,一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編,中央法規,2021年,¥2,750
- その他、講義の中で、適宜、紹介する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 社会とは、社会学とは【文化、社会化】
- 第2回 社会学的な考え方とは【行為、規範、制度、社会構造、エスノグラフィー】
- 第3回 社会学の歴史的展開1 - デュルケム【規範、集合意識、機能、自己本位的自殺、アノミ的自殺】
- 第4回 社会学の歴史的展開2 - ウェーバー【社会的行為、理解社会学、社会的行為の意図せざる結果】
- 第5回 家族とジェンダー【家族類型、家族の機能、世帯の概念、男女共同参画、ワークライフバランス】
- 第6回 集団と組織【準拠集団、第1次集団、第2次集団、官僚制、NPO】
- 第7回 逸脱と社会統制【差別、偏見、マイノリティ、ラベリング理論】
- 第8回 都市と農山村【人口構造、人口動態、都市化と過疎化、中山間地域、コミュニティ】
- 第9回 社会階層と社会移動【階級、階層、社会移動、所得格差、教育格差、健康格差、社会指標】
- 第10回 社会問題と社会政策(貧困、失業、過労死、非正規雇用、社会的孤立、福祉国家と福祉社会、社会運動)
- 第11回 環境【公害、SDGs、ESD】
- 第12回 災害【被災、支援、ボランティア】
- 第13回 社会システムと社会変動【近代化、産業化、情報化、戦後日本型循環モデル】
- 第14回 グローバリゼーションと移民【国境を越える移動、移民、多文化共生】
- 第15回 まとめ

# 社会学的思考 【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

確認小テスト...40%、課題レポート...60%とし、総合的に判断する。いずれも、メディア授業の際に出す。提出期限を過ぎた課題・小テストは受け付けできない。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業にあたって配布プリント等をよく読んでおくこと。授業の内容を反復学習すること。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。)

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常生活の中で生じているさまざまな出来事を、いろいろな立場や視点から考える習慣を身につけてもらえるとうれしいです。

## キーワード /Keywords

社会的行為、エスノグラフィー、社会集団、社会構造、集合意識、社会規範、自己本位主義、アノミー、理解社会学、合理性、社会的性格、ファシズム、社会的排除、社会的包摂、社会的孤立、貧困、戦後日本型循環モデル  
SDGs1「貧困をなくそう」、SDGs3「すべての人に健康と福祉を」、SDGs10「人や国の不平等をなくそう」、SDGs17「パートナーシップで目標を達成しよう」

# ことばの科学 【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIN110F	○	○	◎		
科目名	ことばの科学		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語はじめその他の言語のデータをもとに、「ことば」について考えていきます。

### [到達目標]

DP1 知識：言語の様々な側面を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

DP2 技能：ことばの規則性を正しく理解するために必要な技能を身につけている。

DP3 思考・判断・表現力：言語学に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている

## 教科書 /Textbooks

漆原 朗子（編著）『形態論』（朝倉日英対照言語学シリーズ第4巻）。朝倉書店、2016年。¥2700＋税。  
配布資料・その他授業中に指示

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 大津 由紀雄（編著）『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』。ミネルヴァ書房、2009年。
- スティーヴン・ピンカー（著）椋田 直子（訳）『言語を生みだす本能（上）・（下）』。NHKブックス、1995年。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ことばの不思議
- 第2回 ことばの要素
- 第3回 ことばの習得
- 第4回 普遍文法と個別文法
- 第5回 ことばの単位(1)：音韻
- 第6回 連濁
- 第7回 鼻濁音
- 第8回 ことばの単位(2)：語
- 第9回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第10回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第11回 ことばの単位(3)：文
- 第12回 動詞の自他
- 第13回 日本語と英語の受動態
- 第14回 数量詞
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度・参加度...10% 課題・期末試験...90%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：授業時に指示した文献の講読
- 事後学習：授業で扱った内容に関する課題の提出

## 履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 現代人のこころ【昼】

担当者名 /Instructor 松本 亜紀 / 人間関係学科, 田中 信利 / 人間関係学科  
田島 司 / 人間関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PSY003F			◎	○	○
科目名	現代人のこころ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

現代の心理学では、人間個人や集団の行動から無意識の世界に至るまで幅広い領域での実証的研究の成果が蓄えられている。この講義は、現代の心理学が明らかにしてきた、知覚、学習、記憶、発達、感情、社会行動などの心理過程を考察する。とくに、現代人の日常生活のさまざまな場面における「こころ」の働きや構造をトピック的にとりあげ、心理学的に考察し、現代人を取り巻く世界について、心理学的な理論と知見から理解する。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】現代人のこころを取り巻く諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

【自立的行動力】現代人のこころを取り巻く課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じてハンドアウトを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 脳とこころ1【脳とこころの関係】
- 第3回 脳とこころ2【睡眠の影響】
- 第4回 脳とこころ3【薬物の影響】
- 第5回 まとめと小テスト
- 第6回 青年期の自己観・他者観【エゴグラムテスト】【自己意識】
- 第7回 青年期の親子関係【独自性】【結合性】
- 第8回 青年期の友人関係【チャムシップ】【ふれあい恐怖】
- 第9回 青年期の自己の問題【アイデンティティ】【同一性危機】
- 第10回 まとめと小テスト
- 第11回 こころの科学1【科学としての心理学、統計】
- 第12回 こころの科学2【行動主義、客観性】
- 第13回 こころと行動【本能、生得的プログラム】
- 第14回 こころと他者【愛着、葛藤】
- 第15回 まとめと小テスト

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題(複数の小テストまたはレポート)・・・100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、シラバスに記載されているキーワードについて調べておく。

事後学習として、内容の理解を深めるため配布資料やノートをもとに授業の振り返りを行う。

## 履修上の注意 /Remarks

# 現代人のこころ【昼】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

臨床心理士としての実務経験のある教員が、日常生活や臨床場面に関わる心理学の理論や各時期の心理的・発達の特徴、人間関係などについてオムニバス形式で解説する。

## キーワード /Keywords

実務経験のある教員による授業

# 企業と社会【昼】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS001F	○		◎		○
科目名	企業と社会		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

企業は、現代社会においてそれなしでは成り立たない存在です。諸個人は一生を通じて何らかの形で企業と関わっていかざるをえません。企業を経営するとは、企業の経営者だけの問題ではなく、企業に関わるすべての人間にとっての問題です。この授業の狙いは、社会の中で企業がどのような原理で存在し、これまで歴史的にどのような側面を有してきたのか、また逆にそのような企業が社会に対してどのような影響を与えているか、現代社会においてこれからの企業はどのように経営されていくべきかを考えることにあります。

(到達目標)

【知識】企業と社会に関する諸問題を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】企業と社会の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】企業と社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論 第4版』有斐閣アルマ、2018年、2310円

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

三戸公『会社ってなんだ』文真堂、1991年(○)

三戸公『随伴的結果』文真堂、1994年(○)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス 【企業の社会における意味の変遷】【6つの企業観】
- 第2回企業と「豊かな社会」【現代における財・サービスの豊かさ】
- 第3回「株式会社」の仕組み① 【株式会社の歴史】【株式会社の機能と構造】
- 第4回「株式会社」の仕組み② 【株式会社の機能と構造】【上場と非上場】
- 第5回社会における「大企業」の意味① 【大企業とは何か】【所有と支配】
- 第6回社会における「大企業」の意味② 【商業社会と産業社会】【企業の性格の変化】
- 第7回社会における「大企業」の意味③ 【官僚制】【科学的管理の展開】
- 第8回社会における「大企業」の意味④ 【環境問題】【随伴的結果】
- 第9回社会における「大企業」の意味⑤ 【コーポレート・ガバナンス】【企業倫理】
- 第10回「家」としての日本企業① 人事における日本企業特有の現象【日本企業と従業員】【契約型と所属型】
- 第11回「家」としての日本企業② 日本企業特有の組織原理【階級制】【能力主義】【企業別組合】
- 第12回「家」としての日本企業③ 日本企業の行動様式【日米の株式会社の違い】【企業結合様式の独自性】
- 第13回「家」としての日本企業④ 「家」の概念 【日本企業の独自性】【家の論理】
- 第14回「家」としての日本企業⑤ 今後の日本の経営 【原理と構造】【家社会】
- 第15回総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・60% 小テスト・・・40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキスト該当箇所を読んでおいてください。授業後に該当箇所を再読し、復習しておいてください。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

また、適宜、任意のレポート課題を出します。

また該当箇所の参考文献をよく読んでおいてください。

## 企業と社会 【昼】

### 履修上の注意 /Remarks

状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

### キーワード /Keywords

財・サービス 株式会社 大企業 家の論理 社会的器官

SDGs8. 働きがい・経済成長、SDGs12. 作る・使う責任、SDGs15. 環境保全、等の問題と強く関連する。



# 民主主義とは何か【昼】

担当者名 /Instructor 中井 遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS002F			◎		○
科目名	民主主義とは何か				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

民主主義 / デモクラシー / 民主制とは何か。まずそれは単に選挙で物事を決めるだけの事ではない。選挙は独裁国家でも実施されている。またそれは善なる無謬のイズムでもない。近現代において多くの抑圧や圧政は「民意」や「国民の意思」の美名のもとに執行されてきた（そして「みんなのためだから」「多数決だから」の名のもとに行われる他者への抑圧は我々の日常でも見られる行為である）。民主主義とは強いていえば決定を権威づける一つのメカニズムに過ぎず、社会的実体の一類型でなければ道徳的目的でもない。

では近代的な自由民主主義はいかにして民主主義の害悪を最小化しつつ実際の決定メカニズムとして運用してきたのか。本講義では、理念とデータの両面から検討する。様々な民主体制がある中で、どのような状況においてその決定の品質が保たれたり、そもそも政治的安定性を維持できるのか、様々な先行研究に基づいて講義・検討する。近年の研究は、理念的には優れた制度と思われていたものが実際には劣った現実をもたらしていた（理念とデータにギャップがあった）事なども示している。また、民主主義が何かを知るためには民主主義ではないものが何なのかも知らなければならない。本講義の射程は非民主主義体制にも及ぶ。これらを知ることを通じてこそ、我々は多様な人々の間において適切な集会的決定を下すことが可能となるはずだ。

受講者は本講義を通じて、1) 民主主義を冠する複数の思想や歴史を理解し、特に自由民主主義（リベラルデモクラシー）とそれに付随する基礎的諸概念と効果について、複数の相反する考え方も含め理解し説明できるようになる；2) なぜ民主主義が好ましいのか/好ましくないのか、いかなる状況や領域において民主主義は好ましいのか/あるいは特段優れているわけではないのか、複数の相反する理論や実証結果を整理し説明できるようになる；3) 民主主義下における様々な制度的バリエーションについて説明できるようになり、それが実際の民主政治にいかなる影響を与えるのか、実証的根拠とともに説明できるようになる；4) 非民主主義体制ともいえる独裁制がもつバリエーションも説明でき、それが体制変動・民主化に与える影響を理解し、民主主義体制との違いや独裁制下での選挙がもたらす効果について説明できる；ことが求められる。

本学DP上の到達目標は「民主主義について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている」「民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している」となっており、そのためにも上記の4要件を満たすことが期待され、ま

## 教科書 /Textbooks

指定教科書はない

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 宇野重規 (2019) 『民主主義とは何か』
- 待鳥聡史 (2015) 『代議制民主主義-「民意」と「政治家」を問い直す』中央公論新社
- マクファアソン, C.B. (田口訳 1978) 『自由民主主義は生き残れるか』岩波書店
- ダール, R. (高畠・前田訳) 『ポリアーキー』岩波書店
- 坂井豊貴 (2015) 『多数決を疑う-社会的選択理論とは何か』岩波書店
- エリカ・フランツ (2021) 『権威主義：独裁政治の歴史と変貌』白水社

# 民主主義とは何か【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクションと投票参加について理解する。授業全体の方針や進め方について受講者との間に共通理解をもつ。しかる後に、民主主義の基礎的な制度と見られる、選挙に関して、なぜ人は選挙にいったり行かなかつたりするのか、ライカー-の投票参加理論をもとに理解する。
2. 民主主義と隣接概念(自由主義・共和主義)を理解する。民主政-独裁政の差異と君主政-共和政の差異は理論的・現代的な意味において別物であることを理解する。本来別物の自由主義と民主主義が歴史的経緯によって結びついてきたことを知り、時には自由主義と民主主義が衝突しうることも理解する。そのため現代的自由民主主義は自由をまもる諸制度(cf司法の独立)が必然的に含まれることを理解し、現在の自由民主主義指標(Freedom House, PolityIV)は実際にそれらを含めて世界の民主主義度を計測していることを知る。
3. 民主主義の多義性を理解し、最小限定義を示したダールのポリアーキー概念を学び、それが重要視する「競争」と「包摂」の2次元を理解する。自由で競争があっても、そこに参加できるメンバーが少なければ民主主義とは言えない。V-dem指標を知り、たとえば民主主義の場から女性を排除してきたスイスは民主主義国だろうかといった問題を検討する。
4. 直接民主主義と間接民主主義の関係性を理解する。現代において標準的な代議制民主主義の思想と対抗言説を理解する。間接民主制を擁護するシュンペーターの競争的民主主義観を理解し、他方で強力な対抗言説としての人民民主主義論・ポピュリズム(とそれらがはらむ危険性)について知る。
5. この回より理論を離れて歴史や実証を重視する。こんにちの世界が近現代史上はじめて民主政が多数派となっている事を知り、それをもたらした「第3の波」について学ぶ。ラテンアメリカ、旧共産圏、アジア、世界の様々な地域で一斉に起こった民主化の波は、様々な形態を通じて発生したことを知り、それが定着に成功したり失敗したことがある事を知る。
6. 民主政と独裁政(権威主義体制)を比較検討する。独裁政もまた一定の制度的パフォーマンスをもとに体制維持を合理化していることを知り、民主政と独裁政の間に制度的パフォーマンスの差があるのか、当為の言説からではなく実際のデータに基づいて理解する。経済的成長に関する古典的研究から、ガバナンスにかんする最新の研究まで触れることを通じて、民主政はどのような領域において独裁政より優れているのか/あるいは優れていないのかを理解する。
7. 権威主義体制の下位分類について理解する。リンスの全体主義論・権威主義論を元に、民主政とは言えなくとも一定の政治的多元性が許容されている制度があることを理解する。また、現代の権威主義体制の3分類法(軍・議会/党・個人)を知り、それぞれの特徴と、特に議会を通じた権威主義体制があることを把握する。そこから、選挙は民主主義の専売特許でもなんでもなく、時には独裁体制の強化につながり民主主義を棄損するだけである場合もあることを理解する。
8. 政治体制の変動について理解する。第3の波に限らず、体制変動はいかにして発生するか幅広いデータを通じて理解する。また、権威主義体制下における体制変動とは必ずしも民主主義体制への変動(民主化)を意味しないことや、民主主義を維持することと民主化を達成することは別であることなどを理解する。ムーアの階級構造理論と、経済発展(6055ドル仮説)・格差との関連性についての基礎的な実証分析を理解の補助線とする。
9. 独裁制と民主政を理解したうえで、そもそも民主主義という意味決定手続きがいかにして正当化できるか複数の理論を知る。特に、最大多数最大幸福原理とコンドルセ陪審定理(CJT)について学ぶ。最大多数の最大幸福に基づく正当化は容易に多数派の暴政につながりうること、結果合理性の議論としてはCJTが重要な発想であることをその内容を含めて理解する。ただし民主政の維持という観点から見た際、CJTに対しては批判も存在し、選挙結果の不確実性/戦略性こそが重要だとする議論もあることを紹介する。
10. 民主政下の下位分類としての執政制度について理解する。執政長官をいかにして選ぶかという制度が極めて重要であることを知り、大分類として大統領制と議院内閣制について理解する。この際、日本の教科書的な三権分立の理解には不都合もあることを学ぶ。両執政制度に当てはまらない、半大統領制や首相公選制についても事例を含めて理解する。執政制度の差異は民主主義の維持との関連で非常に激しい議論があり、日本の中央政治と地方政治の理解にも重要であることを把握する。
11. 民主政下の下位分類としての選挙制度について理解する。選挙制度を分類する方法としては、特に定数と議席変換方式が重要であり、多数代表性=小選挙区制と比例代表制=複数選挙区制の基礎的な制度設計ないし制度効果について理解する。実際の選挙結果などをもとにその効果について確認する。特に日本の選挙と民主主義を考える上では、多数代表性&複数選挙区制(いわゆる中選挙区制)の効果の理解は不可欠であり、その制度がもつ理論的な効果と課題について理解する。
12. 民主政下の下位分類としての多数決型とコンセンサス型について理解する。同じリベラルデモクラシーの諸国の中でも、実際の民主政の運用は多様であり、様々な制度や運用の組み合わせによってバリエーションを示している。これを民主政の二つの理念系とその中間とみるLijphartの民主主義理論を学ぶ。実際のデータなどを通じて、世界の民主政のバリエーションがどのような次元で区別でき、どのような位置に置くことができるのか理解する。
13. 多文化社会における民主政の実現可能性について理解する。多数派の政治的意思に基づき政治的な決定と介入を行う民主政が、多文化社会において抱える困難を理解し、そのうえで、現実にも多民族国家でありながら民主政を維持してきた国々の観察から生まれた、コンソシエーション(多極共存型)デモクラシー理論を事例とともに習得する。他方で、本理論も多文化社会の権力分有としては万能ではなく、オルタナティブな議論もあることを理解する。
14. 情報通信技術の発展と民主主義の関連性について考える。広義のE-デモクラシーのうち、主に3つの課題について理解する。1つ目は特にSNSの発展が現在そして未来の民主主義に与える影響であり、楽観論と悲観論の双方を理解する。2つ目はインターネット投票であり、先行事例としてのエストニアの状況の解説とその問題点、日本や世界の状況について知る。3つ目はいわゆるAIと民主主義の問題であり、古典的なテクノロジーと民主主義の緊張関係の延長としてこの問題をとらえる視点を涵養する。

# 民主主義とは何か【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

15. ここまでの授業の整理として各授業内容の定着を図る。授業スピードの進展の調整・授業の休講/補講・授業内での合同イベントの実施など、イレギュラーがあった場合の調整としてもこの回(に相当する回)を用いて、調整を行う。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験:100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回において参考文献を授業スライドに提示する。復習やさらなる学習のためにそれを用いる事。また、各回の最後に次回授業のキーワードや前提知識となる単語を示すので、それらについては事前予習してくる事。

さらに、事前事後学習とは単に座学に限られない。本講義で学習した知見をもとに、現実に自らが生まれたり住んでいる国や地方の政治について考えたり、受講者同士で議論を交わしたり、関連するTV報道・新聞記事・ネットメディア報道などを購読して自分なりの意見形成をすることが、きわめて重要な事前事後学習となる。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教養科目ですので込み入った法学・政治学の知識は必要ありません(それがない人を想定して授業を行います)。ただし、高校卒業程度の英語・世界史、中学程度の数学の知見は必要です。これらについては授業において逐一補足しませんので、各自で能力を維持してください。

## キーワード /Keywords

SDG 5. ジェンダー平等 SDGs 16. 平和と公正

# 社会哲学入門 【昼】

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR110F			◎		
科目名	社会哲学入門		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

社会哲学とは、平たく言えば、「社会って何なの？」に答える学問です。哲学の一つのヴァリエーションです。西洋の哲学は、2500年以上も前に始まったと言われます。そのあいだに、社会の形もさまざまに変化してきました。今日の社会は、大戦以前の社会とは違いますよね。社会の変化に応じて、哲学が提示する答え（理論）も変化してきました。それでは、これまでにどんな社会があり、哲学はそれをどのように説明してきたのでしょうか？この問いを考えていくのが本講義です。

今年度は、まずは、社会の構成要素である「人間」と「共同体」を、西洋哲学の歴史を辿りつつ考えます。これは基礎編ですね。次に、現代に目を移し、現代に特有の社会的な事象とそれに答える哲学的理論（ジェンダー論、フェミニズム論、優生思想、正義論など）を見ていき、私たちが直面する社会のあり方とそこに潜む問題を考察します。こっちは、応用編です。最後に、COVID(コビット)-19との関係の中で私たちの社会は今後どうあるべきか、どこへむかうのか、どうなったらいいのか、一緒に考えていきたいとも思います。

### 【到達目標】

《思考・判断・表現力》哲学的課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

\* この講義は、哲学や倫理学、社会学とも密接な関係にあるので、関連講義を合わせて履修すると理解が深まります。ちなみに、僕が担当する講義には、「倫理思想史」があります。

## 教科書 /Textbooks

特定の教科書はありません。テキストを使用する場合は、授業内で配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- プラトン『国家』(上下), 岩波文庫
- 重田園江『社会契約論 ホッブズ、ヒューム、ルソー、ロールズ』, ちくま新書
- S. サリー『ジュデイス・バトラー』, 青土社
- 米本昌平等『優生学と人間社会』, 講談社現代新書
- 植村邦彦『市民社会とは何か 基本概念の系譜』, 平凡社新書
- 神島裕子『正義とは何か』, 中公新書

などなど。

\* 授業中にもご紹介します。

# 社会哲学入門 【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン：哲学って何？社会って何？
- 第2回 【古代】人間って何？①：善き生と徳（プラトン、アリストテレス）
- 第3回 【古代】共同体って何？①：支配と民主制（プラトン、アリストテレス）
- 第4回 【中世】人間って何？②：神と被造物（アウグスティヌス）
- 第5回 【中世】共同体って何？②：愛の共同体（アウグスティヌス）
- 第6回 【近代】共同体って何？③：社会契約と国家（ホッブス、ロック、ルソー、カント）
- 第7回 【近代】人間って何？③：自由と権利（カント）
- 第8回 【近現代】人間って何？④：産業の奴隷（マルクス）
- 第9回 【近現代】共同体って何？④：社会主義と資本主義（ハイエク）
- 第10回 【現代】公共性って何？：プライベートとパブリック（ハーバーマス）
- 第11回 【現代】正義って何？：平等と格差（ロールズ）
- 第12回 【現代】フェミニズムって何？：男女の平等と差異
- 第13回 【現代】ジェンダーって何？：ジェンダーとセックス（バトラー）
- 第14回 【現代】優生思想って何？：命の法的管理
- 第15回 【現代】COVID-19と共にどう生きたらいいの？

\*（ ）の中は、その回に扱う主な思想家ですが、それ以外の思想家も扱います。書いてないところは、その理論全体をおさえることを目標にしています。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の小テスト 45%
- （オンデマンドの場合は、Googleフォームを使用します。）
- ・ 期末テスト 55%

\* 授業を5回欠席した場合は、テストを受けても成績評価の対象とはなりません。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 各回の最後に、その次の回に関連するキーワードをお伝えしますので、それについて辞典・事典やネットで調べてきましょう。僕のところに質問に来てもいいです。このキーワードに関連する問題が、小テストでは出題されます。

## 履修上の注意 /Remarks

- ・ 初回は、いわゆるイントロダクション（導入）ですが、講義全体の進め方や成績の付け方についても説明するので、必ず出席してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大人数の講義になり、おそらくオンデマンド講義になると思われませんが、なるべく双方向の講義になるようにしたいですね。哲学は、対話の学問で、一人ではできません、わかりません。一緒に勉強していきましょう。僕は、教員ですが、みなさんのリアクションや質問で学ぶことがたくさんあります（今までそうでしたので）。「教え-教えられる」関係ではなくて、「互いに教え合う」関係になりましょう。みなさんの積極的な参加を楽しみにしています！

## キーワード /Keywords

哲学、倫理学、社会学、社会哲学



# 文化を読む【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科, 河内 重雄 / KOUCHI SHIGE O / 比較文化学科  
生住 昌大 / IKIZUMI MASAHIRO / 比較文化学科, 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター  
佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIT001F			◎		○
科目名	文化を読む		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

文化を研究するうえで、解釈する＝読む行為は、分野をこえる基本的な営みである。本講義では、さまざまな人間の表現をとりあげて、人文的な知見からどのようにそれが読み解けるのかを示していく。表象研究、宗教研究、異文化間教育、文学研究といった専門的知見から、その基本的な知識と方法を提示してみたい。“いま”、“ここ”にいる“わたし”にとって、異文化は時空をこえてひろがっている。そのことに鋭敏になるための気づきを用意するので、受講者は文化を読み解く柔軟な視点・姿勢を獲得してほしい。

### ◎表象

人間は情報を共有するために様々なメディアを通じた表現活動をおこなう。本講義ではそれを、表象(representation)とよび、理解と誤解の源泉として位置付けてみよう。本講義では、イメージとして生み出される表象をとりあげて、歴史社会的な文脈のなかで読み解いてみたい。

### ◎宗教

宗教は文化の重要な構成要素であり、人間社会の価値観と密接な関係にある。我々にとってなじみ深い神道を取り上げ、他宗教との比較の観点を交えながらわかりやすく講義したい。

### ◎異文化間教育

文化というもの、見える文化と見えない文化があり、本人が自覚しにくい見えない文化に気づくことが異文化理解の始まりである。異文化の理解があつてはじめて、外国語のコミュニケーション能力が育つ。

### ◎日本近現代文学および出版文化

日本の文学・出版物とはいえ、読めばわかるというものではない。明治・大正・昭和時代ともなれば、もはや異文化である。同時代の文化について学びながらテキストと対話する基本姿勢を身につけてもらいたい。

### (到達目標)

【思考・判断・表現力】文化について多様な考え方を理解し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

## 教科書 /Textbooks

特定のテキストは使用しない。授業担当者が必要に応じて資料等を配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業担当者が適宜指示する。

# 文化を読む【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 表象を読む①描かれた〈日本人〉-明治期風刺画をとりあげて-
- 第3回 表象を読む②描かれた〈日本〉-ジャポニズムの流行をとりあげて-
- 第4回 表象を読む③演じられた〈日本人〉-オペラ『蝶々夫人』をとりあげて-
- 第5回 神社の成立① 神社建築成立以前の神社
- 第6回 神社の成立② 神社の成立年代
- 第7回 日本の神 ー神教との比較を通して
- 第8回 罪・戒律・禁忌
- 第9回 異文化を理解することは可能なか？（見えない文化と価値観）
- 第10回 バイリンガルはうらやましい？（「移動する子ども」のライフストーリー）
- 第11回 異文化トレーニング（他者との出会いを捉え直す）
- 第12回 安部公房「棒」の解釈
- 第13回 乙ー「陽だまりの詩」の解釈
- 第14回 幕末・明治の出版物（西南戦争風刺画を知る）
- 第15回 幕末・明治の出版物（西南戦争風刺画を読み解く）

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート=100%（表象、宗教、異文化間教育、文学に関する4つのレポートすべてを提出しなければ、評価の対象とはならない）  
各回において、課題コメントの提出によって出席（視聴）を確認する。提出状況は成績に加味される。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習については、授業担当者が講義中に指示する。  
事後学習は、各回の授業内容の復習を行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

本講義は録画オンデマンドによる遠隔授業を予定している。講義回によっては、講義方法が変更される場合があるが、その際にはmoodleにて告知する。  
修正登録による受講者は、必ずさかのぼって講義を視聴してコメントを提出すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

履修等に関する質問は、コーディネーター：真鍋までメールで質問すること。  
講義内容に関する質問は、各回の授業担当教員に質問すること。

## キーワード /Keywords

表象、メディア、宗教、異文化、日本近現代文学

# 芸術と人間【昼】

担当者名 /Instructor 真武 真喜子 / Makiko Matake / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR006F			◎		○
科目名	芸術と人間		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

20世紀後半から現在まで、生き存在し活躍する芸術家の人物像に焦点をあて、その活動する時代背景や社会との関係を浮かび上がらせ、また美術の歴史の中での位置を確認し、同様の主題によって広がる同時代の動きにつなげてみる。  
毎回一人のアーティストを選び、作品や展覧会活動を追って紹介しながら、美術一般や現代社会との関係を探り、表現の原動力となるものを考察する。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】現代社会と芸術の関係性について多様な考え方を理解し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】芸術に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 「現代アート事典 モダンからコンテンポラリーまで...世界と日本の現代美術用語集」  
美術手帖編集部 美術出版社 2009
- 「現代美術史日本篇 1945-2014」著・中ザワヒデキ アートダイバー 2014
- 「アート・パワー」現代企画室 ポリス・グロイス著 石田圭子ほか訳 2017
- 「現代アートとは何か」河出書房新社 2018年 著・小崎哲哉

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 浜田知明 戦争の目撃者 戦争画と現代美術における反戦・反原発主題の作家と作品
2. ボルトンスキー「暗闇のレッスン」で生と死を見つめる
3. ジャン・デュビュッフェ ART BRUTの世界を開いて
4. 寺山修司 劇的想像力について
5. 高松次郎 存在を見つめる芸術表現
6. フランク・ステラ ミニマルからプロジェクトまで
7. ロバート・スミソン 大地の改造計画
8. 青木野枝 鉄と生きる 鉄と遊ぶ
9. ソフィー・カル フィクションとしての写真
10. 白川昌生 生涯にわたるマイナーとして
11. 山口圭啓介 原発に抗する
12. ヤノベケンジ 失われた遊園地
13. ナデガタ・インスタント・パーティ 人々を巻き込むプロジェクト
14. 会田誠 道程
15. Chim↑pom 世界を公共空間として認識すること

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- 小テスト 2回 50%
- レポート(学期末) 40%
- 日常の取組(出欠など) 10%



# 芸術と人間【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (1)自主練習を行い、授業の内容を反復すること。
- (2)随時、課題を学習支援フォルダに挙げるので、参照し準備すること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

小テストやレポートは、授業の内容を把握しているかどうかよりも、むしろ授業で得た知識を自身の関心においてどのように展開したが、また、展開させたいか、を問うものである。

近隣の展覧会を見て回るなど、日常的にも美術の環境に親しんでいただきたい。

## キーワード /Keywords

アートと社会、プライベート/パブリック、プロジェクト

# 現代正義論 【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR003F			◎		
科目名	現代正義論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、現代正義論の流れを概観する。次に、現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題をとりあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題をとりあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】現代社会における正義の問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』(早川書房、2010年)
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』(早川書房、2010年)
- 深田三徳、濱真一郎『よくわかる法哲学・法思想 第2版』(ミネルヴァ書房、2015年)
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』(勁草書房、2006年)
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』(創文社、1995年)
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』(講談社、1997年)
- 瀧川裕英、宇佐美誠、大屋雄裕『法哲学』(有斐閣、2014年)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ~ 本講義の概観
- [ 第3回~第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法) ]
- 第3回 脳死・臓器移植① ~ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ~ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ~ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ~ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ~ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ロールズとノージック
- 第10回 現代正義論③ ~ ノージックのリベタリアニズム
- 第11回 現代正義論④ ~ サンデルの共同体主義
- 第12回 現代正義論⑤ ~ 共同体主義【論争】
- 第13回 現代正義論⑥ ~ アマルティア・センの正義論
- 第14回 現代正義論⑦ ~ センとロールズ・ノージック
- 第15回 まとめ

# 現代正義論 【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、当該回に扱うテーマについて、自ら予習をしておくこと。授業の後は、各回の講義で配布したレジюмеや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解の役にたつと思います。

## キーワード /Keywords

SDGs10. 不平等をなくす SDGs16. 平和と公正 ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

# 情報表現【昼】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF230F		○	◎	○	
科目名	情報表現		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、自分自身が伝えたい情報を表現するための知識や技術を習得することである。自分の想いを一方的に伝えるだけでなく、他者の存在を意識して表現することが重要である。このため、本授業では、個人ワークを行いながら、以下の2点の習得を目指す。

- ・プレゼンテーションやロジカルシンキング、スライドデザインなどに関する学びや疑問などを具体的に表現することができる。
- ・プレゼンテーションソフトを活用して、伝えたい情報を分かりやすく表現することができる。

(到達目標)

【技能】情報を適切に発信する技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 話し方や書き方1【要約】
- 3回 話し方や書き方2【PREP】
- 4回 考え方：ロジカルシンキング1【課題発見】
- 5回 考え方：ロジカルシンキング2【原因分析】
- 6回 プレゼンテーション1【Power Point】
- 7回 プレゼンテーション2【発表】
- 8回 情報の収集1【検索】【信頼性】
- 9回 情報の収集2【ドメイン名】
- 10回 情報の整理【プロット】【ストーリー】
- 11回 情報の表現【デザイン】【レイアウト】
- 12回 情報の発信1【発表者】
- 13回 情報の発信2【スライド】
- 14回 振り返り
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で実施する課題や振り返りレポートなどへの取り組み... 60%  
プレゼンテーションソフトPowerPointを用いた課題提出... 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に、それまでの授業内容について振り返っておくこと。授業終了後には、授業中に学んだことをノートにまとめて、課題や振り返りレポートなどを締め切りまでに間に合うように提出すること。課題は、プレゼンテーションソフトPowerPointを用いて実施するものもある。

## 情報表現【昼】

### 履修上の注意 /Remarks

この授業を受講する場合は、「アカデミック・スキルズ」を履修しておくことが望ましい。大学で対面授業が実施できる場合は、授業中にグループディスカッションや発表を行ってもらうこともある。ただし、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もある。詳細は、授業中に説明する。なお、受講希望者多数の場合、受講者数調整を実施し、受講可能な学生を決定する。詳細は、授業開始前に掲示にて説明する。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ほぼ毎回、振り返りレポートを提出してもらい、受講生の質問や意見を反映させながら、授業を展開する。このため、積極的に授業に参加して欲しい。また、実際にコンピュータを操作して作成する課題もある。その際には、授業時間外に積極的に取り組むこと。受講生の理解度に応じて、授業計画や授業内容を変更することがある。その場合は、授業中に説明する。

### キーワード /Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、スライドデザイン

# 倫理思想史 【昼】

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR005F			◎		
科目名	倫理思想史				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

倫理学って何でしょうか？まず、倫理学は、考える学問である哲学の一分野です。では、何を考えるのか？それは、私たちの行動や振る舞い、そしてその善さや悪さです。少し専門的に言えば、倫理学とは、私たちが行為する際の規範や義務、行為の指標となる善悪の指針、あるいは振る舞いのために身に着けるべき性格などを探究する学問です。みなさんは大切な約束をやぶり罪悪感を覚えたことがあるでしょう。なぜ約束をやぶることは悪いのか（あるいは、なぜ約束を守るべきなのか）、倫理学はそんな問いに答えようとしています。

倫理学の始まりは、古代ギリシアにあると言われ、その後も西洋を中心に発展してきた学問で、約2500年もの歴史があります。本講義では、その歴史を踏まえた上で、基礎的な倫理学を、いくつかの種類（義務論、功利主義、徳倫理学、メタ倫理学）に分類して紹介します。つづいて、現代社会において私たちが直面している倫理的（道徳的）問題を考察する応用倫理学を紹介します。応用の倫理学は、そのまま「応用倫理学」と呼ばれ、安楽死／尊厳死、中絶、環境破壊、ケアの問題などのより身近な問題を扱います。さまざまな行為の原理を知ってもらい、より善い人生を歩む糧にさせていただくことが、本講義の目的となります。

### 【到達目標】

《思考・判断・表現力》倫理思想史における課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

\* この講義は、哲学や倫理学、社会学とも密接な関係にあるので、関連講義を合わせて履修すると理解が深まります。ちなみに、僕が担当する講義には、「社会哲学入門」があります。

## 教科書 /Textbooks

特定の教科書はありません。テキストを使用する場合は、授業内で配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- ・ 柘植尚則編『入門・倫理学の歴史 24人の思想家』, 梓出版社
- ・ 柘植尚則『プレップ倫理学』, 弘文堂
- ・ ○中島義道『悪について』, 岩波新書
- ・ 品川哲彦『倫理学入門-アリストテレスから生殖技術、AIまで』, 中公新書
- ・ 見玉聡『実践・倫理学: 現代の問題を考えるために』, 勁草書房

などなど。

\* 授業中にもご紹介します。

# 倫理思想史【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション：倫理学って何？
- 第2回 【基礎】義務論①：多数者のために一人を殺すべきか？（トロッコ問題）
- 第3回 【基礎】義務論②：無条件の義務（カント）
- 第4回 【基礎】功利主義①：幸福とは何か？（ハチソン、ベンタム、ミル）
- 第5回 【基礎】功利主義②：選好功利主義（ヘア）
- 第6回 【基礎】徳倫理学①：徳とは何か？（プラトン、アリストテレス）
- 第7回 【基礎】徳倫理学②：善い人間と善い社会（マッキンタイア）
- 第8回 【基礎】メタ倫理学：善さとは何か？（ムーア）
- 第9回 【応用】討議倫理学：コミュニケーションと倫理（ハーバーマス）
- 第10回 【応用】生命医療倫理学①：いつから人間になる？（中絶、ES / IPS細胞）
- 第11回 【応用】生命医療倫理学②：いつまで人間でいられる？（認知症、安楽死 / 尊厳死）
- 第12回 【応用】環境倫理学①：人間中心主義と自然中心主義（クレプス、アービツヒ、ネス）
- 第13回 【応用】環境倫理学②：動物の権利（シンガー、ヌスパウム）
- 第14回 【応用】ケアの倫理学①：道徳とジェンダー（ギリガン）
- 第15回 【応用】ケアの倫理学②：ケアは誰が担うべきなのか？（フェミニズム、ジェンダー論）

\* ( ) の中は、その回に扱う主な思想家や問題です。書いてないところは、その理論全体をおさえることを目標にしています。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の小テスト 45%
- ( オンデマンドの場合は、グーグルフォームを使用します。 )
- ・ 期末テスト 55%

\* 授業を5回欠席した場合は、テストを受けても成績評価の対象とはなりません。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 各回の最後に、その次の回に関連するキーワードをお伝えしますので、それについて辞典・事典やネットで調べてきましょう。僕のところに質問に来てもいいです。このキーワードに関連する問題が、小テストでは出題されます。

## 履修上の注意 /Remarks

- ・ 初回は、いわゆるイントロダクション（導入）ですが、講義全体の進め方や成績の付け方についても説明するので、必ず出席してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大人数の講義になり、おそらくオンデマンド講義になると思われませんが、なるべく双方向の講義になるようにしたいですね。哲学は、対話の学問で、一人ではできません、わかりません。一緒に勉強していきましょう。僕は、教員ですが、みなさんのリアクションや質問で学ぶことがたくさんあります（今までそうでしたので）。「教え-教えられる」関係ではなくて、「互いに教え合う」関係になりましょう。みなさんの積極的な参加を楽しみにしています！

## キーワード /Keywords

哲学、倫理学、社会学

# 言語・認知・コミュニケーション【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科  
松田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程, 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター  
植田 正暢 / UEDA Masanobu / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIN210F			◎		
科目名	言語・認知・コミュニケーション				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

言語の習得やコミュニケーションにおける処理はどのように行われるのか。特に、それらはヒトの他の認知能力（視覚、聴覚）や活動（記憶、認識）と同じなのか。また、語彙や構文はどのようにして私たちの頭の中に蓄えられ、用いられるのか。これらの問いについて、言語学(特に生成文法理論と認知言語学)、認知科学、心理学、生物学の側面から学際的に考えていきます。

(到達目標)

DP3 思考・判断・表現力

言語と認知、コミュニケーションの課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

\* 本授業は多くの履修生が想定されるため、オンライン授業で行います。

## 教科書 /Textbooks

配布資料

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業時に紹介

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実際の日程により順番が変わる可能性があります。第1回授業時配布の予定表を参照して下さい。

まとめ(担当者によるパネル・ディスカッション)

- 第1回 序・講義の進め方・担当者紹介(漆原・全員)
- 第2回 ことばはどのように身につけられるのか(言語習得)(漆原)
- 第3回 ことばはどのように処理されるのか(言語脳内処理・失文法)(漆原)
- 第4回 コミュニケーション行動の初期発達過程(税田)
- 第5回 発達の障害とコミュニケーション(税田)
- 第6回 コミュニケーションにおける発達支援(税田)
- 第7回 ヒューマンエラー(松田)
- 第8回 アフォーダンスとシグニファイアー(松田)
- 第9回 脳と心のなりたち(脳のはたらきを支配する遺伝子)(日高)
- 第10回 ことばはなぜヒトに特有なのか(言語と遺伝子)(日高)
- 第11回 モノの見方と言語表現(認知意味論)(植田)
- 第12回 モノの切り取り方と分類(カテゴリー論)(植田)
- 第13回 比喩と理解(植田)
- 第14回 ことばとジェンダー(漆原)
- 第15回 まとめ:担当者によるパネル・ディスカッション(全員)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 20% レポート 16% x 5 = 80%

(すべての教員の課題を提出しない限り評価不能(-)となります。)



# 言語・認知・コミュニケーション【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：担当教員あるいはコーディネーターが指示した文献等の講読  
事後学習：担当教員ごとの課題・レポートの提出

## 履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。対面授業の場合は私語をしないことを心に銘じること。  
\* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 戦争論 【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS210F	○		◎		○
科目名	戦争論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

人類の歴史にとり、戦争とは何なのかを深く考えるのがテーマです。戦争形態の変化を歴史の進行に沿って考察していきます。

コロナ対応で、完全に動画配信となります。退屈にならないよう、動画作成に当たって、しっかりと編集カットを行い、BGM、テロップ付きのYouTube仕様で配信するつもりです。(シミュールです。)

### 到達目標

- 【知識】人間と戦争との関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断】人間と戦争との関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】戦争に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

なし。レジュメを用意します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし。適宜指示。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回45~60分程度(予定)の動画を視聴してもらいます。以下、昨年度に配信した動画タイトルのリストです。今年度は、多少整理したり、よりパワーアップした新作も作りたいです。

- 1 ガイダンス / 戦争から何を学ぶのか
- 2 ホモサピエンスと戦争の起源その1(サルからヒトへ)
- 3 ホモサピエンスと戦争の起源その2(ネアンデルタール人、文明化、戦いの始まり)
- 4 「戦争」の始まり(国家の誕生と絶対主義)
- 5 フランス革命と近代戦
- 6 ナショナリズムの時代と戦争
- 7 厭戦感情と世界大戦
- 8 総力化した戦争
- 9 総力化した戦争その2(塹壕戦の恐怖)
- 10 イデオロギー、プロパガンダ、戦争
- 11 アメリカ的戦争観の影響
- 12 全面化した戦争
- 13 企画動画
- 14 原爆開発と投下
- 15 核兵器と抑止

## 成績評価の方法 /Assessment Method

1~3回に一度、小テストを実施し、その合計点から成績評価を行う。  
小テスト(8回)100%、ただし、小テスト実施回数は若干前後する可能性がある。

# 戦争論 【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

掲示板を用意するので質問はそちらに書き込んでください。またYouTube配信なので、コメント欄に書き込むこともできます。

頻繁に小テストがあるので、動画を何度も見てもらえると事後学習になりますし、勝手に授業とは関係なく「関連動画」が表示されますので、それも参考にしてください。

## 履修上の注意 /Remarks

通信環境を整えてください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく退屈しないように、動画内容を工夫したいと思います。

## キーワード /Keywords

# 異文化理解の基礎【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ANT110F	○		○	◎	
科目名	異文化理解の基礎		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。（おそらく大部分が）北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではごくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。文化に関する日常的な知識は、応用的なものばかりなので、基礎をしっかりと学び、総合的な理解力、思索力を身につけることをめざす。

毎回、受講者から事前に提出された課題から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入として広義を進める。本講義は、個々の文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既存概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身につける手掛かりを学んでほしい。

（到達目標）

【知識】異文化を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】異文化理解に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】他者と協働して、異文化理解に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

## 教科書 /Textbooks

教科書はありません。

予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。なお、講義に関する映画（有料動画の場合もあります）を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません（観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書も用いた課題などは指示します）。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

# 異文化理解の基礎【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：世界を理解するてがかりとしての文化

第I部 文化の基礎としての家族

第2回 伝統的家族の多様性

第3回 家族観の変容と近代

第4回 親族という認識

第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張

第6回 ジェンダーと伝統文化

第7回 文化相対主義の考え方

第8回 伝統文化について：構築主義と本質主義

第9回 レポートの書き方と課題レポート①の説明

第II部 文化と世界観

第10回 儀礼と世界観

第11回 宗教とコミュニティ

第12回 さまざまな信仰心

第13回 不幸への対処としての呪術

第14回 政教分離と世俗化

第15回 課題レポート①の解説と課題レポート②の説明

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート(2回)50%、毎回の授業課題 50%

毎回の授業課題は、提出時期、授業への貢献によって得点に変化する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 毎回何らかの課題があります。計画的に取り組みましょう。
- ・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』(いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能)などの関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。
- ・ 講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。

## 履修上の注意 /Remarks

- ・ 詳しい評価方法や電子書籍の閲覧方法などは第一回の講義で説明します。
- ・ 提出課題において剽窃などの不正が発覚した場合、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。
- ・ 遠隔授業の場合はオンデマンド配信となりますが、課題は提出時期によって得点が異なります。計画的に受講しましょう。
- ・ 受講にあたっては、基本的なPC操作環境が整っていることが望ましいです。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

〇〇人に××を贈るのはタブーである、といった個別具体的な異文化理解のマニュアルは、必要な時に努力すればおそらく入手できます。この授業では、文化が異なるとはそもそもどういうことかについて、もっと根本に立ち戻って考えたいと思います。あなたは、人間関係をマニュアルで対応しようとする人と、あなた個人の特性を理解しようとする人と、どちらを友人として信頼しますか？

## キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係、SDGs10 不平等をなくす

# 人権論 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOC004F			○	◎	○
科目名	人権論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

「人権」といえば「特別なもの」というイメージを抱くかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無自覚的に他者の「人権」を侵害しているということがある。

本講義では「人権」についての基本的な概念、現存する人権課題やその社会的背景を考察した上で、自分にとっての人権とは何か、我々の社会が抱える人権課題とは何かについて共に考えていきたい。

(目標)

【思考・判断・表現力】人権に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につける。

【コミュニケーション力】他者と協同して、人権に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につける。

【自立的行動力】人権に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有する。

## 教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / (公社) 福岡県人権研究所発行 ¥1000)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要な参考書は授業時に紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 「自分にとっての人権課題」 オリエンテーション / 自分と人権との関わりを考える。
- 2 「人権とは何か」 人権とは何かについて解説する。
- 3 「人権獲得の歴史」 人権獲得の歴史について近代革命を中心に解説する。
- 4 「世界人権宣言と人権条約」 世界人権宣言採択の歴史的経緯や意義などを解説する。
- 5 「平和と人権」 戦争・平和についての解説。
- 6 「ハンセン病について」 ハンセン病についての認識を深めることや元患者を取り巻く社会の状況を解説する。
- 7 「教育と人権～識字問題」 読み書きができないことがもたらす人権侵害などを解説する。
- 8 「教育と人権～夜間中学」 教育を受ける権利の保障とは何かを事例を交えて解説する。
- 9 「部落問題について」 現存する部落問題の事例から部落問題とは何かを解説する。
- 10 「部落問題について」 当事者の思いを聞き、部落差別とは何かを考える。
- 11 「在日外国人と人権課題」 在日外国人の現状と人権課題を解説する。
- 12 「在日コリアンについて」 在日コリアンの歴史、現状、課題などを解説する。
- 13 「障害者と人権」 障害者の立場からみる人権課題を知る。
- 14 「アジアの人権状況」 アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
- 15 「まとめ」 現代社会の人権課題に自分たちはどう向き合うのか、共に考える。

※5～14については、状況により順序が入れ替わる場合あり。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業に取り組む姿勢【50%】と前期末試験（またはレポート）【50%】により評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 新聞、テレビ、ネットなどを通して、私たちの社会で起きている様々な人権課題に関心を持ち、毎回のコメント用紙に反映させることが望ましい。
- ・ 教科書及び配布資料は熟読すること。

## 履修上の注意 /Remarks

私語は厳禁、授業態度は重視する。  
出席率7割を満たした学生のみ前期末試験の受験（またはレポート提出）を許可する。  
代筆や代返などを含む不正行為を行った場合は、即座に出席が停止され、単位取得は不可となる。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分と他者の学ぶ権利を意識して授業に取り組んでほしい。

## キーワード /Keywords

「すべての人」「人間らしく生きる」  
「SDGs 4 質の高い教育を」「SDGs 10 不平等をなくす」「SDGs 16 平和と公正」

# ジェンダー論【昼】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GEN001F			○	◎	○
科目名	ジェンダー論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

この科目では、なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、「男は仕事、女は家庭」は自然な役割なのか、なぜ政治学や法学、科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのかなど、日常的に「当たり前」となっていることをジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点および理論、ならびに社会や文化に潜むジェンダー・ギャップを可視化するツールとしての統計を読み・活用する方法を学びます。

### 【到達目標】

- 【思考・判断・表現力】ジェンダーに関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【コミュニケーション力】他者と協働して、ジェンダーに関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
- 【自立的行動力】ジェンダーに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

牟田和恵編『改訂版 ジェンダー・スタディーズ—女性学・男性学を学ぶ』（大阪大学出版会、2017）2,640円

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編『岩波女性学辞典』（岩波書店、2002）
- (○) マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』（明石書店、1997）
- R.W. Connell, Gender: Short Introduction. Polity, 2002.



# ジェンダー論 【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ジェンダー論を学ぶためのキー概念【セックス】【ジェンダー】【セクシュアリティ】【家父長制】  
【ホモソーシャル】【ホモフォビア】【ミソジニー】【ジェンダー統計】
- 2回 日本語表現に潜むジェンダー【女言葉】【男言葉】【ジェンダーバイアス】【女子力】
- 3回 ジェンダー・リテラシーで読み解く文学【カノン】【権力】【公と私】【眼差し】【当事者性】
- 4回 現代アートとジェンダー【制度】【主体】【客体】【オリエンタリズム】
- 5回 ワーク・ライフ・コンフリクト問題【男らしさ】【性別役割分業】【ワーク・ライフ・バランス】
- 6回 多様なライフスタイルと家族【近代家族】【コレクティブ/シェア・ハウジング】【ゲイ・ファミリー】  
【ステップ・ファミリー】【シングルペアレント・ファミリー】【シングル化】
- 7回 セクシュアリティと日本社会【ジェンダー化される身体】【ロマンティック・ラブ・イデオロギー】  
【リップロダクティブ/ヘルス・ライツ】【性のダブル・スタンダード】【性の商品化】【JKビジネス】
- 8回 「性別」は「女と男」ではない【ワン・セックス・モデル】【ツウ・セックス・モデル】【多様な性】
- 9回 教育とジェンダー【近代化】【国民国家】【ジェンダー・ギャップ】【隠れたカリキュラム】【理系女】
- 10回 年金とジェンダー【片働き・共働き】【専業主婦優遇制度】
- 11回 高齢者介護とジェンダー【ケアの担い手】【ケアの有償化】【介護保険制度】【ヤング・ケアラー】
- 12回 刑法の国際化とジェンダー【女性に対する暴力】【セカンド・レイプ】【売買春】【人身取引】  
【国際人権法】
- 13回 「従軍慰安婦」問題【戦争とジェンダー】【暴力の連続体】【女性の権利は人権である】
- 14回 女性差別撤廃条約と人権【ジェンダーの解消】【アフターマティブ・アクション】【個人通報制度】
- 15回 グローバル化とジェンダー【経済格差の拡大】【移住労働】【性別役割分業の国際的再配置】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...50%、期末試験...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、授業の各回に予定されている教科書の章を読み、その内容に関連した日常生活の事象例を探して、授業に臨むこと。事後学習としては、発展的学びのために教科書の各章末尾に紹介されている図書のうち関心のあるものを読んでみる、期末課題の作成に向けて文献・資料等を探して読むこと、レポートの構想を練ることなど、計画的に準備を進めていくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

- (1)ジェンダー関連の法制度改正・整備等の動きを新聞等で把握しておくこと。
- (2)メディア表現を含め日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、ジェンダーにセンシティブな感覚を身につけ、レポートおよび期末試験に反映させること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

「セックス」「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」「ジェンダー統計」

「SDGs 5. ジェンダー平等、SDGs 10. 不平等をなくす」

# サービスラーニング入門Ⅰ【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR110F	○			◎	○
科目名	サービスラーニング入門Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

本講義は地域共生教育センター担当科目として開講します。  
地域貢献活動（ボランティア活動）に参加するための入門科目として、主に以下の点を目的とします。

- ・ サービス・ラーニングに向けた基本的知識の学習
- ・ サービス・ラーニングに向けた実践的方法論の習得
- ・ 地域活動に参加している学生との交流を通じた地域活動に対する参加意欲の向上
- ・ 地域活動の実践と学び

この講義の到達目標は以下のとおりです

- 【知識】 サービス・ラーニングを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【コミュニケーション力】 社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。
- 【自立的行動力】 地域貢献活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。  
講義時に適宜紹介します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義時に適宜紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 サービス・ラーニングの考え方
- 第3回 サービス・ラーニングとボランティア
- 第4回 サービス・ラーニングを行う理由
- 第5回 サービス・ラーニングとしての地域貢献活動（事例紹介）
- 第6回 サービス・ラーニングを通じた自己の学びと成長（先輩登壇）
- 第7回 サービス・ラーニングと地域の変化
- 第8回 これからの社会とサービス・ラーニング
- 第9回 日本における社会貢献活動の歴史
- 第10回 経験学習について
- 第11回 サービス・ラーニングの実践に向けて
- 第12回 良き市民としてのサービス・ラーニング
- 第13回 受講生による実践報告（1）
- 第14回 受講生による実践報告（2）
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

「第一回講義時のレポート+実践報告最終レポート」（55%）+「授業内での小テスト+授業への取り組み」（45%）=合計100%評価

# サービスラーニング入門I【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「サービス・ラーニング」を実際に行うにあたっては、事前の学習、綿密な準備、計画を必要とします。講義内では、その回の内容に関連した復習用の自習課題（関連する映像資料や書籍・新聞記事などのレビュー）を提示しますので、次回の講義までに各自行ってきてください（自習時間の目安は60分程度）。受け入れ先についての下調べや打ち合わせのための準備もそうした作業に含まれます。また「サービス・ラーニング」後についても、その活動内容の記録、報告書の作成、および、自らの振り返りなどが必要になります。

## 履修上の注意 /Remarks

本科目は受講者による「サービス・ラーニング」への参加（ボランティア活動の実施）を前提としています。受講生は、自ら「サービス・ラーニング」（ボランティア）を受け入れてくれる団体を探し、受け入れの交渉を行ない、その後、実際に活動をしてもらいます。このような意味から、本講義では受講者の積極性や自発性を必要とします。そのため、授業の第一回目に、本科目を受講する理由や学びに向けた思いなどを「事前レポート」（1500字程度）として書いてもらい、それを第二回目の授業の際に提出してもらいます。このレポートの提出は単位取得のための必須条件としています。このように本科目では受講生の積極的な参加意欲が必要となりますので、履修の際はご留意下さい。

さらに本講義では、講義時間外の学習・作業も多くあります。受け入れ先の調査や面談のためのアポイント、学習計画書の作成や実習に向かうための事前準備などです。こうした課題をこなしつつ、講義と実習の両方に真摯に取り組むことが必要になります。詳細は第一回のガイダンスの際に説明しますので、必ず出席してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は全学組織である地域共生教育センターが提供する科目です。この科目をきっかけとして地域活動へ参加していただきたいと思います。また、この講義は第二学期開講の「サービス・ラーニング入門II」と連動していますので、続けて履修されることを望みます。

## キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び

# サービスラーニング入門Ⅱ【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR180F	○			◎	○
科目名	サービスラーニング入門Ⅱ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターが担当する科目です。この授業の目的は、受講生が実際に地域活動に参加し、その実践をふりかえることでより深い学びを得るところにあります。授業では、各学生が自らの参加が参加した「サービスラーニング」の活動内容とそこでの学びを報告し合い、互いの議論を通じて、学習と理解を深めていきます。この授業を通じて多くの学びと気づきをえられることを期待します。

(到達目標)

- 【知識】 サービスラーニングを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【コミュニケーション力】 社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。
- 【自立的行動力】 地域貢献活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

レジメを配布します。  
講義時に適宜紹介します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義時に適宜紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ガイダンス
- サービス・ラーニング概論①( サービスラーニングの理論枠組み )
- サービス・ラーニング概論②( 実践としてのサービスラーニングについて )
- サービス・ラーニングの実践と学び①( 受入先の探索 )
- サービス・ラーニングの実践と学び②( 実践にむけての心構えと準備 )
- サービス・ラーニングの実践に向けて①( 実習先での学習計画の作成・提出 )
- サービス・ラーニングの実践に向けて②( 学習計画書の修正・提出 )
- 計画発表会①
- 計画発表会②
- 実践報告①
- 実践報告②
- 実践報告③
- 実践報告④
- 受講生による振り返り
- まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

「第一回講義時のレポート+実践報告最終レポート」( 55% ) + 「授業内での小テスト+授業への取り組み」( 45% ) = 合計100点評価

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「サービス・ラーニング」を実際に行うにあたっては、事前の学習、綿密な準備、計画を必要とします。  
講義内では、その回の内容に関連した復習用の自習課題( 関連する映像資料や書籍・新聞記事などのレビュー )を提示しますので、次回の講義までに各自行ってきてください( 自習時間の目安は60分程度 )。  
受け入れ先についての下調べや打ち合わせのための準備もそうした作業に含まれます。また「サービス・ラーニング」後についても、その活動内容の記録、報告書の作成、および、自らの振り返りなどが必要になります。

# サービスラーニング入門II【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
共生と協働科目

## 履修上の注意 /Remarks

本科目は、前期の「サービス・ラーニング入門I」と連動しています。そのため講義内容も「サービス・ラーニング入門I」を履修した学生を対象にしたものとなります。ですので、受講希望者は、原則、1学期の「サービス・ラーニング入門I」を履修してから本科目を登録するようにしてください。「サービス・ラーニング入門I」の単位を取得していない学生の履修を認めないわけではありませんが、上述のように「サービス・ラーニング入門I」の内容を踏まえた講義になりますので、「サービス・ラーニング入門II」から履修しようとする学生に対しては、授業のはじめに別途課題を課します。そして、その課題+「サービス・ラーニング入門IIの課題」の両方を提出して、初めて単位を認めるかたちとします。以上の点を十分に留意し履修登録して下さい。

また本講義は、講義時間外の学習・作業も多くあります。受け入れ先の調査やアポイント、学習計画書の作成、実習に出向くための事前準備などです。こうした課題をこなしつつ、講義と実習の両方に真摯に取り組むことを望みます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「サービス・ラーニング入門I」で得られた学びをより深めていくことを目的としています。社会への貢献活動を通じて多くの学びと喜びを得てください。

## キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び、ピアディスカッション

# 市民活動論 【昼】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE001F	○			◎	○
科目名	市民活動論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものか、日本の現実を歴史的に振り返り、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしなが授業を進めて行く予定である。到達目標としては受講生が自分なりの「政治参加」のあり方を柔軟に考えられるようになることである。

「SDGs」の目標の中の「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

(到達目標)

【知識】市民活動を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【コミュニケーション】他者と協働して、市民活動に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【行動力】市民活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業の中で適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
  - 2回 検討の枠組みについて
  - 3回 枠組みを使った民衆行動の分析① - 政治と経済
  - 4回 枠組みを使った民衆行動の分析② - 市民
  - 5回 市民活動の<萌芽>① - 政治と経済
  - 6回 市民活動の<萌芽>② - 市民
  - 7回 市民活動の<再生>① - 政治と経済
  - 8回 市民活動の<再生>② - 市民
  - 9回 市民活動の<広がり>① - 政治と経済
  - 10回 市民活動の<広がり>② - 市民
  - 11回 中間まとめ
  - 12回 北九州市における市民活動のうねり
  - 13回 今日の市民活動の<展開>① - 政治と経済
  - 14回 今日の市民活動の<展開>② - 市民
  - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加姿勢... 40%

期末試験... 60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合があります。その際の積極的な参加が求められます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

この講義は「SDGs」世界を変えるための17の目標に幅広くあてはまるものですが、とくに「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。



# 地域福祉論 【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW011F	○			◎	○
科目名	地域福祉論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

- ・ 地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂 等を含む）について理解する。
- ・ 地域福祉の主体と対象について理解する。
- ・ 地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。

（到達目標）

【知識】 地域福祉を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【コミュニケーション力】 他者と協働して、地域福祉に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】 地域福祉に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

採用予定のテキストが2021年8月頃発行予定のため、授業時に指示させていただきます。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

志賀信夫・ 畠中亨（2016）『地方都市から子どもの貧困をなくす 市民・ 行政の今とこれから』旬報社 1,400円＋税  
福祉士養成講座編集委員会編（2015）『新・ 社会福祉士養成講座〈9〉地域福祉の理論と方法-地域福祉論』中央法規  
難波利光・ 坂本毅啓編（2017）『雇用創出と地域-地域経済・ 福祉・ 国際視点からのアプローチ-』大学教育出版  
その他、適宜授業中に紹介します

## 授業計画・ 内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域福祉の基本的考え方と理念【構造的アプローチ、機能的アプローチ】
- 2回 地域福祉の発展過程1【セツルメント運動、シーボーム報告、グリフィス報告】
- 3回 地域福祉の発展過程2【高齢化、社会福祉八法改正、非貨幣的ニード】
- 4回 地域福祉の理念【人権尊重、社会連帯】
- 5回 地域福祉の理念【ノーマライゼーション、福祉コミュニティ】
- 6回 地域包括ケアと地域共生社会【地域包括ケア、多機関協働、生活困窮者自立支援】
- 7回 地域のとらえ方と福祉圏域【コミュニティ、圏域、アソシエーション】
- 8回 コミュニティソーシャルワークの考え方【チームアプローチ、ニーズ】
- 9回 コミュニティソーシャルワークの方法【地域福祉計画、ケアマネジメント】
- 10回 貧困と地域福祉活動【社会福祉協議会、貧困の連鎖】
- 11回 障害者と地域福祉活動【総合支援法、成年後見制度、QOL】
- 12回 高齢者と地域福祉活動【地域包括支援センター、民生委員、社会福祉法人】
- 13回 女性と地域福祉活動【子育て支援、一人親家庭】
- 14回 子どもと地域福祉活動【児童館、保護司】
- 15回 災害と地域福祉活動【非常時や災害時における法制度、福祉避難所、災害ボランティア】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に指示する課題の提出・・・40% 期末試験・・・60%

## 事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、教科書や参考文献の講義内容に関する箇所を読み込んだり、関連する情報の収集などを行って下さい。

事後学習としては、講義で学んだことを通して、自分の住んでいる地域について調べたり、新聞等の記事に書かれている地域福祉に関するニュースについて調べて考察をしてください。授業中に課題が出た場合は、必ず取り組むようにして下さい。



## 履修上の注意 /Remarks

この科目は、基盤教育科目として開講される科目ですが、地域創生学群において社会福祉士養成課程における科目「地域福祉の理論と方法」に含まれる科目のひとつ（もうひとつは地域創生学群専門科目の「コミュニティワーク論」）でもあります。2019年度以降の地域創生学群入学生で、社会福祉士国家試験受験資格取得を希望される場合は、この科目の履修が必要です。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これからも地域で生活をしていくための教養として、「福祉のまちづくり」について一緒に考えてみましょう。

## キーワード /Keywords

SDGs1.貧困をなくそう、SDGs3.健康と福祉を、SDGs4.不平等をなくす、SDGs11.まちづくり、福祉のまちづくり、少子高齢化、子どもの貧困、コミュニティソーシャルワーク、社会福祉士

# 障がい学【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW001F	○		○	◎	
科目名	障がい学				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、具体的には発達障害である自閉スペクトラム症（障害）を取り上げながら、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。  
障害をテーマとした映画等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。

(到達目標)

【知識】障がいについての様々な捉え方を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】障がいの捉え方に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】他者と協働して、障がいに関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

## 教科書 /Textbooks

特になし。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

随時指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障害」に対するイメージ【障害イメージ】
- 第3回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回：自閉スペクトラム症（障害）とは①自閉症の特性【自閉症】
- 第6回：自閉スペクトラム症（障害）とは②自閉症観の変遷【自閉症】
- 第7回：自閉スペクトラム症（障害）支援方法①構造化の意味【構造化】
- 第8回：自閉スペクトラム症（障害）支援方法②コミュニケーション支援【コミュニケーション】
- 第9回：合理的配慮とは【合理的配慮】
- 第10回：文化モデル的作品DVDの視聴①前半【文化モデル的作品】
- 第11回：文化モデル的作品DVDの視聴②後半【文化モデル的作品】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【3つのモデルとの関連で】
- 第13回：3つのモデルの関係性【3モデルの在り方】
- 第14回：共生社会へ向けての課題、自己への問いとしての障がい学【共生社会】【自己への問い】
- 第15回：質問日。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

障害関連の報道等に常に関心をもって接すること。具体的には、授業で、その都度、支持する。

## 履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs「3.健康と福祉」「16.平和と公正」「17.パートナーシップ」

# 共生社会論 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW200F	○		○	◎	
科目名	共生社会論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探って見る。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げの中で、この問題に迫っていききたい。

(到達目標)

【知識】共生社会の成立を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】共生社会の成立に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】他者と協働して、共生社会に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

## 教科書 /Textbooks

特になし。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

随時指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準
- 第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】
- 第3回：異文化共存の方法【一元論的理解VS.多元論的理解】
- 第4回：異文化共存の阻害要因①【オリエンタリズム関連DVD視聴】
- 第5回：異文化共存の阻害要因②【オリエンタリズムとは】
- 第6回：オリエンタリズムの克服方法【文化相対主義】
- 第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
- 第8回：自閉症とは【自閉症】
- 第9回：自閉症関連DVDの視聴（医療モデル的作品）【医療モデル】
- 第10回：医療モデル的作品の評価【医療モデル的作品の特徴】
- 第11回：自閉症関連DVDの視聴（文化モデル的作品）【文化モデル】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【文化モデル的作品の特徴】
- 第13回：両作品の比較【3つのモデルとの関連で】
- 第14回：共生社会から共活社会へ【共生社会】【共活社会】
- 第15回：まとめ、質問。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

## 履修上の注意 /Remarks

本講義受講に当たっては、「国際学入門」や「障がい学」を既に受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs 「3 . 健康と福祉」 「16 . 平和と公正」 「17 . パートナーシップ」

# 基盤演習I ( 発達障がいセミナー ) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 演習 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES201F			○	◎	○
科目名	基盤演習 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

発達障害に対する理解を深め、支援の在り方について考える。特に自閉スペクトラム症(障害)を取り上げ、演習・グループワーク等もとりまぜながら、共生のあり方を探っていく。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】他者と協働して、設定されたテーマに関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

その都度指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

その都度指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、評価方法の説明【オリエンテーション】
- 第2回：発達障害とは【発達障害】
- 第3回：自閉スペクトラム症(障害)とは【自閉スペクトラム症】
- 第4回：自閉スペクトラム症の理解・対応に関する歴史の変遷【歴史の変遷】
- 第5回：障害の捉え方【文化モデル】
- 第6回：支援の基本(1) 障害特性の理解【障害特性】
- 第7回：支援の基本(2) 構造化の意味と意義【構造化】
- 第8回：構造化演習【演習】
- 第9回：支援の基本(3) コミュニケーション支援の基本的考え方【コミュニケーション支援】
- 第10回：応用行動分析的アプローチ【応用行動分析学】
- 第11回：支援の基本(4) 行動問題への対応【行動問題、冰山モデル】
- 第12回：支援の基本(5) 自己認知・理解プログラム【自己認知・理解】
- 第13回：支援の基本(6) 余暇支援、QOLの充実【QOL】
- 第14回：支援計画の立て方【支援計画】
- 第15回：まとめ～共生社会から共活社会へむけて～【共生社会、共活社会】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

議論、演習等における参加(貢献)度30%。  
課題への対応70%。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテーマとなることながらに関してインターネット等で調べてくる。  
事後学習としては、学習内容をその都度まとめてみる。

## 履修上の注意 /Remarks

1年時に「障がい学」を履修済みであることが望ましい。

# 基盤演習I ( 発達障がいセミナー ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
共生と協働科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs 「3 . 健康と福祉」 「16 . 平和と公正」 「17 . パートナーシップ」

# 基盤演習I【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES201F			○	◎	○
科目名	基盤演習 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センターおよび地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加しながら、様々な知識やスキルの獲得を目指します。また実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

### 到達目標

- 【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自立的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

## 教科書 /Textbooks

適宜指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り

## 成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度(100%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておく必要があります。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。



## 履修上の注意 /Remarks

本演習は地域共生教育センターでの実習となります。  
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。  
地域共生教育センターでは、地域の方々と協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。  
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。  
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。  
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、  
忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。  
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、  
学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。  
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

## キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

# 基盤演習Ⅱ【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES202F			○	◎	○
科目名	基盤演習Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センターおよび地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加しながら、様々な知識やスキルの獲得を目指します。また実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

到達目標

- 【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自立的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

## 教科書 /Textbooks

適宜指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り

## 成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 ( 100% )

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

## 履修上の注意 /Remarks

本演習は地域共生教育センターでの実習となります。  
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。  
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、  
ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。  
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。  
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。  
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、  
忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。  
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、  
学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。  
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

## キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

# 基盤力応用 ( 地域課題解決のためのICT活用 ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
共生と協働科目

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES301F			○	◎	△
科目名	基盤力応用		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

サブテーマ：地域課題解決のためのICT活用

近年のICTは、コンピュータの処理速度の高度化やネットワークの高速大容量化が実現し、社会に急速に浸透してきている。重要なことは、高度化したICTをどのように活用するかを考えることである。

本授業では、ICTの活用方法について、地域貢献という観点から考えていく。すなわち、各地域が抱えている課題を見つけて明確化し、その課題に対してICTをどのように活用して解決していくかについて企画、提案していく。これらの活動を通じて、本授業では以下の項目について学習することを目指す。

- 情報社会を構成しているICTに関する基礎的知識
- 問題・課題解決のための基礎的能力
- 地域の課題に対して論理的にアプローチできる思考力
- 最新のICTを使う利点について他者を納得させる企画力と説得力

( 到達目標 )

【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】他者と協働して、設定されたテーマに関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配付する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目：身の回りにあるICTと情報社会【オリエンテーション】
- 2回目：高精度な位置情報システム【ジオメディア】【GPS】
- 3回目：ICT活用演習(1)：位置情報システムを使った課題解決と評価
- 4回目：画像認識【画像処理】【顔画像認識】【状況説明】【機械学習】
- 5回目：ICT活用演習(2)：画像認識を使った課題解決と評価
- 6回目：IoT【センサー】【クラウドコンピューティング】
- 7回目：ICT活用演習(3)：IoTを使った課題解決と評価
- 8回目：人工知能【AI】【ディープラーニング】【技術的特異点】
- 9回目：ICT活用演習(4)：人工知能を使った課題解決と評価
- 10回目：ICT地域活性化事例の分析(1)【課題の選定と明確化】
- 11回目：ICT地域活性化事例の分析(2)【課題解決の効果と改善点】
- 12回目：地域課題解決演習(1)【地域課題の発見と明確化】
- 13回目：地域課題解決演習(2)【ICTを使った地域課題の解決方法】
- 14回目：地域課題解決演習(3)【ICTを使った地域課題解決の効果】
- 15回目：発表とまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

ICT活用演習・・・20%，地域活性化事業の分析・・・20%，地域課題解決演習・・・50%，積極的な授業参加・・・10%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、普段の生活においてICTはどのように活用されているのか、また、ICTをどのように活用すれば生活が豊かになるかを常に思考しておくこと。そうすることで、授業中に提示する課題に取り組みやすくなる。

事後学習として、授業中に説明した内容を復習すること。また、授業中に提示された課題については、授業後においても積極的に取り組み、完成度を高める努力をすること。

## 履修上の注意 /Remarks

受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。その場合は、授業中に説明する。

この科目は、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もある。また、受講者数調整を実施する可能性もある。詳細は、初回の授業中に説明する。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ほぼ毎回、各回に適した課題や質疑応答等を繰り返しながら、授業を展開していく。そのため、積極的に授業に参加してほしい。

## キーワード /Keywords

ICT活用，地域課題解決，論理的思考力，説得力，アクティブラーニング

# 基盤力応用 ( 政治的暴力 < 応用編 > ) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 2学期  
 授業形態 /Class Format  
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES301F			○	◎	△
科目名	基盤力応用		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

基盤力応用 ( サブタイトル「政治的暴力 ( 応用編 ) 」 ) は、1・2年次教養科目で戸蒔が担当する「世界特講テロリズム論」「安全保障論」「戦争論」を発展的に継承し、その上位に位置づけられる科目として提供されるものです。

これら科目に共通するのは「政治的な暴力」ですが、各科目15回の中で時間が足りずに扱えなかった内容も色々あり、それらについて考察する科目、という位置づけです。

### 到達目標

【思考・判断】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】他者と協働して、設定されたテーマに関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。※今年度はコロナ対応なので、感染リスクが高いコミュニケーション力の向上は目標から外します。

【自立的行動力】設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

なし。レジュメを準備します。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし。適宜指示。

# 基盤力応用 ( 政治的暴力 < 応用編 > ) 【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

「テロ」「安全保障・防衛」「戦争」の3テーマについて、それぞれ5回分をあてることを予定していますが、今年度が初めての開講となるので、内容は未定です。以下は、いまのところ念頭にある計画ですので、内容は大きく変更される可能性があります。

※コロナの状況によって、動画対応になる可能性もあり得ます。

第1回 ガイダンス

第2回 テロ応用 ( オウム真理教 )

第3回 テロ応用 ( 9 1 1 とアルカイダ )

第4回 テロ応用 ( ISIL )

第5回 テロ応用 ( その他。例えば、日本赤軍関連 )

( 1 ~ 5 までテーマ変更あり。例えば、全てオウム関連とか日本赤軍になる場合もありうる )

第6回 安全保障応用 ( 現在の日本の状況評価 )

第7回 安全保障応用 ( 島嶼防衛 )

第8回 安全保障応用 ( ゲリコマ対処 )

第9回 安全保障応用 ( その他。例。災害派遣、宇サ電など )

第10回 安全保障応用 ( 安全保障の今後 )

( 6 ~ 10 までテーマ変更あり。そして、テロと安全保障の関連なども扱うかもしれない )

第11回 戦争応用 ( 化学兵器と戦争 )

第12回 戦争応用 ( 生物兵器と戦争 )

第13回 戦争応用 ( 戦後の戦争①朝鮮戦争とベトナム戦争 )

第14回 戦争応用 ( 戦後の戦争②中東戦争と湾岸戦争、イラク戦争 )

第15回 まとめ

( 11 ~ 15 までも同様です )

※最終的に、第1~第3テーマが全て連動しあっている、というところが分かってもらえればなあと思っています。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

対面なら、授業態度30% + 学期末試験 ( 筆記 ) 70%。

動画なら、小テスト ( 5 回 ) の合計点100%。( ただし、小テスト実施回数は若干前後する可能性がある )

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

1・2年次の関連する授業動画はすべてyoutubeで閲覧可能にしておくので、それを視聴することが事前学習になります。YouTubeのAIが選ぶ「関連動画」を視聴することが事後学習になります。

## 履修上の注意 /Remarks

可能であれば、「テロリズム論」「安全保障論」「戦争論」のどれか1つでも受講済みであることを望みます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

対面なのか動画なのか分かりませんが、よろしくお願いします。

## キーワード /Keywords

# ライフ・デザイン特講A ( 税理士による租税講座 ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPL107F					◎
科目名	ライフ・デザイン特講 A				※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、租税に関する正しい知識を得て、責任ある社会の一員として行動できるようになることである。また、税理士及び税理士制度に関心を持ち、将来の選択肢としての税理士や税理士事務所での働き方について学習する。これらの目的を達成するために、本授業では、九州北部税理士会から選定された税理士に会計及び税法の授業を展開してもらう。本授業は、税理士を目指す者及び税理士事務所等に就職する者の増加を目的とする日本税理士会連合会による寄付講座である。

本授業の目標は、以下の通りである。

- ・ 租税が、この国の基本的価値である「自由主義」と「民主主義」を維持させるために必要なものであり、いわば「自由と民主の対価」であることを理解する。
- ・ 課税してはならないもの（担税力のないもの）に対して課税しないことは、個人の尊厳（自由主義）の関係を考える上で重要であることを理解する。
- ・ 国家の運営に必要な資金の負担は国民の間で「公平」であるべきであり、「公平が自由のためにある」ことについて理解する。
- ・ 租税は「担税力のないものに課税しないこと」や「公平」を実現するためにあり、租税の世界の正義（立法動機）を実現するためには租税制度の整備が不可欠であり、法整備によってしか正義の実現はないことを理解する。
- ・ 何のために税があり、何のために税制があるのかについて認識を深める。
- ・ 租税制度（言い換えれば、この国の自由主義と民主主義）を拡充発展させるために設けられた制度が税理士制度であることを理解する。

( 到達目標 )

【自立的行動力】設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 税理士の業務とその使命
- 3回 租税概論
- 4回 消費税
- 5回 所得税 ①【所得税の概略】
- 6回 所得税 ②【所得税に関する事例】
- 7回 相続税・贈与税 ①【相続税・贈与税の概略】
- 8回 相続税・贈与税 ②【相続税・贈与税に関する事例】
- 9回 法人税
- 10回 会計と法人税
- 11回 ファイナンシャルプランナーと税理士
- 12回 公認会計士と税理士
- 13回 弁護士と税理士
- 14回 税理士の実務
- 15回 まとめ



# ライフ・デザイン特講A ( 税理士による租税講座 ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・デザイン科目

## 成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 ( 毎回の授業で実施する振り返りレポートを含む ) ... 80%  
まとめレポート ... 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に、それまでの授業内容について振り返っておくこと。授業終了後には、授業中に学んだことをノートにまとめて、振り返りレポートを締め切りまでに間に合うように提出すること。

## 履修上の注意 /Remarks

九州北部税理士会の都合により、授業計画や授業内容等を変更することがある。また、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もある。詳細は、授業中に説明する。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

九州北部税理士会から選定された税理士に、それぞれのテーマについて講義を展開してもらおう。このため、以下の注意点に留意すること。  
① 「税理士による租税講座」は、2021年度のみ開講である。( 2022年度以降の開講は未定である。 ) 税理士及び税理士制度に関心がある人、将来の選択肢として税理士や税理士事務所で働きたいと考えている人は、ぜひ、受講して欲しい。  
② 受講希望者多数の場合、受講者数調整を実施し、受講可能な学生を決定する。詳細は、授業開始前に掲示にて説明する。  
③ 毎回の授業に積極的に参加し、授業が目指す学びを深めて欲しい。  
④ 質問や相談等は、指定する担当教員に行うこと。多くの外部講師が担当する授業になるため、担当教員が代表して窓口となる。

## キーワード /Keywords

税理士、租税、消費税、所得税、相続税、贈与税、法人税、会計士、弁護士

# ライフ・デザイン特講B (海外学習プログラム) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 友松 史子 / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPL207F					◎

科目名	ライフ・デザイン特講B
-----	-------------

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

本授業は、国際教育交流センターが主催する教員引率型の海外学修プログラムのための講座です。

本授業では下記にある海外学修コースの各訪問先で能動的に学ぶ / 活動に取り組むにあたり、前半は学修テーマや訪問先について理解を深め、後半は現地活動のための準備を行います。また並行して、渡航準備のためのポイントなどを学びながら海外活動に向けた心構えを形成していきます。

そのため、受講するだけでなく、本授業に付随する短期海外学修にも参加し、座学で学んだことを渡航先の活動に活かし、日本ではできない貴重な体験を得ることを通じ、その後の学修や学内外の活動につなげましょう。

なお、渡航に際しては、出国から帰国まで教員が引率し、また渡航準備のための細やかな指導も行います。大学最初のチャレンジとして、海外経験のない学生や海外渡航に不安のある学生も安心して参加できる入門コースです。

渡航先では、渡航コース毎に設定したテーマに基づいたフィールドワークや体験学習に取り組むほか、本学が大学間交流協定を結ぶ大学等を訪問し、協定校の実際の授業を見学・英語講座を受講したり、現地学生たちとの交流するなど様々な形の活動に取り組み、視野を広げや主体的に学び、行動する力を養い、異文化に対する理解を深めます。

この短期の海外学修を契機に、より長期の海外留学につなげたいと思っている学生にとっても良い経験となるでしょう。

2021年度は、次の1コースの実施を予定しています。

- < 学修テーマ > “ハワイの文化と歴史を学ぶ”
- < 渡航先 > アメリカ合衆国・ハワイ州 ( オアフ島 )
- < 連携大学 > ハワイ大学カピオラニコミュニティカレッジ ( 本学協定校 )
- < 渡航期間 > 2022年2月下旬または3月上旬で1週間程度。うち現地での活動は5日間程度。  
※具体的な渡航日程は2学期初めに案内予定です。
- < 費用 > 16万円程度
- < 募集人数 > 12～16名

※海外体験の費用は、参加者負担となります。

※渡航で来た場合でも予定していた活動先がCOVID-19の影響等で変更となる可能性もあります。また、渡航先の感染状況によっては渡航中止になる場合があります。あらかじめご了承ください。

なおハワイへ渡航するに際し、本講座のほか、渡航2か月前ほどから開かれる事前研修 ( 実際の渡航準備やオリエンテーション ) への参加が必須となります。

また、帰国後は次年度の参加学生のために活動成果報告書または活動成果報告ポスターを作成します。

### < ハワイコースの到達目標 >

- 様々なフィールドでの活動を通じ、これまでと異なる視点を得、それぞれの価値観や考え方の幅を広げる。
- 現地での交流や経験を通じ、異国や異文化への理解を深めるとともに、自国や自文化、自己のアイデンティティについても考える意欲を得る。
- 帰国後学修において、自己の経験や成長を振り返り、言語化し、他者に適切に発信できるとともに、それらをその後の学生生活に活かしていく積極的な姿勢を身につける。

## 教科書 /Textbooks

教科書はありません。  
授業に必要な資料は、適宜、配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

参考文献等は、適宜、指示しますが、渡航先の国/地域や渡航先で取り組むことに関する書籍だけでなく、映像資料で得る情報も重要な参考資料となります。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

下記第1-15回の授業を9/6(月)~9/10(金)の日程で1日3コマ行います。  
各日程と内容は次の通りです。

### <1日目>

- 9/6(月) 第01回 コースガイダンス - ハワイスタディーツアーの概要 -
- 9/6(月) 第02回 海外体験目的の明確化と目標設定
- 9/6(月) 第03回 講義：ハワイと日本について

### <2日目>

- 9/7(火) 第04回 グループワーク①：ハワイの日系移民とその歴史と訪問先施設について情報収集・整理
- 9/7(火) 第05回 発表、意見交換、訪問先での質問リスト作成
- 9/7(火) 第06回 グループワーク②：Pearl Harbor Historical Siteについて情報収集・整理

### <3日目>

- 9/8(水) 第07回 発表、意見交換、訪問先でのリサーチテーマの設定
- 9/8(水) 第08回 グループワーク③：大学紹介の発表資料作成
- 9/8(水) 第09回 大学紹介の実演、資料のブラッシュアップ作業

### <4日目>

- 9/9(木) 第10回 グループワーク④：日本文化紹介の発表資料作成
- 9/9(木) 第11回 日本文化紹介の実演、資料のブラッシュアップ作業
- 9/9(木) 第12回 グループワーク⑤：交流活動内容の企画、準備の進め方についてシミュレーション  
グループワーク⑥：その他の市内視察やハワイでの過ごし方情報収集

### <5日目>

- 9/10(金) 第13回 講義：海外危機管理学修
- 9/10(金) 第14回 講義：渡航準備について、ハワイスタディプラン作成
- 9/10(金) 第15回 スタディプラン発表・まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ リサーチ課題・・・50%
- ・ 企画作成課題・・・20%
- ・ 最終課題・・・30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にグループで取り組む課題のための情報収集をしっかり行い、授業に臨んでください。また授業での学びを定着させるため、海外学修を事後学修とし、これに参加することを推奨します。なお、詳細は北方Moodleの情報で確認してください。

## 履修上の注意 /Remarks

- ・ 授業ではPC持参のこと
- ・ ハワイでの海外学修コース参加希望の方は本授業を履修してください。

※なお、ハワイコースはKGEP Challengeコースの「海外体験」分野のメダル付与や正式登録のための対象プログラムになります。またはAdvancedコースの修了要件である「国際教育交流センターが提供するプログラム」とすることもできます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

インターネットやメディアの報道で得た情報ではなく、現地で実際に自分の目で見ると、耳で聞く、肌で感じる経験は、視野を広げたり、それまでのものの見方を変えたり、知的好奇心を刺激したり、学問やキャリア形成面にインパクトを与えたりと自分の中で何かが動き出すのを感じると思います。また、現地で様々な活動を行うことで、海外渡航へのハードルも低くなるでしょう。大学は成長の場。4年間をどう過ごすかで、あなたの将来の選択肢は大きく変わります。挑戦なくして成長なし。「夢」は成長の源。「困難」は成長の糧。「出会い」は成長の礎。世界を舞台に、地球規模の視野で考え、現地の視点で行動できる人材になる、このプログラムではそんなあなたの挑戦をサポートします。

## キーワード /Keywords

国際教育交流センター、海外学修、ファカルティレッドプログラム(FLD)、Kiakyushu Global Challenge Program(KGEP)、Advancedコース、Challengeコース

# キャリア・デザイン【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR100F				○	◎
科目名	キャリア・デザイン		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

大学生生活を充実させるものにするための授業です。その為に、現在の社会、経済、環境を理解し、未来に向けてどのように変化していくのかを考えていきます。そして、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の2点をねらいとしています。

- ①社会、経済、環境の現状と未来について学ぶ
- ②将来のキャリアに向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく

授業はオンデマンド方式で実施します。「働く」ということを第一線で体験、分析されている外部講師からお話を聞きながら、各自感じたことや学んだことをレポート形式でアウトプットしてもらいます。

(到達目標)

【コミュニケーション力】社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

【自立的行動力】自分自身のキャリアに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する力を身につけている。

## 教科書 /Textbooks

テキストはありません。オンデマンド形式で動画を配信して授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①全体ガイダンス
- ②学びのアップデート
- ③日本の「キャリアデザイン」
- ④日本が迎える大きな変化
- ⑤情報革命
- ⑥日本の働き方と組織の課題～ジェンダー～
- ⑦中間振り返り
- ⑧お金と情報
- ⑨ビジネスと就活
- ⑩もう一つのキャリアデザイン
- ⑪「働き方」の最新事情
- ⑫日本の潮流、世界の潮流
- ⑬誰もが持つリーダーシップを知る
- ⑭キャリアデザイン全体を総括する
- ⑮全体振り返り

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60%  
授業内のレポート...20%  
まとめのレポート...20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

初回の講義時に詳細のスケジュールを提示しますので、事前に各テーマについて調べてください。また、各回の授業後には、事前に調べたこととの相違を確認してください。更に、すべての回が終了した際に全体を振り返って、自分自身のキャリア形成に向けて何をすべきかについて考えを深めてください。

## 履修上の注意 /Remarks

授業への積極的かつ主体的な参加、また自主的な授業前の予習と授業後の振り返りなど、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。外部講師と連携しての授業を予定しています。詳細は第1回の講義で説明しますので、必ず参加してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は学生の皆さん自身のキャリアにかかわるものになりますので、特段正解があるわけではありません。授業の内容を自分なりに咀嚼しながら、授業の内容に加えて読書やWEBサイトを確認するなど、自主的な学習を進めてください。

人材採用・マネジメントの経験を持つ教員が、卒業後に企業等で働く上で必要となる能力や経験等について解説する。

## キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動、実務経験のある教員による授業

### ★関連するSDGsゴール

「4. 質の高い教育を」「8. 働きがい・経済成長」「9. 産業・技術革命」「12. 作る・使う責任」

# キャリア・デザイン【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR100F				○	◎
科目名	キャリア・デザイン		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

月曜2限の「キャリア・デザイン」では、皆さんの来るべき将来に向けて、いま何を考え、何をすべきかということを考える授業を行います。皆さんの将来は未来に独立して存在しているわけではなく、現在の延長線上にあります。その意味で、大学生としての時間をいかに過ごすのかは皆さんの「キャリア」に直接つながってきます。この授業では、大学生として充実した時間を過ごすためのヒントや刺激を受けられるようなコンテンツをたくさん提供したいと思います。特に、本授業では、ゲストスピーカーによる講演会を数回開催します。各分野で活躍されている人生の先輩方のお話を聞くことで多くを学ぶことができると 생각합니다。また、様々な資料（映像・新聞記事・映画・webなど）を用い、それらを題材とすることで皆さんの進むべき道ややるべきことなども考えてもらいます。キャリア（人生デザイン）は他人から教えられるものではなく、自分で考えて切り拓いていくものだと思います。授業を通じてそのためのきっかけが提供できればと思います。

(到達目標)

【コミュニケーション力】社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

【自立的行動力】自分自身のキャリアに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する力を身につけている。

## 教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。適宜資料を配布します。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

授業内で適宜お伝えします。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス キャリアデザインとは
- 第2回 キャリアデザインと大学生活
- 第3回 日本の大学生の姿を通じて
- 第4回 大学生生活の落とし穴とその回避のために
- 第5回 来たるべき未来と皆さんのキャリアデザイン
- 第6回 自分を知る
- 第7回 キャリアは「デザイン」できるのか？
- 第8回 留学とキャリアデザイン
- 第9回 これからの働き方
- 第10回 就職とキャリアデザイン
- 第11回 自分の新たな扉を開く
- 第12回 「幸せ」な人生とは？
- 第13回 作品に学ぶキャリアデザイン
- 第14回 先輩からのメッセージ
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

各回の授業で課すレポートにより評価(100%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業終了時に次回の授業内容を伝えますので、前もって関連する知識を学習しておいてください。  
また、本授業は「答え」のない授業ですので、各回の授業が終わった後には、自分なりの「答え」を探してもらいたいと思います。関連する映像資料や書籍・新聞記事などを紹介しますので、次回の講義までに各自確認し、自習をして授業に臨んでください(自習時間の目安は60分程度)。

# キャリア・デザイン【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・デザイン科目

## 履修上の注意 /Remarks

たくさんの問いかけをしますので、自分の頭でしっかりと考える姿勢をもって授業に望んでください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1年生だけでなく、2年生以上の学生の受講も歓迎します。

## キーワード /Keywords

自分で考え、つくるキャリアデザイン



# キャリア・デザイン【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次 /1 Credits 単位 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR100F				○	◎
科目名	キャリア・デザイン		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

### <目的>

本授業の目的は、後述する「経験学習モデル」を体得し、社会が必要としている力を身に付けることです。近年、少子高齢化やグローバル化、IT化、環境やエネルギー、そして地方創生など、今までのビジネスモデルからの脱却およびイノベーションが求められる中、社会が求める人材も大きく変わりつつあります。日本経済団体連合会（2018年11月）の調査によると、「コミュニケーション能力」が16年連続で第1位、「主体性」が10年連続で第2位となり、「チャレンジ精神」が3年連続第3位となりました。コミュニケーション能力は当然として、主体性・チャレンジ精神といった、多様な人々とチームとなり、その中でも自ら新しい課題に挑戦する力が求められる時代となりました。よってこれらの資質を卒業までに身に付ける必要があります。さらに、2018年9月3日、経団連が従来の「就活」「新卒採用」のルールを廃止すると宣言しました。慌てた政府が引き続きルールを提示していますが、それに拘束力はなく、完全に自由化になりました。

では、多様な人々とチームとなり、その中でも自ら新しい課題に挑戦する力を身に付けるにはどうすればいいのか。それは「経験学習モデル」をぐるぐる回し続けることの楽しさを理解し、実践することに尽きます。機会があれば「すぐ試す」→「振り返る」→「体験の言語化」→「仮説を立てる」→「すぐ試す」・・・具体的には大学生の本分である学びの深掘り、つまり、自分が興味を持つことにとことん時間とコストを注ぎ込んで、学びまくればよい。そしてその学びは書籍や論文を読むだけでなく、仮説を立てて、すぐ試して、振り返って、体験の言語化を行い、そこで得た教訓をもとにまた仮説を立てて、すぐ試すといったモデルをぐるぐる回し続けることができれば、いつでも自らのキャリアを創り出すことができるのです。近年、大企業や地方公共団体に入社・就職することがベストではなくなりました。社会人になってからも、キャリアアジェンダは日常的に起こり得るのです。だからこそ、「経験学習モデル」を主体的に回す力が必要なのです。

### <進め方>

まずグループワーク・ペアワークを実践して「コミュニケーション能力」を獲得します。同時に、たくさんの先輩や社会人のゲスト（ロールモデル）との対話や、その他様々な課題を通して「幅広い視野・柔軟性」や「失敗を恐れない志向性」を理解し、毎回の小レポートなどで「経験を振り返る力」を身に付けます。そして、他の授業や課外活動、そして日常生活において授業での学びを実践し、これらの4つの力を高めつつ、夏休みには身の丈を超えた経験に挑戦し、「答えのない課題を解決する力」を身に付けていただきたいと思います。授業の途中で、様々なイベント（ボランティア活動やプロジェクト活動、海外インターンシップなど）の情報を提供しますので、楽しみにしてください。

### <目標>

経験学習モデル「すぐ試す→振り返る→体験の言語化→仮説を立てる」を理解し、実践できるようになること。そして、アイデンティティ（自分らしさの探求）やコミュニケーション能力、課題解決などを身に付け、社会が必要とする創造力を発揮できる基礎を身につけること。

（到達目標）【コミュニケーション力】社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。【自立的行動力】自分自身のキャリアに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する力を身につけている。

## 教科書 /Textbooks

見館好隆、保科学世ほか『新しいキャリアデザイン』九州大学出版会（税込1,980円）



## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。  
以下書籍はその参考例です。

- キャロル S.ドゥエック『「やればできる!」の研究-能力を開花させるマインドセットの力』草思社
- 金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
- 大久保幸夫『キャリアデザイン入門1 基礎力編』日本経済新聞社
- 渡辺三枝子『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版
- モーガン・マッコール『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社
- エドガー H.シャイン『キャリア・アンカー 自分のほんとうの価値を発見しよう』白桃書房
- 平木典子『改訂版 アサーション・トレーニング-さわやかな自己表現のために』金子書房
- 中原淳・長岡健『ダイアログ 対話する組織』ダイヤモンド社
- 香取一昭・大川恒『ワールド・カフェをやろう!』日本経済新聞出版社
- 金井寿宏『リーダーシップ入門』日本経済新聞社
- J.D.克蘭ボルト、A.S.レヴィン『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社
- スブツニ子!『はみだす力』宝島社
- アンジェラ・ダックワース『やり抜く力 GRIT (グリット)-人生のあらゆる成功を決める「究極の能力」を身につける』ダイヤモンド社
- リンダ グラットン『ワーク・シフト-孤独と貧困から自由になる働き方の未来図』プレジデント社
- リンダ グラットン、アンドリュースコット『LIFE SHIFT (ライフ・シフト)』東洋経済新報社
- 見館好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社
- 中原淳、見館好隆ほか『人材開発研究大全』東京大学出版会

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス・社会で求められる力
- 2回 振り返りの仕方
- 3回 コミュニケーション技法①傾聴
- 4回 コミュニケーション技法②アサーション
- 5回 コミュニケーション技法③リーダーシップ
- 6回 社会人インタビューレポート①
- 7回 ロジカルシンキング
- 8回 働くということ(社会人登壇)
- 9回 Digital transformation
- 10回 新しい仕事を創る(ジョブスタ)
- 11回 企業団体研究のノウハウ
- 12回 自分らしい就職活動(先輩登壇)
- 13回 社会人インタビューレポート②
- 14回 計画された偶発性
- 15回 自らのキャリアをデザインする

## 成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業への取り組み(予習・復習・学びの実践レポート)・・・78%  
社会人インタビューレポート・・・12%  
最終レポート・・・10%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

<通常授業> Moodleに予習・復習・実践課題を掲示しますので、締め切りまでに行ってください。  
<インタビューレポート> 提示する課題をもとに、各自インタビューを実施し、指定するフォーマットで、期日までに提出してください。  
<最終レポート> 提示する課題をもとに、授業を振り返り、授業最終回に持参してください。

## 履修上の注意 /Remarks

<基本事項>  
※月曜日と火曜日の授業の内容は同じです。  
※本授業は必修ではありませんが、将来のために大学生活をどう営むかを考える、1年生向けの授業です。よって、私もしくは眞鍋和博先生ほかの「キャリアデザイン」のいずれかを履修することをお勧めします。  
※曜日や時限を間違っても履修しても出席にはなりませんので注意してください。

<履修者調整について>  
※ソーシャルディスタンスを確保するために、受講人数の制限があります。もし、上限を超える時は1年生を優先とします。ただし、上限を超えなければ2年生以上も受講できます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

就職活動がほぼ自由化され、以前のように3年生の秋から一斉スタートではなくなりました。そのために、1年生からの日々の授業はもちろん、アルバイトやクラブ活動など「毎日の過ごし方・課題への取り組み方」が皆さんの将来に大きく左右するようになりました。また、夏季や春季の長期休暇などを活用したインターンシップや、長期の地域活動・ボランティアなど、大学生だからこそ取り組むことができる「ハートが震える機会」「先入観を吹っ飛ばす機会」が、将来やりたいことを見出すために重要な要素となります。よって、できるだけ早く「大学生活を豊か

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

にする過ごし方」と「自分探しの楽しみ方」を、授業や授業外課題を通して習得できるように設計しました。たくさんの学生の履修をお待ちしております。

※人事および販売促進、新規事業立ち上げなどの経験を持つ教員が、企業団体で働く上で必要とされる能力や、その能力の獲得の仕方について、アクティブ・ラーニング形式で運営。

## キーワード /Keywords

キャリア、キャリア発達、キャリア形成、大学生生活、コミュニケーション、社会人マナー、倫理観、クリエイティブシンキング、ロジカルシンキング、問題解決、課題解決  
SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命、SDGs 11.まちづくり、SDGs 15.環境保全  
実務経験のある教員による授業

# メンタル・ヘルス【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 寺田 千栄子 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PSY001F					◎
科目名	メンタル・ヘルス		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

本講義はメンタルヘルスについて精神保健学、社会福祉学、心理学の観点から考察し、人間が健康なところで生活していくための対処方法について学んでいきます。そのために、まず、ライフサイクルを通して、メンタルヘルスに関する基礎知識や精神や行動の異変を理解するためのポイントを学習します。次に、セルフケアの重要性を理解し、自身がメンタルヘルスの問題と向き合うために必要な姿勢を獲得することを目的とします。

(到達目標)

【自立的行動力】自分自身の心の健康に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

なし。適宜資料を配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じ紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 メンタルヘルスを学ぶ目的
- 第2回 メンタルヘルスに関する基礎知識(1)【日本における現状と課題】
- 第3回 メンタルヘルスに関する基礎知識(2)【問題の種類、よくある誤解】
- 第4回 ライフサイクルとメンタルヘルス(1)【子ども】
- 第5回 ライフサイクルとメンタルヘルス(1)【大人】
- 第6回 精神と行動の異変(1)【精神症状】
- 第7回 精神と行動の異変(2)【精神疾患】
- 第8回 大学生とメンタルヘルス(1)【ボディメイクと摂食障害】
- 第9回 大学生とメンタルヘルス(2)【アディクション】
- 第10回 自己分析
- 第11回 セルフケア①【ストレスの仕組み】
- 第12回 セルフケア②【ストレスマネジメント】
- 第13回 セルフケア③【相談の有用性】
- 第14回 セルフケア④【ソーシャルサポート】
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50% 日常の授業への取り組み 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに、あらかじめメンタルヘルスに関する自身の身の回りの出来事を見つけてください。授業終了後は、授業のリアクションを Moodle 上で入力することを求めます。また、授業で身につけた知識を活用し、自身の健康管理に努めてください。

## 履修上の注意 /Remarks

本授業は、基本的には講義形式で進行しますが、内容に応じて演習形式の体験学習を行います。実際に他者とのコミュニケーションを行う作業を含みますので、履修生はこの点を理解し受講してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私たちが抱える悩みの多くには、メンタルヘルスに関する問題が関与しています。メンタルヘルスに関する問題に対して、「自分には関係ない。」、「気持ちの問題だ。」と考える人も少なくありません。しかし、誰も精神や行動の異変は起こりうる問題です。こころも体も健康に生活していくための方法を、一緒に考えていきましょう。

## キーワード /Keywords

メンタルヘルス・セルフケア・ストレス・精神保健福祉学

# 自己管理論 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター  
村江 史年 / Fumitoshi MURAE / 基盤教育センターひびきの分室, 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS003F					◎
科目名	自己管理論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、生活に必要な考え方と自己管理に関する正しい知識を身に付けることである。様々な情報が氾濫し、次々と新たな問題が発生する現代社会においては、自分自身の意思で物事を決定しつつ、健康的で自律した生活を送ることは容易ではない。このため、様々な角度からの正しい知識を得て、自分だけでなく周囲の人たちも含めて安全で安心に暮らすための意識を高めることが大切である。本授業では、様々な分野の専門家に講義を展開してもらい、以下の習得をめざす。

### 到達目標

【自立的行動力】自分自身の生活に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する力を身につけている。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (基盤教育セ・日高)
- 2回 社会人のマナー (キャリアセンター・木村)
- 3回 身体の健康 (保健室看護師)
- 4回 心の健康 (相談室・臨床心理士)
- 5回 スポーツと健康 (基盤教育セ・日高)
- 6回 市民生活の基本 (行政委員会・市民文化スポーツ局・総務課)
- 7回 災害への備え (基盤教育セ・村江)
- 8回 犯罪防止 (小倉南警察署生活安全課)
- 9回 自転車の交通安全 (小倉南警察署交通課)
- 10回 消防と救急 (消防局予防課・救急課)
- 11回 消費者トラブル (消費生活センター)
- 12回 大学生とお金 (福岡県金融広報委員会)
- 13回 ハラスメント防止 (総務局男女共同参画推進課)
- 14回 課題研究
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中ごとのMoodle課題 (確認テスト、ミニレポート等) 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業開始前までに予め授業テーマについて学習しておくこと。
- ・ 終了後には、授業中に学んだことを振り返り、ミニレポートを締め切りに間に合うように提出すること。

## 履修上の注意 /Remarks

- ・ 遠隔授業 (オンデマンド動画配信) の予定。
- ・ 詳細については第1回目にMoodle上で説明するので必ず閲覧すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

様々な分野の専門家に、それぞれのテーマについて講義を展開してもらう。  
毎回の授業は一見すると関係性のないテーマのように見えるが、全体を通じて首尾一貫した狙いがある。毎回の授業に積極的に参加し、授業が  
目指す考え方を習得して欲しい。

## キーワード /Keywords

リスクマネジメント、セルフマネジメント、倫理観、公共性

実務経験のある教員による授業

# フィジカル・ヘルス【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS001F				○	◎
科目名	フィジカル・ヘルス		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

(到達目標)

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】自分自身の健康管理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

## 履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）  
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション



# フィジカル・ヘルス【昼】

担当者名 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS001F				○	◎
科目名	フィジカル・ヘルス		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

### 到達目標

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】自分自身の健康管理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

教科書については、特に必要ありません。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて紹介

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 ソフトバレーボール(実習)
- 4回 ストレッチの理論(講義)
- 5回 ストレッチの実際、ゲーム(実習)
- 6回 生活習慣病の予防と対策(講義)
- 7回 生活習慣病の予防と対策(実習)
- 8回 フェアプレイ、スポーツマンシップとは(講義)
- 9回 球技を楽しもう①(卓球、バドミントン、ショートテニス)(実習)
- 10回 球技を楽しもう②(卓球、バドミントン、ショートテニス)(実習)
- 11回 これからの運動①(心臓の予備力、体力の変化)(講義)
- 12回 これからの運動②(体力の維持・向上、継続性)(講義)
- 13回 スポーツ実施の心理的効果(講義)
- 14回 スポーツ実施の心理的効果(実習)
- 15回 まとめ、レポート提出

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理論を受けて実習を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

## 履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

# フィジカル・ヘルス 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・デザイン科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# フィジカル・ヘルス 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS001F				○	◎
科目名	フィジカル・ヘルス		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

### 到達目標

コミュニケーション力；他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。  
自律的駆動力；自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことと考えます。

スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。また、特別講師としておがわ整骨院院長の小川博久先生からテーピングを中心に授業を行います。

## 教科書 /Textbooks

授業中に指示します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に適宜紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 50%  
まとめ... 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと  
授業後は文献等で再度復習しましょう。

## 履修上の注意 /Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること  
気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。  
授業内容（講義・実習）によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）  
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

身体活動をととして理論と実践を学びます。  
積極的な参加を期待しています。

## キーワード /Keywords

健康・安全・衛生

# フィジカル・ヘルス【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS001F				○	◎
科目名	フィジカル・ヘルス		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

(到達目標)

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】自分自身の健康管理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

## 履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）  
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

# フィジカル・ヘルス【昼】

担当者名 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS001F				○	◎
科目名	フィジカル・ヘルス		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

### 到達目標

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】自分自身の健康管理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

教科書については、特に必要ありません。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて紹介

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 ソフトバレーボール(実習)
- 4回 ストレッチの理論(講義)
- 5回 ストレッチの実際、ゲーム(実習)
- 6回 生活習慣病の予防と対策(講義)
- 7回 生活習慣病の予防と対策(実習)
- 8回 フェアプレイ、スポーツマンシップとは(講義)
- 9回 球技を楽しもう①(卓球、バドミントン、ショートテニス)(実習)
- 10回 球技を楽しもう②(卓球、バドミントン、ショートテニス)(実習)
- 11回 これからの運動①(心臓の予備力、体力の変化)(講義)
- 12回 これからの運動②(体力の維持・向上、継続性)(講義)
- 13回 スポーツ実施の心理的効果(講義)
- 14回 スポーツ実施の心理的効果(実習)
- 15回 まとめ、レポート提出

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理論を受けて実習を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

## 履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

# フィジカル・ヘルス 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・デザイン科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords



# フィジカル・エクササイズI ( バドミントン ) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS081F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズ I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自立的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション ( 授業の展開方法や履修に関する諸注意 )
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト ( ヘアピン・クリアー )
- 5回 基本的な打ち方とフライト ( ドロップ )
- 6回 サービスの練習
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～13回 ダブルスゲーム ( リーグ戦 )
- 14回 スキル獲得テスト②
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。

# フィジカル・エクササイズI ( バドミントン ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・デザイン科目

## 履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。  
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。  
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。  
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

## キーワード /Keywords

# フィジカル・エクササイズI ( ソフトバレー / バレーボール ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 倉崎 信子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS081F				○	◎

科目名	フィジカル・エクササイズ I
-----	----------------

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、ソフトバレーおよびバレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 バス練習(1) <アンダーバス>
- 5回 バス練習(2) <オーバーバス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得テスト

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

# フィジカル・エクササイズI ( ソフトバレー / バレーボール ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・デザイン科目

## 履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。  
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。  
授業で得た知識や技能を各自実践し、授業内容を反復すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

## キーワード /Keywords

# フィジカル・エクササイズI ( 外種目 ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS081F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズ I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスやサッカー、ソフトボールなどの屋外で実施するスポーツ実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 テニス(ストロークの基礎練習)
- 3回 テニス(サーブ・スマッシュの基礎練習)
- 4回 テニス(ゲーム①シングルス)
- 5回 テニス(ゲーム②ダブルス・スキル獲得の確認)
- 6回 サッカー(パスの基礎練習)
- 7回 サッカー(シュート・連携)
- 8回 サッカー(戦術・ルール把握・ゲーム①)
- 9回 サッカー(ゲーム②)
- 10回 サッカー(ゲーム③・スキル獲得の確認)
- 11回 ソフトボール(キャッチボール・守備)
- 12回 ソフトボール(バッティング・ルール解説)
- 13回 ソフトボール(ゲーム①)
- 14回 ソフトボール(ゲーム②)
- 15回 ソフトボール(ゲーム③・スキル獲得の確認)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み...70% スキル獲得テスト...30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

# フィジカル・エクササイズI ( 外種目 ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・デザイン科目

## 履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。  
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。  
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。  
基本的にはグラウンドで実技を実施しますが、天候によっては体育館にて実施します。その場合は室内用シューズも準備すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

## キーワード /Keywords

# フィジカル・エクササイズI ( ソフトバレー / バレーボール ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 小幡 博基 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS081F				○	◎

科目名	フィジカル・エクササイズ I
-----	----------------

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、ソフトバレーおよびバレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

# フィジカル・エクササイズI ( ソフトバレー / バレーボール ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・デザイン科目

## 履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。  
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。  
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

## キーワード /Keywords



# フィジカル・エクササイズI ( バドミントン ) 【昼】

担当者名 梨羽 茂 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS081F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズ I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自立的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

### <到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション(授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト(ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト(ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ゲーム法の解説
- 9回～14回 ゲーム(リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト②

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。

# フィジカル・エクササイズI ( バドミントン ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・デザイン科目

## 履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。  
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。  
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

## キーワード /Keywords

バドミントン、基礎技術、ゲーム、SDGs 3. 健康と福祉を

# フィジカル・エクササイズI ( バドミントン ) 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS081F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズ I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自立的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション ( 授業の展開方法や履修についての諸注意 )
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト ( ヘアピン・クリアー )
- 5回 基本的な打ち方とフライト ( ドロップ )
- 6回 サービスの練習
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム ( リーグ戦 )
- 15回 スキル獲得テスト②

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみること。運動前、運動後には自宅で体ほぐし運動 ( ストレッチや体操 ) を実施し、怪我防止に努めること ( ストレッチや体操に関しては授業内で紹介する )。

# フィジカル・エクササイズI ( バドミントン ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・デザイン科目

## 履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。  
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。  
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。  
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

## キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

# フィジカル・エクササイズI ( 女性のスポーツ ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 下釜 純子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS081F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズ I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこでこの授業では、体力・技術にあまり自信のない女性を対象に、身体活動の理論を踏まえ、レクリエーションスポーツ種目を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そしてその到達度をふまえて、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

### < 到達目標 >

【コミュニケーション力】 他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】 自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

## 教科書 /Textbooks

テキストは使用しない

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

適宜授業内で紹介します

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス ( 受講上の注意 )
- 2回 ヨガストレッチ ( 1 )
- 3回 ヨガストレッチ ( 2 )
- 4回 体幹トレーニング ( 1 )
- 5回 体幹トレーニング ( 2 )
- 6回 バランスボール ( 1 )
- 7回 バランスボール ( 2 )
- 8回 バasketボール ( 1 ) ドリブル、パス、シュートの基礎練習
- 9回 バasketボール ( 2 ) ルール説明とゲーム・スキル獲得の確認
- 10回 選択種目 ( 1 ) 【バドミントン】 【卓球】
- 11回 選択種目 ( 2 ) 【バレーボール】 【トレーニング】
- 12回 選択種目 ( 3 ) 【ソフトバレーボール】 【バドミントン】
- 13回 女性のためのエクササイズ ( 1 )
- 14回 女性のためのエクササイズ ( 2 )
- 15回 スキル獲得の確認 ( 選択種目 )

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

# フィジカル・エクササイズI ( 女性のスポーツ ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・デザイン科目

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

その種目に関する映像視聴などで、ルールの確認やイメージを持つこと。  
運動後のクールダウンは時間を設けて行わないので、各自で主要筋のストレッチをして身体ケアをすること。

## 履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。  
授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること。

本講義では、障害者差別解消法に基づき、障がいの有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

## キーワード /Keywords

# フィジカル・エクササイズII ( バドミントン ) 【昼】

担当者名 /Instructor 梨羽 茂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズⅡ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション ( 授業の展開方法や履修についての諸注意 )
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト ( ヘアピン・クリアー )
- 5回 基本的な打ち方とフライト ( ドロップ )
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 ( ヘアピンリターン )
- 8回 応用組み合わせ練習 ( ドロップリターン )
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

# フィジカル・エクササイズII ( バドミントン ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・デザイン科目

## 履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。  
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。  
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

## キーワード /Keywords

バドミントン、基礎技術、ゲーム、SDGs 3. 健康と福祉を



# フィジカル・エクササイズII ( バドミントン ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

### <到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

# フィジカル・エクササイズII ( バドミントン ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・デザイン科目

## 履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。  
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。  
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

## キーワード /Keywords

# フィジカル・エクササイズII ( バスケットボール ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バスケットボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

## 教科書 /Textbooks

使用しない

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 集団行動(走る(ラン)・跳ぶ(ジャンプ)・投げる(スロー))
- 3回 ボールに慣れる(ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習(レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習(2対1)
- 6回 応用練習(3対2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフェンス・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド)
- 10回 スキルアップ(速攻、スクリーンプレイ)
- 11回 ゲーム(1) ゾーンディフェンス(2-3)
- 12回 ゲーム(2) ゾーンディフェンス(2-1-2)
- 13回 ゲーム(3) マンツーマンディフェンス
- 14回 ゲーム(4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み...70% スキル獲得テスト...30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

# フィジカル・エクササイズII ( バスケットボール ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・デザイン科目

## 履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。  
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。  
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

## キーワード /Keywords

# フィジカル・エクササイズII ( ソフトバレー / バレーボール ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 小幡 博基 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎

科目名	フィジカル・エクササイズII
-----	----------------

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、ソフトバレーおよびバレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <ソフトバレーボール>
- 12回 ゲーム(2) <ソフトバレーボール>
- 13回 ゲーム(3) <バレーボール>
- 14回 ゲーム(4) <バレーボール>
- 15回 スキル獲得の確認

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み...70% スキル獲得テスト...30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

# フィジカル・エクササイズII ( ソフトバレー / バレーボール ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・デザイン科目

## 履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。  
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。  
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。  
男女混合および生涯スポーツを意図したソフトバレーボールと競技性を重視したバレーボールの両種目を実施します。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

## キーワード /Keywords

# フィジカル・エクササイズII ( 外種目 ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 梨羽 茂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスやサッカー、ソフトボールなどの屋外で実施するスポーツ実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 テニス( ストローウクの基礎練習 )
- 3回 テニス( サービス・スマッシュの基礎練習 )
- 4回 テニス( ゲーム①シングルス )
- 5回 テニス( ゲーム②ダブルス・スキル獲得の確認 )
- 6回 サッカー( パスの基礎練習 )
- 7回 サッカー( シュート・連携 )
- 8回 サッカー( 戦術・ルール把握・ゲーム① )
- 9回 サッカー( ゲーム② )
- 10回 サッカー( ゲーム③・スキル獲得の確認 )
- 11回 ソフトボール( キャッチボール・守備 )
- 12回 ソフトボール( バッティング・ルール解説 )
- 13回 ソフトボール( ゲーム① )
- 14回 ソフトボール( ゲーム② )
- 15回 ソフトボール( ゲーム③・スキル獲得の確認 )

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

# フィジカル・エクササイズII ( 外種目 ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・デザイン科目

## 履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。  
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。  
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。  
基本的にはグラウンドで実技を実施しますが、天候によっては体育館にて実施します。その場合は室内用シューズも準備すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

## キーワード /Keywords

テニス、サッカー、ソフトボール、SDGs 3. 健康と福祉を



# フィジカル・エクササイズII ( 外種目 ) 【昼】

基盤教育科目  
 教養教育科目  
 ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 仲里 清 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスやサッカー、ソフトボールなどの屋外で実施するスポーツ実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 ソフトボール(キャッチボール・守備)
- 3回 ソフトボール(バッティング・ルール解説)
- 4回 ソフトボール(ゲーム①)
- 5回 ソフトボール(ゲーム②)
- 6回 ソフトボール(ゲーム③・スキル獲得の確認)
- 7回 ソフトボール(ゲーム④・スキル獲得の確認)
- 8回 サッカー(パスの基礎練習)
- 9回 サッカー(シュート・連携)
- 10回 サッカー(戦術・ルール把握・ゲーム①)
- 11回 サッカー(ゲーム②)
- 12回 サッカー(ゲーム③・スキル獲得の確認)
- 13回 フットサル(戦術・ルール把握)
- 14回 フットサル(ゲーム①)
- 15回 フットサル(ゲーム②・スキル獲得の確認)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

# フィジカル・エクササイズII ( 外種目 ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・デザイン科目

## 履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。  
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。  
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。  
基本的にはグラウンドで実技を実施しますが、天候によっては体育館にて実施します。その場合は室内用シューズも準備すること。体育館ではフットサルおよびテニスに替わるラケット種目を実施します。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

## キーワード /Keywords

ラケット種目、サッカー、ソフトボール、SDGs 3. 健康と福祉を

# フィジカル・エクササイズII ( バドミントン ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズⅡ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

### 到達目標

コミュニケーション力；他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。  
自立的行動力；自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。  
また、フェアプレーも学びます。

## 教科書 /Textbooks

授業中に指示します。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に適宜紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(3) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(4) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70%  
スキル獲得テスト... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

# フィジカル・エクササイズII ( バドミントン ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・デザイン科目

## 履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。  
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。  
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

## キーワード /Keywords

時速400キロ・フェアプレー

# 世界での学び方【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科, 友松 史子 / 国際教育交流センター  
山崎 勇治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期/2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR001F					◎
科目名	世界での学び方				※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

本授業科目は、「海外での学びを体験させることで、国際理解や知識を拡大させるとともに、語学力の向上につなげさせ、グローバル社会で活躍する意欲を高め、自ら行動できる人材を育成するための教育プログラム」であるKitakyushu Global Challenge Program (KGEP) / Challengeコースの入門科目となっています（コース修了のための要件科目（必修）です）。

受講を通じ、大学時代に海外での学びを体験してみたいと考えている人に、その経験が自己のキャリアにとってどのような意味を持つのかについて考えてもらうことで、学生が社会で生きるのに必要とされる「自立的行動力」としての自己を確立する力を涵養することを目的としています。また本学の留学や海外研修プログラム参加のための準備科目としての性格も有することから、学生が海外体験を円滑に取り組めるよう、必要な知見や視座を提供することも意図しています。

なお具体的な本講義の到達目標として、以下の6点を設定しています。

- ① 北九州市立大学がなぜ学生の海外体験を推奨しているのか、大学理念・目的や国際交流の歴史の学習を通じ、理解し、説明できる。
- ② 北九州市立大学の海外体験プログラムの種類や特徴を、私的プログラムとの異同も含め理解し、説明できる。
- ③ 海外体験に伴う負担や危機リスクについて、一定の知見を獲得するとともに、困難に遭遇した際の基本的な対処の仕方を身につけている。
- ④ 海外体験の目標を、自己の成長の観点から、かつ、キャリア設計の観点から、設定することができる。
- ⑤ 授業内容を踏まえ、最終的に、自身の海外体験挑戦計画を策定できる。
  - a) 体験の前までにクリアしなければならない要件を明確に把握できている。
  - b) 要件をクリアするために必要なプロセスを理解し、時間軸の観点を導入した計画を立案することができる。
  - c) 段階ごとに適切な目標を立て、それを達成するために必要な取り組みを考えることができる。
  - d) あわせて、それらに積極的に挑戦し、達成しようとする十分な意欲を有している。
  - e) 海外体験中や帰国後の視点を有している。
- ⑥ 海外体験で得た経験を、後輩たちに共有・継承する意欲や社会に還元しようとする高い意欲を有している。

授業では、講義を中心としますが、必要に応じ、グループワークや個人作業（海外体験を経験した本学学生や海外協定校からの短期留学生への聞き取りやインタビュー）、講演などを組み合わせて進めていきます。この授業を通じ、海外で学ぶことに対する不安や迷いを解消できるように、また皆さんが自身の将来のことをより積極的に考えていけるように、支援したいと考えています。またみなさんの一人でも多くが、KGEP Challengeコースを修了されることを期待します。

（到達目標）

【自立的行動力】外国での学びに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

テキストはありません。

講義資料等は、北方モデルにアップするので、各自、印刷して精読し、持参してください。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

参考文献は、講義時に、適宜、指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 オリエンテーション ～世界の学び方ってどんな授業～...「千里の道も一歩から」
  - 第02回 北九大の「KGEP」と「海外体験プログラム」の紹介...「敵を知り己を知れば百戦危うからずや」
  - 第03回 北九州市立大学の国際交流の歴史と今...「温故知新」
  - 第04回 キャンパスが世界、グローバル化する地域...「灯台下暗し」
  - 第05回 世界の中の日本...「井の中の蛙大海を知らず」
  - 第06回 ショートプログラム(語学研修など)への参加のすすめ...「隗より始めよ」
  - 第07回 「交換留学」や「派遣留学」への挑戦のすすめ...「虎穴に入らずんば虎子を得ず」
  - 第08回 異文化体験と適応...「柳は緑花は紅」
  - 第09回 海外体験を将来にどう生かすか考えよう(成長の可視化)...「艱難、汝を玉にす」
  - 第10回 海外での危機管理を考える① - マインドセット編...「転ばぬ先の杖」
  - 第11回 海外での危機管理を考える② - シミュレーション編...「備えあれば患いなし」
  - 第12回 海外体験計画を作成する...「画竜点睛」
  - 第13回 Group 1による海外体験計画の発表会
  - 第14回 Group 2による海外体験計画の発表会
  - 第15回 Group 3による海外体験計画の発表会
- \* 留学フェアなどの時期により、講座の入替が生じます。具体的な日程は、初回授業時に指示します。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- 授業課題・・・50%
- 実践課題・・・20%
- 最終課題・・・30% (「海外体験挑戦計画」書：30% + 発表：10%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業に臨むことを求めます。また指示に従い、事後学習(課題)を進め、授業内容の定着を図ってください。詳細は、北方ムードルの情報で確認してください。

## 履修上の注意 /Remarks

この授業は、国際教育交流センターが所管する Kitakyushu Global Education Program (KGEP) の一部です。国際教育交流センターの海外体験プログラムの事前教育の一環となりますので、同センターが募集手続きを行う交換留学・派遣留学、語学研修等への参加を考えている方は、本授業を受講することを強くお勧めします。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学は成長の場。4年間をどう過ごすかで、あなたの将来の選択肢は大きく変わります。挑戦なくして成長なし。「夢」は成長の源。「困難」は成長の糧。「出会い」は成長の礎。世界を舞台に、地球規模の視野で考え、現地の視点で行動できる人材になる、そんなあなたの挑戦をサポートします。

## キーワード /Keywords

国際教育交流センター, 国際交流, 海外体験, 交換留学, 派遣留学, 語学研修, 海外短期研修, Kitakyushu Global Challenge Program (KGEP)

# プロフェッショナルの仕事【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR210F					◎
科目名	プロフェッショナルの仕事				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

<目的> 現場の第一線で活躍している社会人に教壇に立って頂き、仕事のやりがいや辛さ、そして自らが成長した学生時代の物語を語って頂きます。その話を聴くことで、①ビジネスの現状 ②仕事の現実 ③将来のために大学時代に何をすべきかを学びます。授業の流れは以下です。

1. 事業の概要 (特にコロナ禍における現状、および今後の方向性について)
2. 仕事の概要 (ご自身の1年目、3年目、5年目の仕事内容と、仕事のやりがい)
3. 大学時代にすべきこと・してほしいこと
4. 学生へのメッセージ (学生が自分の将来を考えていく上でのアドバイス)

<進め方> 講演者の企業団体および仕事を予習して、講演を傾聴します。そこで得た新しい知識や払拭できた先入観、将来へのヒントを元に、「将来のために今すべきこと」をレポートにまとめます。

<目標> 様々な企業や団体の第一線で働いている社会人の話を聴くことで、自らの将来の姿を描くことです。そして、大学時代においてどんな大学生生活を過ごせば良いかを理解します。(到達目標)【自立的行動力】自分自身の成長に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページをみて予習してください。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 全体ガイダンス  
第2～15回 各企業・団体の第一線で働く社会人の講演

※以下は過去の実績です(敬称略・順不同)。

<2020年度> TOTOインフォム、タカギ、日本航空(JAL)、福岡出入国在留管理局、LINE Fukuoka、日本放送協会(NHK)、春日井製菓、杉養蜂園、JR博多シティ、アクセンチュア、田村ビルズ、アイ・ケイ・ケイ、i-plug

<2019年度> サイバーエージェント、RKB毎日放送、テイクアンドグिव・ニーズ(T&G)、サニーサイドアップ、チームラボキッズ(teamLab)、労働基準監督官(厚生労働省)、カモ井加工紙(mt)、大創産業(ダイソー)、西日本旅客鉄道(JR西日本)、スノーピーク、全日本空輸(ANA)、本田技研工業(HONDA)、ヤッホーブルーイング、サマンサタバサジャパンリミテッド

<2018年度> ファミリア、日本航空(JAL)、メルカリ、ペンシル、ソニー、ヤフー、アサヒ飲料、三菱電機、星野リゾート・マネジメント、日立製作所、北九州市役所、マツダ、JTB、宇宙航空研究開発機構(JAXA)

<2017年度> サニーサイドアップ、ジンス(JINS)、JR九州エージェンシー、全日本空輸(ANA)、日本放送協会(NHK)、キャメル珈琲(カルティ・コーヒーファーム)、ヒルトン福岡シーホーク、モスフードサービス(モスバーガー)、日本たばこ産業(JT)、ZOZO、京セラ、北九州市役所、西日本新聞社、近畿日本ツーリスト九州

<2016年度> 電通九州、studio-L、フジドリームエアラインズ、アイリスオーヤマ、福岡県庁、力の源ホールディングス(一風堂)、ジャパネットホールディングス、ワークスアプリケーションズ、福岡地方検察庁、エイチ・アイ・エス、西日本シティ銀行、星野リゾート・マネジメント、ウェザーニューズ、旭酒造(獺祭)

<2015年度> ムーンスター、日本放送協会(NHK)、ホテルオークラ福岡、宇宙航空研究開発機構(JAXA)、九州旅客鉄道(JR九州)、旭化成ホームズ、福岡銀行、タカギ、ソニーリージョナルセールス、阪急交通社、博報堂プロダクツ、日本航空(JAL)、ニトリ、北九州市



## 成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課される予習と復習...91%  
最終レポート...9%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前にMoodleにて、期日までに登壇企業団体の事前学習（予習）を提出すること。また、Moodleを確認し、授業で用いるレジュメやワークシートがあれば印刷して精読し持参すること。授業終了後にMoodleにて、期日までに授業の振り返り（復習）を提出すること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本学の学生は、首都圏の大学生よりも立地的に、企業・団体に働いている社会人と出会う機会が少なくなっています。そんな中、自分の将来への視野を広げたい、将来のために自分を成長させるヒントを得たいと考えている学生のために設計しました。講演者の皆様は大学生活ではなかなか出会うことができない方ばかりです。また、本学の学生を是非採用したいと考える企業団体です。講演者の皆様が本学の学生のために語ってくれた言葉を聞き逃さず、何かを学ぼうという意思を持ってご参加ください。

※人事経験を持ち、全国の企業団体に人脈を持つ教員が、14団体の人事担当者を招致し、その企業紹介や求める力、そして大学時代の過ごし方についてお話しいただくようにコーディネートする。

## キーワード /Keywords

働くこと、成長、キャリア、キャリア発達、大学生、将来の見通し、キャリアデザイン、キャリアプランニング、企業研究  
SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命  
実務経験のある教員による授業



# 企業・団体の課題解決【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR211F					◎
科目名	企業・団体の課題解決		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

<目的> 社会で働くために必要とされる「答えの無い課題に多様な人々と協働しながら挑戦し、成果を出す力」を身につけるために、地元企業団体の現場の課題を題材に、グループで課題解決案を策定・発表し、その企業団体から評価をもらうことが目的です。通常、そのような力は課外におけるインターンシップやプロジェクト活動などで身に付けますが、本授業はそれを明確に単位化したものです。

<進め方> 以下の流れで企業団体（3団体を予定）の課題に挑戦し、各チームで競います。課題解決のノウハウは、その他の回で講義します。

1. 企業団体の社会人にご登壇頂き、現場で対峙しているリアルな課題を提示していただきます。
2. 提示された課題についての解決プランを作成します。
3. 企業団体の社会人に対し、解決プランを中間発表します。  
ここで社会人の方から直接、修正・改善のフィードバックを頂きます。
4. フィードバックを手掛かりに、提示された課題についての解決プランの最終案を作成します。
5. 企業団体の社会人に対し、解決プランの最終案を提示します。  
社会人の方が直接評価を行い、その結果がそのまま成績に反映されます。

<目標> 現場で働く社会人から自らがプランした案に対してフィードバックを頂き、修正し、最終評価を頂くことで、企業団体にて実際に働くために必要とされる「答えの無い課題に多様な人々と協働しながら挑戦し、成果を出す力」を身につけます。そして、その経験を糧に、大学時代においてどんな大学生活を過ごせば良いかを理解します。（到達目標）【自立的行動力】自分自身の成長に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

テキストはありませんが、企業団体の資料はその都度配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページの閲覧および企業団体訪問、統計資料の収集、アンケートの収集、インタビューなどを行い、中間および最終発表の準備をしてください。

また、以下書籍を参考にしてください。

- 見館好隆、保科学世ほか『新しいキャリアデザイン』九州大学出版会  
 ○ジェームス W. ヤング『アイデアのつくり方』CCCメディアハウス  
 ○嶋浩一郎『嶋浩一郎のアイデアのつくり方』デイスカヴァー・トゥエンティワン  
 ○加藤昌治『考具 - 考えるための道具、持っていますか?』CCCメディアハウス  
 ○加藤昌治『チームで考える「アイデア会議」 考具 応用編』CCCメディアハウス  
 ○大嶋祥誉『マッキンゼー流入社1年目問題解決の教科書』SBクリエイティブ  
 ○大嶋祥誉『マンガで読める マッキンゼー流「問題解決」がわかる本』SBクリエイティブ  
 茂木健一郎『最高の結果を引き出す質問力：その問い方が、脳を変える!』河出書房新社  
 ○上野千鶴子『情報生産者になる』筑摩書房  
 ○安斎勇樹、塩瀬隆之『問いのデザイン：創造的対話のファシリテーション』学芸出版社  
 ○伊藤羊一『1分で話せ 世界のトップが絶賛した大事なことだけシンプルに伝える技術』SBクリエイティブ

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 ガイダンス
- 第02回 【団体A】課題提示
- 第03回 【団体B】課題提示
- 第04回 【団体C】課題提示
- 第05回 ロジカルシンキング
- 第06回 アイデアの作り方
- 第07回 相談日
- 第08回 【団体A】中間発表とフィードバック
- 第09回 【団体B】中間発表とフィードバック
- 第10回 【団体C】中間発表とフィードバック
- 第11回 課題解決の仕方（デザイン思考）
- 第12回 相談日
- 第13回 【団体A】最終プレゼンテーション
- 第14回 【団体B】最終プレゼンテーション
- 第15回 【団体C】最終プレゼンテーション

### ※参考

<2020年度の企業団体と課題>

■TOTOインフォーム株式会社

新たな採用活動手法の提案（選ばれる・目につく）

■アイ・ケイ・ケイ株式会社

これからのウェディングに求められるものとは？（誰のためか・他社との違い・今までとの違い・明確な目的）

■株式会社タカギ

コロナショックの今だからこそ、タカギができることは何か？（資産を活用する・1000万円・2021年4月成果報告）

■SALASUSU（カンボジアのNPO）

新規プロジェクトを盛り上げよ！（オンラインショッピング、オンラインツアーなど）

<2019年度の企業団体と課題>

■TOTOインフォーム株式会社

社員が安心して働ける職場を実現するには？

■アイ・ケイ・ケイ株式会社

今までにない感動を体感できるウェディングとは？

■株式会社タカギ

タカギの資産を利用した新提案

<2018年度の企業団体と課題>

■NHK北九州放送局

毎日見なくなる「ニュースブリッジ北九州」になるためには？

■株式会社タカギ

タカギの資産を利用した新提案

■株式会社スターフライヤー

新しい機内販売の提案

## 成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業への取り組み（リフレクション）…56%

最終発表に対する評価（企業団体からの評価と相互評価）…30%

最終レポート…14%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページの閲覧および企業団体訪問、統計資料の収集、アンケートの収集、インタビューなどを行い、中間および最終発表の準備をしてください。また、授業終了後はMoodleで振り返りを行ってください。

## 履修上の注意 /Remarks

※第2～4回までの各企業団体の課題を理解した上で、挑戦する課題とグループを決めます。

※課題に対する取り組み（授業時間以外でのグループワークやフィールドリサーチ、統計資料収集など）による、最終発表が評価の3割を占めます。企業団体のリアルな課題に対し、企業団体の現役社員（職員）からの生のフィードバックが頂ける企業な経験を積むことができます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

就職活動のスケジュールが変わり、以前のように3年生の秋から一斉スタートではなくなりました。そのために、夏季や春季の長期休暇などを活用したインターンシップが、将来の見通しを見出すために重要なファクターとなります。しかし、インターンシップは必ずしも希望する学生全てが参加できません（受け入れ企業団体が少ないため）。ゆえに、「授業の中」に企業団体の課題に取り組む機会を作り込み、現場の仕事を体感することで、多くの学生が働くことをイメージすることを狙って設計した授業です。企業団体の方から、直接フィードバックをもらえる機会はなかなかありません。本授業での経験を手掛かりに将来の見通しのヒントを得て、そのヒントを今後の大学生活における学業や課外活動への取組に活かすことを切に願っています。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

※人事経験を持ち、全国の企業団体に人脈を持つ教員が、3団体の人事担当者と連携し、課題解決型授業を運営。

## キーワード /Keywords

キャリア、成長、プレゼンテーション、フィールドリサーチ、マーケティング、クリエイティブシンキング、ロジカルシンキング、リーダーシップ

SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命  
実務経験のある教員による授業

# Communicative English I〔英米〕(英1-A)【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第一外国語

担当者名 /Instructor アーノルド・ウエイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1-A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			

科目名	Communicative English I
-----	-------------------------

※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく1つの到達目標

技能: 学術研究に十分な英語力を身につけ、適切に運用することができる。

In this course you will focus on improving your reading and writing skills. We will focus on academic readings that deal with a number of different topics that we hope will be of interest to you, including animals, the environment, health and fitness, fashion, and economics.

You will learn vocabulary to help you understand the readings. As an extension of this, you will also focus on collocations, or the ways that words go together, which will be useful in helping to you become a better writer in English.

This course will include work to help you think critically as you read, and activities designed to improve the way that you express your ideas when writing in English. You will, to a lesser extent, do speaking and listening activities, but the major focus of the course will be on improving your accuracy and fluency in reading, and your fluency in writing.

Ultimately, in this course you will learn skills that will help you to read and understand the academic texts that you will see in your future courses in the department.

## 教科書 /Textbooks

Baker, Lida & Westbrook, Carolyn. (2018). Prism Reading 2 Student's Book with Online Workbook. Cambridge University Press.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Where and when appropriate, the class teacher will recommend background reading to support vocabulary development.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 Introduction to the course
- 2 Unit 1: Animals  
Reading 1: Endangered Species; Language development
- 3 Unit 1: Animals  
Reading 2: Losing the Battle for Survival; Language development
- 4 Unit 2: The Environment  
Reading 1: Our Changing Planet; Language development
- 5 Unit 2: The Environment  
Reading 2: The Causes & Effects of Deforestation; Language development
- 6 Unit 4: Customs & Traditions  
Reading 1: Customs around the World; Language development
- 7 Unit 4: Customs & Traditions  
Reading 2: Nontraditional Weddings; Language development
- 8 Unit 5: Health & Fitness  
Reading 1: Exercise; Language development
- 9 Unit 5: Health & Fitness  
Reading 2: Tackling Obesity; Language development
- 10 Unit 6: Discovery & Invention  
Reading 1: The Magic of Mimicry; Language development
- 11 Unit 6: Discovery & Invention  
Reading 2: Technology of the Future; Language development
- 12 Unit 7: Fashion  
Reading 1: Is Fast Fashion Taking Over?; Language development
- 13 Unit 7: Fashion  
Reading 2: Offshore Textile Production; Language development
- 14 Unit 8: Economics  
Reading 1: Investing: Two Alternatives To Consider; Language development
- 15 Unit 8: Economics  
Reading 2: What Has Happened to the American Dream?; Language development

## 成績評価の方法 /Assessment Method

60-100% attributed to in-class assignments, homework assignments, and/or final examination/project. PLEASE NOTE: It is possible that up to 40% of the final grade for this course will be determined according to performance in the TOEIC test. Further explanation will be given when the course begins.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are advised to prepare for each class by reading through the relevant section of the textbook in advance. Each class will be reviewed through reading- and writing-focused assignments.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# Communicative English I〔英米〕(英1-B)【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第一外国語

担当者名 /Instructor クリステイン・マイスター / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1-B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			
科目名	Communicative English I		※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく1つの到達目標

技能: 学術研究に十分な英語力を身につけ、適切に運用することができる。

In this course you will focus on improving your reading and writing skills. We will focus on academic readings that deal with a number of different topics that we hope will be of interest to you, including animals, the environment, health and fitness, fashion, and economics.

You will learn vocabulary to help you understand the readings. As an extension of this, you will also focus on collocations, or the ways that words go together, which will be useful in helping to you become a better writer in English.

This course will include work to help you think critically as you read, and activities designed to improve the way that you express your ideas when writing in English. You will, to a lesser extent, do speaking and listening activities, but the major focus of the course will be on improving your accuracy and fluency in reading, and your fluency in writing.

Ultimately, in this course you will learn skills that will help you to read and understand the academic texts that you will see in your future courses in the department.

## 教科書 /Textbooks

Baker, Lida & Westbrook, Carolyn. (2018). Prism Reading 2 Student's Book with Online Workbook. Cambridge University Press.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Where and when appropriate, the class teacher will recommend background reading to support vocabulary development.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 Introduction to the course
- 2 Unit 1: Animals  
Reading 1: Endangered Species; Language development
- 3 Unit 1: Animals  
Reading 2: Losing the Battle for Survival; Language development
- 4 Unit 2: The Environment  
Reading 1: Our Changing Planet; Language development
- 5 Unit 2: The Environment  
Reading 2: The Causes & Effects of Deforestation; Language development
- 6 Unit 4: Customs & Traditions  
Reading 1: Customs around the World; Language development
- 7 Unit 4: Customs & Traditions  
Reading 2: Nontraditional Weddings; Language development
- 8 Unit 5: Health & Fitness  
Reading 1: Exercise; Language development
- 9 Unit 5: Health & Fitness  
Reading 2: Tackling Obesity; Language development
- 10 Unit 6: Discovery & Invention  
Reading 1: The Magic of Mimicry; Language development
- 11 Unit 6: Discovery & Invention  
Reading 2: Technology of the Future; Language development
- 12 Unit 7: Fashion  
Reading 1: Is Fast Fashion Taking Over?; Language development
- 13 Unit 7: Fashion  
Reading 2: Offshore Textile Production; Language development
- 14 Unit 8: Economics  
Reading 1: Investing: Two Alternatives To Consider; Language development
- 15 Unit 8: Economics  
Reading 2: What Has Happened to the American Dream?; Language development

## 成績評価の方法 /Assessment Method

60-100% attributed to in-class assignments, homework assignments, and/or final examination/project. PLEASE NOTE: It is possible that up to 40% of the final grade for this course will be determined according to performance in the TOEIC test. Further explanation will be given when the course begins.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are advised to prepare for each class by reading through the relevant section of the textbook in advance. Each class will be reviewed through reading- and writing-focused assignments.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# Communicative English I〔英米〕(英1-C)【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第一外国語

担当者名 /Instructor ポール・ガラブ・スティーラー / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1-C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			

科目名	Communicative English I	※修得できる能力との関連性 ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連
-----	-------------------------	----------------------------------

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく1つの到達目標

技能: 学術研究に十分な英語力を身につけ、適切に運用することができる。

In this course you will focus on improving your reading and writing skills. We will focus on academic readings that deal with a number of different topics that we hope will be of interest to you, including animals, the environment, health and fitness, fashion, and economics.

You will learn vocabulary to help you understand the readings. As an extension of this, you will also focus on collocations, or the ways that words go together, which will be useful in helping to you become a better writer in English.

This course will include work to help you think critically as you read, and activities designed to improve the way that you express your ideas when writing in English. You will, to a lesser extent, do speaking and listening activities, but the major focus of the course will be on improving your accuracy and fluency in reading, and your fluency in writing.

Ultimately, in this course you will learn skills that will help you to read and understand the academic texts that you will see in your future courses in the department.

## 教科書 /Textbooks

Baker, Lida & Westbrook, Carolyn. (2018). Prism Reading 2 Student's Book with Online Workbook. Cambridge University Press.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Where and when appropriate, the class teacher will recommend background reading to support vocabulary development.



## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 Introduction to the course
- 2 Unit 1: Animals  
Reading 1: Endangered Species; Language development
- 3 Unit 1: Animals  
Reading 2: Losing the Battle for Survival; Language development
- 4 Unit 2: The Environment  
Reading 1: Our Changing Planet; Language development
- 5 Unit 2: The Environment  
Reading 2: The Causes & Effects of Deforestation; Language development
- 6 Unit 4: Customs & Traditions  
Reading 1: Customs around the World; Language development
- 7 Unit 4: Customs & Traditions  
Reading 2: Nontraditional Weddings; Language development
- 8 Unit 5: Health & Fitness  
Reading 1: Exercise; Language development
- 9 Unit 5: Health & Fitness  
Reading 2: Tackling Obesity; Language development
- 10 Unit 6: Discovery & Invention  
Reading 1: The Magic of Mimicry; Language development
- 11 Unit 6: Discovery & Invention  
Reading 2: Technology of the Future; Language development
- 12 Unit 7: Fashion  
Reading 1: Is Fast Fashion Taking Over?; Language development
- 13 Unit 7: Fashion  
Reading 2: Offshore Textile Production; Language development
- 14 Unit 8: Economics  
Reading 1: Investing: Two Alternatives To Consider; Language development
- 15 Unit 8: Economics  
Reading 2: What Has Happened to the American Dream?; Language development

## 成績評価の方法 /Assessment Method

60-100% attributed to in-class assignments, homework assignments, and/or final examination/project. PLEASE NOTE: It is possible that up to 40% of the final grade for this course will be determined according to performance in the TOEIC test. Further explanation will be given when the course begins.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are advised to prepare for each class by reading through the relevant section of the textbook in advance. Each class will be reviewed through reading- and writing-focused assignments.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# Communicative English I〔英米〕(英1-D)【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第一外国語

担当者名 /Instructor アーノルド・ウエイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1-D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			

科目名	Communicative English I	※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連
-----	-------------------------	-------------------------------------

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく1つの到達目標  
技能: 学術研究に十分な英語力を身につけ、適切に運用することができる。

In this course you will focus on improving your reading and writing skills. We will focus on academic readings that deal with a number of different topics that we hope will be of interest to you, including animals, the environment, health and fitness, fashion, and economics.

You will learn vocabulary to help you understand the readings. As an extension of this, you will also focus on collocations, or the ways that words go together, which will be useful in helping to you become a better writer in English.

This course will include work to help you think critically as you read, and activities designed to improve the way that you express your ideas when writing in English. You will, to a lesser extent, do speaking and listening activities, but the major focus of the course will be on improving your accuracy and fluency in reading, and your fluency in writing.

Ultimately, in this course you will learn skills that will help you to read and understand the academic texts that you will see in your future courses in the department.

## 教科書 /Textbooks

Baker, Lida & Westbrook, Carolyn. (2018). Prism Reading 2 Student's Book with Online Workbook. Cambridge University Press.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Where and when appropriate, the class teacher will recommend background reading to support vocabulary development.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 Introduction to the course
- 2 Unit 1: Animals  
Reading 1: Endangered Species; Language development
- 3 Unit 1: Animals  
Reading 2: Losing the Battle for Survival; Language development
- 4 Unit 2: The Environment  
Reading 1: Our Changing Planet; Language development
- 5 Unit 2: The Environment  
Reading 2: The Causes & Effects of Deforestation; Language development
- 6 Unit 4: Customs & Traditions  
Reading 1: Customs around the World; Language development
- 7 Unit 4: Customs & Traditions  
Reading 2: Nontraditional Weddings; Language development
- 8 Unit 5: Health & Fitness  
Reading 1: Exercise; Language development
- 9 Unit 5: Health & Fitness  
Reading 2: Tackling Obesity; Language development
- 10 Unit 6: Discovery & Invention  
Reading 1: The Magic of Mimicry; Language development
- 11 Unit 6: Discovery & Invention  
Reading 2: Technology of the Future; Language development
- 12 Unit 7: Fashion  
Reading 1: Is Fast Fashion Taking Over?; Language development
- 13 Unit 7: Fashion  
Reading 2: Offshore Textile Production; Language development
- 14 Unit 8: Economics  
Reading 1: Investing: Two Alternatives To Consider; Language development
- 15 Unit 8: Economics  
Reading 2: What Has Happened to the American Dream?; Language development

## 成績評価の方法 /Assessment Method

60-100% attributed to in-class assignments, homework assignments, and/or final examination/project. PLEASE NOTE: It is possible that up to 40% of the final grade for this course will be determined according to performance in the TOEIC test. Further explanation will be given when the course begins.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are advised to prepare for each class by reading through the relevant section of the textbook in advance. Each class will be reviewed through reading- and writing-focused assignments.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# Communicative English I〔英米〕(英1-E)【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第一外国語

担当者名 /Instructor クリステイン・マイスター / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1-E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			

科目名	Communicative English I	※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連
-----	-------------------------	-------------------------------------

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく1つの到達目標

技能: 学術研究に十分な英語力を身につけ、適切に運用することができる。

In this course you will focus on improving your reading and writing skills. We will focus on academic readings that deal with a number of different topics that we hope will be of interest to you, including animals, the environment, health and fitness, fashion, and economics.

You will learn vocabulary to help you understand the readings. As an extension of this, you will also focus on collocations, or the ways that words go together, which will be useful in helping to you become a better writer in English.

This course will include work to help you think critically as you read, and activities designed to improve the way that you express your ideas when writing in English. You will, to a lesser extent, do speaking and listening activities, but the major focus of the course will be on improving your accuracy and fluency in reading, and your fluency in writing.

Ultimately, in this course you will learn skills that will help you to read and understand the academic texts that you will see in your future courses in the department.

## 教科書 /Textbooks

Baker, Lida & Westbrook, Carolyn. (2018). Prism Reading 2 Student's Book with Online Workbook. Cambridge University Press.

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

Where and when appropriate, the class teacher will recommend background reading to support vocabulary development.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 Introduction to the course
- 2 Unit 1: Animals  
Reading 1: Endangered Species; Language development
- 3 Unit 1: Animals  
Reading 2: Losing the Battle for Survival; Language development
- 4 Unit 2: The Environment  
Reading 1: Our Changing Planet; Language development
- 5 Unit 2: The Environment  
Reading 2: The Causes & Effects of Deforestation; Language development
- 6 Unit 4: Customs & Traditions  
Reading 1: Customs around the World; Language development
- 7 Unit 4: Customs & Traditions  
Reading 2: Nontraditional Weddings; Language development
- 8 Unit 5: Health & Fitness  
Reading 1: Exercise; Language development
- 9 Unit 5: Health & Fitness  
Reading 2: Tackling Obesity; Language development
- 10 Unit 6: Discovery & Invention  
Reading 1: The Magic of Mimicry; Language development
- 11 Unit 6: Discovery & Invention  
Reading 2: Technology of the Future; Language development
- 12 Unit 7: Fashion  
Reading 1: Is Fast Fashion Taking Over?; Language development
- 13 Unit 7: Fashion  
Reading 2: Offshore Textile Production; Language development
- 14 Unit 8: Economics  
Reading 1: Investing: Two Alternatives To Consider; Language development
- 15 Unit 8: Economics  
Reading 2: What Has Happened to the American Dream?; Language development

## 成績評価の方法 /Assessment Method

60-100% attributed to in-class assignments, homework assignments, and/or final examination/project. PLEASE NOTE: It is possible that up to 40% of the final grade for this course will be determined according to performance in the TOEIC test. Further explanation will be given when the course begins.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are advised to prepare for each class by reading through the relevant section of the textbook in advance. Each class will be reviewed through reading- and writing-focused assignments.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# Communicative English I〔英米〕(英1-F)【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第一外国語

担当者名 /Instructor アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1-F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			
科目名	Communicative English I		※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく1つの到達目標  
技能: 学術研究に十分な英語力を身につけ、適切に運用することができる。

In this course you will focus on improving your reading and writing skills. We will focus on academic readings that deal with a number of different topics that we hope will be of interest to you, including animals, the environment, health and fitness, fashion, and economics.

You will learn vocabulary to help you understand the readings. As an extension of this, you will also focus on collocations, or the ways that words go together, which will be useful in helping to you become a better writer in English.

This course will include work to help you think critically as you read, and activities designed to improve the way that you express your ideas when writing in English. You will, to a lesser extent, do speaking and listening activities, but the major focus of the course will be on improving your accuracy and fluency in reading, and your fluency in writing.

Ultimately, in this course you will learn skills that will help you to read and understand the academic texts that you will see in your future courses in the department.

## 教科書 /Textbooks

Baker, Lida & Westbrook, Carolyn. (2018). Prism Reading 2 Student's Book with Online Workbook. Cambridge University Press.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Where and when appropriate, the class teacher will recommend background reading to support vocabulary development.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 Introduction to the course
- 2 Unit 1: Animals  
Reading 1: Endangered Species; Language development
- 3 Unit 1: Animals  
Reading 2: Losing the Battle for Survival; Language development
- 4 Unit 2: The Environment  
Reading 1: Our Changing Planet; Language development
- 5 Unit 2: The Environment  
Reading 2: The Causes & Effects of Deforestation; Language development
- 6 Unit 4: Customs & Traditions  
Reading 1: Customs around the World; Language development
- 7 Unit 4: Customs & Traditions  
Reading 2: Nontraditional Weddings; Language development
- 8 Unit 5: Health & Fitness  
Reading 1: Exercise; Language development
- 9 Unit 5: Health & Fitness  
Reading 2: Tackling Obesity; Language development
- 10 Unit 6: Discovery & Invention  
Reading 1: The Magic of Mimicry; Language development
- 11 Unit 6: Discovery & Invention  
Reading 2: Technology of the Future; Language development
- 12 Unit 7: Fashion  
Reading 1: Is Fast Fashion Taking Over?; Language development
- 13 Unit 7: Fashion  
Reading 2: Offshore Textile Production; Language development
- 14 Unit 8: Economics  
Reading 1: Investing: Two Alternatives To Consider; Language development
- 15 Unit 8: Economics  
Reading 2: What Has Happened to the American Dream?; Language development

## 成績評価の方法 /Assessment Method

60-100% attributed to in-class assignments, homework assignments, and/or final examination/project. PLEASE NOTE: It is possible that up to 40% of the final grade for this course will be determined according to performance in the TOEIC test. Further explanation will be given when the course begins.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are advised to prepare for each class by reading through the relevant section of the textbook in advance. Each class will be reviewed through reading- and writing-focused assignments.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# Communicative English II〔英米〕(英1-A)【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第一外国語

担当者名 /Instructor ポール・ガラブ・スティーラー / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1-A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			

科目名	Communicative English II	※修得できる能力との関連性 ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連
-----	--------------------------	----------------------------------

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
技能: 学術研究に十分な英語力を身につけ、適切に運用することができる。

The course objective is to give students the opportunity to develop Listening, Speaking and Critical thinking Skills. The course focuses on situational English communication skills, taking into consideration cultural and social values and analytical skills in an international context. Students will learn words and expressions to improve fluency and accuracy in their conversations, interactions and build strong social relationships.

In class students will work in pairs and small groups to complete the textbook's exercises, conversations and practice discussions.

## 教科書 /Textbooks

Pathways. Listening, Speaking, and Critical Thinking 3. Second Edition (2018).  
Author: Becky Tarver Chase and Christien Lee  
Publisher: National Geographic Learning, Cengage Learning.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

References may be recommended.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1- Course Introduction and first chapter: The Science of Shopping
- 2- The Science of Shopping
- 3- The Science of Shopping
- 4- Mother Nature
- 5- Mother Nature
- 6- On the Move
- 7- On the Move
- 8- Pair presentation Assignment
- 9- Our Changing Planet
- 10- Our Changing Planet
- 11- Our Changing Planet
- 12- Making a Living, Making a Difference
- 13- Making a Living, Making a Difference
- 14- Making a Living, Making a Difference
- 15- Small Group Presentation Assignment



## 成績評価の方法 /Assessment Method

Class activities:

- Pair Presentation Assignment (1) 30%
- Small Group Presentation Assignment (2) 30%
- Textbook Assignments 20%
- Class Participation 20%

It is possible that up to 40% of the final grade for this course will be determined according to performance in the TOEIC test.  
Further explanation will be given when the course begins.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are asked to review the course material before and after class.

## 履修上の注意 /Remarks

Please be on time, and do not miss more than 5 sessions without an explanation.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# Communicative English II〔英米〕(英1-B)【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第一外国語

担当者名 /Instructor ブルック 前田 / Brooke Maeda / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1-B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			
科目名	Communicative English II		※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
技能: 学術研究に十分な英語力を身につけ、適切に運用することができる。

The course objective is to give students the opportunity to develop Listening, Speaking and Critical thinking Skills. The course focuses on situational English communication skills, taking into consideration cultural and social values and analytical skills in an international context. Students will learn words and expressions to improve fluency and accuracy in their conversations, interactions and build strong social relationships.

In class students will work in pairs and small groups to complete the textbook's exercises, conversations and practice discussions.

## 教科書 /Textbooks

Pathways. Listening, Speaking, and Critical Thinking 3. Second Edition (2018).  
Author: Becky Tarver Chase and Christien Lee  
Publisher: National Geographic Learning, Cengage Learning.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

References may be recommended.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1- Course Introduction and first chapter: The Science of Shopping
- 2- The Science of Shopping
- 3- The Science of Shopping
- 4- Mother Nature
- 5- Mother Nature
- 6- On the Move
- 7- On the Move
- 8- Pair presentation Assignment
- 9- Our Changing Planet
- 10- Our Changing Planet
- 11- Our Changing Planet
- 12- Making a Living, Making a Difference
- 13- Making a Living, Making a Difference
- 14- Making a Living, Making a Difference
- 15- Small Group Presentation Assignment

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Class activities:

- Pair Presentation Assignment (1) 30%
- Small Group Presentation Assignment (2) 30%
- Textbook Assignments 20%
- Class Participation 20%

It is possible that up to 40% of the final grade for this course will be determined according to performance in the TOEIC test.  
Further explanation will be given when the course begins.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are asked to review the course material before and after class.

## 履修上の注意 /Remarks

Please be on time, and do not miss more than 5 sessions without an explanation.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# Communicative English II〔英米〕(英1-C)【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第一外国語

担当者名 /Instructor クリステイン・マイスター / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1-C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			
科目名	Communicative English II		※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
技能: 学術研究に十分な英語力を身につけ、適切に運用することができる。

The course objective is to give students the opportunity to develop Listening, Speaking and Critical thinking Skills. The course focuses on situational English communication skills, taking into consideration cultural and social values and analytical skills in an international context. Students will learn words and expressions to improve fluency and accuracy in their conversations, interactions and build strong social relationships.  
In class students will work in pairs and small groups to complete the textbook's exercises, conversations and practice discussions.

## 教科書 /Textbooks

Pathways. Listening, Speaking, and Critical Thinking 3. Second Edition (2018).  
Author: Becky Tarver Chase and Christien Lee  
Publisher: National Geographic Learning, Cengage Learning.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

References may be recommended.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1- Course Introduction and first chapter: The Science of Shopping
- 2- The Science of Shopping
- 3- The Science of Shopping
- 4- Mother Nature
- 5- Mother Nature
- 6- On the Move
- 7- On the Move
- 8- Pair presentation Assignment
- 9- Our Changing Planet
- 10- Our Changing Planet
- 11- Our Changing Planet
- 12- Making a Living, Making a Difference
- 13- Making a Living, Making a Difference
- 14- Making a Living, Making a Difference
- 15- Small Group Presentation Assignment

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Class activities:

- Pair Presentation Assignment (1) 30%
- Small Group Presentation Assignment (2) 30%
- Textbook Assignments 20%
- Class Participation 20%

It is possible that up to 40% of the final grade for this course will be determined according to performance in the TOEIC test.  
Further explanation will be given when the course begins.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are asked to review the course material before and after class.

## 履修上の注意 /Remarks

Please be on time, and do not miss more than 5 sessions without an explanation.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# Communicative English II〔英米〕(英1-D)【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第一外国語

担当者名 /Instructor カール・マックナマラ・ページ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1-D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			
科目名	Communicative English II		※修得できる能力との関連性 ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
技能: 学術研究に十分な英語力を身につけ、適切に運用することができる。

The course objective is to give students the opportunity to develop Listening, Speaking and Critical thinking Skills. The course focuses on situational English communication skills, taking into consideration cultural and social values and analytical skills in an international context. Students will learn words and expressions to improve fluency and accuracy in their conversations, interactions and build strong social relationships.

In class students will work in pairs and small groups to complete the textbook's exercises, conversations and practice discussions.

## 教科書 /Textbooks

Pathways. Listening, Speaking, and Critical Thinking 3. Second Edition (2018).  
Author: Becky Tarver Chase and Christien Lee  
Publisher: National Geographic Learning, Cengage Learning.

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

References may be recommended.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1- Course Introduction and first chapter: The Science of Shopping
- 2- The Science of Shopping
- 3- The Science of Shopping
- 4- Mother Nature
- 5- Mother Nature
- 6- On the Move
- 7- On the Move
- 8- Pair presentation Assignment
- 9- Our Changing Planet
- 10- Our Changing Planet
- 11- Our Changing Planet
- 12- Making a Living, Making a Difference
- 13- Making a Living, Making a Difference
- 14- Making a Living, Making a Difference
- 15- Small Group Presentation Assignment

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Class activities:

- Pair Presentation Assignment (1) 30%
- Small Group Presentation Assignment (2) 30%
- Textbook Assignments 20%
- Class Participation 20%

It is possible that up to 40% of the final grade for this course will be determined according to performance in the TOEIC test.  
Further explanation will be given when the course begins.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are asked to review the course material before and after class.

## 履修上の注意 /Remarks

Please be on time, and do not miss more than 5 sessions without an explanation.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# Communicative English II〔英米〕(英1-E)【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第一外国語

担当者名 /Instructor: ホロウェイ グレゴリー キース / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次  
単位 /Credits: 1単位  
学期 /Semester: 1学期  
授業形態 /Class Format: 講義  
クラス /Class: 英1-E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			

科目名	Communicative English II
-----	--------------------------

※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
技能: 学術研究に十分な英語力を身につけ、適切に運用することができる。

The course objective is to give students the opportunity to develop Listening, Speaking and Critical thinking Skills. The course focuses on situational English communication skills, taking into consideration cultural and social values and analytical skills in an international context. Students will learn words and expressions to improve fluency and accuracy in their conversations, interactions and build strong social relationships.

In class students will work in pairs and small groups to complete the textbook's exercises, conversations and practice discussions.

## 教科書 /Textbooks

Pathways. Listening, Speaking, and Critical Thinking 3. Second Edition (2018).  
Author: Becky Tarver Chase and Christien Lee  
Publisher: National Geographic Learning, Cengage Learning.

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

References may be recommended.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1- Course Introduction and first chapter: The Science of Shopping
- 2- The Science of Shopping
- 3- The Science of Shopping
- 4- Mother Nature
- 5- Mother Nature
- 6- On the Move
- 7- On the Move
- 8- Pair presentation Assignment
- 9- Our Changing Planet
- 10- Our Changing Planet
- 11- Our Changing Planet
- 12- Making a Living, Making a Difference
- 13- Making a Living, Making a Difference
- 14- Making a Living, Making a Difference
- 15- Small Group Presentation Assignment



## 成績評価の方法 /Assessment Method

Class activities:

- Pair Presentation Assignment (1) 30%
- Small Group Presentation Assignment (2) 30%
- Textbook Assignments 20%
- Class Participation 20%

It is possible that up to 40% of the final grade for this course will be determined according to performance in the TOEIC test.  
Further explanation will be given when the course begins.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are asked to review the course material before and after class.

## 履修上の注意 /Remarks

Please be on time, and do not miss more than 5 sessions without an explanation.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# Communicative English II〔英米〕(英1-F)【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第一外国語

担当者名 /Instructor 口ドルフォ デルガド / Rodolfo Delgado / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1-F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			
科目名	Communicative English II		※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
技能: 学術研究に十分な英語力を身につけ、適切に運用することができる。

The course objective is to give students the opportunity to develop Listening, Speaking and Critical thinking Skills. The course focuses on situational English communication skills, taking into consideration cultural and social values and analytical skills in an international context. Students will learn words and expressions to improve fluency and accuracy in their conversations, interactions and build strong social relationships.

In class students will work in pairs and small groups to complete the textbook's exercises, conversations and practice discussions.

## 教科書 /Textbooks

Pathways. Listening, Speaking, and Critical Thinking 3. Second Edition (2018).  
Author: Becky Tarver Chase and Christien Lee  
Publisher: National Geographic Learning, Cengage Learning.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

References may be recommended.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1- Course Introduction and first chapter: The Science of Shopping
- 2- The Science of Shopping
- 3- The Science of Shopping
- 4- Mother Nature
- 5- Mother Nature
- 6- On the Move
- 7- On the Move
- 8- Pair presentation Assignment
- 9- Our Changing Planet
- 10- Our Changing Planet
- 11- Our Changing Planet
- 12- Making a Living, Making a Difference
- 13- Making a Living, Making a Difference
- 14- Making a Living, Making a Difference
- 15- Small Group Presentation Assignment

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Class activities:

- Pair Presentation Assignment (1) 30%
- Small Group Presentation Assignment (2) 30%
- Textbook Assignments 20%
- Class Participation 20%

It is possible that up to 40% of the final grade for this course will be determined according to performance in the TOEIC test.  
Further explanation will be given when the course begins.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are asked to review the course material before and after class.

## 履修上の注意 /Remarks

Please be on time, and do not miss more than 5 sessions without an explanation.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# Communicative English III〔英米〕(英1-A)【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第一外国語

担当者名 /Instructor クリステイン・マイスター / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1-A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III		※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

DP 技能: 学術研究に十分な英語力を身につけ、適切に運用することができる。

Communicative English III aims to improve students' reading and writing ability in English for academic purposes. Students are expected to actively participate in all class activities and are responsible for writing a short research paper. During the course, we will ask students to learn academic vocabulary in order to prepare for academic work in English during their course of study at this university.

## 教科書 /Textbooks

Pathways: Reading, Writing, and Critical Thinking 3A: Split 3A Second Edition with Online Workbook Access Code  
Cengage Learning Mari Vargo, Laurie Blass.  
ISBN 9781337624923

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Further reading may be recommended as the course progresses.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction: Course Goals and Outline
2. 1A Social Relationships
3. 1B Social Relationships
4. 2A Science and Investigation
5. 2B Science and Investigation
6. 3A City Solutions
7. 3B City Solutions
8. Short individual presentations
9. 4A Danger Zones
10. 4B Danger Zones
11. 5A The Travel Business
12. 5B The Travel Business
13. Presentations on research paper topics A
14. Presentations on research paper topics B
15. Presentations on research paper topics C

Schedule and pace may be altered to fit the needs of the class. Further explanation will be given in the first session.

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Research Paper/Presentation: ( 50 % )

Short individual presentation: ( 20 % )

Homework Activities : ( 30 % )

Please note that it is possible that up to 40% of the final grade for this course will be determined according to performance in the TOEIC test and/or a vocabulary development program. Should this be the case the percentages listed directly above will be modified as appropriate. Further explanation will be given when the course begins.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

From Week 2 on, students should prepare for each class by carefully reading through the assigned text a day or two before we meet. Homework assignments will be used to review course content. Re-reading of assigned texts after each class is also encouraged.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# Communicative English III〔英米〕(英1-B)【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第一外国語

担当者名 /Instructor オム ウォンソブ / Eum Wonsub / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1-B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III				

※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

## 授業の概要 /Course Description

DP 技能: 学術研究に十分な英語力を身につけ、適切に運用することができる。

Communicative English III aims to improve students' reading and writing ability in English for academic purposes. Students are expected to actively participate in all class activities and are responsible for writing a short research paper. During the course, we will ask students to learn academic vocabulary in order to prepare for academic work in English during their course of study at this university.

## 教科書 /Textbooks

Pathways: Reading, Writing, and Critical Thinking 3A: Split 3A Second Edition with Online Workbook Access Code  
Cengage Learning Mari Vargo, Laurie Blass.  
ISBN 9781337624923

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Further reading may be recommended as the course progresses.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction: Course Goals and Outline
2. 1A Social Relationships
3. 1B Social Relationships
4. 2A Science and Investigation
5. 2B Science and Investigation
6. 3A City Solutions
7. 3B City Solutions
8. Short individual presentations
9. 4A Danger Zones
10. 4B Danger Zones
11. 5A The Travel Business
12. 5B The Travel Business
13. Presentations on research paper topics A
14. Presentations on research paper topics B
15. Presentations on research paper topics C

Schedule and pace may be altered to fit the needs of the class. Further explanation will be given in the first session.

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Research Paper/Presentation: ( 50 % )

Short individual presentation: ( 20 % )

Homework Activities : ( 30 % )

Please note that it is possible that up to 40% of the final grade for this course will be determined according to performance in the TOEIC test and/or a vocabulary development program. Should this be the case the percentages listed directly above will be modified as appropriate. Further explanation will be given when the course begins.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

From Week 2 on, students should prepare for each class by carefully reading through the assigned text a day or two before we meet. Homework assignments will be used to review course content. Re-reading of assigned texts after each class is also encouraged.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# Communicative English III〔英米〕(英1-C)【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第一外国語

担当者名 /Instructor 口ドルフォ デルガド / Rodolfo Delgado / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1-C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III				

※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

## 授業の概要 /Course Description

DP 技能: 学術研究に十分な英語力を身につけ、適切に運用することができる。

Communicative English III aims to improve students' reading and writing ability in English for academic purposes. Students are expected to actively participate in all class activities and are responsible for writing a short research paper. During the course, we will ask students to learn academic vocabulary in order to prepare for academic work in English during their course of study at this university.

## 教科書 /Textbooks

Pathways: Reading, Writing, and Critical Thinking 3A: Split 3A Second Edition with Online Workbook Access Code  
Cengage Learning Mari Vargo, Laurie Blass.  
ISBN 9781337624923

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Further reading may be recommended as the course progresses.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction: Course Goals and Outline
2. 1A Social Relationships
3. 1B Social Relationships
4. 2A Science and Investigation
5. 2B Science and Investigation
6. 3A City Solutions
7. 3B City Solutions
8. Short individual presentations
9. 4A Danger Zones
10. 4B Danger Zones
11. 5A The Travel Business
12. 5B The Travel Business
13. Presentations on research paper topics A
14. Presentations on research paper topics B
15. Presentations on research paper topics C

Schedule and pace may be altered to fit the needs of the class. Further explanation will be given in the first session.



## 成績評価の方法 /Assessment Method

Research Paper/Presentation: ( 50 % )

Short individual presentation: ( 20 % )

Homework Activities : ( 30 % )

Please note that it is possible that up to 40% of the final grade for this course will be determined according to performance in the TOEIC test and/or a vocabulary development program. Should this be the case the percentages listed directly above will be modified as appropriate. Further explanation will be given when the course begins.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

From Week 2 on, students should prepare for each class by carefully reading through the assigned text a day or two before we meet. Homework assignments will be used to review course content. Re-reading of assigned texts after each class is also encouraged.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# Communicative English III〔英米〕(英1-D)【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第一外国語

担当者名 /Instructor 藤下 友子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1-D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			

科目名	Communicative English III	※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連
-----	---------------------------	-------------------------------------

## 授業の概要 /Course Description

DP 技能: 学術研究に十分な英語力を身につけ、適切に運用することができる。

Communicative English III aims to improve students' reading and writing ability in English for academic purposes. Students are expected to actively participate in all class activities and are responsible for writing a short research paper. During the course, we will ask students to learn academic vocabulary in order to prepare for academic work in English during their course of study at this university.

## 教科書 /Textbooks

Pathways: Reading, Writing, and Critical Thinking 3A: Split 3A Second Edition with Online Workbook Access Code  
Cengage Learning Mari Vargo, Laurie Blass.  
ISBN 9781337624923

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Further reading may be recommended as the course progresses.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction: Course Goals and Outline
2. 1A Social Relationships
3. 1B Social Relationships
4. 2A Science and Investigation
5. 2B Science and Investigation
6. 3A City Solutions
7. 3B City Solutions
8. Short individual presentations
9. 4A Danger Zones
10. 4B Danger Zones
11. 5A The Travel Business
12. 5B The Travel Business
13. Presentations on research paper topics A
14. Presentations on research paper topics B
15. Presentations on research paper topics C

Schedule and pace may be altered to fit the needs of the class. Further explanation will be given in the first session.

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Research Paper/Presentation: ( 50 % )

Short individual presentation: ( 20 % )

Homework Activities : ( 30 % )

Please note that it is possible that up to 40% of the final grade for this course will be determined according to performance in the TOEIC test and/or a vocabulary development program. Should this be the case the percentages listed directly above will be modified as appropriate. Further explanation will be given when the course begins.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

From Week 2 on, students should prepare for each class by carefully reading through the assigned text a day or two before we meet. Homework assignments will be used to review course content. Re-reading of assigned texts after each class is also encouraged.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# Communicative English III〔英米〕(英1-E)【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第一外国語

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英1-E /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III		※修得できる能力との関連性 ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

DP 技能: 学術研究に十分な英語力を身につけ、適切に運用することができる。

Communicative English III aims to improve students' reading and writing ability in English for academic purposes. Students are expected to actively participate in all class activities and are responsible for writing a short research paper. During the course, we will ask students to learn academic vocabulary in order to prepare for academic work in English during their course of study at this university.

## 教科書 /Textbooks

Pathways: Reading, Writing, and Critical Thinking 3A: Split 3A Second Edition with Online Workbook Access Code  
Cengage Learning Mari Vargo, Laurie Blass.  
ISBN 9781337624923

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Further reading may be recommended as the course progresses.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction: Course Goals and Outline
2. 1A Social Relationships
3. 1B Social Relationships
4. 2A Science and Investigation
5. 2B Science and Investigation
6. 3A City Solutions
7. 3B City Solutions
8. Short individual presentations
9. 4A Danger Zones
10. 4B Danger Zones
11. 5A The Travel Business
12. 5B The Travel Business
13. Presentations on research paper topics A
14. Presentations on research paper topics B
15. Presentations on research paper topics C

Schedule and pace may be altered to fit the needs of the class. Further explanation will be given in the first session.

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Research Paper/Presentation: ( 50 % )

Short individual presentation: ( 20 % )

Homework Activities : ( 30 % )

Please note that it is possible that up to 40% of the final grade for this course will be determined according to performance in the TOEIC test and/or a vocabulary development program. Should this be the case the percentages listed directly above will be modified as appropriate. Further explanation will be given when the course begins.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

From Week 2 on, students should prepare for each class by carefully reading through the assigned text a day or two before we meet. Homework assignments will be used to review course content. Re-reading of assigned texts after each class is also encouraged.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# Communicative English III〔英米〕(英1-F)【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第一外国語

担当者名 /Instructor: ホロウェイ グレゴリー キース / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次  
単位 /Credits: 1単位  
学期 /Semester: 1学期  
授業形態 /Class Format: 講義  
クラス /Class: 英1-F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III		※修得できる能力との関連性 ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

DP 技能: 学術研究に十分な英語力を身につけ、適切に運用することができる。

Communicative English III aims to improve students' reading and writing ability in English for academic purposes. Students are expected to actively participate in all class activities and are responsible for writing a short research paper. During the course, we will ask students to learn academic vocabulary in order to prepare for academic work in English during their course of study at this university.

## 教科書 /Textbooks

Pathways: Reading, Writing, and Critical Thinking 3A: Split 3A Second Edition with Online Workbook Access Code  
Cengage Learning Mari Vargo, Laurie Blass.  
ISBN 9781337624923

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Further reading may be recommended as the course progresses.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction: Course Goals and Outline
2. 1A Social Relationships
3. 1B Social Relationships
4. 2A Science and Investigation
5. 2B Science and Investigation
6. 3A City Solutions
7. 3B City Solutions
8. Short individual presentations
9. 4A Danger Zones
10. 4B Danger Zones
11. 5A The Travel Business
12. 5B The Travel Business
13. Presentations on research paper topics A
14. Presentations on research paper topics B
15. Presentations on research paper topics C

Schedule and pace may be altered to fit the needs of the class. Further explanation will be given in the first session.

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Research Paper/Presentation: ( 50 % )

Short individual presentation: ( 20 % )

Homework Activities : ( 30 % )

Please note that it is possible that up to 40% of the final grade for this course will be determined according to performance in the TOEIC test and/or a vocabulary development program. Should this be the case the percentages listed directly above will be modified as appropriate. Further explanation will be given when the course begins.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

From Week 2 on, students should prepare for each class by carefully reading through the assigned text a day or two before we meet. Homework assignments will be used to review course content. Re-reading of assigned texts after each class is also encouraged.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# Communicative English IV〔英米〕(英1-A)【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第一外国語

担当者名 /Instructor 寺田 真一郎 / Shinichiro Terada / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1-A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			
科目名	Communicative English IV				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
技能：ビジネス等に十分な英語プレゼンテーション能力を身につけ、適切に運用することができる。

This course will help you learn and practice techniques to make effective presentations.  
In our globalized world, learning presentation and communication skills are increasingly important.  
Students will have a couple of opportunities to make presentations in the class.

## 教科書 /Textbooks

Christopher Pond. (2018). English Presentations Today. NAN'UNDO-DO Co., Ltd. ISBN 9784523178644

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

The instructor will introduce videos, articles, or other materials, when necessary.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Getting Started
2. Getting Started 2
3. Making a Good Impression
4. Making a Good Impression 2
5. Making Your Point
6. Making Your Point 2
7. The Visual Story
8. The Visual Story 2
9. The Visual Story 3
10. Being Understood
11. Being Understood 2
12. Concluding Your Message
13. Concluding Your Message 2
14. Taking Questions
- 15: Taking Questions 2

(schedules are subject to change)



## 成績評価の方法 /Assessment Method

(Tentative)

TOEIC Score (40%) + ※Class Activity (60%)

※As to the evaluation of class activity, refer to the following description.

Presentation Grades: 60%; Class participation and activities: 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

You will need to prepare your presentation assignments in advance.

Following each lesson, you need to review what you learned.

## 履修上の注意 /Remarks

You will need to learn how to make presentation slides.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Try to make an organized, interesting, and persuasive presentation in English!

## キーワード /Keywords

Presentations, Brainstorming, Speeches, Power point slides, English

# Communicative English IV〔英米〕(英1-B)【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第一外国語

担当者名 /Instructor 寺田 真一郎 / Shinichiro Terada / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1-B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			

科目名	Communicative English IV	※修得できる能力との関連性 ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連
-----	--------------------------	----------------------------------

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
技能: ビジネス等に十分な英語プレゼンテーション能力を身につけ、適切に運用することができる。

This course will help you learn and practice techniques to make effective presentations.  
In our globalized world, learning presentation and communication skills are increasingly important.  
Students will have a couple of opportunities to make presentations in the class.

## 教科書 /Textbooks

Christopher Pond. (2018). English Presentations Today. NAN'UNDO-DO Co., Ltd. ISBN 9784523178644

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

The instructor will introduce videos, articles, or other materials, when necessary.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Getting Started
2. Getting Started 2
  
3. Making a Good Impression
4. Making a Good Impression 2
  
5. Making Your Point
6. Making Your Point 2
  
7. The Visual Story
8. The Visual Story 2
9. The Visual Story 3
  
10. Being Understood
11. Being Understood 2
  
12. Concluding Your Message
13. Concluding Your Message 2
  
14. Taking Questions
- 15: Taking Questions 2

(schedules are subject to change)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

(Tentative)

TOEIC Score (40%) + ※Class Activity (60%)

※As to the evaluation of class activity, refer to the following description.

Presentation Grades: 60%; Class participation and activities: 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

You will need to prepare your presentation assignments in advance.

Following each lesson, you need to review what you learned.

## 履修上の注意 /Remarks

You will need to learn how to make presentation slides.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Try to make an organized, interesting, and persuasive presentation in English!

## キーワード /Keywords

Presentations, Brainstorming, Speeches, Power point slides, English

# Communicative English IV〔英米〕(英1-C)【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第一外国語

担当者名 /Instructor カール・マックナマラ・ページ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1-C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			
科目名	Communicative English IV				

※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
技能: ビジネス等に十分な英語プレゼンテーション能力を身につけ、適切に運用することができる。

This course will help you learn and practice techniques to make effective presentations.  
In our globalized world, learning presentation and communication skills are increasingly important.  
Students will have a couple of opportunities to make presentations in the class.

## 教科書 /Textbooks

Christopher Pond. (2018). English Presentations Today. NAN'UNDO-DO Co., Ltd. ISBN 9784523178644

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

The instructor will introduce videos, articles, or other materials, when necessary.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Getting Started
2. Getting Started 2
3. Making a Good Impression
4. Making a Good Impression 2
5. Making Your Point
6. Making Your Point 2
7. The Visual Story
8. The Visual Story 2
9. The Visual Story 3
10. Being Understood
11. Being Understood 2
12. Concluding Your Message
13. Concluding Your Message 2
14. Taking Questions
- 15: Taking Questions 2

(schedules are subject to change)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

(Tentative)

TOEIC Score (40%) + ※Class Activity (60%)

※As to the evaluation of class activity, refer to the following description.

Presentation Grades: 60%; Class participation and activities: 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

You will need to prepare your presentation assignments in advance.

Following each lesson, you need to review what you learned.

## 履修上の注意 /Remarks

You will need to learn how to make presentation slides.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Try to make an organized, interesting, and persuasive presentation in English!

## キーワード /Keywords

Presentations, Brainstorming, Speeches, Power point slides, English

# Communicative English IV〔英米〕(英1-D)【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第一外国語

担当者名 /Instructor: ホロウエイ グレゴリー キース / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次  
単位 /Credits: 1単位  
学期 /Semester: 1学期  
授業形態 /Class Format: 講義  
クラス /Class: 英1-D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			

科目名	Communicative English IV	※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連
-----	--------------------------	-------------------------------------

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
技能：ビジネス等に十分な英語プレゼンテーション能力を身につけ、適切に運用することができる。

This course will help you learn and practice techniques to make effective presentations.  
In our globalized world, learning presentation and communication skills are increasingly important.  
Students will have a couple of opportunities to make presentations in the class.

## 教科書 /Textbooks

Christopher Pond. (2018). English Presentations Today. NAN'UNDO-DO Co., Ltd. ISBN 9784523178644

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

The instructor will introduce videos, articles, or other materials, when necessary.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Getting Started
2. Getting Started 2
3. Making a Good Impression
4. Making a Good Impression 2
5. Making Your Point
6. Making Your Point 2
7. The Visual Story
8. The Visual Story 2
9. The Visual Story 3
10. Being Understood
11. Being Understood 2
12. Concluding Your Message
13. Concluding Your Message 2
14. Taking Questions
- 15: Taking Questions 2

(schedules are subject to change)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

(Tentative)

TOEIC Score (40%) + ※Class Activity (60%)

※As to the evaluation of class activity, refer to the following description.

Presentation Grades: 60%; Class participation and activities: 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

You will need to prepare your presentation assignments in advance.

Following each lesson, you need to review what you learned.

## 履修上の注意 /Remarks

You will need to learn how to make presentation slides.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Try to make an organized, interesting, and persuasive presentation in English!

## キーワード /Keywords

Presentations, Brainstorming, Speeches, Power point slides, English

# Communicative English IV〔英米〕(英1-E)【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第一外国語

担当者名 /Instructor オム ウォンソブ / Eum Wonsub / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1-E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			

科目名	Communicative English IV	※修得できる能力との関連性 ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連
-----	--------------------------	----------------------------------

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
技能: ビジネス等に十分な英語プレゼンテーション能力を身につけ、適切に運用することができる。

This course will help you learn and practice techniques to make effective presentations.  
In our globalized world, learning presentation and communication skills are increasingly important.  
Students will have a couple of opportunities to make presentations in the class.

## 教科書 /Textbooks

Christopher Pond. (2018). English Presentations Today. NAN'UNDO-DO Co., Ltd. ISBN 9784523178644

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

The instructor will introduce videos, articles, or other materials, when necessary.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Getting Started
2. Getting Started 2
3. Making a Good Impression
4. Making a Good Impression 2
5. Making Your Point
6. Making Your Point 2
7. The Visual Story
8. The Visual Story 2
9. The Visual Story 3
10. Being Understood
11. Being Understood 2
12. Concluding Your Message
13. Concluding Your Message 2
14. Taking Questions
- 15: Taking Questions 2

(schedules are subject to change)



## 成績評価の方法 /Assessment Method

(Tentative)

TOEIC Score (40%) + ※Class Activity (60%)

※As to the evaluation of class activity, refer to the following description.

Presentation Grades: 60%; Class participation and activities: 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

You will need to prepare your presentation assignments in advance.

Following each lesson, you need to review what you learned.

## 履修上の注意 /Remarks

You will need to learn how to make presentation slides.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Try to make an organized, interesting, and persuasive presentation in English!

## キーワード /Keywords

Presentations, Brainstorming, Speeches, Power point slides, English

# Communicative English IV〔英米〕(英1-F)【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第一外国語

担当者名 /Instructor カール・マックナマラ・ページ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1-F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			
科目名	Communicative English IV				

※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
技能: ビジネス等に十分な英語プレゼンテーション能力を身につけ、適切に運用することができる。

This course will help you learn and practice techniques to make effective presentations.  
In our globalized world, learning presentation and communication skills are increasingly important.  
Students will have a couple of opportunities to make presentations in the class.

## 教科書 /Textbooks

Christopher Pond. (2018). English Presentations Today. NAN'UNDO-DO Co., Ltd. ISBN 9784523178644

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

The instructor will introduce videos, articles, or other materials, when necessary.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Getting Started
2. Getting Started 2
3. Making a Good Impression
4. Making a Good Impression 2
5. Making Your Point
6. Making Your Point 2
7. The Visual Story
8. The Visual Story 2
9. The Visual Story 3
10. Being Understood
11. Being Understood 2
12. Concluding Your Message
13. Concluding Your Message 2
14. Taking Questions
- 15: Taking Questions 2

(schedules are subject to change)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

(Tentative)

TOEIC Score (40%) + ※Class Activity (60%)

※As to the evaluation of class activity, refer to the following description.

Presentation Grades: 60%; Class participation and activities: 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

You will need to prepare your presentation assignments in advance.

Following each lesson, you need to review what you learned.

## 履修上の注意 /Remarks

You will need to learn how to make presentation slides.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Try to make an organized, interesting, and persuasive presentation in English!

## キーワード /Keywords

Presentations, Brainstorming, Speeches, Power point slides, English

# Communicative English V〔英米〕(英1C-A)【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第一外国語

担当者名 /Instructor 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1C-A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG201F		◎			

科目名	Communicative English V
-----	-------------------------

※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

## 授業の概要 /Course Description

In this course you will focus on improving your reading and writing skills. We will focus on academic readings that deal with a number of different topics. You will learn vocabulary to help you understand the readings. As an extension of this, you will also focus on collocations, or the ways that words go together, which will be useful in helping to you become a better writer in English.

This course will include work to help you think critically as you read, and activities designed to improve the way that you express your ideas when writing in English. Ultimately, in this course you will learn skills that will help you to read and understand the academic texts that you will see in your future courses in the department.

(到達目標)

【技能】 学術研究に活用できる高度な英語力を身につけ、適切に運用することができる。

## 教科書 /Textbooks

Alan S. Kennedy & Chris Sowton. (2018). Prism Reading 3 Student's Book. Cambridge University Press.

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

Where and when appropriate, the class teacher will recommend background reading to support vocabulary development.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 Introduction
- 2 Unit 1 Globalization: Reading 1 Turkish Treats
- 3 Unit 1 Globalization: Reading 2 Changing Eating Habits in Italy
- 4 Unit 2 Education: Reading 1 Should I Major in Business or Engineering?
- 5 Unit 2 Education: Reading 2 Distance vs. Face-to-Face Learning
- 6 Unit 3 Medicine: Reading 1 The Homeopathy Debate
- 7 Unit 3 Medicine: Reading 2 Should Healthcare Be Free?
- 8 Review and Test (Unit 1 - Unit 3)
- 9 Unit 4 The Environment: Reading 1 Controlling Certain Disaster
- 10 Unit 4 The Environment: Reading 2 Combatting Drought in Rural Africa
- 11 Unit 5 Architecture: Reading 1 We Need More Green Buildings
- 12 Unit 5 Architecture: Reading 2 Form, Function, or Both?
- 13 Unit 6 Energy: Reading 1 Renewable Energy
- 14 Unit 6 Energy: Reading 2 Reduce, Reuse, Recycle
- 15 Review and Test (Unit 4 - Unit 6)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

TOEIC Score (40%) + ※Class Activity (60%)

※As to the evaluation of class activity, refer to the following description.

In-class tests ... 50%

Assignments ... 40%

Classroom participation ... 10%

(The assessment method may vary depending on the teacher. Please ask your teacher for details.)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are advised to prepare for each class by reading through the relevant section of the textbook in advance.

## 履修上の注意 /Remarks

出席・参加を重視します。3分の2以上の出席が必要です。授業には必ず教科書と辞書を持参してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# Communicative English V〔英米〕(英1C-B)【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第一外国語

担当者名 /Instructor 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英1C-B /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG201F		◎			

科目名	Communicative English V
-----	-------------------------

※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

## 授業の概要 /Course Description

In this course you will focus on improving your reading and writing skills. We will focus on academic readings that deal with a number of different topics. You will learn vocabulary to help you understand the readings. As an extension of this, you will also focus on collocations, or the ways that words go together, which will be useful in helping to you become a better writer in English.

This course will include work to help you think critically as you read, and activities designed to improve the way that you express your ideas when writing in English. Ultimately, in this course you will learn skills that will help you to read and understand the academic texts that you will see in your future courses in the department.

(到達目標)

【技能】 学術研究に活用できる高度な英語力を身につけ、適切に運用することができる。

## 教科書 /Textbooks

Alan S. Kennedy & Chris Sowton. (2018). Prism Reading 3 Student's Book. Cambridge University Press.

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

Where and when appropriate, the class teacher will recommend background reading to support vocabulary development.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 Introduction
- 2 Unit 1 Globalization: Reading 1 Turkish Treats
- 3 Unit 1 Globalization: Reading 2 Changing Eating Habits in Italy
- 4 Unit 2 Education: Reading 1 Should I Major in Business or Engineering?
- 5 Unit 2 Education: Reading 2 Distance vs. Face-to-Face Learning
- 6 Unit 3 Medicine: Reading 1 The Homeopathy Debate
- 7 Unit 3 Medicine: Reading 2 Should Healthcare Be Free?
- 8 Review and Test (Unit 1 - Unit 3)
- 9 Unit 4 The Environment: Reading 1 Controlling Certain Disaster
- 10 Unit 4 The Environment: Reading 2 Combatting Drought in Rural Africa
- 11 Unit 5 Architecture: Reading 1 We Need More Green Buildings
- 12 Unit 5 Architecture: Reading 2 Form, Function, or Both?
- 13 Unit 6 Energy: Reading 1 Renewable Energy
- 14 Unit 6 Energy: Reading 2 Reduce, Reuse, Recycle
- 15 Review and Test (Unit 4 - Unit 6)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

TOEIC Score (40%) + ※Class Activity (60%)

※As to the evaluation of class activity, refer to the following description.

In-class tests ... 50%

Assignments ... 40%

Classroom participation ... 10%

(The assessment method may vary depending on the teacher. Please ask your teacher for details.)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are advised to prepare for each class by reading through the relevant section of the textbook in advance.

## 履修上の注意 /Remarks

出席・参加を重視します。3分の2以上の出席が必要です。授業には必ず教科書と辞書を持参してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# Communicative English V〔英米〕(英1C-C)【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第一外国語

担当者名 /Instructor 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英1C-C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG201F		◎			

科目名	Communicative English V
-----	-------------------------

※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

## 授業の概要 /Course Description

In this course you will focus on improving your reading and writing skills. We will focus on academic readings that deal with a number of different topics. You will learn vocabulary to help you understand the readings. As an extension of this, you will also focus on collocations, or the ways that words go together, which will be useful in helping to you become a better writer in English.

This course will include work to help you think critically as you read, and activities designed to improve the way that you express your ideas when writing in English. Ultimately, in this course you will learn skills that will help you to read and understand the academic texts that you will see in your future courses in the department.

(到達目標)

【技能】 学術研究に活用できる高度な英語力を身につけ、適切に運用することができる。

## 教科書 /Textbooks

Alan S. Kennedy & Chris Sowton. (2018). Prism Reading 3 Student's Book. Cambridge University Press.

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

Where and when appropriate, the class teacher will recommend background reading to support vocabulary development.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 Introduction
- 2 Unit 1 Globalization: Reading 1 Turkish Treats
- 3 Unit 1 Globalization: Reading 2 Changing Eating Habits in Italy
- 4 Unit 2 Education: Reading 1 Should I Major in Business or Engineering?
- 5 Unit 2 Education: Reading 2 Distance vs. Face-to-Face Learning
- 6 Unit 3 Medicine: Reading 1 The Homeopathy Debate
- 7 Unit 3 Medicine: Reading 2 Should Healthcare Be Free?
- 8 Review and Test (Unit 1 - Unit 3)
- 9 Unit 4 The Environment: Reading 1 Controlling Certain Disaster
- 10 Unit 4 The Environment: Reading 2 Combatting Drought in Rural Africa
- 11 Unit 5 Architecture: Reading 1 We Need More Green Buildings
- 12 Unit 5 Architecture: Reading 2 Form, Function, or Both?
- 13 Unit 6 Energy: Reading 1 Renewable Energy
- 14 Unit 6 Energy: Reading 2 Reduce, Reuse, Recycle
- 15 Review and Test (Unit 4 - Unit 6)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

TOEIC Score (40%) + ※Class Activity (60%)

※As to the evaluation of class activity, refer to the following description.

In-class tests ... 50%

Assignments ... 40%

Classroom participation ... 10%

(The assessment method may vary depending on the teacher. Please ask your teacher for details.)



## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are advised to prepare for each class by reading through the relevant section of the textbook in advance.

## 履修上の注意 /Remarks

出席・参加を重視します。3分の2以上の出席が必要です。授業には必ず教科書と辞書を持参してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# Communicative English V〔英米〕(英1C-D)【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第一外国語

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英1C-D /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG201F		◎			

科目名	Communicative English V	※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連
-----	-------------------------	-------------------------------------

## 授業の概要 /Course Description

In this course you will focus on improving your reading and writing skills. We will focus on academic readings that deal with a number of different topics. You will learn vocabulary to help you understand the readings. As an extension of this, you will also focus on collocations, or the ways that words go together, which will be useful in helping to you become a better writer in English.

This course will include work to help you think critically as you read, and activities designed to improve the way that you express your ideas when writing in English. Ultimately, in this course you will learn skills that will help you to read and understand the academic texts that you will see in your future courses in the department.

(到達目標)

【技能】 学術研究に活用できる高度な英語力を身につけ、適切に運用することができる。

## 教科書 /Textbooks

Alan S. Kennedy & Chris Sowton. (2018). Prism Reading 3 Student's Book. Cambridge University Press.

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

Where and when appropriate, the class teacher will recommend background reading to support vocabulary development.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 Introduction
- 2 Unit 1 Globalization: Reading 1 Turkish Treats
- 3 Unit 1 Globalization: Reading 2 Changing Eating Habits in Italy
- 4 Unit 2 Education: Reading 1 Should I Major in Business or Engineering?
- 5 Unit 2 Education: Reading 2 Distance vs. Face-to-Face Learning
- 6 Unit 3 Medicine: Reading 1 The Homeopathy Debate
- 7 Unit 3 Medicine: Reading 2 Should Healthcare Be Free?
- 8 Review and Test (Unit 1 - Unit 3)
- 9 Unit 4 The Environment: Reading 1 Controlling Certain Disaster
- 10 Unit 4 The Environment: Reading 2 Combatting Drought in Rural Africa
- 11 Unit 5 Architecture: Reading 1 We Need More Green Buildings
- 12 Unit 5 Architecture: Reading 2 Form, Function, or Both?
- 13 Unit 6 Energy: Reading 1 Renewable Energy
- 14 Unit 6 Energy: Reading 2 Reduce, Reuse, Recycle
- 15 Review and Test (Unit 4 - Unit 6)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

TOEIC Score (40%) + ※Class Activity (60%)

※As to the evaluation of class activity, refer to the following description.

In-class tests ... 50%

Assignments ... 40%

Classroom participation ... 10%

(The assessment method may vary depending on the teacher. Please ask your teacher for details.)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are advised to prepare for each class by reading through the relevant section of the textbook in advance.

## 履修上の注意 /Remarks

出席・参加を重視します。3分の2以上の出席が必要です。授業には必ず教科書と辞書を持参してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# Communicative English V〔英米〕(英1C-E)【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第一外国語

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英1C-E /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG201F		◎			

科目名	Communicative English V
-----	-------------------------

※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

## 授業の概要 /Course Description

In this course you will focus on improving your reading and writing skills. We will focus on academic readings that deal with a number of different topics. You will learn vocabulary to help you understand the readings. As an extension of this, you will also focus on collocations, or the ways that words go together, which will be useful in helping to you become a better writer in English.

This course will include work to help you think critically as you read, and activities designed to improve the way that you express your ideas when writing in English. Ultimately, in this course you will learn skills that will help you to read and understand the academic texts that you will see in your future courses in the department.

(到達目標)

【技能】 学術研究に活用できる高度な英語力を身につけ、適切に運用することができる。

## 教科書 /Textbooks

Alan S. Kennedy & Chris Sowton. (2018). Prism Reading 3 Student's Book. Cambridge University Press.

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

Where and when appropriate, the class teacher will recommend background reading to support vocabulary development.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 Introduction
- 2 Unit 1 Globalization: Reading 1 Turkish Treats
- 3 Unit 1 Globalization: Reading 2 Changing Eating Habits in Italy
- 4 Unit 2 Education: Reading 1 Should I Major in Business or Engineering?
- 5 Unit 2 Education: Reading 2 Distance vs. Face-to-Face Learning
- 6 Unit 3 Medicine: Reading 1 The Homeopathy Debate
- 7 Unit 3 Medicine: Reading 2 Should Healthcare Be Free?
- 8 Review and Test (Unit 1 - Unit 3)
- 9 Unit 4 The Environment: Reading 1 Controlling Certain Disaster
- 10 Unit 4 The Environment: Reading 2 Combatting Drought in Rural Africa
- 11 Unit 5 Architecture: Reading 1 We Need More Green Buildings
- 12 Unit 5 Architecture: Reading 2 Form, Function, or Both?
- 13 Unit 6 Energy: Reading 1 Renewable Energy
- 14 Unit 6 Energy: Reading 2 Reduce, Reuse, Recycle
- 15 Review and Test (Unit 4 - Unit 6)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

TOEIC Score (40%) + ※Class Activity (60%)

※As to the evaluation of class activity, refer to the following description.

In-class tests ... 50%

Assignments ... 40%

Classroom participation ... 10%

(The assessment method may vary depending on the teacher. Please ask your teacher for details.)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are advised to prepare for each class by reading through the relevant section of the textbook in advance.

## 履修上の注意 /Remarks

出席・参加を重視します。3分の2以上の出席が必要です。授業には必ず教科書と辞書を持参してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# Communicative English V〔英米〕(英1C-F)【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第一外国語

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英1C-F /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG201F		◎			

科目名	Communicative English V
-----	-------------------------

※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

## 授業の概要 /Course Description

In this course you will focus on improving your reading and writing skills. We will focus on academic readings that deal with a number of different topics. You will learn vocabulary to help you understand the readings. As an extension of this, you will also focus on collocations, or the ways that words go together, which will be useful in helping to you become a better writer in English.

This course will include work to help you think critically as you read, and activities designed to improve the way that you express your ideas when writing in English. Ultimately, in this course you will learn skills that will help you to read and understand the academic texts that you will see in your future courses in the department.

(到達目標)

【技能】 学術研究に活用できる高度な英語力を身につけ、適切に運用することができる。

## 教科書 /Textbooks

Alan S. Kennedy & Chris Sowton. (2018). Prism Reading 3 Student's Book. Cambridge University Press.

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

Where and when appropriate, the class teacher will recommend background reading to support vocabulary development.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 Introduction
- 2 Unit 1 Globalization: Reading 1 Turkish Treats
- 3 Unit 1 Globalization: Reading 2 Changing Eating Habits in Italy
- 4 Unit 2 Education: Reading 1 Should I Major in Business or Engineering?
- 5 Unit 2 Education: Reading 2 Distance vs. Face-to-Face Learning
- 6 Unit 3 Medicine: Reading 1 The Homeopathy Debate
- 7 Unit 3 Medicine: Reading 2 Should Healthcare Be Free?
- 8 Review and Test (Unit 1 - Unit 3)
- 9 Unit 4 The Environment: Reading 1 Controlling Certain Disaster
- 10 Unit 4 The Environment: Reading 2 Combatting Drought in Rural Africa
- 11 Unit 5 Architecture: Reading 1 We Need More Green Buildings
- 12 Unit 5 Architecture: Reading 2 Form, Function, or Both?
- 13 Unit 6 Energy: Reading 1 Renewable Energy
- 14 Unit 6 Energy: Reading 2 Reduce, Reuse, Recycle
- 15 Review and Test (Unit 4 - Unit 6)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

TOEIC Score (40%) + ※Class Activity (60%)

※As to the evaluation of class activity, refer to the following description.

In-class tests ... 50%

Assignments ... 40%

Classroom participation ... 10%

(The assessment method may vary depending on the teacher. Please ask your teacher for details.)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are advised to prepare for each class by reading through the relevant section of the textbook in advance.

## 履修上の注意 /Remarks

出席・参加を重視します。3分の2以上の出席が必要です。授業には必ず教科書と辞書を持参してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# Communicative English VI〔英米〕(英1C-A)【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第一外国語

担当者名 /Instructor クリスティン・マイスター / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英1C-A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG211F		◎			

科目名	Communicative English VI	※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連
-----	--------------------------	-------------------------------------

## 授業の概要 /Course Description

学術研究に活用できる高度な英語力を身につけ、適切に運用することができる。

The course objective is to give students the opportunity to develop listening, speaking and critical thinking skills.

The focus of the course will be Sustainable Development Goals (SDGs), we will look at why SDGs are important, how we can support SDGs on a personal, local, national, and global scale.

Students will learn how to put critical thinking skills into practice and how to analyze problematic issues surrounding implementation of the SDG goals set out by the United Nations as well as improve their listening and speaking skills.

Whilst it is not possible for all of the SDG goals to be discussed during this semester students are strongly recommended to take a look at the United Nations University home page in order to familiarize themselves with all of the SDG goals not only those covered in class.

Link to the United Nations University: <https://unu.edu/explore>

## 教科書 /Textbooks

Materials will be provided each week by the instructors

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

References will be recommended.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction to the class: The Importance of SDGs
2. #1: No Poverty
3. #2: Zero Hunger
4. #3: Good health and well-being
- 5.#4: Quality Education
- 6.#5: Gender Equality
7. #6: Clean Water and Sanitation
8. #7: Affordable and Clean Energy
9. #8: Decent Work and Economic Growth
10. #10: Reduced Inequalities
11. #13: Climate Action
12. #14: Life Below Water/ Life on Land
- 13.# 16: Peace, Justice, and Strong Institutions
14. Group Presentations I
15. Group Presentations II



## 成績評価の方法 /Assessment Method

In class assessment 20%  
Group Presentations 20%  
Homework Assignment 20%

\*It is possible that up to 40% of the final grade for this course will be determined according to performance in the TOEIC test. Further explanation will be given when the course begins.\*

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are asked to review the course material before and after class.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Relax, enjoy, have fun learning about SDGs. I am looking forward to seeing you in class.

## キーワード /Keywords

Listening, Speaking, Discussion, Presentation

# Communicative English VI〔英米〕(英1C-B)【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第一外国語

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英1C-B /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG211F		◎			
科目名	Communicative English VI		※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

学術研究に活用できる高度な英語力を身につけ、適切に運用することができる。

The course objective is to give students the opportunity to develop listening, speaking and critical thinking skills.

The focus of the course will be Sustainable Development Goals (SDGs), we will look at why SDGs are important, how we can support SDGs on a personal, local, national, and global scale.

Students will learn how to put critical thinking skills into practice and how to analyze problematic issues surrounding implementation of the SDG goals set out by the United Nations as well as improve their listening and speaking skills.

Whilst it is not possible for all of the SDG goals to be discussed during this semester students are strongly recommended to take a look at the United Nations University home page in order to familiarize themselves with all of the SDG goals not only those covered in class.

Link to the United Nations University: <https://unu.edu/explore>

## 教科書 /Textbooks

Materials will be provided each week by the instructors

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

References will be recommended.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction to the class: The Importance of SDGs
2. #1: No Poverty
3. #2: Zero Hunger
4. #3: Good health and well-being
5. #4: Quality Education
6. #5: Gender Equality
7. #6: Clean Water and Sanitation
8. #7: Affordable and Clean Energy
9. #8: Decent Work and Economic Growth
10. #10: Reduced Inequalities
11. #13: Climate Action
12. #14: Life Below Water/ Life on Land
13. # 16: Peace, Justice, and Strong Institutions
14. Group Presentations I
15. Group Presentations II

## 成績評価の方法 /Assessment Method

In class assessment 20%  
Group Presentations 20%  
Homework Assignment 20%

\*It is possible that up to 40% of the final grade for this course will be determined according to performance in the TOEIC test. Further explanation will be given when the course begins.\*

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are asked to review the course material before and after class.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Relax, enjoy, have fun learning about SDGs. I am looking forward to seeing you in class.

## キーワード /Keywords

Listening, Speaking, Discussion, Presentation

# Communicative English VI〔英米〕(英1C-C)【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第一外国語

担当者名 /Instructor 藤下 友子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英1C-C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG211F		◎			

科目名	Communicative English VI	※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連
-----	--------------------------	-------------------------------------

## 授業の概要 /Course Description

学術研究に活用できる高度な英語力を身につけ、適切に運用することができる。

The course objective is to give students the opportunity to develop listening, speaking and critical thinking skills.

The focus of the course will be Sustainable Development Goals (SDGs), we will look at why SDGs are important, how we can support SDGs on a personal, local, national, and global scale.

Students will learn how to put critical thinking skills into practice and how to analyze problematic issues surrounding implementation of the SDG goals set out by the United Nations as well as improve their listening and speaking skills.

Whilst it is not possible for all of the SDG goals to be discussed during this semester students are strongly recommended to take a look at the United Nations University home page in order to familiarize themselves with all of the SDG goals not only those covered in class.

Link to the United Nations University: <https://unu.edu/explore>

## 教科書 /Textbooks

Materials will be provided each week by the instructors

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

References will be recommended.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction to the class: The Importance of SDGs
2. #1: No Poverty
3. #2: Zero Hunger
4. #3: Good health and well-being
5. #4: Quality Education
6. #5: Gender Equality
7. #6: Clean Water and Sanitation
8. #7: Affordable and Clean Energy
9. #8: Decent Work and Economic Growth
10. #10: Reduced Inequalities
11. #13: Climate Action
12. #14: Life Below Water/ Life on Land
13. # 16: Peace, Justice, and Strong Institutions
14. Group Presentations I
15. Group Presentations II

## 成績評価の方法 /Assessment Method

In class assessment 20%  
Group Presentations 20%  
Homework Assignment 20%

\*It is possible that up to 40% of the final grade for this course will be determined according to performance in the TOEIC test. Further explanation will be given when the course begins.\*

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are asked to review the course material before and after class.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Relax, enjoy, have fun learning about SDGs. I am looking forward to seeing you in class.

## キーワード /Keywords

Listening, Speaking, Discussion, Presentation

# Communicative English VI〔英米〕(英1C-D)【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第一外国語

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英1C-D /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG211F		◎			

科目名	Communicative English VI
-----	--------------------------

※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

## 授業の概要 /Course Description

学術研究に活用できる高度な英語力を身につけ、適切に運用することができる。

The course objective is to give students the opportunity to develop listening, speaking and critical thinking skills.

The focus of the course will be Sustainable Development Goals (SDGs), we will look at why SDGs are important, how we can support SDGs on a personal, local, national, and global scale.

Students will learn how to put critical thinking skills into practice and how to analyze problematic issues surrounding implementation of the SDG goals set out by the United Nations as well as improve their listening and speaking skills.

Whilst it is not possible for all of the SDG goals to be discussed during this semester students are strongly recommended to take a look at the United Nations University home page in order to familiarize themselves with all of the SDG goals not only those covered in class.

Link to the United Nations University: <https://unu.edu/explore>

## 教科書 /Textbooks

Materials will be provided each week by the instructors

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

References will be recommended.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction to the class: The Importance of SDGs
2. #1: No Poverty
3. #2: Zero Hunger
4. #3: Good health and well-being
5. #4: Quality Education
6. #5: Gender Equality
7. #6: Clean Water and Sanitation
8. #7: Affordable and Clean Energy
9. #8: Decent Work and Economic Growth
10. #10: Reduced Inequalities
11. #13: Climate Action
12. #14: Life Below Water/ Life on Land
13. #16: Peace, Justice, and Strong Institutions
14. Group Presentations I
15. Group Presentations II

## 成績評価の方法 /Assessment Method

In class assessment 20%  
Group Presentations 20%  
Homework Assignment 20%

\*It is possible that up to 40% of the final grade for this course will be determined according to performance in the TOEIC test. Further explanation will be given when the course begins.\*

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are asked to review the course material before and after class.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Relax, enjoy, have fun learning about SDGs. I am looking forward to seeing you in class.

## キーワード /Keywords

Listening, Speaking, Discussion, Presentation

# Communicative English VI〔英米〕(英1C-E)【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第一外国語

担当者名 /Instructor	未定											
履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	1単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス	英1C-E			
対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」	
ENG211F		◎				
科目名	Communicative English VI		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			

## 授業の概要 /Course Description

学術研究に活用できる高度な英語力を身につけ、適切に運用することができる。

The course objective is to give students the opportunity to develop listening, speaking and critical thinking skills.

The focus of the course will be Sustainable Development Goals (SDGs), we will look at why SDGs are important, how we can support SDGs on a personal, local, national, and global scale.

Students will learn how to put critical thinking skills into practice and how to analyze problematic issues surrounding implementation of the SDG goals set out by the United Nations as well as improve their listening and speaking skills.

Whilst it is not possible for all of the SDG goals to be discussed during this semester students are strongly recommended to take a look at the United Nations University home page in order to familiarize themselves with all of the SDG goals not only those covered in class.

Link to the United Nations University: <https://unu.edu/explore>

## 教科書 /Textbooks

Materials will be provided each week by the instructors

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

References will be recommended.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction to the class: The Importance of SDGs
2. #1: No Poverty
3. #2: Zero Hunger
4. #3: Good health and well-being
- 5.#4: Quality Education
- 6.#5: Gender Equality
7. #6: Clean Water and Sanitation
8. #7: Affordable and Clean Energy
9. #8: Decent Work and Economic Growth
10. #10: Reduced Inequalities
11. #13: Climate Action
12. #14: Life Below Water/ Life on Land
- 13.# 16: Peace, Justice, and Strong Institutions
14. Group Presentations I
15. Group Presentations II



## 成績評価の方法 /Assessment Method

In class assessment 20%  
Group Presentations 20%  
Homework Assignment 20%

\*It is possible that up to 40% of the final grade for this course will be determined according to performance in the TOEIC test. Further explanation will be given when the course begins.\*

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are asked to review the course material before and after class.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Relax, enjoy, have fun learning about SDGs. I am looking forward to seeing you in class.

## キーワード /Keywords

Listening, Speaking, Discussion, Presentation

# Communicative English VI〔英米〕(英1C-F)【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第一外国語

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英1C-F /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG211F		◎			

科目名	Communicative English VI
-----	--------------------------

※修得できる能力との関連性 ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連

## 授業の概要 /Course Description

学術研究に活用できる高度な英語力を身につけ、適切に運用することができる。

The course objective is to give students the opportunity to develop listening, speaking and critical thinking skills.

The focus of the course will be Sustainable Development Goals (SDGs), we will look at why SDGs are important, how we can support SDGs on a personal, local, national, and global scale.

Students will learn how to put critical thinking skills into practice and how to analyze problematic issues surrounding implementation of the SDG goals set out by the United Nations as well as improve their listening and speaking skills.

Whilst it is not possible for all of the SDG goals to be discussed during this semester students are strongly recommended to take a look at the United Nations University home page in order to familiarize themselves with all of the SDG goals not only those covered in class.

Link to the United Nations University: <https://unu.edu/explore>

## 教科書 /Textbooks

Materials will be provided each week by the instructors

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

References will be recommended.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction to the class: The Importance of SDGs
2. #1: No Poverty
3. #2: Zero Hunger
4. #3: Good health and well-being
- 5.#4: Quality Education
- 6.#5: Gender Equality
7. #6: Clean Water and Sanitation
8. #7: Affordable and Clean Energy
9. #8: Decent Work and Economic Growth
10. #10: Reduced Inequalities
11. #13: Climate Action
12. #14: Life Below Water/ Life on Land
- 13.# 16: Peace, Justice, and Strong Institutions
14. Group Presentations I
15. Group Presentations II

## 成績評価の方法 /Assessment Method

In class assessment 20%  
Group Presentations 20%  
Homework Assignment 20%

\*It is possible that up to 40% of the final grade for this course will be determined according to performance in the TOEIC test. Further explanation will be given when the course begins.\*

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are asked to review the course material before and after class.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Relax, enjoy, have fun learning about SDGs. I am looking forward to seeing you in class.

## キーワード /Keywords

Listening, Speaking, Discussion, Presentation

# Communicative English VII〔英米〕(英1C-A)【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第一外国語

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1C-A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG202F		◎			
科目名	Communicative English VII		※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

DP: 学術研究に活用できる高度な英語力を身につけ、適切に運用することができる。

Communicative English VII continues to aim for improvement of students' reading and writing ability in English for academic purposes. Students are expected to actively participate in all class activities and are responsible for a short research paper as well as for taking a midterm and final exam. During the course we will ask students to learn academic vocabulary in order to prepare for academic work in English during their course of study at this university.

## 教科書 /Textbooks

Pathways: Reading, Writing and Critical Thinking 3B: Split 3B Second Edition with Online Workbook Access Code (Cengage Learning) ISBN 978-1-337-62493-0 Becky, Mari Vargo, Laurie Blass et, al

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

We will continue to give students access to a Quizlet account and provide study cards from which they should study 50 vocabulary words per week, which will include 45 words from Gardner and Davies' Academic Vocabulary List (AVL) with their English/Japanese translations, and 5 phrasal verbs (such as 'give up' or 'go away').

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.Introduction Class: Course outline and introductions.
- 2.Textbook Lessons 1A. "Information Design"
- 3.Textbook Lessons 1B. "Information Designs"
- 4.Textbook Lessons 2A. "Global Challenges"
- 5.Textbook Lessons 2B. "Global Challenges"
- 6.Textbook Lessons 3A. "Medical Innovations"
- 7.Textbook Lessons 3B. "Medical Innovations"
8. Midterm Exam
- 9.Textbook Lessons 4A. "World Languages"
- 10.Textbook Lessons 4B. "World Languages"
- 11.Textbook Lessons 5A. "Survival Instinct"
- 12.Textbook Lessons 5B. "Survival Instinct"
- 13.Presentations about Paper Topics A
- 14.Presentations about Paper Topics B
- 15.Presentations about Paper Topics C

Schedule and pace may be altered to suit the needs of the class.

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- 60% - attributed to in-class assignments, homework assignments, and/or final examination
  - 30% - Participation and diligence (attending class, asking questions, etc.)
  - 10% - Homework
  - 20% - Midterm and Final tests/projects
- 40% - attributed to Quizlet scores and/or TOEIC score. More information about this will be given in the first session.

# Communicative English VII〔英米〕(英1C-A)【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should prepare for each lesson in advance by reading the assigned text beforehand. Students should work on weekly writing assignments for submission. Students should access the Quizlet application to review vocabulary weekly.

## 履修上の注意 /Remarks

Please be on time. If you miss more than 5 classes without a sufficient explanation, or if you miss the final project, you will receive a 「一」 grade.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

You don't need a special brain to learn English, but you do need to make a consistent effort.

## キーワード /Keywords

# Communicative English VII〔英米〕(英1C-B)【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第一外国語

担当者名 /Instructor クリスティン・マイスター / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英1C-B /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG202F		◎			
科目名	Communicative English VII				

※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

## 授業の概要 /Course Description

DP: 学術研究に活用できる高度な英語力を身につけ、適切に運用することができる。

Communicative English VII continues to aim for improvement of students' reading and writing ability in English for academic purposes. Students are expected to actively participate in all class activities and are responsible for a short research paper as well as for taking a midterm and final exam. During the course we will ask students to learn academic vocabulary in order to prepare for academic work in English during their course of study at this university.

## 教科書 /Textbooks

Pathways: Reading, Writing and Critical Thinking 3B: Split 3B Second Edition with Online Workbook Access Code (Cengage Learning) ISBN 978-1-337-62493-0 Becky, Mari Vargo, Laurie Blass et, al

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

We will continue to give students access to a Quizlet account and provide study cards from which they should study 50 vocabulary words per week, which will include 45 words from Gardner and Davies' Academic Vocabulary List (AVL) with their English/Japanese translations, and 5 phrasal verbs (such as 'give up' or 'go away').

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.Introduction Class: Course outline and introductions.
- 2.Textbook Lessons 1A. "Information Design"
- 3.Textbook Lessons 1B. "Information Designs"
- 4.Textbook Lessons 2A. "Global Challenges"
- 5.Textbook Lessons 2B. "Global Challenges"
- 6.Textbook Lessons 3A. "Medical Innovations"
- 7.Textbook Lessons 3B. "Medical Innovations"
8. Midterm Exam
- 9.Textbook Lessons 4A. "World Languages"
- 10.Textbook Lessons 4B. "World Languages"
- 11.Textbook Lessons 5A. "Survival Instinct"
- 12.Textbook Lessons 5B. "Survival Instinct"
- 13.Presentations about Paper Topics A
- 14.Presentations about Paper Topics B
- 15.Presentations about Paper Topics C

Schedule and pace may be altered to suit the needs of the class.

## 成績評価の方法 /Assessment Method

60% - attributed to in-class assignments, homework assignments, and/or final examination

30% - Participation and diligence (attending class, asking questions, etc.)

10% - Homework

20% - Midterm and Final tests/projects

40% - attributed to Quizlet scores and/or TOEIC score. More information about this will be given in the first session.

# Communicative English VII〔英米〕(英1C-B)【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should prepare for each lesson in advance by reading the assigned text beforehand. Students should work on weekly writing assignments for submission. Students should access the Quizlet application to review vocabulary weekly.

## 履修上の注意 /Remarks

Please be on time. If you miss more than 5 classes without a sufficient explanation, or if you miss the final project, you will receive a 「一」 grade.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

You don't need a special brain to learn English, but you do need to make a consistent effort.

## キーワード /Keywords

# Communicative English VII〔英米〕(英1C-C)【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第一外国語

担当者名 /Instructor クリスティン・マイスター / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英1C-C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG202F		◎			
科目名	Communicative English VII				

※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

## 授業の概要 /Course Description

DP: 学術研究に活用できる高度な英語力を身につけ、適切に運用することができる。

Communicative English VII continues to aim for improvement of students' reading and writing ability in English for academic purposes. Students are expected to actively participate in all class activities and are responsible for a short research paper as well as for taking a midterm and final exam. During the course we will ask students to learn academic vocabulary in order to prepare for academic work in English during their course of study at this university.

## 教科書 /Textbooks

Pathways: Reading, Writing and Critical Thinking 3B: Split 3B Second Edition with Online Workbook Access Code (Cengage Learning) ISBN 978-1-337-62493-0 Becky, Mari Vargo, Laurie Blass et, al

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

We will continue to give students access to a Quizlet account and provide study cards from which they should study 50 vocabulary words per week, which will include 45 words from Gardner and Davies' Academic Vocabulary List (AVL) with their English/Japanese translations, and 5 phrasal verbs (such as 'give up' or 'go away').

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.Introduction Class: Course outline and introductions.
- 2.Textbook Lessons 1A. "Information Design"
- 3.Textbook Lessons 1B. "Information Designs"
- 4.Textbook Lessons 2A. "Global Challenges"
- 5.Textbook Lessons 2B. "Global Challenges"
- 6.Textbook Lessons 3A. "Medical Innovations"
- 7.Textbook Lessons 3B. "Medical Innovations"
8. Midterm Exam
- 9.Textbook Lessons 4A. "World Languages"
- 10.Textbook Lessons 4B. "World Languages"
- 11.Textbook Lessons 5A. "Survival Instinct"
- 12.Textbook Lessons 5B. "Survival Instinct"
- 13.Presentations about Paper Topics A
- 14.Presentations about Paper Topics B
- 15.Presentations about Paper Topics C

Schedule and pace may be altered to suit the needs of the class.

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- 60% - attributed to in-class assignments, homework assignments, and/or final examination
  - 30% - Participation and diligence (attending class, asking questions, etc.)
  - 10% - Homework
  - 20% - Midterm and Final tests/projects
- 40% - attributed to Quizlet scores and/or TOEIC score. More information about this will be given in the first session.



# Communicative English VII〔英米〕(英1C-C)【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第一外国語

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should prepare for each lesson in advance by reading the assigned text beforehand. Students should work on weekly writing assignments for submission. Students should access the Quizlet application to review vocabulary weekly.

## 履修上の注意 /Remarks

Please be on time. If you miss more than 5 classes without a sufficient explanation, or if you miss the final project, you will receive a 「一」 grade.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

You don't need a special brain to learn English, but you do need to make a consistent effort.

## キーワード /Keywords

# Communicative English VII〔英米〕(英1C-D)【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第一外国語

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1C-D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG202F		◎			

科目名	Communicative English VII
-----	---------------------------

※修得できる能力との関連性 ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連

## 授業の概要 /Course Description

DP: 学術研究に活用できる高度な英語力を身につけ、適切に運用することができる。

Communicative English VII continues to aim for improvement of students' reading and writing ability in English for academic purposes. Students are expected to actively participate in all class activities and are responsible for a short research paper as well as for taking a midterm and final exam. During the course we will ask students to learn academic vocabulary in order to prepare for academic work in English during their course of study at this university.

## 教科書 /Textbooks

Pathways: Reading, Writing and Critical Thinking 3B: Split 3B Second Edition with Online Workbook Access Code (Cengage Learning) ISBN 978-1-337-62493-0 Becky, Mari Vargo, Laurie Blass et, al

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

We will continue to give students access to a Quizlet account and provide study cards from which they should study 50 vocabulary words per week, which will include 45 words from Gardner and Davies' Academic Vocabulary List (AVL) with their English/Japanese translations, and 5 phrasal verbs (such as 'give up' or 'go away').

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.Introduction Class: Course outline and introductions.
- 2.Textbook Lessons 1A. "Information Design"
- 3.Textbook Lessons 1B. "Information Designs"
- 4.Textbook Lessons 2A. "Global Challenges"
- 5.Textbook Lessons 2B. "Global Challenges"
- 6.Textbook Lessons 3A. "Medical Innovations"
- 7.Textbook Lessons 3B. "Medical Innovations"
8. Midterm Exam
- 9.Textbook Lessons 4A. "World Languages"
- 10.Textbook Lessons 4B. "World Languages"
- 11.Textbook Lessons 5A. "Survival Instinct"
- 12.Textbook Lessons 5B. "Survival Instinct"
- 13.Presentations about Paper Topics A
- 14.Presentations about Paper Topics B
- 15.Presentations about Paper Topics C

Schedule and pace may be altered to suit the needs of the class.

## 成績評価の方法 /Assessment Method

60% - attributed to in-class assignments, homework assignments, and/or final examination

30% - Participation and diligence (attending class, asking questions, etc.)

10% - Homework

20% - Midterm and Final tests/projects

40% - attributed to Quizlet scores and/or TOEIC score. More information about this will be given in the first session.

# Communicative English VII〔英米〕(英1C-D)【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第一外国語

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should prepare for each lesson in advance by reading the assigned text beforehand. Students should work on weekly writing assignments for submission. Students should access the Quizlet application to review vocabulary weekly.

## 履修上の注意 /Remarks

Please be on time. If you miss more than 5 classes without a sufficient explanation, or if you miss the final project, you will receive a 「一」 grade.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

You don't need a special brain to learn English, but you do need to make a consistent effort.

## キーワード /Keywords

# Communicative English VII〔英米〕(英1C-E)【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第一外国語

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英1C-E /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる「技能」	次代を切り開く「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を促進する「コミュニケーション力」	社会で生きる「自立的行動力」
ENG202F		◎			

科目名	Communicative English VII
-----	---------------------------

※修得できる能力との関連性 ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連

## 授業の概要 /Course Description

DP: 学術研究に活用できる高度な英語力を身につけ、適切に運用することができる。

Communicative English VII continues to aim for improvement of students' reading and writing ability in English for academic purposes. Students are expected to actively participate in all class activities and are responsible for a short research paper as well as for taking a midterm and final exam. During the course we will ask students to learn academic vocabulary in order to prepare for academic work in English during their course of study at this university.

## 教科書 /Textbooks

Pathways: Reading, Writing and Critical Thinking 3B: Split 3B Second Edition with Online Workbook Access Code (Cengage Learning) ISBN 978-1-337-62493-0 Becky, Mari Vargo, Laurie Blass et, al

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

We will continue to give students access to a Quizlet account and provide study cards from which they should study 50 vocabulary words per week, which will include 45 words from Gardner and Davies' Academic Vocabulary List (AVL) with their English/Japanese translations, and 5 phrasal verbs (such as 'give up' or 'go away').

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.Introduction Class: Course outline and introductions.
- 2.Textbook Lessons 1A. "Information Design"
- 3.Textbook Lessons 1B. "Information Designs"
- 4.Textbook Lessons 2A. "Global Challenges"
- 5.Textbook Lessons 2B. "Global Challenges"
- 6.Textbook Lessons 3A. "Medical Innovations"
- 7.Textbook Lessons 3B. "Medical Innovations"
8. Midterm Exam
- 9.Textbook Lessons 4A. "World Languages"
- 10.Textbook Lessons 4B. "World Languages"
- 11.Textbook Lessons 5A. "Survival Instinct"
- 12.Textbook Lessons 5B. "Survival Instinct"
- 13.Presentations about Paper Topics A
- 14.Presentations about Paper Topics B
- 15.Presentations about Paper Topics C

Schedule and pace may be altered to suit the needs of the class.

## 成績評価の方法 /Assessment Method

60% - attributed to in-class assignments, homework assignments, and/or final examination

30% - Participation and diligence (attending class, asking questions, etc.)

10% - Homework

20% - Midterm and Final tests/projects

40% - attributed to Quizlet scores and/or TOEIC score. More information about this will be given in the first session.

# Communicative English VII〔英米〕(英1C-E)【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should prepare for each lesson in advance by reading the assigned text beforehand. Students should work on weekly writing assignments for submission. Students should access the Quizlet application to review vocabulary weekly.

## 履修上の注意 /Remarks

Please be on time. If you miss more than 5 classes without a sufficient explanation, or if you miss the final project, you will receive a 「一」 grade.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

You don't need a special brain to learn English, but you do need to make a consistent effort.

## キーワード /Keywords

# Communicative English VII〔英米〕(英1C-F)【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第一外国語

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英1C-F /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる「技能」	次代を切り開く「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を促進する「コミュニケーション力」	社会で生きる「自立的行動力」
ENG202F		◎			

科目名	Communicative English VII
-----	---------------------------

※修得できる能力との関連性 ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連

## 授業の概要 /Course Description

DP: 学術研究に活用できる高度な英語力を身につけ、適切に運用することができる。

Communicative English VII continues to aim for improvement of students' reading and writing ability in English for academic purposes. Students are expected to actively participate in all class activities and are responsible for a short research paper as well as for taking a midterm and final exam. During the course we will ask students to learn academic vocabulary in order to prepare for academic work in English during their course of study at this university.

## 教科書 /Textbooks

Pathways: Reading, Writing and Critical Thinking 3B: Split 3B Second Edition with Online Workbook Access Code (Cengage Learning) ISBN 978-1-337-62493-0 Becky, Mari Vargo, Laurie Blass et, al

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

We will continue to give students access to a Quizlet account and provide study cards from which they should study 50 vocabulary words per week, which will include 45 words from Gardner and Davies' Academic Vocabulary List (AVL) with their English/Japanese translations, and 5 phrasal verbs (such as 'give up' or 'go away').

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.Introduction Class: Course outline and introductions.
- 2.Textbook Lessons 1A. "Information Design"
- 3.Textbook Lessons 1B. "Information Designs"
- 4.Textbook Lessons 2A. "Global Challenges"
- 5.Textbook Lessons 2B. "Global Challenges"
- 6.Textbook Lessons 3A. "Medical Innovations"
- 7.Textbook Lessons 3B. "Medical Innovations"
8. Midterm Exam
- 9.Textbook Lessons 4A. "World Languages"
- 10.Textbook Lessons 4B. "World Languages"
- 11.Textbook Lessons 5A. "Survival Instinct"
- 12.Textbook Lessons 5B. "Survival Instinct"
- 13.Presentations about Paper Topics A
- 14.Presentations about Paper Topics B
- 15.Presentations about Paper Topics C

Schedule and pace may be altered to suit the needs of the class.

## 成績評価の方法 /Assessment Method

60% - attributed to in-class assignments, homework assignments, and/or final examination

30% - Participation and diligence (attending class, asking questions, etc.)

10% - Homework

20% - Midterm and Final tests/projects

40% - attributed to Quizlet scores and/or TOEIC score. More information about this will be given in the first session.

# Communicative English VII〔英米〕(英1C-F)【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第一外国語

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should prepare for each lesson in advance by reading the assigned text beforehand. Students should work on weekly writing assignments for submission. Students should access the Quizlet application to review vocabulary weekly.

## 履修上の注意 /Remarks

Please be on time. If you miss more than 5 classes without a sufficient explanation, or if you miss the final project, you will receive a 「一」 grade.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

You don't need a special brain to learn English, but you do need to make a consistent effort.

## キーワード /Keywords

# Communicative English VIII〔英米〕(英1C-A)【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第一外国語

担当者名 /Instructor アショク アシタ / ASHOK ASHTA / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英1C-A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG212F		◎			

科目名	Communicative English VIII
-----	----------------------------

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

In this course I will help you learn and practice techniques to give more effective presentations. In our globalized world, learning presentation and communication skills is increasingly important. During the class, we will try several different kinds of presentations such as introducing a good friend, a favorite place, and a prized possession. We also learn many techniques such as body language, eye contact, and gestures. Students will have some opportunities to give presentations in the class.

## 教科書 /Textbooks

The textbook will be announced when finalized.

(tentative)

Gershon, Steven. (2015). Present Yourself 1 (2nd edition). Cambridge University Press. ISBN 978-1-107-43563-6

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

The instructor will advise you when necessary.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(tentative)

1. Getting ready: Knowing your audience
2. Getting ready: Giving your presentation
3. (Unit 1) A Good Friend: Exploring the topic
4. (Unit 1) A Good Friend: Techniques and presentation
5. (Unit 2) A Favorite Place: Exploring the topic
6. (Unit 2) A Favorite Place: Techniques and presentation
7. (Unit 3) A Prized Possession: Exploring the topic
8. (Unit 3) A Prized Possession: Techniques and presentation
9. (Unit 4) A Memorable Experience: Exploring the topic
10. (Unit 4) A Memorable Experience: Techniques and presentation
11. (Unit 5) I'll Show You How: Exploring the topic
12. (Unit 5) I'll Show You How: Techniques and presentation
13. (Unit 6) Screen magic: Exploring the topic
14. (Unit 6) Screen magic: Techniques and presentation
- 15: Wrap-up



## 成績評価の方法 /Assessment Method

(Tentative)

Class Activity (50%), Presentations (50%)

Please note that it is possible that up to 40% of the final grade for this course will be determined according to performance in the TOEIC test. Further explanation will be given when the course begins.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

In preparation for each lesson, students should review the last lesson and preview the next lessons topic. Following each lesson you need review what you learned in the lesson.

## 履修上の注意 /Remarks

none

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

You will be able to give an organized, interesting, and persuasive presentation in English after this course.

## キーワード /Keywords

Presentations, Brainstorming, Speeches, Presentation slides, English

# Communicative English VIII〔英米〕(英1C-B)【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第一外国語

担当者名 /Instructor オム ウォンソブ / Eum Wonsub / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英1C-B /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG212F		◎			

科目名	Communicative English VIII
-----	----------------------------

※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

## 授業の概要 /Course Description

In this course I will help you learn and practice techniques to give more effective presentations. In our globalized world, learning presentation and communication skills is increasingly important. During the class, we will try several different kinds of presentations such as introducing a good friend, a favorite place, and a prized possession. We also learn many techniques such as body language, eye contact, and gestures. Students will have some opportunities to give presentations in the class.

## 教科書 /Textbooks

The textbook will be announced when finalized.

(tentative)

Gershon, Steven. (2015). Present Yourself 1 (2nd edition). Cambridge University Press. ISBN 978-1-107-43563-6

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

The instructor will advise you when necessary.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(tentative)

1. Getting ready: Knowing your audience
2. Getting ready: Giving your presentation
3. (Unit 1) A Good Friend: Exploring the topic
4. (Unit 1) A Good Friend: Techniques and presentation
5. (Unit 2) A Favorite Place: Exploring the topic
6. (Unit 2) A Favorite Place: Techniques and presentation
7. (Unit 3) A Prized Possession: Exploring the topic
8. (Unit 3) A Prized Possession: Techniques and presentation
9. (Unit 4) A Memorable Experience: Exploring the topic
10. (Unit 4) A Memorable Experience: Techniques and presentation
11. (Unit 5) I'll Show You How: Exploring the topic
12. (Unit 5) I'll Show You How: Techniques and presentation
13. (Unit 6) Screen magic: Exploring the topic
14. (Unit 6) Screen magic: Techniques and presentation
- 15: Wrap-up

## 成績評価の方法 /Assessment Method

(Tentative)

Class Activity (50%), Presentations (50%)

Please note that it is possible that up to 40% of the final grade for this course will be determined according to performance in the TOEIC test. Further explanation will be given when the course begins.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

In preparation for each lesson, students should review the last lesson and preview the next lessons topic. Following each lesson you need review what you learned in the lesson.

## 履修上の注意 /Remarks

none

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

You will be able to give an organized, interesting, and persuasive presentation in English after this course.

## キーワード /Keywords

Presentations, Brainstorming, Speeches, Presentation slides, English

# Communicative English VIII〔英米〕(英1C-C)【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第一外国語

担当者名 /Instructor カール・マックナマラ・ページ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英1C-C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG212F		◎			
科目名	Communicative English VIII				

※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

## 授業の概要 /Course Description

In this course I will help you learn and practice techniques to give more effective presentations. In our globalized world, learning presentation and communication skills is increasingly important. During the class, we will try several different kinds of presentations such as introducing a good friend, a favorite place, and a prized possession. We also learn many techniques such as body language, eye contact, and gestures. Students will have some opportunities to give presentations in the class.

## 教科書 /Textbooks

The textbook will be announced when finalized.  
(tentative)  
Gershon, Steven. (2015). Present Yourself 1 (2nd edition). Cambridge University Press. ISBN 978-1-107-43563-6

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

The instructor will advise you when necessary.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (tentative)
1. Getting ready: Knowing your audience
  2. Getting ready: Giving your presentation
  3. (Unit 1) A Good Friend: Exploring the topic
  4. (Unit 1) A Good Friend: Techniques and presentation
  5. (Unit 2) A Favorite Place: Exploring the topic
  6. (Unit 2) A Favorite Place: Techniques and presentation
  7. (Unit 3) A Prized Possession: Exploring the topic
  8. (Unit 3) A Prized Possession: Techniques and presentation
  9. (Unit 4) A Memorable Experience: Exploring the topic
  10. (Unit 4) A Memorable Experience: Techniques and presentation
  11. (Unit 5) I'll Show You How: Exploring the topic
  12. (Unit 5) I'll Show You How: Techniques and presentation
  13. (Unit 6) Screen magic: Exploring the topic
  14. (Unit 6) Screen magic: Techniques and presentation
  - 15: Wrap-up

## 成績評価の方法 /Assessment Method

(Tentative)

Class Activity (50%), Presentations (50%)

Please note that it is possible that up to 40% of the final grade for this course will be determined according to performance in the TOEIC test. Further explanation will be given when the course begins.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

In preparation for each lesson, students should review the last lesson and preview the next lessons topic. Following each lesson you need review what you learned in the lesson.

## 履修上の注意 /Remarks

none

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

You will be able to give an organized, interesting, and persuasive presentation in English after this course.

## キーワード /Keywords

Presentations, Brainstorming, Speeches, Presentation slides, English

# Communicative English VIII〔英米〕(英1C-D)【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第一外国語

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英1C-D /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG212F		◎			
科目名	Communicative English VIII				

※修得できる能力との関連性 ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連

## 授業の概要 /Course Description

In this course I will help you learn and practice techniques to give more effective presentations. In our globalized world, learning presentation and communication skills is increasingly important. During the class, we will try several different kinds of presentations such as introducing a good friend, a favorite place, and a prized possession. We also learn many techniques such as body language, eye contact, and gestures. Students will have some opportunities to give presentations in the class.

## 教科書 /Textbooks

The textbook will be announced when finalized.

(tentative)

Gershon, Steven. (2015). Present Yourself 1 (2nd edition). Cambridge University Press. ISBN 978-1-107-43563-6

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

The instructor will advise you when necessary.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(tentative)

1. Getting ready: Knowing your audience
2. Getting ready: Giving your presentation
3. (Unit 1) A Good Friend: Exploring the topic
4. (Unit 1) A Good Friend: Techniques and presentation
5. (Unit 2) A Favorite Place: Exploring the topic
6. (Unit 2) A Favorite Place: Techniques and presentation
7. (Unit 3) A Prized Possession: Exploring the topic
8. (Unit 3) A Prized Possession: Techniques and presentation
9. (Unit 4) A Memorable Experience: Exploring the topic
10. (Unit 4) A Memorable Experience: Techniques and presentation
11. (Unit 5) I'll Show You How: Exploring the topic
12. (Unit 5) I'll Show You How: Techniques and presentation
13. (Unit 6) Screen magic: Exploring the topic
14. (Unit 6) Screen magic: Techniques and presentation
- 15: Wrap-up

## 成績評価の方法 /Assessment Method

(Tentative)

Class Activity (50%), Presentations (50%)

Please note that it is possible that up to 40% of the final grade for this course will be determined according to performance in the TOEIC test. Further explanation will be given when the course begins.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

In preparation for each lesson, students should review the last lesson and preview the next lessons topic. Following each lesson you need review what you learned in the lesson.

## 履修上の注意 /Remarks

none

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

You will be able to give an organized, interesting, and persuasive presentation in English after this course.

## キーワード /Keywords

Presentations, Brainstorming, Speeches, Presentation slides, English

# Communicative English VIII〔英米〕(英1C-E)【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第一外国語

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英1C-E /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG212F		◎			

科目名	Communicative English VIII
-----	----------------------------

※修得できる能力との関連性 ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連

## 授業の概要 /Course Description

In this course I will help you learn and practice techniques to give more effective presentations. In our globalized world, learning presentation and communication skills is increasingly important. During the class, we will try several different kinds of presentations such as introducing a good friend, a favorite place, and a prized possession. We also learn many techniques such as body language, eye contact, and gestures. Students will have some opportunities to give presentations in the class.

## 教科書 /Textbooks

The textbook will be announced when finalized.

(tentative)

Gershon, Steven. (2015). Present Yourself 1 (2nd edition). Cambridge University Press. ISBN 978-1-107-43563-6

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

The instructor will advise you when necessary.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(tentative)

1. Getting ready: Knowing your audience
2. Getting ready: Giving your presentation
3. (Unit 1) A Good Friend: Exploring the topic
4. (Unit 1) A Good Friend: Techniques and presentation
5. (Unit 2) A Favorite Place: Exploring the topic
6. (Unit 2) A Favorite Place: Techniques and presentation
7. (Unit 3) A Prized Possession: Exploring the topic
8. (Unit 3) A Prized Possession: Techniques and presentation
9. (Unit 4) A Memorable Experience: Exploring the topic
10. (Unit 4) A Memorable Experience: Techniques and presentation
11. (Unit 5) I'll Show You How: Exploring the topic
12. (Unit 5) I'll Show You How: Techniques and presentation
13. (Unit 6) Screen magic: Exploring the topic
14. (Unit 6) Screen magic: Techniques and presentation
- 15: Wrap-up



## 成績評価の方法 /Assessment Method

(Tentative)

Class Activity (50%), Presentations (50%)

Please note that it is possible that up to 40% of the final grade for this course will be determined according to performance in the TOEIC test. Further explanation will be given when the course begins.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

In preparation for each lesson, students should review the last lesson and preview the next lessons topic. Following each lesson you need review what you learned in the lesson.

## 履修上の注意 /Remarks

none

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

You will be able to give an organized, interesting, and persuasive presentation in English after this course.

## キーワード /Keywords

Presentations, Brainstorming, Speeches, Presentation slides, English

# Communicative English VIII〔英米〕(英1C-F)【昼】

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英1C-F /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG212F		◎			
科目名	Communicative English VIII				

※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

## 授業の概要 /Course Description

In this course I will help you learn and practice techniques to give more effective presentations. In our globalized world, learning presentation and communication skills is increasingly important. During the class, we will try several different kinds of presentations such as introducing a good friend, a favorite place, and a prized possession. We also learn many techniques such as body language, eye contact, and gestures. Students will have some opportunities to give presentations in the class.

## 教科書 /Textbooks

The textbook will be announced when finalized.  
(tentative)  
Gershon, Steven. (2015). Present Yourself 1 (2nd edition). Cambridge University Press. ISBN 978-1-107-43563-6

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

The instructor will advise you when necessary.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (tentative)
- Getting ready: Knowing your audience
  - Getting ready: Giving your presentation
  - (Unit 1) A Good Friend: Exploring the topic
  - (Unit 1) A Good Friend: Techniques and presentation
  - (Unit 2) A Favorite Place: Exploring the topic
  - (Unit 2) A Favorite Place: Techniques and presentation
  - (Unit 3) A Prized Possession: Exploring the topic
  - (Unit 3) A Prized Possession: Techniques and presentation
  - (Unit 4) A Memorable Experience: Exploring the topic
  - (Unit 4) A Memorable Experience: Techniques and presentation
  - (Unit 5) I'll Show You How: Exploring the topic
  - (Unit 5) I'll Show You How: Techniques and presentation
  - (Unit 6) Screen magic: Exploring the topic
  - (Unit 6) Screen magic: Techniques and presentation
  - Wrap-up

## 成績評価の方法 /Assessment Method

(Tentative)

Class Activity (50%), Presentations (50%)

Please note that it is possible that up to 40% of the final grade for this course will be determined according to performance in the TOEIC test. Further explanation will be given when the course begins.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

In preparation for each lesson, students should review the last lesson and preview the next lessons topic. Following each lesson you need review what you learned in the lesson.

## 履修上の注意 /Remarks

none

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

You will be able to give an organized, interesting, and persuasive presentation in English after this course.

## キーワード /Keywords

Presentations, Brainstorming, Speeches, Presentation slides, English

# Higher English I〔英米〕(英1H-A)【昼】

担当者名 /Instructor  ホロウェイ グレゴリー キース / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year  1年次  単位 /Credits  2単位  学期 /Semester  2学期  授業形態 /Class Format  講義  クラス /Class  英1H-A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG302F		◎	○	△	
科目名	Higher English I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

技能: デイベートやディスカッションに堪える高度な英語技能を身につけ、運用することができる。

思考・判断・表現力: Critical Thinkingを実践し、適切に意見を表現することができる。

コミュニケーション力: 豊富な語彙力、表現力を活かしたアカデミックな英語コミュニケーション力を有している。

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction. This will lead to a broadening of each individual's active vocabulary bank, and improvements in reading, writing, listening, and speaking skills.

The course is divided into seven topic-focused two-class stages. The first section of each of the two-part stages is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts, and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second section, or discussion and writing section, takes place. During these discussion and writing classes (second-section classes) students will be required to produce comments and arguments that employ new vocabulary and relevant concepts.

Students will be encouraged to be active, talkative, and productive during each and every class. Instruction works on the premise that the more students speak and write, the more their English skills will improve.

## 教科書 /Textbooks

Materials to be provided by the class teacher on a weekly basis.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Where and when appropriate, the class teacher will recommend background reading to support vocabulary development.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction
2. The Pros and Cons of Hosting the Olympics - Reading, Listening, Speaking
3. The Pros and Cons of Hosting the Olympics - Discussion, Writing
4. Global English: Englishes Galore - Reading, Listening, Speaking
5. Global English: Englishes Galore - Discussion, Writing
6. Entrepreneurship: Successes and Failures – Reading, Listening, Speaking
7. Entrepreneurship: Successes and Failures – Discussion, Writing
8. How do Humans Master Foreign Languages? – Reading, Listening, Speaking
9. How do Humans Master Foreign Languages? – Discussion, Writing
10. 'Reading' Film: Reading, Listening, Speaking
11. 'Reading' Film: Discussion, Writing
12. Company Promotion Systems: Seniority or Performance? – Reading, Listening, Speaking
13. Company Promotion Systems: Seniority or Performance? – Discussion, Writing
14. Talking Travel: The Language of Travel Journalism – Reading, Listening, Speaking
15. Talking Travel: The Language of Travel Journalism – Discussion, Writing

# Higher English I (英米) (英 1 H-A) 【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

60% - in-class assignments, homework assignments, and/or quizzes

40% - final examination

It is possible that up to 40% of the final grade for this course will be determined according to performance in the TOEIC test. Further explanation will be given when the course begins.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are advised to prepare for each class by reading up on - and thinking about - the relevant topic in advance.

Each class will be reviewed through reading- and writing-focused assignments.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# Higher English I (英米) (英1H-B) 【昼】

担当者名 /Instructor アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1H-B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG302F		◎	○	△	
科目名	Higher English I		※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

技能: デイベートやディスカッションに堪える高度な英語技能を身につけ、運用することができる。

思考・判断・表現力: Critical Thinkingを実践し、適切に意見を表現することができる。

コミュニケーション力: 豊富な語彙力、表現力を活かしたアカデミックな英語コミュニケーション力を有している。

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction. This will lead to a broadening of each individual's active vocabulary bank, and improvements in reading, writing, listening, and speaking skills.

The course is divided into seven topic-focused two-class stages. The first section of each of the two-part stages is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts, and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second section, or discussion and writing section, takes place. During these discussion and writing classes (second-section classes) students will be required to produce comments and arguments that employ new vocabulary and relevant concepts.

Students will be encouraged to be active, talkative, and productive during each and every class. Instruction works on the premise that the more students speak and write, the more their English skills will improve.

## 教科書 /Textbooks

Materials to be provided by the class teacher on a weekly basis.

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

Where and when appropriate, the class teacher will recommend background reading to support vocabulary development.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction
2. The Pros and Cons of Hosting the Olympics - Reading, Listening, Speaking
3. The Pros and Cons of Hosting the Olympics - Discussion, Writing
4. Global English: Englishes Galore - Reading, Listening, Speaking
5. Global English: Englishes Galore - Discussion, Writing
6. Entrepreneurship: Successes and Failures - Reading, Listening, Speaking
7. Entrepreneurship: Successes and Failures - Discussion, Writing
8. How do Humans Master Foreign Languages? - Reading, Listening, Speaking
9. How do Humans Master Foreign Languages? - Discussion, Writing
10. 'Reading' Film: Reading, Listening, Speaking
11. 'Reading' Film: Discussion, Writing
12. Company Promotion Systems: Seniority or Performance? - Reading, Listening, Speaking
13. Company Promotion Systems: Seniority or Performance? - Discussion, Writing
14. Talking Travel: The Language of Travel Journalism - Reading, Listening, Speaking
15. Talking Travel: The Language of Travel Journalism - Discussion, Writing

# Higher English I (英米) (英 1 H-B) 【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

60% - in-class assignments, homework assignments, and/or quizzes

40% - final examination

It is possible that up to 40% of the final grade for this course will be determined according to performance in the TOEIC test. Further explanation will be given when the course begins.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are advised to prepare for each class by reading up on - and thinking about - the relevant topic in advance.

Each class will be reviewed through reading- and writing-focused assignments.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# Higher English I (英米) (英1H-C) 【昼】

担当者名 /Instructor: フィオナ・クリーサー / Fiona Creaser / 英米学科

履修年次 /Year: 1年次  
単位 /Credits: 2単位  
学期 /Semester: 2学期  
授業形態 /Class Format: 講義  
クラス /Class: 英1H-C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG302F		◎	○	△	
科目名	Higher English I		※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

技能: デイベートやディスカッションに堪える高度な英語技能を身につけ、運用することができる。

思考・判断・表現力: Critical Thinkingを実践し、適切に意見を表現することができる。

コミュニケーション力: 豊富な語彙力、表現力を活かしたアカデミックな英語コミュニケーション力を有している。

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction. This will lead to a broadening of each individual's active vocabulary bank, and improvements in reading, writing, listening, and speaking skills.

The course is divided into seven topic-focused two-class stages. The first section of each of the two-part stages is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts, and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second section, or discussion and writing section, takes place. During these discussion and writing classes (second-section classes) students will be required to produce comments and arguments that employ new vocabulary and relevant concepts.

Students will be encouraged to be active, talkative, and productive during each and every class. Instruction works on the premise that the more students speak and write, the more their English skills will improve.

## 教科書 /Textbooks

Materials to be provided by the class teacher on a weekly basis.

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

Where and when appropriate, the class teacher will recommend background reading to support vocabulary development.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction
2. The Pros and Cons of Hosting the Olympics - Reading, Listening, Speaking
3. The Pros and Cons of Hosting the Olympics - Discussion, Writing
4. Global English: Englishes Galore - Reading, Listening, Speaking
5. Global English: Englishes Galore - Discussion, Writing
6. Entrepreneurship: Successes and Failures - Reading, Listening, Speaking
7. Entrepreneurship: Successes and Failures - Discussion, Writing
8. How do Humans Master Foreign Languages? - Reading, Listening, Speaking
9. How do Humans Master Foreign Languages? - Discussion, Writing
10. 'Reading' Film: Reading, Listening, Speaking
11. 'Reading' Film: Discussion, Writing
12. Company Promotion Systems: Seniority or Performance? - Reading, Listening, Speaking
13. Company Promotion Systems: Seniority or Performance? - Discussion, Writing
14. Talking Travel: The Language of Travel Journalism - Reading, Listening, Speaking
15. Talking Travel: The Language of Travel Journalism - Discussion, Writing



# Higher English I (英米) (英 1 H-C) 【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

60% - in-class assignments, homework assignments, and/or quizzes

40% - final examination

It is possible that up to 40% of the final grade for this course will be determined according to performance in the TOEIC test. Further explanation will be given when the course begins.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are advised to prepare for each class by reading up on - and thinking about - the relevant topic in advance.

Each class will be reviewed through reading- and writing-focused assignments.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# Higher English I (英米) (英1H-D) 【昼】

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1H-D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG302F		◎	○	△	
科目名	Higher English I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

技能: デイベートやディスカッションに堪える高度な英語技能を身につけ、運用することができる。

思考・判断・表現力: Critical Thinkingを実践し、適切に意見を表現することができる。

コミュニケーション力: 豊富な語彙力、表現力を活かしたアカデミックな英語コミュニケーション力を有している。

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction. This will lead to a broadening of each individual's active vocabulary bank, and improvements in reading, writing, listening, and speaking skills.

The course is divided into seven topic-focused two-class stages. The first section of each of the two-part stages is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts, and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second section, or discussion and writing section, takes place. During these discussion and writing classes (second-section classes) students will be required to produce comments and arguments that employ new vocabulary and relevant concepts.

Students will be encouraged to be active, talkative, and productive during each and every class. Instruction works on the premise that the more students speak and write, the more their English skills will improve.

## 教科書 /Textbooks

Materials to be provided by the class teacher on a weekly basis.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Where and when appropriate, the class teacher will recommend background reading to support vocabulary development.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction
2. The Pros and Cons of Hosting the Olympics - Reading, Listening, Speaking
3. The Pros and Cons of Hosting the Olympics - Discussion, Writing
4. Global English: Englishes Galore - Reading, Listening, Speaking
5. Global English: Englishes Galore - Discussion, Writing
6. Entrepreneurship: Successes and Failures – Reading, Listening, Speaking
7. Entrepreneurship: Successes and Failures – Discussion, Writing
8. How do Humans Master Foreign Languages? – Reading, Listening, Speaking
9. How do Humans Master Foreign Languages? – Discussion, Writing
10. 'Reading' Film: Reading, Listening, Speaking
11. 'Reading' Film: Discussion, Writing
12. Company Promotion Systems: Seniority or Performance? – Reading, Listening, Speaking
13. Company Promotion Systems: Seniority or Performance? – Discussion, Writing
14. Talking Travel: The Language of Travel Journalism – Reading, Listening, Speaking
15. Talking Travel: The Language of Travel Journalism – Discussion, Writing

# Higher English I (英米) (英 1 H-D) 【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

60% - in-class assignments, homework assignments, and/or quizzes

40% - final examination

It is possible that up to 40% of the final grade for this course will be determined according to performance in the TOEIC test. Further explanation will be given when the course begins.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are advised to prepare for each class by reading up on - and thinking about - the relevant topic in advance.

Each class will be reviewed through reading- and writing-focused assignments.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# Higher English I (英米) (英1H-E) 【昼】

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1H-E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG302F		◎	○	△	
科目名	Higher English I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

技能: デイベートやディスカッションに堪える高度な英語技能を身につけ、運用することができる。

思考・判断・表現力: Critical Thinkingを実践し、適切に意見を表現することができる。

コミュニケーション力: 豊富な語彙力、表現力を活かしたアカデミックな英語コミュニケーション力を有している。

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction. This will lead to a broadening of each individual's active vocabulary bank, and improvements in reading, writing, listening, and speaking skills.

The course is divided into seven topic-focused two-class stages. The first section of each of the two-part stages is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts, and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second section, or discussion and writing section, takes place. During these discussion and writing classes (second-section classes) students will be required to produce comments and arguments that employ new vocabulary and relevant concepts.

Students will be encouraged to be active, talkative, and productive during each and every class. Instruction works on the premise that the more students speak and write, the more their English skills will improve.

## 教科書 /Textbooks

Materials to be provided by the class teacher on a weekly basis.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Where and when appropriate, the class teacher will recommend background reading to support vocabulary development.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction
2. The Pros and Cons of Hosting the Olympics - Reading, Listening, Speaking
3. The Pros and Cons of Hosting the Olympics - Discussion, Writing
4. Global English: Englishes Galore - Reading, Listening, Speaking
5. Global English: Englishes Galore - Discussion, Writing
6. Entrepreneurship: Successes and Failures - Reading, Listening, Speaking
7. Entrepreneurship: Successes and Failures - Discussion, Writing
8. How do Humans Master Foreign Languages? - Reading, Listening, Speaking
9. How do Humans Master Foreign Languages? - Discussion, Writing
10. 'Reading' Film: Reading, Listening, Speaking
11. 'Reading' Film: Discussion, Writing
12. Company Promotion Systems: Seniority or Performance? - Reading, Listening, Speaking
13. Company Promotion Systems: Seniority or Performance? - Discussion, Writing
14. Talking Travel: The Language of Travel Journalism - Reading, Listening, Speaking
15. Talking Travel: The Language of Travel Journalism - Discussion, Writing

# Higher English I (英米) (英 1 H-E) 【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

60% - in-class assignments, homework assignments, and/or quizzes

40% - final examination

It is possible that up to 40% of the final grade for this course will be determined according to performance in the TOEIC test. Further explanation will be given when the course begins.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are advised to prepare for each class by reading up on - and thinking about - the relevant topic in advance.

Each class will be reviewed through reading- and writing-focused assignments.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# Higher English I (英米) (英2H-A) 【昼】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英2H-A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG302F		◎	○	△	
科目名	Higher English I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

技能: デイベートやディスカッションに堪える高度な英語技能を身につけ、運用することができる。

思考・判断・表現力: Critical Thinkingを実践し、適切に意見を表現することができる。

コミュニケーション力: 豊富な語彙力、表現力を活かしたアカデミックな英語コミュニケーション力を有している。

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction. This will lead to a broadening of each individual's active vocabulary bank, and improvements in reading, writing, listening, and speaking skills.

The course is divided into seven topic-focused two-class stages. The first section of each of the two-part stages is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts, and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second section, or discussion and writing section, takes place. During these discussion and writing classes (second-section classes) students will be required to produce comments and arguments that employ new vocabulary and relevant concepts.

Students will be encouraged to be active, talkative, and productive during each and every class. Instruction works on the premise that the more students speak and write, the more their English skills will improve.

## 教科書 /Textbooks

Materials to be provided by the class teacher on a weekly basis.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Where and when appropriate, the class teacher will recommend background reading to support vocabulary development.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction
2. The Pros and Cons of Hosting the Olympics - Reading, Listening, Speaking
3. The Pros and Cons of Hosting the Olympics - Discussion, Writing
4. Global English: Englishes Galore - Reading, Listening, Speaking
5. Global English: Englishes Galore - Discussion, Writing
6. Entrepreneurship: Successes and Failures – Reading, Listening, Speaking
7. Entrepreneurship: Successes and Failures – Discussion, Writing
8. How do Humans Master Foreign Languages? – Reading, Listening, Speaking
9. How do Humans Master Foreign Languages? – Discussion, Writing
10. 'Reading' Film: Reading, Listening, Speaking
11. 'Reading' Film: Discussion, Writing
12. Company Promotion Systems: Seniority or Performance? – Reading, Listening, Speaking
13. Company Promotion Systems: Seniority or Performance? – Discussion, Writing
14. Talking Travel: The Language of Travel Journalism – Reading, Listening, Speaking
15. Talking Travel: The Language of Travel Journalism – Discussion, Writing

# Higher English I (英米) (英2 H-A) 【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

60% - in-class assignments, homework assignments, and/or quizzes

40% - final examination

It is possible that up to 40% of the final grade for this course will be determined according to performance in the TOEIC test. Further explanation will be given when the course begins.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are advised to prepare for each class by reading up on - and thinking about - the relevant topic in advance.

Each class will be reviewed through reading- and writing-focused assignments.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# Higher English I (英米) (英2H-B) 【昼】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英2H-B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG302F		◎	○	△	
科目名	Higher English I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

技能: デイベートやディスカッションに堪える高度な英語技能を身につけ、運用することができる。

思考・判断・表現力: Critical Thinkingを実践し、適切に意見を表現することができる。

コミュニケーション力: 豊富な語彙力、表現力を活かしたアカデミックな英語コミュニケーション力を有している。

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction. This will lead to a broadening of each individual's active vocabulary bank, and improvements in reading, writing, listening, and speaking skills.

The course is divided into seven topic-focused two-class stages. The first section of each of the two-part stages is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts, and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second section, or discussion and writing section, takes place. During these discussion and writing classes (second-section classes) students will be required to produce comments and arguments that employ new vocabulary and relevant concepts.

Students will be encouraged to be active, talkative, and productive during each and every class. Instruction works on the premise that the more students speak and write, the more their English skills will improve.

## 教科書 /Textbooks

Materials to be provided by the class teacher on a weekly basis.

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

Where and when appropriate, the class teacher will recommend background reading to support vocabulary development.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction
2. The Pros and Cons of Hosting the Olympics - Reading, Listening, Speaking
3. The Pros and Cons of Hosting the Olympics - Discussion, Writing
4. Global English: Englishes Galore - Reading, Listening, Speaking
5. Global English: Englishes Galore - Discussion, Writing
6. Entrepreneurship: Successes and Failures – Reading, Listening, Speaking
7. Entrepreneurship: Successes and Failures – Discussion, Writing
8. How do Humans Master Foreign Languages? – Reading, Listening, Speaking
9. How do Humans Master Foreign Languages? – Discussion, Writing
10. 'Reading' Film: Reading, Listening, Speaking
11. 'Reading' Film: Discussion, Writing
12. Company Promotion Systems: Seniority or Performance? – Reading, Listening, Speaking
13. Company Promotion Systems: Seniority or Performance? – Discussion, Writing
14. Talking Travel: The Language of Travel Journalism – Reading, Listening, Speaking
15. Talking Travel: The Language of Travel Journalism – Discussion, Writing



# Higher English I (英米) (英2 H-B) 【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

60% - in-class assignments, homework assignments, and/or quizzes

40% - final examination

It is possible that up to 40% of the final grade for this course will be determined according to performance in the TOEIC test. Further explanation will be given when the course begins.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are advised to prepare for each class by reading up on - and thinking about - the relevant topic in advance.

Each class will be reviewed through reading- and writing-focused assignments.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# Higher English I (英米) (英2H-C) 【昼】

担当者名 /Instructor  ホロウェイ グレゴリー キース / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year  2年次  単位 /Credits  2単位  学期 /Semester  1学期  授業形態 /Class Format  講義  クラス /Class  英2H-C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG302F		◎	○	△	
科目名	Higher English I		※修得できる能力との関連性  ◎：強く関連  ○：関連  △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

技能: デイベートやディスカッションに堪える高度な英語技能を身につけ、運用することができる。

思考・判断・表現力: Critical Thinkingを実践し、適切に意見を表現することができる。

コミュニケーション力: 豊富な語彙力、表現力を活かしたアカデミックな英語コミュニケーション力を有している。

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction. This will lead to a broadening of each individual's active vocabulary bank, and improvements in reading, writing, listening, and speaking skills.

The course is divided into seven topic-focused two-class stages. The first section of each of the two-part stages is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts, and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second section, or discussion and writing section, takes place. During these discussion and writing classes (second-section classes) students will be required to produce comments and arguments that employ new vocabulary and relevant concepts.

Students will be encouraged to be active, talkative, and productive during each and every class. Instruction works on the premise that the more students speak and write, the more their English skills will improve.

## 教科書 /Textbooks

Materials to be provided by the class teacher on a weekly basis.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Where and when appropriate, the class teacher will recommend background reading to support vocabulary development.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction
2. The Pros and Cons of Hosting the Olympics - Reading, Listening, Speaking
3. The Pros and Cons of Hosting the Olympics - Discussion, Writing
4. Global English: Englishes Galore - Reading, Listening, Speaking
5. Global English: Englishes Galore - Discussion, Writing
6. Entrepreneurship: Successes and Failures – Reading, Listening, Speaking
7. Entrepreneurship: Successes and Failures – Discussion, Writing
8. How do Humans Master Foreign Languages? – Reading, Listening, Speaking
9. How do Humans Master Foreign Languages? – Discussion, Writing
10. 'Reading' Film: Reading, Listening, Speaking
11. 'Reading' Film: Discussion, Writing
12. Company Promotion Systems: Seniority or Performance? – Reading, Listening, Speaking
13. Company Promotion Systems: Seniority or Performance? – Discussion, Writing
14. Talking Travel: The Language of Travel Journalism – Reading, Listening, Speaking
15. Talking Travel: The Language of Travel Journalism – Discussion, Writing

# Higher English I (英米) (英2 H-C) 【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

60% - in-class assignments, homework assignments, and/or quizzes

40% - final examination

It is possible that up to 40% of the final grade for this course will be determined according to performance in the TOEIC test. Further explanation will be given when the course begins.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are advised to prepare for each class by reading up on - and thinking about - the relevant topic in advance.  
Each class will be reviewed through reading- and writing-focused assignments.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# Higher English I (英米) (英2H-D) 【昼】

担当者名 /Instructor 山口ウエイ グレゴリー キース / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英2H-D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG302F		◎	○	△	
科目名	Higher English I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

技能: デイベートやディスカッションに堪える高度な英語技能を身につけ、運用することができる。

思考・判断・表現力: Critical Thinkingを実践し、適切に意見を表現することができる。

コミュニケーション力: 豊富な語彙力、表現力を活かしたアカデミックな英語コミュニケーション力を有している。

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction. This will lead to a broadening of each individual's active vocabulary bank, and improvements in reading, writing, listening, and speaking skills.

The course is divided into seven topic-focused two-class stages. The first section of each of the two-part stages is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts, and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second section, or discussion and writing section, takes place. During these discussion and writing classes (second-section classes) students will be required to produce comments and arguments that employ new vocabulary and relevant concepts.

Students will be encouraged to be active, talkative, and productive during each and every class. Instruction works on the premise that the more students speak and write, the more their English skills will improve.

## 教科書 /Textbooks

Materials to be provided by the class teacher on a weekly basis.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Where and when appropriate, the class teacher will recommend background reading to support vocabulary development.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction
2. The Pros and Cons of Hosting the Olympics - Reading, Listening, Speaking
3. The Pros and Cons of Hosting the Olympics - Discussion, Writing
4. Global English: Englishes Galore - Reading, Listening, Speaking
5. Global English: Englishes Galore - Discussion, Writing
6. Entrepreneurship: Successes and Failures – Reading, Listening, Speaking
7. Entrepreneurship: Successes and Failures – Discussion, Writing
8. How do Humans Master Foreign Languages? – Reading, Listening, Speaking
9. How do Humans Master Foreign Languages? – Discussion, Writing
10. 'Reading' Film: Reading, Listening, Speaking
11. 'Reading' Film: Discussion, Writing
12. Company Promotion Systems: Seniority or Performance? – Reading, Listening, Speaking
13. Company Promotion Systems: Seniority or Performance? – Discussion, Writing
14. Talking Travel: The Language of Travel Journalism – Reading, Listening, Speaking
15. Talking Travel: The Language of Travel Journalism – Discussion, Writing

# Higher English I (英米) (英2 H-D) 【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

60% - in-class assignments, homework assignments, and/or quizzes

40% - final examination

It is possible that up to 40% of the final grade for this course will be determined according to performance in the TOEIC test. Further explanation will be given when the course begins.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are advised to prepare for each class by reading up on - and thinking about - the relevant topic in advance.

Each class will be reviewed through reading- and writing-focused assignments.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# Higher English II〔英米〕(英1H-A)【昼】

担当者名 /Instructor アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1H-A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG312F		◎	○	△	
科目名	Higher English II		※修得できる能力との関連性 ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

DPに基づく3つの到達目標

技能: デイバートやディスカッションに堪える高度な英語技能を身につけ、運用することができる。

思考・判断・表現力: Critical Thinkingを実践し、適切に意見を表現することができる。

コミュニケーション力: 豊富な語彙力、表現力を活かしたアカデミックな英語コミュニケーション力を有している。

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction. This will lead to a broadening of each individual's active vocabulary bank, and improvements in reading, writing, listening, and speaking skills.

The course is divided into seven topic-focused two-class stages. The first section of each of the two-part stages is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts, and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second section, or discussion and writing section, takes place. During these discussion and writing classes (second-section classes) students will be required to produce comments and arguments that employ new vocabulary and relevant concepts.

Students will be encouraged to be active, talkative, and productive during each and every class. Instruction works on the premise that the more students speak and write, the more their English skills will improve.

## 教科書 /Textbooks

Materials to be provided by the class teacher on a weekly basis.

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

Where and when appropriate, the class teacher will recommend background reading to support vocabulary development.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction
2. The Ugliness of the Beauty Industry – Reading, Listening, Speaking
3. The Ugliness of the Beauty Industry – Discussion, Writing
4. Folklore, Fairytales, and Worldview – Reading, Listening, Speaking
5. Folklore, Fairytales, and Worldview – Discussion, Writing
6. Inclusion and Diversity – Reading, Listening, Speaking
7. Inclusion and Diversity – Discussion, Writing
8. Fair Trade and Global Business Giants – Reading, Listening, Speaking
9. Fair Trade and Global Business Giants – Discussion, Writing
10. The Best Ways to Teach English – Reading, Listening, Speaking
11. The Best Ways to Teach English – Discussion, Writing
12. 'Reading' Film – Reading, Listening, Speaking
13. 'Reading' Film – Discussion, Writing
14. Marketing Japan: Improving Japan's Tourist Industry – Reading, Listening, Speaking
15. Marketing Japan: Improving Japan's Tourist Industry – Discussion, Writing

# Higher English II〔英米〕(英1H-A)【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

In-class assignments - 50%  
Homework assignments - 50%

(Some teachers may choose to replace up to 40% of the above with a final examination. Please ask your teacher for details.)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are advised to prepare for each class by reading up on - and thinking about - the relevant topic in advance.  
Each class will be reviewed through reading- and writing-focused assignments.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# Higher English II〔英米〕(英1H-B)【昼】

担当者名 /Instructor: フィオナ・クリーサー / Fiona Creaser / 英米学科

履修年次 /Year: 1年次  
単位 /Credits: 2単位  
学期 /Semester: 2学期  
授業形態 /Class Format: 講義  
クラス /Class: 英1H-B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG312F		◎	○	△	
科目名	Higher English II		※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

DPに基づく3つの到達目標

技能: デイベートやディスカッションに堪える高度な英語技能を身につけ、運用することができる。

思考・判断・表現力: Critical Thinkingを実践し、適切に意見を表現することができる。

コミュニケーション力: 豊富な語彙力、表現力を活かしたアカデミックな英語コミュニケーション力を有している。

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction. This will lead to a broadening of each individual's active vocabulary bank, and improvements in reading, writing, listening, and speaking skills.

The course is divided into seven topic-focused two-class stages. The first section of each of the two-part stages is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts, and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second section, or discussion and writing section, takes place. During these discussion and writing classes (second-section classes) students will be required to produce comments and arguments that employ new vocabulary and relevant concepts.

Students will be encouraged to be active, talkative, and productive during each and every class. Instruction works on the premise that the more students speak and write, the more their English skills will improve.

## 教科書 /Textbooks

Materials to be provided by the class teacher on a weekly basis.

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

Where and when appropriate, the class teacher will recommend background reading to support vocabulary development.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction
2. The Ugliness of the Beauty Industry – Reading, Listening, Speaking
3. The Ugliness of the Beauty Industry – Discussion, Writing
4. Folklore, Fairytales, and Worldview – Reading, Listening, Speaking
5. Folklore, Fairytales, and Worldview – Discussion, Writing
6. Inclusion and Diversity – Reading, Listening, Speaking
7. Inclusion and Diversity – Discussion, Writing
8. Fair Trade and Global Business Giants – Reading, Listening, Speaking
9. Fair Trade and Global Business Giants – Discussion, Writing
10. The Best Ways to Teach English – Reading, Listening, Speaking
11. The Best Ways to Teach English – Discussion, Writing
12. 'Reading' Film – Reading, Listening, Speaking
13. 'Reading' Film – Discussion, Writing
14. Marketing Japan: Improving Japan's Tourist Industry – Reading, Listening, Speaking
15. Marketing Japan: Improving Japan's Tourist Industry – Discussion, Writing



# Higher English II〔英米〕(英1H-B)【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

In-class assignments - 50%  
Homework assignments - 50%

(Some teachers may choose to replace up to 40% of the above with a final examination. Please ask your teacher for details.)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are advised to prepare for each class by reading up on - and thinking about - the relevant topic in advance.  
Each class will be reviewed through reading- and writing-focused assignments.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# Higher English II〔英米〕(英1H-C)【昼】

担当者名 /Instructor カール・マックナマラ・ページ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1H-C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG312F		◎	○	△	
科目名	Higher English II		※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

DPに基づく3つの到達目標

技能: デイベートやディスカッションに堪える高度な英語技能を身につけ、運用することができる。

思考・判断・表現力: Critical Thinkingを実践し、適切に意見を表現することができる。

コミュニケーション力: 豊富な語彙力、表現力を活かしたアカデミックな英語コミュニケーション力を有している。

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction. This will lead to a broadening of each individual's active vocabulary bank, and improvements in reading, writing, listening, and speaking skills.

The course is divided into seven topic-focused two-class stages. The first section of each of the two-part stages is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts, and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second section, or discussion and writing section, takes place. During these discussion and writing classes (second-section classes) students will be required to produce comments and arguments that employ new vocabulary and relevant concepts.

Students will be encouraged to be active, talkative, and productive during each and every class. Instruction works on the premise that the more students speak and write, the more their English skills will improve.

## 教科書 /Textbooks

Materials to be provided by the class teacher on a weekly basis.

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

Where and when appropriate, the class teacher will recommend background reading to support vocabulary development.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction
2. The Ugliness of the Beauty Industry – Reading, Listening, Speaking
3. The Ugliness of the Beauty Industry – Discussion, Writing
4. Folklore, Fairytales, and Worldview – Reading, Listening, Speaking
5. Folklore, Fairytales, and Worldview – Discussion, Writing
6. Inclusion and Diversity – Reading, Listening, Speaking
7. Inclusion and Diversity – Discussion, Writing
8. Fair Trade and Global Business Giants – Reading, Listening, Speaking
9. Fair Trade and Global Business Giants – Discussion, Writing
10. The Best Ways to Teach English – Reading, Listening, Speaking
11. The Best Ways to Teach English – Discussion, Writing
12. 'Reading' Film – Reading, Listening, Speaking
13. 'Reading' Film – Discussion, Writing
14. Marketing Japan: Improving Japan's Tourist Industry – Reading, Listening, Speaking
15. Marketing Japan: Improving Japan's Tourist Industry – Discussion, Writing

# Higher English II〔英米〕(英1H-C)【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

In-class assignments - 50%  
Homework assignments - 50%

(Some teachers may choose to replace up to 40% of the above with a final examination. Please ask your teacher for details.)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are advised to prepare for each class by reading up on - and thinking about - the relevant topic in advance.  
Each class will be reviewed through reading- and writing-focused assignments.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# Higher English II〔英米〕(英1H-D)【昼】

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1H-D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG312F		◎	○	△	
科目名	Higher English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

DPに基づく3つの到達目標

技能: デイベートやディスカッションに堪える高度な英語技能を身につけ、運用することができる。

思考・判断・表現力: Critical Thinkingを実践し、適切に意見を表現することができる。

コミュニケーション力: 豊富な語彙力、表現力を活かしたアカデミックな英語コミュニケーション力を有している。

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction. This will lead to a broadening of each individual's active vocabulary bank, and improvements in reading, writing, listening, and speaking skills.

The course is divided into seven topic-focused two-class stages. The first section of each of the two-part stages is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts, and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second section, or discussion and writing section, takes place. During these discussion and writing classes (second-section classes) students will be required to produce comments and arguments that employ new vocabulary and relevant concepts.

Students will be encouraged to be active, talkative, and productive during each and every class. Instruction works on the premise that the more students speak and write, the more their English skills will improve.

## 教科書 /Textbooks

Materials to be provided by the class teacher on a weekly basis.

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

Where and when appropriate, the class teacher will recommend background reading to support vocabulary development.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction
2. The Ugliness of the Beauty Industry – Reading, Listening, Speaking
3. The Ugliness of the Beauty Industry – Discussion, Writing
4. Folklore, Fairytales, and Worldview – Reading, Listening, Speaking
5. Folklore, Fairytales, and Worldview – Discussion, Writing
6. Inclusion and Diversity – Reading, Listening, Speaking
7. Inclusion and Diversity – Discussion, Writing
8. Fair Trade and Global Business Giants – Reading, Listening, Speaking
9. Fair Trade and Global Business Giants – Discussion, Writing
10. The Best Ways to Teach English – Reading, Listening, Speaking
11. The Best Ways to Teach English – Discussion, Writing
12. 'Reading' Film – Reading, Listening, Speaking
13. 'Reading' Film – Discussion, Writing
14. Marketing Japan: Improving Japan's Tourist Industry – Reading, Listening, Speaking
15. Marketing Japan: Improving Japan's Tourist Industry – Discussion, Writing

# Higher English II〔英米〕(英1H-D)【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

In-class assignments - 50%  
Homework assignments - 50%

(Some teachers may choose to replace up to 40% of the above with a final examination. Please ask your teacher for details.)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are advised to prepare for each class by reading up on - and thinking about - the relevant topic in advance.  
Each class will be reviewed through reading- and writing-focused assignments.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# Higher English II〔英米〕(英1H-E)【昼】

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1H-E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG312F		◎	○	△	
科目名	Higher English II		※修得できる能力との関連性 ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

DPに基づく3つの到達目標

技能: デイベートやディスカッションに堪える高度な英語技能を身につけ、運用することができる。

思考・判断・表現力: Critical Thinkingを実践し、適切に意見を表現することができる。

コミュニケーション力: 豊富な語彙力、表現力を活かしたアカデミックな英語コミュニケーション力を有している。

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction. This will lead to a broadening of each individual's active vocabulary bank, and improvements in reading, writing, listening, and speaking skills.

The course is divided into seven topic-focused two-class stages. The first section of each of the two-part stages is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts, and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second section, or discussion and writing section, takes place. During these discussion and writing classes (second-section classes) students will be required to produce comments and arguments that employ new vocabulary and relevant concepts.

Students will be encouraged to be active, talkative, and productive during each and every class. Instruction works on the premise that the more students speak and write, the more their English skills will improve.

## 教科書 /Textbooks

Materials to be provided by the class teacher on a weekly basis.

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

Where and when appropriate, the class teacher will recommend background reading to support vocabulary development.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction
2. The Ugliness of the Beauty Industry – Reading, Listening, Speaking
3. The Ugliness of the Beauty Industry – Discussion, Writing
4. Folklore, Fairytales, and Worldview – Reading, Listening, Speaking
5. Folklore, Fairytales, and Worldview – Discussion, Writing
6. Inclusion and Diversity – Reading, Listening, Speaking
7. Inclusion and Diversity – Discussion, Writing
8. Fair Trade and Global Business Giants – Reading, Listening, Speaking
9. Fair Trade and Global Business Giants – Discussion, Writing
10. The Best Ways to Teach English – Reading, Listening, Speaking
11. The Best Ways to Teach English – Discussion, Writing
12. 'Reading' Film – Reading, Listening, Speaking
13. 'Reading' Film – Discussion, Writing
14. Marketing Japan: Improving Japan's Tourist Industry – Reading, Listening, Speaking
15. Marketing Japan: Improving Japan's Tourist Industry – Discussion, Writing

# Higher English II〔英米〕(英1H-E)【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

In-class assignments - 50%  
Homework assignments - 50%

(Some teachers may choose to replace up to 40% of the above with a final examination. Please ask your teacher for details.)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are advised to prepare for each class by reading up on - and thinking about - the relevant topic in advance.  
Each class will be reviewed through reading- and writing-focused assignments.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# Higher English II〔英米〕(英2H-A)【昼】

担当者名 /Instructor カール・マックナマラ・ページ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英2H-A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG312F		◎	○	△	
科目名	Higher English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

DPに基づく3つの到達目標

技能: デイベートやディスカッションに堪える高度な英語技能を身につけ、運用することができる。

思考・判断・表現力: Critical Thinkingを実践し、適切に意見を表現することができる。

コミュニケーション力: 豊富な語彙力、表現力を活かしたアカデミックな英語コミュニケーション力を有している。

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction. This will lead to a broadening of each individual's active vocabulary bank, and improvements in reading, writing, listening, and speaking skills.

The course is divided into seven topic-focused two-class stages. The first section of each of the two-part stages is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts, and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second section, or discussion and writing section, takes place. During these discussion and writing classes (second-section classes) students will be required to produce comments and arguments that employ new vocabulary and relevant concepts.

Students will be encouraged to be active, talkative, and productive during each and every class. Instruction works on the premise that the more students speak and write, the more their English skills will improve.

## 教科書 /Textbooks

Materials to be provided by the class teacher on a weekly basis.

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

Where and when appropriate, the class teacher will recommend background reading to support vocabulary development.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction
2. The Ugliness of the Beauty Industry – Reading, Listening, Speaking
3. The Ugliness of the Beauty Industry – Discussion, Writing
4. Folklore, Fairytales, and Worldview – Reading, Listening, Speaking
5. Folklore, Fairytales, and Worldview – Discussion, Writing
6. Inclusion and Diversity – Reading, Listening, Speaking
7. Inclusion and Diversity – Discussion, Writing
8. Fair Trade and Global Business Giants – Reading, Listening, Speaking
9. Fair Trade and Global Business Giants – Discussion, Writing
10. The Best Ways to Teach English – Reading, Listening, Speaking
11. The Best Ways to Teach English – Discussion, Writing
12. 'Reading' Film – Reading, Listening, Speaking
13. 'Reading' Film – Discussion, Writing
14. Marketing Japan: Improving Japan's Tourist Industry – Reading, Listening, Speaking
15. Marketing Japan: Improving Japan's Tourist Industry – Discussion, Writing



# Higher English II〔英米〕(英2H-A)【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

In-class assignments - 50%  
Homework assignments - 50%

(Some teachers may choose to replace up to 40% of the above with a final examination. Please ask your teacher for details.)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are advised to prepare for each class by reading up on - and thinking about - the relevant topic in advance.  
Each class will be reviewed through reading- and writing-focused assignments.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# Higher English II〔英米〕(英2H-B)【昼】

担当者名 /Instructor カール・マックナマラ・ページ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英2H-B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG312F		◎	○	△	
科目名	Higher English II		※修得できる能力との関連性 ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

DPに基づく3つの到達目標

技能: デイベートやディスカッションに堪える高度な英語技能を身につけ、運用することができる。

思考・判断・表現力: Critical Thinkingを実践し、適切に意見を表現することができる。

コミュニケーション力: 豊富な語彙力、表現力を活かしたアカデミックな英語コミュニケーション力を有している。

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction. This will lead to a broadening of each individual's active vocabulary bank, and improvements in reading, writing, listening, and speaking skills.

The course is divided into seven topic-focused two-class stages. The first section of each of the two-part stages is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts, and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second section, or discussion and writing section, takes place. During these discussion and writing classes (second-section classes) students will be required to produce comments and arguments that employ new vocabulary and relevant concepts.

Students will be encouraged to be active, talkative, and productive during each and every class. Instruction works on the premise that the more students speak and write, the more their English skills will improve.

## 教科書 /Textbooks

Materials to be provided by the class teacher on a weekly basis.

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

Where and when appropriate, the class teacher will recommend background reading to support vocabulary development.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction
2. The Ugliness of the Beauty Industry – Reading, Listening, Speaking
3. The Ugliness of the Beauty Industry – Discussion, Writing
4. Folklore, Fairytales, and Worldview – Reading, Listening, Speaking
5. Folklore, Fairytales, and Worldview – Discussion, Writing
6. Inclusion and Diversity – Reading, Listening, Speaking
7. Inclusion and Diversity – Discussion, Writing
8. Fair Trade and Global Business Giants – Reading, Listening, Speaking
9. Fair Trade and Global Business Giants – Discussion, Writing
10. The Best Ways to Teach English – Reading, Listening, Speaking
11. The Best Ways to Teach English – Discussion, Writing
12. 'Reading' Film – Reading, Listening, Speaking
13. 'Reading' Film – Discussion, Writing
14. Marketing Japan: Improving Japan's Tourist Industry – Reading, Listening, Speaking
15. Marketing Japan: Improving Japan's Tourist Industry – Discussion, Writing

# Higher English II〔英米〕(英2H-B)【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

In-class assignments - 50%  
Homework assignments - 50%

(Some teachers may choose to replace up to 40% of the above with a final examination. Please ask your teacher for details.)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are advised to prepare for each class by reading up on - and thinking about - the relevant topic in advance.  
Each class will be reviewed through reading- and writing-focused assignments.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# Higher English II〔英米〕(英2H-C)【昼】

担当者名 /Instructor  ホロウェイ グレゴリー キース / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year  2年次  単位 /Credits  2単位  学期 /Semester  1学期  授業形態 /Class Format  講義  クラス /Class  英2H-C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG312F		◎	○	△	
科目名	Higher English II		※修得できる能力との関連性  ◎：強く関連  ○：関連  △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

DPに基づく3つの到達目標

技能: デイバートやディスカッションに堪える高度な英語技能を身につけ、運用することができる。

思考・判断・表現力: Critical Thinkingを実践し、適切に意見を表現することができる。

コミュニケーション力: 豊富な語彙力、表現力を活かしたアカデミックな英語コミュニケーション力を有している。

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction. This will lead to a broadening of each individual's active vocabulary bank, and improvements in reading, writing, listening, and speaking skills.

The course is divided into seven topic-focused two-class stages. The first section of each of the two-part stages is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts, and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second section, or discussion and writing section, takes place. During these discussion and writing classes (second-section classes) students will be required to produce comments and arguments that employ new vocabulary and relevant concepts.

Students will be encouraged to be active, talkative, and productive during each and every class. Instruction works on the premise that the more students speak and write, the more their English skills will improve.

## 教科書 /Textbooks

Materials to be provided by the class teacher on a weekly basis.

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

Where and when appropriate, the class teacher will recommend background reading to support vocabulary development.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction
2. The Ugliness of the Beauty Industry – Reading, Listening, Speaking
3. The Ugliness of the Beauty Industry – Discussion, Writing
4. Folklore, Fairytales, and Worldview – Reading, Listening, Speaking
5. Folklore, Fairytales, and Worldview – Discussion, Writing
6. Inclusion and Diversity – Reading, Listening, Speaking
7. Inclusion and Diversity – Discussion, Writing
8. Fair Trade and Global Business Giants – Reading, Listening, Speaking
9. Fair Trade and Global Business Giants – Discussion, Writing
10. The Best Ways to Teach English – Reading, Listening, Speaking
11. The Best Ways to Teach English – Discussion, Writing
12. 'Reading' Film – Reading, Listening, Speaking
13. 'Reading' Film – Discussion, Writing
14. Marketing Japan: Improving Japan's Tourist Industry – Reading, Listening, Speaking
15. Marketing Japan: Improving Japan's Tourist Industry – Discussion, Writing

# Higher English II〔英米〕(英2H-C)【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

In-class assignments - 50%  
Homework assignments - 50%

(Some teachers may choose to replace up to 40% of the above with a final examination. Please ask your teacher for details.)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are advised to prepare for each class by reading up on - and thinking about - the relevant topic in advance.  
Each class will be reviewed through reading- and writing-focused assignments.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# Higher English II〔英米〕(英2H-D)【昼】

担当者名 /Instructor: フィオナ・クリーサー / Fiona Creaser / 英米学科

履修年次 /Year: 2年次  
単位 /Credits: 2単位  
学期 /Semester: 1学期  
授業形態 /Class Format: 講義  
クラス /Class: 英2H-D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG312F		◎	○	△	
科目名	Higher English II		※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

DPに基づく3つの到達目標

技能: デイベートやディスカッションに堪える高度な英語技能を身につけ、運用することができる。

思考・判断・表現力: Critical Thinkingを実践し、適切に意見を表現することができる。

コミュニケーション力: 豊富な語彙力、表現力を活かしたアカデミックな英語コミュニケーション力を有している。

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction. This will lead to a broadening of each individual's active vocabulary bank, and improvements in reading, writing, listening, and speaking skills.

The course is divided into seven topic-focused two-class stages. The first section of each of the two-part stages is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts, and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second section, or discussion and writing section, takes place. During these discussion and writing classes (second-section classes) students will be required to produce comments and arguments that employ new vocabulary and relevant concepts.

Students will be encouraged to be active, talkative, and productive during each and every class. Instruction works on the premise that the more students speak and write, the more their English skills will improve.

## 教科書 /Textbooks

Materials to be provided by the class teacher on a weekly basis.

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

Where and when appropriate, the class teacher will recommend background reading to support vocabulary development.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction
2. The Ugliness of the Beauty Industry – Reading, Listening, Speaking
3. The Ugliness of the Beauty Industry – Discussion, Writing
4. Folklore, Fairytales, and Worldview – Reading, Listening, Speaking
5. Folklore, Fairytales, and Worldview – Discussion, Writing
6. Inclusion and Diversity – Reading, Listening, Speaking
7. Inclusion and Diversity – Discussion, Writing
8. Fair Trade and Global Business Giants – Reading, Listening, Speaking
9. Fair Trade and Global Business Giants – Discussion, Writing
10. The Best Ways to Teach English – Reading, Listening, Speaking
11. The Best Ways to Teach English – Discussion, Writing
12. 'Reading' Film – Reading, Listening, Speaking
13. 'Reading' Film – Discussion, Writing
14. Marketing Japan: Improving Japan's Tourist Industry – Reading, Listening, Speaking
15. Marketing Japan: Improving Japan's Tourist Industry – Discussion, Writing

# Higher English II〔英米〕(英2H-D)【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

In-class assignments - 50%  
Homework assignments - 50%

(Some teachers may choose to replace up to 40% of the above with a final examination. Please ask your teacher for details.)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are advised to prepare for each class by reading up on - and thinking about - the relevant topic in advance.  
Each class will be reviewed through reading- and writing-focused assignments.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 中国語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - 1・1 - 2・1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN101F		◎			
科目名	中国語Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。  
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。  
 (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。  
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

(到達目標)  
**【技能】** 中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「中日・日中」辞書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第二課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第三課 総合知識
- 5回 第三課 総合練習
- 6回 第四課 私達はみんな友達です 【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
- 7回 第四課 これは一枚の地図です(本文) 練習
- 8回 第五課 私は最近忙しい 【形容詞の文】【動詞の文】など
- 9回 第五課 あなたはいつ北京へ行きますか(本文) 練習
- 10回 第六課 私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
- 11回 第六課 私は松本葉子です(本文) 練習
- 12回 第七課 私達の学校は九州にあります 【在】【方位詞】【了】など
- 13回 第七課 大学の生活(本文) 練習
- 14回 第八課 あなたは長城に行ったことがありますか【動詞+过】【是……的】など
- 15回 第八課 全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文) 練習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 60% 小テスト・ 20% 日常の授業への取り組み・ 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

## 履修上の注意 /Remarks

1. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
2. 教科書の「練習問題」について、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することもあります。



## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

## キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

# 中国語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 小椋 吾郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - 4・1 - 5・1 - 6

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN101F		◎			
科目名	中国語Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。  
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。  
 (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。  
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

(到達目標)  
**【技能】** 中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「中日・日中」辞書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第二課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第三課 総合知識
- 5回 第三課 総合練習
- 6回 第四課 私達はみんな友達です 【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
- 7回 第四課 これは一枚の地図です(本文) 練習
- 8回 第五課 私は最近忙しい 【形容詞の文】【動詞の文】など
- 9回 第五課 あなたはいつ北京へ行きますか(本文) 練習
- 10回 第六課 私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
- 11回 第六課 私は松本葉子です(本文) 練習
- 12回 第七課 私達の学校は九州にあります 【在】【方位詞】【了】など
- 13回 第七課 大学の生活(本文) 練習
- 14回 第八課 あなたは長城に行ったことがありますか【動詞+过】【是……的】など
- 15回 第八課 全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文) 練習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 60% 小テスト・ 20% 日常の授業への取り組み・ 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

## 履修上の注意 /Remarks

1. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
2. 教科書の「練習問題」について、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することもあります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

## キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

# 中国語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - 1・ 1 - 2・ 1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN111F		◎			
科目名	中国語Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。  
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。  
 (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。  
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

(到達目標)  
**【技能】** 中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「中日・日中」辞書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可以】など
- 2回 第九課 田中さんが病気になりました(本文) 練習
- 3回 第十課 私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
- 4回 第十課 雪中に炭を送る(本文) 練習
- 5回第十一課 彼らが言ってることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
- 6回第十一課 電話を掛ける(本文) 練習
- 7回第十二課 私と外灘にコーヒーを飲みに行ってください【要】【“把”構文】など
- 8回第十二課 ウィンドウショッピング(本文) 練習
- 9回第十三課 陳紅さんは私に上海に転校して留学してほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
- 10回第十三課 “福”字を貼る(本文) 練習 【存現文】【因为……所以】など
- 11回第十四課 私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【“被”の文】
- 12回第十四課 円明園(本文) 練習 【不但……而且】など
- 13回第十五課 あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
- 14回第十五課 日本概況(本文) 練習 【虽然……但是】など
- 15回総合練習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 60% 小テスト・ 20% 日常の授業への取り組み・ 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

## 履修上の注意 /Remarks

1. 中国語Ⅰ、Ⅲを履修完了者。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 教科書の「練習問題」について、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することもあります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

## キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

# 中国語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 小椋 吾郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - 4・1 - 5・1 - 6

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN111F		◎			
科目名	中国語Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。  
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。  
 (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。  
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

(到達目標)  
**【技能】** 中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「中日・日中」辞書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可以】など
- 2回 第九課 田中さんが病になりました(本文) 練習
- 3回 第十課 私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
- 4回 第十課 雪中に炭を送る(本文) 練習
- 5回第十一課 彼らが言ってることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
- 6回第十一課 電話を掛ける(本文) 練習
- 7回第十二課 私と外灘にコーヒーを飲みに行ってください【要】【“把”構文】など
- 8回第十二課 ウィンドウショッピング(本文) 練習
- 9回第十三課 陳紅さんは私に上海に転校して留学してほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
- 10回第十三課 “福”字を貼る(本文) 練習 【存現文】【因为……所以】など
- 11回第十四課 私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【“被”の文】
- 12回第十四課 円明園(本文) 練習 【不但……而且】など
- 13回第十五課 あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
- 14回第十五課 日本概況(本文) 練習 【虽然……但是】など
- 15回総合練習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 60% 小テスト・ 20% 日常の授業への取り組み・ 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

## 履修上の注意 /Remarks

1. 中国語Ⅰ、Ⅲを履修完了者。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 教科書の「練習問題」について、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することもあります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

## キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

# 中国語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 陳 青鳳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - 1・1 - 2・1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN102F		◎			
科目名	中国語Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。  
 (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。  
 (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。  
 (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。  
 (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「中日・日中」辞書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 総合知識
- 5回 総合練習
- 6回 第四課 紹介
- 7回 第四課 自己紹介 練習問題
- 8回 第五課 入国・北京紹介
- 9回 第五課 飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
- 10回 第六課 レストランにて・天津紹介
- 11回 第六課 レストランにて、練習問題
- 12回 第七課 道を尋ねる・上海紹介
- 13回 第七課 交通、練習問題
- 14回 第八課 観光する・蘇州と杭州紹介
- 15回 第八課 観光、練習問題

## 成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40% 暗誦・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

## 履修上の注意 /Remarks

1. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
2. 教科書の「練習問題」について、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することもあります。



## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。  
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。  
電子辞書を携帯すること。

## キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

# 中国語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 黄 健 / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - 4・1 - 5・1 - 6

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN102F		◎			
科目名	中国語Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。  
 (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。  
 (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。  
 (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。  
 (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「中日・日中」辞書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 総合知識
- 5回 総合練習
- 6回 第四課 紹介
- 7回 第四課 自己紹介 練習問題
- 8回 第五課 入国・北京紹介
- 9回 第五課 飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
- 10回 第六課 レストランにて・天津紹介
- 11回 第六課 レストランにて、練習問題
- 12回 第七課 道を尋ねる・上海紹介
- 13回 第七課 交通、練習問題
- 14回 第八課 観光する・蘇州と杭州紹介
- 15回 第八課 観光、練習問題

## 成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40% 暗誦・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

## 履修上の注意 /Remarks

1. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
2. 教科書の「練習問題」について、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することもあります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。  
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。  
電子辞書を携帯すること。

## キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

# 中国語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 陳 青鳳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - 1・1 - 2・1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN112F		◎			
科目名	中国語Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。  
 (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。  
 (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。  
 (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。  
 (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「中日・日中」辞書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物をする・義烏と横店紹介
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 お金を両替・西安と洛陽紹介
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルに泊まる・成都紹介
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話を掛ける・昆明紹介
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 興味について語る・広州紹介
- 10回 第十三課 興味、練習問題
- 11回 第十四課 見方について語る・大連紹介
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・日本の紹介
- 14回 第十五課 空港での搭乗手続き・免税店にて
- 15回 総合練習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40% 暗誦・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

## 履修上の注意 /Remarks

1. 中国語Ⅰ、Ⅲを履修完了者。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 教科書の「練習問題」について、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することもあります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。  
電子辞書を携帯すること。

## キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

# 中国語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 黄 健 / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - 4・1 - 5・1 - 6

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN112F		◎			
科目名	中国語Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。  
 (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。  
 (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。  
 (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。  
 (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「中日・日中」辞書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物をする・義烏と横店紹介
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 お金を両替・西安と洛陽紹介
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルに泊まる・成都紹介
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話を掛ける・昆明紹介
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 興味について語る・広州紹介
- 10回 第十三課 興味、練習問題
- 11回 第十四課 見方について語る・大連紹介
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・日本の紹介
- 14回 第十五課 空港での搭乗手続き・免税店にて
- 15回 総合練習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40% 暗誦・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

## 履修上の注意 /Remarks

1. 中国語Ⅰ、Ⅲを履修完了者。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 教科書の「練習問題」について、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することもあります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。  
電子辞書を携帯すること。

## キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

# 中国語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN201F		◎			
科目名	中国語Ⅴ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができると思います。

- (1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
- (2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
- (3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「中日・日中」辞書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 ポイント説明 日本紹介(本文)
- 2回 第二課 ポイント説明
- 3回 第二課 東京(本文)
- 4回 第三課 ポイント説明
- 5回 第三課 横浜(本文)
- 6回 第四課 ポイント説明
- 7回 第四課 富士山と東照宮(本文)
- 8回 第五課 ポイント説明
- 9回 第五課 静岡と名古屋(本文)
- 10回 第六課 ポイント説明
- 11回 第六課 京都(本文)
- 12回 第七課 ポイント説明
- 13回 第七課 奈良(本文)
- 14回 第八課 ポイント説明
- 15回 第八課 大阪(本文)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%



## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

## 履修上の注意 /Remarks

1. 中国語I、II、III、IVを履修完了者。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

## キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

# 中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN211F		◎			
科目名	中国語VI		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れていないかもしれません。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができると思います。

- (1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
- (2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
- (3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「中日・日中」辞書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 ポイント説明
- 2回 第九課 宮島と下関(本文)
- 3回 第十課 ポイント説明
- 4回 第十課 九州(本文)
- 5回 第十一課 ポイント説明
- 6回 第十一課 福岡(本文)
- 7回 第十二課 ポイント説明
- 8回 第十二課 佐賀(本文)
- 9回 第十三課 ポイント説明
- 10回 第十三課 長崎(本文)
- 11回 第十四課 ポイント説明
- 12回 第十四課 四国(本文)
- 13回 第十五課 ポイント説明
- 14回 第十五課 仙台と北海道(本文)
- 15回 総合練習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...60% 日常の授業への取り組み、小テスト等...40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず予習と復習すること。

## 履修上の注意 /Remarks

1. 中国語I、II、III、IV、V、VIを履修完了者。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

## キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

# 中国語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 黄 健 / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN202F		◎			
科目名	中国語Ⅶ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れていないかもしれません。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。
- (2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「中日・日中」辞書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介(会話) 練習
- 2回 第二課 東京(会話)
- 3回 第二課 練習
- 4回 第三課 横浜(会話)
- 5回 第三課 練習
- 6回 第四課 富士山と東照宮(会話)
- 7回 第四課 練習
- 8回 第五課 静岡と名古屋(会話)
- 9回 第五課 練習
- 10回 第六課 京都(会話)
- 11回 第六課 練習
- 12回 第七課 奈良と神戸(会話)
- 13回 第七課 練習
- 14回 第八課 大阪(会話)
- 15回 第八課 練習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

## 履修上の注意 /Remarks

1. 中国語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳを履修完了者。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。
4. 教科書の「練習問題」について、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することもあります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

## キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

# 中国語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 黄 健 / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN212F		◎			
科目名	中国語Ⅷ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れていないかもしれません。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができると思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。
- (2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「中日・日中」辞書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 宮島と下関(会話)
- 2回 第九課 練習
- 3回 第十課 九州(会話)
- 4回 第十課 練習
- 5回 第十一課 福岡(会話)
- 6回 第十一課 練習
- 7回 第十二課 佐賀(会話)
- 8回 第十二課 練習
- 9回 第十三課 長崎(会話)
- 10回 第十三課 練習
- 11回 第十四課 四国(会話)
- 12回 第十四課 練習
- 13回 第十五課 仙台と北海道(会話)
- 14回 第十五課 練習
- 15回 総合練習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

## 履修上の注意 /Remarks

1. 中国語I、II、III、IV、V、VIIを履修完了者。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。
4. 教科書の「練習問題」について、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することもあります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

## キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

# 上級中国語I【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN301F		◎			
科目名	上級中国語 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

上級中国語は、中国語初・中級をひとつおりのり終えた学習者のために、さらに一歩上の段階で学ぶ講義である。  
本講義は初・中級に続き、単語練習、聴解練習、短文作文、応用練習などすることによって、中国語の聴解と会話、作文力を身につけることである。  
主に聴く、話す、文章の作成能力に重点を置く。  
到達目標  
中国語を用い、応用レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。  
世界共通中国政府公認のビジネス中国語試験（BCT初級テスト）の内容も同時に指導する。  
参考資料などを通して中国の文化や風習などを紹介する。  
(到達目標)  
【技能】中国語を用い、上級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

第1回の授業で指定する。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて参考資料を配布する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

### 第1学期

- 第1回 授業説明、基礎復習
- 第2回 第1課① 文法、翻訳、聴解練習
- 第3回 第1課② 会話、リスニング、作文練習
- 第4回 第2課① 文法、翻訳、聴解練習
- 第5回 第2課② 会話、リスニング、作文練習
- 第6回 第3課① 文法、翻訳、聴解練習
- 第7回 第3課② 会話、リスニング、作文練習
- 第8回 場面の体験1
- 第9回 第4課① 文法、翻訳、聴解練習
- 第10回 第4課② 会話、リスニング、作文練習
- 第11回 第5課① 文法、翻訳、聴解練習
- 第12回 第5課② 会話、リスニング、作文練習
- 第13回 第6課① 文法、翻訳、聴解練習
- 第14回 第6課② 読む、会話、作文練習
- 第15回 場面の体験2

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み30% 発表40% 定期試験30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に指示する。



## 履修上の注意 /Remarks

予習および復習する必要がある。  
欠席しないこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一緒に楽しく中国語を学びましょう。

就職に有利になる中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験（BCT初級テスト）に挑戦してほしい。

## キーワード /Keywords

日常生活用語　ビジネス用語、　会話力、　翻訳力　作文力

# 上級中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN311F		◎			
科目名	上級中国語II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

上級中国語IIは、中国語初・中級をひとつおりの学習者のために、さらに一歩上の段階で学ぶ講義である。  
本講義は初・中級に続き、単語練習、聴解練習、短文作文、応用練習などを行うことによって、中国語の聴解と会話、作文力を身につけることである。  
主に翻訳、話す、文章の作成能力に重点を置く。  
到達目標  
中国語を用い、応用レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。  
参考資料などを通して中国の文化や風習などを紹介する。  
中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験（BCIT初級テスト）の内容も同時に指導する。  
到達目標）  
【技能】中国語を用い、上級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

第1回の授業時に説明する。（前期の上級中国語Iと同じ教科書を使用する予定。）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて参考資料を配布する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第2学期  
第1回 第7課① 文法、翻訳、聴解練習  
第2回 第7課② 会話、リスニング、作文練習  
第3回 第8課① 文法、翻訳、聴解練習  
第4回 第8課② 会話、リスニング、作文練習  
第5回 場面の体験1  
第6回 第9課① 文法、翻訳、聴解練習  
第7回 第9課② 会話、リスニング、作文練習  
第8回 第10課① 文法、翻訳、聴解練習  
第9回 第10課② 会話、リスニング、作文練習  
第10回 場面の体験2  
第11回 第11課① 文法、翻訳、聴解練習  
第12回 第11課② 会話、リスニング、作文練習  
第13回 第12課① 文法、翻訳、聴解練習  
第14回 第12課② 会話、リスニング、作文練習  
第15回 場面の体験3

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み30% 発表40% 定期試験30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に指示する。

## 履修上の注意 /Remarks

予習、復習する必要がある。  
欠席しないこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一緒に楽しく中国語を学びましょう。

就職に有利になる中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験(BC T初級テスト)に挑戦してほしい。

## キーワード /Keywords

日常生活用語　ビジネス用語、　会話力、考え力、ビジネス文章

# 朝鮮語Ⅰ ( 1 - a ) 【昼】

担当者名 /Instructor 吳 香善 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN101F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

本講義は韓国語をはじめて学習する学生を対象とするので、文字（ハングル）や単語の発音練習に多くの時間を割く。ハングルの読み書きができるようになることを第一目標とし、自己紹介は勿論のこと、簡単な挨拶表現や初歩的な日常会話表現を学ぶ。また、言葉を通して韓国文化への理解を深めることをねらいとする。  
到達目標：朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩（改訂版）』（巖基珠ほか、白水社、2200円）、  
適宜資料・プリントなどを配布する

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

『朝鮮語辞典』（小学館、8000円）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス / 【ハングルの特徴と構成】
- 2回 文字と発音① 【母音字】とその発音
- 3回 文字と発音② 【子音字】とその発音
- 4回 文字と発音③ 【子音字+母音字】とその発音
- 5回 文字と発音④ 【濃音、激音、平音】の発音比較
- 6回 文字と発音⑤ 【二重母音字】とその発音
- 7回 文字と発音⑥ 【パッチム】の読み方と発音
- 8回 【日本の人名・地名をハングルで表記】する方法の練習
- 9回 【簡単な挨拶】の練習 / 教室用語 文字と発音
- 10回 発音ルール① 【有声音化 / 連音化 / 激音化 / 濃音化】
- 11回 発音ルール② 【鼻音化 / 口蓋音化 / 流音化 / その他】
- 12回 まとめと復習
- 13回 体言の肯定文（自己紹介）【～です】、助詞【～は】
- 14回 体言の否定文（自己紹介）【～ではありません】、助詞【～が】
- 15回 全体のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 30%、小テスト・課題... 30%、定期試験... 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 朝鮮語Ⅰ ( 1 - b ) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN101F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

朝鮮語（韓国語）を基礎から学ぶ。入門段階である1学期はハングル文字と発音を正確に習得することが重要である。したがって、この講義では一言会話とともに正確に読み書きができることを目指す。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩』（巖 基珠他、白水社、2,200円）

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 文字と発音【単母音】【鼻音】
- 3回 文字と発音【単母音その2】【流音】
- 4回 文字と発音【平音】【半母音】
- 5回 文字と発音【激音】【濃音】
- 6回 文字と発音【合成母音】まとめと復習
- 7回 文字と発音【パッチム】
- 8回 発音の規則【有声音化】【連音化】
- 9回 発音の規則【濃音化】【激音化】
- 10回 発音の規則【流音化】【口蓋音化】【その他】
- 11回 まとめと復習
- 12回 第11課 指定詞の丁寧形【～です】
- 13回 第12課 指定詞の丁寧な否定表現【～ではありません】
- 14回 第11課と第12課の復習
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題...30% 期末試験...70%

※コロナの状況により、変更の可能性あり

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回の授業時に指定した課題を確実に履行する。また、学習した語彙・文法を確実に理解し、暗記すること。

## 履修上の注意 /Remarks

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

朝鮮語Ⅲと並行して受講することが望ましい。

# 朝鮮語I ( 1 - b ) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 朝鮮語I ( 1 - c ) 【昼】

担当者名 /Instructor 安 滯珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN101F		◎			
科目名	朝鮮語 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

日本語が母語である学習者にとって、他言語より習得しやすい言語であるといわれているのが韓国語である。ゆえに日本語と韓国語の対照言語的なアプローチから両言語の文法において、類似点と相違点を指導することで個々の学習能力を高めていくことを教育方針とする。もっとも重要なことは文字と発音を正確に習得することである。

この講義では韓国語を正確に読み書きできるようにすること、また自己紹介、初歩的な挨拶表現や簡単な文章を読み、理解できることを目標とする。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

巖基珠、金三順ほか『韓国語の初歩(三訂版)』白水社 2019年。2200円+税。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

李昌圭 『韓国語へ旅しよう』初級 朝日出版社 2014年。2500円+税。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語及び授業の概要、文字の構成【ハングル】【基本挨拶】【母音発音及び書き順】
- 2回 文字の発音及び書き順1【基本母音のドリル】【基本子音の発音】【音節と単語読み】
- 3回 文字の発音及び書き順2【激音】
- 4回 文字の発音及び書き順3【濃音】【バッチム】【二重バッチム】【名札作り】
- 5回 文字の発音及び書き順4【母音2】
- 6回 文字の発音及び書き順5【バッチム】【二重バッチム】【名札作り】
- 7回 発音の法則【連音化】【激音化】【鼻音化】【濃音化】
- 8回 発音の法則【流音化】【その他の発音法則】単語読みと書き取りのドリル
- 9回 自然な発音で単語を読むドリル【国名と地名】【あいさつ文章】【漢字合成語】
- 10回 簡単な文章読み書き【自己紹介】【～です】【～は】【職業】
- 11回 疑問文と応答文【～ですか】【はい、いいえ】【～ではありません】【辞書調べ方】
- 12回 指示・人称代名詞、疑問詞【こ・そ・あ・ど】
- 13回 かしこまった丁寧形 用言活用の仕組み
- 14回 数詞のまとめ 【漢字語数詞、固有語数詞】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 日常の授業への取り組み、小テスト、課題...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

## 履修上の注意 /Remarks

受講生はこの講義と朝鮮語IIIの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

わかりやすい韓国語授業にしたいと思います。そうするためには皆様の手も必要ですので、一緒に頑張りましょう。

## キーワード /Keywords



# 朝鮮語Ⅰ ( 1 - d ) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN101F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

韓国語に初めて接する受講生の韓国語入門である。初級でつまづきやすい発音と文字をしっかりと練習しながら、正確な読み書きの習得を目指す。ペア練習やグループワークを取り入れ、日常生活に必要な挨拶や基礎的表現を覚えていく。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩 三訂版』巖基珠他 (白水社) 2,200円

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

『プログレッシブ韓日・日韓辞典』油谷幸利他 (小学館)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 文字と発音【母音】【基本挨拶表現①】
- 3回 文字と発音【子音①】【基本表現②】
- 4回 文字と発音【子音②】【基本表現③】
- 5回 文字と発音【子音③】【合成母音①】【基本表現④】
- 6回 文字と発音【激音】【合成母音②】
- 7回 文字と発音【濃音】【合成母音③】
- 8回 発音の規則【終声・パッチム】
- 9回 発音の規則【連音化】【激音化】
- 10回 発音の規則【濃音化】【流音化】【その他】
- 11回 文字と発音の復習【日本語のハングル表記】
- 12回 指定詞の丁寧形【～は～です】
- 13回 指定詞の丁寧な否定表現【～ではありません】
- 14回 語彙と文型の復習
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・25%  
授業中の参加意欲及び発言状況・・・25%  
学期末試験・・・50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ほぼ毎回行う小テストの準備のために復習をしておくこと。  
次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語は"ハングル"という独自の文字から覚えなければならない言語です。他にも覚えることがたくさんあります。日ごろコツコツ頑張らないと身に付きません。

## キーワード /Keywords

# 朝鮮語Ⅱ ( 1 - a ) 【昼】

担当者名 /Instructor 吳 香善 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN111F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

本講義は朝鮮語Iで学習したものを再確認しながら、基本的な単語や日常会話に必要な表現を学ぶ。文法的な知識を増やしつつも、それを実際のコミュニケーションの中で使えるように、語彙力をつけて短文を暗記するという作業に重点をおく。また、言葉を通して韓国文化への理解を深めることをねらいとする。

到達目標：朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩（改訂版）』（巖基珠ほか、白水社、2200円）、  
適宜資料やプリントを配布する

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

『朝鮮語辞典』（小学館、8000円）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 どこでなってますか①【指示代名詞】【疑問代名詞】
- 3回 どこでなってますか②【用言の丁寧形】
- 4回 暑くありません【用言の否定形】
- 5回 数詞【漢数字】【固有数字】
- 6回 誕生日はいつですか【体言の打ち解けた丁寧形】
- 7回 どこに住んでいますか①【用言の連用形】
- 8回 どこに住んでいますか②【用言の連用形】の確認と応用
- 9回 先生いらっしゃいますか【電話対応】と【敬語表現】
- 10回 何をお探ですか【買い物】と【敬語表現】
- 11回 何をしましたか①【過去形】
- 12回 何をしましたか②【過去形】の確認と応用
- 13回 何を召し上げますか①【意思・推量形】
- 14回 何時に会いましょうか②【願望・勧誘形】
- 15回 全体のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 30%、小テスト・課題... 30%、定期試験... 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 朝鮮語Ⅱ ( 1 - b ) 【昼】

担当者名  
/Instructor

休講

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 英中比人 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN111F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

初級段階で必要な文法や基本文型、語彙を学習し、同等レベルの作文と読解ができることを目指す。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩』（巖 基珠他、白水社、2,200円）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

辞典 ( 必携 )

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 前期の復習
- 3回 第13課 どこで習っていますか？【かしまった丁寧形◎】
- 4回 第14課 暑くありませんか？【かしまった丁寧形の否定表現】
- 5回 フリートーキング
- 6回 数詞のまとめ
- 7回 第15課 誕生日はいつですか？【指定詞の打ち解けた丁寧形】
- 8回 第16課 どこに住んでいますか？【指定詞以外の打ち解けた丁寧形】
- 9回 復習とフリートーキング
- 10回 第17課 先生いらっしゃいますか？【特殊な尊敬語】
- 11回 第18課 何をお探しですか？【打ち解けた丁寧形の尊敬表現】
- 12回 第19課 何をしましたか？【過去形】
- 13回 復習とフリートーキング
- 14回 何を召し上がりますか？【好みを言ってみよう】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題...30% 期末試験...70%

※コロナの状況により、変更の可能性あり

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回の授業時に指定した課題を確実に履行する。また、学習した語彙・文法を確実に理解し、暗記すること。

## 履修上の注意 /Remarks

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

朝鮮語Ⅳと並行して受講するほうが望ましい。

# 朝鮮語II ( 1 - b ) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 朝鮮語Ⅱ ( 1 - c ) 【昼】

担当者名 /Instructor 安 滄珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN111F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

日本語と韓国語の対照言語的なアプローチから両言語の文法において、類似点と相違点を指導することで学習能力を高めていくことを教育方針とする。前学期に続いて、相手、時制、自己表現によって異なる言葉遣いにおける学習、短文の読解ができるための基礎文法を学習することを目標とする。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

厳基珠、金三順ほか『韓国語の初歩(三訂版)』白水社 2019年。2200円+税

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

李昌圭『韓国語へ旅しよう』朝日出版社 2014年。2500円+税

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Iの学習内容確認、復習
- 2回 用言の否定表現
- 3回 丁寧形I、エヨ・イエヨ・アニエヨ。
- 4回 漢字語・固有語固数字【誕生日】【年齢】【時刻】
- 5回 助詞のまとめ
- 6回 丁寧形2 - 1【打ち解けた丁寧形】
- 7回 丁寧形2 - 2【打ち解けた丁寧形】ドリル
- 8回 尊敬表現1【用言】
- 9回 尊敬表現2【特殊な尊敬語、名詞、助詞】
- 10回 尊敬表現敬3【数字と敬語を使った場面会話練習】
- 11回 過去形【합니다体の過去】【해요体の過去】
- 12回 過去形のドリル【日記作成】
- 13回 好みを尋ね合う【注文場面の会話練習】
- 14回 希望・勧誘・提案表現
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 日常の授業への取り組み、小テスト、課題...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回する予定の練習問題をノートに予習すること。

## 履修上の注意 /Remarks

受講生はこの講義と朝鮮語Ⅳの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

文法をしっかり勉強すると会話が楽しくなりますので、一緒に頑張りましょう。

## キーワード /Keywords

# 朝鮮語Ⅱ ( 1 - d ) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN111F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

朝鮮語Ⅰで学んだ基本的知識を踏まえて、発音変化を伴う単語や文章をより正確に読める力を身につける。初級テキストにあげる基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようになることを目標とする。様々なシチュエーションでの実践的な対話力を養成し、会話をするうえで重要である動詞と形容詞に慣れ、より豊かな表現ができることを目指す。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩 三訂版』 巖基珠他 (白水社) 2,200円

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

『プログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利他 (小学館)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Ⅰの復習
- 2回 動詞の丁寧形【ハムニダ体①】【～を】
- 3回 形容詞の丁寧形【ハムニダ体②】【数詞①】
- 4回 否定表現【～しません】【～くありません】
- 5回 指定詞の丁寧形【ヘヨ体①】【～です】【～ではありません】
- 6回 数詞のまとめ【数詞②】【年齢】【日付】
- 7回 助詞のまとめ【作文練習】
- 8回 動詞と形容詞の丁寧形【ヘヨ体②】
- 9回 否定表現【～しません】【～くありません】
- 10回 用言の尊敬形①【ハムニダ体】
- 11回 用言の尊敬形②【ヘヨ体】【特殊な尊敬語】
- 12回 尊敬形のまとめ【作文練習】
- 13回 用言の過去形①【ハムニダ体】
- 14回 用言の過去形②【ヘヨ体】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・25%  
授業中の参加意欲及び発言状況・・・25%  
学期末試験・・・50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ほぼ毎回行う小テストの準備のために復習をしておくこと。  
次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks



## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

覚えることがたくさんあります。日ごろコツコツ頑張りましょう。

## キーワード /Keywords

# 朝鮮語Ⅲ ( 1 - a ) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 恵媛 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN102F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

朝鮮語の実践的運用や韓国文化理解の第一歩として、朝鮮語の基礎力・基礎知識を習得することを目標に、講義を進める。朝鮮語学習の初級段階において最も重要な発音の訓練に重点を置き、ハングル文字について解説する。発音や文字に慣れる作業と並行して、基礎的な語彙・文法、簡単な挨拶文や会話表現を紹介する。授業においては毎回、発音練習を課す。また基礎的な語彙や文章表現の暗誦・作文などを課す。  
・到達目標：朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

金順玉他『新チャレンジ！韓国語』（白水社）。その他、授業において提示する資料。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

1. 金恵媛・李文相・朴賢珠 (2007) 『サランヘヨ！ハングル-初級から中級へ-』 白帝社
2. 金恵媛ほか (2009) 『サランヘヨ！ハングル-別冊練習帳』 白帝社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語及び授業の概要、文字の構成【ハングル】【基本挨拶】【母音発音及び書き順】
- 2回 文字の発音及び書き順1【基本母音のドリル】【基本子音の発音】【音節と単語読み】
- 3回 文字の発音及び書き順2【激音・濃音】【半母音と二重母音】【半切表】
- 4回 文字の発音及び書き順3【バッチム】【二重バッチム】【名札作り】
- 5回 単語読みと書き取りのドリル【平音、激音、濃音の読みと聞き分け】【バッチムの発音】
- 6回 発音の法則【連音化】【激音化】ドリル
- 7回 発音の法則【鼻音化】【濃音化】ドリル
- 8回 発音の法則【流音化】【その他の発音法則】ドリル
- 9回 自然な発音で単語を読むドリル【体の部分名称】
- 10回 簡単な文章読み書き【自己紹介】【職業】
- 11回 疑問文と応答文【～ですか】【はい、いいえ】【～ではありません】
- 12回 韓国文化の紹介【映像資料】
- 13回 存在詞、場所名、ゼスチュア一位置名詞暗記【教室にある物と無いもの】【～に】
- 14回 指示代名詞、人称代名詞、疑問詞【ベアで指示代名詞の質問と応答】【自己紹介】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点、小テスト、課題...80% 期末試験...20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容についての事前学習、授業内容についての事後学習を推奨する。

## 履修上の注意 /Remarks

関連の講義を幅広く受講することにより、朝鮮語スキルのより高いレベルを目指すことができます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

朝鮮語を学ぶことは、韓国への理解を深めるための第一歩です。楽しく学び、しっかり身につけましょう。

## キーワード /Keywords

# 朝鮮語Ⅲ ( 1 - b ) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN102F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

まず、基本の文字習得や発音の法則は文法の授業と重なる部分があるが、聞き取りや学習者一人一人の発音の指導及び学んだ言葉を話す練習を主にしてコミュニケーション能力を高めていくのを教育方針とする。もっとも重要なことはハングル（文字）と発音を正確に習得することである。この講義では韓国語を正確に聴いて書くことができるようにすること、また自己紹介、初歩的な挨拶表現や簡単な質問に返事できることを目標とする。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

金順玉他『新チャレンジ！韓国語』（白水社）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

李昌圭『韓国語を学ぼう』別冊練習長（朝日出版社）  
油谷幸利他『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』（小学館）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語及び授業の概要、文字の構成【ハングル】【基本挨拶】【母音発音及び書き順】
- 2回 文字の発音及び書き順1【基本母音のドリル】【基本子音の発音】【音節と単語読み】
- 3回 文字の発音及び書き順2【激音・濃音】【半母音と二重母音】【半切表】
- 4回 文字の発音及び書き順3【バッチム】【二重バッチム】【名札作り】
- 5回 単語読みと書き取りのドリル【平音、激音、濃音の読みと聞き分け】【バッチムの発音】
- 6回 発音の法則【連音化】【激音化】ドリル
- 7回 発音の法則【鼻音化】【濃音化】ドリル
- 8回 発音の法則【流音化】【その他の発音法則】ドリル
- 9回 自然な発音で単語を読むドリル【体の部分名称】【単語カード】
- 10回 簡単な文章読み書き【自己紹介】【職業】
- 11回 疑問文と応答文【～ですか】【はい、いいえ】【～ではありません】
- 12回 韓国文化紹介【民族衣装】【民族遊び体験】【日韓交流のサブカルチャ紹介】
- 13回 存在詞、場所名、ゼスチュア一位置名詞暗記【教室にある物と無いもの】【～に】
- 14回 指示代名詞、人称代名詞、疑問詞【ヘアで指示代名詞の質問と応答】【皆に家族紹介】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、小テスト、課題...50% 期末試験...50%

※コロナの状況により、変更の可能性あり

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

## 履修上の注意 /Remarks

この講義と朝鮮語Ⅰの授業を並行して受講すれば、しっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

多くのアクティビティを含んだ授業を目指してやっていますので、楽しい韓国語を学びましょう。

## キーワード /Keywords

# 朝鮮語Ⅲ ( 1 - c ) 【昼】

担当者名 /Instructor 安 滯珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN102F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

基本の文字習得や発音の法則は文法の授業と重なる部分があるが、聞き取りや学習者一人一人の発音の指導及び学んだ言葉を話す練習を主にしてコミュニケーション能力を高めていくのを教育方針とする。もっとも重要なことはハングル(文字)と発音を正確に習得することである。この講義では韓国語を正確に聴いて書くことができるようにすること、また自己紹介、初歩的な挨拶表現や簡単な質問に返事できることを目標とする。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

金順玉・阪堂千津子『最新チャレンジ!韓国語』白水社 2014年。2300円+税

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

李昌圭『韓国語へ旅しよう』朝日出版社 2014年。2500円+税

油谷幸利他『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語及び授業の概要、文字の構成【ハングル】【基本挨拶】【母音発音及び書き順】
- 2回 文字の発音及び書き順1【基本母音のドリル】【基本子音の発音】【音節と単語読み】
- 3回 文字の発音及び書き順2【激音・濃音】【半母音と二重母音】【半切表】
- 4回 文字の発音及び書き順3【バッチム】【二重バッチム】【名札作り】
- 5回 単語読みと書き取りのドリル【平音、激音、濃音の読みと聞き分け】【バッチムの発音】
- 6回 発音の法則【連音化】【激音化】ドリル
- 7回 発音の法則【鼻音化】【濃音化】ドリル
- 8回 発音の法則【流音化】【その他の発音法則】ドリル
- 9回 自然な発音で単語を読むドリル【体の部分名称】【単語カード】
- 10回 簡単な文章読み書き【自己紹介】【かしまった「です・ます」体の作り方】
- 11回 韓国文化紹介【映画鑑賞】
- 12回 存在詞、場所名、位置名詞暗記【教室にある物と無いもの】【～に】
- 13回 家族紹介【存在詞を使ってペアで質問と応答】
- 14回 指示代名詞、人称代名詞、疑問詞【ペアで趣味・専攻などを質問と応答】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 平常の学習状況、小テスト、課題...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

## 履修上の注意 /Remarks

この講義と朝鮮語Ⅰの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

## 朝鮮語Ⅲ ( 1 - c ) 【昼】

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

多くのアクティビティを含んだ授業を目指してやっていますので、楽しい韓国語を学びましょう。

### キーワード /Keywords

# 朝鮮語Ⅲ ( 1 - d ) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN102F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

韓国語に初めて接する受講生の韓国語入門である。初級でつまづきやすい発音と文字をしっかりと練習しながら、正確な読み書きの習得を目指す。ペア練習やグループワークを取り入れ、日常生活に必要な挨拶や基礎的表現を覚えていく。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

『最新チャレンジ！韓国語』 金順玉・阪堂千津子（白水社） 定価2,300円

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利他（小学館）  
『韓国語ビジュアル単語集』 李恩周（高橋書店）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 文字と発音【基本母音】
- 2回 文字と発音【基本子音】
- 3回 文字と発音【激音】【濃音】
- 4回 文字と発音【合成母音字】
- 5回 文字と発音【終声①】【終声②】
- 6回 発音のルール【連音化】【濃音化】
- 7回 発音のルール【激音化】【鼻音化】
- 8回 その他の発音法則
- 9回 【文字の復習】【指定詞の丁寧形】
- 10回 疑問文と応答文【～ですか】【～です】【～ではありません】
- 11回 自己・物を紹介する時の表現【～といます】
- 12回 存在詞の丁寧形【～があります】
- 13回 場所名、時をあらわす単語【～に】【～があります、います】
- 14回 位置を表す単語と助詞【～に】存在詞の否定文【～がありません、いません】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・25%  
授業中の参加意欲及び発言状況・・・25%  
学期末試験・・・50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ほぼ毎回行う小テストの準備のために復習をしておくこと。  
次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

# 朝鮮語Ⅲ ( 1 - d ) 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

韓国語は"ハングル"という独自の文字から覚えなければならない言語です。他にも覚えることがたくさんあります。日ごろコツコツ頑張らないと身に付きません。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 朝鮮語Ⅳ ( 1 - a ) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 恵媛 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN112F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

朝鮮語Ⅲの履修を受け、朝鮮語の実践的運用や韓国文化理解のために、朝鮮語の基礎力・基礎知識を学習する。授業内容は、朝鮮語Ⅲをステップアップした内容で、ハングル表記をマスターする。応用的な語彙・文法を習得し、少し長めの文章・平易な会話表現などを習得することを目標とする。

・到達目標：朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

金順玉他『新チャレンジ！韓国語』（白水社）。授業において提示する資料。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- 1.金恵媛・李文相・朴賢珠（2007）『サランヘヨ！ハングル-初級から中級へ-』白帝社
- 2.金恵媛ほか（2009）『サランヘヨ！ハングル-別冊練習帳』白帝社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Ⅲの学習内容確認、丁寧形 1【自己紹介】【授業に必要な言葉】
- 2回 助詞 1【助詞の例文を会話に用いる】、漢数字 1【【おいくらですか】【買い物】
- 3回 助詞 2、漢数字 2【電話番号を教えてください】【誕生日は何月何日？】
- 4回 時制表現【昨日は何曜日ですか】【一週間の予定表】
- 5回 丁寧形 2【해오체】動詞・形容詞の丁寧形ドリル
- 6回 丁寧形 2【해오체】文章に於いての丁寧形ドリル
- 7回 「해오체」の不規則、固有数字 1【一つ、二つ...】
- 8回 「해오체」のドリル、固有数字 2【おいくつですか】
- 9回 時刻【(固有数字)時(漢数字)分】【何時ですか】
- 10回 数量単位名詞【人・物を数える】【相づち】
- 11回 希望表現【将来何になりたいですか】【週末友達は何をしたがっていますか】
- 12回 否定及び不可能表現【ベアの質問と応答練習】【못~,~지 못해요】
- 13回 過去形【きのう何をしましたか】【前置き表現】  
過去形の否定及び不可能表現【~지 않았어요.】【~지 못했어요.】
- 14回 グループ発表(会話)
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点、小テスト、課題、発表80%、期末試験20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容についての事前学習、授業内容についての事後学習を推奨する。

## 履修上の注意 /Remarks

関連の朝鮮語授業を並行して受講することによって復習効果が得られるとともに、朝鮮語のコミュニケーション能力を向上させることができる。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

朝鮮語を学ぶことは、韓国への理解を深めるための第一歩です。楽しく学び、しっかり身につけましょう。

キーワード /Keywords

# 朝鮮語Ⅳ ( 1 - b ) 【昼】

担当者名 /Instructor	休講											
履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	1単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	英中比人 1年			
対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」	
KRN112F		◎				
科目名	朝鮮語Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			

## 授業の概要 /Course Description

日本語と韓国語の対照言語的なアプローチから両言語の文法においての類似点と相違点を指導することで学習能力を高めていくことを教育方針とする。前学期に続いて、相手、時制、自己表現において異なる状況での必要な言葉遣いを学習、簡単に意見交換に必要な会話ができるためのコミュニケーション能力を学習することを目標とする。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

金順玉他『新チャレンジ!韓国語』(白水社)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

李昌圭『韓国語を学ぼう』別冊練習帳(朝日出版社)  
油谷幸利他『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』(小学館)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Ⅲの学習内容確認、丁寧形1【自己紹介】【授業に必要な言葉】
- 2回 助詞1【助詞の例文を会話に用いる】、漢数字1【【おいくらですか】【買い物】
- 3回 助詞2、漢数字2【電話番号を教えてください】【誕生日は何月何日?】
- 4回 時制表現【昨日は何曜日ですか】【一週間の予定表】
- 5回 丁寧形2【해오体】動詞・形容詞の丁寧形ドリル
- 6回 丁寧形2【해오体】文章に於いての丁寧形ドリル
- 7回 「해오体」の不規則、固有数字1【一つ、二つ...】
- 8回 「해오体」のドリル、固有数字2【おいくつですか】
- 9回 時刻【(固有数字)時(漢数字)分】【何時ですか】
- 10回 数量単位名詞【人・物を数える】【韓国語でクリスマスキャロルを歌う】【相づち】
- 11回 希望表現【将来何になりたいですか】【週末友達は何をしたがっていますか】
- 12回 否定及び不可能表現【ベアの質問と応答練習】【못~,~지 못해요】
- 13回 過去形【きのう何をしましたか】【前置き表現】  
過去形の否定及び不可能表現【~지 않았어요.】【~지 못했어요.】
- 14回 DVD視聴
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、小テスト、課題...50% 期末試験...50%

※コロナの状況により、変更の可能性あり

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

## 履修上の注意 /Remarks

受講生はこの講義と朝鮮語Ⅱの授業を並行して受講すれば、しっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

アクティビティを多く含んだ授業を行いますので、楽しく韓国語を学びましょう。

## キーワード /Keywords

# 朝鮮語Ⅳ ( 1 - c ) 【昼】

担当者名 /Instructor 安 滯珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN112F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

日本語と韓国語の対照言語的なアプローチから両言語の文法における類似点と相違点を指導することで学習能力を高めていくことを教育方針とする。前学期に続いて、相手、時制、自己表現において異なる状況での必要な言葉遣いを学習、簡単に意見交換に必要な会話ができるためのコミュニケーション能力を学習することを目標とする。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

金順玉・阪堂千津子『最新チャレンジ!韓国語』白水社 2014年。2300円+税

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

李昌圭『韓国語へ旅しよう』朝日出版社 2014年。2500円+税  
油谷幸利他『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Ⅲの学習内容確認、助詞と疑問詞のまとめ復習
- 2回 うちとけた「です・ます」体(해요体)の作り方
- 3回 月日の言い方【何曜日・何月何日】【韓国の記念日】
- 4回 時刻【(固有数字)時(漢数字)分】【何時ですか】
- 5回 【僕の一週間の予定】発表
- 6回 不規則な「해요体」
- 7回 動詞・形容詞の否定文、行為目的表現【～しに行く・来る】
- 8回 好き・嫌いを尋ね合う、場所の単語を覚える
- 9回 韓国文化紹介【言語表現・しぐさ】
- 10回 過去形のドリル
- 11回 希望表現【日記作成・発表】
- 12回 反対語・関連語で単語を覚える練習
- 13回 予定・推測表現
- 14回 理由や根拠、動作の進行・状態を表す
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 50%、日常の授業への取り組み、小テスト、課題... 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

## 履修上の注意 /Remarks

受講生はこの講義と朝鮮語Ⅱの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

アクティビティを多く含んだ授業を行いますので、楽しく韓国語を学びましょう。

## キーワード /Keywords

# 朝鮮語Ⅳ ( 1 - d ) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN112F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

朝鮮語Ⅲで学んだ基本的知識を踏まえて、発音変化を伴う単語や文章をより正確に読める力を身につける。初級テキストにあげる基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようになることを目標とする。様々なシチュエーションでの実践的な対話力を養成し、会話をするうえで重要である動詞と形容詞に慣れ、より豊かな表現ができることを目指す。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

『最新チャレンジ！韓国語』 金順玉・阪堂千津子（白水社）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか（小学館）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Ⅲの復習
- 2回 持ち物について尋ねる会話【誰のものですか？】
- 3回 疑問詞を使った表現【～は何/どこですか？】
- 4回 時制や日付【漢数詞①】助詞のまとめ【いつ～しますか？】
- 5回 用言の丁寧形①【へヨ体】【漢数詞②】【電話番号、学年】
- 6回 用言の丁寧形②【へヨ体】【固有数詞①】【何時ですか？】
- 7回 用言の否定形【～しません、～ありません】【一週間の予定】
- 8回 目的表現【～に～しに行きます】好みの表現【～が好きです】
- 9回 数詞まとめ【電話番号、学年、誕生日は？いくらですか？】
- 10回 丁寧形の変則活用
- 11回 用言の尊敬形
- 12回 用言の過去形①【～ました、でした】
- 13回 用言の過去形②【変則活用】
- 14回 意思と推測表現【～するつもりです】動作の進行【～しています】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・25%  
授業中の参加意欲及び発言状況・・・25%  
学期末試験・・・50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ほぼ毎回行う小テストの準備のために復習をしておくこと。  
次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

# 朝鮮語Ⅳ ( 1 - d ) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

覚えることがたくさんあります。日ごろコツコツ頑張りましょう。

キーワード /Keywords



# 朝鮮語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN201F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅴ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

韓国語の基礎的な文法・語彙・表現力などをさらに深め、初級文法の完成を目指す。テキストの他、応用作文の練習を多く行い、簡単な手紙、日記などの文章が書けるようになること、また同程度の読解ができることを目指す。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、中級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

おはよう韓国語2 (崔柄珠著、朝日出版社、978-4-255-55638-3 : B5判) 2,400円 (税抜き)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか (小学館)  
ISBN4-09-506141-3

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 オリエンテーション
- 第2回目 『朝鮮語I・II』の復習
- 第3回目 第1課 フランスから来ました【文法、単語】
- 第4回目 第1課 フランスから来ました【練習問題、スキット】
- 第5回目 第2課 家族は何名様ですか【文法、単語】
- 第6回目 第2課 家族は何名様ですか【練習問題、スキット】
- 第7回目 第3課 キム・ミンスさんのお宅ですよね【文法、単語】
- 第8回目 第3課 キム・ミンスさんのお宅ですよね【練習問題、スキット】
- 第9回目 【復習】
- 第10回目 第4課 野菜が多くて体にもいいです【文法、単語】
- 第11回目 第4課 野菜が多くて体にもいいです【練習問題、スキット】
- 第12回目 第5課 夏休みに何をするつもりですか【文法、単語】
- 第13回目 第5課 夏休みに何をするつもりですか【練習問題、スキット】
- 第14回目 【復習】
- 第15回目 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題・小テスト 30% 定期試験 70%

※コロナの状況により、変更の可能性あり

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までにその日の授業内容を確認し、知らない単語などは調べること。  
また、授業終了後は復習や暗記を徹底すること。

## 履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す。  
朝鮮語Ⅶと並行して受講することが望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

## キーワード /Keywords

# 朝鮮語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN211F		◎			
科目名	朝鮮語VI		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

初級レベルでは学習しなかった、より高度な会話や文章の読解を目指す。1学期に引き続き、主として表現・文法の学習を中心とし、その学習を効果的に行うため、会話や読解、作文練習などに力を入れる。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、中級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

おはよう韓国語2 (崔柄珠著、朝日出版社、978-4-255-55638-3 : B5判) 2,400円 (税抜き)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか (小学館)  
ISBN4-09-506141-3

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 オリエンテーション
- 第2回目 『朝鮮語V』の復習
- 第3回目 第6課 どのように行けばいいですか【文法、単語】
- 第4回目 第6課 どのように行けばいいですか【練習問題、スキット】
- 第5回目 第7課 写真を添付しますよ【文法、単語】
- 第6回目 第7課 写真を添付しますよ【練習問題、スキット】
- 第7回目 第8課 みんな一緒に歌を歌いましょう【文法、単語】
- 第8回目 第8課 みんな一緒に歌を歌いましょう【練習問題、スキット】
- 第9回目 【復習】
- 第10回目 第9課 どんなアルバイトをしていますか【文法、単語】
- 第11回目 第9課 どんなアルバイトをしていますか【練習問題、スキット】
- 第12回目 第10課 何にも聞いていませんが【文法、単語】
- 第13回目 第10課 何にも聞いていませんが【練習問題、スキット】
- 第14回目 【復習】
- 第15回目 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題・小テスト 30% 定期試験 70%

※コロナの状況により、変更の可能性あり

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までにその日の授業内容を確認し、知らない単語などを調べること。  
また、次回までに復習や暗記を徹底すること。

## 履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す。

朝鮮語VIIと並行して受講するほうが望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

## キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 安 滯珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN202F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅶ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、グループ発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。基礎レベルの範囲で多彩な文型を無理なく駆使できるようになる。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

金順玉・阪堂千津子・崔栄美 『ちょこっとチャレンジ!韓国語 改訂版』白水社 2017年。2400円+税

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

油谷幸利 ほか『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回．オリエンテーション
- 2回．第1課 打ち解けた尊敬表現【-(으)세요】を使ってインタビューする。条件・仮定表現【-(으)면】
- 3回．第1課意図・計画【-(으)려고 해요】、休暇計画について尋ね合う
- 4回．第2課 説明・紹介【-인데】、期間【-L/은 지】、韓国語を習ってからどのくらい経ったか尋ね合う
- 5回．第2課動作の順序【-L/은 다음에/-기 전에】、自分の日課を順番を追って話す
- 6回．第1課と第2課まとめ復習、聞き取り、会話文作成発表
- 7回．第3課 義務【-아/어야 해요】、丁寧な命令・禁止命令【-(으)세요/-지 마세요】
- 8回．第3課 許可・禁止【-아/어도 돼요/-(으)면 안 돼요】、サークルの規則を決めて発表
- 9回．第4課 形容詞の連体形、理由表現【-아서서】
- 10回．第4課 決心・約束【-기로 했어요】、約束したことや決心したことについて尋ね合う
- 11回．第3課と第4課まとめ復習、聞き取り、会話文作成発表
- 12回．第5課 位置を表す語、手段【-로/으로】、家から学校までの交通手段と所要時間をインタビューする
- 13回．第5課 動作の順序・連結【-아/어서】、おすすめのスポットを紹介し、道順を教える
- 14回．第6課 動詞・存在詞の現在連体形、試行・経験【-아/어 봤어요】
- 15回．第6課 物や出来事の状況説明・感想【-는데】、まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 日常の授業への取り組み課題・小テスト...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

## 履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく韓国語で多くのことを話し合しましょう。

## キーワード /Keywords

# 朝鮮語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 安 静珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 英中2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN212F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅷ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、グループ発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

金順玉・阪堂千津子・崔榮美 『ちょこっとチャレンジ!韓国語(改訂版)』白水社 2017年。2400円+税

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

油谷幸利 ほか 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第5・6課 聞き取り、会話文復習
- 2回 第7課 依頼【-아/어 주세요】、勧誘・アドバイス【-아/어 보세요】
- 3回 第7課 より丁寧な依頼【-아/어 주시겠어요?】、買い物している場面を想定して話し合う
- 4回 第8課 理由・根拠【-(으)니까】、感嘆【-네요】、推測【-르/을 것 같아요】
- 5回 第8課 プレゼントをやりとりする場面を想定して話し合う
- 6回 第7・8課の復習、聞き取り、ペアで会話文を作って発表
- 7回 第9課 がしこまった尊敬、不可能表現【自分ができないことを話し合う】
- 8回 第9課 時間・場合【-(으)ㄴ 때】
- 9回 第10課 傾向【-(으)ㄴ/는 편이에요】、同時・並行動作【-(으)면서】、学習方法をインタビューする
- 10回 第10課 ~するのが【-는 것이(-는게)】、自分の性格・学習スタイルについて話す
- 11回 第9・10課の復習、聞き取り、ペアで会話文を作って発表
- 12回 韓国文化紹介、映画鑑賞
- 13回 第11課 間接話法、インタビューした内容を間接話法を使って発表する
- 14回 第11課 間接話法の過去、間接話法の縮約形【気になっているニュースを友達に伝える】
- 15回まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 日常の授業への取り組み・課題・小テスト...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

## 履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語で多くのことを話し合しましょう。

## キーワード /Keywords



# 上級朝鮮語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 安 滯珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN301F		◎			
科目名	上級朝鮮語Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

日常生活だけではなく、韓国全般に及ぶ社会と文化の理解を談話に取り入れ、対話を誘導できることを目指して練習する。そうすることで、自分が表現したいことを流暢に表現できること、応用文型まで幅広く会話形式、発表形式でコミュニケーション能力を高める。さらに、グループ研究発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。専門的な用語と社会全般の説明が理解出来る多彩な文型と諺を無理なく駆使できるようになることを目標にする。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、応用レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

油谷幸利 ほか『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回．授業概要、オリエンテーション(韓国語で自己紹介を含む)
- 2回．読解【私の新年計画、韓国で人気のある職業】
- 3回．聞き取り、会話・文型練習【-가/이 되다, -(으)려고, -는 동안(에)】
- 4回．作文発表【夢と将来の計画について】
- 5回．読解【韓国社会人の悩み、進路についての悩み】
- 6回．聞き取り、会話・文型練習【-는 건 어때요?/-는 게 좋겠다/-때문에】
- 7回．作文発表【悩みについて】
- 8回．読解【自分の願望のために現在やっていること】
- 9回．聞き取り、会話・文型練習【-기 위해서/ -거나/-(으)면 좋겠다】
- 10回．読解【大衆文化、韓国映画】
- 11回．韓国映画鑑賞
- 12回．読解【韓国の住居環境、部屋探し】
- 13回．聞き取り、会話・文型練習【-보다/-지요/-중에서】
- 14回．作文発表【自分が今住んでいる家と将来住みたい家】
- 15回．まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50%、日常の授業への取り組み・課題・小テスト 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の作文の課題を発表できるように準備すること。

## 履修上の注意 /Remarks

単元ごとにスキットの暗記と応用会話を演じ、同じテーマを持って自分の意見を発表出来るように、事前に予習をする必要がある。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語でコミュニケーションする楽しさを体験しましょう。

## キーワード /Keywords

# 上級朝鮮語II 【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第二外国語

担当者名 /Instructor 安 静珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN311F		◎			
科目名	上級朝鮮語II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

日常生活だけではなく、韓国全般に及ぶ社会と文化の理解を談話に取り入れ、対話を誘導できることを目指して練習する。そうすることで、自分が表現したいことを流暢に表現できること、応用文型まで幅広く会話形式、発表形式でコミュニケーション能力を高める。さらに、グループ研究発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、応用レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

油谷幸利 ほか『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回．オリエンテーション
- 2回．読解【韓国の交通手段、道路標識】
- 3回．聞き取り、会話・文型練習【-(으)로 해서, -(으)까요?,-(으)르 것 같다】
- 4回．作文発表【自分の国と他の国の交通事情を比較】
- 5回．読解【宿泊先の予約】
- 6回．聞き取り、会話・文型練習【-기 때문에, -(으)로,-밖에】
- 7回．作文発表【宿泊先に予約のメールを送る】
- 8回．韓国の観光事情について話し合う
- 9回．読解【インターネットバンキング、銀行事情】
- 10回．聞き取り、会話・文型練習【-고 나서, -(으)려면, -에다가】
- 11回．作文発表【自分の国と他の国のインターネット事情を比較】
- 12回．読解【終了式】
- 13回．聞き取り、会話・文型練習【-(으)는지, -(으)르 게요】
- 14回．作文発表【学期を終えての感想を発表】
- 15回．まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50%、日常の授業への取り組み発・課題・小テスト...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の作文の課題を発表できるように準備すること。

## 履修上の注意 /Remarks

課題提出の締め切りをしっかりと守ること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語のコミュニケーションを楽しみましょう。

## キーワード /Keywords

# ドイツ語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GRM101F		◎			
科目名	ドイツ語Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じること。

### 到達目標

日常生活行動をドイツ語で書きます、それを発音します。

例えば、

Um wie viel Uhr gehen Sie ins Bett?

Ich gehe um elf Uhr ins Bett.

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

CD付き『独検5級・4級・3級対応 ドイツ語文法』三修社、著者：在間進、亀ヶ谷 昌秀

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ドイツの若者をビデオで見る【アルファベット・発音・つづり・母音の長短】(5級対応)
- 2回 自己紹介。【動詞の現在人称変化】
- 3回 ハンスは今、テニスをしています。【分の作り方。平叙文、疑問文】
- 4回 その母親はワインを飲みます。【名詞の性と冠詞】
- 5回 その犬のその名前はタロウです。【名詞と冠詞の格】
- 6回 フランクはアナのために10本のバラを買います。【複数形の作り方】(4級対応)
- 7回 その子供達はサッカーをするのが好きです。【複数形の使い方】
- 8回 ケンはこのスポーツカーを買います。【定冠詞類】
- 9回 私の犬はタロウという名前です。【不定冠詞類】
- 10回 その息子はその犬と遊ぶのが好きです。【前置詞の格支配】
- 11回 私達は今日、ケンとその学食に行きます。【3・4格支配の前置詞】
- 12回 彼は彼女に一通の手紙を書きます。【人称代名詞】
- 13回 私は私の歯をみがきます。【再帰代名詞】
- 14回 私は明日、ドイツ語を学ぶつもりです。【助動詞】
- 15回 彼は週末に何をするのでしょうか。【未来形】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

## ドイツ語I【昼】

### 履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun (発音：ツアウン、「垣根」) と town です。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に活かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

### キーワード /Keywords

# ドイツ語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GRM111F		◎			
科目名	ドイツ語Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じること。

### 到達目標

日常生活の行動をドイツ語で書き、発音する。  
例えば、「昨日何時に寝ましたか。」とその答え。  
Um wie viel Uhr sind Sie ins Bett gegangen?  
Ich bin um elf Uhr ins Bett gegangen.

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

CD付き『独検5級・4級・3級対応 ドイツ語文法』三修社、著者：在間進、亀ヶ谷昌秀

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオで「グリム兄弟の生涯」を見る。ハンスはパーティーを開きました。【過去形】(3級対応)
- 2回 私達は寿司を食べに行きます。【動詞の特殊な使い方】
- 3回 君達は何をしましたか。【完了形】
- 4回 私達は食べてしまっていました。【過去完了形】
- 5回 アナはいつも先生にほめられます。【受動文】
- 6回 私は昨日、先生にほめられました。【受動の過去形と完了形】
- 7回 ハンスはオーストリアあるいはスペインへ行きます。【並列接続詞】
- 8回 彼は仕事に行く前に、いつも新聞を読みます。【従属接続詞と副文の作り方】
- 9回 フランクはカナを愛しています、しかしお金を持っていない、と言いました。【接続法第1式】
- 10回 もし僕がとても金持ちならば、僕はカナと世界旅行をするでしょう。【接続法第2式】
- 11回 私は私の学友達よりもずっと勤勉でした。【比較変化】
- 12回 その車は私が期待したと同じように速く走ります。【同等の比較】
- 13回 あそこで歌っているその少年は、私の孫です。【関係文】
- 14回 それを主張する人は、嘘をついています。【不定関係代名詞】
- 15回 彼等は冷たい飲み物を飲みます。【形容詞の格変化】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

## ドイツ語II 【昼】

### 履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun (発音：ツアウン、「垣根」) と town です。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に活かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

### キーワード /Keywords



# ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GRM102F		◎			
科目名	ドイツ語Ⅲ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

### 到達目標

日常生活行動をドイツ語で書き、発音する。  
例えば、「君のお父さんの職業は何ですか。」とその答え。

Was ist dein Vater von Beruf?

Mein Vater ist Angestellter.

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

『スツェーネン 1 場面で学ぶドイツ語』三修社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

## ドイツ語Ⅲ【昼】

### 履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun (発音：ツアウン、「垣根」) と town です。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に活かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

### キーワード /Keywords

# ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GRM112F		◎			
科目名	ドイツ語Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

### 到達目標

日常生活行動をドイツ語で書き、発音する。  
例えば、「君は週末に何をしましたか。」とその答え。

Was hast du am Wochenende gemacht?

Ich habe gejoggt.

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

『スツエーネン 1 場面で学ぶドイツ語』三修社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

## ドイツ語Ⅳ【昼】

### 履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun (発音：ツアウン、「垣根」) と town です。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に活かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

### キーワード /Keywords

# ドイツ語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GRM201F		◎			
科目名	ドイツ語Ⅴ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。

旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

### 到達目標

自分の日常生活行動をドイツ語で書き、発音する。  
例えば、「君は昼食に何を食べますか。」とその答え。  
Was isst du zu Mittag?  
Ich esse Udon.

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他  
( Szenen 2 )

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

○ 『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ザビーネとパウルはハンブルクへ行きます。【時刻表】
- 2回 駅の券売窓口で。【列車の乗り換え】
- 3回 私達は注文したいのですが。【レストランで】
- 4回 部屋は空いていますか？【ホテルで】
- 5回 郵便局へはどう行けばいいですか？【道を教える】
- 6回 円をユーロに両替したいのですが。【銀行で】
- 7回 フライブルクはミュンヘンより暖かいです。【天気】
- 8回 ドイツの休暇の過ごし方。【長期休暇】
- 9回 どこが悪いのですか？【病気】
- 10回 頭痛に効く薬が欲しいのですが。【薬局で】
- 11回 君は彼女に何をプレゼントしますか？【贈り物】
- 12回 ドイツ人はお祝いをするのがとても好きです。【誕生日祝い】
- 13回 ドイツ語でクロスワード遊び。
- 14回 一日の活動を日記に書く。
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

# ドイツ語V 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# ドイツ語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GRM211F		◎			
科目名	ドイツ語VI		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。

旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

### 到達目標

日常生活行動をドイツ語で書き、発音する。

例えば、「君はもうクリスマスを楽しみにしていますか。」とその答え。

Freust du dich schon auf Weihnachten?

Ja, schon.

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他  
( Szenen 2 )

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

○ 『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 パーティーに何を着ますか？【服装】
- 2回 このグレーのスラックスはいいがですか？【お店で】
- 3回 家庭のゴミはどのように分類しますか？【環境問題】
- 4回 ドイツの学校の環境プロジェクト。【無駄を省く】
- 5回 ここで犬を放してはいけません。【禁止】
- 6回 何歳になったら何ができますか？【選挙権】
- 7回 ドイツの学校制度。【教育】
- 8回 パン屋になるためには大学へ行く必要はありません。【資格】
- 9回 あなたは何に興味がありますか？【職業】
- 10回 イースターはなぜ特別なお祭りなのですか？【祝日】
- 11回 イースターのウサギが語ります【祭り】
- 12回 君はクリスマスを楽しみにしていますか？【年末】
- 13回 君達はクリスマスには何をしますか。【年末】
- 14回 クリスマスクッキーの作り方。
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト( 50% ) 学期末試験( 50% )

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

# ドイツ語VI 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GRM202F		◎			
科目名	ドイツ語Ⅶ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。

旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

### 到達目標

スマホのGoogleで「heute logo nachrichten」で検索し、子供ニュース「Kindernachrichten」を字幕と共に見て、理解し、シャドーイングする。

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自己紹介、人の紹介、お礼をいうとき、お礼をいわれたとき
- 2回 人に会ったとき、人と別れるとき、知人に会ったとき、人と別れるとき
- 3回 軽く詫げて話しかけると、謝るとき、ちょっと席をはずすとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 人と別れるとき、相手の成功を祈るとき、お礼を言うとき
- 6回 相手の言うことが聞き取れないとき
- 7回 理解できないとき、単語が分からないとき、ドイツ語で何と言うか聞くと
- 8回 綴りを聞くと、英語の分る人を探すと、いい直しをすると
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 場所を聞くと、道順・方向を聞くと、距離を聞くと
- 11回 時刻を聞くと、時間を聞くと、曜日を聞くと、日付を聞くと
- 12回 値段を聞くと、数量を聞くと、方法を聞くと、理由を聞くと
- 13回 目的を聞くと、住所を聞くと、出身地を聞くと、生年月日を聞くと
- 14回 ドイツのビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

# ドイツ語Ⅶ【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# ドイツ語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GRM212F		◎			
科目名	ドイツ語Ⅷ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。

旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

### 到達目標

スマホのGoogleで「heute logo nachrichten」を検索し、子供ニュース「Kindernachrichten」を字幕と共に見て、理解し、シャドーイングする。

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 事情を聞くとき、あることを頼むとき、人に何かを頼むとき
- 2回 両替を頼むとき、助力を求めるとき、助言を求めるとき
- 3回 服を買うとき、席・切符の予約をするとき、人に助言をするとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 相手の助言に応じるとき、相手の助言に応じられないとき、人を誘うとき
- 6回 自分の考え・意見を言うとき、相手の意見を聞くとき、相手の感想を聞くとき
- 7回 相手の発言・意見に同意するとき、関心事について言うとき、希望を言うとき
- 8回 予定・計画を言うとき、相手の都合が合わないとき、相手が気の毒な状態のとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 病状を言うとき、身体の具合を聞くとき、体調を言うとき
- 11回 会う日を相談するとき、会う場所を相談するとき、相手の都合を聞くとき
- 12回 自分の都合を説明するとき、場所と時間を確認するとき、招待に感謝するとき
- 13回 贈り物・お土産を渡すとき、飲み物を聞くとき、料理を勧めるとき
- 14回 ドイツビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

# ドイツ語VIII 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# フランス語I【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
FRN101F		◎			
科目名	フランス語 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

初級文法の習得をととしてフランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

『バリーポルドー』（藤田裕二著 朝日出版社 ￥2500+税）

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全14課、配列に従って原則二回で1課進み、1学期は第7課まで終了。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 フランス語の発音と綴り字
- 2回 自己紹介をする
- 3回 主語人称代名詞と動詞 etre の活用
- 4回 物を指し示す
- 5回 名詞と不定冠詞、形容詞の性・数の一致と位置
- 6回 尋ねる
- 7回 第一群規則動詞、定冠詞
- 8回 買い物をする
- 9回 動詞avoirの活用、否定文
- 10回 物や人について尋ねる
- 11回 動詞allerと近接未来、疑問代名詞
- 12回 場所を尋ねる
- 13回 所有形容詞、疑問形容詞
- 14回 ~したいと言う
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 期末試験...80%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキスト各課の本文（会話文）を付属CDをつかって聴き取りと発音練習をしてください。

事後学習：毎回講義で学んだ文法事項を復習し覚えていってください。

## 履修上の注意 /Remarks

仏和辞典を各自用意すること(紙・電子どちらでもよい)

遅くとも2回目の講義までには教科書を用意しておくこと(事情により入手が遅れる場合は、講義開始前に申し出ること)

# フランス語I【昼】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

連続して欠席すると、講義内容についていくのが困難となります。  
正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

## キーワード /Keywords

はじめて学ぶフランス語

# フランス語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
FRN111F		◎			
科目名	フランス語Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

『パリーポルドー』（藤田裕二著 朝日出版社 ￥2500+税）

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全14課、配列に従って2学期は第8課から第14課まで。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 興味を述べる
- 2回 定冠詞の縮約、補語人称代名詞
- 3回 誘う
- 4回 代名動詞、中性代名詞 y
- 5回 天候と時刻を言う
- 6回 非人称構文、命令形
- 7回 数量を表す
- 8回 部分冠詞、中性代名詞 en
- 9回 比較する
- 10回 比較級、単純未来
- 11回 過去のことを話す
- 12回 複合過去、半過去
- 13回 仮定する
- 14回 条件法現在
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 期末試験...80%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキスト各課の本文(会話文)を付属のCDをつかって聴き取りと発音練習をしてください。

事後学習：毎回講義で学んだ文法事項を復習し覚えていってください。

## 履修上の注意 /Remarks

仏和辞典を各自用意すること(紙・電子どちらでもよい)

教科書は1回目の講義から用意しておくこと。

1学期に最低1科目はフランス語の講義を履修しておくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

## キーワード /Keywords

フランス語を生きた言葉として実感



# フランス語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
FRN102F		◎			
科目名	フランス語Ⅲ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができることを目指します。  
日本では「欧米」と一言で括られがちなフランスと英米との言語的、文化的な違いなども交えながら、皆さんがご自身の専攻する言語とは異なる外国・外国語について発見する機会にしたいと思えます。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

『パリ-ポルドー』（藤田裕二著 朝日出版 2500円+税）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

皆さんからの質問や、必要に応じて、授業中に紹介致します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、自己紹介
- 第2回：1課Dialogue、主語人称代名詞、アルファベの読み方、発音記号
- 第3回：動詞êtreの活用、国籍を表す形容詞、子音の発音
- 第4回：2課Dialogue、名詞と不定詞、母音の発音
- 第5回：指示代名詞ce、形容詞の性・数の一致と位置、複合母音の発音
- 第6回：小テスト①、3課Dialogue、規則動詞、鼻母音
- 第7回：不定詞、疑問文、
- 第8回：仏検5級を目指して1、リエゾン、アンシェヌマン、エリジヨン
- 第9回：小テスト②、4課Dialogue、指示形容詞ce
- 第10回：動詞avoirの活用、数字1～10
- 第11回：否定文、数字11～20、ユーロの言い方
- 第12回：小テスト③、5課Dialogue、動詞allerと近接未来
- 第13回：疑問代名詞、不規則動詞
- 第14回：6課Dialogue、所有形容詞
- 第15回：疑問形容詞、Lecture

※上記は目安であり、実際の授業は習熟度に合わせて変更する場合があります。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト30%  
授業中の取り組み20%  
期末テスト50%  
ただし出席が前提となります。欠席が多い場合はこの限りではありません。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

復習をしっかりとってきて下さい。

# フランス語Ⅲ【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# フランス語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
FRN112F		◎			
科目名	フランス語Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができることを目指します。  
日本では「欧米」と一言で括られがちなフランスと英米との言語的、文化的な違いなども交えながら、皆さんがご自身の専攻する言語とは異なる外国・外国語について発見する機会にしたいと思います。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

『パリ-ポルドー』（藤田裕二著 朝日出版 2500円+税）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

皆さんからの質問や、必要に応じて、授業中に紹介致します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：前期の復習、数字20～69、7課Dialogue、
  - 第2回：Il y a と je voudrais、人称代名詞の強制形、数字70～100、
  - 第3回：仏検5級を目指して、指示代名詞、月の言い方
  - 第4回：小テスト①、8課Dialogue、
  - 第5回：冠詞の縮約、補語人称代名詞、曜日の言い方
  - 第6回：9課Dialogue、代名動詞
  - 第7回：中性代名詞y、動詞vouloir、Lecture
  - 第8回：小テスト② 10課Dialogue、感嘆文、
  - 第9回：非人称構文、命令形
  - 第10回：仏検4級を目指して、数量の表現、
  - 第11回：小テスト③、11課Dialogue、部分冠詞、中性代名詞en、
  - 第12回：12課Dialogue、
  - 第13回：比較級、単純未来
  - 第14回：13課Dialogue、複合過去
  - 第15回：複合過去(応用)、半過去
- ※上記は目安であり、実際の授業は習熟度に合わせて変更する場合があります。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト30%  
授業中の取り組み20%  
期末テスト50%  
ただし出席が前提です。欠席が多い場合はこの通りではありません。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

復習をしっかりとってきて下さい。

## 履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# フランス語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
FRN201F		◎			
科目名	フランス語Ⅴ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができることを目指します。  
1年生で学んだ内容を踏まえ、さらに高度な文法を学んでいきましょう。  
リスニングや長文のリーディングも行います。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、中級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

『クローワッサン 2』(松村博史他 朝日出版 2300円+税)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

皆さんの質問や必要に応じて、授業中に紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：1課Dialogue、自己紹介  
第2回：複合過去の復習、子音の発音  
第3回：2課Dialogue、直接目的補語と間接目的補語、母音の発音  
第4回：強制形、複合母音、鼻母音の発音、数字1～20  
第5回：小テスト① 3課Dialogue、代名動詞、数字21～69  
第6回：代名動詞の複合過去、数字70～100  
第7回：4課Dialogue、中性代名詞、  
第8回：指示代名詞、eの発音  
第9回：小テスト②、5課Dialogue、月の言い方  
第10回：前未来、曜日の言い方  
第11回：現在分詞とジェロンディフ、過去分詞と受動態  
第12回：小テスト③、所有代名詞  
第13回：6課  
第14回：7課Dialogue、複合過去と半過去  
第15回：大過去  
※上記は目安であり、習熟度によって変わる可能性があります。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト30%  
授業中の取り組み20%  
期末テスト50%  
ただし出席が前提です。欠席が多い場合はこの通りではありません。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

復習をしっかり行うこと

# フランス語V 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

すでに一年間フランス語を履修した学生が対象です。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# フランス語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
FRN211F		◎			
科目名	フランス語VI		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

前期に引き続き、フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができることを目指します。  
1年生で学んだ内容を踏まえ、さらに高度な文法を学んでいきましょう。  
リスニングや長文のリーディングも行います。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、中級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

『クロワッサン2』（村松博史 朝日出版 2300円＋税）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

Le Petit Prince (Antoine de Saint-Exupéry, Gallimard) ○

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：7課までの復習
- 第2回：8課Dialogue、時を表す接続詞
- 第3回：小テスト①、理由・条件を表す接続詞
- 第4回：長文読解（歌詞）
- 第5回：9課Dialogue、条件法現在
- 第6回：条件法過去
- 第7回：12課
- 第8回：小テスト②、10課Dialogue、関係代名詞
- 第9回：強調構文
- 第10回：11課Dialogue、接続法
- 第11回：小テスト③、リスニング
- 第12回：長文読解（『星の王子さま』狐の話）
- 第13回：長文読解（『星の王子さま』献辞）
- 第14回：長文読解（『星の王子さま』第1章）
- 第15回：長文読解（『星の王子さま』バオバブの話）

※上記はあくまで目安であり、習熟度に合わせて進度が変化する場合があります。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト30%  
授業中の取り組み20%  
期末テスト50%  
ただし出席が前提です。欠席が多い場合にはこの通りではありません。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書中心の回は復習をしっかりとすること。読解などの場合は指示された予習をおこなうこと。

## 履修上の注意 /Remarks

すでに一年間フランス語を学んだ学生が対象です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords



# フランス語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
FRN202F		◎			
科目名	フランス語Ⅶ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができることを目指します。  
日常的な場面でのフランス語会話を養うことを中心に、発音や聞き取りの力をつけることも目指します。  
ペア、またはグループでの会話を通して、なめらかにフランス語で意思疎通が測れるよう練習します。  
授業は主に教科書に沿って進めますが、適宜プリントや映像を用いて、リスニングやリーディングの練習も行います。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、中級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

Albéric DERIBLE他『Rythmes & communication』朝日出版 2500円+税

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

皆さんからの質問や必要に応じて、授業中に紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1) unité 1: 自己紹介(前半)
- 2) unité 1: 自己紹介(後半)
- 3) unité 1: 自己紹介(総括)
- 4) unité 2: 質問する(前半)
- 5) unité 2: 質問する(後半)
- 6) unité 2: 質問する(総括)、小テスト
- 7) unité 3: 買い物をする(前半)
- 8) unité 3: 買い物をする(後半)
- 9) unité 3: 買い物をする(総括)
- 10) unité 4: いつ(前半)
- 11) unité 4: いつ(後半)
- 12) unité 4: いつ(総括)、小テスト
- 13) unité 5: どこ(前半)
- 14) unité 5: どこ(後半)
- 15) unité 5: どこ(総括)

上記は目安であり、受講生の理解度や関心に合わせて変更する場合があります。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(2回)・・・40%

期末テスト・・・40%

授業中の取り組み・・・20%

ただし出席が前提です。欠席が多い場合はこの通りではありません。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

会話は復習を、読解は予習を行うこと。

# フランス語VII 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

すでに一年間フランス語を履修した学生が対象です。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

フランス語

# フランス語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
FRN212F		◎			
科目名	フランス語Ⅷ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

前期に引き続き、フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができることを目指します。日常的な場面でのフランス語会話を養うことを中心に、発音や聞き取りの力をつけることも目指します。ペア、またはグループでの会話を通して、なめらかにフランス語で意思疎通が測れるよう練習します。授業は主に教科書に沿って進めますが、適宜プリントや映像を用いて、リスニングやリーディングの練習も行います。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、中級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

Albéric DERIBLE他『Rythmes & communication』朝日出版 2017年 税別2500円

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

皆さんからの質問や必要に応じて、授業中に紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1) 前期の復習、unité 6：誰 (前半)
  - 2) unité 6：誰 (後半)
  - 3) unité 6：誰 (総括)、リスニング
  - 4) unité 7：何 (前半)
  - 5) unité 7：何 (後半)
  - 6) unité 7：何 (総括)、小テスト
  - 7) unité 8：どのように (前半)
  - 8) unité 8：どのように (後半)
  - 9) unité 8：どのように (総括)、読解
  - 10) unité 9：過去について (前半)
  - 11) unité 9：過去について (後半)
  - 12) unité 9：過去について (総括)、小テスト
  - 13) unité 10：仮定、条件 (前半)
  - 14) unité 10：仮定、条件 (後半)
  - 15) 後期の復習、プレゼンテーション
- 上記は目安であり、受講生の理解度や関心に合わせて変更する場合があります。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の取り組み・・・ 20%  
小テスト(2回)・・・ 40%  
プレゼンテーション・・・ 20%  
レポート・・・ 20%  
ただし出席が前提です。欠席が多い場合はこの通りではありません。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

会話は復習を、読解は予習を行うこと。

# フランス語VIII 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

すでに一年間フランス語を履修した学生が対象です。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

フランス語

# スペイン語I【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英 1 - 1・1 - 2・1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPN101F		◎			
科目名	スペイン語 I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

スペイン語を公用語とする国は、ヨーロッパに1つ、アフリカに1つ、中南米に19（含む1自治領）あり、その話者の数は、アメリカ合衆国にいる hispanic の人たちも含めると4億をはるかに超え、英語、中国語、ヒンズー語に続くと言われています。ラテン語（ローマ帝国の言語）を起源とし、イタリア語、ポルトガル語、フランス語、ルーマニア語とともにロマンス語と呼ばれる仲間に入ります。コロンブスのアメリカ大陸発見（1492年）以降、スペイン語は中南米の植民地の言語になったので、現在のように多くの中南米の国で使われています。その特徴は、これだけ広い地域で用いられているのに、コミュニケーションの妨げになるほどの差がないことです。その広大な文化圏のドアを開けるための第1歩として、スペイン語の基礎を学びましょう。未知の世界が広がっていくはずですよ。

具体的には、スペイン語の初級から中級程度の文法を学びながら基本的な表現をマスターします。

（到達目標）

【技能】スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

『彩りスペイン語』

辻博子、野村明衣、朝日出版

文法と会話（辻博子先生）で同じテキストを分担して使います。

副教材（プリント資料など）はmoodleから送りますので、印刷しません。各自でダウンロードして下さい。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

西和辞典：

スペイン語中辞典（小学館）

新スペイン語（研究社）

現代スペイン語辞典（白水社）

プログレッシブスペイン語辞典（小学館）

パスポート初級スペイン語辞典（白水社）

他多数有。

白水社の別の西和辞典（高橋編）は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。

和西辞典：

和西辞典（宮城、コントレラス監修：白水社）

クラウン和西辞典（三省堂）

その他

図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）

スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）

スペイン（増田監修：新潮社）

スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）

スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）

スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）

スペイン語とつきあう本（寿里著：東洋書店）

スペイン語基礎文法（口ボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）

電子辞書も奨めます。これについては、シラバス作成の段階で4月からの新製品のカタログが届いていないため、最初の講義で詳しく説明するので、辞書の購入はそれまで待っててください。

# スペイン語I【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

( 文法 ) : 授業計画以外にも課題を課す場合があります。

1. 導入
2. 1課：アルファベットと発音
3. 1課：同上、および確認テスト
4. 2課：名詞と冠詞
5. 2課：同上、および確認テスト
6. 3課：形容詞、ser動詞
7. 3課：同上、および確認テスト
8. 4課：規則活用動詞
9. 4課：同上、および確認テスト
10. 5課：指示詞、所有詞、曜日、日付、時間表現
11. 5課：同上、および確認テスト
12. 6課：estar動詞とhay
13. 6課：serとestarの違いと確認テスト
14. 前期のまとめ ( 復習 )
15. 前期のまとめ ( 復習 ) その ( 2 )

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価 ( 小テスト、口頭での答え、作文など ) も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は下で述べる平常点を一切加味せず定期試験の点数だけで評価します。その1/3の条件を満たしている範囲での欠席は構いません。なお、クラブ活動など一切欠席届は認めません。

定期試験が60点以上ならば無条件で単位を認定しますが、60点を下回る場合にも平常点を加味して評価します。もちろん60点を超えている場合も平常点を加算して、成績を決めます。平常点は普通の教室でのやりとり ( 読む、書くなど ) や小テストの点数を半期に亘って数値化します。その年度によって若干の差異はありますが、最大で20点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合 ( 例えば小テストを受けていないとか、授業中答えていないなど ) は平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

定期試験100% + 授業中評価20% = 120% で 60% で単位を認定します。

なお、新型コロナの状況によって、オンライン授業になった場合には評価の方法を変更しますが、その時点で詳しく説明します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

動詞の活用を中心として、学習したことをしっかりと復習して、次回の授業の臨みましょう。( 復習重視で、30分程度は必要になります )。また小テストがある場合はしっかり準備しましょう ( 30分程度 )。

## 履修上の注意 /Remarks

語学は基本的には演習科目なので出席は必要条件だけど、十分条件ではないので、そのことを自覚してしっかりと取り組んで欲しい。

最初の数回は基礎になる重要な事項が多いので、休まずに理解して下さい。

北九大ポータル(moodle)からプリントなどの補助教材を送りますので、各自ダウンロードして、プリントアウトして下さい。詳しくは授業開始時に説明します。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学、学習その他なんでも相談OKです！

メール : faoki@fukuoka-u.ac.jp

## キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう！

# スペイン語I【昼】

担当者名 /Instructor 野村 明衣 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - 4・ 1 - 5・ 1 - 6

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPN101F		◎			
科目名	スペイン語 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

この授業は、スペイン語の基礎文法を学び、学生間あるいは教員学生間の会話練習を通して、スペイン語での日常的なコミュニケーション能力の習得を目指します。

また、スペイン各地の世界遺産、歴史や文化なども紹介します。

スペイン語には5つの母音がありますが、これは日本語の母音の発音と似ているので、日本人にとって発音しやすい言語です。また発音のしやすさから、私たちの周りには店やモノの名前が実はスペイン語であることも多々あります。こういった身近にあるスペイン語に気づくとき、言語を学ぶおもしろさを感じることができるでしょう。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

辻博子・野村明衣 『彩(いろど)リス페인語』 朝日出版社 2021年  
ISBN: 978-4-255-55119-7

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

西川喬 『わかるスペイン語文法』 同学生社 2010年

西和辞典：

○西和中辞典(小学館)

○現代スペイン語辞典(白水社)

○新スペイン語(研究社)

プログレッシブスペイン語辞典(小学館)

パスポート初級スペイン語辞典(白水社)

和西辞典：

○和西辞典(宮城、コントレラス監修：白水社)

○クラウン和西辞典(三省堂)

和西辞典(小学館)

# スペイン語I【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN、アルファベット
- 第2回 発音、アクセント
- 第3回 名詞、名詞の数
- 第4回 冠詞、形容詞
- 第5回 主格人称代名詞、動詞ser
- 第6回 否定文、疑問文、疑問詞(1)
- 第7回 直説法現在 規則動詞
- 第8回 疑問詞(2)、接続詞
- 第9回 指示詞
- 第10回 所有詞
- 第11回 曜日、日付、時間表現(1)
- 第12回 動詞estar, serとestar
- 第13回 hay, hayとestar
- 第14回 総復習(1)
- 第15回 総復習(2)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験50% 小テスト(毎回)35% 日常の授業への取り組み 15%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に必ず辞書で単語の意味を調べておくこと。また授業後は毎回の小テストに備えて復習を怠らないこと。

## 履修上の注意 /Remarks

授業には辞書を持参すること。くわしくは初回の授業でお知らせします。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業開始5~10分程度で毎回小テストを実施します。学習した内容を毎回定着させることによって、定期試験準備の負担が軽くなります。

## キーワード /Keywords

スペイン スペイン語



# スペイン語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - 1・ 1 - 2・ 1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPN111F		◎			
科目名	スペイン語Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

初級から中級程度のスペイン語の文法と表現を学びながら、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします。具体的にはスペイン語Iのテキストの続きをある程度複雑な文や、スペイン語に独特な文を作れるようなレベルまで進みます。英語にない文のパターンも、最初は複雑だと思うかもしれませんが、慣れてくると簡潔な表現で多くの情報が伝わる面白さが理解できるでしょう。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

『彩リスペイン語』（前期スペイン語Iのテキストの続き）  
辻博子、野村明衣、朝日出版  
文法と会話（辻博子先生）で同じテキストを分担して使います。  
プリントも前期同様moodleから送ります。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）  
スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）  
スペイン（増田監修：新潮社）  
スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）  
スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）  
スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）  
スペイン語基礎文法（ロボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）  
辞書についてはスペイン語Iで述べたのを参考にしてください。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(文法)

1. 前期の復習
2. 7課：不規則活用動詞I、直接目的格人称代名詞
3. 7課：同上、および確認テスト
4. 8課：不規則活用動詞II、間接目的格人称代名詞
5. 8課：同上、および確認テスト
6. 9課：不規則活用動詞III、前置詞格人称代名詞、gustar動詞
7. 9課：同上
8. 不規則活用動詞、目的格人称代名詞のまとめ、および確認テスト
9. 10課：不定語・否定語、天候表現、比較表現
10. 10課：同上、および確認テスト
11. 11課：再帰動詞
12. 11課：同上、および確認テスト
13. 後期のまとめ（復習）
14. スペイン語の世界・スペイン語圏の易しい読み物
15. 総復習：スペイン語で書いてみよう

# スペイン語II【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

語学は基本的には演習科目なので出席は必要条件だけど、十分条件ではないので、そのことを自覚してしっかりと取り組んで欲しい。定期試験に授業中の評価（小テスト、口頭での答え、作文など）も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。定期試験に今述べた平常点を最大20点まで加算します。もちろん60点を超過している場合でも、平常点を加味して成績を算定します。

定期試験 100% + 授業中評価20% = 120% で60%を超えていれば単位を認定します。

なお、新型コロナの状況によって、オンライン授業になった場合には評価の方法を変更しますが、その時点で詳しく説明します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

動詞の活用が複雑になります。活用をしっかりと復習、暗記して次回の授業の臨みましょう。（復習重視で、30分程度は必要になります）。また小テストがある場合はしっかりと準備しましょう（30分程度）。

## 履修上の注意 /Remarks

前期に比べて少し複雑な内容になると思いますが、ロマンス語（スペイン語、イタリア語、ポルトガル語、フランス語など）に共通する文法の基礎にもなるので、しっかりと取り組んで、将来の学習につなげましょう。

北九大ポータル(moodle)からプリントなどの補助教材を送りますので、各自ダウンロードして、プリントアウトして下さい。詳しくは授業開始時に説明します。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール：faoki@fukuoka-u.ac.jp

## キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう！

# スペイン語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 野村 明衣 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - 4・1 - 5・1 - 6

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPN111F		◎			
科目名	スペイン語Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、スペイン語の基礎文法を学び、現在形の活用を一通り学習します。  
ペアやグループでの会話練習を通して自分のことをスペイン語で表現する能力を身につけ、日常的なコミュニケーション能力のさらなる向上を目指します。  
また、スペインの文化を扱った発展問題を通して異文化理解を深め、自国の文化と比較により学習者の視野を広げることを目標とします。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

Iと同じテキストを使用します。  
辻博子・野村明衣 『彩(いろど)りスペイン語』 朝日出版社 2021年  
ISBN: 978-4-255-55119-7

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

西川喬 『わかるスペイン語文法』 同学社 2010年

西和辞典：

○西和中辞典(小学館)

○現代スペイン語辞典(白水社)

○新スペイン語(研究社)

プログレッシブスペイン語辞典(小学館)

パスポート初級スペイン語辞典(白水社)

和西辞典：

○和西辞典(宮城、コントレラス監修：白水社)

○クラウン和西辞典(三省堂)

和西辞典(小学館)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 1学期の復習
- 第2回 直説法現在 不規則動詞(1)
- 第3回 直接目的格人称代名詞
- 第4回 間接疑問文、時間表現(2)
- 第5回 直説法現在 不規則動詞(2)
- 第6回 間接目的格人称代名詞
- 第7回 直説法現在 不規則動詞(3)
- 第8回 前置詞格人称代名詞、動詞gustar
- 第9回 その他のgustar動詞、不定語・否定語
- 第10回 天候表現、比較表現
- 第11回 再帰動詞
- 第12回 再帰動詞のその他の用法
- 第13回 再帰動詞演習
- 第14回 総復習
- 第15回 総復習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験50% 小テスト(毎回)35% 日常の授業への取り組み 15%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に必ず辞書で単語の意味を調べておくこと。また授業後は毎回の小テストに備えて復習を怠らないこと。

## 履修上の注意 /Remarks

授業には辞書を持参すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業開始5～10分程度で毎回小テストを実施します。学習した内容を毎回定着させることによって、定期試験準備の負担が軽くなります。

## キーワード /Keywords

スペイン スペイン語

# スペイン語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英 1 - 1・1 - 2・1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPN102F		◎			
科目名	スペイン語Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

この授業では日常会話に必要な語彙や言い回し・会話表現に有効な文法事項を学びながら、簡単なコミュニケーションを取ることを目指します。教科書に従い、語彙の確認、会話の暗記の後、語彙を増やしながら応用の会話もすぐ口から出てくるように何度も練習します。その後アクティビティを通してペアであるいはクラス内でスペイン語で相手に尋ね、また相手から尋ねられたらスペイン語で答える練習をします。スペイン語の知識が全くない人を対象に、スペイン語の読み方・発音・アクセントの規則からはじめます。スペイン語の発音は日本語話者に易しく、発音しやすいのでどんどん単語や文を発音し慣れていきましょう。

このクラスではスペイン語I (担当:青木文夫先生)と同じ教科書を使用します。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

辻博子、野村明衣著『彩りスペイン語Español Colorido』朝日出版社、2021 (スペイン語I・青木文夫担当と同じ教科書)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし。

西和・和西辞書については開講時に指示します。開講前に慌てて購入することはありません。

西和辞書として薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1課 スペイン語とスペイン語圏について、スペイン語のアルファベット、発音、アクセント
- 2回 スペイン語の発音とアクセントの確認、挨拶、数字「おはよう。」
- 3回 2課 名詞、冠詞「ロス・アンヘレス」
- 4回 名詞・冠詞の確認
- 5回 3課 形容詞、主語、ser動詞「私は学生です」
- 6回 ser動詞の確認「どちらの出身ですか」
- 7回 ser動詞確認テスト、4課 規則活用動詞「スペイン語を話しますか」
- 8回 規則活用動詞と頻度表現「私は週に2度スペイン語を習います」
- 9回 5課 指示詞、所有詞「これはわたしのです」
- 10回 日付、時間表現「今何時ですか」
- 11回 6課 estar動詞、ser動詞との違い「あの人は今日怒っている」
- 12回 hay、estar動詞との違い「今家にいますか」
- 13回 ser、estar、hayのまとめテスト「今日の恰好はともすてきだね」
- 14回 スペイン語のビデオを見てみよう
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、小テスト 30%、日常の授業への取り組み 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、単語を辞書などを使いあらかじめ調べてくること。授業後には、動詞の活用や表現などを何度も練習し覚えること。

## 履修上の注意 /Remarks

スペイン語I(文法)の授業を履修しながら(あるいはすでに過去に履修など)であれば、理解度が深まりますし、より多くのスペイン語に接する機会が増えるので、効果的にスペイン語会話が学べます。必修でなくてもぜひ文法の方も履修することを勧めます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

初めて接する言語ですから、何度も声を出して発音しましょう。自身で発音し、その音を耳にすることも立派な学習です。

また、スペイン語の音に慣れていくためにインターネット上の素材をどんどん聞いて有効活用しましょう。

参考サイト：

<http://www.rtve.es/> (スペイン国営放送 TVE)

<http://www.cadena100.es/> (スペインのFMラジオ放送のサイト。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。)

## キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン、スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

# スペイン語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor ミヨコ・フジヨシ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 クラス 英 1 - 4・1 - 5・1 - 6

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPN102F		◎			
科目名	スペイン語Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

この授業は、アルファベットと発音の対応から始め、スペイン語の基礎的文法の確実な習得を目指す。また、現在形を用いながら基本的な会話(自己紹介、など)、を修得するとともに、スペイン語圏の文化習慣等も併せて学習する。

スペイン語は、スペイン人だけでなく、ラテンアメリカの19カ国の人々やアメリカ合衆国に在住のヒスパニックの人々等を含む4億人以上の人々が母語として使っている言語である。また、国連で公用語の一つとして使われている言語でもある。スペイン語を通じて多くの人とコミュニケーションができるようになって、新しい、興味深い文化などに会おうきっかけになることを期待している。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

山道佳子、 Jesús M.Martínez Astudillo 「¡En español, por favor! (スペイン語でお願いします)」  
同学社、ISBN 4-8102-0362-X

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

和西一西和辞典や電子辞書の指定は特にありませんが、用意して、授業に臨むこと。

# スペイン語Ⅲ【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(直接法現在形)

- 第1回 ガイダンス  
授業の目標と進め方。基本的な挨拶。
- 第2回 発音  
アルファベット・発音・アクセントの位置。
- 第3回 名詞の作り方  
男性名詞、女性名詞、単数名詞、複数名詞。  
冠詞+名詞+形容詞
- 第4回 名詞 (2)  
指示・所有、形容詞・代名詞
- 第5回 つなぎのSER動詞、  
自己紹介、国籍、職業等。物や人物の描写
- 第6回 つなぎのESTAR動詞  
健康状態、場所の説明。0~15の基数。
- 第7回 HAY動詞、  
SER/ESTAR/HAY動詞の使い分け
- 第8回 規則活用動詞  
~AR、~ER、~IR動詞の活用、重要な表現。
- 第9回 前置詞、疑問詞  
前置詞の意味、使い方。
- 第10回 不規則動詞変化形 1 (e→ie)  
~したい、~する予定、~し始める。  
16~100の基数。
- 第11回 不規則動詞変化形 2 (o→ue)  
~できる、~かもしれない。  
時刻の表現。予定を言う。
- 第12回 不規則動詞変化形 3 (e→i)  
頼み方、依頼するための表現、  
101~億の基数。曜日、月日、季節。
- 第13回 不規則動詞変化形 4 (1人称単数だけ)  
~しなければならない。~できる。
- 第14回 不規則動詞変化形 5  
近い未来の表現。
- 第15回 まとめ。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業の受講状況・授業中の積極的な発言等(20%)、定期試験の成績(60%)、宿題・レポート・小テスト等(20%)を総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には意味が分からない単語を辞書で引くなどの予習、復習を確実にしてください。  
事後には、その回次での不明点をなくすように復習して次回の授業へ備えてください。  
分からないところはいつでも質問してください。

## 履修上の注意 /Remarks

教科書の予習復習

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# スペイン語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - 1・1 - 2・1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPN112F		◎			
科目名	スペイン語Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

1学期と同様、この授業では日常会話に必要な語彙や言い回し・会話表現に有効な文法事項を学びながら、簡単なコミュニケーションを取ることを目指します。教科書に従い、語彙の確認、文法事項の確認、会話の暗記の後、語彙を増やしながら応用の会話もすぐ口から出てくるように何度も練習します。その後アクティビティを通してペアであるいはクラス内でスペイン語で相手に尋ね、また相手から尋ねられたらスペイン語で答える練習をします。

このクラスではスペイン語II (担当:青木文夫先生)と同じ教科書を使用します。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

辻博子、野村明衣著『彩りスペイン語Español Colorido』朝日出版社、2021 (1学期と同じ)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし。

西和・和西辞書については開講時に指示します。開講前に慌てて購入することはありません。

西和辞書として薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1学期の復習、7課 不規則活用動詞1、時間表現2「電車は午後3時に出ます」
- 2回 直接目的格人称代名詞、間接疑問文「ルイスがどこに住んでいるか知っていますか」
- 3回 8課 不規則活用動詞2「コーヒーがほしいですか」
- 4回 間接目的格人称代名詞、2つの目的格人称代名詞のまとめ「誰にそれをあげるの」
- 5回 9課 不規則活用動詞3「兄弟はいますか」
- 6回 不規則活用動詞まとめ、前置詞格人称代名詞
- 7回 gustarとgustar型動詞
- 8回 7課~9課 まとめテスト、10課 不定語・否定語、天候表現「今日は寒い」
- 9回 比較表現「私はラウルより背が高い」
- 10回 11課 再帰動詞「私は朝7時に起きます」
- 11回 再帰動詞確認「もう帰っちゃうの」
- 12回 後期まとめ
- 13回 スペイン語のビデオを見てみよう1
- 14回 スペイン語のビデオを見てみよう2
- 15回 全体のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、小テスト 30%、日常の授業への取り組み 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、単語を辞書などを使いあらかじめ調べてくること。授業後には、動詞の活用や表現などを何度も練習し覚えること。

## 履修上の注意 /Remarks

スペイン語Ⅱ(文法)の授業を履修しながら(あるいはすでに過去に履修など)であれば、理解度が深まりますし、より多くのスペイン語に接する機会が増えるので、効果的にスペイン語会話が学べます。必修でなくてもぜひ文法の方も履修することを勧めます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語の音に慣れていくためにインターネット上の素材をどんどん聞いて有効活用しましょう。

参考サイト：

<http://www.rtve.es/> (スペイン国営放送 TVE)

<http://www.cadena100.es/> (スペインのFMラジオ放送のサイト。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。)

## キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン、スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

# スペイン語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor ミヨコ・フジヨシ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - 4・1 - 5・1 - 6

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPN112F		◎			
科目名	スペイン語Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅲに引き続き、直接法現在形の基礎文法、過去形や未来形などの時制も学びます。現在形の動詞を用いた基本的な会話を基礎として、さらにスペイン語圏でサバイバルできる程度の会話能力を身につけることを目指します。

スペイン語は、スペイン人だけでなく、ラテンアメリカの人々やアメリカ合衆国在住のヒスパニックの人々等をなど4億人以上の人々が母語として使っている言語であり、第2言語や第1外国語として使う人も入れるとさらに多くの人々が使っている。また、国連で公用語の一つとして使われている言語でもある。スペイン語を通じて多くの人とコミュニケーションができるようになって、新しい、興味深い文化などに会うきっかけになることを期待している。

また授業終了後も、サッカーなどスポーツのスペイン語中継や様々な分野のスペイン語でのインタビューなどへの興味を維持し、自主的にスペイン語学習を継続してスペイン語を使う国々や人々の理解へつながることを期待している。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

山道佳子、Jesús M.Martínez Astudillo 「¡En español, por favor! (スペイン語でお願いします)」  
同学社、ISBN 4-8102-0362-X

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

和西一西和辞典や電子辞書の指定は特にありませんが、用意して、授業に臨むこと。

# スペイン語Ⅳ 【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス  
スペイン語Ⅲの復習。
- 第2回 直接目的格人称代名詞  
[~を]の代名詞。前置詞格人称代名詞。
- 第3回 間接目的格人称代名詞  
[~に]の代名詞。前置詞格人称代名詞。
- 第4回 GUSTAR形 動詞  
~が好きだ、~と思う、~が痛い。
- 第5回 再帰動詞  
他動詞の自動詞化、~し合う。  
無人称・受身の表現
- 第6回 時刻表現と天候の表現。
- 第7回 比較級、絶対最上級
- 第8回 点過去形  
過去の出来事を説明する。
- 第9回 線過去形  
過去の習慣、祭り、など。
- 第10回 点過去形と線過去形比較対照
- 第11回 現在完了形  
完了、経験、継続を表す。
- 第12回 現在進行形  
~している。~してきた。~し続ける。
- 第13回 命令形  
~してください。~しなさい。
- 第14回 未来形  
~しようと思う。未来の計画について話す。
- 第15回 まとめ。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業の受講状況・授業中の積極的な発言等(20%)、定期試験の成績(60%)、宿題・レポート・小テスト等(20%)を総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には意味が分からない単語を辞書で引くなどの予習、復習を確実にしてください。  
事後には、その回次での不明点をなくすように復習して次回の授業へ備えてください。  
分からないところはいつでも質問してください。

## 履修上の注意 /Remarks

教科書の予習復習

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# スペイン語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPN201F		◎			
科目名	スペイン語Ⅴ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

中級程度以上のスペイン語の文法と表現を学びながら、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします 授業を通じて随時スペイン語圏の文化に接することができるような教材も紹介します。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

昨年のテキストの文法事項の続きをしますが、テキストは用いず、moodleから教材のプリントに文法事項の内容をまとめたものを送るので、それを見ながら、文法事項を積み上げていきます。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

西和辞典：

スペイン語中辞典(小学館)

新スペイン語(研究社)

現代スペイン語辞典(白水社)

プログレッシブスペイン語辞典(小学館)

級スペイン語辞典(白水社)

他多数有。

白水社の別の西和辞典(高橋編)は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。

和西辞典：

和西辞典(宮城、コントレラス監修：白水社)

クラウン和西辞典(三省堂)

その他

図説スペインの歴史(川成洋、中西省三編：河出書房新社)

スペインの歴史(立石、関、中川、中塚著：昭和堂)

スペイン(増田監修：新潮社)

スペインの社会(寿里、原編：早稲田大学出版)

スペインの政治(川成、奥島編：早稲田大学出版)

スペインの経済(戸門、原編：早稲田大学出版)

スペイン語とつきあう本(寿里著：東洋書店)

スペイン語基礎文法(ロボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション)

# スペイン語Ⅴ【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 年次の進度が若干異なるため、最初に復習を多めにやります。
- 1 1年の復習(代名詞を中心に)(1)
- 2 1年の復習(代名詞を中心に)(2)
- 3 1年の復習(代名詞を中心に)(3)
- 4 スペイン語の動詞活用の全体像について
- 5 点過去・線過去・現在完了の用法(1)
- 6 同上(2)
- 7 同上(3)
- 8 動詞の派生形とその用法(進行形、完了形、命令形など)(1)
- 7 同上(2)
- 9 未来形・過去未来・過去完了(1)
- 10 同上(2)
- 11 同上(3)
- 12 上記時制も含め、重要な文法事項：複文(副詞節・形容詞節)(1)
- 13 同上(2)
- 14 同上(3)
- 15 点過去と線過去の違いについてと、ここまでの復習(1)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価(小テスト、口頭での答え、作文など)も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。平常点は普段の教室でのやりとり(読む、書くなど)や小テストの点数を年間に亘って数値化します。最大で20点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合(例えば小テストを受けていないなど)は平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

定期試験 100% + 授業中評価20% = 120% で60%を超えていれば単位を認定します。

なお、新型コロナウイルスの状況でオンライン授業になった場合には評価の方法を変更します。その時点で詳しく説明します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

動詞の活用を中心として、学習したことをしっかりと復習しましょう(復習重視で、30分程度は必要になります)。また小テストがある場合はしっかりと準備しましょう(30分程度)。

## 履修上の注意 /Remarks

上記文法資料に対するプリントなどの補助教材はポータル(moodle)から送ります。授業時に詳しく説明します。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール：faoki@fukuoka-u.ac.jp

## キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう！

# スペイン語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPN211F		◎			
科目名	スペイン語VI		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

スペイン語の中級から上級の文法を理解し使えるようにすることを目標にします。詳しくは授業計画を参照。前期のスペイン語Vに引き続き、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

昨年度のテキストの前期の続きを、moodleから補助教材のプリントにテキストの内容をまとめたものを送るので、それを見ながら、文法事項をまとめていきます。

最後にスペイン語版のアニメ(題材未定)を見ながら、表現の聞き取りの練習を楽しみながらやりましょう。

スペイン語Vのプリントもmoodleに残っているので、スペイン語VIから受講の場合も教材はすべてそろいます。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

スペイン語中辞典(小学館)

新スペイン語(研究社)

現代スペイン語辞典(白水社)

プログレッシブスペイン語辞典(小学館)

パスポート初級スペイン語辞典(白水社)

他多数有。

白水社の別の西和辞典(高橋編)は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。

和西辞典:

和西辞典(宮城、コントレラス監修:白水社)

クラウン和西辞典(三省堂)

その他

図説スペインの歴史(川成洋、中西省三編:河出書房新社)

スペインの歴史(立石、関、中川、中塚著:昭和堂)

スペイン(増田監修:新潮社)

スペインの社会(寿里、原編:早稲田大学出版)

スペインの政治(川成、奥島編:早稲田大学出版)

スペインの経済(戸門、原編:早稲田大学出版)

スペイン語とつきあう本(寿里著:東洋書店)

スペイン語基礎文法(ロポ、大森、広康共訳:ピアソンエデュケーション)

# スペイン語VI 【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 前期を含め、様々な構文のまとめ(受け身、使役、放任、比較など)(1)
  - 2 同上(2)
  - 3 時制の一致
  - 4 再帰動詞(1)
  - 5 同上(2)
  - 6 いくつかの文法事項(感嘆文、比較表現)
  - 7 同上(2)
  - 8 接続法の活用全般について
  - 9 接続法の用法(1)
  - 10 同上(2)
  - 11 同上(3)
  - 12 スペイン語版アニメ(題材未定)による聞き取りと訳
  - 13 同上(2)
  - 14 同上(3)
  - 15 まとめ
- 授業全体を通じて、スペイン語の表現を覚えるための会話・講読教材を随時学びます。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価(小テスト、口頭での答え、作文など)も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。平常点は普通の教室でのやりとり(読む、書くなど)や小テストの点数を年間に亘って数値化します。最大で20点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合(例えば小テストを受けていないなど)は平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

定期試験 100% + 授業中評価20% = 120% で60%を超えていれば単位を認定します。

なお、新型コロナウイルスの状況でオンライン授業になった場合には評価の方法を変更します。その時点で詳しく説明します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

活用を中心として、学習したことをしっかりと復習しましょう。(復習重視で、30分程度は必要になります)。また小テストがある場合はしっかり準備しましょう(30分程度)。

## 履修上の注意 /Remarks

プリントなどの補助教材はmoodleから送ります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール: faoki@fukuoka-u.ac.jp

## キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう!



# スペイン語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPN202F		◎			
科目名	スペイン語Ⅶ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳ（会話表現）を更に発展させていきます。教科書を中心に会話表現を学んで行き、何度も音声を聞き暗記をし繰り返し声に出しましょう。習った会話表現を発展させクラス内でスペイン語発表も行います。また時折、プリントや映像・音声などでネイティブの話すスペイン語理解を行います。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

『会話と通訳練習で学ぶ中級スペイン語』本間芳江、安富雄平、Enrique Almaraz Romo著、三修社、2020

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし。

西和・和西辞書については開講時に指示します。辞書必携です。

西和辞書で薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

和西辞書の利用も必要ですが、詳細は開講時に指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前年度スペイン語の復習、1課 自己紹介 seの無主語文
- 2回 1課 リピーティング・シャドウイング
- 3回 2課 カフェテリアで 趣味の話など 再帰動詞
- 4回 2課 リピーティング・シャドウイング
- 5回 3課 花見 直説法現在完了
- 6回 3課 リピーティング・シャドウイング
- 7回 4課 買い物 目的格人称代名詞
- 8回 4課 リピーティング・シャドウイング
- 9回 5課 回転寿司 現在分詞
- 10回 5課 リピーティング・シャドウイング
- 11回 6課 サッカー 直説法点過去・線過去・過去完了
- 12回 6課 リピーティング・シャドウイング
- 13回 7課 電車にて 3人称複数無主語文
- 14回 7課 リピーティング・シャドウイング
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、日常の授業への取り組み 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキストを読んでわからない単語を調べてくる、文のおおよその意味を推測してくる、最低3回は声に出して文を読んでくる。  
事後学習：音声を何度も流しテキストを見ずにスペイン語をリポートしていく、またスペイン語の速度に合わせてシャドウイングを行う。

## 履修上の注意 /Remarks

辞書必携です。  
スペイン語初級 (I・II・III・IV) の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語の1年目を終え、基礎的なことを理解した後は、会話テキストや実際の映像などをもとに、その会話使用例をどんどん覚えてもらいたいと考えています。授業の予習は大変ですが、目にする単語を引いて覚えること、イラストや映像の状況をもとにどんな会話がなされているか推測することも練習の一つです。また、出てきたフレーズを理解し、自分でも同じように発音することでスペイン語をより身につけることができるはずです。

また、オンラインで見られるスペインの映像・音声も随時参考にしてください。

<http://www.rtve.es/> (スペイン国営放送 TVE)

<http://www.cadena100.es/> (スペインのFM放送ラジオ。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。)

また、YoutubeやTwitter, Instagram, Facebookなど、気に入ったSNSを見つけいろいろなスペイン語に触れてみるのも勧めます。

## キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

# スペイン語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPN212F		◎			
科目名	スペイン語Ⅷ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き教科書を使用しながら会話表現を更に発展させていきます。教科書を中心に会話表現を学んで行き、何度も音声を聞き暗記をし繰り返し声に出しましょう。習った会話表現を応用・発展させ、クラス内でスペイン語発表も行います。また折時、プリントや映像・音声などでネイティブの話すスペイン語理解を行います。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

『会話と通訳練習で学ぶ中級スペイン語』本間芳江、安富雄平、Enrique Almaraz Romo著、三修社、2020 (1学期と同じ)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし。

西和・和西辞書については開講時に指示します。辞書必携です。

西和辞書で薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

和西辞書の利用も必要ですが、詳細は開講時に指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 8課 旅館で 直説法未来・過去未来
- 2回 8課 リピーティング・シャドウイング
- 3回 9課 明治神宮 受身表現
- 4回 9課 リピーティング・シャドウイング
- 5回 10課 パルで gustar型構文
- 6回 10課 リピーティング・シャドウイング
- 7回 11課 オリンピック秘話 接続法現在
- 8回 11課 リピーティング・シャドウイング
- 9回 12課 新幹線 quizáを使った接続法、比較級
- 10回 12課 リピーティング・シャドウイング
- 11回 13課 銀座への行き方 命令文
- 12回 13課 リピーティング・シャドウイング
- 13回 14課 通訳依頼の電話 条件文
- 14回 14課 リピーティング・シャドウイング
- 15回 15課 浅草寺で 接続法過去・過去完了 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、日常の授業への取り組み 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキストを読んでわからない単語を調べてくる、文のおおよその意味を推測してくる、最低3回は声に出して文を読んでくる。

事後学習：音声を何度も流しテキストを見ずにスペイン語をリポートしていく、またスペイン語の速度に合わせてシャドウイングを行う。

## 履修上の注意 /Remarks

辞書必携です。

スペイン語初級 (I・II・III・IV) の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語の1年目を終え、基礎的なことを理解した後は、テキストや実際の映像などをもとに、その会話使用例をどんどん覚えてもらいたいと考えています。授業の予習は大変ですが、目にする単語を引いて覚えること、イラストや映像の状況をもとにどんな会話がなされているか推測することも練習の一つです。また、出てきたフレーズを理解し、自分でも同じように発音することでスペイン語をより身につけることができるはずです。

また、オンラインで見られるスペインの映像・音声も随時参考にしてください。

<http://www.rtve.es/> (スペイン国営放送 TVE)

<http://www.cadena100.es/> (スペインのFM放送ラジオ。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。)

また、YoutubeやTwitter, Instagram, Facebookなど、気に入ったSNSを見つけいろいろなスペイン語に触れてみるのも勧めます。

## キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

# 日本語I【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Iでは、特に「大学生生活へのオリエンテーション」に焦点を当てる。日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」を学ぶ。さらに、学期最後の一月は、チュートリアルを導入し、個別のニーズに応じた授業を提供する。

## 教科書 /Textbooks

『スタディスキルズ・トレーニング改訂版 - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』(佐々木瑞枝他、The Japan Times)
- 『自律を目指すことばの学習：さくら先生のチュートリアル』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 大学生生活(1)【自己紹介から始めよう】
- 3回 大学生生活(2)【高校と大学の違い/大学について学ぶ】
- 4回 大学生生活(3)【キャンパスツアー】
- 5回 大学生生活(4)【大学教員・職員との付き合い方】
- 6回 大学生生活(5)【図書館ツアー】
- 7回 大学生生活(6)【大学生生活のデザイン】
- 8回 大学生生活(7)【講義の上手な受け方】
- 9回 大学生生活(8)【演習に参加するコツ】
- 10回 大学生生活(9)【大学の定期試験】
- 11回 チュートリアル(1)【学習計画】
- 12回 チュートリアル(2)【振り返り】
- 13回 チュートリアル(3)【修正】
- 14回 チュートリアル(4)【評価】
- 15回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 30 %  
ポートフォリオ評価 ... 70 % (学習者評価30%/ピア評価20%/実習生評価20%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め授業範囲を予習し、授業終了後には指示された課題を行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

日本語Iと日本語II及び日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。  
日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学生生活を「自分らしく」「楽しく」過ごせるように応援します。

## キーワード /Keywords

生活日本語 大学生生活日本語 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) チュートリアル

# 日本語II 【昼】

担当者名 /Instructor 金 元正 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。  
日本語IIでは、実際に日本語を使う場面で、文字によるコミュニケーション(書く)の能力を伸ばす。「対人性」と「場面性」を理解することで、適切な文章構成・日本語表現ができるようになる。そして、「自己推敲能力」を伸ばすために、自分の書いたものを自己評価し、より良いものに修正する。

## 教科書 /Textbooks

『中級からの日本語プロフィシエンシーライティング』(由井紀久子他、凡人社)

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

『日本語Eメールの書き方』(築晶子他、The Japan Times)  
『外国人のためのケータイメール@につぼん』(笠井淳子他、アスク)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション【文のスタイル】【配慮】【負担】【良好な関係】【今後のこと】
- 2回 アポイントをとる【PCメール】
- 3回 アドバイスを求める【PCメール】
- 4回 問い合わせる【PCメール】
- 5回 依頼する【PCメール】
- 6回 依頼される【PCメール】
- 7回 報告する【PCメール】
- 8回 謝る【PCメール】
- 9回 お礼を言う【携帯&PCメール】
- 10回 誘う【携帯メール】
- 11回 誘われる【携帯メール】
- 12回 なぐさめる・一緒に喜ぶ【携帯メール】
- 13回 伝言する【メモ】
- 14回 募集する【チラシ】【掲示】
- 15回 【学びを振り返る】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み(発表や課題を含む)...70% 小テスト...30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習を行い、提示された課題をMoodleで提出すること。

## 履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当することがある。  
日本語I、日本語II、日本語IIIは、授業内容の関連が深いので、同時受講が望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

プロフィシエンシー 書く 対人性 場面性

# 日本語III 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 1単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語IIIでは、大学生に求められる日本語文章表現能力の育成を目指す。具体的には、TAE(THINKING AT THE EDGE)を用い、日常的な身体感覚を日本語で展開できるようになることを目標とする。留学生にとって、第二言語である日本語で自己表現を行いながら大学生活を過ごすためには、まず、自己の身体感覚を第二言語で言語化する経験が重要となる。

## 教科書 /Textbooks

『TAEによる文章表現ワークブック』(得丸さと子、図書文化)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○『ステップ式質的研究法-TAEの理論と応用』(得丸さと子、海鳴社)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション  
【フェルトセンス】【リラックスのワーク】
- 2回 【色模様のワーク】
- 3回 【オノマトペのワーク】
- 4回 【比喩のワーク】
- 5回 【花束のワーク】
- 6回 【コソのワーク】【共同詩のワーク】
- 7回 【励ます言葉のワーク】
- 8回 【マイセンテンス】
- 9回 【パターンを見つける】
- 10回 【パターンを交差させる】
- 11回 【自己PR文を作ろう】
- 12回 【資料を使って論じよう】
- 13回 【経験から論じよう】
- 14回 【感想文を書こう】
- 15回 評価【学びを振り返る】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・30% 発表・課題・・・30% 自己評価...20% ピア評価...20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に学習目標を確認し、ワークの手順を読んで理解しておく。  
学習活動終了後、学習目標に基づき、どんなことができたか、できなかったかなどを振り返る。

## 履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定です。  
日本語I及び日本語II、日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。  
日頃から、身体や気持ちの感覚に注意を払ってください。また、ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋がります。  
自主的に練習をすることで、授業内容の理解が深まるので、後日繰り返し練習をすること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

誰かが作った言葉のレパートリーから言葉を選択して使用するのではなく、自分の「身体感覚」から発して言葉を作り上げていくのがTAEです。  
TAEを身につけることによって、感受性が豊かになると同時に、言葉で表現する意欲も湧いてきます。

## キーワード /Keywords

TAE 身体を感じ 日本語の私 母語の私



# 日本語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Ⅳでは、特に口頭でのコミュニケーション力「スピーチ」に焦点を当てる。ともすれば似通った内容になりがちなスピーチから脱却するために、自分なりの興味や考え、相手の興味を「発見」し、協働で学びながら、スピーチの幅を広げる。さらに、日本語Ⅰ同様、学期最後の一月はチュートリアルを導入し、個別のニーズに応じた授業を提供する。

## 教科書 /Textbooks

『協働学習で学ぶスピーチ』(渋谷実希他、凡人社)

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- 『アカデミック・プレゼンテーション』(三浦香苗他、ひつじ書房)
- 『自律を目指すことばの学習：さくら先生のチュートリアル』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション/聴衆分析と話題選び【戦略】
- 2回 話し手の心得/聞き手の役割【思い込み・相互評価】
- 3回 自己紹介【オリジナリティ】
- 4回 食べたい、あのお昼ご飯【説明力・伝える力】
- 5回 失敗から学ぶ教訓(1)【伝える力】
- 6回 失敗から学ぶ教訓(2)【内容の価値】
- 7回 情報探索【内容の深化・語彙力】
- 8回 質疑応答【内容の深化・聞き手の役割】
- 9回 責任を持って自慢する(1)【責任を伴った発信力】
- 10回 責任を持って自慢する(2)【学びと社会とのつながり】
- 11回 チュートリアル(1)【学習計画】
- 12回 チュートリアル(2)【振り返り】
- 13回 チュートリアル(3)【修正】
- 14回 チュートリアル(4)【評価】
- 15回 総括【一年間を振り返る】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...30%  
ポートフォリオ評価 ...70%(自己評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め授業範囲を予習すること、授業終了後には指示された課題を行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

日本語Ⅳと日本語Ⅴ、日本語Ⅵは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。  
日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

相手が興味を持ってくれるような自分らしいスピーチを目指します。

## キーワード /Keywords

相互評価・内容の価値・多様な視点



# 日本語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。  
日本語Ⅴでは、特に「スタディスキル」と「日本語発想力・読解力・表現力」に焦点を当てる。  
「スタディスキル」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。  
「日本語発想力・読解力・表現力」では、タスクを用いた自己発信型トレーニングにより、論理的思考力を伸ばす。

## 教科書 /Textbooks

『考える・理解する・伝える力が身につく 日本語ロジカルトレーニング 中級』(西隈俊哉、アルク) ¥2,400  
『スタディスキルズ・トレーニング 改訂版 - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版) ¥1,200

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○佐々木瑞枝他『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』The Japan Times  
○石黒圭『この1冊できちんと書ける！論文・レポートの基本』日本実業出版社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 オリエンテーション	
2回 「スタディスキル11」 アクティブラーニングをやってみよう	「ロジカルトレーニング」発想力①
3回 「スタディスキル12」 テーマからトピックを取り出そう	「ロジカルトレーニング」発想力②
4回 「スタディスキル14」 インターネットで情報を探そう	「ロジカルトレーニング」読解力①
5回 「スタディスキル15」 本を手にして読んでみよう	「ロジカルトレーニング」読解力②
6回 「スタディスキル16」 図解で考えよう	「ロジカルトレーニング」読解力③
7回 「スタディスキル17」 表・グラフを使って考えよう	「ロジカルトレーニング」読解力④
8回 「スタディスキル18」 議論の方法を知ろう	「ロジカルトレーニング」読解力⑤
9回 「スタディスキル19」 レポートの文章の特徴を知ろう	「ロジカルトレーニング」読解力⑥
10回 「スタディスキル20」 レジюмеを作成してみよう	「ロジカルトレーニング」表現力①
11回 「スタディスキル21」 レポートの基本を知ろう	「ロジカルトレーニング」表現力②
12回 「スタディスキル23」 発表の資料を作ろう (テーマ決め・準備)	「ロジカルトレーニング」表現力③
13回 「スタディスキル24」 発表をやってみよう (パソコンを使ったプレゼン・発表)	
14回 「スタディスキル24」 発表をやってみよう (パソコンを使ったプレゼン・発表と自己評価)	
15回 「スタディスキル25」 1年間の学びをふりかえろう (総括)	

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...40% 日常の授業への取り組み (発表・課題を含む) ...60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に本文を読んで予習し、目標や身につけるスキルを確認しておいてください。事後学習としては、授業や課題を通して何をどこまで身につけることができたか、何がまだ足りていないかを振り返り、どうしたら目標を達成できるか、などについて考えるようにしてください。

## 履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する場合がある。  
日本語Ⅳと日本語Ⅴと日本語Ⅵは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

個人の学びだけでなく、仲間とともに調べ、研究し、発表することでさらに豊かな学びを実感してください。

## キーワード /Keywords

論理的思考 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・リーディング スタディスキル

# 日本語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 金 元正 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIでは、学生が学び手として互いに協力し合い、課題達成に向けて取り組めるようになることを目指す。具体的には、「自己目標の明確化」を目指すために活動(1)「自己PR」を行う。そして、「能動的読解」のために活動(2)「ブック・トーク」を行い、「外部から得た情報や知識を適切に配列し、引用表現を用いて自分の意見と区別しながら書く」ことを目指すために活動(3)「ブック・レポート」を行う。

## 教科書 /Textbooks

『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション：プレゼンテーションとライティング』(大島弥生他、ひつじ書房)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○『スタディスキルズ・トレーニング：大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己PR(1)【自分を伝える】
- 3回 自己PR(2)【情報を整理する】
- 4回 自己PR(3)【スピーチの準備をする】
- 5回 自己PR(4)【スピーチをする】
- 6回 自己PR(5)【志望動機書 / 学習計画書を読みあう】
- 7回 ブック・トーク(1)【情報を探す】
- 8回 ブック・トーク(2)【情報を読んで伝える】
- 9回 ブック・トーク(3)【詳しいブック・トークをもとにアウトラインを書く】
- 10回 ブック・トーク(4)【ポスター発表を準備する】
- 11回 ブック・トーク(5)【発表する】
- 12回 ブック・レポート(1)【情報を引用しながらブック・レポートを書く】
- 13回 ブック・レポート(2)【内容を検討する】
- 14回 ブック・レポート(3)【表現や形式を点検する】
- 15回 【全体を振りかえる】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み(発表や課題を含む)...60%  
ポートフォリオ評価...40%(自己評価 20%、ピア評価 20%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に学習目標を確認し、日本語エクササイズのワークシートを使って各課に必要な日本語表現を勉強しておく。  
学習活動終了後、学習目標に基づき、どんなことができたか、できなかったかなどを振り返る。

## 履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。  
日本語IVと日本語Vと日本語VIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。  
テキストに付属する「日本語エクササイズ」は、授業外での自主学習とする。なお、2つの課題を発表する際、ビジターを交える可能性がある。  
また、ポートフォリオを作成して学習の軌跡を保存することで、自己評価に繋がります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・ラーニング 相互リソース化 批判的思考の獲得 社会的関係の構築

# 日本語VII【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語（ライフ・ジャパニーズ）」「大学生活日本語（キャンパス・ジャパニーズ）」「大学日本語（アカデミック・ジャパニーズ）」の育成を行う。

日本語VIIでは、日本語で読むことを中心とする。特に大学で必要なクリティカル・リーディング（批判的な読み）ができるようになることを目標とする。書かれたテキストに対して正確に読み取った上で、さらに複眼的な視点から検討するための思考技術を養成する。授業ではピア（仲間）活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聞くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらおう。

## 教科書 /Textbooks

『読む力（中上級）』（奥田純子監修、竹田悦子他編著 くろしお出版）¥1,900

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○『ひとりで読むことからピア・リーディングへ：日本語学習者の読解過程と対話的協働学習』（館岡洋子、東海大学出版会）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【クリティカル・リーディング、複眼思考レッスン】
- 2回 私のニュースの読み方【主張や論点、問題提起、意図】
- 3回 価値の多様性【主張や論点、問題提起、意図】
- 4回 言葉の起源をもとめて【研究動機と仮説の概要】
- 5回 経済学とは何か【分野の概要】
- 6回 思いやり【比較、対照、構造化、アナロジー】
- 7回 住まい方の思想【比較、対照、構造化、アナロジー】
- 8回 決まった道はない。ただ行き先があるのみだ【比較、対照、構造化、アナロジー】
- 9回 メディアがもたらす環境変容に関する意識調査【研究論文の概要】
- 10回 改定 介護概論【目次から読む】
- 11回 ことばの構造、文化の構造【入門書】
- 12回 観光で行きたい国はどこ
- 13回 化粧する脳【現状、展望、原因、問題点】
- 14回 クリティカル・リーディングを磨こう
- 15回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...40% 授業への取り組み（課題を含む）...60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は、事前に課題の予習をすることを前提として進めます。事後学習として、授業で身につけたスキルを使えるようになったか、自己評価をおこなってください。

## 履修上の注意 /Remarks

日本語VIIおよびVIIIは、授業内容の関連性が深いので連続して履修することが望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃からニュースや時事問題に関心を持ち、それに対する自分の意見を持っておいってください。

## キーワード /Keywords

「クリティカル・リーディング」「批判的読み」「メタ・コンテンツ」「全体把握」「言語タスク」「認知タスク」

# 日本語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 留学生 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIIIでは、日本語で書くことを中心とする。特に、論拠を基に意見を述べる「論証型レポート」を作成することを目標とする。レポートを作成しながら課題に取り組むことで、日本語表現の学習だけでなく、構想からレポートの完成に至る一連の過程を学ぶ。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

## 教科書 /Textbooks

『ピアで学ぶ大学生の日本語表現(第2版)』(大島弥生他、ひつじ書房)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『レポートの組み立て方』(木下是雄、筑摩書房)
- 『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』(二通信子他、東京大学出版会)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の目的及び必要性を知る【知る/課題の条件を確認する】
- 2回 レポートとは何かを考える【論証型レポート/根拠の大切さを知る】
- 3回 レポートのテーマを考える【構想マップ/練る】
- 4回 情報をカード化する【情報の信頼性/調べる】
- 5回 目標を仮に規定する【情報の整理/絞る】
- 6回 アウトラインを作る【序論・本論・結論】
- 7回 パラグラフライティング【中心文/説明文・指示文】
- 8回 パラグラフライティング【引用/引用文献リスト】
- 9回 文章を点検する【校正/表現の点検】
- 10回 文章を点検する【形式の点検/ピア・レスポンス】
- 11回 レポートの完成【体裁】
- 12回 発表を準備する【発表の意義・レジユメの作成】
- 13回 発表する【話し手/聴き手/司会】
- 14回 発表を踏まえてレポートを修正する【最終稿提出】
- 15回 学習プロセスを振り返る【自己評価・ピア評価】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...40% レポート・発表...40% ピア評価...20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに自己のテーマに関する参考文献の収集や精読を行っておくこと、授業終了後には指示された課題を行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

日本語VII及びVIIIは、授業内容の関連性が深いので連続して履修することが望ましい。  
日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えてほしい。

## キーワード /Keywords

論証型レポート ピア・ラーニング 論理的思考

# 日本事情 (人文) A 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

日本事情(人文)Aでは、現代日本人に通ずる伝統文化「茶道」「歌舞伎」を通して、「日本社会・日本文化・日本人とは何か」を考える。そして、文化を理解する視点を持つことで、グローバル化した現代社会の中で、時代に流されない生き方を模索する。具体的には、日本の伝統芸能である「茶道」や「歌舞伎」を主たる題材として、体験学習を行う。その過程で立ち昇る日本文化について、クラス内で議論を重ねて行く。それらの過程で一人ひとりが、改めてそれぞれの文化を見つめ直し、気づきを得ることをもう一つのねらいとする。授業では、日本語の古語があまり得意ではない受講者のために、できるだけ視覚的聴覚的に工夫を凝らすことで理解を促進する。

## 教科書 /Textbooks

毎回レジュメを配布する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『茶の湯六ヶ国語会話』(淡交社編集局、淡交社)
- 『「お茶」の学びと人間教育』(梶田勲一、淡交社)
- 『表千家茶道十二月』(千宗左、日本放送出版協会)
- 『歌舞伎入門事典』(和角仁・樋口和宏、雄山閣出版)
- 『歌舞伎登場人物事典』(古井戸秀夫、白水社)
- 『歌舞伎のびっくり満喫図鑑』(君野倫子、小学館)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【伝統文化】【現代生活】
- 2回 茶道(1)茶道の世界をのぞく【茶室】【茶道具】【わびさびの世界】
- 3回 茶道(2)茶道から歴史を学ぶ【千利休】
- 4回 茶道(3)現代に続く伝統【工芸】【作法】
- 5回 茶道(4)体験する【薄茶をいただく】
- 6回 歌舞伎(1)歌舞伎の世界をのぞく【人間国宝】【女形】【大道具】
- 7回 歌舞伎(2)歌舞伎から歴史を学ぶ【江戸の町と町民文化】
- 8回 歌舞伎(3)演じる【竹本・義太夫】【現代に残る名台詞】
- 9回 歌舞伎(4)歌舞伎を観る【仮名手本忠臣蔵大序・三段目・四段目】
- 10回 歌舞伎(5)現代のサムライ【切腹】【武士道】
- 11回 歌舞伎(6)忠臣蔵と現代社会【世界観】【義】
- 12回 歌舞伎(7)魅力【大衆性】【芸術性】
- 13回 伝統文化と現代社会(1)日本へ与えた影響【文化の伝承】【サブカルチャー】
- 14回 伝統文化と現代社会(2)外国へ与えた影響【文化の融合】【新しい文化】
- 15回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート...40% ポートフォリオ評価60%(自己評価...20% ピア評価...20% 教師評価...20%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め指定された教材を視聴しておくこと、授業終了後には指示された課題を行い、復習すること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学期の途中ではあるが、希望者を募り6月に博多座へ歌舞伎鑑賞に行く予定である。日頃から伝統的な文化(日本文化や自国文化を問わず)に興味を持っていると授業を楽しみやすいと思う。美しい所作(身のこなしや箸の持ち方、茶や菓子の頂き方)についても実践する。

## キーワード /Keywords

茶道 歌舞伎 日本文化 自文化 異文化 伝統文化 現代生活 サブカルチャー 文化の伝承

# 日本事情 ( 人文 ) B 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

言語の学習と密接な関係にある文化について考える。文化とは何か、文化を学ぶとはいったいどのようなものであるのかを考えるにあたって、3つの読み物を題材とする。これらの題材をクラス内で議論しながら、最終的には一人ひとりが自分にとっての文化「私にとって文化とは」をレポートとしてまとめていく。

## 教科書 /Textbooks

プリントを配布する

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

川上弘美 『あるようなないような』 中公文庫  
河合隼雄 「『母性』と『父性』の間をゆれる」 『国語総合』 大修館書店  
細川英雄 『日本語教育と日本事情—異文化を超える—』 明石書店

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 「境目」を読む
- 3回 「境目」について話し合う
- 4回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」を読む
- 5回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」について話し合う
- 6回 「ことばと文化を結ぶために」を読む
- 7回 「ことばと文化を結ぶために」について話し合う
- 8回 文化観を比較する
- 9回 その他の読み物を読む
- 10回 レポートの作成(1) 「私にとって文化とは何か」
- 11回 ピア・リーディング クラスメートのレポートを読んでコメントする
- 12回 レポートの作成(2) 修正する
- 13回 完成したレポートをクラス内でピア・リーディングする
- 14回 完成したレポートをクラス内でピア・リーディングし、相互評価・自己評価する
- 15回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...50% 日常の授業への取り組み(発表や課題を含む)...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は課題の予習を前提として進めます。事前に配布された読み物を読み、わからない語句については事前に調べておいてください。また、事後学習として自分自身の考えをもう一度まとめ、深めていくようにしてください。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

文化 比較 交換



# 日本事情 ( 社会 ) A 【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

「日本事情 ( 社会 )」は、実際に生活している日本社会がどのような社会であるのかを理解するための授業である。そのため、常に幅広い分野から日本を知るリテラシーを身につけることを共通の目標に据える。ここでいう日本社会とは、過去から現在に、そして未来へと続く社会を想定している。また、日本社会を知るのは、当事者個人であり、決して共通の見解を求めるものではなく、「日本社会で生活している私」「日本語を使う私」の意識化を試みる。

「日本事情 ( 社会 ) A」では、さまざまな文化的背景を持つ人々が生活する日本社会においてどのような問題や課題があるのかを知り、「多様性」「多文化共生とは何か」「多文化共生社会に向けて何をすればいいのか」について考えていく。テキストのトピックやテーマについて主体的に考え、自分自身の体験や生活の中で感じたことについて仲間と意見を交わすことで、分析能力やコミュニケーション能力の育成を図る。

## 教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- 『多文化社会で多様性を考えるワークブック』 ( 有田佳代子他編著、研究社 )
- 『異文化理解入門』 ( 原沢伊都夫、研究社 )

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション
- 2回 「異なりを考える」【異文化間ソーシャルスキル】
- 3回 「異なりを考える」【寛容性】
- 4回 「異なりを考える」【アサーション・トレーニング】
- 5回 「異なりを考える」【「日本人」・「外国人」】
- 6回 「差別とその感情を考える」【マイクロ・アグレッション】
- 7回 「差別とその感情を考える」【マイノリティとマジョリティ】【ユニバーサルデザイン】
- 8回 「差別とその感情を考える」【自分の家の近くはだめ?】
- 10回 「差別とその感情を考える」【ステレオタイプ】
- 11回 「言語間の平等を考える」【国境を超える子どもの言語獲得】【やさしい日本語】
- 12回 「多文化共生社会」について考える【私の考える「多文化共生」とは】
- 13回 「多文化共生社会」について考える【「多文化共生」実現のために】
- 14回 「多文化共生社会」について考える【「多文化共生」実践】
- 15回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表...50% 授業への取り組み ( 課題や授業中の発表を含む ) ...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にトピックについての情報を調べ、自分の考えをまとめてきてください。事後学習では、クラスメートの考えや新しい情報を知った上で、もう一度自分の考えをまとめ直すようにしてください。

## 履修上の注意 /Remarks

外国人留学生対象の授業ですが、言語能力としての「読む」「書く」「話す」「聞く」に高い日本語能力が求められます。必ず初回のオリエンテーションには参加してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃から身の回りの問題や社会に関心を持ち、それに対する自分の考えを持っておいください。

## キーワード /Keywords

多文化共生 多文化社会 多様性

# 日本事情 ( 社会 ) B 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

「日本事情(社会)」は、実際に生活している日本社会がどのような社会であるのかを理解するための授業である。そのため、常に幅広い分野から日本を知るリテラシーを身につけることを共通の目標に据える。

ここでいう日本社会とは、過去から現在に、そして未来へと続く社会を想定している。また、日本社会を知るのは、当事者個々人であり、決して共通の理解を求めるものではなく、「日本で生活している私」「日本語を使う私」の意識化を試みる。

授業では、在日外国人、特に留学生を対象とした研究論文や調査研究を読み進め、単に知識を得るだけでなく、自分自身の過去及び現在を理解し、未来を描くことに繋がられるように、クリティカル・リーディングを行う。そして、留学生や元留学生にまつわる言説を分析し、自分の人生を自分で切り拓けるようになることを目指す。

## 教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- 岡益巳・深田博己『中国人留学生と日本』白帝社
- 坪谷美欧子『「永続的ソジヨナー」中国人のアイデンティティ-中国からの日本留学にみる国際移民システム』有信堂
- 葛文綺『中国人留学生・研修生の異文化適応』溪水社
- 吉沅洪『日中比較による異文化適応の実際』溪水社
- 榎本博明(2002)『<ほんとうの自分>のつくり方-自己物語の心理学』講談社現代新書
- 高松里(2015)『ライフストーリー・レビュー入門』創元社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業オリエンテーション
- 第2回 「研究論文を読む」「調査報告を読む」とは：クリティカル・リーディングの復習
- 第3回 クリティカル・リーディングの実践：研究論文を読む
- 第4回 留学生や元留学生にまつわる言説(1)日本社会の中の外国人という視点から
- 第5回 言説の考察(1)
- 第6回 留学生や元留学生にまつわる言説(2)留学の意義と留学に対する評価の視点から
- 第7回 言説の考察(2)
- 第8回 自己物語とアイデンティティ
- 第9回 自己物語を書こう(1)自己物語の実際
- 第10回 自己物語を書こう(2)自己物語の書き方
- 第11回 自己物語を読もう(1)論理実証モードと物語モード
- 第12回 自己物語を読もう(2)共感から共鳴へ
- 第13回 自己物語を語り直そう
- 第14回 留学生のキャリア発達
- 第15回 「ほんとうの自分」のつくり方

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...30% 課題...30% レポート40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前半は、研究論文、エッセイをリソースとした学習を行うため、予習タスクをします。  
事後学習では、各研究論文、エッセイでの学習を統合するための作業をします。

## 履修上の注意 /Remarks

外国人留学生対象の授業ではあるが、言語技能としての「読む」「書く」「話す」「聞く」に高い日本語能力が求められ、かつ、情報リテラシーや批判的思考力に基づく理論構築を目指していくので、初回のオリエンテーションに必ず参加して、履修するかどうかを判断しよう。  
授業は課題に対する予習を前提として進めます。また、ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋がります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

皆さん一人一人の日本での経験を活かしながら、「日本社会」を学びたいと思います。



## キーワード /Keywords

言説 留学生のキャリア発達 自己物語

# ゼミ A 1 【昼】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			◎	◎	○
科目名	ゼミ A 1		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
 思考・判断・表現力: ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べるができる。  
 コミュニケーション力: ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。  
 自律的行動力: 専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

This seminar will enable students to examine their own interests and experiences in crossing cultures. We will explore, strengthen and deepen our skills in communication and collaboration. We will have weekly discussions based on readings by writers and scholars from a wide variety of countries and cultures. The improvement of analytical, comprehension, discussion, and writing skills in English are a major goal. The first semester of this seminar will focus on basic theories of communication and culture.

## 教科書 /Textbooks

Printed materials and handouts to be provided by the instructor.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

In consultation with instructor.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Instructor-led discussions on differences in culture.
- 3回 Workshop and discussion on differences in culture.
- 4回 Instructor-led discussions on differences in communication.
- 5回 Workshop and discussion on differences in communication.
- 6回 Workshop on individual materials for analysis and presentation. 7回 Student presentation A.
- 8回 Student-led discussion and presentation A.
- 9回 Student presentations B.
- 10回 Student-led discussion and presentation B.
- 11回 Student presentations C.
- 12回 Student-led discussion and presentation C.
- 13回 Student presentations D.
- 14回 Student-led discussion and presentation D.
- 15回 Final discussion and paper submission.

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Participation, & Presentations 50% Successful Completion of Paper 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should prepare for class by reading all assigned materials before class meetings.  
 After meetings, students should review discussed topics and apply this to their research topics. Students should continue to read materials and pursue research tasks in relation to their own topics.

## 履修上の注意 /Remarks

Our meetings will consist of presentations followed by group discussion. While students will be given the freedom to choose materials, they are expected to follow the basic parameters of this seminar. Students can translate materials from Japanese to English but presentations must be in English. All meetings and discussions will be conducted in English.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Students will be expected to submit their individual analysis of presented materials in essay format each semester. Each paper should be approximately 2000 words in English.

## キーワード /Keywords

# ゼミ A 1 【昼】

担当者名 /Instructor: フィオナ・クリーサー / Fiona Creaser / 英米学科

履修年次 /Year: 3年次  
単位 /Credits: 2単位  
学期 /Semester: 1学期  
授業形態 /Class Format: 演習  
クラス /Class: 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			◎	◎	○
科目名	ゼミ A 1		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
 思考・判断・表現力: ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べるができる。  
 コミュニケーション力: ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。  
 自律的行動力: 専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

This seminar focuses on the concept of gender. What does gender mean? Is gender confined to the binary idea of men and women or is it more fluid and flexible?  
 In this semester we will explore the fundamental key ideas of the meaning of gender through exploration of gender in our everyday lives. We will also look at how gender is influenced by the media, focusing on representations of gender in music and film.  
 Each topic will be covered over two or three weeks and students will be expected to actively participate in discussions about gender as well as read materials handed out in advance and write short essays and present as and when required.

## 教科書 /Textbooks

There is no specific textbook for this course. Materials will be provided by the instructor.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Specific references will be provided by the instructor but it is always a good idea to browse the library for gender related materials.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 An Introduction to the Seminar
- 2回 What is gender?
- 3回 What does gender fluid mean?
- 4回 Gender and Film I: Action Heroes (Ironman, Superman, Batman)
- 5回 Gender and Film II: Action Heroes (Wonder Woman, Cat Woman, Katniss Everdeen)
- 6回 Gender and Film III: The Romcom (Bridget Jones)
- 7回 Gender and Film IV: The Disney Princess
- 8回 Gender and Film V: The Disney Prince
- 9回 Gender and the Music Industry I: J-pop
- 10回 Gender and the Music Industry II: K-pop
- 11回 Gender and the Music Industry III: Europe
- 12回 Gender and the Music Industry IV: America
- 13回 Rethinking Gender
- 14回 Discussion and Review
- 15回 Presentations

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- Assignment I: Gender and Film 25%
- Assignment II: Gender and the Music Industry 25%
- Assignment III: Rethinking Gender 25%
- Presentations 25%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please come to class fully prepared by reading the relevant materials for each session.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# ゼミ A 1 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			◎	◎	○
科目名	ゼミ A 1		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

通訳ゼミは、通訳者になるために不可欠な語学面のトレーニングはもとより、通訳者に必要な教養や知識を得ることも目標としています。通訳をするために表現力を磨くことが大切なのは言うまでもありませんが、それだけでなく、相手の論理展開について行ける訓練も必要です。その意味では、表現力だけでなく思考力を磨くこともとても大切です。

また、通訳をするためには、そこで語られていることを理解できていなければなりません。野球のルールを知らない人が、野球の実況中継を相手に分かるように通訳できるでしょうか。

こうしたことを踏まえ、このゼミでは実践と理論をともに柱に据え、皆さんとともに高度な英語力を獲得し、同時に英語を通して幅広い知識を習得していただけるゼミにしていきたいと思っています。こうした訓練は、通訳を目指す人にとって有益なだけでなく、英語を用いてコミュニケーション活動を行なっていこうとするときに必ず役立つはずで

本年度の「ゼミA-1」では、リスニング力を磨くことを第一の課題として取り組み、あわせて総合的な英語力のブラッシュアップを図ります。もちろん通訳の練習もしっかり行ないますが、まずはその基礎となる英語力をブラッシュアップすることから始めたいと思います。これを通して背景知識を増やしていくことも目指しています。また、日本語によるラジオ番組を英語に通訳する練習などを通して日英通訳の訓練をする時間も取っていききたいと思います。

- 【この授業の到達目標として、以下の内容を考えています。】
- ①思考・判断・表現力：グローバルな視点から社会の諸相を分析し、考えを述べるができる。
  - ②コミュニケーション力：ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。
  - ③自立的行動力：専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

## 教科書 /Textbooks

『American Vibes』（金星堂）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

年4回刊行される雑誌『通訳翻訳ジャーナル』（イカロス出版）、また、向 謙治郎、丸山 祥夫（著）『中学英語で通訳ができる』（ジャパントイムズ）などは参考になると思います。その他、必要に応じて授業の中で紹介することがあります。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 ゼミ・オリエンテーション
  - 第02回 Lesson 1に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
  - 第03回 Lesson 2に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
  - 第04回 Lesson 3に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
  - 第05回 Lesson 4に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
  - 第06回 Lesson 5に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
  - 第07回 Lesson 6に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
  - 第08回 Lesson 7に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
  - 第09回 Lesson 8に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
  - 第10回 Lesson 9に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
  - 第11回 Lesson 10に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
  - 第12回 Lesson 11に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
  - 第13回 Lesson 12に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
  - 第14回 Lesson 13に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
  - 第15回 Lesson 14に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
- ※Lesson 15の音源および自習用教材を別途Moodle上にアップロードします。夏休み中に練習してください。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

演習科目ですから、出席は当然です。その上で授業への積極的参加の度合いに実技を加味して総合的に評価します。  
実技・プレゼンテーション100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Moodleを併用し、通常の練習メニューの提供や、予習箇所の指示を行いません。また、演習科目の常として、復習や振り返りをじゅうぶんになさってください。

## 履修上の注意 /Remarks

通訳を主体として取り上げるゼミではありますが、上記のように、今学期の主眼は通訳実技を行なっていくのに必要な英語力を身につけてもらうという狙いもあります。ゼミに出席するだけで英語力が向上するわけではありません。平素から英語を聴きながらシャドーイングの練習をするなどの地道な練習が大切だと思います。  
来学期はTED Talksを素材として取り入れたテキストを用いて実践的な通訳練習を展開していきます。よかったら、今のうちからTED Talksのウェブサイトで自分に興味がある話題を扱ったプレゼンテーションを聴いてみたりしませんか。さまざまなトピック、さまざまな癖のある英語に触れることができるので、お勧めです。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

いよいよゼミが始まります。楽しいゼミになるよう努力します。皆さんも頑張ってください。

## キーワード /Keywords

通訳基礎トレーニング、英語力強化

# ゼミ A 1 【昼】

担当者名 /Instructor 鮫島 千明 / Chiaki Sameshima / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			◎	◎	○
科目名	ゼミ A 1		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
 思考・判断・表現力：ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べるができる。  
 コミュニケーション力：ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。  
 自立的行動力：専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

当ゼミでは、英語から日本語への翻訳を行う。この授業の目的は、翻訳を通して英語力の向上を目指し、英文テキストが書かれた社会背景の十分な理解を得ることにある。翻訳対象となる作品は、英語で書かれた文学作品・映画の字幕等である。ゼミの進め方は、発表討論形式とする。始めに翻訳対象を決め、こちらで決めたペースで翻訳を進める。学期初日に決定したスケジュールにそって、それぞれ進捗状況、訳出難解箇所、訳註必要箇所を発表し、ゼミ生全員で検討する。担当の学生は発表の2日前までに資料を用意する。事前に他の学生に読んでもらいたい資料がある場合は、前の週までに用意・指示しておく。

## 教科書 /Textbooks

特に定めない。適宜プリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

ゼミの時間では、各自課題の報告をする。毎回、決められた範囲の翻訳原稿を持ってくること。授業内で問題点を指摘し、読むべき文献を適宜指導する。

※ 翻訳対象は学生との話し合いにより決定するので、この計画は変更になることがある。

- 1回 イントロダクション
- 2回 選定した翻訳テキスト【音楽1】
- 3回 選定した翻訳テキスト【音楽2】
- 4回 選定した翻訳テキスト【映画1】
- 5回 選定した翻訳テキスト【映画2】
- 6回 ディスカッション1
- 7回 選定した翻訳テキスト【劇1】
- 8回 選定した翻訳テキスト【劇2】
- 9回 選定した翻訳テキスト【小説1】
- 10回 選定した翻訳テキスト【小説2】
- 11回 ディスカッション2
- 12回 選定した翻訳テキスト【詩1】
- 13回 選定した翻訳テキスト【詩2】
- 14回 ディスカッション3
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題 60%  
 ディスカッションへの積極的参加 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回指定された箇所を予習してください。



履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# ゼミ A 1 【昼】

担当者名 /Instructor                      ローズマリー・リーダー / Rosemary Reader / 英米学科

履修年次 3年次                      単位 2単位                      学期 1学期                      授業形態 演習                      クラス 3年  
/Year                      /Credits                      /Semester                      /Class Format                      /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			◎	◎	○
科目名	ゼミ A 1		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
 思考・判断・表現力：ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べることができる。  
 コミュニケーション力：ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べることができる。  
 自立的行動力：専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

This seminar focuses on Japanese to English translation. Students will have the opportunity to translate in a number of different mediums with the source text being one of their own choosing. Additionally, students will translate together as a group to help practice the sharing of ideas. Working together and working on translations that they enjoy will help students grow both in terms of practical translation ability as well as understanding of the issues underlying translation.

## 教科書 /Textbooks

None.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Discussed in class when appropriate.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction
- 第2回 Student focused session (1)
- 第3回 Student focused session (2)
- 第4回 Student focused session (3)
- 第5回 Student focused session (4)
- 第6回 Student focused session (5)
- 第7回 Student focused session (6)
- 第8回 Student focused session (7)
- 第9回 Student focused session (8)
- 第10回 Student focused session (9)
- 第11回 Student focused session (10)
- 第12回 Student focused session (11)
- 第13回 Student focused session (12)
- 第14回 Student focused session (13)
- 第15回 Concluding session

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Participation 20%  
In-class work 30%  
Report 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Directions to be provided in class.

## 履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# ゼミ A 1 【昼】

担当者名 /Instructor アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科

履修年次 /Year 3年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			◎	◎	○
科目名	ゼミ A 1		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

British Studies: Media and Culture

DP に基づく 3 つの到達目標

思考・判断・表現力: ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べるができる。  
コミュニケーション力: ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。  
自立的行動力: 専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

ゼミ A I offers students the opportunity to analyse the media of Britain and assess their relationship with the nation's social, political and cultural activities. The course will embrace analyses of media and culture from the very beginnings of Britain through to the present day. Students will be required to lead English-language discussions and make presentations on topics to be chosen by themselves.

## 教科書 /Textbooks

Handouts/research materials will be provided by the instructor.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

A reading list will be provided at the beginning of the course.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Identifying a Research Topic
- 3回 The Uses of Theory
- 4回 Example Presentation: Performing Hamlet
- 5回 Student-led class (presentation and discussion) + Analysing Film: The Opening Sequence
- 6回 Student-led class (presentation and discussion) + Analysing Film: Semiology
- 7回 Student-led class (presentation and discussion) + Analysing Film: Presenting Gender
- 8回 Student-led class (presentation and discussion) + Analysing Theatre: The Empty Space
- 9回 Student-led class (presentation and discussion) + Analysing Theatre: Introducing Pleasure
- 10回 Student-led class (presentation and discussion) + Analysing Theatre: Metatheatre
- 11回 Student-led class (presentation and discussion) + Essay Writing Skills: Logical Structuring
- 12回 Student-led class (presentation and discussion) + Essay Writing Skills: Referencing
- 13回 Student-led class (presentation and discussion) + Essay Writing Skills: Objectivity
- 14回 Student-led class (presentation and discussion) + Academic Presentation Skills
- 15回 Review and Final Discussion

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Successful completion of 1500-word essay ... 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

From Session 5 to Session 14 students will be expected to prepare questions and comments to be used in post-presentation discussions.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# ゼミ A 1 【昼】

担当者名 /Instructor アーノルド・ウエイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 3年  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			◎	◎	○
科目名	ゼミ A 1		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく 3 つの到達目標  
 思考・判断・表現力: ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べるができる。  
 コミュニケーション力: ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。  
 自立的行動力: 専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

We will explore New York City as a cultural epicenter. Materials used will integrate three specific approaches to examining the modern city, specifically: social issues, urban environments, and national identity. The course will be comprised of readings from various texts relating to social issues in New York City; we will also use TED Talks on cultural and social transformations taking place in New York City. Additionally, students will examine various cultural differences between New York City and cities in Japan. The end goal of this class is to help broaden your world perspective and understanding of cosmopolitan life and the American dream by strengthening your ability to discuss various social topics. In doing these tasks, you will learn strategies for listening to others' opinions in order to better formulate your own argument.

In this course, students will:

- Actively engage in the class discussions
- Develop educated opinions on topics and defend your position
- Explore academic discourse on a specific topic and examine what “counts” as evidence in academic presentations
- Integrate outside sources to support your point of view

Major requirements:

- Active class participation, including group work
- Speaking only in English during class period
- Homework assignments (reading assignments and summaries; TED Talk summaries)
- Two in-class poster presentations
- One major research essay (and final presentation)

## 教科書 /Textbooks

No textbook will be required. I will provide you with a photocopied selection of essays that you are expected to read for each class. Each class will discuss a different theme of urban life within New York City.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

You will need to access the library webpage (on campus) and use the JSTOR and Ebscohost databases.

## ゼミ A 1 【昼】

### 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Class 1: Introduction and getting to know your classmates  
 Class 2: New York City: Building higher: What does it mean to be on an island?;  
 Class 3: New York City: Jacob Riis: How the Other Half Lives;  
 Class 4: New York City: Spaces in the Big Apple;  
 Class 5: New York City: Changes in the City;  
 Class 6: New York City: Burying the Unknown in NYC;  
 Class 7: New York City: Homelessness in the City;  
 Class 8: New York City: The Streets of New York;  
 Class 9: New York City: Safety in the city;  
 Class 10: New York City: Humans of New York: Stories;  
 Class 11: New York City: Hustling and Crime in the City;  
 Class 12: New York City: Art in the Big City;  
 Class 13: New York City: Ethnic Identity;  
 Class 14: New York City: Rebuilding communities;  
 Class 15: Final paper presentations and final discussion.

### 成績評価の方法 /Assessment Method

One major research essay: 30%  
 2 Presentations on a specific topic: 20%  
 5 Reading summaries: 15%  
 In-class participation: 20%  
 Homework Assignments (TED Talks and Socratic seminar): 15%

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please do NOT miss the first class.

You will be required to read all homework assignments before coming to class.

### 履修上の注意 /Remarks

Participation is a major portion of your grade; you should attend all classes and actively engage in discussion. For our class, it is important that you come to class prepared and ready to discuss your opinions—your opinions are important!

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

The course objectives will include some of the following elements:

- Note-taking.
- Absorb information from audio and be able to listen for key vocabulary.
- Participate in class discussions by asking and responding to questions.
- Give effective oral presentations.
- Express their own ideas about differing value systems around the world and how these differ from Japanese society.
- Increase and diversify vocabulary usage.
- Read a literary work for a thematic meaning.
- Read secondary sources and material and be able to incorporate the themes into research essays.
- Avoid plagiarism and use MLA documentation outlines.

### キーワード /Keywords

New York City  
 Urbanism  
 Urban Culture

# ゼミ A 1 【昼】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			◎	◎	○
科目名	ゼミ A 1		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
 技能：高度な英語運用力を身につけ、翻訳する力を身につけている。  
 思考・判断・表現力：正しく英語を理解し、映像を活かして訳文の可能性を探求することができる。  
 コミュニケーション力：異文化間コミュニケーションを積極的に進める姿勢を有している。

当ゼミでは「イギリス・アイルランドの文化、社会」を研究対象とする。研究対象にはミルトン、ワーズワース、ディケンズ、イェイツ、ロレンスなど本格的なイギリス・アイルランド文学の作家やマザーグース（イギリス伝承童謡）、アイルランド民話、『ピーター・ラビット』や『くまのプーさん』のような児童文学、あるいは、イギリスではなくてもアイルランド、オーストラリアなどのアメリカを除く旧イギリス植民地も対象となることがある。ロックやファッションといったサブカルチャーを扱うこともあるが、常に個々の現象の背後にある文化、社会、歴史を深く掘り下げることを心がけたい。ゼミは木原研究室(E1111)で行う。ゼミの進め方はすべて発表討論形式。発表は英語で行い、ディスカッションも英語を原則とするが、内容が複雑になってくると日本語に切り替えて話を進める。まず、自分の研究テーマを決め、各自インターネットの文献検索を利用したり図書館に足を運んだりして資料を集め研究を進める。およそ1ヶ月に一回くらいの割合で自分の研究成果を発表する。前もって資料を用意し、ゼミの他のメンバーに読んでもらう。当日発表に続いてディスカッションをする。

## 教科書 /Textbooks

特に定めない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 プレゼンテーションとディスカッション ( 導入 1 )
- 第2回 プレゼンテーションとディスカッション ( 導入 2 )
- 第3回 プレゼンテーションとディスカッション ( 基礎 1 )
- 第4回 プレゼンテーションとディスカッション ( 基礎 2 )
- 第5回 プレゼンテーションとディスカッション ( 基礎 3 )
- 第6回 プレゼンテーションとディスカッション ( 基礎 4 )
- 第7回 プレゼンテーションとディスカッション ( 展開 1 )
- 第8回 プレゼンテーションとディスカッション ( 展開 2 )
- 第9回 プレゼンテーションとディスカッション ( 展開 3 )
- 第10回 プレゼンテーションとディスカッション ( 展開 4 )
- 第11回 プレゼンテーションとディスカッション ( 発展 1 )
- 第12回 プレゼンテーションとディスカッション ( 発展 2 )
- 第13回 プレゼンテーションとディスカッション ( 発展 3 )
- 第14回 プレゼンテーションとディスカッション ( 発展 4 )
- 第15回 プレゼンテーションとディスカッション ( まとめ )

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 30%、発表 40%、ディスカッションへの参加 30%



## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

### 事前

発表担当者は、これまでの研究をさらにすすめてプレゼンを準備する。その他の学生は、その日に読んでおくべき資料に目を通し、自分の見解を用意しておくこと。

### 事後

各回の演習のディスカッション内容、得られた結論をまとめる。

## 履修上の注意 /Remarks

担当の学生は、他の学生に読んできて欲しい文献や資料を遅くとも前の週までに指示する。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミでは受け身で学ぶのではなく、自分で考えたテーマを自分で掘り下げ、独自の考えを展開する能力を身につけて欲しい。

## キーワード /Keywords

文化、文学、芸術、メディア、社会、経済、ジェンダー、セクシュアリティ、暴力、植民地主義、資本主義、大英帝国、階級、労働者、移民

# ゼミ A 1 【昼】

担当者名 /Instructor ジェニファー・ラーソンホール / Jenifer Larson-Hall / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			◎	◎	○
科目名	ゼミ A 1		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
 思考・判断・表現力: ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べるができる。  
 コミュニケーション力: ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。  
 自立的行動力: 専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

What the heck?! In this zemi we will look at how people learn languages, with a special focus on vocabulary. In the first semester we will focus on looking at students' current vocabulary levels, learning how to learn vocabulary and a language in general, and beginning a collection of slang and course words.

## 教科書 /Textbooks

No textbook needed. Students will receive readings to do.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Folse, Keith S. (2004) Vocabulary Myths: Applying second language research to classroom teaching. Ann Arbor: University of Michigan Press.  
 Nation, I.S.P. (2013) Learning Vocabulary in another language (Second edition). Cambridge University Press.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1: Introduction; Vocabulary level tests
- Week 2: What is slang? What is cursing? An introduction.
- Week 3: Beginning vocabulary word list studies; Spaced repetition
- Week 4: Resources for slang words; Videos you can't understand
- Week 5: Cursing: The 4-letter words in English; cursing substitutes
- Week 6: Video: slang; Vocabulary vs. grammar (VMChp1)
- Week 7: Video: cursing; Semantic sets (VMChp3)
- Week 8: Student presentations; Video: slang; Translations (VMChp4)
- Week 9: Student presentations; Video: cursing; Why Anki? Considering vocabulary learning apps
- Week 10: Student presentations; Guessing words from context (VMChp5)
- Week 11: Student presentations; Covering vocabulary (VMChp8)
- Week 12: Student presentations; Counting words and how many do you need to know? (Nation, 2006, How large?)
- Week 13: Student presentations; How many do we know? (Brysaert, Stevens et al. 2016)
- Week 14: How many do we know? (Brysaert, Stevens et al. 2016)
- Week 15: Student presentations; When do you 'know' a word?

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Participation10%  
Video watching grade30%  
Presentation grade20%  
2 presentations (10% each)  
Anki grade30%  
6 submissions during the semester  
Final summary paper10%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Prepare for class by watching at least 30 minutes of videos every week for homework and reporting back on your watching during class. Keep notes on class and at the end of the semester I will ask you to write a final summary paper (3 pages) talking about the issues we have discussed during the semester and applying them toward your learning of vocabulary during the semester.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Your efforts will guide what we explore in this class, so choose things you enjoy!

## キーワード /Keywords

zemi, vocabulary, language learning, swear words, slang

# ゼミ A 1 【昼】

担当者名 /Instructor 雪丸 尚美 / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			◎	◎	○
科目名	ゼミ A 1		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

本ゼミでは、言語学と言語教育の有機的な関係に着目して、外国語（英語）教育の基本的な課題について理解を深め、基礎的な知識を得ることを目標とする。具体的には、外国語習得論、外国語学習者論、外国語指導法、外国語学習評価について英文の教科書や研究論文を読み、それらの内容について理解を深めるとともに教育実践への示唆を考察する。また、次回の授業内容を中心に、毎週自習を行うことが必要である。自習内容については毎回授業中に指示するので、指示に従って授業の予習・復習を行うようにしたい。

DP (Diploma Policy) に基づく 3 つの到達目標  
 思考・判断・表現力: ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べるができる。  
 コミュニケーション力: ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。  
 自立的行動力: 専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

## 教科書 /Textbooks

初回授業時に知らせる。第二言語習得に関する洋書を予定している。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 授業計画は以下のとおりであるが、履修者の理解や関心に応じて内容を調整する。
1. ガイダンス
  2. 言語教育学の研究
  3. 外国語習得論 (概説)
  4. 外国語習得論 (発表)
  5. 外国語習得論 (発表及びまとめ)
  6. 外国語学習者論 (概説)
  7. 外国語学習者論 (発表)
  8. 外国語学習者論 (発表及びまとめ)
  9. 外国語指導法 (概説)
  10. 外国語指導法 (発表)
  11. 外国語指導法 (発表及びまとめ)
  12. 外国語学習評価 (概説)
  13. 外国語学習評価 (発表)
  14. 外国語学習評価 (発表及びまとめ)
  15. 言語教育学の課題

## 成績評価の方法 /Assessment Method

成績は ( 1 ) 授業参加に対する積極性 ( 発言や質問など ) 20%、( 2 ) レジュメの作成・提出および発表40%、( 3 ) 期末レポート40%によって評価する。レジュメの作成方法やレポートの形式は、授業中に説明する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- <事前学習> 次回の授業で使用する教科書の範囲や論文を読み、発表や議論の準備をする。1時間～1時間半程度必要。
- <事後学習> 指定の関連文献を読む。

## ゼミ A 1 【昼】

### 履修上の注意 /Remarks

発表担当者は、発表前にレジユメの提出と自主練習を行ってください。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回の講義では、発表のみならず、発表内容に関する議論を行います。そのため、授業時間外での（相当の）準備が必要となります。卒業後に英語教育に関わる意欲のある学生をはじめ、英語教育に関心がある人の参加を期待します。また、やむを得ない場合を除き、無断欠席は受講放棄とみなします。

### キーワード /Keywords

# ゼミ A 1 【昼】

担当者名 /Instructor 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			◎	◎	○
科目名	ゼミ A 1		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

本ゼミでは言語と社会の係わりを様々な視点から考え、社会言語学研究に必要な基本的概念や理論を理解することを目的とします。AIでは言葉の変化とバリエーションを扱う代表的な研究を紹介・解説し、変化や変異を引き起こす社会的要因や言語的要因を学びます。また言語調査を行うために必要な方法論の基礎知識を学びます。

(到達目標)

- 【思考・判断・表現力】ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べるができる。
- 【コミュニケーション力】ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。
- 【自立的行動力】専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

## 教科書 /Textbooks

○ Miriam Meyerhoff, Erik Schlee and Laurel MacKenzie. (2015) Doing Sociolinguistics: A practical guide to data collection and analysis. Routledge.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業時に紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 社会言語学とは
- 3回 言葉のバリエーション：階級
- 4回 インフォーマントの選定 / 自然談話録音
- 5回 言葉のバリエーション：年齢
- 6回 アンケート / 会話書き起こし
- 7回 言葉のバリエーション：コミュニティオブプラクティス
- 8回 データの整理・コーディング・集計
- 9回 言葉のバリエーション：スタイル
- 10回 フィールドワーク (1) 準備
- 11回 フィールドワーク (2) 実施
- 12回 フィールドワーク (3) データ分析
- 13回 ディスカッション
- 14回 データ分析結果発表
- 15回 ゼミレポートの書き方；まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表・平常の学習状況...70%、レポート...30%。  
欠席・遅刻はマイナス評価。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲を予習・復習して下さい。

## 履修上の注意 /Remarks

出席・参加を重視します。3分の2以上の出席が必要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# ゼミ A 1 【昼】

担当者名 /Instructor 寺田 真一郎 / Shinichiro Terada / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			◎	◎	○
科目名	ゼミ A 1		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
 思考・判断・表現力：ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べるができる。  
 コミュニケーション力：ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。  
 自立的行動力：専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

本ゼミナールは、インターネットに代表されるビジネスエコシステムを研究するものです。  
 ゼミナールでは経営学全般を扱うため、研究テーマはビジネスに関することなら自由に決めることができます。

3年次においては、ビジネスを英語で理解すること、実際のビジネス動向を把握することを中心に活動を行います。  
 ゼミ内での発表は、出来るだけ多く行いたいと考えています。

英語能力の向上、企業訪問、リサーチ手法の習得などについては、担当者を決め協力しあうことにより、目標を達成することを目指します。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しません。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

ゼミの中で、資料を紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 introduction
  - 第2回 記事・ビデオ /経営理論/ケーススタディ
  - 第3回 記事・ビデオ /経営理論/ケーススタディ
  - 第4回 記事・ビデオ /経営理論/ケーススタディ
  - 第5回 記事・ビデオ /経営理論/ケーススタディ
  - 第6回 記事・ビデオ /経営理論/ケーススタディ
  - 第7回 記事・ビデオ /経営理論/ケーススタディ
  - 第8回 記事・ビデオ /経営理論/ケーススタディ
  - 第9回 記事・ビデオ /経営理論/ケーススタディ
  - 第10回 記事・ビデオ /経営理論/ケーススタディ
  - 第11回 記事・ビデオ /経営理論/ケーススタディ
  - 第12回 記事・ビデオ /経営理論/ケーススタディ
  - 第13回 記事・ビデオ /経営理論/ケーススタディ
  - 第14回 発表
  - 第15回 発表
- ( 適宜、スケジュール・内容を変更します )



# ゼミ A 1 【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ゼミへの貢献(発言、作業) - 50%
- ・発表・レポート - 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習:発表・活動などの、準備をします。  
事後学習:学期末に発表またはレポート提出を行います。

## 履修上の注意 /Remarks

事前に経営学の知識が無くても問題ありません。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく進めましょう。

## キーワード /Keywords

経営学、ビジネス、イノベーション、インターネット、リサーチ

# ゼミ A 1 【昼】

担当者名 /Instructor 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			◎	◎	○
科目名	ゼミ A 1		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

アメリカ合衆国の多文化状況を垣間見ることができる文学作品や映像作品を中心に扱う。アメリカ社会に共存する様々な声に耳を傾け、民族、人種、性、言語、宗教、思想など多様な文化的背景を持つ個人や集団が共存する社会と、その社会における文化的アイデンティティの在り方について理解を深めることを目指す。文学作品や映像作品以外の題材についてもゼミ生からの積極的な提案を歓迎する。必要に応じてアメリカ合衆国以外の地域に関わる作品も導入する。授業は発表討論形式で進める。

DP (Diploma Policy) に基づく到達目標

- 《思考・判断・表現力》ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べることができる。
- 《コミュニケーション力》ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。
- 《自立的行動力》専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

## 教科書 /Textbooks

授業内で指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- Dolores laGuardia and Hans P. Guth. American Visions. Mayfield Publishing Co., 1995.
- ニール・キャンベル、アラスティア・キーン『アメリカン・カルチュラル・スタディーズ』
- アーニャ・ルーンバ『ポストコロナ理論入門』
- その他、適宜、授業内で指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション ( 授業の概要、成績評価方法などの説明 )
- 第2回 New World (1)
- 第3回 New Nation (1)
- 第4回 New Nation (2)
- 第5回 Native Americans (1)
- 第6回 Native Americans (2)
- 第7回 Native Americans (3)
- 第8回 American Individualism
- 第9回 Beyond Optimism
- 第10回 Black Identity (1)
- 第11回 Black Identity (2)
- 第12回 Black Identity (3)
- 第13回 Workshop (1): 学生による研究発表
- 第14回 Workshop (2): 学生による研究発表
- 第15回 Workshop (3): 学生による研究発表

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- 平常の授業における活動・小テスト ... 50%
- 発表 ... 30%
- レポート ... 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備すること。
- 授業終了後には授業の内容を反復し課題等に取り組むこと。

## 履修上の注意 /Remarks

自分が議題を提案する際には少なくとも2週間前の授業までに資料を用意し、他の受講者に周知・配布すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各回で扱う作品は必ず予習した上で授業にのぞみ、議論に積極的に参加してください。

## キーワード /Keywords

文化的多様性、文化的アイデンティティ、移住植民地

# ゼミ A 1 【昼】

担当者名 /Instructor                      ロドルフォ デルガド / Rodolfo Delgado / 英米学科

履修年次 3年次                      単位 2単位                      学期 1学期                      授業形態 演習                      クラス 3年  
/Year                      /Credits                      /Semester                      /Class Format                      /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			◎	◎	○
科目名	ゼミ A 1		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく 3 つの到達目標  
ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べるができる。  
ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。  
専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

The general course objective is to give students the opportunity to develop knowledge of the Tourism Industry.  
The specific objectives of the course are:  
-Students will be able to learn the language and specialized terminology required in the Tourism Industry.  
-Acquire professional skills required in the service industry.  
-Analyze Case Studies.  
-Discuss innovating trends

## 教科書 /Textbooks

Tourism: Principles and Practice (English Edition) 6th Edition, Kindle Edition  
Authors: John Fletcher, Alan Fyall, David Gilbert and Stephen Wanhill  
Publisher: Pearson  
Year: November 2017  
Kindle (Digital Version) available at Amazon.co.jp. Price: ¥ 5,388  
\*It is recommended that students buy the Kindle (Digital Version) of the textbook because the hard copy takes a long time to be delivered. This textbook will also be used for Introduction of Tourism Management, Tourism Policy I and II.  
This course will cover only part 4 of the textbook.  
(Introduction to Tourism will cover part 1; Tourism Policy I will cover part 2; Tourism Policy II, will cover part 3).

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

References will be recommended.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1- Managing Marketing for Tourism.
- 2- Managing Marketing for Tourism.
- 3- Managing Marketing for Tourism.
- 4- Managing Marketing for Tourism.
- 5- Marketing Planning.
- 6- Marketing Planning.
- 7- Marketing Planning.
- 8- Marketing Mix Applications.
- 9- Marketing Mix Applications.
- 10- Marketing Mix Applications.
- 11- Marketing Mix Applications.
- 12- Information Technology in Tourism.
- 13- Information Technology in Tourism.
- 14- Information Technology in Tourism.
- 15- Presentation of Final Paper.

## 成績評価の方法 /Assessment Method

25% Class Participation; 25% Essays Writing, 25% Final Presentation; 25% Final Paper.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are asked to review the course material before and after class.

## 履修上の注意 /Remarks

Please be always on time and do not miss more than 5 classes to obtain the course's credits.  
Please buy an electronic version of the textbook online at amazon.co.jp

Kindle (Digital Version) available at Amazon.co.jp. Price: ¥ 5,388

\*It is recommended that students buy the Kindle (Digital Version) of the textbook because the hard copy takes a long time to be delivered. This textbook will also be used for Introduction of Tourism Management, Tourism Policy I and II.

This course will cover only part 4 of the textbook.

(Introduction to Tourism will cover part 1; Tourism Policy I will cover part 2; Tourism Policy II, will cover part 3).

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

I am looking forward to seeing you in class!

## キーワード /Keywords

Tourism, Management, Destination, Customer, Service, Business.

# ゼミ A 1 【昼】

担当者名 /Instructor ブルック 前田 / Brooke Maeda / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			◎	◎	○
科目名	ゼミ A 1		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく 3 つの到達目標

思考・判断・表現力：ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べることができる。

コミュニケーション力：ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。

自立的行動力：専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

This seminar will introduce students to the field of finance. Finance is a rather broad field composed of many different areas, such as corporate finance, financial markets, investments, and international finance. This seminar has two main goals. The first goal of this seminar is to provide knowledge about a variety of topics so that students gain basic knowledge about the different areas in finance. The second goal is to improve English proficiency, focusing on academic writing.

## 教科書 /Textbooks

Academic Writing for International Students of Business and Economics, 3rd edition, Stephen Bailey, Routledge.

ISBN-13: 978-0367280314.

Please purchase it at the university 生協.

Finance related materials will be distributed in class.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Additional references may be recommended during class.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction: Overview of the seminar
2. Share markets and investments 1
3. Share markets and investments 2
4. Share markets and investments 3
5. Share markets and investments 4
6. Academic writing
7. Corporate finance 1
8. Corporate finance 2
9. Corporate finance 3
10. Academic writing
11. International finance 1
12. International finance 2
13. International finance 3
14. Presentations
15. Review & vocabulary test

(Note: Class schedule could be changed)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation	20%
Homework	20%
Report & Presentation	40%
Vocabulary test	20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please read the preparation handouts, which include a vocabulary list, before coming to the seminar.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

Finance, academic writing.

# ゼミ A 1 【昼】

担当者名 /Instructor オム ウォンソブ / Eum Wonsub / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			◎	◎	○
科目名	ゼミ A 1		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

This first semester course will introduce various topics relevant to international economics and international business. These topics may include international trade dynamics, multinational firm strategy, and globalization. Students will also be able to suggest topics to be covered in the course. In addition, there will be practice sessions to improve MS Office (Word, PowerPoint and Excel) skills with a focus on data analysis and effective presentation of results. At the end of the semester, each student is expected to choose a specific contemporary issue related to the topics discussed in the course (for example, changing trends of East Asian trades from trade disputes, KPOP marketing strategy in the international market) and deliver a presentation.

(到達目標)

- 【思考・判断・表現力】ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べることができる。
- 【コミュニケーション力】ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。
- 【自立的行動力】専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

## 教科書 /Textbooks

No textbook is required for this course.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

The instructor will suggest appropriate references as needed.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction to international economics and business
2. Review of international economic concepts
3. Topics in international economics I: Trade, comparative advantage, and specialization
4. Topics in international economics II: Trade and economic growth
5. Sample papers from international organizations
6. Review of international business concepts
7. Topics in international business I: Examples of multinational firms and their strategies
8. Topics in international business II: STP in global markets
9. Sample papers from international consulting firms
10. Topics in international economics and business I: Students' choices
11. Topics in international economics and business II: Students' choices
12. MS Office I: PowerPoint
13. MS Office II: Word & Excel
14. Student presentation I & discussion
15. Student presentation II & discussion

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Participation 50%, Final Presentation 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Throughout the course please search for and read relevant newspaper or magazine articles to develop familiarity with ongoing economic/business topics.



## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

The seminar is designed to encourage independent study. Learn actively, not passively!

## キーワード /Keywords

International Economics, Economic Policy, International Business, Business Strategy, Analytical Tools

# ゼミ A 1 【昼】

担当者名 /Instructor アショク アシタ / ASHOK ASHTA / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			◎	◎	○
科目名	ゼミ A 1		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

This seminar will explore a rising interest in global business – how to successfully lead human resources and organizations in progressively internationalizing operations. We will focus on the cross-cultural management aspect of this topic.

## 教科書 /Textbooks

Riding the Waves of Culture: Understanding Diversity in Global Business  
4th Edition By Fons Trompenaars, Charles Hampden-Turner  
(The university bookstore has been requested to stock this textbook)

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

The instructor will designate additional references as needed, especially The Economist and Nikkei Asia.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 An Introduction to Culture (based on assigned textbook)
- 2 The One Best Way of Organizing Does Not Exist
- 3 The Meaning of Culture (based on assigned textbook)
- 4 Rules and Exceptions (also discuss semester project)
- 5 Rules and Exceptions
- 6 The Individual and the Group
- 7 The individual and the Group
- 8 Review (also discuss progress on semester project)
- 9 Feelings and Relationships
- 10 Feelings and Relationships
- 11 How far we get involved
- 12 How far we get involved
- 13 How we accord status
- 14 How we accord status
- 15 Presentation of semester project

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Students will be evaluated on their participation in discussions, class presentations and their semester project. The semester project could be a conventional paper, but other ideas such as a video production, poem composition or even a group output can be considered. For the seminar project, I am open to any kind of creativity that could be assessed.

Please discuss your ideas with me within the first four weeks of the start of the semester.

Participation in discussions 30%  
Class presentations 30%  
Semester project 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- Students will be expected to prepare thoroughly for each class through reading the assigned readings, watching the assigned videos and studying the relevant vocabulary.
- Review of the material covered will be needed to prepare assignments.
- Assignments will involve teamwork.

## 履修上の注意 /Remarks

In line with the philosophy and purpose of The University of Kitakyushu, the seminar will promote a research orientation that connects Kitakyushu to Asia and other parts of the world.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This is a global business oriented course that goes beyond the importance of etiquette and local customs. If the students are interested, there will be opportunity to take the challenge to collaborate and co-publish research on cross-cultural management. However, this is not a requirement.

## キーワード /Keywords

# ゼミ A 2 【昼】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M			◎	◎	○
科目名	ゼミ A 2		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく 3 つの到達目標  
 思考・判断・表現力: ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べるができる。  
 コミュニケーション力: ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。  
 自立的行動力: 専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

This seminar will enable students to examine their own interests and experiences in crossing cultures. We will explore, strengthen and deepen our skills in communication and collaboration. We will have weekly discussions based on readings by writers and scholars from a wide variety of countries and cultures. The improvement of analytical, comprehension, discussion, and writing skills in English are a major goal. A goal of the second semester will be to nurture cultural and communicative competence through fieldwork exercises with exchange students and members of the international community.

## 教科書 /Textbooks

Printed materials and handouts to be provided by the instructor.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

In consultation with instructor.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction and return of papers.
- 2回 Paper-related discussions: Organization
- 3回 Paper-related discussions: Content.
- 4回 Paper-related discussions: Research Skills.
- 5回 Instructor-led discussion and workshop A.
- 6回 Instructor-led discussion and workshop B.
- 7回 Instructor-led discussion and workshop C.
- 8回 Presentations and discussion for student A.
- 9回 Presentations and discussion for student B.
- 10回 Presentations and discussion for student C.
- 11回 Presentations and discussion for student D.
- 12回 Presentations and discussion for student E.
- 13回 Presentations and discussion for student F.
- 14回 Presentations and discussion for student G.
- 15回 Final discussion and paper submission.

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Participation, & Presentations 50% Successful Completion of Paper 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should prepare for class by reading all assigned materials before class meetings.  
 After meetings, students should review discussed topics and apply this to their research topics. Students should continue to read materials and pursue research tasks in relation to their own topics.

## 履修上の注意 /Remarks

Our meetings will consist of presentations followed by group discussion. While students will be given the freedom to choose materials, they are expected to follow the basic parameters of this seminar. Students can translate materials from Japanese to English but presentations must be in English. All meetings and discussions will be conducted in English.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Students will be expected to submit their individual analysis of presented materials in essay format each semester. Each paper should be approximately 2000 words in English.

## キーワード /Keywords

# ゼミ A 2 【昼】

担当者名 /Instructor                      フィオナ・クリーサー / Fiona Creaser / 英米学科

履修年次 3年次                      単位 2単位                      学期 2学期                      授業形態 演習                      クラス 3年  
/Year                      /Credits                      /Semester                      /Class Format                      /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M			◎	◎	○
科目名	ゼミ A 2		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく 3 つの到達目標  
 思考・判断・表現力: ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べるができる。  
 コミュニケーション力: ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。  
 自立的行動力: 専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。  
 In this semester students will begin to explore gender themes in more detail paying particular attention to "Queer" studies. We will explore in detail the idea of a gender fluid society and look at sexual diversity including the rights of the LGBTQ+ community. We will look at attitudes towards gender from a cross cultural perspective and we will explore creative ways in which we can promote gender awareness in our university.  
 In addition to this we will look at same sex marriage, what it means too be transgendered, and homophobic bullying and harassment.  
 Discussions will be conducted in English and students will be able to increase their knowledge about gender and increase English vocabulary and communication skills in order to be able to discuss various gender related themes with confidence.

## 教科書 /Textbooks

Materials will be provided by the instructor.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

References will be provided for by the instructor.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 What does "Queer" studies mean?
- 3回 What does 'Gender fluid' mean?
- 4回 What does LGBT+ mean?
- 5回 The rights of the LGBT+ community?
- 6回 Marriage for All
- 7回 Being 'trans': Why we need gender neutral bathrooms. (Ivan Coyote, Ted Talks)
- 8回 Homophobic bullying
- 9回 The Boy in a Dress: Exploring ideas of gendered fashion and beauty
- 10回 The Boy in a Dress: Dress codes in Japan.
- 11回 Gender Diversity: Cross cultural perspectives
- 12回 Gender Diversity: Exploring creativity
- 13回 Presentations I
- 14回 PresentationsII
- 15回 Discussion and Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- LGBT+ Assignment: 25%
- Being 'Trans' Assignment: 25%
- Gender Diversity Assignment: 25%
- Poster Presentation: 25%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are expected to come fully prepared to class and to have read the relevant materials in preparation for each session.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Gender, LGBT

# ゼミ A 2 【昼】

担当者名 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M			◎	◎	○
科目名	ゼミ A 2		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

通訳ゼミは、通訳者になるために不可欠な語学面のトレーニングはもとより、通訳者に必要な教養や知識を得ることも目標としています。通訳をするために表現力を磨くことが大切なのは言うまでもありませんが、それだけでなく、相手の論理展開について行ける訓練も必要です。その意味では、表現力だけでなく思考力を磨くこともとても大切です。

また、通訳をするためには、そこで語られていることを理解できていなければなりません。野球のルールを知らない人が、野球の実況中継を相手に分かるように通訳できるでしょうか。

こうしたことを踏まえ、このゼミでは実践と理論をともに柱に据え、皆さんとともに高度な英語力を獲得し、同時に英語を通して幅広い知識を習得していけるゼミにしていきたいと思っています。こうした訓練は、通訳を目指す人にとって有益なだけでなく、英語を用いてコミュニケーション活動を行なっていこうとするときに必ず役立つはずです。

この「通訳ゼミA-2」でも、引き続きリスニング力を磨くことを第一の課題として取り組み、あわせて総合的な英語力のブラッシュアップを図ります。そのためにTED Talksを題材とした教材を用いて内容理解および英日通訳演習を行ないます。これを通して背景知識を増やしていくことも目指しています。また、日本語によるラジオ番組を英語に通訳する練習などを通して日英通訳の訓練をする時間も取っていききたいと思います。また、本年度も10月ごろ北九州国際車椅子バスケットボール大会のボランティア通訳奉仕をお願いする予定です。良い経験としていただきたいと思います。

- 【この授業の到達目標として、以下の内容を考えています。】
- ①思考・判断・表現力：グローバルな視点から社会の諸相を分析し、考えを述べるができる。
  - ②コミュニケーション力：ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。
  - ③自立的行動力：専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

## 教科書 /Textbooks

「TEDTALKS Keynote 3」 ( CENGAGE Learning )

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

年4回刊行される雑誌『通訳翻訳ジャーナル』(イカロス出版)、また、向 謙治郎、丸山 祥夫(著)『中学英語で通訳ができる』(ジャパントイムズ)などは参考になると思います。その他、必要に応じて授業の中で紹介することがあります。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 ゼミ・オリエンテーション
- 第02回 Unit 1に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
- 第03回 Unit 2に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
- 第04回 Unit 3に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
- 第05回 Unit 4に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
- 第06回 ゼミ生のプレゼンテーション+通訳演習
- 第07回 Unit 5に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
- 第08回 Unit 6に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
- 第09回 Unit 7に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
- 第10回 Unit 8に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
- 第11回 Unit 9に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
- 第12回 Unit 10に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
- 第13回 Unit 11に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
- 第14回 Unit 12に基づく英日通訳トレーニング+ラジオ番組を用いた日英通訳トレーニング
- 第15回 2学期の総まとめと実践演習



## ゼミ A 2 【昼】

### 成績評価の方法 /Assessment Method

演習科目ですから、出席は当然です。その上で授業への積極的参加の度合いに実技を加味して総合的に評価します。  
実技・プレゼンテーション100%

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Moodleを併用し、通常の練習メニューの提供や、予習箇所の指示を行いません。また、演習科目の常として、復習や振り返りをじゅうぶんになさってください。

### 履修上の注意 /Remarks

主要教材として用いるTED Talksはゼミの中では編集版を用いますが、ノーカット版をウェブサイトで観ることができますので、ゼミの前の準備や、ゼミ後の復習の時に積極的に用いていただきたいと思います。また、TED Talks以外にも優れた教材がありますので、授業の中で紹介したり、トレーニングメニューとして用いたいと思っています。普段から英語に触れる時間を取って、英語に親しむ習慣を持っていたけると嬉しいです。頑張りましょう。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミの雰囲気にも慣れてこられた頃かと思います。ますます楽しいゼミになっていけるよう、一緒にがんばっていきましょう。

### キーワード /Keywords

通訳技術の修練、プレゼンテーション力の向上、背景知識の強化

# ゼミ A 2 【昼】

担当者名 /Instructor 鮫島 千明 / Chiaki Sameshima / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M			◎	◎	○
科目名	ゼミ A 2		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
 思考・判断・表現力：ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べるができる。  
 コミュニケーション力：ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。  
 自立的行動力：専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

当ゼミでは、英語から日本語への翻訳を行う。この授業の目的は、翻訳を通して英語力の向上を目指し、英文テキストが書かれた社会背景の十分な理解を得ることにある。翻訳対象となる作品は、英語で書かれた文学作品・映画の字幕等である。ゼミの進め方は、発表討論形式とする。始めに翻訳対象を決め、こちらで決めたペースで翻訳を進める。学期初日に決定したスケジュールにそって、それぞれ進捗状況、訳出難解箇所、訳註必要箇所を発表し、ゼミ生全員で検討する。担当の学生は発表の2日前までに資料を用意する。事前に他の学生に読んでもらいたい資料がある場合は、前の週末までに用意・指示しておく。

## 教科書 /Textbooks

特に定めない。適宜プリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

ゼミの時間では、各自課題の報告をする。毎回、決められた範囲の翻訳原稿を持ってくること。  
 授業内で問題点を指摘し、読むべき文献を適宜指導する。  
 ※ 翻訳対象は学生との話し合いによって最終的に決定するので、この計画は変更になることがある。

- 1回 インタロダクション
- 2回 選定した翻訳テキスト【音楽1】
- 3回 選定した翻訳テキスト【音楽2】
- 4回 選定した翻訳テキスト【映画1】
- 5回 選定した翻訳テキスト【映画2】
- 6回 ディスカッション1
- 7回 選定した翻訳テキスト【劇1】
- 8回 選定した翻訳テキスト【劇2】
- 9回 選定した翻訳テキスト【小説1】
- 10回 選定した翻訳テキスト【小説2】
- 11回 ディスカッション2
- 12回 選定した翻訳テキスト【詩1】
- 13回 選定した翻訳テキスト【詩2】
- 14回 ディスカッション3
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題 60%  
 ディスカッションへの積極的参加 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回指定された箇所を予習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# ゼミ A 2 【昼】

担当者名 /Instructor                      ローズマリー・リーダー / Rosemary Reader / 英米学科

履修年次 3年次                      単位 2単位                      学期 2学期                      授業形態 演習                      クラス 3年  
/Year                      /Credits                      /Semester                      /Class Format                      /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M			◎	◎	○
科目名	ゼミ A 2		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
 思考・判断・表現力：ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べることができる。  
 コミュニケーション力：ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べることができる。  
 自立的行動力：専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

This seminar focuses on Japanese to English translation. Students will have the opportunity to translate in a number of different mediums with the source text being one of their own choosing. Additionally, students will translate together as a group to help practice the sharing of ideas. Working together and working on translations that they enjoy will help students grow both in terms of practical translation ability as well as understanding of the issues underlying translation.

## 教科書 /Textbooks

None.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Discussed in class when appropriate.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction
- 第2回 Student focused session (1)
- 第3回 Student focused session (2)
- 第4回 Student focused session (3)
- 第5回 Student focused session (4)
- 第6回 Student focused session (5)
- 第7回 Student focused session (6)
- 第8回 Student focused session (7)
- 第9回 Student focused session (8)
- 第10回 Student focused session (9)
- 第11回 Student focused session (10)
- 第12回 Student focused session (11)
- 第13回 Student focused session (12)
- 第14回 Student focused session (13)
- 第15回 Concluding session

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Participation 20%  
In-class work 30%  
Report 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Directions to be provided in class.

## 履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# ゼミ A 2 【昼】

担当者名 /Instructor アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科

履修年次 /Year 3年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M			◎	◎	○
科目名	ゼミ A 2		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

British Studies: Media and Culture

DP に基づく 3 つの到達目標

思考・判断・表現力: ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べるができる。  
コミュニケーション力: ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。  
自立的行動力: 専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

ゼミA 2 follows on from ゼミA 1. The course offers students the opportunity to analyse the media of Britain and assess their relationship with the nation's social, political and cultural activities. The course will embrace analyses of media and culture from the very beginnings of Britain through to the present day. Students will be required to lead English-language discussions and make presentations on topics to be chosen by themselves.

## 教科書 /Textbooks

Handouts/research materials will be provided by the instructor.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

A reading list will be provided at the beginning of the course.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Developing a Research Topic
- 3回 Assessing The Use of Theory: New Historicism
- 4回 Example Presentation: Pleasure and the Shakespearean Playhouse
- 5回 Student-led class (presentation and discussion) + Analysing Advertisements: Type and Theory
- 6回 Student-led class (presentation and discussion) + Analysing Advertisements: Gender Depiction
- 7回 Student-led class (presentation and discussion) + Analysing Advertisements: The Hidden Message
- 8回 Student-led class (presentation and discussion) + Analysing Theatre: The Joy of Tragedy
- 9回 Student-led class (presentation and discussion) + Analysing Theatre: The Joy of Comedy
- 10回 Student-led class (presentation and discussion) + Analysing Theatre: The Theatrum Mundi Topos
- 11回 Student-led class (presentation and discussion) + Essay Writing Skills: Using a Thesaurus
- 12回 Student-led class (presentation and discussion) + Essay Writing Skills: Avoiding Plagiarism
- 13回 Student-led class (presentation and discussion) + Essay Writing Skills: Finding a Voice
- 14回 Student-led class (presentation and discussion) + Academic Presentation Skills: Using Powerpoint Effectively
- 15回 Review and Final Discussion

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Successful completion of 1500-word essay ... 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

From Session 5 to Session 14 students will be expected to prepare questions and comments to be used in post-presentation discussions.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# ゼミ A 2 【昼】

担当者名 /Instructor アーノルド・ ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M			◎	◎	○
科目名	ゼミ A 2		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく 3 つの到達目標  
 思考・判断・表現力: ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べるができる。  
 コミュニケーション力: ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。  
 自立的行動力: 専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

We will be exploring the idea of the American Dream as it relates to life in New York City and American culture. There will be two parts to our course. The first will look at urban family struggles related to economics and the American Dream. The second part will look at urban family struggles specifically related to race and its part in economics and the American Dream. As with our prior course, we will be looking closely at identity and how urban life affects identity. While not always focusing on New York City, our topics will be directly related to urban living and therefore transferable to New York City and our own urban life in Japan. This course will include the reading of two famous plays: Death of a Salesman and A Raisin in the Sun. We will also watch the movie versions after we finish reading the text (please don't watch beforehand). Additionally, students will examine various cultural differences between New York City and major cities in Japan. The end goal of this class is to help broaden your world perspective and understanding of cosmopolitan life by strengthening your ability to discuss various topics. It is also intended to help you understand the term “the American Dream” and how this phrase affects the culture of America and New York City.

In this course, students will:

- Actively engage in the class discussions
- Develop educated opinions on topics and defend your position
- Explore academic discourse on a specific topic and examine what “counts” as evidence in academic presentations
- Integrate outside sources to support your point of view

Major requirements:

- Speaking only in English during class period
- 2 Reading summaries
- 2 Socratic Seminar questions and answers
- 1 in-class special topic presentations
- 1 major research essay (and final presentation)

## 教科書 /Textbooks

MILLER Arthur, Death of a Salesman: Text and Study Aids, Klett Ernst /Schulbuch (January 1, 2009)  
 HANSBERRY Lorraine, A Raisin in the Sun, Modern Classics.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

N/A



## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Class 1: Introduction to topic and course expectations  
 Class 2: The American Dream: history and meaning  
 Class 3: The idea of the Wild, Wild West in Modern America  
 Class 4: Employment and the American Dream  
 Class 5: Career anxiety and Unemployment  
 Class 6: Economic Inequality  
 Class 7: Levels of Success  
 Class 8: Film Day  
 Class 9: Race and the American Dream House  
 Class 10: The American Family  
 Class 11: The Projects in New York City  
 Class 12: Pruitt-Igoe Housing Project  
 Class 13: White neighborhoods  
 Class 14: Film Day  
 Class 15: Final paper presentations.

## 成績評価の方法 /Assessment Method

English participation: 20%  
 2 Reading summaries: 20%  
 2 Socratic seminar questions and answers: 10%  
 1 Presentations (10 minutes minimum): 20%  
 One major research essay and final presentation (25+5): 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please do NOT miss the first class.

You will be required to have the reading material for the second class.

## 履修上の注意 /Remarks

Participation is a major portion of your grade; you should attend all classes and actively participate. For our class, it is important that you come to class prepared and ready to discuss your opinions about what you read.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

The course objectives will include some of the following elements:

- Note-taking.
- Absorb information from audio and be able to listen for key vocabulary.
- Participate in class discussions by asking and responding to questions.
- Give effective oral presentations.
- Express their own ideas about differing value systems around the world and how these differ from Japanese society.
- Increase and diversify vocabulary usage.
- Read a literary work for a thematic meaning.
- Read secondary sources and material and be able to incorporate the themes into research essays.
- Avoid plagiarism and use MLA documentation outlines.

## キーワード /Keywords

American Dream;  
 Broadway;  
 New York City;  
 Race and America.

# ゼミ A 2 【昼】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M			◎	◎	○
科目名	ゼミ A 2		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
 技能：高度な英語運用力を身につけ、翻訳する力を身につけている。  
 思考・判断・表現力：正しく英語を理解し、映像を活かして訳文の可能性を探求することができる。  
 コミュニケーション力：異文化間コミュニケーションを積極的に進める姿勢を有している。

当ゼミでは「イギリス・アイルランドの文化、社会」を研究対象とする。研究対象にはミルトン、ワーズワース、ディケンズ、イェイツ、ロレンスなど本格的なイギリス・アイルランド文学の作家やマザー・グース（イギリス伝承童謡）、アイルランド民話、『ピーター・ラビット』や『くまのプーさん』のような児童文学、あるいは、イギリスではなくてもアイルランド、オーストラリアなどのアメリカを除く旧イギリス植民地も対象となることがある。ロックやファッションといったサブカルチャーを扱うこともあるが、常に個々の現象の背後にある文化、社会、歴史を深く掘り下げることを心がけたい。ゼミは木原研究室(E1111)で行う。ゼミの進め方はすべて発表討論形式。発表は英語で行い、ディスカッションも英語を原則とするが、内容が複雑になってくると日本語に切り替えて話を進める。まず、自分の研究テーマを決め、各自インターネットの文献検索を利用したり図書館に足を運んだりして資料を集め研究を進める。およそ1ヶ月に一回くらいの割合で自分の研究成果を発表する。前もって資料を用意し、ゼミの他のメンバーに読んでもらう。当日発表に続いてディスカッションをする。

## 教科書 /Textbooks

特に定めない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 プレゼンテーションとディスカッション ( 導入 1 )
- 第2回 プレゼンテーションとディスカッション ( 基礎 1 )
- 第3回 プレゼンテーションとディスカッション ( 基礎 2 )
- 第4回 プレゼンテーションとディスカッション ( 基礎 3 )
- 第5回 プレゼンテーションとディスカッション ( 基礎 4 )
- 第6回 プレゼンテーションとディスカッション ( 発展 1 )
- 第7回 プレゼンテーションとディスカッション ( 発展 2 )
- 第8回 プレゼンテーションとディスカッション ( 発展 3 )
- 第9回 プレゼンテーションとディスカッション ( 発展 4 )
- 第10回 プレゼンテーションとディスカッション ( 応用 1 )
- 第11回 プレゼンテーションとディスカッション ( 応用 2 )
- 第12回 プレゼンテーションとディスカッション ( 応用 3 )
- 第13回 プレゼンテーションとディスカッション ( 応用 4 )
- 第14回 プレゼンテーションとディスカッション ( まとめ 1 )
- 第15回 プレゼンテーションとディスカッション ( まとめ 2 )

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート30%、発表40%、ディスカッションへの参加30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

### 事前

発表担当者は、これまでの研究をさらにすすめてプレゼンを準備する。その他の学生は、その日に読んでおくべき資料に目を通し、自分の見解を用意しておくこと。

### 事後

各回の演習のディスカッション内容、得られた結論をまとめる。

## 履修上の注意 /Remarks

担当の学生は、他の学生に読んできて欲しい文献や資料を遅くとも前の週までに指示する。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミでは受け身で学ぶのではなく、自分で考えたテーマを自分で掘り下げ、独自の考えを展開する能力を身につけて欲しい。

## キーワード /Keywords

文化、文学、芸術、メディア、社会、経済、ジェンダー、セクシュアリティ、暴力、植民地主義、資本主義、大英帝国、階級、労働者、移民

# ゼミ A 2 【昼】

担当者名 /Instructor ジェニファー・ラーソンホール / Jenifer Larson-Hall / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M			◎	◎	○
科目名	ゼミ A 2		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
 思考・判断・表現力: ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べるができる。  
 コミュニケーション力: ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。  
 自立的行動力: 専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

In the second semester we will concentrate on dialectal features of English from around the world. Students are encouraged to choose any variety of English they are most interested in (American, British, Australian, Irish, Singaporean, etc.). We will examine vocabulary studies and students will think about which study they would like to replicate for their thesis in the second year.

## 教科書 /Textbooks

No textbook needed. Students will receive readings to do.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Folse, Keith S. (2004) Vocabulary Myths: Applying second language research to classroom teaching. Ann Arbor: University of Michigan Press.  
 Nation, I.S.P. (2013) Learning Vocabulary in another language (Second edition). Cambridge University Press.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Vocabulary pre-tests; Australian English  
 Week 2: Canadian English; Reading for replication: Lu, 2008  
 Week 3: British English  
 Week 4: Indian English; Reading for replication: Stubbe, 2014  
 Week 5: Dialects in Africa  
 Week 6: Hawaiian Pigeon; Reading for replication: Kaneko, 2014  
 Week 7: Student Presentation: Irish English  
 Week 8: Student Presentation; Reading for replication: Shin & Nation, 2007  
 Week 9: Student Presentation: New Zealand English  
 Week 10: Student Presentation; Reading for replication: Sasao & Webb, 2017  
 Week 11: Student Presentation: Singaporean English  
 Week 12: Student Presentation; Reading for replication: Zou, 2017  
 Week 13: Student Presentation: Southern USA dialect  
 Week 14: Student Presentation; APA format; Structure of an article  
 Week 15: Final choices for replication

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Participation 30%  
 Video watching 20%  
 Presentation grade 20%  
 2 presentations (10% each)  
 Anki grade 30%  
 6 submissions during the semester

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Prepare for class by watching at least 30 minutes of videos every week for homework and reporting back on your watching during class (they should be about the type of English we studied the previous week). Spend 30 more minutes trying reading academic articles about vocabulary studies so you can discuss them in class.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

We will explore a number of different types of English this semester so think about what dialects you are most interested in!

## キーワード /Keywords

zemi, vocabulary, language learning, dialect

# ゼミ A 2 【昼】

担当者名 雪丸 尚美 / 英米学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M			◎	◎	○
科目名	ゼミ A 2		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

本ゼミでは、教室における外国語（主に英語）教育の実践と理論研究にかかわる諸問題を広く取り上げながら、受講生が自分の問題意識を鮮明に持つことが出来るようになることを期待して進められる。そのため受講生は、自分が興味関心を持つテーマやトピックについて、各自で関連論文を読む積極的な学習態度が必要である。

各自の問題意識を教育言語学（英語教育学など）における研究テーマへと発展させ、文献研究を中心としたリサーチを行い、APA Styleに沿った論文を執筆する。論文執筆はプロセスライティングの手法を用い、授業中に学生同士のピアレビューを実施する。これらの活動への積極的な参加を期待する。

DP (Diploma Policy) に基づく 3つの到達目標

思考・判断・表現力: ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べることができる。

コミュニケーション力: ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。

自律的行動力: 専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

## 教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に指定する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画は以下のとおりであるが、履修者の理解度や関心に依りて内容を調整する。

1. ガイダンス
2. 言語教育学と研究方法
3. 言語教育学と教材研究 (概説及び発表)
4. 教材研究 (事例収集)
5. 教材研究 (事例発表・議論)
6. 教育言語学と学習・指導法研究 (概説)
7. 学習・指導法研究 (事例収集)
8. 学習・指導法研究 (事例発表・議論)
9. 教育言語学と言語活動研究 (概説)
10. 言語活動研究 (事例収集)
11. 言語活動研究 (事例発表・議論)
12. 教育言語学と評価方法研究 (概説)
13. 評価方法研究 (事例収集)
14. 評価方法研究 (事例発表・議論)
15. 教育言語学の研究課題

## 成績評価の方法 /Assessment Method

成績は ( 1 ) 授業参加に対する積極性 ( 発言や質問など ) 20%、( 2 ) レジュメの作成・提出および発表30%、( 3 ) ゼミ論文50%によって評価する。レジュメの作成方法や論文の形式は授業中に説明する。

## ゼミ A 2 【昼】

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

<事前学習> 次回の授業で使用する論文を読み、発表・議論の準備をする。発表担当者は発表前にレジユメを提出し、自主練習を行う。毎回1時間～1時間半必要。  
<事後学習> 指定の関連文献を読む。

### 履修上の注意 /Remarks

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回の講義では、発表のみならず、発表内容に関する議論を行います。そのため、授業時間外での(相当の)準備が必要となります。卒業後に英語教育に関わる意欲のある学生をはじめ、英語教育に関心がある人の参加を期待します。また、やむを得ない場合を除き、無断欠席は受講放棄とみなします。

### キーワード /Keywords

# ゼミ A 2 【昼】

担当者名 /Instructor 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M			◎	◎	○
科目名	ゼミ A 2		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

本ゼミでは言語と社会の係わりを様々な視点から考え、社会言語学研究に必要な基本的概念や理論を理解することを目的とします。Allでは学生が各自テーマを決め言語調査を行います。授業時に先行研究、言語データの収集方法や分析方法、調査結果を発表し、その内容について全員で議論します。

- (到達目標)
- 【思考・判断・表現力】ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べるができる。
  - 【コミュニケーション力】ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。
  - 【自立的行動力】専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

## 教科書 /Textbooks

ハンドアウトを配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業時に紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 言語調査プロジェクトについて
- 2回 文献検索
- 3回 テーマ発表
- 4回 研究発表の仕方
- 5回 学生による第1回研究発表 (先行研究：第1グループ)
- 6回 学生による第1回研究発表 (先行研究：第2グループ)
- 7回 学術論文の構成
- 8回 文献検索・発表準備
- 9回 学生による第2回研究発表 (方法論：第1グループ)
- 10回 学生による第2回研究発表 (方法論：第2グループ)
- 11回 方法論についての議論
- 12回 レポートの書き方・発表準備
- 13回 学生による第3回研究発表 (結果：第1グループ)
- 14回 学生による第3回研究発表 (結果：第2グループ)
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表・平常の学習状況...50%、レポート...50%。  
欠席・遅刻はマイナス評価。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲を予習・復習して下さい。

## 履修上の注意 /Remarks

出席・参加を重視します。3分の2以上の出席が必要です。



担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# ゼミ A 2 【昼】

担当者名 /Instructor 寺田 真一郎 / Shinichiro Terada / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M			◎	◎	○
科目名	ゼミ A 2		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
 思考・判断・表現力：ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べるができる。  
 コミュニケーション力：ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。  
 自律的行動力：専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

本ゼミナールは、インターネットに代表されるビジネスエコシステムを研究するものです。  
 ゼミナールでは経営学全般を扱うため、研究テーマはビジネスに関することなら自由に決めることができます。

3年次においては、ビジネスを英語で理解すること、実際のビジネス動向を把握することを中心に活動を行います。  
 ゼミ内での発表は、出来るだけ多く行いたいと考えています。

英語能力の向上、企業訪問、リサーチ手法の習得などについては、担当者を決め協力しあうことにより、目標を達成することを目指します。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しません。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

ゼミの中で、資料を紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 introduction
  - 第2回 記事・ビデオ /経営理論/研究手法
  - 第3回 記事・ビデオ /経営理論/研究手法
  - 第4回 記事・ビデオ /経営理論/研究手法
  - 第5回 記事・ビデオ /経営理論/研究手法
  - 第6回 記事・ビデオ /経営理論/研究手法
  - 第7回 記事・ビデオ /経営理論/研究手法
  - 第8回 記事・ビデオ /経営理論/研究手法
  - 第9回 記事・ビデオ /経営理論/研究手法
  - 第10回 記事・ビデオ /経営理論/研究手法
  - 第11回 記事・ビデオ /経営理論/研究手法
  - 第12回 記事・ビデオ /経営理論/研究手法
  - 第13回 記事・ビデオ /経営理論/研究手法
  - 第14回 発表
  - 第15回 発表
- ( 適宜、スケジュール・内容を変更します )

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ゼミへの貢献(発言、作業) - 50%
- ・発表・レポート - 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：発表・活動などの、準備をします。  
事後学習：学期末に発表またはレポート提出を行います。

## 履修上の注意 /Remarks

事前に経営学の知識が無くても問題ありません。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく進めましょう。

## キーワード /Keywords

経営学、ビジネス、イノベーション、インターネット、リサーチ

# ゼミ A 2 【昼】

担当者名 /Instructor 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M			◎	◎	○
科目名	ゼミ A 2		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、アメリカ合衆国の多文化状況を垣間見ることができ文学作品や映像作品を扱って活動を進める。アメリカ社会に共存する様々な声に耳を傾け、民族、人種、性、言語、宗教、思想など多様な文化的背景を持つ個人や集団が共存する社会と、その社会における文化的アイデンティティの在り方について理解を深めることを目指す。文学作品や映像作品以外の題材についてもゼミ生からの積極的な提案を歓迎する。必要に応じてアメリカ合衆国以外の地域に関わる作品も導入する。授業は発表討論形式で進める。

DP (Diploma Policy) に基づく到達目標

- 《思考・判断・表現力》ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べることができる。
- 《コミュニケーション力》ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。
- 《自立的行動力》専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

## 教科書 /Textbooks

授業内で指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- Dolores laGuardia and Hans P. Guth. American Visions. Mayfield Publishing Co., 1995.
- ニール・キャンベル、アラスティア・キーン『アメリカン・カルチュラル・スタディーズ』
- アーニャ・ルーンバ『ポストコロナ理論入門』
- その他、適宜、授業内で指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション ( 授業の概要、担当決め )
- 第2回 Cityscapes
- 第3回 Desperate Glory (1)
- 第4回 Desperate Glory (2)
- 第5回 Inner Quest (1)
- 第6回 Inner Quest (2)
- 第7回 Inner Quest (3)
- 第8回 American Mosaic (1)
- 第9回 American Mosaic (2)
- 第10回 American Mosaic (3)
- 第11回 Global Mosaic (1)
- 第12回 Global Mosaic (2)
- 第13回 Workshop (1): 学生による研究発表
- 第14回 Workshop (2): 学生による研究発表
- 第15回 Workshop (3): 学生による研究発表

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- 平常の授業における活動・小テスト ... 50%
- 発表 ... 30%
- レポート ... 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備すること。
- 授業終了後には授業の内容を反復し課題等に取り組むこと。

## 履修上の注意 /Remarks

自分が議題を提案する際には少なくとも2週間前の授業までに資料を用意し、他の受講者に周知・配布すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各回で扱う作品は必ず予習の上で授業にのぞみ、議論に積極的に参加してください。

## キーワード /Keywords

文化的多様性、文化的アイデンティティ、越境

# ゼミ A 2 【昼】

担当者名 /Instructor                      ロドルフォ デルガド / Rodolfo Delgado / 英米学科

履修年次 3年次                      単位 2単位                      学期 2学期                      授業形態 演習                      クラス 3年  
/Year                      /Credits                      /Semester                      /Class Format                      /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M			◎	◎	○
科目名	ゼミ A 2		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく 3 つの到達目標  
ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べるができる。  
ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。  
専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

The general course objective is to give students the opportunity to develop knowledge of the Tourism Industry.  
The specific objectives of the course are:  
-Students will be able to learn the language and specialized terminology required in the Tourism Industry.  
-Acquire professional skills required in the service industry.  
-Analyze Case Studies.  
-Discuss innovating trends.

## 教科書 /Textbooks

Tourism: Principles and Practice (English Edition) 6th Edition, Kindle Edition  
Authors: John Fletcher, Alan Fyall, David Gilbert and Stephen Wanhill  
Publisher: Pearson  
Year: November 2017  
Kindle (Digital Version) available at Amazon.co.jp. Price: ¥ 5,388  
\*It is recommended that students buy the Kindle (Digital Version) of the textbook because the hard copy takes a long time to be delivered. This textbook will also be used for Tourism Policy I and II.  
This course will cover only part 4 of the textbook.  
(Introduction to Tourism will cover part 1; Tourism Policy I will cover part 2; Tourism Policy II, will cover part 3).

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

References will be recommended.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1- Managing Marketing for Tourism.
- 2- Literature review.
- 3- Literature review.
- 4- Literature review.
- 5- Marketing Planning.
- 6- Literature review.
- 7- Literature review.
- 8- Literature review.
- 9- Marketing Mix Applications.
- 10- Literature review.
- 11- Literature review.
- 12- Literature review.
- 13- Information Technology in Tourism.
- 14- Literature review.
- 15- Presentation of Final Paper.

## 成績評価の方法 /Assessment Method

25% Class Participation; 25% Essays Writing, 25% Final Presentation; 25% Final Paper.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are asked to review the course material before and after class.

## 履修上の注意 /Remarks

Please be always on time and do not miss more than 5 classes to obtain the course's credits.  
Please buy an electronic version of the textbook online at amazon.co.jp

Kindle (Digital Version) available at Amazon.co.jp. Price: ¥ 5,388

\*It is recommended that students buy the Kindle (Digital Version) of the textbook because the hard copy takes a long time to be delivered. This textbook will also be used for Introduction of Tourism Management, Tourism Policy I and II.

This course will cover only part 4 of the textbook.

(Introduction to Tourism will cover part 1; Tourism Policy I will cover part 2; Tourism Policy II, will cover part 3).

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

I am looking forward to seeing you in class!

## キーワード /Keywords

Tourism, Management, Destination, Customer, Service, Business.

# ゼミ A 2 【昼】

担当者名 /Instructor ブルック 前田 / Brooke Maeda / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 3年  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M			◎	◎	○
科目名	ゼミ A 2		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく 3 つの到達目標  
 思考・判断・表現力：ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べることができる。  
 コミュニケーション力：ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。  
 自立的行動力：専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

This seminar will introduce students to the field of finance. Finance is a rather broad field composed of many different areas, such as corporate finance, financial markets, investments and international finance. This seminar has two main goals. The first goal of this seminar is to provide knowledge about a variety of topics so that students gain basic knowledge about the different areas in finance. The second goal is to improve English proficiency, focusing on academic writing.

## 教科書 /Textbooks

The textbook used in the first semester (ゼミA1) will be used in this semester too.

(Academic Writing for International Students of Business and Economics, 3rd edition, Stephen Bailey, Routledge.  
ISBN-13: 978-0367280314)

Finance related materials will be distributed in class.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Additional references may be recommended during class.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction: Overview of the seminar
2. Finance topic 1
3. Finance topic 2
4. Finance topic 3
5. Finance topic 4
6. Academic writing
7. Finance topic 5
8. Finance topic 6
9. Finance topic 7
10. Academic writing
11. Finance topic 8
12. Finance topic 9
13. Finance topic 10
14. Presentations
15. Review & vocabulary test

The topics will be chosen based on the students interests.

(Note: Class schedule could be changed)



## 成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation	20%
Homework	20%
Report & Presentation	40%
Vocabulary test	20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please read the preparation handouts, which include a vocabulary list, before coming to the seminar.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

Finance, academic writing.

# ゼミ A 2 【昼】

担当者名 /Instructor オム ウォンソブ / Eum Wonsub / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M			◎	◎	○
科目名	ゼミ A 2		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

This seminar introduces the basic steps of academic research, from choosing a research topic to collecting data and learning analytical methodologies to tackle the research question in play. Throughout the coursework, students will be exposed to various international economics and business papers, and get used to the structures and logic of academic papers. At the end of the semester, students are expected to complete individual extended abstracts, which will guide their future studies towards successful graduation thesis completion.

(到達目標)

- 【思考・判断・表現力】ゼミテーマに基づき学術的に思考し、考えを述べることができる。
- 【コミュニケーション力】ゼミメンバーと積極的に意見交換し成果を発表できる。
- 【自立的行動力】専門的な知識を活用しビジネスや社会活動に積極的に行動することができる。

## 教科書 /Textbooks

No textbook is required for this course.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

The instructor will suggest appropriate references as needed.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction / Setting up an individual academic plan
2. The structure of an academic paper
3. Research background: Academic and practical
4. How to choose and read key papers
5. Collecting datasets
6. Review & practice of basic statistics
7. Research methodology I: Marketing strategies
8. Research methodology II: Regression
9. A meaningful, yet feasible research topic
10. Brainstorming of research topics
11. Discussion & presentation of research topics and research background
12. Brainstorming of research topics
13. Discussion & presentation of research methodology
14. Presentation of research outlines and basic statistics
15. Review of individual extended abstracts

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Participation 30%, Presentation 30%, Final Paper (Extended Abstract) 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Throughout the course please search for and read relevant newspaper or magazine articles to develop familiarity with ongoing economic/business topics.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

The seminar is designed to encourage independent study. Learn actively, not passively!

## キーワード /Keywords

International Economics, Economic Policy, International Business, Business Strategy, Analytical Tools

# ゼミ A 2 【昼】

担当者名 /Instructor アショク アシタ / ASHOK ASHTA / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M			◎	◎	○
科目名	ゼミ A 2		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

This seminar will explore a rising interest in global business – how to successfully lead human resources and organizations in progressively internationalizing operations. We will focus on the cross-cultural management aspect of this topic.

## 教科書 /Textbooks

Riding the Waves of Culture: Understanding Diversity in Global Business 4th Edition By Fons Trompenaars, Charles Hampden-Turner (The university bookstore has been requested to stock this textbook).  
This textbook continues from the first semester.

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

The instructor will designate additional references as needed, especially The Economist and Nikkei Asia.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 How we manage time
- 2 How we manage time
- 3 How We Relate to Nature
- 4 Cross-Cultural Competence (also discuss semester project)
- 5 Cross-Cultural Competence
- 6 Toward International and Transnational Management
- 7 Toward International and Transnational Management
- 8 Review (also discuss progress on semester project)
- 9 National Cultures and Corporate Cultures
- 10 National Cultures and Corporate Cultures
- 11 Managing Change Across Cultures
- 12 Managing Change Across Cultures
- 13 Your Values for the Next Transformation
- 14 Your Values for the Next Transformation
- 15 Presentation of semester project

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Students will be evaluated on their participation in discussions, class presentations and their semester project. The semester project could be a conventional paper, but other ideas such as a video production, poem composition or even a group output can be considered. For the seminar project, I am open to any kind of creativity that could be assessed.  
Please discuss your ideas with me within the first four weeks of the start of the semester.  
Participation in discussions 30%  
Class presentations 30%  
Semester project 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- Students will be expected to prepare thoroughly for each class through reading the assigned readings, watching the assigned videos and studying the relevant vocabulary.
- Review of the material covered will be needed to prepare assignments.
- Assignments will involve teamwork.

## 履修上の注意 /Remarks

In line with the philosophy and purpose of The University of Kitakyushu, the seminar will promote a research orientation that connects Kitakyushu to Asia and other parts of the world.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This is a global business oriented course that goes beyond the importance of etiquette and local customs. If the students are interested, there will be opportunity to take the challenge to collaborate and co-publish research on cross-cultural management. However, this is not a requirement.

## キーワード /Keywords

# Academic English I 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - 5

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101M		◎	○	○	
科目名	Academic English I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

この科目は、皆さんの音声面のスキルを強化する目的で開講されているものです。個々の発音やまとまったフレーズや文の発音、イントネーションなどに関して皆さんのスキルを伸ばすお手伝いをしたいと思います。皆さんはこれまで、このような科目を受講された経験はお持ちではないかもしれませんが、言語の基本は音声です。音声をうまく使いこなせないのでは、せっかく読んだり書いたりするスキルが優れていても、その言語を駆使する楽しみは半減します。ぜひ今のうちにそうしたスキルを伸ばしていこうという強い意志を持ってください。一緒に頑張ってください。

【この授業では、次のような到達目標を考えています。】

- ①技能：英語を用いて基本的なコミュニケーションができる。
- ②思考・判断・表現力：正しい英語発音で表現することができる。
- ③コミュニケーション力：効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

## 教科書 /Textbooks

English Pronunciation in Use Intermediate : Book with Answers and Downloadable Audio 2nd ed. (Cambridge U. P.)

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業のなかで必要に応じて紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 オリエンテーション：授業の進め方について、開講に当たって
- 第02回 Lessons 1&2
- 第03回 Lessons 3&4
- 第04回 Lessons 5&6
- 第05回 Lessons 7&8
- 第06回 図書館ツアー(予定：変更の可能性があります)
- 第07回 Lessons 9&10
- 第08回 Lessons 11&12
- 第09回 Lessons 13&14
- 第10回 Lessons 15&16
- 第11回 Lessons 17&18
- 第12回 Lessons 19&20
- 第13回 Lessons 21&22
- 第14回 Lessons 23&24
- 第15回 授業のまとめと振り返り(最終週の前後に口頭試験を予定しています)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験：70%、口頭試験・平常の学習状況：30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

このテキストにはダウンロードできる音声素材が付属されていますので、それを用いて予習復習をお願いします。音声の練習は時間をかけることが大切です。

## 履修上の注意 /Remarks

# Academic English I 【昼】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

皆さんご入学おめでとうございます。初めての学期をご一緒できることをうれしく思います。この授業は「発音クリニック」という位置づけのもと導入された科目です。Academic EnglishはIからIVまでありますが、それぞれが特色のある科目として異なる内容を扱います。楽しく学んでいきましょう。よろしくお願いします。

## キーワード /Keywords

発音、リスニング、スピーキング

# Academic English I 【昼】

担当者名 /Instructor 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - 6

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101M		◎	○	○	
科目名	Academic English I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

This course aims to improve students' English pronunciation including individual sounds (vowels and consonants), word stress, connected speech and intonation. It will also develop their listening and speaking skills by providing both receptive and productive practice.

DP ( Diploma Policy ) に基づく到達目標

《技能》英語を用いて基本的なコミュニケーションができる。

《思考・判断・表現力》正しい英語発音で表現することができる。

《コミュニケーション力》効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

## 教科書 /Textbooks

Mark Hancock (2012). English Pronunciation in Use: Intermediate. 2nd edition. Cambridge University Press.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

The class instructor will designate additional references as needed.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Introduction  
 Week 2 Lessons 1, 2 (/ei/, /æ/), 27(introducing word stress) & 46  
 Week 3 Lessons 3 (/b/, /p/), 4 (/s/, /z/), 28 (stress in two-syllable words) & 47  
 Week 4 Lessons 5 (/d/, /t/), 6 (/i:/, /e/), 29 (stress in compound words) & 48  
 Week 5 Lessons 7 (/ə/, /ɪ/), 8 (/f/, /v/), 30 (stress in longer words 1) & 49  
 Week 6 Library tour (subject to change)  
 Week 7 Lessons 9 (/g/, /k/), 10 (/h/, /w/, /j/), 31 (stress in longer words 1) & 50  
 Week 8 Lessons 11 (/aɪ/, /ɪ/), 12 (/ʃ/, /dʒ/, /tʃ/), 32 (introducing stress patterns) & 51  
 Week 9 Lessons 13 (/l/, /r/), 14 (/ɑ:(r)/, /eə(r)/), 33(pronouns in stress patterns) & 52  
 Week 10 Lessons 15 (/m/, /n/, /ŋ/), 16 (/əʊ/, /ɒ/), 34 (the verb “to be” in stress patterns) & 53  
 Week 11 Lessons 17 (/θ/, /ð/), 18 (/ʌ/, /ʊ/, /u:/), 35 (auxiliary verbs in stress patterns) & 54  
 Week 12 Lessons 19 (/ɜ:(r)/, /ɔ:(r)/), 20 (/ɔɪ/, /aʊ/), 36 (pronouncing short words) & 55  
 Week 13 Lessons 21 (consonant groups), 22 (consonant groups), 37 (dividing messages into speech units) & 56  
 Week 14 Lessons 23 (-s endings), 24 (-ed endings), 38 (speech units and grammar) & 57  
 Week 15 Review & Oral exam

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Term exam ... 70% Oral exam and classroom participation ... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Prepare for each class by working on assigned sections of the textbook or other given materials.  
 Review what you learned in each week.

## 履修上の注意 /Remarks

Bring a hand mirror that enables you to see your mouth in pronunciation practice.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor



# Academic English I 【昼】

キーワード /Keywords

# Academic English I 【昼】

担当者名 /Instructor 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101M		◎	○	○	
科目名	Academic English I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

This course aims to improve students' English pronunciation including individual sounds (vowels and consonants), word stress, connected speech and intonation. It will also develop their listening and speaking skills by providing both receptive and productive practice.

DP ( Diploma Policy ) に基づく到達目標

- 《技能》英語を用いて基本的なコミュニケーションができる。
- 《思考・判断・表現力》正しい英語発音で表現することができる。
- 《コミュニケーション力》効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

## 教科書 /Textbooks

Mark Hancock (2012). English Pronunciation in Use: Intermediate. 2nd edition. Cambridge University Press.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

The class instructor will designate additional references as needed.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Introduction
- Week 2 Lessons 1, 2 (/ei/, /æ/), 27(introducing word stress) & 46
- Week 3 Lessons 3 (/b/, /p/), 4 (/s/, /z/), 28 (stress in two-syllable words) & 47
- Week 4 Lessons 5 (/d/, /t/), 6 (/i:/, /e/), 29 (stress in compound words) & 48
- Week 5 Lessons 7 (/ə/, /ɪ/), 8 (/f/, /v/), 30 (stress in longer words 1) & 49
- Week 6 Library tour (subject to change)
- Week 7 Lessons 9 (/g/, /k/), 10 (/h/, /w/, /j/), 31 (stress in longer words 1) & 50
- Week 8 Lessons 11 (/aɪ/, /ɪ/), 12 (/ʃ/, /dʒ/, /tʃ/), 32 (introducing stress patterns) & 51
- Week 9 Lessons 13 (/l/, /r/), 14 (/ɑ:(r)/, /eə(r)/), 33(pronouns in stress patterns) & 52
- Week 10 Lessons 15 (/m/, /n/, /ŋ/), 16 (/əʊ/, /ɒ/), 34 (the verb “to be” in stress patterns) & 53
- Week 11 Lessons 17 (/θ/, /ð/), 18 (/ʌ/, /ʊ/, /u:/), 35 (auxiliary verbs in stress patterns) & 54
- Week 12 Lessons 19 (/ɜ:(r)/, /ɔ:(r)/), 20 (/ɔɪ/, /aʊ/), 36 (pronouncing short words) & 55
- Week 13 Lessons 21 (consonant groups), 22 (consonant groups), 37 (dividing messages into speech units) & 56
- Week 14 Lessons 23 (-s endings), 24 (-ed endings), 38 (speech units and grammar) & 57
- Week 15 Review & Oral exam

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Term exam ... 70% Oral exam and classroom participation ... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- Prepare for each class by working on assigned sections of the textbook or other given materials.
- Review what you learned in each week.

## 履修上の注意 /Remarks

Bring a hand mirror that enables you to see your mouth in pronunciation practice.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# Academic English I 【昼】

キーワード /Keywords

# Academic English I 【昼】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101M		◎	○	○	
科目名	Academic English I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
 技能：英語を用いて基本的なコミュニケーションができる。  
 思考・判断・表現力：正しい英語発音で表現することができる。  
 コミュニケーション力：効果的に活動できるコミュニケーション力を有してい

This course aims to improve students' English pronunciation including individual sounds (vowels and consonants), word stress, connected speech and intonation. It will also develop their listening and speaking skills by providing both receptive and productive practice.

## 教科書 /Textbooks

Mark Hancock (2012). 『English Pronunciation in Use: Intermediate』 2nd edition. Cambridge University Press.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 Lessons 1, 2(/ei/, /æ)/, 27(introducing word stress) & 46
- 3 回 Lessons 3(/b/, /p/), 4(/s/, /z/), 28(stress in two-syllable words) & 47
- 4 回 Lessons 5(/d/, /t/), 6(/i:/, /e/), 29(stress in compound words) & 48
- 5 回 Lessons 7(/ə/, /ɪ/), 8(/f/, /v/), 30(stress in longer words 1) & 49
- 6 回 図書館探索ツアー ( 予定 )
- 7 回 Lessons 9(/g/, /k/), 10(/h/, /w/, /j/), 31(stress in longer words 1) & 50
- 8 回 Lessons 11(/ɑ:/, /ɪ/), 12(/ʃ/, /dʒ/, /tʃ/), 32(introducing stress patterns) & 51
- 9 回 Lessons 13(/l/, /r/), 14(/ɑ:(r)/, /eə(r)/), 33(pronouns in stress patterns) & 52
- 1 0 回 Lessons 15(/m/, /n/, /ŋ/), 16(/əʊ/, /ɒ/), 34(the verb “to be” in stress patterns) & 53
- 1 1 回 Lessons 17(/θ/, /ð/), 18(/ʌ/, /ʊ/, /u:/), 35(auxiliary verbs in stress patterns) & 54
- 1 2 回 Lessons 19(/z:(r)/, /ɔ:(r)/), 20(/ɔɪ/, /aʊ/), 36(pronouncing short words) & 55
- 1 3 回 Lessons 21(consonant groups), 22(consonant groups), 37(dividing messages into speech units) & 56
- 1 4 回 Lessons 23(-s endings), 24(-ed endings), 38(speech units and grammar) & 57
- 1 5 回 Review & 口頭試験

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(必須)...70%、口頭試験・ 平常の学習状況...30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲を予習・ 復習して下さい。

## 履修上の注意 /Remarks

発音練習の際自分の口元を見るための手鏡を持参して下さい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# Academic English I 【昼】

キーワード /Keywords

# Academic English I 【昼】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101M		◎	○	○	
科目名	Academic English I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
 技能：英語を用いて基本的なコミュニケーションができる。  
 思考・判断・表現力：正しい英語発音で表現することができる。  
 コミュニケーション力：効果的に活動できるコミュニケーション力を有してい

This course aims to improve students' English pronunciation including individual sounds (vowels and consonants), word stress, connected speech and intonation. It will also develop their listening and speaking skills by providing both receptive and productive practice.

## 教科書 /Textbooks

Mark Hancock (2012). 『English Pronunciation in Use: Intermediate』 2nd edition. Cambridge University Press.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 Lessons 1, 2(/ei/, /æ)/, 27(introducing word stress) & 46
- 3 回 Lessons 3(/b/, /p/), 4(/s/, /z/), 28(stress in two-syllable words) & 47
- 4 回 Lessons 5(/d/, /t/), 6(/i:/, /e/), 29(stress in compound words) & 48
- 5 回 Lessons 7(/ə/, /ɪ/), 8(/f/, /v/), 30(stress in longer words 1) & 49
- 6 回 図書館探索ツアー ( 予定 )
- 7 回 Lessons 9(/g/, /k/), 10(/h/, /w/, /j/), 31(stress in longer words 1) & 50
- 8 回 Lessons 11(/ɑ:/, /ɪ/), 12(/ʃ/, /dʒ/, /tʃ/), 32(introducing stress patterns) & 51
- 9 回 Lessons 13(/l/, /r/), 14(/ɑ:(r)/, /eə(r)/), 33(pronouns in stress patterns) & 52
- 10 回 Lessons 15(/m/, /n/, /ŋ/), 16(/əʊ/, /ɒ/), 34(the verb “to be” in stress patterns) & 53
- 11 回 Lessons 17(/θ/, /ð/), 18(/ʌ/, /ʊ/, /u:/), 35(auxiliary verbs in stress patterns) & 54
- 12 回 Lessons 19(/z:(r)/, /ɔ:(r)/), 20(/ɔɪ/, /aʊ/), 36(pronouncing short words) & 55
- 13 回 Lessons 21(consonant groups), 22(consonant groups), 37(dividing messages into speech units) & 56
- 14 回 Lessons 23(-s endings), 24(-ed endings), 38(speech units and grammar) & 57
- 15 回 Review & 口頭試験

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(必須)...70%、口頭試験・ 平常の学習状況...30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲を予習・ 復習して下さい。

## 履修上の注意 /Remarks

発音練習の際自分の口元を見るための手鏡を持参して下さい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# Academic English I 【昼】

キーワード /Keywords

# Academic English I 【昼】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101M		◎	○	○	
科目名	Academic English I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
 技能：英語を用いて基本的なコミュニケーションができる。  
 思考・判断・表現力：正しい英語発音で表現することができる。  
 コミュニケーション力：効果的に活動できるコミュニケーション力を有してい

This course aims to improve students' English pronunciation including individual sounds (vowels and consonants), word stress, connected speech and intonation. It will also develop their listening and speaking skills by providing both receptive and productive practice.

## 教科書 /Textbooks

Mark Hancock (2012). 『English Pronunciation in Use: Intermediate』 2nd edition. Cambridge University Press.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 Lessons 1, 2(/ei/, /æ)/, 27(introducing word stress) & 46
- 3 回 Lessons 3(/b/, /p/), 4(/s/, /z/), 28(stress in two-syllable words) & 47
- 4 回 Lessons 5(/d/, /t/), 6(/i:/, /e/), 29(stress in compound words) & 48
- 5 回 Lessons 7(/ə/, /ɪ/), 8(/f/, /v/), 30(stress in longer words 1) & 49
- 6 回 図書館探索ツアー ( 予定 )
- 7 回 Lessons 9(/g/, /k/), 10(/h/, /w/, /j/), 31(stress in longer words 1) & 50
- 8 回 Lessons 11(/ɑ:/, /ɪ/), 12(/ʃ/, /dʒ/, /tʃ/), 32(introducing stress patterns) & 51
- 9 回 Lessons 13(/l/, /r/), 14(/ɑ:(r)/, /eə(r)/), 33(pronouns in stress patterns) & 52
- 1 0 回 Lessons 15(/m/, /n/, /ŋ/), 16(/əʊ/, /ɒ/), 34(the verb “to be” in stress patterns) & 53
- 1 1 回 Lessons 17(/θ/, /ð/), 18(/ʌ/, /ʊ/, /u:/), 35(auxiliary verbs in stress patterns) & 54
- 1 2 回 Lessons 19(/z:(r)/, /ɔ:(r)/), 20(/ɔɪ/, /aʊ/), 36(pronouncing short words) & 55
- 1 3 回 Lessons 21(consonant groups), 22(consonant groups), 37(dividing messages into speech units) & 56
- 1 4 回 Lessons 23(-s endings), 24(-ed endings), 38(speech units and grammar) & 57
- 1 5 回 Review & 口頭試験

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(必須)...70%、口頭試験・平常の学習状況...30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲を予習・復習して下さい。

## 履修上の注意 /Remarks

発音練習の際自分の口元を見るための手鏡を持参して下さい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor



# Academic English I 【昼】

キーワード /Keywords

# Academic English II 【昼】

担当者名 /Instructor アショク アシタ / ASHOK ASHTA / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111M		◎	○	○	
科目名	Academic English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

This course is designed to enable students to improve their English writing skills and general English ability. Students will learn various writing strategies, culminating in the writing of an academic paper. Each class will introduce specific tasks by which students will gradually increase their knowledge of broad written communication objectives and genre-specific writing techniques. The final goal is the completion and submission of an academic paper in English.

## 教科書 /Textbooks

Academic Writing: A Handbook for International Students, 5th edition, Oxon: Routledge, 2017. Author: Stephen Bailey

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

The instructor will designate additional references as needed.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.Course Introduction and Biographical Writing
- 2.Storytelling in Writing
- 3.Journalistic Writing
- 4.Opinion Essays
- 5.Evaluating Texts
- 6.Outlining and Summarizing
- 7.Determining a Subject and Finding Sources
- 8.Organizing Paragraphs
- 9.Citing Source Information and Avoiding Plagiarism
- 10.Combining Sources
- 11.Writing Introductions and Conclusions
- 12.Accuracy in Writing A
- 13.Accuracy in Writing B
- 14.Rewriting and Proofreading
- 15.Prepositions

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments (Submission of all assignments, and their quality) 50%  
Academic Paper 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Weekly homework assignments will be given to allow students to practice and grow accustomed to the various writing-related skills covered in class.

## 履修上の注意 /Remarks

Written English develops with practice. Practice as much as you can.

# Academic English II 【昼】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Looking forward to helping you develop your writing skills.  
Plagiarism will not be tolerated, and if discovered will result in your getting a zero on that assignment.

## キーワード /Keywords

# Academic English II 【昼】

担当者名 /Instructor アショク アシタ / ASHOK ASHTA / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - 6

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111M		◎	○	○	
科目名	Academic English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

This course is designed to enable students to improve their English writing skills and general English ability. Students will learn various writing strategies, culminating in the writing of an academic paper. Each class will introduce specific tasks by which students will gradually increase their knowledge of broad written communication objectives and genre-specific writing techniques. The final goal is the completion and submission of an academic paper in English.

## 教科書 /Textbooks

Academic Writing: A Handbook for International Students, 5th edition, Oxon: Routledge, 2017. Author: Stephen Bailey

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

The instructor will designate additional references as needed.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.Course Introduction and Biographical Writing
- 2.Storytelling in Writing
- 3.Journalistic Writing
- 4.Opinion Essays
- 5.Evaluating Texts
- 6.Outlining and Summarizing
- 7.Determining a Subject and Finding Sources
- 8.Organizing Paragraphs
- 9.Citing Source Information and Avoiding Plagiarism
- 10.Combining Sources
- 11.Writing Introductions and Conclusions
- 12.Accuracy in Writing A
- 13.Accuracy in Writing B
- 14.Rewriting and Proofreading
- 15.Prepositions

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments (Submission of all assignments, and their quality) 50%  
Academic Paper 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Weekly homework assignments will be given to allow students to practice and grow accustomed to the various writing-related skills covered in class.

## 履修上の注意 /Remarks

Written English develops with practice. Practice as much as you can.

# Academic English II 【昼】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Looking forward to helping you develop your writing skills.  
Plagiarism will not be tolerated, and if discovered will result in your getting a zero on that assignment.

## キーワード /Keywords

# Academic English II 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111M		◎	○	○	
科目名	Academic English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
英語を用いて基本的なコミュニケーションができる。  
正しい英語発音で表現することができる。  
効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

This course is designed to enable students to improve their English writing skills and general English ability. Students will learn various writing strategies, culminating in the writing of an academic paper. Each class will introduce specific tasks by which students will gradually increase their knowledge of broad written communication objectives and genre-specific writing techniques. The final goal is the completion and submission of an academic paper in English.

## 教科書 /Textbooks

Daniel C. Strack & Fiona Creaser. Writing for Response. Okayama: University Education Press, 2015.  
Stephen Bailey. Academic Writing: A Handbook for International Students, 5th Edition. Oxon: Routledge, 2017.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Lesson 1: Course Introduction and Biographical Writing  
Lesson 2: Storytelling in Writing  
Lesson 3: Journalistic Writing  
Lesson 4: Opinion Essays  
Lesson 5: Evaluating Texts  
Lesson 6: Outlining and Summarizing  
Lesson 7: Determining a Subject and Finding Sources  
Lesson 8: Organizing Paragraphs  
Lesson 9: Citing Source Information and Avoiding Plagiarism  
Lesson 10: Revising a Draft  
Lesson 11: Writing Introductions and Conclusions  
Lesson 12: Accuracy in Writing A  
Lesson 13: Accuracy in Writing B  
Lesson 14: Rewriting and Proofreading  
Lesson 15: Submission

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments/Attitude/Class Participation/ ... 50% Academic Paper ... 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Weekly homework assignments will be given to allow students to practice and grow accustomed to the various writing-related skills covered in class.

## Academic English II 【昼】

### 履修上の注意 /Remarks

Speaking practice will also constitute part of the course and each class will include time for discussion of class content in English.

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Looking forward to helping you develop your writing skills.

### キーワード /Keywords

# Academic English II 【昼】

担当者名 /Instructor 藤下 友子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111M		◎	○	○	
科目名	Academic English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

(到達目標)  
 [技能] 英語を用いて基本的なコミュニケーションができる。  
 [思考・判断・表現力] 正しい英語発音で表現することができる。  
 [コミュニケーション力] 効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

This course is designed to enable students to improve their English writing skills and general English ability. Students will learn various writing strategies, culminating in the writing of an academic paper. Each class will introduce specific tasks by which students will gradually increase their knowledge of broad written communication objectives and genre-specific writing techniques. The final goal is the completion and submission of an academic paper in English.

## 教科書 /Textbooks

Ready to Write 3: From Paragraph to Essay. Fourth Edition (K. Blanchard & C. Root)  
 Pearson, 2017  
 ISBN: 978-0-13-439933-1

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

Instructor will provide additional reference when needed.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Course Introduction; Getting Ready to Write (1)
2. Chapter 1 Getting Ready to Write (2); Chapter 2: Writing Paragraphs (1)
3. Chapter 2 Writing Paragraphs (2): logic of an English paragraph
4. Chapter 3: Revising and Editing; Writing Assignment
5. Chapter 4 Writing Essays (1): Parts of an Essay
6. Chapter 4 Writing Essays (2): Linking Supporting Paragraphs
7. Chapter 7 Cause and Effect Essays (1): Analyzing Causes and Effects
8. Chapter 7 Cause and Effect Essays (2): Analyzing an Essay about Causes
9. Chapter 7 Cause and Effect Essays (3): Planning; Major Assignment (1)
10. Chapter 6 Division and Classification Essays (1): Language and Sentence Patterns for Classification
11. Chapter 6 Division and Classification Essays (2): Analyzing an Essay of Division/Classification
12. Chapter 6 Division and Classification Essays (3): Planning; Major Assignment (2)
13. Chapter 8 Comparison and Contrast Essays (1): Similarities? or Differences?
14. Chapter 8 Comparison and Contrast Essays (2): Analyzing an Essay of Comparison/Contrast
15. Chapter 8 Comparison and Contrast Essays (3): Planning; Major Assignment (3)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Participation/Writing Tasks --- 40%  
 Major Assignments --- 40%  
 Final Essay --- 20%



## Academic English II 【昼】

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will have to complete several major take-home assignments by organizing them with the skills and strategies they have learned in class. They are required to spend approximately 120 to 180 minutes each week reviewing class notes, planning and writing a draft of the assignment, and revising it.

### 履修上の注意 /Remarks

Dictionary should be brought to class.

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Writing is thinking. You are to think well, plan well, collect necessary information, analyze the information, organize your ideas, and enjoy writing.

### キーワード /Keywords

understanding paragraphs, writing essays, writing process, organization, unity, coherence, signal words

# Academic English II 【昼】

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - 5

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111M		◎	○	○	
科目名	Academic English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

This course is designed to allow students to improve their English writing skills and general English ability. Students will learn various writing strategies, culminating in the writing of an academic paper. Each class will introduce specific tasks by which students will gradually increase their knowledge of broad written communication objectives and genre-specific writing techniques. The final goal is the completion and submission of an academic paper in English.

(到達目標)

【技能】英語を用いて基本的なコミュニケーションができる。

【思考・判断・表現力】正しい英語発音で表現することができる。

【コミュニケーション力】効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

## 教科書 /Textbooks

Basic steps to Writing a research paper by Taylor and Kludge Published by Cengage

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

In consultation with instructor

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Lesson 1: Course Introduction
- Lesson 2: The beginning Thesis statement
- Lesson 3: The working outline
- Lesson 4: Revising the thesis statement and working outline
- Lesson 5: Writing the first draft
- Lesson 6: Writing the title
- Lesson 7: Writing the introduction
- Lesson 8: Support, Accuracy, and Logic
- Lesson 9: Writing the body
- Lesson 10: Tense, Transitions, and awkward sentences
- Lesson 11: Writing the conclusion
- Lesson 12: Avoiding plagiarism: citing and quoting sources
- Lesson 13: Writing the Bibliography
- Lesson 14: Evaluating and rewriting your paper
- Lesson 15: Common problems with punctuation, grammar and vocabulary

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments/Attitude/Class Participation/ ... 50% Academic Paper ... 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Weekly homework assignments will be given to allow students to practice and grow accustomed to the various writing-related skills covered in class.

## 履修上の注意 /Remarks

# Academic English II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# Academic English II 【昼】

担当者名 /Instructor 藤下 友子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111M		◎	○	○	
科目名	Academic English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

(到達目標)  
 [技能] 英語を用いて基本的なコミュニケーションができる。  
 [思考・判断・表現力] 正しい英語発音で表現することができる。  
 [コミュニケーション力] 効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

This course is designed to enable students to improve their English writing skills and general English ability. Students will learn various writing strategies, culminating in the writing of an academic paper. Each class will introduce specific tasks by which students will gradually increase their knowledge of broad written communication objectives and genre-specific writing techniques. The final goal is the completion and submission of an academic paper in English.

## 教科書 /Textbooks

Ready to Write 3: From Paragraph to Essay. Fourth Edition (K. Blanchard & C. Root)  
 Pearson, 2017  
 ISBN: 978-0-13-439933-1

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

Instructor will provide additional reference when needed.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Course Introduction; Getting Ready to Write (1)
2. Chapter 1 Getting Ready to Write (2); Chapter 2: Writing Paragraphs (1)
3. Chapter 2 Writing Paragraphs (2): logic of an English paragraph
4. Chapter 3: Revising and Editing; Writing Assignment
5. Chapter 4 Writing Essays (1): Parts of an Essay
6. Chapter 4 Writing Essays (2): Linking Supporting Paragraphs
7. Chapter 7 Cause and Effect Essays (1): Analyzing Causes and Effects
8. Chapter 7 Cause and Effect Essays (2): Analyzing an Essay about Causes
9. Chapter 7 Cause and Effect Essays (3): Planning; Major Assignment (1)
10. Chapter 6 Division and Classification Essays (1): Language and Sentence Patterns for Classification
11. Chapter 6 Division and Classification Essays (2): Analyzing an Essay of Division/Classification
12. Chapter 6 Division and Classification Essays (3): Planning; Major Assignment (2)
13. Chapter 8 Comparison and Contrast Essays (1): Similarities? or Differences?
14. Chapter 8 Comparison and Contrast Essays (2): Analyzing an Essay of Comparison/Contrast
15. Chapter 8 Comparison and Contrast Essays (3): Planning; Major Assignment (3)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Participation/Writing Tasks --- 40%  
 Major Assignments --- 40%  
 Final Essay --- 20%

## Academic English II 【昼】

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will have to complete several major take-home assignments by organizing them with the skills and strategies they have learned in class. They are required to spend approximately 120 to 180 minutes each week reviewing class notes, planning and writing a draft of the assignment, and revising it.

### 履修上の注意 /Remarks

Dictionary should be brought to class.

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Writing is thinking. You are to think well, plan well, collect necessary information, analyze the information, organize your ideas, and enjoy writing.

### キーワード /Keywords

understanding paragraphs, writing essays, writing process, organization, unity, coherence, signal words

# Academic English III 【昼】

担当者名 /Instructor 廣田 恵美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG201M		◎	○	○	
科目名	Academic English III		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、まずparagraphの基本構成を知ることから始め、writingの形式に慣れていき、passageをきちんと書けるskillを身に着けることを目指します。そのために必要な知識や文法項目を重点的に学習し、さまざまなタイプのwritingに取り組んでいきます。少しずつ書く分量を増やしていき、最終的にはまとまった分量の英文が書けるようになります。

Academic English

III ◎◎ 英語を用いて基本的なコミュニケーションができる。正しい英語発音で表現することができる。効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

## 教科書 /Textbooks

『Message Delivered : Upper Intermediate』 ( Leonid Yoffe, Soichiro Oku他著 ) 南雲堂 2020年 2,200円

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の概説、Unit 1 Paragraphの構造
- 2回 Unit 1の続き 文の構造
- 3回 Unit 2 Topic Sentence
- 4回 Unit 3 Supporting Sentences
- 5回 Unit 4 Concluding Sentence
- 6回 Unit 5 Listing
- 7回 Unit 6 Chronological Order
- 8回 Unit 7 Classification
- 9回 Unit 8 Comparison and Contrast
- 10回 Unit 9 Cause and Effect
- 11回 Unit 10 Problem-Solution
- 12回 Unit 11 Paragraph to Presentation ( 1 ) introduction
- 13回 Unit 11の続き ( 2 ) body
- 14回 Unit 11の続き ( 3 ) conclusion
- 15回 今学期の総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、日頃の授業への取り組み...20%、提出物(課題等)...30%、定期試験...50% で評価する予定ですが、授業形態によっては変更する可能性があります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の学習予定箇所を必ず読んでおくこと。復習としては、ノートとテキストを読み返し、内容の理解に努めること。(必要な学習時間の目安は予習60分、復習60分です。)また、課題が出された場合は、必ず期限内に提出すること。

## 履修上の注意 /Remarks

授業時に必ず辞書(紙または電子)を持ってくること。スマートフォンの辞書アプリの使用は認められません。

# Academic English III 【昼】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

無届けによる遅刻や欠席が一定回数を上回る場合、単位取得が難しくなる可能性があるのでご注意ください。

## キーワード /Keywords

paragraph construction, paragraph writing

# Academic English III 【昼】

担当者名 /Instructor 口ドルフォ デルガド / Rodolfo Delgado / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG201M		◎	○	○	
科目名	Academic English III		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
英語を用いて基本的なコミュニケーションができる。  
正しい英語発音で表現することができる。  
効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

Course description:

This course aims to build a solid foundation of academic writing, English language fluency and accuracy through analyzing the different writing communication styles, formats, and problem solving. Students will have the opportunity to write academic projects during the course, they will read and write references of academic papers, books, and journals while using APA referencing style.

Skills: Academic, writing, analytical, discussion, and problem solving.

## 教科書 /Textbooks

Academic Writing: A Handbook for International Students  
Author: Stephen Bailey  
Fifth Edition Published 2018  
Publisher: Routledge  
Kindle (Digital Edition) available in Amazon.co.jp Price: ¥3,465  
Paperback copy available in Amazon.co.jp Price: ¥3,923

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

References will be recommended

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1- Course Introduction and Background to Writing
- 2- Reading: Finding Suitable Sources and Reading: Developing Critical Approaches
- 3- Avoiding Plagiarism and From Understanding Titles to Planning
- 4- Finding Key Points and Note-making and Summarising and Paraphrasing
- 5- References and Quotations, Combining Sources and Organising Paragraphs
- 6- Introductions and Conclusions, Rewriting and Proofreading and Arguments and Discussion
- 7- Cause and Effect, Cohesion, Comparisons, Definite Articles
- 8- Definitions, Examples, Generalisations, Passives
- 9- Problems and Solutions, Punctuation, Singular or Plural, Style
- 10- Visual Information, Approaches to Vocabulary, Abbreviations, Academic Vocabulary: Nouns and Adjectives
- 11- Academic Vocabulary: Adverbs and Verbs, Conjunctions, Numbers and Prefixes and Suffixes
- 12- Prepositions, Synonyms, Time Markers, and Case Studies
- 13- Literature and Book Reviews, Writing Longer Essays, Reports and Surveys
- 14- Final Paper Presentation
- 15- Final Paper Presentation



## Academic English III 【昼】

### 成績評価の方法 /Assessment Method

25% Class Participation; 25% Essays Writing; 25% Final Presentation; 25% Final Paper  
Students will make a final presentation of an academic paper of at least 1, 000 words.

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are asked to review the course material before and after class.

### 履修上の注意 /Remarks

Students will study one of the best academic writing books in the market, and they will be asked to analyze the information on how they will improve their academic writing based on the practices assigned during the classes and at home.  
Please be always on time and do not miss more than 5 classes to obtain the course's credits.

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

I am looking forward to reading your academic writing.

### キーワード /Keywords

Critical, Thinking, Problem, Solving, Effective, Academic, Writing

# Academic English III 【昼】

担当者名 /Instructor 口ドルフォ デルガド / Rodolfo Delgado / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG201M		◎	○	○	
科目名	Academic English III		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
英語を用いて基本的なコミュニケーションができる。  
正しい英語発音で表現することができる。  
効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

Course description:

This course aims to build a solid foundation of academic writing, English language fluency and accuracy through analyzing the different writing communication styles, formats, and problem solving. Students will have the opportunity to write academic projects during the course, they will read and write references of academic papers, books, and journals while using APA referencing style.

Skills: Academic, writing, analytical, discussion, and problem solving.

## 教科書 /Textbooks

Academic Writing: A Handbook for International Students  
Author: Stephen Bailey  
Fifth Edition Published 2018  
Publisher: Routledge  
Kindle (Digital Edition) available in Amazon.co.jp Price: ¥3,465  
Paperback copy available in Amazon.co.jp Price: ¥3,923

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

References will be recommended

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1- Course Introduction and Background to Writing
- 2- Reading: Finding Suitable Sources and Reading: Developing Critical Approaches
- 3- Avoiding Plagiarism and From Understanding Titles to Planning
- 4- Finding Key Points and Note-making and Summarising and Paraphrasing
- 5- References and Quotations, Combining Sources and Organising Paragraphs
- 6- Introductions and Conclusions, Rewriting and Proofreading and Arguments and Discussion
- 7- Cause and Effect, Cohesion, Comparisons, Definite Articles
- 8- Definitions, Examples, Generalisations, Passives
- 9- Problems and Solutions, Punctuation, Singular or Plural, Style
- 10- Visual Information, Approaches to Vocabulary, Abbreviations, Academic Vocabulary: Nouns and Adjectives
- 11- Academic Vocabulary: Adverbs and Verbs, Conjunctions, Numbers and Prefixes and Suffixes
- 12- Prepositions, Synonyms, Time Markers, and Case Studies
- 13- Literature and Book Reviews, Writing Longer Essays, Reports and Surveys
- 14- Final Paper Presentation
- 15- Final Paper Presentation

## Academic English III 【昼】

### 成績評価の方法 /Assessment Method

25% Class Participation; 25% Essays Writing; 25% Final Presentation; 25% Final Paper  
Students will make a final presentation of an academic paper of at least 1, 000 words.

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are asked to review the course material before and after class.

### 履修上の注意 /Remarks

Students will study one of the best academic writing books in the market, and they will be asked to analyze the information on how they will improve their academic writing based on the practices assigned during the classes and at home.  
Please be always on time and do not miss more than 5 classes to obtain the course's credits.

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

I am looking forward to reading your academic writing.

### キーワード /Keywords

Critical, Thinking, Problem, Solving, Effective, Academic, Writing

# Academic English III 【昼】

担当者名 /Instructor ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 演習 /Class クラス 2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG201M		◎	○	○	
科目名	Academic English III		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

Students will improve their academic writing skills through an exploration of the components of a good paragraph and essay. Students will be expected to write their thoughts and opinions on a wide variety of topics at an intermediate level of English. Students will complete several writing assignments to demonstrate acquired skills.

## 教科書 /Textbooks

From Paragraph to Essay, (2nd ed.), Elwood, & Yoffe, Nan'un-do, ISBN: 978-4-523-17727-2

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

None

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus and Orientation
- 2回 Introduction to Paragraph Writing
- 3回 Opinion Paragraphs
- 4回 Problem-Solution Paragraphs
- 5回 Cause and Effect Paragraphs
- 6回 Essay Writing
- 7回 Outlines
- 8回 Descriptive Essays I
- 9回 Descriptive Essays II
- 10回 Persuasive Essays I
- 11回 Persuasive Essays II
- 12回 Comparison Essays I
- 13回 Comparison Essays II
- 14回 Classification Essays I
- 15回 Classification Essays II

## 成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks 35%, Participation 15%, Writing Assignments 30%,  
Final Exam 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will complete assignments to build writing skills. Some research will be required both inside and outside of class. Regular review of all class materials is highly encouraged in preparation for the final exam. Weekly preparation and review should take from 20 to 25 minutes.

## 履修上の注意 /Remarks

none

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# Academic English III 【昼】

キーワード /Keywords

# Academic English III 【昼】

担当者名 /Instructor ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 演習 /Class クラス 2 - 5

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG201M		◎	○	○	
科目名	Academic English III		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

Students will improve their academic writing skills through an exploration of the components of a good paragraph and essay. Students will be expected to write their thoughts and opinions on a wide variety of topics at an intermediate level of English. Students will complete several writing assignments to demonstrate acquired skills.

## 教科書 /Textbooks

From Paragraph to Essay, (2nd ed.), Elwood, & Yoffe, Nan'un-do, ISBN: 978-4-523-17727-2

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

None

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus and Orientation
- 2回 Introduction to Paragraph Writing
- 3回 Opinion Paragraphs
- 4回 Problem-Solution Paragraphs
- 5回 Cause and Effect Paragraphs
- 6回 Essay Writing
- 7回 Outlines
- 8回 Descriptive Essays I
- 9回 Descriptive Essays II
- 10回 Persuasive Essays I
- 11回 Persuasive Essays II
- 12回 Comparison Essays I
- 13回 Comparison Essays II
- 14回 Classification Essays I
- 15回 Classification Essays II

## 成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks 35%, Participation 15%, Writing Assignments 30%,  
Final Exam 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will complete assignments to build writing skills. Some research will be required both inside and outside of class. Regular review of all class materials is highly encouraged in preparation for the final exam. Weekly preparation and review should take from 20 to 25 minutes.

## 履修上の注意 /Remarks

none

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# Academic English III 【昼】

キーワード /Keywords

# Academic English III 【昼】

担当者名 /Instructor ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 演習 /Class クラス 2 - 6

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG201M		◎	○	○	
科目名	Academic English III		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

Students will improve their academic writing skills through an exploration of the components of a good paragraph and essay. Students will be expected to write their thoughts and opinions on a wide variety of topics at an intermediate level of English. Students will complete several writing assignments to demonstrate acquired skills.

## 教科書 /Textbooks

From Paragraph to Essay, (2nd ed.), Elwood, & Yoffe, Nan'un-do, ISBN: 978-4-523-17727-2

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

None

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus and Orientation
- 2回 Introduction to Paragraph Writing
- 3回 Opinion Paragraphs
- 4回 Problem-Solution Paragraphs
- 5回 Cause and Effect Paragraphs
- 6回 Essay Writing
- 7回 Outlines
- 8回 Descriptive Essays I
- 9回 Descriptive Essays II
- 10回 Persuasive Essays I
- 11回 Persuasive Essays II
- 12回 Comparison Essays I
- 13回 Comparison Essays II
- 14回 Classification Essays I
- 15回 Classification Essays II

## 成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks 35%, Participation 15%, Writing Assignments 30%,  
Final Exam 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will complete assignments to build writing skills. Some research will be required both inside and outside of class. Regular review of all class materials is highly encouraged in preparation for the final exam. Weekly preparation and review should take from 20 to 25 minutes.

## 履修上の注意 /Remarks

none

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor



# Academic English III 【昼】

キーワード /Keywords

# Academic English IV 【昼】

担当者名 /Instructor リーサ ハンズバーガー / Lisa M. Hunsberger / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG211M		◎	○	○	
科目名	Academic English IV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
英語を用いて基本的なコミュニケーションができる。  
正しい英語発音で表現することができる。  
効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

The goal of this academic debate course is to help you begin talking about higher-level topics using academic English. In order to debate a topic, you must first gain more information about the topic in English. Therefore, reading (or listening) and writing will be important techniques to help you prepare for your debates. The most important thing in a debate is learning to be a critical thinker, because you will have to see both sides of an issue and decide which one is more persuasive to you.

## 教科書 /Textbooks

No textbook

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Course introduction, grading, homework, class rules, debate structure
2. Debate structure; make groups, decide debate topics and sides
3. Prepare for the first mini debate
4. Mini debate 1
5. Predicting and refuting arguments; make new groups, decide topics and sides
6. Prepare for the next debate
7. Mini debate 2
8. Rebuttals; make new groups, decide topics and sides, prepare for the next debate
9. Mini debate 3
10. Analysis of debates so far; tying it all together; make new groups, decide topics and sides
11. Prepare for the next debate
12. Mini debate 4
13. Make new groups, decide final debate topics and sides, prepare for the final debate
14. Final debate
15. Unfinished debates; wrap up

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation and assignment completion: 40%  
Mini-debates: 10% (4\*10 = 40%)  
Final debate: 20%

## Academic English IV 【昼】

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

This class, you will do a lot of research on your own and with your group members. You will read and listen to information in English and share your findings in English. To avoid ungrammatical sentences and expressions, writing in Japanese and translating it to English will be strictly prohibited. Additionally, being absent can affect your group's points, so attendance at all classes, especially on the days for debates, is mandatory.

Please purchase a small notebook, e.g. B4 or smaller, that you will use as a vocabulary notebook. Ensure that you bring this notebook to class every day along with your regular sized class notebook.

### 履修上の注意 /Remarks

Remember that debate is an exchange of contrasting ideas and most of the time we understand or even agree with the other side more than our own. That's okay! Just remember to keep a reasonable attitude, and don't take things personally when someone disagrees with you. What you will learn in this class is an important life skill.

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

I look forward to teaching you! Come prepared to enjoy class, work hard, and do your best.

### キーワード /Keywords

# Academic English IV 【昼】

担当者名 /Instructor ジェニファー・ラーソンホール / Jenifer Larson-Hall / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG211M		◎	○	○	
科目名	Academic English IV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
 技能：英語を用いて基本的なコミュニケーションができる。  
 思考・判断・表現力：正しい英語発音で表現することができる。  
 コミュニケーション力：効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

This is an academic debate course. Our goal is to help you begin talking about higher-level topics using academic English. We will do so step by step in this class. In addition, in order to speak you must have the vocabulary to do so. We will continue to focus on learning more academic vocabulary during this course. Lastly, we will try to do some creative thinking and brainstorming in order to get ideas for debate arguments. In order to debate a topic, you must first gain more information about the topic in English. Therefore, reading (or listening) and writing will be important techniques to help you prepare for your debates. Writing will be incorporated into the class through in-class writing activities and homework. While doing reading or listening, I will ask you to continue to add vocabulary to your own lists of what you want to learn.

## 教科書 /Textbooks

This class does not have a textbook. Instead, you will research information on your own.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Additional books in our library you could look at:  
 Weston, Anthony. (2018) A Rulebook for Arguments (5th edition). Hackett Publishing Co.  
 Morrow, David R. and Anthony Weston. (2019). A Workbook for Arguments: A complete course in Critical Thinking (3rd edition). Hackett Publishing Co.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introductions; Weak versus strong reasoning  
 Week 2: Debate structure; Plagiarism  
 Week 3: Debate #1 (simple judging)  
 Week 4: Predicting and refuting arguments  
 Week 5: Judging  
 Week 6: Debate #2  
 Week 7: Working on body language, gestures, paragraph connectors  
 Week 8: Brainstorming, strengthening arguments  
 Week 9: Debate #3  
 Week 10: Debate #3  
 Week 11: Analyzing debates so far  
 Week 12: Debate #4 (recorded)  
 Week 13: In-class debate (teacher's choice of topic)  
 Week 14: Prepare for Final debate  
 Week 15: Debate #5

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Debate assessment:40%  
 Vocabulary work: 30%  
 Writing Homework:30%

# Academic English IV 【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

You will be expected to use Anki, a vocabulary study app, at least 4 times per week to study vocabulary. You should prepare debate arguments before class, and after debates fill out judging forms about others' debates.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

I look forward to hearing your thoughts about various issues we will be debating!

## キーワード /Keywords

debate, academic debate, vocabulary learning, Anki

# Academic English IV 【昼】

担当者名 /Instructor ジェニファー・ラーソンホール / Jenifer Larson-Hall / 英米学科

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG211M		◎	○	○	
科目名	Academic English IV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
 技能：英語を用いて基本的なコミュニケーションができる。  
 思考・判断・表現力：正しい英語発音で表現することができる。  
 コミュニケーション力：効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

This is an academic debate course. Our goal is to help you begin talking about higher-level topics using academic English. We will do so step by step in this class. In addition, in order to speak you must have the vocabulary to do so. We will continue to focus on learning more academic vocabulary during this course. Lastly, we will try to do some creative thinking and brainstorming in order to get ideas for debate arguments. In order to debate a topic, you must first gain more information about the topic in English. Therefore, reading (or listening) and writing will be important techniques to help you prepare for your debates. Writing will be incorporated into the class through in-class writing activities and homework. While doing reading or listening, I will ask you to continue to add vocabulary to your own lists of what you want to learn.

## 教科書 /Textbooks

This class does not have a textbook. Instead, you will research information on your own.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Additional books in our library you could look at:  
 Weston, Anthony. (2018) A Rulebook for Arguments (5th edition). Hackett Publishing Co.  
 Morrow, David R. and Anthony Weston. (2019). A Workbook for Arguments: A complete course in Critical Thinking (3rd edition). Hackett Publishing Co.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introductions; Weak versus strong reasoning  
 Week 2: Debate structure; Plagiarism  
 Week 3: Debate #1 (simple judging)  
 Week 4: Predicting and refuting arguments  
 Week 5: Judging  
 Week 6: Debate #2  
 Week 7: Working on body language, gestures, paragraph connectors  
 Week 8: Brainstorming, strengthening arguments  
 Week 9: Debate #3  
 Week 10: Debate #3  
 Week 11: Analyzing debates so far  
 Week 12: Debate #4 (recorded)  
 Week 13: In-class debate (teacher's choice of topic)  
 Week 14: Prepare for Final debate  
 Week 15: Debate #5

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Debate assessment:40%  
 Vocabulary work: 30%  
 Writing Homework:30%

# Academic English IV 【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

You will be expected to use Anki, a vocabulary study app, at least 4 times per week to study vocabulary. You should prepare debate arguments before class, and after debates fill out judging forms about others' debates.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

I look forward to hearing your thoughts about various issues we will be debating!

## キーワード /Keywords

debate, academic debate, vocabulary learning, Anki

# Academic English IV 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG211M		◎	○	○	
科目名	Academic English IV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
英語を用いて基本的なコミュニケーションができる。  
正しい英語発音で表現することができる。  
効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

This course will focus on debate. Students will be given an opportunity to express themselves in this lively class. Although no topics are off-limits, issues that are prevalent to young people in Japan will be discussed. Students can expect to learn different ways of persuasive speaking.

## 教科書 /Textbooks

No textbook

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Course introduction, what to expect and course requirements, grading, homework, how to prepare and rules regarding attendance, arriving late, and mobile phone use in class.  
Schedule, how to write debate using 'TEEL', debate structure 3 vs 3.  
Week 2: Make small groups (2 or 3 people) and prepare for debate against the TEACHER. Decide your debate topic and which side (affirmative or negative). The teacher will take the opposite side.  
Week 3: The first four or five groups will debate against the teacher. (graded) Feedback given if time.  
Week 4: The second four or five groups will debate against the teacher. (graded) Feedback given if time  
Week 5: Time for a review. A look at sources, fake news, proper citation, negative campaigning, better ways to refute and giving immediate rebuttals. Commonly used expressions in debate. YouTube video links to check later.  
Week 6: Make new groups, decide topics and sides, prepare for the next debate. This time it's student vs student.  
Week 7: Student vs student debate. (graded)  
Week 8: Mid-term exam. 中間テスト This will be explained ahead of time. (graded)  
Week 9: Preparation week for the next debate, choose topic, side, and opponents.  
Week 10: Student vs student debates. (graded)  
Week 11: Preparation week for the next debate, choose topic, side, and opponents.  
Week 12: Student vs student debates. (graded)  
Week 13: Preparation week for the next debate, choose topic, side, and opponents.  
Week 14: Student vs student debates. (graded)  
Week 15: まとめ . If any debates remain unfinished we can wrap things up here. Exam explanation, and how to prepare.

## 成績評価の方法 /Assessment Method

First debate against the teacher - 20%,  
mid-term exam - 20%,  
end-of-term exam - 20%,  
student vs student debate - 10% (4 x 10=40%)



## Academic English IV 【昼】

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

A couple of things:

1. It's important to attend class. Being absent when you were meant to debate not only affects your grade but also possibly your friends' grades of your group.
2. Everything matters. Don't take things lightly, you can fail.
3. Although there is no book, come fully prepared to debate. Don't wing it.
4. Come with a positive can-do attitude.

### 履修上の注意 /Remarks

Remember that debate is an exchange of contrasting ideas and most of the time we can see the other side. Therefore keep a reasonable attitude and don't take things personally when someone disagrees with you. It's an important life skill!

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Although the plan at this time (03/01/20) is to conduct face-to-face classes on campus, there is a possibility that we will suddenly have to do 'remote learning'. If this happens, everything will be put onto Moodle and a TEAMS meeting will be schedule. Be ready, check your Internet connectivity, camera and microphone.

I do look forward to teaching you.

### キーワード /Keywords

# Academic English IV 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2 - 5

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG211M		◎	○	○	
科目名	Academic English IV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
英語を用いて基本的なコミュニケーションができる。  
正しい英語発音で表現することができる。  
効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

This course will focus on debate. Students will be given an opportunity to express themselves in this lively class. Although no topics are off-limits, issues that are prevalent to young people in Japan will be discussed. Students can expect to learn different ways of persuasive speaking.

## 教科書 /Textbooks

No textbook

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Course introduction, what to expect and course requirements, grading, homework, how to prepare and rules regarding attendance, arriving late, and mobile phone use in class.  
Schedule, how to write debate using 'TEEL', debate structure 3 vs 3.  
Week 2: Make small groups (2 or 3 people) and prepare for debate against the TEACHER. Decide your debate topic and which side (affirmative or negative). The teacher will take the opposite side.  
Week 3: The first four or five groups will debate against the teacher. (graded) Feedback given if time.  
Week 4: The second four or five groups will debate against the teacher. (graded) Feedback given if time  
Week 5: Time for a review. A look at sources, fake news, proper citation, negative campaigning, better ways to refute and giving immediate rebuttals. Commonly used expressions in debate. YouTube video links to check later.  
Week 6: Make new groups, decide topics and sides, prepare for the next debate. This time it's student vs student.  
Week 7: Student vs student debate. (graded)  
Week 8: Mid-term exam. 中間テスト This will be explained ahead of time. (graded)  
Week 9: Preparation week for the next debate, choose topic, side, and opponents.  
Week 10: Student vs student debates. (graded)  
Week 11: Preparation week for the next debate, choose topic, side, and opponents.  
Week 12: Student vs student debates. (graded)  
Week 13: Preparation week for the next debate, choose topic, side, and opponents.  
Week 14: Student vs student debates. (graded)  
Week 15: まとめ . If any debates remain unfinished we can wrap things up here. Exam explanation, and how to prepare.

## 成績評価の方法 /Assessment Method

First debate against the teacher - 20%,  
mid-term exam - 20%,  
end-of-term exam - 20%,  
student vs student debate - 10% (4 x 10=40%)

## Academic English IV 【昼】

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

A couple of things:

1. It's important to attend class. Being absent when you were meant to debate not only affects your grade but also possibly your friends' grades of your group.
2. Everything matters. Don't take things lightly, you can fail.
3. Although there is no book, come fully prepared to debate. Don't wing it.
4. Come with a positive can-do attitude.

### 履修上の注意 /Remarks

Remember that debate is an exchange of contrasting ideas and most of the time we can see the other side. Therefore keep a reasonable attitude and don't take things personally when someone disagrees with you. It's an important life skill!

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Although the plan at this time (03/01/20) is to conduct face-to-face classes on campus, there is a possibility that we will suddenly have to do 'remote learning'. If this happens, everything will be put onto Moodle and a TEAMS meeting will be schedule. Be ready, check your Internet connectivity, camera and microphone.

I do look forward to teaching you.

### キーワード /Keywords

# Academic English IV 【昼】

担当者名 /Instructor リーサ ハンズバーガー / Lisa M. Hunsberger / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2 - 6

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG211M		◎	○	○	
科目名	Academic English IV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
英語を用いて基本的なコミュニケーションができる。  
正しい英語発音で表現することができる。  
効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

The goal of this academic debate course is to help you begin talking about higher-level topics using academic English. In order to debate a topic, you must first gain more information about the topic in English. Therefore, reading (or listening) and writing will be important techniques to help you prepare for your debates. The most important thing in a debate is learning to be a critical thinker, because you will have to see both sides of an issue and decide which one is more persuasive to you.

## 教科書 /Textbooks

No textbook

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Course introduction, grading, homework, class rules, debate structure
2. Debate structure; make groups, decide debate topics and sides
3. Prepare for the first mini debate
4. Mini debate 1
5. Predicting and refuting arguments; make new groups, decide topics and sides
6. Prepare for the next debate
7. Mini debate 2
8. Rebuttals; make new groups, decide topics and sides, prepare for the next debate
9. Mini debate 3
10. Analysis of debates so far; tying it all together; make new groups, decide topics and sides
11. Prepare for the next debate
12. Mini debate 4
13. Make new groups, decide final debate topics and sides, prepare for the final debate
14. Final debate
15. Unfinished debates; wrap up

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation and assignment completion: 40%  
Mini-debates: 10% (4\*10 = 40%)  
Final debate: 20%

## Academic English IV 【昼】

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

This class, you will do a lot of research on your own and with your group members. You will read and listen to information in English and share your findings in English. To avoid ungrammatical sentences and expressions, writing in Japanese and translating it to English will be strictly prohibited. Additionally, being absent can affect your group's points, so attendance at all classes, especially on the days for debates, is mandatory.

Please purchase a small notebook, e.g. B4 or smaller, that you will use as a vocabulary notebook. Ensure that you bring this notebook to class every day along with your regular sized class notebook.

### 履修上の注意 /Remarks

Remember that debate is an exchange of contrasting ideas and most of the time we understand or even agree with the other side more than our own. That's okay! Just remember to keep a reasonable attitude, and don't take things personally when someone disagrees with you. What you will learn in this class is an important life skill.

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

I look forward to teaching you! Come prepared to enjoy class, work hard, and do your best.

### キーワード /Keywords

# English for Core Program 【昼】

担当者名 /Instructor アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科, 雪丸 尚美 / 英米学科  
平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科, ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科  
アーノルド・ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科, ロドルフォ デルガド / Rodolfo Delgado / 英米学科  
ブルック 前田 / Brooke Maeda / 英米学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG151M	◎		○		△
科目名	English for Core Program		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

DP に基づく 3 つの到達目標

知識: 英語学、社会文化、ビジネス研究に関する基礎的な知識を身につけている。

思考・判断・表現力: 英語学、社会文化研究、ビジネス研究の観点から論理的な思考・分析を行うことができる。

自立的行動力: スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

This course provides an overview of the areas of study approached in the three core programs offered within the curriculum of the Department of English. These three core programs are titled as follows:

Language and Education  
Society and Culture  
Global Business

The central aim of this course is to provide students with an introduction to the content, concepts, and key vocabulary that they will be asked to engage with in each of the three core programs. It is hoped that through taking this course students will develop a sense of the identity and direction of each of the core programs whilst broadening their English-language vocabulary and, relatedly, developing their reading, listening, and information processing skills.

English for Core Program will also include an explicit vocabulary component where you will learn 300 academic words. This is part of a plan for incoming students to learn academic words as a way to prepare for academic work in their zemi.

## 教科書 /Textbooks

Course materials will be provided by the lecturer on a weekly basis.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Information regarding further reading will be provided by the lecturers as the course progresses.

# English for Core Program 【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. a) Course Overview - A. Hailes  
b) Vocabulary Program Explanation + Anki Program Usage Explanation - J. Larson-Hall  
c) Vocabulary Program Pre-Test
- Language and Education
2. Language Change - K. Hirano
  3. Language Variation - K. Hirano
  4. How to best approach your English classes (recommendations from the field of Second Language Acquisition) - N. Yukimaru
  5. How languages are learned (findings from the field of Second Language Acquisition) - N. Yukimaru
- Society and Culture
6. What is Culture? - R. Williamson
  7. Tacit Assumptions: Hidden Rules - R. Williamson
  8. Elements of the American Dream - W. Arnold + Midterm Vocabulary Test
  9. The American Road Trip - W. Arnold
  10. Shakespeare's Theatre - A. Hailes
  11. The British Novel - A. Hailes
- Global Business
12. Introduction to Tourism Management - R. Delgado
  13. Destination Management and Marketing - R. Delgado
  14. Introduction to Finance - B. Maeda
  15. International Trade - B. Maeda + Final Vocabulary test

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Final grades will be based upon student performance in in-class and/or online tests, homework assignments, and the vocabulary program.

Each section of the course will be evaluated separately.

When calculating the final grade, results/scores for each section of the course will be weighted as follows:

- Language and Education - 25%
- Society and Culture - 30%
- Global Business - 25%
- Vocabulary Program - 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are advised to review every class by reading through each week's course materials after each lecture. Writing a summary of the key points of each lecture is a useful way to process course content.

Students will also be expected to review weekly vocabulary words at least 4 times per week using the Anki program in order to gain long-term knowledge of vocabulary.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# Introduction to English Linguistics 【昼】

担当者名 /Instructor ジェニファー・ラーソンホール / Jenifer Larson-Hall / 英米学科

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIN101M	◎		○		△
科目名	Introduction to English Linguistics				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連  
※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
 知識: 英語学に関する基礎的な知識を身につけている。  
 思考・判断・表現力: 英語学の観点から論理的な思考・分析を行うことができる。  
 自立的行動力: スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

This course gives an overview of many different areas of linguistics including:

- ・Phonology
- ・Morphology
- ・Syntax
- ・Pragmatics
- ・Semantics
- ・Sociolinguistics
- ・First and second language acquisition
- ・Animal communication

It is meant to give students a taste of the many different areas of study that are contained within the umbrella term "linguistics".

You should be able to give a sound answer to the questions given in the following areas after taking this course:

- ・Phonetics: What is the phonetic alphabet? What is a voiced sound?
- ・Morphology: What kinds of parts can we divide words into?
- ・Syntax: How is meaning shown by the structure of sentences?
- ・Pragmatics: How do people mean more than what they say?
- ・Semantics: How do we know what words mean?
- ・Sociolinguistics: How do word choices relate to peoples' different social groups or situations?
- ・First and second language acquisition: How do human beings learn a first language and is that different from how they learn a second language?
- ・Animal communication: How does animal communication differ from human language? Can any animals 'speak' to us?

## 教科書 /Textbooks

There is no textbook for this class because I have not been able to find anything appropriate. Therefore, you will have to rely heavily on your notes for this class, making it even more important to come to class and to understand what we are doing. I will have readings available which may help you to understand better what I am saying in class, but the things covered in class may not always be exactly the same as the readings. Take a look at them and see if they are helpful for you for understanding each chapter.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

○ Fromkin, V. & Rodman, R. An Introduction to Language.



# Introduction to English Linguistics 【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introduction  
Week 2: Reading IPA  
Week 3: Phonetics  
Week 4: Morphology (words)  
Week 5: Prefixes and Suffixes  
Week 6: Sentences  
Week 7: Syntax and Ambiguity  
Week 8: Midterm Review  
Week 9: Midterm Exam  
Week 10: First Language acquisition  
Week 11: Second Language acquisition  
Week 12: Sociolinguistics  
Week 13: Pragmatics  
Week 14: Animal Communication  
Week 15: Review for final exam

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Weekly Quizzes: 35%  
Midterm exam 30%  
Final exam 35%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Weekly homework will be given out and answers may be checked online. Doing homework will prepare students for weekly quizzes on the material.

## 履修上の注意 /Remarks

This class moves fast. Be prepared to work hard to keep up with the large amount of information that we cover.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

linguistics, foundation

# Introduction to Cultural Comparison 【昼】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
MCC101M	◎		○		△
科目名	Introduction to Cultural Comparison		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
 知識：異文化に関する多様な知識を身につけている。  
 思考・判断・表現力：異文化について複眼的に思考し考えを述べることができる。  
 自立的行動力：専門知識を活かしてグローバル人材として社会貢献する姿勢を有している。

The aim of the course is to help students understand that culture is much deeper and more complex than basic differences in clothing or ethnic cuisine. Students will gain a greater understanding of fundamental concepts and terms used in comparing cultures. Another goal is to improve speaking, reading and critical thinking skills in English. Students will make presentations and submit short papers in English.

## 教科書 /Textbooks

『This Is Culture 理論と実践で学ぶ異文化間コミュニケーション』南雲堂

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

The instructor will provide other handouts when necessary. Students will also be responsible for conducting research in the library and online for presentation and papers.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . Introduction to the Course
- 2 . What does "Culture" mean?
- 3 . Cultural Rules for Acceptable Behavior
- 4 . Stereotyping
- 5 . Seeing Stereotypes and Different Perspectives through Film
- 6 . Media and Culture
- 7 . Nonverbal Communication
- 8 . Cultural Perspectives of Time
- 9 . Touch and Space
- 10 . Verbal Communication Norms
- 11 . The Individual and the Group
- 12 . Student Presentations on Culture A
- 13 . Student Presentations on Culture B
- 14 . Student Presentations on Culture C
- 15 . Student Presentations on Culture D

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Class Participation and Assignments 50% Presentation and Paper 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should review read the text of each chapter before class and be ready for weekly discussion in English.  
 All work will be done in English.

## 履修上の注意 /Remarks

Students should have a TOEIC Score of 550 or more to take this class.

# Introduction to Cultural Comparison 【昼】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Students should be prepared to use English in class. All work will be done in English.

## キーワード /Keywords

# Introduction to Film, Literature, and Theatre 【昼】

担当者名 /Instructor アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIT101M	◎		○		△
科目名	Introduction to Film, Literature, and Theatre				
	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。				

## 授業の概要 /Course Description

DP に基づく 3 つの到達目標

知識: 映画理論, 文学論, 演劇論に関する基礎的な知識を身につけている。

思考・判断・表現力: 映画理論, 文学論, 演劇論の観点から論理的な思考・分析を行うことができる。

自立的行動力: スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

Introduction to Film, Literature, and Theatre focuses on how human cultural life can be analysed. The aim is to teach students how to take cultural life apart (like a car mechanic breaking a car into its separate elements) so that we can understand how our films, novels, poetry, and plays work. Throughout the course art products will be considered to be important in that they can direct human thinking and behaviour. This means that this course will define our films, novels, poetry, and plays as providing instruction, or guidance, on how humans should live - or how our thinking and organising of society could be improved.

## 教科書 /Textbooks

Michael Ryan, An Introduction to Criticism: Literature/Film/Culture: From Critical Analysis to Analytic Writing (Chichester: Wiley-Blackwell, 2012)

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

John Hill and Pamela Church Gibson, eds. Film Studies: Critical Approaches (Oxford: Oxford University Press, 2000) 778/H58

Vincent B. Leitch, Cultural Criticism, Literary Theory, Poststructuralism (New York: Columbia University Press, 1992 ) 902/L53

Johannes Birringer, Theatre, Theory, Postmodernism (Bloomington: Indiana University Press, 1993) 770/B46

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 Introduction
- 2 Formalism: Citizen Kane
- 3 Structuralism: Uncle Tom's Children
- 4 Historical Criticism: Gold Diggers of 1933
- 5 Psychoanalysis and Psychology: Mrs Dalloway
- 6 Marxism and Political Criticism: Iron Man
- 7 Post-Structuralism and Deconstruction: The Matrix
- 8 Gender Criticism: Fight Club
- 9 Ethnic, Post-Colonial, and Transnational Criticism: My Beautiful Laundrette
- 10 Scientific Criticism: The Searchers
- 11 Film Studies: Michael Clayton
- 12: Cultural Studies: Punk rock
- 13: Theatre Studies: The Shakespearean Playhouse
- 14: Summary 1: Criticism beyond the classroom
- 15: Summary 2: The relevance of 'difference'

## 成績評価の方法 /Assessment Method

1 X 700-word essay - 100%

# Introduction to Film, Literature, and Theatre 【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be encouraged to read relevant sections of the textbook prior to each class so as to develop a degree of familiarity with the vocabulary and ideas that will be used. Rereading after class will also be encouraged.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# Introduction to Tourism Management 【昼】

担当者名 /Instructor 口ドルフォ デルガド / Rodolfo Delgado / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS102M	◎		○		△
科目名	Introduction to Tourism Management		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
 観光事業を管理運営するのに必要な知識を身につけている。  
 観光事業を文化、社会的な面から立案し治安することができる。  
 専門知識を活かして観光立国にふさわしい事業提案をする力を身につけている。

The general course objective is to give students the opportunity to develop knowledge of the Tourism Management Industry.

The specific objectives of the course are:

- Students will be able to learn the language and specialized terminology required in the Tourism Industry.
- Acquire professional skills required in the service industry.
- Analyze Case Studies.
- Discuss innovating trends.

## 教科書 /Textbooks

Tourism: Principles and Practice (English Edition) 6th Edition, Kindle Edition

Authors: John Fletcher, Alan Fyall, David Gilbert and Stephen Wanhill

Publisher: Pearson

Year: November, 2017

Kindle (Digital Version) available at Amazon.co.jp. Price: ¥ 5,388

\*It is recommended that students buy the Kindle (Digital Version) of the textbook because the hard copy takes a long time to be delivered. This textbook will also be used for Tourism Policy I and II (And the Tourism Seminar).

This course will cover only part I of the textbook.

(Tourism Policy I, will cover part 2; Tourism Policy II, will cover part 3, and the Tourism Seminar will cover part 4).

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

References will be recommended.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1- Course Introduction. Introduction to Tourism
- 2- Introduction to Tourism Management
- 3- The Nature of Tourism Demand
- 4- The Nature of Tourism Demand
- 5- Tourism Consumer Behavior
- 6- Tourism Consumer Behavior
- 7- Measuring Tourism Demand and Managing Overtourism
- 8- Measuring Tourism Demand and Managing Overtourism
- 9- Measuring Tourism Demand and Managing Overtourism
- 10- Forecasting Tourism Demand
- 11- Forecasting Tourism Demand
- 12- Forecasting Tourism Demand
- 13- Presentation of Final Paper
- 14- Presentation of Final Paper
- 15- Presentation of Final Paper

# Introduction to Tourism Management 【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

25% Class Participation; 25% Essays Writing; 25% Final Presentation; 25% Final Paper.

Students are required to write a 1000 words essay on how to manage overtourism in Japan.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are asked to review the course material before and after class.

## 履修上の注意 /Remarks

Please be always on time and do not miss more than 5 classes to obtain the course's credits.

Please buy an electronic version of the textbook online at amazon.co.jp

Kindle (Digital Version) available at Amazon.co.jp. Price: ¥ 5,388

\*It is recommended that students buy the Kindle (Digital Version) of the textbook because the hard copy takes a long time to be delivered. This textbook will also be used for Tourism Policy I and II (And the Tourism Seminar).

This course will cover only part I of the textbook.

(Tourism Policy I, will cover part 2; Tourism Policy II, will cover part 3, and the Tourism Seminar will cover part 4).

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

I am looking forward to seeing you in class!

## キーワード /Keywords

Tourism, Management, Destination, Customer, Service, Business.

# Introduction to Economics 【昼】

担当者名 /Instructor オム ウォンソブ / Eum Wonsub / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN101M	◎		○		△
科目名	Introduction to Economics			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

## 授業の概要 /Course Description

This course introduces the fundamentals of economics. The first half of the course focuses on microeconomics, on the individual decision-making process as a producer or a consumer. The second half of the course introduces the concepts of macroeconomics, such as economic growth and unemployment. At the end of the semester, students should be able to apply micro- and macroeconomic theories and models to hypothetical situations to find solutions, and provide logical explanations of applied models and solutions.

(到達目標)

【知識】英語で経済学の知識を身につけている。

【思考・判断・表現力】英語で経済学の知識を活かしてビジネスに活かすことができる。

【自立的行動力】スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

## 教科書 /Textbooks

Taylor, T., Greenlaw, S. A., & Dodge, E. (2017). Principles of Economics. This book is an open textbook, and available at: <https://open.umn.edu/opentextbooks/textbooks/191>

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

The instructor will suggest appropriate references as needed.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction to Economics (Chap. 1)
2. Choices and Scarcity (Chap. 2)
3. Demand and Supply (Chap. 3)
4. Elasticity (Chap. 5)
5. Consumer Theory (Chap. 6)
6. Producer Theory (Chap. 7)
7. Perfect Competition (Chap. 8)
8. Monopoly (Chap. 9)
9. Mid-term
10. Introduction to Macroeconomics (Chap. 19)
11. Economic growth (Chap. 20)
12. Unemployment (Chap. 21)
13. Inflation (Chap. 22)
14. Aggregate Supply and Demand I (Chap. 24)
15. Aggregate Supply and Demand II (Chap. 24) & Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Class Participation (Preparation, Participation) 30%, Mid-term 30%, Final (cumulative) 40%. Scores from any pop quizzes that take place will be included in the 'Class Participation' assessment method category.



# Introduction to Economics 【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Previewing and reviewing key concepts will not only help understanding, but also save time during mid-term and final exam seasons. If you preview the class materials, you will be more comfortable and more productive in class discussions, which will eventually lead to a higher grade.

## 履修上の注意 /Remarks

Previewing the materials will greatly help you to enjoy the classes as the classes will be interactive.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

If you have any questions regarding the course material before the semester, or need any help regarding the course during the semester, send me an email. I will be more than happy to assist you in your studies.

## キーワード /Keywords

Microeconomics, Macroeconomics, Market Mechanism, Supply and Demand, Economic Growth

# Introduction to Business 【昼】

担当者名 /Instructor 寺田 真一郎 / Shinichiro Terada / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS101M	◎		○		△
科目名	Introduction to Business			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

知識：英語で経営学の範囲を理解する。

思考・判断・表現力:英語で経営学の初歩的なフレームワークを使い分析する。

自律的行動力: スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

The aim of this course is to help students understand the overview of business studies. For this purpose, the course is designed as a collection of introductory parts of main business study areas, such as marketing, operations, business ownership, and finance.

The class style is not a one-way lecture, but rather discussions on frameworks and case studies.

Students do not need any prerequisite studies for this course. Any students, not only ones who are focusing on business studies but also the ones who are just curious about business, can enjoy this course.

## 教科書 /Textbooks

DK. (2015). HOW BUSINESS WORKS: THE FACTS visually explained. Penguin Random House. ISB 978-1-4654-2979-7

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

The instructor will introduce materials when needed.

# Introduction to Business 【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Introduction  
1. What are business studies?
- Sales and Marketing  
2. Marketing Mix  
3. Marketing Approaches  
4. Outbound/Inbound Marketing  
5. Business Development
- Operations and Production  
6. Management  
7. Supply Chain
8. Mid-term Quiz and Review
- Companies  
9. Business Ownership  
10. Start-ups  
11. Who's who  
12. Corporate Structure
- Accounting / Finance  
13. Financial Accounting  
14. Raising Finance
15. Final Quiz and Review

(Schedules and contents are subject to change.)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- Class participation - 20%  
Presentation, Discussion - 40%  
Mid-term and Final Quiz - 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be encouraged to review the class materials to understand the frameworks and case studies.  
Students have to take two quizzes.

## 履修上の注意 /Remarks

Students do not need any prerequisite studies, but need skills to make slides for their presentation.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Enjoy!

## キーワード /Keywords

Business Studies, Marketing, Operation, Business ownership, Accounting, Finance

# English Conversation 【昼】

担当者名  
/Instructor

ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG251M	◎		○		△
科目名	English Conversation		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

This course uses high-interest themes to integrate speaking, grammar, vocabulary, pronunciation, listening, reading, and writing. There is a strong focus on both accuracy and fluency. The underlying philosophy of the course remains that language is best learned when it is used for meaningful communication. The course covers contemporary, real world topics that are relevant to students' lives. Students have background knowledge and experience with these topics, so they can share opinions and information productively.

(到達目標)

【知識】英会話に必要な基礎的な知識を身につけている。

【思考・判断・表現力】英会話を通して自分の考えや意見を適切に表現することができる。

【自立的行動力】スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

## 教科書 /Textbooks

Interchange 3 5th edition Cambridge University Press J.C Richards

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Students should have a dictionary available

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Describing personalities. expressing likes and dislikes
- 2回 Relative pronouns as subjects and objects- linked sounds
- 3回 Talking about unusual careers, describing jobs pros and cons
- 4回 Stress with compound nouns-gerunds with modals and if
- 5回 Making unusual requests and making indirect requests
- 6回 Unreleased consonants and writing an informal mails
- 7回 Narrating a story-part continuous vs simple past, past perfect
- 8回 Intonation in complex sentences, listening to news broadcasts
- 9回 Talking about moving abroad, describing cultural expectations
- 10回 Word stress in sentences and listening for information
- 11回 Describing problems and making complaints
- 12回 Contrasting stress listening to people exchanging information
- 13回 Identifying problems and coming up with solutions
- 14回 Reduction auxiliary verbs listening to environmental problems
- 15回 Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

80% Exam 20% Peer journal

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are expected to do a weekly peer journal and exchange it with fellow students and respond to them.

## 履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 英語リスニング演習 【昼】

担当者名 /Instructor 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 1・ 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG252M	◎		○		△
科目名	英語リスニング演習			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

## 授業の概要 /Course Description

本授業は英語のリスニングスキルの上達を目的とします。オーディオ教材を利用して、語彙・表現・聴き取り等の練習をします。情報を正確に聴き取るために必要なリスニング力を強化することで、総合的なコミュニケーション能力を高めることを目標とします。

(到達目標)

- 【知識】リスニングに必要な基礎的な知識を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】リスニングで得た知識や自分の意見を適切に表現することができる。
- 【自立的行動力】スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

## 教科書 /Textbooks

Paul Dummett 他. 『Keynote 3A』 Cengage Learning. 2017年.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Unit 1 Making a Difference: Lessons A & B
- 3回 Unit 1 Making a Difference: Lessons C & D
- 4回 Unit 2 Trends: Lessons A & B
- 5回 Unit 2 Trends: Lessons C & D
- 6回 Unit 3 Improving Lives: Lessons A & B
- 7回 Unit 3 Improving Lives: Lessons C & D
- 8回 Review and Test: Units 1, 2 & 3
- 9回 Unit 4 Designing the Web: Lessons A & B
- 10回 Unit 4 Designing the Web: Lessons C & D
- 11回 Unit 5 Community Builders: Lessons A & B
- 12回 Unit 5 Community Builders: Lessons C & D
- 13回 Unit 6 Clear Communication: Lessons A & B
- 14回 Unit 6 Clear Communication: Lessons C & D
- 15回 Review and Test: Units 4, 5 & 6

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(2回) ...50%、課題(毎回) ... 40%、平常の学習状況 ... 10%  
欠席・遅刻はマイナス評価。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行ってください。

## 履修上の注意 /Remarks

出席・参加を重視します。3分の2以上の出席が必要です。必ず教科書と辞書を持参して下さい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 英語リスニング演習 【昼】

担当者名 /Instructor 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 3・2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG252M	◎		○		△
科目名	英語リスニング演習			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

## 授業の概要 /Course Description

本授業は英語のリスニングスキルの上達を目的とします。オーディオ教材を利用して、語彙・表現・聴き取り等の練習をします。情報を正確に聴き取るために必要なリスニング力を強化することで、総合的なコミュニケーション能力を高めることを目標とします。

(到達目標)

- 【知識】リスニングに必要な基礎的な知識を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】リスニングで得た知識や自分の意見を適切に表現することができる。
- 【自立的行動力】スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

## 教科書 /Textbooks

Paul Dummett 他. 『Keynote 3A』 Cengage Learning. 2017年.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Unit 1 Making a Difference: Lessons A & B
- 3回 Unit 1 Making a Difference: Lessons C & D
- 4回 Unit 2 Trends: Lessons A & B
- 5回 Unit 2 Trends: Lessons C & D
- 6回 Unit 3 Improving Lives: Lessons A & B
- 7回 Unit 3 Improving Lives: Lessons C & D
- 8回 Review and Test: Units 1, 2 & 3
- 9回 Unit 4 Designing the Web: Lessons A & B
- 10回 Unit 4 Designing the Web: Lessons C & D
- 11回 Unit 5 Community Builders: Lessons A & B
- 12回 Unit 5 Community Builders: Lessons C & D
- 13回 Unit 6 Clear Communication: Lessons A & B
- 14回 Unit 6 Clear Communication: Lessons C & D
- 15回 Review and Test: Units 4, 5 & 6

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(2回) ...50%、課題(毎回) ... 40%、平常の学習状況 ... 10%  
欠席・遅刻はマイナス評価。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行ってください。

## 履修上の注意 /Remarks

出席・参加を重視します。3分の2以上の出席が必要です。必ず教科書と辞書を持参して下さい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor



キーワード /Keywords

# 英語リスニング演習 【昼】

担当者名 /Instructor 廣田 恵美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 5・2 - 6

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG252M	◎		○		△
科目名	英語リスニング演習		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、ニュース映像のリスニングを用いて、リスニング力の向上や語彙力の向上をめざします。またニュースで扱われた題材の内容を解説し、そこで提示された問題などに関して、みんなで考えていきたいと思えます。授業では1つのunitを原則1回で進んでいく予定ですが、学習者の関心や授業形態により、内容や授業ペースを適宜変更する可能性があります。

英語リスニング演習 ◎○△ リスニングに必要な基礎的な知識を身につけている。リスニングで得た知識や自分の意見を適切に表現することができる。スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

## 教科書 /Textbooks

『CBS News Break 4』(Nobuhiro Kumai, Stephen Timson著) 成美堂 2019年 2,400円

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の概説、Unit 1 Japan : Unusual Rental Universe
- 2回 Unit 1の続き さまざまなレンタル
- 3回 Unit 2 Is Coffee the Secret to a Longer Life? コーヒーの効用
- 4回 Unit 3 Lost in Translation 中国の英語教育に見られる誤訳
- 5回 Unit 4 Lack of Sleep Costs Americans Billions of Dollars Each Year 寝不足が起こす問題
- 6回 Unit 5 Your Smartphone is Making You a Workplace Slacker スマートフォンが仕事にもたらす弊害
- 7回 Unit 6 Do Happy People Live Long? 幸せな人は長生きか
- 8回 Unit 7 Selling Charity 寄付で利益を上げるビジネス
- 9回 Unit 8 The Power of Music 記憶を呼び覚ます音楽の力
- 10回 Unit 9 A Stitch in Time 古着でホームレスを支援
- 11回 Unit 10 How Microfibers in Clothes are Polluting Our Oceans マイクロファイバーによる海洋汚染
- 12回 Unit 11 True Meaning of Christmas Found in Family's Magical Reunion クリスマスの奇跡
- 13回 Unit 12 The Joy of Cleaning 世界に広がる片付けの極意
- 14回 Unit 13 High Schooler's "Sit With Us" App Tackles Lunchtime Bullying いじめをなくすアプリの開発
- 15回 Unit 14 Japan Battles Population Decline with Robots 人口減を支援するロボット

## 成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、日頃の授業への取り組み...20% 課題等提出物...30% 定期試験...50%で評価する予定ですが、授業形態により変更する可能性があります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回学習予定箇所に必ず目を通し、知らない語句などを調べておくこと。復習としては、授業で扱った映像を再度見て、内容の理解に努めること。(必要な学習時間の目安は予習60分、復習60分です。)

## 履修上の注意 /Remarks

授業時に必ず辞書（紙または電子）を持ってくること。スマートフォンの辞書アプリの使用は認められません。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

無届けによる遅刻や欠席が一定回数を上回る場合、単位取得が難しくなる可能性があるのでご注意ください。

## キーワード /Keywords

current English, international affairs

# Second Language Acquisition 【昼】

担当者名 /Instructor 雪丸 尚美 / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

112100-LIN253M-010 授業で身につけるべき学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIN253M	◎		○		△
科目名	Second Language Acquisition				※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本授業は第二言語習得や英語教育の諸問題に関する基礎的な知識の涵養を目的とする。取り扱うテーマは、母語習得と第二言語習得、言語習得の年齢に関する問題と児童英語教育、学びのユニバーサルデザインと発達障害、外国語適性とパーソナリティ、動機づけ、外国語教授法の変遷などである。予習した内容に基づき、第二言語習得や英語教育に関するさらなる理解を目指して講義を行う。  
オンラインで予習・復習課題の提出を課す。また、対面授業ではグループでの議論や発表も頻繁に行うため、授業への積極的な参加が求められる。

教員志望に限らず、第二言語習得や英語教育に関心のある学生を対象とする。教員免許取得を目指す学生は、本授業を受講することで2年次および3年次開講の「英語科教育法」での学びがより深まると思われる。

また、2学期開講の「Language Teaching/英語学研究II(英語教育)」ではより実践的な内容を扱うため、あわせての受講を勧める。

### 【到達目標】

- DP1 知識：第二言語習得に関する基礎的な知識を体系的に身につけている。  
DP3 思考・判断・表現力：第二言語習得の観点から論理的な思考・分析を行うことができる。  
DP5 自立的行動力：スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

## 教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 白井恭弘『外国語学習の科学-第二言語習得論とは何か(岩波新書)』(2008年、岩波書店)
- 新多了、馬場今日子『はじめての第二言語習得論講義:英語学習への複眼的アプローチ』(2016年、大修館書店)
- パトラー後藤裕子『英語学習は早いほど良いのか(岩波新書)』(2015年、岩波書店)
- 廣森友人『英語学習のメカニズム-第二言語習得研究にもとづく効果的な勉強法』(2015年、大修館書店)

その他、必要に応じて授業で紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画は以下のとおりであるが、履修者の理解や関心に応じて内容や進度を調整する。

1. オリエンテーション
2. 第二言語習得研究とは
3. 母語習得の理論
4. 母語と第二言語との関係
5. インプットとアウトプット
6. 外国語教育における教授法の変遷①【文法中心の教授法】
7. 外国語教育における教授法の変遷②【コミュニケーション中心の教授法】
8. 小テスト(1回目)
9. 外国語適性とパーソナリティ
10. 多様な学習者【学びのユニバーサルデザイン、発達障害と外国語教育】
11. 動機づけ
12. 学習方略
13. 臨界期仮説と子どもに対する英語教育
14. 様々な英語【World Englishes】
15. 小テスト(2回目)及び総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

成績は(1)授業参加に対する積極性10%、(2)課題の提出25%、(3)小テスト(2回)65%によって評価する。小テストは60分間の論述試験を予定している。

※ 対面授業の場合、4回以上欠席したものは成績評価の対象としない。

※ オンラインでの授業となった場合には、評価の方法を変更する可能性がある。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

<事前学習> 授業内容に関する日本語・英語の資料を読む。資料の指定は授業中に行う。また、翌週の授業内容に関する質問にMoodleで回答する。毎回1時間~1時間半程度は必要。

<事後学習> 授業で扱った内容に関する質問への回答をMoodleで提出する。毎回15~30分程度は必要。

## 履修上の注意 /Remarks

原則として英米学科の学生を対象とするが、他学部・学科の学生も歓迎する。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

少々難易度の高い授業になるので、集中して受講すること。

## キーワード /Keywords

# Phonetics and Phonology 【昼】

担当者名 /Instructor ジェニファー・ラーソンホール / Jenifer Larson-Hall / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIN211M	◎		○		△
科目名	Phonetics and Phonology			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
 知識: 音声学・音韻論に関する基礎的な知識を身につけている。  
 思考・判断・表現力: 音声学・音韻論の観点から論理的な思考・分析を行うことができる。  
 自立的行動力: スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。  
 The purpose of this course is to introduce you to the analysis of physical sounds, a study called Phonetics. Japanese students can benefit from understanding how the sounds of English are related to the spelling of English, which in turn can help them better pronounce English words (although probably not become better spellers!). Since neither English nor Japanese has letters adequate to precisely convey the sounds of English, we will learn a different alphabet called the International Phonetic Alphabet, which can actually describe the sounds of any language in the world. In addition, in every language, speakers think they are saying sounds that they actually are not, so that their psychological view of the sounds of language differs from the physical sounds of language. We will learn to categorize sounds so as to better understand the patterns of this psychological organization of sounds, which is called phonology.  
 The goals of this course are:  
 1) To help you understand how English spelling and sounds are related  
 2) To help you better pronounce English  
 3) To describe sounds (phones) with a formal system (called the International Phonetic Alphabet)  
 4) Identify the phones (sounds) of English  
 5) Learn what a phoneme is and how they differ from phones

## 教科書 /Textbooks

Avery, Peter & Ehrlich, Susan. (1992). Teaching American English Pronunciation. Oxford Handbooks for Language Teachers.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- Roach, P. English phonetics and phonology: A practical course (2nd edition).
- Wells, J. C. Sounds fascinating: Further observations on English phonetics and phonology.
- Carr, P. 英語音声学・音韻論入門

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introduction  
Week 2: Spelling and pronunciation  
Week 3: Vowels  
Week 4: Short vs. long vowels  
Week 5: Voicing, manner and place of articulation for consonants  
Week 6: Identifying consonants by categories  
Week 7: Place of articulation for vowels  
Week 8: Review for midterm exam  
Week 9: Midterm  
Week 10: The shape of English words  
Week 11: English sounds in context  
Week 12: Word stress and vowel reduction  
Week 13: English syllabus structure  
Week 14: Problems of pronunciation for Japanese speakers of English  
Week 15: Review for final

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Weekly Quizzes: 35%  
Midterm Test:30%  
Final Exam:35%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Weekly homework will be given out and answers may be checked online. Doing homework will prepare students for weekly quizzes on the material.

## 履修上の注意 /Remarks

This class moves fast. Be prepared to work hard to keep up with the large amount of information that we cover.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

linguistics, phonetics, spelling

担当者名 /Instructor 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIN212M	◎		○		△
科目名	社会言語学				※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本講義は社会言語学の基礎知識を学び、日常における様々な言語現象を観察し理解する力を身につけることが目的です。ことばは様々な要因によって影響を受け、変化やバリエーションが生じます。どのような要因がどのような影響を与えるのか、また私たちはことばをどのように駆使しているのかを、社会言語学の視点から考えます。ことばと社会との関係、そこに生じる諸問題を理解することがこの授業の狙いです。

(到達目標)

- 【知識】社会言語学に関する基礎的な知識を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】社会言語学の観点から論理的な思考・分析を行うことができる。
- 【自立的行動力】スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

## 教科書 /Textbooks

ハンドアウトを配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業時に紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回社会言語学とは
- 2回英語の地域変種
- 3回標準英語と非標準英語
- 4回ことばと社会階級
- 5回ことばと性(1) コミュニケーションとジェンダー
- 6回ことばと性(2) バリエーションとジェンダー
- 7回ことばと年齢
- 8回ことばと人種・民族
- 9回ことばとソーシャルネットワーク
- 10回ことばとスタイル
- 11回ことばの変化
- 12回方言接触(1) 第二方言習得
- 13回方言接触(2) コイネ化
- 14回言語接触
- 15回まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の課題 ...50% ; 学期末テスト...50%  
欠席・遅刻はマイナス評価。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業後に講義内容を復習し、関連する言語現象を観察してください。

## 履修上の注意 /Remarks

出席・参加を重視します。3分の2以上の出席が必要です。



担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 廣田 恵美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIN231M	◎		○		△
科目名	英文法I			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、主に動詞、tenseとaspect、不定詞・動名詞・分詞などの性質や使い方を学習していきます。いわゆる「受験文法」とは異なり、テキストの内容を題材に、「なぜそうなるのか?」「実際にどう使いこなせばいいのか?」などを実践的に考えていきます。また、教員を目指す人や教える仕事に関わっている人のために、効果的な説明の仕方なども具体例を多数交えて説明していきます。なお、授業内容や授業ペースは、学習者の関心や学力・授業形態により、適宜変更する可能性があります。

英文法I◎○△ 英文法に関する基礎的な知識を身につけている。英文法の観点から論理的な思考・分析を行うことができる。スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

## 教科書 /Textbooks

『英文法のエッセンス』（江藤裕之著）、大修館書店 2015年 1,400円

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

『英文法ビフォー&アフター』（豊永 彰著）、南雲堂 2009年 1,400円

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の概説、1. 動詞の基本時制 現在が表すもの
- 2回 過去、未来を表す様々な表現
- 3回 現在完了(1) 現在完了の基本概念、tenseとaspect
- 4回 現在完了(2) 現在完了と過去の違い
- 5回 過去完了、未来完了
- 6回 進行形(1) 進行の基本概念、現在進行
- 7回 進行形(2) 過去進行、未来進行、完了進行
- 8回 助動詞(1) それぞれの助動詞が持つ本質的意味
- 9回 助動詞(2) それぞれの助動詞の使い方
- 10回 仮定法(1) 仮定法の基本概念
- 11回 仮定法(2) 仮定法の使い方、不定詞(1)
- 12回 不定詞(2)、動名詞 不定詞と動名詞の使い分け
- 13回 分詞(1) 分詞の働き
- 14回 分詞(2) 分詞構文、不定詞・動名詞・分詞の共通項目
- 15回 今学期の総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...20% 定期試験...80% (ただし、授業形態により変更する可能性あり)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された次回の学習予定箇所を必ず読んでおくこと。また復習としてはテキストやノートを読み返しておくこと。(必要な学習時間の目安は予習60分、復習60分です。)

## 履修上の注意 /Remarks

授業時に辞書（紙または電子）を持ってくること。スマートフォンの辞書アプリの使用は認められません。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

無届けの遅刻や欠席が一定回数を上回る場合、単位の取得が難しくなる可能性があるのでご注意ください。

## キーワード /Keywords

動詞句、tenseとaspect

担当者名 /Instructor 廣田 恵美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIN232M	◎		○		△
科目名	英文法II			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

## 授業の概要 /Course Description

1学期の「英文法I」と同じテキストの後半の内容を学習します。この授業では、名詞・冠詞・形容詞・副詞・接続詞・関係詞など、特に英語を書く際に知っておきたい文法項目に重点を置きます。授業の進め方は1学期と同様、内容を説明しながら、皆さんと一緒に各項目について考えていく形式です。また、2学期からの受講も可能です。なお、受講者の関心や授業形態により、適宜、授業内容や授業ペースを変更する可能性があります。

英文法II ◎△ 英文法に関する基礎的な知識を身につけている。英文法の観点から論理的な思考・分析を行うことができる。スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

## 教科書 /Textbooks

『英文法のエッセンス』（江藤裕之著）大修館書店 2015年 1,400円

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

『英文法ビフォー&アフター』（豊永 彰著）南雲堂 2009年 1,400円

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の概説、名詞の種類
- 2回 数えられる名詞・数えられない名詞
- 3回 不定冠詞、定冠詞(1) theの基本概念
- 4回 定冠詞(2) theの具体的な用法、zero article
- 5回 形容詞(1) 形容詞の用法、形容詞の並べ順
- 6回 形容詞(2) 形容詞の並べ順の続き、副詞(1) 副詞とは
- 7回 副詞(2) 副詞の特徴
- 8回 比較の用法
- 9回 前置詞(1) 前置詞の"core meaning"とは何か
- 10回 前置詞(2) さまざまな前置詞の使い方
- 11回 接続詞 接続詞と接続副詞の違い
- 12回 関係詞(1) 関係詞の注意すべき用法
- 13回 関係詞(2) 前置詞+関係詞、関係副詞の性質
- 14回 関係詞(3) 関係副詞の使い方
- 15回 今学期の総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...20% 定期試験...80% 但し、授業形態によって変更する可能性があります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回学習予定個所の項目を必ず読んでおくこと。復習としては、テキストとノートを読み返すこと。(必要な学習時間の目安は予習60分、復習60分です。)

## 履修上の注意 /Remarks

授業時に必ず辞書(紙または電子)を持ってくること。スマートフォンの辞書アプリの使用は認められません。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

無届けの遅刻や欠席が一定回数を上回る場合、単位取得が難しくなる可能性があるのでご注意ください。

## キーワード /Keywords

名詞句、"使える英文法"

担当者名 /Instructor 雪丸 尚美 / 英米学科

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIN251M	◎	○		△	
科目名	Language Teaching		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

本授業は外国語（英語）教育に関する専門的な知識と技能の涵養を目的とする。取り扱うテーマは、主に教材作成とテストングおよび評価である。予習した内容に基づき、外国語（英語）教育に関するさらなる理解を目指して講義を行う。教室内外での教材作成や、オンラインで課題の提出を課す。また、グループでの議論や発表を頻繁に行うため、授業への積極的な参加が求められる。

教員志望に限らず、外国語（英語）教育に関心のある学生を対象とする。教員免許取得を目指す学生は、本授業を受講することで、2～3年次開講の「英語科教育法」での学びがより深まると思われる。

また、1学期開講の「Second Language Acquisition」では第二言語習得や英語教育に関する基礎的な知識を学習する。本授業で扱うテーマに必須の知識となるため、あわせての受講を強く勧める。

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

知識: 言語指導に関する基本的な知識を身につけている。

技能: 言語指導を行うスキルを身につけている。

コミュニケーション力: 学習者と協働して効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

## 教科書 /Textbooks

笠原究、佐藤臨太郎『英語テスト作成入門効果的なテストで授業を変える!』（2018年、金星堂）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○ 新多了、馬場今日子『はじめての第二言語習得論講義: 英語学習への複眼的アプローチ』（2016年、大修館書店）

○ 廣森友人『英語学習のメカニズム - 第二言語習得研究にもとづく効果的な勉強法』（2015年、大修館書店）

○ 手島良『これからの英語文字指導』（2019年、研究社）

その他、必要に応じて授業で紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画は以下のとおりであるが、履修者の理解や関心に応じて内容を調整する。

1. オリエンテーション
2. 英語のユニバーサルデザイン授業・教材作成の概要
3. アルファベット文字の導入
4. アルファベット文字の定着
5. 単語の読み書き指導の工夫
6. 文の読み書き指導の工夫
7. 板書・掲示物の作成
8. プリント教材の作成（中間課題の提出）
9. テスティングと評価の概要
10. テストの妥当性・信頼性・波及効果・実用性
11. 妥当性・信頼性を考慮した問題の作成
12. 多肢選択問題の作成
13. 語彙テスト・文法テストの作成
14. リーディングテスト・ライティングテストの作成
15. 総括（最終課題の提出）

## 成績評価の方法 /Assessment Method

成績は ( 1 ) 授業参加に対する積極性10% , ( 2 ) 通常課題への取り組み40% , ( 3 ) 中間および最終課題 ( ワークシート作成と定期テスト作成 ) 50% によって評価する。

※ 対面授業の場合、4 回以上欠席したものは成績評価の対象としない。

※ オンライン授業となった場合、評価の内容を変更する可能性がある。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

< 事前学習 > 授業内容に関する資料を読み、教材やテストを作成したり、予習をMoodleで提出したりする。資料の指定は授業中に行う。毎回1時間~1時間半程度。

< 事後学習 > 授業内容に関する課題をMoodleで提出する。授業で扱った内容に関する文献を読み、理解を深める。毎回15分程度。

## 履修上の注意 /Remarks

原則として英米学科の学生を対象とするが、他学部・学科の学生も歓迎する。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

課題の提出が多い授業になるので、集中して受講すること。

## キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ジェニファー・ラーソンホール / Jenifer Larson-Hall / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIN352M	◎		○		△
科目名	Language Learning			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
 知識: 言語学習に関する基本的な知識を身につけている。  
 思考・判断・表現力: 言語学習の観点から論理的な思考・分析を行うことができる。  
 自立的行動力: スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。  
 The goals of this course are:  
 To go over the principles of how languages are learned, focusing more specifically on vocabulary  
 To help you expand your vocabulary of English by learning more about prefixes and suffixes in English  
 To help you expand your vocabulary of English by studying multi-word phrases  
 To help you understand how to use a corpus (BYU COCA) to improve your English abilities

## 教科書 /Textbooks

No textbook will be needed for this class. Students are responsible for buying the mobile version of Anki for their smartphones instead.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

BYU COCA: <https://www.english-corpora.org/coca/>

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Class schedule  
 Week 1: Introduction (vocabulary levels)  
 Week 2: Spaced repetition and Anki  
 Week 3: BYU COCA introduction (parts of speech)  
 Week 4: Prefixes in English  
 Week 5: Suffixes in English  
 Week 6: BYU COCA Words and phrases  
 Week 7: Multi-word phrases  
 Week 8: Phrasal verbs  
 Week 9: Taking English words apart  
 Week 10: Frequency lists  
 Week 11: Listening and phonological MWS  
 Week 12: Collocations  
 Week 13: More word parts  
 Week 14: How to put sentences together  
 Week 15: Review (summary papers)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Participation: 10%  
 Homework activities: 30%  
 Weekly Anki activity: 50%  
 Final summary paper: 10%



## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Weekly homework will be given out and answers will be checked in class. Students should review their notes from class since there is no textbook for the class.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This class will help you learn English vocabulary in a variety of ways. It should be enjoyable.

## キーワード /Keywords

linguistics, vocabulary, phrases

# Presentation and Writing A 【昼】

担当者名 /Instructor ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義・実習  
クラス /Class 2 - 1・2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG253M	◎		○		△
科目名	Presentation and Writing A				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連  
※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
プレゼンテーションとライティングに必要な基本的な知識を身につけている。  
プレゼンテーションやライティングを通して自分の考えや意見を適切に表現することができる。  
スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

Students will research, discuss, and write about topics related to contemporary social and political issues. Students will be expected to present their thoughts and opinions on a wide variety of topics at a high intermediate level of English. All students will make three presentations. Students will improve their writing, discussion, critical thinking and presentation skills.

## 教科書 /Textbooks

No textbook

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

None

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus Explanation and Multiculturalism Introduction
- 2回 Multiculturalism Expansion
- 3回 Immigration – Advantages and Disadvantages
- 4回 Gender Equality and the Gender Gap
- 5回 Writing an Opinion Essay
- 6回 Gender Issues Jigsaw Sharing
- 7回 Peer-editing Presentation 1 / Presentation 1 Preparation / Sexual Harassment
- 8回 Presentation 1
- 9回 Gender Stereotypes
- 10回 Winter Holidays Cultural Comparison
- 11回 Visual Literacy: Gender Representations in Movie Posters
- 12回 Gender Representations in Movie Posters Group Presentations
- 13回 Peace & Conflict: Peacemakers
- 14回 Peace & Conflict: Resolving a Dispute
- 15回 Peer-editing Presentation 2 / Presentation 2 Preparation / Regional Territorial Disputes

## 成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks 20%, Participation 15%, Homework 10%, Presentations 15%, Written Essays 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will receive writing assignments to demonstrate writing skills and contribute to group tasks. Some research will be required both inside and outside of class. Regular review of all class materials is highly encouraged in preparation for the final exam. Weekly preparation and review should take from 20 to 30 minutes.

# Presentation and Writing A 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

None

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# Presentation and Writing A 【昼】

担当者名 /Instructor ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義・実習  
クラス /Class 2 - 3・2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG253M	◎		○		△
科目名	Presentation and Writing A				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連  
※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
プレゼンテーションとライティングに必要な基本的な知識を身につけている。  
プレゼンテーションやライティングを通して自分の考えや意見を適切に表現することができる。  
スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

Students will research, discuss, and write about topics related to contemporary social and political issues. Students will be expected to present their thoughts and opinions on a wide variety of topics at a high intermediate level of English. All students will make three presentations. Students will improve their writing, discussion, critical thinking and presentation skills.

## 教科書 /Textbooks

No textbook

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

None

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus Explanation and Multiculturalism Introduction
- 2回 Multiculturalism Expansion
- 3回 Immigration – Advantages and Disadvantages
- 4回 Gender Equality and the Gender Gap
- 5回 Writing an Opinion Essay
- 6回 Gender Issues Jigsaw Sharing
- 7回 Peer-editing Presentation 1 / Presentation 1 Preparation / Sexual Harassment
- 8回 Presentation 1
- 9回 Gender Stereotypes
- 10回 Winter Holidays Cultural Comparison
- 11回 Visual Literacy: Gender Representations in Movie Posters
- 12回 Gender Representations in Movie Posters Group Presentations
- 13回 Peace & Conflict: Peacemakers
- 14回 Peace & Conflict: Resolving a Dispute
- 15回 Peer-editing Presentation 2 / Presentation 2 Preparation / Regional Territorial Disputes

## 成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks 20%, Participation 15%, Homework 10%, Presentations 15%, Written Essays 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will receive writing assignments to demonstrate writing skills and contribute to group tasks. Some research will be required both inside and outside of class. Regular review of all class materials is highly encouraged in preparation for the final exam. Weekly preparation and review should take from 20 to 30 minutes.

# Presentation and Writing A 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

None

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# Presentation and Writing A 【昼】

担当者名 /Instructor ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義・実習  
クラス /Class 2 - 5・2 - 6

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG253M	◎		○		△
科目名	Presentation and Writing A				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連  
※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
プレゼンテーションとライティングに必要な基本的な知識を身につけている。  
プレゼンテーションやライティングを通して自分の考えや意見を適切に表現することができる。  
スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

Students will research, discuss, and write about topics related to contemporary social and political issues. Students will be expected to present their thoughts and opinions on a wide variety of topics at a high intermediate level of English. All students will make three presentations. Students will improve their writing, discussion, critical thinking and presentation skills.

## 教科書 /Textbooks

No textbook

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

None

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus Explanation and Multiculturalism Introduction
- 2回 Multiculturalism Expansion
- 3回 Immigration – Advantages and Disadvantages
- 4回 Gender Equality and the Gender Gap
- 5回 Writing an Opinion Essay
- 6回 Gender Issues Jigsaw Sharing
- 7回 Peer-editing Presentation 1 / Presentation 1 Preparation / Sexual Harassment
- 8回 Presentation 1
- 9回 Gender Stereotypes
- 10回 Winter Holidays Cultural Comparison
- 11回 Visual Literacy: Gender Representations in Movie Posters
- 12回 Gender Representations in Movie Posters Group Presentations
- 13回 Peace & Conflict: Peacemakers
- 14回 Peace & Conflict: Resolving a Dispute
- 15回 Peer-editing Presentation 2 / Presentation 2 Preparation / Regional Territorial Disputes

## 成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks 20%, Participation 15%, Homework 10%, Presentations 15%, Written Essays 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will receive writing assignments to demonstrate writing skills and contribute to group tasks. Some research will be required both inside and outside of class. Regular review of all class materials is highly encouraged in preparation for the final exam. Weekly preparation and review should take from 20 to 30 minutes.

# Presentation and Writing A 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

None

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# Presentation and Writing B 【昼】

担当者名 /Instructor 山口ウエイ グレゴリー キース / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 クラス 3 - 1・ 3 - 2 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG352M	◎		○		△
科目名	Presentation and Writing B				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連  
※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
プレゼンテーションとライティングに必要な基本的な知識を身につけている。  
プレゼンテーションやライティングを通して自分の考えや意見を適切に表現することができる。  
スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

The purpose of this class is to help students develop the necessary skills to become great presenters. The ability to give good presentations is a valuable skill useful for your future employment.

During the class we will do several different kinds of presentations such as giving a presentation about a person you admire, a vacation you recommend, and a persuasive presentation about an issue.

We will work on body language and connecting with an audience by making eye contact, using gestures and projecting your voice as well as work on the English language that you use for your presentations.

We will use techniques from writing such as brainstorming and making outlines, and you will be required to write presentation outlines for your presentation but this class will focus on writing as a means to doing presentations and not on writing skills per se.

## 教科書 /Textbooks

Ready to Present – A Guide to Better Presentations (2019 Cengage Learning) ISBN 978-4-86312-351-9 Herman Bartelen, Malcom Kostiuik

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

None

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Unit 1 – Self Introduction: Writing an introduction, body, and conclusion
- Unit 1 – Self Introduction: Giving a self introduction presentation, describing family, school life, likes & dislikes, etc.
- Unit 2/3 Important Person/Places: Talking about people and things important to you.
- Unit 2/3 Important Person/Places: Planning a presentation and writing about something or someone important to you.
- Unit 2/3 Important Person/Places: Presentation to a small group about something or someone important to you
- Unit 4 – Opinions: Sharing opinions/ Supporting and giving examples / Giving evidence.
- Unit 4 – Opinions: Planning a presentation and writing about a topic important to you.
- Unit 4 – Opinions: Presentation to a small group about a topic important to you.
- Unit 5/6 – Biography/Stories: Describing life experiences and accomplishments/ Describing your past experiences.
- Unit 5/6 – Biography/Stories: Planning a presentation and writing about a persons life or your own life experiences.
- Unit 5/6 – Biography/Stories: Giving a presentation about a persons life or your own life experiences.
- Unit 7/8 - Solving Problems/Final Presentations: Expressing opinions about social and global issues/ Prepare a survey
- Unit 7/8 - Solving Problems/Final Presentations: Surveying classmates about their opinions on current issues
- Unit 7/8 - Solving Problems/Final Presentations: Planning and giving a persuasive presentation about an issue.
- Review – Units 1-4/ Units 5-8 / Course reflection.

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Presentation planning and writing activities 35%; Presentation Grades 50%; Participation 15%



# Presentation and Writing B 【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

In preparation for each lesson, students should review the last lesson and preview the next lesson topic. Following each lesson you need to do any homework that has been given and review what you learned in class.

## 履修上の注意 /Remarks

You will be able to give an organized, interesting, and persuasive speech in English after this course.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

Presentations, Brainstorming, Speeches, PowerPoint, English, Confidence

# Presentation and Writing B 【昼】

担当者名 /Instructor 山口ウエイ グレゴリー キース / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 クラス 3 - 3・ 3 - 4 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG352M	◎		○		△
科目名	Presentation and Writing B				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連  
※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
プレゼンテーションとライティングに必要な基本的な知識を身につけている。  
プレゼンテーションやライティングを通して自分の考えや意見を適切に表現することができる。  
スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

The purpose of this class is to help students develop the necessary skills to become great presenters. The ability to give good presentations is a valuable skill useful for your future employment.

During the class we will do several different kinds of presentations such as giving a presentation about a person you admire, a vacation you recommend, and a persuasive presentation about an issue.

We will work on body language and connecting with an audience by making eye contact, using gestures and projecting your voice as well as work on the English language that you use for your presentations.

We will use techniques from writing such as brainstorming and making outlines, and you will be required to write presentation outlines for your presentation but this class will focus on writing as a means to doing presentations and not on writing skills per se.

## 教科書 /Textbooks

Ready to Present – A Guide to Better Presentations (2019 Cengage Learning) ISBN 978-4-86312-351-9 Herman Bartelen, Malcom Kostiuik

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

None

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Unit 1 – Self Introduction: Writing an introduction, body, and conclusion
- Unit 1 – Self Introduction: Giving a self introduction presentation, describing family, school life, likes & dislikes, etc.
- Unit 2/3 Important Person/Places: Talking about people and things important to you.
- Unit 2/3 Important Person/Places: Planning a presentation and writing about something or someone important to you.
- Unit 2/3 Important Person/Places: Presentation to a small group about something or someone important to you
- Unit 4 – Opinions: Sharing opinions/ Supporting and giving examples / Giving evidence.
- Unit 4 – Opinions: Planning a presentation and writing about a topic important to you.
- Unit 4 – Opinions: Presentation to a small group about a topic important to you.
- Unit 5/6 – Biography/Stories: Describing life experiences and accomplishments/ Describing your past experiences.
- Unit 5/6 – Biography/Stories: Planning a presentation and writing about a persons life or your own life experiences.
- Unit 5/6 – Biography/Stories: Giving a presentation about a persons life or your own life experiences.
- Unit 7/8 - Solving Problems/Final Presentations: Expressing opinions about social and global issues/ Prepare a survey
- Unit 7/8 - Solving Problems/Final Presentations: Surveying classmates about their opinions on current issues
- Unit 7/8 - Solving Problems/Final Presentations: Planning and giving a persuasive presentation about an issue.
- Review – Units 1-4/ Units 5-8 / Course reflection.

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Presentation planning and writing activities 35%; Presentation Grades 50%; Participation 15%

# Presentation and Writing B 【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

In preparation for each lesson, students should review the last lesson and preview the next lesson topic. Following each lesson you need to do any homework that has been given and review what you learned in class.

## 履修上の注意 /Remarks

You will be able to give an organized, interesting, and persuasive speech in English after this course.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

Presentations, Brainstorming, Speeches, PowerPoint, English, Confidence

# Presentation and Writing B 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 5・3 - 6

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG352M	◎		○		△
科目名	Presentation and Writing B				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連  
※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
プレゼンテーションとライティングに必要な基本的な知識を身につけている。  
プレゼンテーションやライティングを通して自分の考えや意見を適切に表現することができる。  
スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

Jigsaw is a new reading and writing text designed to achieve this for high beginning to intermediate learners. In each unit, learners read an article written in a specific rhetorical mode as a model for their paragraph writing. They then work through developmental, guided activities to produce their own passage.

本書ではユニット毎に英語のパラグラフの構成例(型)を1つ取り上げ、リーディングでそれを用いて書かれた本文(約300語)を読んだ後、ライティングでその型に特有の表現を学習して、パラグラフ・レベルの英文を書けるようにします。リーディングとライティングが一体となり、読解力と表現力がパラレルにアップする構成で、効率的な学習を促進します。

## 教科書 /Textbooks

Jigsaw  
by R. Hickling and J. Yashima (Cengage Learning)  
ISBN: 978-4-86312-369-4

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Course explanation, aims, grading explanation, all requirements to fulfil the needs of the course.  
Week 2: Unit 1: Things happen for a reason. Writing purposes: cause and effect  
Week 3: Unit 2: Same or different? Writing purposes: Compare and contrast  
Week 4: Unit 3: Here's what I think! Writing purposes: Giving an opinion  
Week 5: Unit 4: Sorting things out. Writing purposes: Classification writing  
Week 6: Group presentations and feedback. (4/5 groups) (Graded)  
Week 7: Group presentations and feedback. (second 4/5 groups) (Graded)  
Week 8: Mid-term exam based on units 1-4. 中間テスト (Graded)  
Week 9: Unit 5: Step by step. Writing purpose: Describing a process  
Week 10: Unit 6: Feeling through your senses. Writing purpose: Descriptive writing  
Week 11: Unit 7: Don't you agree? Writing purpose: Persuasive writing  
Week 12: Unit 8: You be the judge. Writing purpose: Writing to evaluate.  
Week 13: Group presentations and feedback. (4/5 groups) (Graded)  
Week 14: Group presentations and feedback. (second 4/5 groups) (Graded)  
Week 15: まとめ - Final exam will be based on units 5-8. Exam explanation, and how to prepare.

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Presentations: 20% each (2 x 20% = 40%)  
Mid-term exam: 30%  
Final exam: 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

As always, I would suggest to anyone to read the contents of the textbook ahead of time.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Education is the key to a better future.

Although the plan at this time (03/01/20) is to conduct face-to-face classes on campus, there is a possibility that we will suddenly have to do 'remote learning'. If this happens, everything will be put onto Moodle and a TEAMS meeting will be schedule. Be ready, check your Internet connectivity, camera and microphone.

I do look forward to teaching you.

## キーワード /Keywords

# Reading and Discussion I 【昼】

担当者名 /Instructor: ホロウェイ グレゴリー キース / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 2年次 / 単位 /Credits: 2単位 / 学期 /Semester: 2学期 / 授業形態 /Class Format: 講義・実習 / クラス /Class: 2 - 1・2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG254M	◎		○		△
科目名	Reading and Discussion I				
	<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>				

## 授業の概要 /Course Description

この授業の到達目標として、以下の内容を考えています。

1. リーディングとディスカッションに必要な基本的な知識を身につけている。
2. リーディングで得た知識や自分の考えをディスカッションを通して適切に表現することができる。
3. スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

This course will give students the opportunity to read a variety of topics throughout the semester and actively participate in discussions. Students will be able to increase vocabulary, further reading skills and enhance their critical thinking skills.

## 教科書 /Textbooks

Title: Reading Explorer 3 (3rd Edition) by Nancy Douglas, David Bohlke  
Student Book (176p) with Online Workbook Access Code  
Publisher: Cengage Learning  
ISBN-13: 978-0-35-712472-7

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Extra reading materials available in the library

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Course Introduction
2. Sport and Fitness
3. Skin Deep
4. Animals in Danger
5. Violent Earth
6. Islands and Beaches
7. Global Addictions
8. Mid-Term
9. Energy Solutions
10. Epic Engineering
11. High-Tech Solutions
12. All in the Mind
13. Visual Pioneers
14. Final Group discussion/Presentations
15. Course Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Assessment 40%(vocabulary & reading quizzes, presentations, discussion) Homework 25%, Mid Term Exam 15%, Final Exam 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Read required readings and do required pre-reading exercises.

## 履修上の注意 /Remarks

Prepare required materials before each class.

# Reading and Discussion I 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Reading, Critical Thinking, Discussion

# Reading and Discussion I 【昼】

担当者名 /Instructor: ホロウェイ グレゴリー キース / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 2年次 / 単位 /Credits: 2単位 / 学期 /Semester: 2学期 / 授業形態 /Class Format: 講義・実習 / クラス /Class: 2 - 3・2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG254M	◎		○		△
科目名	Reading and Discussion I				
	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。				

## 授業の概要 /Course Description

この授業の到達目標として、以下の内容を考えています。

1. リーディングとディスカッションに必要な基本的な知識を身につけている。
2. リーディングで得た知識や自分の考えをディスカッションを通して適切に表現することができる。
3. スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

This course will give students the opportunity to read a variety of topics throughout the semester and actively participate in discussions. Students will be able to increase vocabulary, further reading skills and enhance their critical thinking skills.

## 教科書 /Textbooks

Title: Reading Explorer 3 (3rd Edition) by Nancy Douglas, David Bohlke  
Student Book (176p) with Online Workbook Access Code  
Publisher: Cengage Learning  
ISBN-13: 978-0-35-712472-7

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Extra reading materials available in the library

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Course Introduction
2. Sport and Fitness
3. Skin Deep
4. Animals in Danger
5. Violent Earth
6. Islands and Beaches
7. Global Addictions
8. Mid-Term
9. Energy Solutions
10. Epic Engineering
11. High-Tech Solutions
12. All in the Mind
13. Visual Pioneers
14. Final Group discussion/Presentations
15. Course Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Assessment 40%(vocabulary & reading quizzes, presentations, discussion) Homework 25%, Mid Term Exam 15%, Final Exam 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Read required readings and do required pre-reading exercises.

## 履修上の注意 /Remarks

Prepare required materials before each class.



# Reading and Discussion I 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Reading, Critical Thinking, Discussion

# Reading and Discussion I 【昼】

担当者名 /Instructor: ホロウェイ グレゴリー キース / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 2年次  
単位 /Credits: 2単位  
学期 /Semester: 2学期  
授業形態 /Class Format: 講義・実習  
クラス /Class: 2 - 5・2 - 6

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG254M	◎		○		△
科目名	Reading and Discussion I				
	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。				

## 授業の概要 /Course Description

この授業の到達目標として、以下の内容を考えています。

1. リーディングとディスカッションに必要な基本的な知識を身につけている。
2. リーディングで得た知識や自分の考えをディスカッションを通して適切に表現することができる。
3. スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

This course will give students the opportunity to read a variety of topics throughout the semester and actively participate in discussions. Students will be able to increase vocabulary, further reading skills and enhance their critical thinking skills.

## 教科書 /Textbooks

Title: Reading Explorer 3 (3rd Edition) by Nancy Douglas, David Bohlke  
Student Book (176p) with Online Workbook Access Code  
Publisher: Cengage Learning  
ISBN-13: 978-0-35-712472-7

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Extra reading materials available in the library

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Course Introduction
2. Sport and Fitness
3. Skin Deep
4. Animals in Danger
5. Violent Earth
6. Islands and Beaches
7. Global Addictions
8. Mid-Term
9. Energy Solutions
10. Epic Engineering
11. High-Tech Solutions
12. All in the Mind
13. Visual Pioneers
14. Final Group discussion/Presentations
15. Course Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Assessment 40%(vocabulary & reading quizzes, presentations, discussion) Homework 25%, Mid Term Exam 15%, Final Exam 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Read required readings and do required pre-reading exercises.

## 履修上の注意 /Remarks

Prepare required materials before each class.

# Reading and Discussion I 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Reading, Critical Thinking, Discussion

# Reading and Discussion II 【昼】

担当者名 /Instructor: ホロウェイ グレゴリー キース / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 3年次  
単位 /Credits: 2単位  
学期 /Semester: 1学期  
授業形態 /Class Format: 講義・実習  
クラス /Class: 3 - 1・3 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG351M	◎		○		△
科目名	Reading and Discussion II				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連  
※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標 リーディングとディスカッションに必要な基本的な知識を身につけている。リーディングで得た知識や自分の考えをディスカッションを通して適切に表現することができる。スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

The purpose of the class is to help students improve their reading comprehension skills, learn new vocabulary, and improve their communication skills. Students will read a variety of topics in English, work hard to increase their vocabulary, participate in class discussions, and enhance their critical thinking skills.

## 教科書 /Textbooks

Title: Reading and Vocabulary Focus 4  
Author: Catherine Mazur-Jeffries  
Publisher: Cengage Learning  
ISBN: 978-1-285-17341-2

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Course introduction, grading, homework, class rules
2. City Spaces
3. Extreme jobs
4. Animal Conservation
5. Natural Disasters
6. Art Detectives
7. Mid-term review
8. Mid-term exam
9. Survival Skills
10. Nature's Medicine
11. Lost at Sea
12. Culture and Identity
13. Pair presentation preparation
14. Pair presentation
15. Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

In-class participation: 14%  
Homework: 18%  
Vocabulary: 18%  
Pair presentation: 20%  
Mid-term exam: 15%  
End-of-term exam: 15%

# Reading and Discussion II 【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are required to come to class ready and prepared to participate in class activities. They are to complete all the required reading, homework and vocabulary assignments, and to bring their textbook and small, vocabulary notebook (B4 or smaller) with them each week.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

I look forward to teaching you! Come prepared. Work hard. Enjoy class.

## キーワード /Keywords

# Reading and Discussion II 【昼】

担当者名 /Instructor 藤下 友子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 /Class クラス 3 - 3・3 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG351M	◎		○		△
科目名	Reading and Discussion II				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連  
※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

文化、社会、教育、科学技術、環境など、国内又は国際的に議論される問題に関わる英語資料を読み、必要に応じて関連する情報を収集し、その情報に基づいて多角的、論理的に思考して自分の意見や批評を英語で表現する能力を養成することを授業のねらいとする。リーディング力に加えて、英語によるディスカッションやプレゼンテーションを行う技術を磨くことを目指す。

(到達目標)

[知識] リーディングとディスカッションに必要な基本的な知識を身につけている。

[思考・判断・表現力] リーディングで得た知識や自分の考えをディスカッションを通して適切に表現することができる。

[自立的行動力] スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

## 教科書 /Textbooks

Pros and Cons. Discussing Today's Controversial Issues (I.Ueda, T. Ueda, C. Taoka & E. Yoneoka)  
CENGAGE Learning, 2020  
ISBN:9784863122529

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Instructor will provide additional reference as needed.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Course introduction and Introductory task
2. Unit 2 Honor or Burden?(1): Understanding the issue
3. Unit 2 Honor or Burden?(2): Discussing the issue
4. Unit 1 Internet Safety or Freedom of Expression?(1): Understanding the issue
5. Unit 1 Internet Safety or Freedom of Expression?(2): Discussing the issue
6. Unit 3 Clean Energy or Potential Threat?(1): Understanding the issue
7. Unit 3 Clean Energy or Potential Threat?(2): Discussing the issue
8. Review Test/Activity (1)
9. Unit 9 To Skip or Not to Skip?(1): Understanding the issue
10. Unit 9 To Skip or Not to Skip?(2): Discussing the issue
11. Unit 10 Performance or Seniority?(1): Understanding the issue
12. Unit 10 Performance or Seniority?(2): Discussing the issue
13. Unit 11 Free Trade or Protection?(1): Understanding the issue
14. Unit 11 Free Trade or Protection?(2): Understanding the issue
15. Review Activity (2): Giving a Presentation on an Issue

## 成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Participation/Activities/Tasks --- 40%  
Midterm Test/Activity --- 20%  
Presentation --- 20%  
Take-home Assignments/Writing ---20 %

## Reading and Discussion II 【昼】

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Read the passages in the designated unit, collect information when necessary, and prepare for (1) class; Listen to model opinions and organize own thoughts before (2) class; Review the materials closely after every class.

### 履修上の注意 /Remarks

Dictionary should be brought to class.

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Be interested in various issues relevant to contemporary society around you, think well(critically or logically), and show your ideas, which is one of the most important(and challenging) things in language learning.

### キーワード /Keywords

reading fluency, understanding the issue, critical/logical thinking, accountability, discussion, presenting opinions

# Reading and Discussion II 【昼】

担当者名 /Instructor 藤下 友子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 5・3 - 6

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG351M	◎		○		△
科目名	Reading and Discussion II				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連  
※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

文化、社会、教育、科学技術、環境など、国内又は国際的に議論される問題に関わる英語資料を読み、必要に応じて関連する情報を収集し、その情報に基づいて多角的、論理的に思考して自分の意見や批評を英語で表現する能力を養成することを授業のねらいとする。リーディング力に加えて、英語によるディスカッションやプレゼンテーションを行う技術を磨くことを目指す。

(到達目標)

[知識] リーディングとディスカッションに必要な基本的な知識を身につけている。

[思考・判断・表現力] リーディングで得た知識や自分の考えをディスカッションを通して適切に表現することができる。

[自立的行動力] スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

## 教科書 /Textbooks

Pros and Cons. Discussing Today's Controversial Issues (I.Ueda, T. Ueda, C. Taoka & E. Yoneoka)  
CENGAGE Learning, 2020  
ISBN:9784863122529

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Instructor will provide additional reference as needed.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Course introduction and Introductory task
2. Unit 2 Honor or Burden?(1): Understanding the issue
3. Unit 2 Honor or Burden?(2): Discussing the issue
4. Unit 1 Internet Safety or Freedom of Expression?(1): Understanding the issue
5. Unit 1 Internet Safety or Freedom of Expression?(2): Discussing the issue
6. Unit 3 Clean Energy or Potential Threat?(1): Understanding the issue
7. Unit 3 Clean Energy or Potential Threat?(2): Discussing the issue
8. Review Test/Activity (1)
9. Unit 9 To Skip or Not to Skip?(1): Understanding the issue
10. Unit 9 To Skip or Not to Skip?(2): Discussing the issue
11. Unit 10 Performance or Seniority?(1): Understanding the issue
12. Unit 10 Performance or Seniority?(2): Discussing the issue
13. Unit 11 Free Trade or Protection?(1): Understanding the issue
14. Unit 11 Free Trade or Protection?(2): Understanding the issue
15. Review Activity (2): Giving a Presentation on an Issue

## 成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Participation/Activities/Tasks --- 40%  
Midterm Test/Activity --- 20%  
Presentation --- 20%  
Take-home Assignments/Writing ---20 %



## Reading and Discussion II 【昼】

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Read the passages in the designated unit, collect information when necessary, and prepare for (1) class; Listen to model opinions and organize own thoughts before (2) class; Review the materials closely after every class.

### 履修上の注意 /Remarks

Dictionary should be brought to class.

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Be interested in various issues relevant to contemporary society around you, think well(critically or logically), and show your ideas, which is one of the most important(and challenging) things in language learning.

### キーワード /Keywords

reading fluency, understanding the issue, critical/logical thinking, accountability, discussion, presenting opinions

# 統語論・形態論【昼】

担当者名 /Instructor                      ローズマリー・リーダー / Rosemary Reader / 英米学科

履修年次 /Year                      3年次                      単位 /Credits                      2単位                      学期 /Semester                      1学期                      授業形態 /Class Format                      講義                      クラス /Class                      3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIN332M	◎		○		△
科目名	統語論・形態論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
 知識：統語論・形態論に関する基礎的な知識を身につけている。  
 思考・判断・表現力：統語論・形態論の観点から論理的な思考・分析を行うことができる。  
 自立的行動力：スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

This class will primarily focus on the syntax and morphology of English, introducing and exploring the grammatical rules that exist on both the word and the sentence level. We will begin by looking at the morphology of English and the morphemes that make up words. Afterwards, we will look at the manner in which these words are arranged to form sentences, and what are the underlying rules that make sentences grammatical or ungrammatical.

## 教科書 /Textbooks

None.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Guidance will be provided in class.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction
- 第2回 Free and Bound Morphemes
- 第3回 Roots and Affixes
- 第4回 Derivational Morphemes
- 第5回 Inflectional Morphemes
- 第6回 Categories and Relationships
- 第7回 Phrase Structure Rules
- 第8回 Trees
- 第9回 X-Bar Syntax
- 第10回 Clauses
- 第11回 Phrase Structure Grammar
- 第12回 Coding Relationships
- 第13回 Questions
- 第14回 Traces
- 第15回 Review and Course Wrap-up

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Worksheets 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Instructions will be provided in class.

## 履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor  
ローズマリー・リーダー / Rosemary Reader / 英米学科履修年次 /Year  
3年次 /3rd Year  
単位 /Credits  
2単位 /2 Credits  
学期 /Semester  
2学期 /2nd Semester  
授業形態 /Class Format  
講義 /Lecture  
クラス /Class  
3年 /3rd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIN333M	◎		○		△
科目名	Semantics		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

知識：意味論に関する基礎的な知識を身につけている。

思考・判断・表現力：意味論の観点から論理的な思考・分析を行うことができる。

自立的行動力：スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

This class focuses on introducing the linguistic field of semantics, which is the study of meaning. As such we will look meaning on both the word level but also at levels beyond the word level. We start with words, and the relationships that exists between their meanings, and then evolve into phrases like idioms and euphemisms before contemplating the context of meaning within sentences.

## 教科書 /Textbooks

None

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Discussed in class when appropriate

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction
- 第2回 Dimensions of Meaning
- 第3回 Relationship
- 第4回 Hierarchy
- 第5回 Multiple Meanings
- 第6回 Ambiguity
- 第7回 Similes and Metonym
- 第8回 Metaphor
- 第9回 Idioms and Set Phrases
- 第10回 Euphemisms and Puns
- 第11回 Truth and Logic
- 第12回 Entailment
- 第13回 Context
- 第14回 Contradictions (and Tautology)
- 第15回 Review and Course Wrap-up

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Worksheets 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Directions to be given in class

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIN334M	◎		○		△
科目名	語用論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

語用論は言語形式とそれを用いる使用者との関係を研究する学問です。話し手が伝えようとする意図を言葉の背後にあるコンテキストから考察します。本講義は語用論の基礎知識を学び、日常における様々な言語現象を観察し理解する力を身につけることが目的です。

(到達目標)

- 【知識】 語用論に関する基礎的な知識を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】 語用論の観点から論理的な思考・分析を行うことができる。
- 【自立的行動力】 スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

## 教科書 /Textbooks

ハンドアウトを配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業時に紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 語用論とは
2. 会話の含意
3. 発話行為
4. ポライトネス(1) 言語形式によるポライトネス
5. ポライトネス(2) リーチによるポライトネスの原理
6. ポライトネス(3) ブラウンとレヴィンソンによるポライトネス・ストラテジー
7. ポライトネス(4) 謝罪・ほめ
8. ポライトネス(5) 日米のポライトネス
9. 会話分析(1) 会話のスタイル
10. 会話分析(2) 話者交替
11. 会話分析(3) 隣接応答ペア
12. 会話分析(4) 優先的応答と非優先的応答
13. 会話分析(5) 修復
14. 特別講演
15. まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の課題 ...50% ; 学期末テスト...50%  
欠席・遅刻はマイナス評価。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業後に講義内容を復習し、関連する言語現象を観察してください。

## 履修上の注意 /Remarks

出席・参加を重視します。3分の2以上の出席が必要です。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# History of English Language 【昼】

担当者名 /Instructor: ホロウェイ グレゴリー キース / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 3年次  
単位 /Credits: 2単位  
学期 /Semester: 2学期  
授業形態 /Class Format: 講義  
クラス /Class: 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIN335M	◎		○		△
科目名	History of English Language				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連  
※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
英語史に関する基礎的な知識を身につけている。  
英語史の観点から論理的な思考・分析を行うことができる。  
スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

This class focuses on the history of English from the earliest times that we have writings about the language until the present day.

It is an introduction to the topic of language change in general, but this topic is illustrated through the examination of specific changes in the English language from Old English to Middle English to contemporary English.

In addition, we will discuss various other varieties of English spoken around the world, language change, and language death. Through this course you will understand how languages may change across time, geography, and culture.

このクラスは、英語の初期の時代から現代の英語への歴史に焦点を当てています。一般的な言語変化の話題を紹介しますが、このクラスでは特に古英語から中級英語、現代英語への英語の具体的な変化を説明します。このコースをとおして言語が時間、地理、文化にどのように変化するかを理解します。

## 教科書 /Textbooks

Schmitt, Norbert & Marsden, Richard. (2006). "Why is English like that?". Michigan Teacher Training.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

○ 永野芳郎 『英語学要説』英宝社。  
Crystal, David and 西出, 公之. (2000). A History of the English Language [英語の歴史]. 単行本.



## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introduction: The World of Old English  
Week 2: Introduction: The World of Old English & IPA Consonants in English  
Week 3: Sound change: Major differences from Old to Early Modern  
Week 4: English Grammar: What is grammar?/Morphological change  
Week 5: Sources of new vocabulary in Old and Middle English  
Week 6: Morphological Change  
Week 7: Syntactic Change  
Week 8: Mid-term exam  
Week 9: The Sounds of Modern English  
Week 10: How language change occurs  
Week 11: Writing and written records  
Week 12: Dialects of English (Many Englishes)  
Week 13: Language contact (Spanglish)  
Week 14: Dialects of English around the World  
Week 15: English in the Future

1週目：はじめに：古英語の世界  
2週目：はじめに：古英語の世界と英語のIPA子音  
3週目：音の変化：古代から近世への大きな相違  
4週目：英文法：文法とは/形態変化  
5週目：古英語・中英語と新しい語彙の根源  
6週目：形態変化  
7週目：構文変化  
8週目：中間試験  
9週目：現代英語の音  
10週目：言語の変化がどのように生じるか  
11週目：書体と記録  
12週目：英語の方言（様々な英語）  
13週目：言語接触（スبانグリッシュ）  
14週目：世界中の英語の方言  
15週目：将来の英語

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Homework 50%; Midterm exam 25%; Final exam 25%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Student should read the upcoming chapter of the text each week. Following each lesson students should complete the homework, which will help prepare them for the short quiz we will take every week in class. I

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

Linguistics, English language, history of English, historical linguistics, Old English, Modern English

担当者名 /Instructor ジェニファー・ラーソンホール / Jenifer Larson-Hall / 英米学科

履修年次 /Year 3年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義・実習  
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIN336M	◎		○		△
科目名	Bilingualism			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
 知識: バイリンガリズムに関する基礎的な知識を身につけている。  
 思考・判断・表現力: バイリンガリズムの観点から思考・論理的な分析を行うことができる。  
 自立的行動力: スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

This course is intended to introduce you to research conducted into how people become bilingual and what the characteristics are of children and adults who use two languages. There are some myths about bilinguals, the foremost being that bilinguals must be equally fluent in both languages. This is rarely the case, and we will use the definition that any person who uses two languages regularly can be defined as a bilingual. Bilinguals are not the same as two monolinguals in one person, and in this class we will explore the research done on how language is manifest in the minds of bilinguals. The goal of the course is to introduce students to the research that has been done into bilingualism with a goal of further understanding how language works in the mind and how it is used in society.

## 教科書 /Textbooks

King, K. & Mackey, A. (2007). The bilingual edge: Why, when and how to teach your child a second language. Harper Perennial.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- Baker, C. (2001). Foundations of bilingual education and bilingualism (3rd edition). Multilingual Matters.
- Garcia, O. & Baker, C. (Editors). (2007). Bilingual education: An introductory reader.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1: Introduction (defining the word 'bilingual')
- Week 2: The role of age in language learning
- Week 3: Myths and misconceptions about learning a second language
- Week 4: Charting the course through 'normal' language learning stages
- Week 5: Mixing and switching languages (code-switching)
- Week 6: The bilingual mind
- Week 7: Two systems or one?
- Week 8: Individual differences
- Week 9: Language learning through edutainment
- Week 10: What schools can do
- Week 11: Trilingualism
- Week 12: Metalinguistic awareness
- Week 13: Bilinguals and literacy
- Week 14: Being bilingual and bicultural
- Week 15: Presentation of final papers

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- Research paper (5 pages): 40%
- Quizzes (3 of them): 30%
- Class participation (prepare answers to weekly questions)30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should read chapters in the book every week, and prepare a presentation to answer a specific question they will be assigned to answer in class.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

I'm excited to be teaching this class for the first time at Kitakyudai! It will be practical but also theoretically interesting as well.

## キーワード /Keywords

second language acquisition, bilingualism, learning

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE231M	◎		○		△
科目名	British Studies			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

知識：英国の社会、文化、歴史等について基礎的な知識を身につけている。

思考・判断・表現力：文化的また歴史的観点から総合的に思考し分析することができる。

自立的行動力：スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

The course is taught mainly in English, but at the beginning of each class a brief summary of the previous class and the topic of the day are explained in Japanese.

This course will assess and analyse British Culture through a focus on film, literature and journalism. Both historical and modern perspectives will be maintained and embraced throughout this investigation into the key themes of class, media, ideology, economy, sexuality, science, technology, nationalism and religion.

## 教科書 /Textbooks

Handouts will be provided at the beginning of each class.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Relevant material for further study will be introduced during each class.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

We will focus on 9 important era-defining figures from 18th century till today that shaped the times, some of which are listed not because they are important in British history but as significant keys to consider each period: William Shakespeare, John Bunyan, Oliver Cromwell, Daniel Defoe, Erasmus Darwin, Mary Shelley, Isambard Kingdom Brunel, Charles Darwin, William Morris, Conan Doyle, D. H. Lawrence, A. A. Milne and John Lennon.

Class 1: Introduction

Class 2: Erasmus Darwin's "Luna Society" and 18th Century Industrial Revolution (1) 【media, coffee house, luna society】

Class 3: Erasmus Darwin's "Luna Society" and 18th Century Industrial Revolution (2) 【industrial revolution, national roads, canal, network, Josiah Wedgewood】

Class 4: Mary Shelley's Frankenstein and Bioethics in 19th Century (1) 【exploration, science and religion】

Class 5: Mary Shelley's Frankenstein and Bioethics in 19th Century (2) 【romanticism, feminism】

Class 6: Isambard Kingdom Brunel and the Age of Iron: Civil Engineering and the Industrial Hero (1) 【George & Robert Stevenson, railway and media】

Class 7: Isambard Kingdom Brunel and the Age of Iron: Civil Engineering and the Industrial Hero (2) 【British Empire, globalization, colonialism】

Class 8: Charles Darwin and A. R. Wallace: When did the Idea of Evolution Become Scientific? (1) 【mechanism and organism, romanticism】

Class 9: Charles Darwin and A. R. Wallace: When did the Idea of Evolution Become Scientific? (2) 【leading spirit, survival of the fittest】

Class 10: William Morris and the British Style 【arts and crafts movement, socialism, romanticism】

Class 11: Conan Doyle's Sherlock Homes and the End of the Century: 19th Century Occultism and Science 【mystery and occultism, London, urbanism】

Class 12: D. H. Lawrence's Lady Chatterley's Lover and the Idea of Obscenity 【class, sex, violence, reason, instinct】

Class 13: A. A. Milne's Winnie the Pooh and the Age of Wars: What Exists Where There is Nothing? 【humour, comedy, the idea of nothingness, war】

Class 14: John Lennon and the Rock Music: Pop, Youth and Identity in the Postcolonial World 【subculture, counterculture, freedom, love and peace movement】

Class 15: General Overview

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Examination 70%

Class Contribution 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Each student will read the given material before each class.

Each student will review the class.

## 履修上の注意 /Remarks

Students must prepare for the class by reading the suggested materials and doing some research in advance.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# Travel Cultures 【昼】

担当者名 /Instructor アーノルド・ ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
MCC201M	◎		○		△
科目名	Travel Cultures			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく 3 つの到達目標:

知識: 移動と旅について幅広い知識を身につけている。

思考・判断・表現力: 包括的な意見を述べ、移動と旅の重要性を評価できる。

自立的行動力: 移動と旅、人間の特質や宗教、政治、自由との関係性について再評価することができる。

This course is designed to examine a wide range of reasons why humans need and desire to travel (or move). The course will be broken into the following four categories: 1) Travel and human nature; 2) Travel as religious; 3) Travel as political; 4) Travel as freedom. During the semester, we will examine what how “travel” and “culture” are interconnected, and how and why we humans around the world need movement to achieve various personal and spiritual goals in our lives.

The objective is for you to learn various reasons why people travel, and to examine some of the theoretical aspects of the human psyche connected with travel cultures. This course is NOT a course about tourism. The topics we will discuss have been part of human history for centuries—or, in some cases, have only started within the last 100 years. As the world becomes more connected through the internet and fast transportation, it is important for us as humans to understand our biological and sociological need for movement. The challenges people face during their travel will also be of interest as we examine what motivates humans to undertake various forms of travel.

In this course, students will:

- Actively engage in the class discussions
- Develop educated opinions on topics and defend your position
- Explore academic discourse on a specific topic and examine what “counts” as evidence in academic presentations
- Integrate outside sources to support your point of view

Major requirements:

- Weekly reading question written on the question sheet with your student number
- Four minor quizzes
- Homework assignments (reading assignments; 4 TED Talk listening activities)
- A final three-page essay on one of the topics we discussed (you choose which topic interests you the most)

## 教科書 /Textbooks

There is no textbook.

However, every week you will be assigned one or two readings from the internet or from novels. The reading materials will be provided on Moodle.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

The library will have copies of the movies and novels that we will use during this course.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Introduction/Course Overview

Week 2: Travel and Human Nature: Henry David Thoreau

Week 3: Travel Cultures: Political and Freedom "Get on the Bus" (1996) and "Easy Rider" (1969)

Week 4: Travel as Religious: Biblical Travel

Week 5: Travel as Religious: The Shikoku Henro (1)

Week 6: Travel as Religious: The Shikoku Henro (2)

Week 7: Travel as political: The Motorcycle Diaries (1)

Week 8: Travel as political: The Motorcycle Diaries (2)

Week 9: Travel as political: The Motorcycle Diaries (3)

Week 10: Travel as Freedom: The Underground Railroad

Week 11: Travel as Freedom: Travel is not Tourism

Week 12: Travel as Freedom: Into the Wild (1)

Week 13: Travel as Freedom: Into the Wild (2)

Week 14: Travel as Freedom: Into the Wild (3)

Week 15: Conclusion

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Weekly reading question: 10%

4 Listening Activities (TED Talk/other): 20%

4 Minor quizzes: 40%

Final written 3-page analysis of travel cultures: 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

The library will have copies of the novels and movies we use for this course.

## 履修上の注意 /Remarks

Please do NOT miss the first day of class.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This course will be taught in 100% English and all students will be expected to participate in English.

This course is a lecture course and will focus on travel and culture; there will be readings and listening activities that students must finish before coming to the class.

## キーワード /Keywords

Travel  
Culture  
History  
Religion  
Human nature  
Human desire

担当者名 /Instructor アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 2年  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義・実習  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
MCC211M	◎		○		△
科目名	Media and Communication Studies		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

DP に基づく 3 つの到達目標

知識: メディア・コミュニケーション研究に関する基礎的な知識を身につけている。

思考・判断・表現力: メディア・コミュニケーション研究の観点から思考・論理的な分析を行うことができる。

自立的行動力: スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

This course will provide an English-language introduction to Media Studies. Classes will be built upon analysis of newspaper articles, websites, radio programmes, television programmes and films in the light of key elements of media theory.

Weekly homework assignments will be given to allow students to grow accustomed to the themes and language covered in class.

## 教科書 /Textbooks

Julian McDougall & Claire Pollard, Media Studies: The Basics, 2nd edition (London & New York: Routledge, 2019)

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Suitable secondary reading will be discussed during the first class.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.Introduction
- 2.Different approaches to studying media
- 3.The history of media and Media Studies
- 4.Theoretical concepts used by students of media
- 5.Reading media
- 6.Film analysis 1
- 7.Powerful media
- 8.Advertisement analysis
- 9.Global media
- 10.Film analysis 2
- 11.Changing media
- 12.Media now! Class discussion
- 13.Making media
- 14.Advertisement analysis 2
- 15.Review and final discussion

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Successful completion of regular written assignments ... 100%



## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to do preparatory reading on a regular basis.  
So as to encourage acquisition of the language and ideas covered in the course, rereading of course materials after each class is strongly recommended.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor アーノルド・ ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
MCC212M	◎		○		△
科目名	Urban Studies			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく 3 つの到達目標:

知識: 都市環境が直面する社会、経済、環境、世界問題について特化した知識を身につけている。

思考・判断・表現力: 都市社会について系統立てた意見を述べ、都市の課題について論理的に分析できる。

自立的行動力: 社会、文化、都市社会歴史的な重要性を再評価し、都市環境についての新しい視野の獲得を目指す。

In this course, we will be learning about various aspects of our urban environment. More than half the world's population lives in an urban setting: by 2030, nearly 70% will be living in cities. This course will examine various urban elements of the 20th and 21st century. Global urbanization is radically changing the way humans live and interact with each other. As urban growth increases—while rural areas are left abandoned—we need to understand how rapid urbanization creates challenges for human beings across all races, genders, and economic classes. Issues such as housing, sanitation, safety, transportation, environment, pollution, and efficiency are aspects that our generation needs to solve now before major problems occur in the future. Positive change for the global urban future can be made possible—if we know what problems we currently face.

The objective of this lecture course is to discuss varying elements of urban life. It is likely that the majority of us will reside the rest of our lives in an urban environment. There are many challenges but there are also many exciting solutions that may radically change the way we spend our lives in the city.

## 教科書 /Textbooks

No textbook required.

However, every week there will be one or two readings from the internet or from a text that I will provide you in the class.

You must read the text before class.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

The library has numerous sources of urban development and planning. Additionally, the library databases are good sources for finding newspaper and journal articles related to our topics.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1: Introduction to the course
- Week 2: Urban/Metropolitan Development and History, Part 1 (Engels)
- Week 3: Urban/Metropolitan Development and History, Part 2 (Jacob Riis)
- Week 4: USA Cities and Ethnicity: Immigration and Immigrant groups (Irish)
- Week 5: USA Cities and Ethnicity: Immigration and Immigrant groups (Italian)
- Week 6: USA Cities and Ethnicity: Immigration and Immigrant groups (Latino)
- Week 7: Leaving and Returning to Urban Cities
- Week 8: Urban Planning and Government Project Housing (Pruitt-Igoe)
- Week 9: Urban Environment and Green Cities
- Week 10: Redlining, Segregation, and Urban Planning
- Week 11: Urban Growth and Architecture
- Week 12: Cities and Sustainable Development
- Week 13: Gender and the Global City
- Week 14: Urban Development and the near Future
- Week 15: Conclusion

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- Weekly reading question: 10%
- 4 Listening Activities (TED Talk/other): 20%
- 4 Minor quizzes: 40%
- Urban Studies Three-Topic Analysis Paper: 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- Please attend the FIRST class. The first class will help you know what is expected in the course.
- Do NOT miss the first class.

## 履修上の注意 /Remarks

- Any student missing more than 5 classes will fail the course.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- This lecture course will be conducted entirely in English. Students are expected to participate in English.

## キーワード /Keywords

- Urban studies
- Urban growth
- Race and ethnicity
- Housing
- Urban planning
- Green spaces

# 英米文化研究 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
MCC213M	◎		○		△
科目名	英米文化研究			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

## 授業の概要 /Course Description

この授業は、英語の背後にある文化を学ぶために用意されたものです。まずは比較文化論の方法論を踏まえ、異文化を読み解くにはどのようなことに注意を払えばよいかを確認します。それに続いて、英語文化の背後にあるイギリス、アメリカの文化を見つめます。しかし、英語が事実上国際共通語の地位にある現在、英語が使われている環境を理解するとともに英米以外の英語圏や私たちとかわりの深いアジアの国々などについても理解を深めることが不可欠です。こうした点を踏まえて授業のカリキュラムを設計しています。ただし、文化理解は双方向活動ですから、外の文化を学ぶだけでなく、私たちも自分の文化について発信していくことが大切です。そのために、授業のまとめを兼ねて、それらとの対比によって明らかにされた日本文化のさまざまな特徴を英語で発信する練習をしたいと思います。

【この授業の主な到達目標として、以下の内容を考えています。】

- ①知識：英語圏の社会、文化、歴史を総合的に学び基礎的な知識を身につけている。
- ②思考・判断・表現力：知識を活かして文化や社会に関して総合的な分析判断をすることができる。
- ③自立的行動力：スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

## 教科書 /Textbooks

テキストは用いません。プリントを用意し、授業ごとに配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて授業の中で紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 オリエンテーション：文化を読み解くとは
- 第02回 イギリス・アメリカの素顔を知る
- 第03回 マザーグースと児童文学
- 第04回 推理小説の誕生と発達
- 第05回 英国中世演劇からシェイクスピアまで
- 第06回 キリスト教を学ぶ
- 第07回 イスラム教を知る
- 第08回 英米の音楽(1)：アメリカにおけるジャズとロックの誕生
- 第09回 英米の音楽(2)：イギリスで発展したロック
- 第10回 英米の音楽(3)：英米のクラシック音楽事情
- 第11回 20世紀をスピーチで辿る
- 第12回 聖地デイズニーランド
- 第13回 イギリス英語・アメリカ英語・アジア諸国の英語事情
- 第14回 日本文化を英語で発信する
- 第15回 まとめと復習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験80%、平常点20点。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

この授業は予習を前提に考えてはいませんので、特に何か準備して臨んでいただく必要はありません。ただし、第14回「日本文化を英語で発信する」の回においては、皆さんに事前に作成していただいた内容を授業時に順に発表していただきます。他方、復習はしっかり行なっていただきたいです。プリントを読み直すとともに、気になることがあったら調べてみて下さい。最終試験は復習および皆さんの追加リサーチの成果が評価されることとなります。

## 履修上の注意 /Remarks

この科目は教職課程を履修している人にとっては必修科目となっています。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語はもはやイギリスやアメリカだけのものではなくなっています。英語はわたしたちの言語でもあります。しかし、英語を育んできた英米両国の文化を学ぶことは、英語の背後にある考え方やものの見方を知るためには不可欠です。積極的な気持ちで学んでいただきたいと思います。

## キーワード /Keywords

文学、宗教、音楽、国際英語

# 通訳翻訳の世界【昼】

担当者名 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
MCC231M	◎	△	○		
科目名	通訳翻訳の世界			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

## 授業の概要 /Course Description

この授業は、「通訳」および「翻訳」とはどのようなことを行なうことなのかを概観することを主眼とした講義として設定されていますが、受講生の皆さんには単に講義を聴くだけでなく、回によっては実践および実技を行なっていただくことも考えています。  
「グローバル化」する世界にあって、異文化に触れ、外国の方々とかかわる機会も増えていきます。それに伴い、通訳や翻訳の需要は増すばかりです。機械翻訳などの開発も進んでいますが、それによって人による通訳や翻訳が不必要になることは起こっていません。皆さんには、将来英米学科の卒業生として、就職した企業などでおそらく間違いなく通訳や翻訳を依頼されることが多くあることと思います。その点からも、通訳や翻訳の実技ができることはもちろんですが、ぜひその背景をも熟知しておくことは重要であると思います。それを踏まえ、3年次の「通訳実践」や「英日・日英翻訳演習」を受講していただければ嬉しいです。さらに興味を持った方には、通訳ゼミや翻訳ゼミに進んでいただければ幸いです。

【この授業の到達目標として、以下の内容を考えています。】

- ①知識：通訳・翻訳に関する基礎的な知識を身につけている。
- ②技能：基礎的な通訳や翻訳ができる技能を身につけている。
- ③思考・判断・表現力：異文化理解に基づき、適切な文化の橋渡しをすることができる。

## 教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。毎授業時にプリントを配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

年4回刊行される雑誌『通訳翻訳ジャーナル』(イカロス出版)、また、向 鎌治郎、丸山 祥夫(著)『中学英語で通訳ができる』(ジャパントイムズ)などは参考になると思います。その他、必要に応じて授業の中で紹介することがあります。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 序論(1)：コミュニケーションとは何か
- 第02回 序論(2)：通訳・翻訳と異文化間コミュニケーション
- 第03回 通訳の世界(1)：さまざまな通訳
- 第04回 通訳の世界(2)：日本の通訳史
- 第05回 通訳の世界(3)：世界の通訳史
- 第06回 通訳の世界(4)：職業としての通訳
- 第07回 通訳の世界(5)：通訳者に求められるもの
- 第08回 翻訳の世界(1)：日本の翻訳史
- 第09回 翻訳の世界(2)：聖書の翻訳史
- 第10回 翻訳の世界(3)：翻訳学・翻訳論
- 第11回 翻訳の世界(4)：ドラマの翻訳
- 第12回 翻訳の世界(5)：文学作品の翻訳
- 第13回 翻訳の世界(6)：歌曲の翻訳：訳詞
- 第14回 翻訳の世界(7)：職業としての翻訳
- 第15回 まとめ：全体の復習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末テスト70% + 平常点30点

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

この授業は講義を基本としているので、その意味では特に事前に準備していただく必要はありません。ただし、上に記したように、講義で説明したことを踏まえ実践や実技をしていただく場合がありますし、事後の復習や実践練習は非常に重要です。たくさんの時間を割いていただく必要はありません。少しの時間でよいので、授業の後の振り返りをお願いしたいと思います。

## 履修上の注意 /Remarks

この授業では実技をお願いすることがあるかと思いますが、通訳経験の有無などは一切問題にしません。安心して受講していただければと思います。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

昨年度に新規開講した科目です。昨年は遠隔授業となり、ビデオ配信のみでの実施となったため、皆さんに実践していただくことがほとんどできませんでした。本年度は対面授業を予定していますので、実質的には新規開講科目という気持ちで取り組みます。皆さんとともに新しい授業を作っていきたいと思います。よろしくお願いします。

## キーワード /Keywords

通訳、翻訳、異文化間コミュニケーション

# 通訳理論と技術【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
MCC232M	◎		○		○
科目名	通訳理論と技術			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

## 授業の概要 /Course Description

この授業は、「通訳」を行なうために必要な理論や知識を身に付けることを目指した講義として設定されていますが、演習の要素を加え、受講生の皆さんには単に講義を聴くだけでなく、実技の実践もお願いしたいと考えています。

「グローバル化」する世界の中で、異文化に触れ、外国の方々とかかわる機会も増えていきます。それに伴い、通訳が必要とされる機会は増すばかりです。皆さんは、将来英米学科の卒業生として、就職した企業などでおそらく間違いなく通訳を依頼される機会が多くあることと思います。その意味でも、ぜひ通訳についてのバックグラウンドとなる知識を身につけ、実技もできるようにしていきたいと思っています。3年次の「通訳実践」では実技練習が用意されますので、ぜひ受講されるようにお勧めします。さらに深く学びたい方には通訳ゼミに進んでいただければ幸いです。

【この授業の到達目標として、以下の内容を考えています。】

- ①知識：通訳に関する理論を知り、実践する技術を身につけている。
- ②思考・判断・表現力：異文化理解に基づき、適切な文化の橋渡しをすることができる。
- ③自立的行動力：専門的な知識と技術を活かして多彩な社会貢献ができる。

## 教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。毎授業時にプリントを配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

年4回刊行される雑誌『通訳翻訳ジャーナル』(イカロス出版)、また、向 鎌治郎、丸山 祥夫(著)『中学英語で通訳ができる』(ジャパントイムズ)などは参考になると思います。その他、必要に応じて授業の中で紹介することがあります。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 序論：通訳とスキル
- 第02回 通訳訓練と英語力
- 第03回 メッセージの理解
- 第04回 意味の理論再考
- 第05回 表現者としての通訳
- 第06回 通訳基礎トレーニング(1)
- 第07回 通訳基礎トレーニング(2)
- 第08回 ノートテイキング
- 第09回 サイト・トランスレーション
- 第10回 通訳実務の準備
- 第11回 逐次通訳(1)
- 第12回 逐次通訳(2)
- 第13回 同時通訳(1)
- 第14回 同時通訳(2)
- 第15回 まとめ：全体の復習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末テスト70% + 平常点30点



## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

この授業は講義を基本としているので、その意味では特に事前に準備していただく必要はありません。ただし、講義で説明したことを踏まえ実践や実技をしていただきたいと考えているので、復習はしっかりと行なっていただきたいと思います。実技が伴わない回でも、講義の常として復習は非常に重要です。多くの時間を割いていただく必要はありません。少しの時間でよいので、授業の後の振り返りをお願いします。

## 履修上の注意 /Remarks

この授業では実技をお願いすることがあるかと思いますが、通訳経験の有無などは一切問題にしません。安心して受講していただければと思います。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

昨年度に新規開講した科目です。昨年は遠隔授業となり、ビデオ配信のみでの実施となったため、皆さんに実践していただくことがほとんどできませんでした。本年度は対面授業を予定していますので、実質的には新規開講科目という気持ちで取り組みます。皆さんとともに新しい授業を作っていきたいと思います。よろしくお願いします。

## キーワード /Keywords

通訳、理論、実技

# American Societies and Cultures 【昼】

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE221M	◎		○		△
科目名	American Societies and Cultures		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

Against the backdrop of Black Lives Matter, as well as the attack on the US Capitol building by supporters of Donald Trump, this course looks at the American tradition of protest -- individuals, groups, and movements that have opposed existing institutions and sought to create social and political alternatives. Topics covered include religious dissent and the first colonies, protests against English rule and the American Revolution, Utopian communities, slave uprisings by Nat Turner and others, Native American resistance to settlers, the women's movement, the 60s anti-war demonstrations, Civil Rights Black Power and Black Lives Matter (BLM), the Stonewall demonstrations and LGBTQ+, and the rise of the new anti-government populism.

## 教科書 /Textbooks

Materials to be provided by the instructor

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

"Revolts, Protests, Demonstrations, and Rebellions in American History: An Encyclopedia. 3 volumes."  
Editor Steven L. Danver

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Introduction -- Figures, Events, Movements:  
Week 2 The Land  
Week 3 Dissenters and the English colonies  
Week 4 Settlers and Native Americans -- Film "The New World"  
Week 5 The fight against the English king -- The American Revolution  
Week 6 Revolution within the Revolution: Shay's Rebellion  
Week 7 Nat Turner's Rebellion: Slave uprisings and the Abolitionists  
Week 8 Mid-term test  
Week 9 Southern Rebels and Civil War  
Week 10 From the Battle of Wounded Knee to AIM (American Indian Movement) -- Native American resistance to American expansion  
Week 11 The Women's Movement  
Week 12 Youth in revolt  
Week 13 Film -- "Rebel Without a Cause"  
Week 14 Civil Rights and the Black Power movement to Black Lives Matter  
Week 15 From Stonewall to LGBTQ+

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation and homework assignments 50%  
Mid-term test 25%  
Final test 25%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should review material covered on weekly basis..

## 履修上の注意 /Remarks

Students are expected to attend on weekly basis.

# American Societies and Cultures 【昼】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This course offers students an opportunity to learn about various kinds of opposition and protest that have shaped American society and to understand conflicts that continue to divide Americans.

## キーワード /Keywords

American cultures and societies, dissent, resistance, rebellion, revolt, revolution, utopia, protest, Native Americans, African Americans, youth culture, LGBTQ+

# 日英翻訳演習 【昼】

担当者名 /Instructor                      ローズマリー・リーダー / Rosemary Reader / 英米学科

履修年次 /Year                      2年次                      単位 /Credits                      2単位                      学期 /Semester                      2学期                      授業形態 /Class Format                      講義・実習                      クラス /Class                      2 - 1・2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG281M		◎	○	○	
科目名	日英翻訳演習			<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>	

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
技能：日英両語に習熟し、翻訳する技能を身につけている。  
思考・判断・表現力：異文化理解に基づき、適切な文化の橋渡しをすることができる。  
コミュニケーション力：相手に積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を有している。

This class focuses on Japanese to English translation. The general class structure will involve introducing a topic that can cause issues when translating along with various methods to solve these problems, followed by active translation and discussion so that students can practically apply some of the theoretical points as they learn them. The majority of the translations focused on will be literary in nature but we will occasionally consider technical texts of other genres.

## 教科書 /Textbooks

None.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

You will need access to a good dictionary, ideally more than one (paper, electronic or smartphone app are all fine).

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Intro
- 第2回 Words
- 第3回 Groups of Words
- 第4回 More Meaning
- 第5回 Names
- 第6回 Indirectness
- 第7回 Grammar
- 第8回 Cohesion
- 第9回 Genre
- 第10回 Numbers
- 第11回 False Friends
- 第12回 Equivalence
- 第13回 Register
- 第14回 Speech
- 第15回 Outro

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Participation: 30%  
Assignments: 70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Directions to be provided in class.

## 履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 日英翻訳演習 【昼】

担当者名 /Instructor                      ローズマリー・リーダー / Rosemary Reader / 英米学科

履修年次 /Year                      2年次                      単位 /Credits                      2単位                      学期 /Semester                      2学期                      授業形態 /Class Format                      講義・実習                      クラス /Class                      2 - 3・2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG281M		◎	○	○	
科目名	日英翻訳演習		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
技能：日英両語に習熟し、翻訳する技能を身につけている。  
思考・判断・表現力：異文化理解に基づき、適切な文化の橋渡しをすることができる。  
コミュニケーション力：相手に積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を有している。

This class focuses on Japanese to English translation. The general class structure will involve introducing a topic that can cause issues when translating along with various methods to solve these problems, followed by active translation and discussion so that students can practically apply some of the theoretical points as they learn them. The majority of the translations focused on will be literary in nature but we will occasionally consider technical texts of other genres.

## 教科書 /Textbooks

None.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

You will need access to a good dictionary, ideally more than one (paper, electronic or smartphone app are all fine).

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Intro
- 第2回 Words
- 第3回 Groups of Words
- 第4回 More Meaning
- 第5回 Names
- 第6回 Indirectness
- 第7回 Grammar
- 第8回 Cohesion
- 第9回 Genre
- 第10回 Numbers
- 第11回 False Friends
- 第12回 Equivalence
- 第13回 Register
- 第14回 Speech
- 第15回 Outro

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Participation: 30%  
Assignments: 70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Directions to be provided in class.

## 履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 日英翻訳演習 【昼】

担当者名 /Instructor                      ローズマリー・リーダー / Rosemary Reader / 英米学科

履修年次 /Year                      2年次                      単位 /Credits                      2単位                      学期 /Semester                      2学期                      授業形態 /Class Format                      講義・実習                      クラス /Class                      2 - 5・2 - 6

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG281M		◎	○	○	
科目名	日英翻訳演習			<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>	

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
技能：日英両語に習熟し、翻訳する技能を身につけている。  
思考・判断・表現力：異文化理解に基づき、適切な文化の橋渡しをすることができる。  
コミュニケーション力：相手に積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を有している。

This class focuses on Japanese to English translation. The general class structure will involve introducing a topic that can cause issues when translating along with various methods to solve these problems, followed by active translation and discussion so that students can practically apply some of the theoretical points as they learn them. The majority of the translations focused on will be literary in nature but we will occasionally consider technical texts of other genres.

## 教科書 /Textbooks

None.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

You will need access to a good dictionary, ideally more than one (paper, electronic or smartphone app are all fine).

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Intro
- 第2回 Words
- 第3回 Groups of Words
- 第4回 More Meaning
- 第5回 Names
- 第6回 Indirectness
- 第7回 Grammar
- 第8回 Cohesion
- 第9回 Genre
- 第10回 Numbers
- 第11回 False Friends
- 第12回 Equivalence
- 第13回 Register
- 第14回 Speech
- 第15回 Outro

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Participation: 30%  
Assignments: 70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Directions to be provided in class.

## 履修上の注意 /Remarks



担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 国際法入門 【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 集中  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW251M	◎		○		△
科目名	国際法入門			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

## 授業の概要 /Course Description

この授業は、夏休みの集中講義期間に行われます。  
難民問題を題材に具体的事例の検討を進めながら、問題となる国際法上の論点を取り上げ、その学習を通じ、国際法の専門知識に関する基本的枠組みの習得を目指します。

到達目標は、

- 【知識】現代の国際関係法に関する知識を体系的に身につけている
- 【技能】現代の国際関係法を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている
- 【思考・判断・表現力】現代の国際関係法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができるようになります。

具体的には、

- 国際法の体系的理解に必要な基礎知識を獲得する、
- 難民問題に関する課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける、
- 現代社会が抱える難民問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認することができる、とします。

This class will be offered in summer school session.

In this class, we will examine specific cases relating to refugee issues with be focused on international legal issues. You could learn the basic framework of international law.

The goal of this class is as follows:

- To acquire the basic knowledge necessary for the systematic understanding of international law;
- To develop your competence to judge comprehensively so that you can discover issues related to refugee issues and propose any solutions, based on legal analysis and logical thinking;
- To raise your interest in refugee issues in modern society and reaffirm the link between law and society.

## 教科書 /Textbooks

ありません。

必要な資料は、適宜、配布します。

No textbooks. Related materials will be distributed as needed.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

初回授業時に、紹介します。

References will be introduced in the first class.

# 国際法入門 【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

『イントロダクション』

Day 1

第01回 コースガイダンス

『難民問題の現状を知る』

Day 1

第02回 UNHCRのデータから、現在の難民の発生状況や受け入れ状況を学ぼう

第03回 担当した、上位の出身国、受入国の現状を調べてみよう

Day 2

第04回 プレゼンとディスカッション「現代の難民問題にはどのような特徴がみられるか」

『法的保護：日本の難民認定制度とその運用について考える』

Day 2

第05回 日本の難民認定者数や難民受入率の現状を学ぼう

第06回 担当した、諸外国の難民認定制度の状況を調べてみよう

Day 3

第07回 プレゼンとディスカッション「日本のこれからの難民認定制度はどうあるべきか」

『物的保護：公平な負担と責任分担について考える』

Day 3

第08回 UNHCR・WFP・UNICEFなどの人道援助活動の現状について学ぼう

第09回 担当した、人道援助の実施上の課題について調べてみよう

Day 4

第10回 プレゼンとディスカッション「活動継続資金の確保と難民問題への国際的な関心の維持」

『恒久的解決としての自発的帰還：難民を生み出す根本原因の解決について考える』

Day 4

第11回 恒久的解決の3つの手法とともに、自発的帰還の現状について学ぼう

第12回 担当した、自発的帰還の実施上の課題について調べよう

Day 5

第13回 プレゼンとディスカッション「軍事的介入による難民を生み出す根本原因の解決」

『まとめ』

Day 5

第14回 難民として日本で暮らす\_人権と多文化共生社会

第15回 まとめ

INTRODUCTION

Day 1

Class 01 Orientation

STATUS-QUO OF REFUGEE ISSUES

Day 1

Class 02 Learn about Refugee Situations in the World, REFWORLD

Class 03 Examine top 10 countries, origin and host

Day 2

Class 04 Presentation and Discussion, Some Aspects of Modern Refugee Issues

LEGAL PROTECTION: Refugee Recognition System and its Operation in Japan

Day 2

Class 05 Learn about Current Numbers and Rates of Recognition of Refugee Status in Japan

Class 06 Examine Status-quo of Refugee Recognition Systems in other Countries

Day 3

Class 07 Presentation and Discussion, Desirable Japanese Refugee Recognition System

MATERIAL ASSISTANCE: Burden and Responsibility Sharing

Day 3

Class 08 Learn about the Current Activities of Humanitarian Assistance, UNHCR, WFP, and UNICEF

Class 09 Examine Issues in Implementing Humanitarian Assistance

Day 4

Class 10 Presentation and Discussion, Ensuring Continuation Funds and Maintaining International Interest in Refugee Issues

VOLUNTARY REPATRIATION: Dissolution of the Root Causes of Refugees

Day 4

# 国際法入門 【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Class 11 Learn about 3 Options of Durable Solutions and Voluntary Repatriation  
Class 12 Examine Issues in Implementing Voluntary Repatriation  
Day 5  
Class 13 Presentation and Discussion, Dissolving the root causes of refugees through military intervention  
  
CONCLUSION  
Day 5  
Class 14 Living in Japan as a refugee \_ Human Rights and Realization of Multicultural Society  
Class 15 Wrap-up

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取組...50% ( 貢献...10% , プレゼン...20% , ディスカッション...20% )  
レポート...50%  
  
Participation in classes...50% (Contribution to classes...10%, Presentation...20%, Discussion...20%)  
Essay...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

4回のプレゼンが課されます。担当となった課題について、事前学習を進めてください。また4回のディスカッションが実施されます。事後学習として、授業内容の整理も含め、ディスカッションの振り返りを行ってください。

Four presentations will be given. Please prepare for the assigned task. There will be four discussions class. As a follow-up study, please review the contents of the class and the results of the discussion.

## 履修上の注意 /Remarks

授業は日本語で実施しますが、英語の資料を積極的に紹介し、受講生にはその活用を求める予定です。受講にあたっては、この点に注意してください。

Classes will be done in Japanese. However, you would be asked to learn by using English materials actively. Please keep this in mind when taking the course.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習・復習の時間として2コマ分の時間を確保しています。相応の作業を伴いますので、夏休み中の暑い時期で大変ですが、頑張ってください。

It is necessary to ensure 180 minutes for preparation and review. It will be hard work in the hot season during summer vacation. Please do your best.

## キーワード /Keywords

「難民 Refugee」「国境 Border」「領域 Territory」「難民条約 Convention Relating to the Status of Refugees・議定書 Protocol -」「カルタヘナ宣言 Cartagena Declaration on Refugees」「OAU難民条約 OAU Convention Governing the Specific Aspects of Refugee Problems in Africa」「UNHCR規程 Statute of the UNHCR」「法的保護 Legal Protection」「難民認定 Recognition of Refugee Status」「出入国管理 Immigration Control」「裁量 Discretion」「物的保護 Material Assistance」「負担と責任の分担 Burden and Responsibility Sharing」「人道援助アクセス Access to Humanitarian Assistance」「one UN」「恒久的解決 Durable Solutions」「現地定住 Local Integration」「第3国定住 Resettlement」「自発的帰還 Voluntary Repatriation」「軍事介入 Military Intervention」「強制措置 Enforcement Measures」「保護する責任 Right to Protect」「多文化共生社会 Multicultural (simbiotic) Society」「社会統合 Social Integration」

# 国際関係基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
IRL211M	◎		○		△
科目名	国際関係基礎			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

## 授業の概要 /Course Description

この科目では様々なグローバル・イシューを取り上げ、その原因、対策、課題について考察を深めます。単に問題の表層を捉えるだけでなく、問題解決を難しくしている国際政治についても掘り下げて考えます。受講者はそれらの問題が互いに絡み合っていることを理解し、複雑な現代世界を捉える視点を身に付けます。

授業は英語50%日本語50%で行う予定です。授業は英語でのパワーポイントを使用する予定で、日本語のレジユメを補助として使用します。

【知識】 国際関係に関する基礎的な知識を身につけている。

【思考・判断力・表現力】 国際関係学の立場から総合的に思考し表現することができる。

【自立的行動力】 専門的な知識を活かして多彩な社会貢献ができる。

## 教科書 /Textbooks

指定はありません。毎回、レジユメをMoodle上にアップします。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

滝田賢治・大芝亮・都留康子『国際関係学』(第2版)有信堂、2017年。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Class 1. Introduction: theoretical approaches to IR [realism][liberalism][Marxism][constructivism]
- Class 2. Peace [positive peace] [negative peace]
- Class 3. Emerging Powers and Changing World Politics [China][BRICS][G20]
- Class 4. Security [national security][security dilemma][human security]
- Class 5. Humanitarian Intervention[Kosovo][Rwanda]
- Class 6. Responsibility to Protect [ICISS][Libya]
- Class 7. Nuclear Weapon [Treaty on the Prohibition of Nuclear Weapons][Non-proliferation Treaty]
- Class 8. Energy [nuclear power][renewable energy]
- Class 9. Climate Change[COP][Paris Agreement]
- Class 10. Food [GMO][genome editing]
- Class 11. Middle East and Islamic World [Sunnii][Shiite][Arab Spring]
- Class 12. Africa [governance][development cooperation][resource curse]
- Class 13. Migrants & Refugees [UNHCR][IDPs]
- Class 14. Gender [gender equality][GI]
- Class 15. Infectious Diseases [HIV/AIDS][COVID-19][NTD]

## 成績評価の方法 /Assessment Method

第2回から第15回まで毎回小テストを実施し、その合計点で評価します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前の週の金曜日を目処に日本語のファイルをMoodleにアップロードしますので、受講者は必ず目を通して事前学習を行ってください。授業中に小テストを行いますので、間違えた箇所について事後学習してください。

## 国際関係基礎 【昼】

### 履修上の注意 /Remarks

授業は英語を主な使用言語とし、日本語を補助的に使う予定です。日本語のレジユメをMoodleにアップロードしますので、できればそれをダウンロードして印刷し、ノートに貼り付け、右側には授業中に使用する英語でのパワーポイントスライドの内容をメモするなどの工夫を行ってください。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業で取り上げる 이슈は限られています。日頃から新聞を読んだり、新書を読んだりして国際関係に興味を持つようにしてください。

### キーワード /Keywords

# 国際機構論 (概論) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯村 英司 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
IRL311M	◎		○		△
科目名	国際機構論 (概論)		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

今日、国際機構は私たちの日常に欠かすことのできない存在となっています。たとえば、気候変動やジェンダー不平等などすべての国が達成すべき17の項目により構成される「持続可能な開発目標 (SDGs)」は、2015年に国際連合が策定したもので、日本もSDGsに積極的に取り組んでいることもあって私たちの日常生活に浸透しつつあります。また今般の新型コロナウイルス感染症でクロースアップされた世界保健機関 (WHO) の発する情報や対策は、諸国政府を通して私たちに多大な影響を与えています。

国際機構は現在およそ300近くあるといわれていますが、本講義ではこうした国際機構はどのような組織体をいい、その内部構造はどうなっているのか (定義・類型・構造)、またどのような経緯で設立され (沿革)、現在国際機構はどのような活動をおこなっているのか (活動) について焦点をあて、現代国際機構の意義と限界を考察していきます。

### 【到達目標】

- 「知識」 国際機構に関する基礎的な知識を身につけている。
- 「思考・判断・表現力」 国際機構に関する知識を活かして思考し表現することができる。
- 「自立的行動力」 専門的な知識を活かして多彩な社会貢献ができる。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 横田洋三編著『新版 国際機構論』国際書院、2001年 ○
- 最上俊樹『国際機構論 (第2版)』東京大学出版会、2006年 ○
- 山田哲也『国際機構論入門』東京大学出版会、2018年
- 香西茂・安藤仁介『国際機構条約・資料集 (第2版)』東信堂、2002年 ○

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、国際社会の特徴
- 2回 国際社会の組織化と国際機構
- 3回 国際機構の萌芽 (国際河川委員会、国際行政連合)
- 4回 普遍的国際機構の誕生 (国際連盟) と発展 (国際連合)
- 5回 地域的国際機構 (EU、ASEAN)
- 6回 組織構造、国際公務員、意思決定
- 7回 小括
- 8回 集団安全保障①国際連盟、国際連合
- 9回 集団安全保障②国際連合
- 10回 国連の平和維持活動
- 11回 人権
- 12回 軍縮
- 13回 環境、保健衛生
- 14回 国連改革
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- 期末試験 60%
- 平常の学習状況 (考察の回答を含む) 40%

# 国際機構論（概論）【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テーマに基づいて「考察」を設定しています。受講前にこれを読み、配布するレジюме・資料等に目を通しておくようしてください。

## 履修上の注意 /Remarks

講義を受ける際のマナーに留意してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
MCC314M	○		△	◎	
科目名	Cross-cultural Fieldwork		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
 知識: 海外経験を通して異文化間コミュニケーションに関する知識を身につけている。  
 DP3 思考・判断・表現力: 異文化間コミュニケーションの知識を活かして判断表現することができる。  
 コミュニケーション力: 海外経験を通して高い英語コミュニケーション力を身につけている。

この科目は、学生の自主的な異文化体験を「生きた学習」として認め、それに対して一定の評価を与え、学生の積極的な異文化体験を促進する目的のために開講されている。受講開始時において、原則として1年以内に1ヶ月以上の海外滞在経験を持ち、撮ってきた写真を使って異文化体験を報告することができることが受講条件となる。

## 教科書 /Textbooks

特にテキストは定めない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて指摘。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
  - 第2回 学生による異文化体験プレゼンテーション1(タコマなど)
  - 第3回 ディスカッション1(タコマなど)
  - 第4回 学生による異文化体験プレゼンテーション2(カーディフなど)
  - 第5回 ディスカッション2(カーディフなど)
  - 第6回 学生による異文化体験プレゼンテーション3(オックスフォード・ブルックスなど)
  - 第7回 ディスカッション3(オックスフォード・ブルックスなど)
  - 第8回 学生による異文化体験プレゼンテーション4(アジア諸国など)
  - 第9回 ディスカッション4(アジア諸国など)
  - 第10回 学生による異文化体験プレゼンテーション5(フォート・ルイスなど)
  - 第11回 ディスカッション5(フォート・ルイスなど)
  - 第12回 学生による異文化体験プレゼンテーション6(ハワイなど)
  - 第13回 ディスカッション6(ハワイなど)
  - 第14回 Paper outline guidance
  - 第15回 Submission of final paper and discusson
- ※( )内の渡航先は暫定的で、未定です。各学生の行った場所によって変わります。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

海外滞在体験報告のプレゼンテーションと、それを簡単に文にまとめたレポートによって成績を出す。

レポート - 50% 参加 / プレゼンテーション - 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前準備: 海外滞在経験を示す写真等のマテリアルを用意すること。

復習: 授業で行ったディスカッションと発表を参考にして、レポートとしてまとめること。

## 履修上の注意 /Remarks

All Instruction will be in English.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# Gender and Communication Studies 【昼】

担当者名 /Instructor: フィオナ・クリーサー / Fiona Creaser / 英米学科

履修年次 /Year: 3年次  
単位 /Credits: 2単位  
学期 /Semester: 1学期  
授業形態 /Class Format: 講義  
クラス /Class: 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
MCC341M	◎		○		△
科目名	Gender and Communication Studies				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連  
※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
ジェンダー論に関する基礎的な知識を身につけている。ジェンダー論の観点から論理的な思考・分析を行うことができる。スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

This course is designed to allow students to talk about gender issues correctly in English. students will study various topics related to gender through out the semester and have the opportunity to discuss these topics in small groups.

Some if not all of the topics under discussion will be new to our students and it is hoped that this course will open doors to a rainbow of beautiful colors that make up our gender identity.

The topics discussed will, where possible, be related to the United Nations Sustainable Development Goals (SDGs) and students are encouraged to think of ways they can make a difference and help create a more gender equitable society.

## 教科書 /Textbooks

Material will be provided by the instructor

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Students are encouraged to browse the library for resources related to this course.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1: Introduction to the course.
- Week 2: Talk about gender, the basics.
- Week 3: SDG # 5: Achieve gender equality and empower all women and girls
- Week 4: SDG # 5: UN Women
- Week 5: LGBTQ+: Leave no one behind
- Week 6: LGBTQ+: Proud of Pride
- Week 7: Quality Education: Exploring gender bias in education
- Week 8: Quality Education, providing an inclusive education environment
- Week 9: Sexism: Recognizing sexism in our daily lives
- Week 10: Gender based violence
- Week 11: Activism: #Me Too
- Week 12: Activism: Pink Sari Revolution
- Week 13: COVID -19
- Week 14: COVID-19
- Week 15:Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- 50% in class participation and assignments
- 50% x 2 homework assignments

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are expected to come prepared each week for class by studying the materials provided by the instructor.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

I hope this course will be fun and informative for everyone. Relax and enjoy talking about gender.

## キーワード /Keywords

Gender, sustainable Development Goals, LGBTQ+, Women

# Gender and Japanese Popular Culture 【昼】

担当者名 /Instructor: フィオナ・クリーサー / Fiona Creaser / 英米学科

履修年次 /Year: 3年次  
単位 /Credits: 2単位  
学期 /Semester: 2学期  
授業形態 /Class Format: 講義  
クラス /Class: 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
MCC342M	◎		○		△
科目名	Gender and Japanese Popular Culture				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連  
※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
ジェンダー論に関する基礎的な知識を身につけている。ジェンダー論の観点から論理的な思考・分析を行うことができる。スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

In this class students will have the opportunity to explore Japanese popular culture and gender by looking at anime, music, beauty, and fashion. Students will be able to analyze and think critically about the culture they are being brought up in and how this influences the way they think about gender.

Students will also work together in small groups with the aim of introducing a part of gender and popular Japanese culture they are most interested in and presenting it to the class.

Culture is a living entreaty and is in a constant state of change, students are therefore encouraged to come to class and share new and exciting ideas they may have discovered about gender and popular Japanese culture.

## 教科書 /Textbooks

Materials will be provided by the instructor

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Students are encouraged to browse the library for materials.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1: Introduction to the course
- Week 2: Exploring gender, culture, and Japan
- Week 3: Heterosexuality and Japanese culture
- Week 4: The othering of the LGBTQ+ community in Japanese popular culture
- Week 5: 君の名は
- Week 6: 天気の子
- Week 7: Dr Stone
- Week 8: Heterosexuality and gender stereotypes in popular music in Japan
- Week 9: 'Boy' Bands
- Week 10: 'Girl' Bands
- Week 11: The beauty industry in Japan
- Week 12: JK business, high school fashion and popular culture
- Week 13: Group Presentations I
- Week 14: Group Presentations II
- Week 15: Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- 50% in class assessments
- 25% Report
- 25% Group Presentation

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are expected to prepare for classes in advance every week

# Gender and Japanese Popular Culture 【昼】

専門教育科目  
English Studies 科目  
Society and Culture Program

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

I look forward to learning about Japanese popular culture from you all as well as guiding you through the exciting and colorful world of gender.

## キーワード /Keywords

gender, Japan, popular culture

担当者名 /Instructor アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 3年  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
MCC351M	◎		○		△
科目名	Theatre and Performance Studies				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連  
※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

DP に基づく 3 つの到達目標

知識: 演劇・パフォーマンス研究に関する基礎的な知識を身につけている。

思考・判断・表現力: 演劇・パフォーマンス研究の観点から思考・論理的な分析を行うことができる。

自立的行動力: スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

This course will offer an overview of the ways theatre and performance are studied. Course content will focus on performers, spectators, performance spaces, theatre theory, the history of theatre, and analysis of performance itself. A wide range of theatrical genres will be approached including drama, musical theatre and dance.

Each class will consist of a teacher-focused lecture followed by student-focused discussion.

## 教科書 /Textbooks

Christopher B. Balme, The Cambridge Introduction to Theatre Studies (Cambridge: Cambridge University Press, 2008)

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Relevant material for further study will be introduced during each class.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction to Theatre and Performance Studies
- 2回 Performers and Actors
- 3回 Spectators and Audiences
- 4回 Spaces and Places
- 5回 Theories of Theatre: Historical Paradigms
- 6回 Theories of Theatre: Systematic and Critical Approaches
- 7回 Theatre Historiography
- 8回 Text and Performance
- 9回 Performance Analysis
- 10回 Music and Dance Theatre
- 11回 Applied Theatre
- 12回 Theatre and Media
- 13回 Henry V: Expanding The Stage
- 14回 Othello: Performing Persuasion
- 15回 Review: The Purpose of Playing

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Short Essay (700-1000 words) - 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

From Session 2 on, students will be assigned short, manageable texts as preparatory reading on a weekly basis.  
Students are advised to reread course content/reading material after each class.

## 履修上の注意 /Remarks

Please note that this course will be conducted in English.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



担当者名 /Instructor アーノルド・ ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 / 3 Year  
単位 /Credits 2単位 / 2 Credits  
学期 /Semester 2学期 / 2 Semester  
授業形態 /Class Format 講義・実習 / Lecture・Practical  
クラス /Class クラス 3年 / Class 3 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
MCC352M	◎		○		△
科目名	Film and Society			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標:  
 知識: 映画に通じ、それを通して社会を考える力を身につけている。  
 思考・判断・表現力: 映像表現を通して社会や文化を分析し、考えを発信することができる。  
 自律的行動力: 専門的な知識を活かして多彩な社会貢献ができる。

Film and Society is a course designed to use American films as a means by which we can analyze and discuss important social and cultural topics related to both personal and public life in the United States. We will be reading sections of and watching parts of three famous American plays that have been made into movies in order to introduce various topics/themes for discussion.

This course is designed to encourage students to learn about and discuss a variety of aspects concerning American culture and social issues. We will study how films are used to depict certain social and cultural concerns—both positively and negatively—in order to better understand how these issues impact or represent current day United States. Through different approaches of looking at these theatrical play/films, this course will help broaden student understanding concerning the importance of the cinema in the following three areas: social issues (including gender, race, class and religion), political issues, and cultural issues. Every class will include sections from Hollywood film versions of the three plays as well as reading sections of the play for analysis.

The objective is to have you broaden your understanding of how cinema is an important medium through which cultural and social issues can be represented. We will consider the following questions: Is the cinema a good way to examine these various issues? Do the cinematic representations help us understand the situation of other people? In every class, we will use the following content for our weekly topic: 1) weekly theme; 2) language focus; and, 3) output. In all classes, you will be required to bring your homework to the class in order to participate with classmates. I am interested in helping students further develop their critical thinking skills. Creativity is crucial to “thinking outside the box,” and through our examination of these plays, I hope that we will learn new ways of viewing different aspects of our global society.

## 教科書 /Textbooks

No text book required. Every week, on Moodle there will be sections of the play that you need to read for homework. There will also be a Japanese version of the text to help you understand the English version. You will also be required to watch the DVD movie in the library.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

The library has DVD movie version of all three movies we will be discussing. You need to watch each movie in the library.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction to course and get to know your classmates
2. American Film and Society: Play 1--The Crucible, Part 1
3. American Film and Society: Play 1--The Crucible, Part 2
4. American Film and Society: Play 1--The Crucible, Part 3
5. American Film and Society: Play 1--The Crucible, Part 4
6. American Film and Society: Quiz 1, A Streetcar Named Desire, Part 1
7. American Film and Society: Play 2--A Streetcar Named Desire, Part 2
8. American Film and Society: Play 2--A Streetcar Named Desire, Part 3
9. American Film and Society: Play 2--A Streetcar Named Desire, Part 4
10. American Film and Society: Quiz 2, Fences, Part 1
11. American Film and Society: Play 3--Fences, Part 2
12. American Film and Society: Play 3--Fences, Part 3
13. American Film and Society: Play 3--Fences, Part 4
14. American Film and Society: Play 3--Fences, Part 5
15. Quiz 3, Final projects due.

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Class Participation: 5%; 3 major quizzes: 45%; 4 character analyses: 15%; 4 Listening activities: 15%; Final project: 20%.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please do NOT miss the first class.

Students will be expected to attend all classes.

## 履修上の注意 /Remarks

This class will be taught in English. Students will be expected to speak in English for 100% of the class period.

We will be watching the Hollywood movie versions of these plays. Each week, we will watch roughly 30 minutes of film and then discuss the specific theme for that week. It is very important that you watch the entire film outside of the class. The better you understand the film/play, the better you will do on the quizzes and homework. All three films are located in the library, so you can watch them there. Or, you can easily find the movies online or at a rental store and watch them in your home.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

During the semester, you must watch the film version of the play. The DVD of the film version is in the library.

## キーワード /Keywords

Theatre  
American culture  
Social topics

担当者名 /Instructor 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIT333M	◎		○		△
科目名	Literature in English			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

## 授業の概要 /Course Description

This course will deal with literary works in English as well as related artifacts in other forms, including films, TV dramas and stage plays when appropriate. You will try to understand and appreciate some of the unique features in these works as well as to look at these works from multiple perspectives by employing your ability in critical thinking.

DP (Diploma Policy) に基づく到達目標

《知識》英語で書かれた文学作品に関する基礎的な知識を身につけている。

《思考・判断・表現力》英語で書かれた文学作品について、学際的・複眼的に思考して自分の考えを論理的に表現することができる。

《自立的行動力》英語で書かれた文学作品を通じて、グローバル社会への関心を深め、国際問題に対して主体的に考え、行動できる。

## 教科書 /Textbooks

The course instructor will designate the required materials in class.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- 『作品ガイド150 たのしく読めるアメリカ文学』高田賢一、野田研一、笹田直人 編 (ミネルヴァ書房、1994年)
- 『新版 アメリカ文学史-コロナルからポストコロナルまで』別府恵子、渡辺和子 編 (ミネルヴァ書房、2000年)
- 『作品ガイド150 たのしく読めるイギリス文学』中村邦生、木下卓、大神田丈二 編著 (ミネルヴァ書房、1994年)
- 『アメリカ文学入門』諏訪部浩一 責任編集 (三修社、2013年)
- 『イギリス文学入門』石塚久郎 責任編集 (三修社、2014年)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Introduction
- Week 2 Writing About Literature
- Week 3 Multicultural America: Colonial Settlers
- Week 4 Multicultural America: Native Americans
- Week 5 Multicultural America: American Renaissance
- Week 6 Multicultural America: American Realism
- Week 7 Multicultural America: American Women Writers
- Week 8 Multicultural America: Fireflies and Snow at the Window
- Week 9 Multicultural Britain: Pride and Prejudice (1)
- Week 10 Multicultural Britain: Pride and Prejudice (2)
- Week 11 Multicultural Britain: Jane Eyre (1)
- Week 12 Multicultural Britain: Jane Eyre (2)
- Week 13 Multicultural Britain: Sherlock Holmes (1)
- Week 14 Multicultural Britain: Sherlock Holmes (2)
- Week 15 Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation, Quizzes, Writing Assignment ... 60% Term Exam ... 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are asked to prepare for each class by working on assigned materials and to review what they learned in each week.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

When only fragments from literary works are introduced in the class, students are advised to read through or watch through the literary works and other materials that are focused on by themselves.

## キーワード /Keywords

Literature in English, Cultural diversity, Postcolonialism

担当者名 /Instructor アーノルド・ウエイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 / 3年  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE321M	◎		○		△
科目名	American Studies			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標:

知識: アメリカに関する基礎的な知識を身につけている。

思考・判断・表現力: アメリカと関連する問題を正しく分析し、社会の諸問題を学術的、複眼的に思考できる。

自立的行動力: 国際人らしい良識と倫理観を持ち、主体的に行動することができる。

American Studies will look at American culture from various historical perspectives. The course is designed to follow trends in American history and how specific events helped shape and change American culture. We will start with the early settlers in the New Land and move through important periods. One of the goals of the course will be to make the events in America's past relevant to present day issues.

This lecture course examines American culture from various perspectives. The story of the United States can be traced through many historical materials, such as The Declaration of Independence and important political speeches. We will examine the path the United States has taken and the significance of these events in present day America. Through this course, students will gain applicable knowledge about the United States and acquire the ability to analyze noteworthy trends.

The objective is to broaden your understanding of how the United States has been transforming over the last 400 years. Through learning about these events, you will better understand how America works as a country as well as comprehend why certain events still impact present-day United States.

In this course, students will:

- Learn about the origins of American political thought
- Better understand how America's past has lasting impact into present-day life
- Advance your understanding of American culture and regional differences
- Learn new vocabulary related to historical, political, social, and cultural topics

Major requirements:

- Regular attendance, including bringing a question each week about the topic
- Six minor quizzes, of which the lowest grade will be dropped; there are no make-up quizzes (unless you have a university-approved reason for being absent)
- Homework readings, including answering the questions at the end of the textbook reading
- A final three-page essay on any three topics we discussed (you choose which topics interest you the most)

## 教科書 /Textbooks

S. Kathleen Kitao et al. Events and Trends in American History. Sanshusha, 1992.

Additionally, there will be a weekly news/history article that you will need to read online.

There will be TWO readings every week.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Information regarding required reading will be provided on the course syllabus given to you on the first day of class.

Please do NOT miss the first day of class.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Course Introduction
- 2 回 The New World
- 3 回 The Original Colonies
- 4 回 British Influence
- 5 回 Early Expansion to the Mississippi
- 6 回 The Moving Frontier
- 7 回 The Civil War and the Civil Rights Movement
- 8 回 The US System of Government
- 9 回 The Second World War
- 10 回 The 1960's Counterculture
- 11 回 Economic Values
- 12 回 Lifestyle
- 13 回 Popular Culture
- 14 回 Continuing Immigration
- 15 回 Course Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Six minor quizzes: 40%; Final written report (3 pages): 30%; Weekly question on that week's class topic/theme 10%; Class Participation, including answering the reading questions in the book: 20%.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Preview: Please familiarize yourself with the topics and vocabulary by reading through assigned textbook chapters before class and answering the questions assigned.

Review: Be careful to review English vocabulary relating to each chapter.

## 履修上の注意 /Remarks

This course will be taught in English. Students are also expected to participate using only English. Lecture notes will be provided to aid review for quizzes. The quizzes will be in English and will emphasize English language vocabulary and ideas relating to American culture. Students are expected to read before class the English-language textbook chapter and any additional homework readings relating to each week's topic to gain historical background understanding and to better participate in class discussions.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

In this course, we will be learning about important historical events and trends across the history of the United States. Every week, you will be required to read two different texts relating to the topic of the week. You will need to purchase the following text: S. Kathleen Kitao et al. Events and Trends in American History. Sanshusha, 1992. Additionally, there will be an online article that you must print and read each week before coming to class.

## キーワード /Keywords

American Dream; Democracy; the wild west; Industry vs. Agriculture; Racial tensions; immigration; racism; Donald Trump.

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE341M	◎		○		△
科目名	Irish Culture			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

知識：アイルランドに関する基礎的な知識を身につけている。

思考・判断・表現力：グローバルな視野から社会の問題を学術的、複眼的に思考できる。

自立的行動力：国際人らしい良識と倫理観を持ち、主体的に行動することができる。

The English-speaking countries are mainly made up of people who originally moved from Britain. Ireland, however, is different. Ireland was founded by the Celts (although the term is defined differently) and its culture is not a fusion of Hellenism and Hebraism like the rest of Europe. The country is located in the extreme west of Europe and has built another cultural history, confronting Britain, which has been the driving force of history as a main player of the modern spirit. This course will examine the history, culture and society of Ireland in general, from ancient times to the present day, with a focus on literature. Please note that the syllabus is subject to change depending on student interest and the progress of the course.

## 教科書 /Textbooks

There is no particular textbook to focus on.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Necessary references will be introduced in class.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction
2. History of Ireland (Ancient)
3. History of Ireland in the Middle Ages
4. History of Ireland (Modern)
5. Literature of Ireland (W. B. Yeats, Early Period)
6. Literature of Ireland (W. B. Yeats, Later Period)
7. Literature of Ireland (James Joyce, J. M. Synge and others)
8. Irish Decorative Arts (Celtic patterns and their world view)
9. Decorative Arts in Ireland (The Book of Kells)
10. The Decorative Arts of Ireland (Practical exercises in drawing Celtic patterns)
11. Irish Music (Traditional Music)
12. Irish Music (Rock, Riverdance, etc.)
13. The Irish independence movement and IRA terrorism
14. Ireland and the Modern Spirit
15. Conclusion

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Finalexam (80percent),inclass presentations and discussions (20percent)

# Irish Culture 【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Read the literature given before the class.  
Summarise the content after the class.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 通訳実技初歩 【昼】

担当者名 /Instructor ノリス 志津代 / Shizuyo Norris / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 1・ 3 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG381M		○		◎	○
科目名	通訳実技初歩		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

DP(Diploma Policy)に基づく3つの到達目標

技能：通訳の基礎的な技能を身につけている。

コミュニケーション力：異文化間コミュニケーションを積極的に進める姿勢と実力を身につけている。

自立的行動力：専門的な知識を活かして多彩な社会貢献ができる。

本クラスは英日逐次通訳の基礎力構築のため、英語の音声的特徴である Stress-timed rhythmに着目し、どのような音が「聞き取りにくい音・聞き間違いやすい音」であるかを理解し、正しく補正して聞き取れるリスニング力を養成する。正しく聴こえない音への対策として、(1)口頭リピート練習とディクテーションを通し「正しく意味化」する練習を行う。ディクテーションでは、構文知識を活用し、自力で聞き間違い箇所を見つけ、聞こえた音にこだわらずに修正する方法を学ぶ。(2)リンキング箇所など「耳」が捉えにくい音を「口」でリズムよく再現できるように訓練を重ね、英語のProsody(強弱、長短、高低、明瞭曖昧)に留意しながら、英語のリズムを身体化する練習を行う。

リスニングでは、聴覚情報を文字で捉えずに、視覚情報に転換する映像処理方法を学ぶ。聴覚情報を視覚情報に転換することで記憶に留めやすくなる。さらに映像化しながら、パラグラフ毎に展開を予測し、話の流れと核を捉えようとする聞き方を強化する。「その結果・一方で」などのつなぎ言葉の挿入方法を学び、ロジックの展開を追いながら聴く癖をつける。

英語のアウトプット力に関しては、プロソディー再生練習(リズム再生、暗唱)および英語戻し(英語を和訳し→英語に訳し戻す)練習、パラフレージング(自分の言葉で言い換える)練習を行い発話力を強化する。暗唱教材については、暗唱速度を学期末までに毎分速度で約30語短縮することを旨とする。

## 教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて資料配布。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

小松達也『通訳の技術』(研究社、2005)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下授業の進捗状況に応じ適宜調整する。

第1回 授業説明。学習データ表の説明。逐次通訳体験。

第2回 聞き間違いやすい音、聞き取りにくい音を確認。ディクテーション(以降毎週継続)。

第3回 情報の映像処理。プロソディー練習(聞き取り難い=言い難い音の確認)。

第4回 パラフレージング(自分の言葉化)。「英語学習方法」の紹介。ディクテーション提出開始。

第5回 導入部の予測、口頭リピート・暗唱・ディクテーション修正練習(以降随時行う)。

第6回 パラグラフの展開予測。内容について日本語1分スピーチの通訳。

第7回 「エーなし」前だし訳。「つなぎ言葉」挿入練習。訳した内容を紙を見ずにパラフレージング。

第8回 「エーなし・体言止めなし」前だし訳完成。オーバーラッピング訳体験。

第9回 ディクテーションの聞き間違いを自己修正。リズム再生・暗唱中間仕上げ。

第10回 ディクテーションの自己修正版提出。シャドーイング。

第11回 リズム再生・暗唱の速度チェック。毎分速度で約30語短縮の確認。

第12回 長文逐次通訳練習。ディクテーション試験練習。

第13回 長文逐次通訳練習。学習データ表の提出。

第14回 長文逐次通訳練習。リズム再生・暗唱完成。

第15回 総復習

## 通訳実技初歩 【昼】

### 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加 40%、総括レポートほか提出物 10%、期末テスト50%

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は事前課題をもとに展開するので、しっかりと指定された範囲の予習を行うこと。

### 履修上の注意 /Remarks

通訳は口頭作業であるため、自宅学習においても口頭練習の時間を十分に確保し、授業に臨むこと。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「言える英語」は「聞こえる英語」です。今期は英語の発話力を強化するために、口頭練習の回数をしっかり確保すること。課題が多く、少し難度の高い授業です。

### キーワード /Keywords

リンキングと音の消失、リズム再生と暗唱、ディクテーション、シャドーイング、映像処理、展開予測、パラフレーズ(自分の言葉化)、つなぎ言葉、英語戻し

# 通訳実技初歩 【昼】

担当者名 /Instructor ノリス 志津代 / Shizuyo Norris / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 3・ 3 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG381M		○		◎	○
科目名	通訳実技初歩		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

DP(Diploma Policy)に基づく3つの到達目標

技能：通訳の基礎的な技能を身につけている。

コミュニケーション力：異文化間コミュニケーションを積極的に進める姿勢と実力を身につけている。

自立的行動力：専門的な知識を活かして多彩な社会貢献ができる。

本クラスは英日逐次通訳の基礎力構築のため、英語の音声的特徴である Stress-timed rhythmに着目し、どのような音が「聞き取りにくい音・聞き間違いやすい音」であるかを理解し、正しく補正して聞き取れるリスニング力を養成する。正しく聴こえない音への対策として、(1)口頭リピート練習とディクテーションを通し「正しく意味化」する練習を行う。ディクテーションでは、構文知識を活用し、自力で聞き間違い箇所を見つけ、聞こえた音にこだわらずに修正する方法を学ぶ。(2)リンキング箇所など「耳」が捉えにくい音を「口」でリズムよく再現できるように訓練を重ね、英語のProsody(強弱、長短、高低、明瞭曖昧)に留意しながら、英語のリズムを身体化する練習を行う。

リスニングでは、聴覚情報を文字で捉えずに、視覚情報に転換する映像処理方法を学ぶ。聴覚情報を視覚情報に転換することで記憶に留めやすくなる。さらに映像化しながら、パラグラフ毎に展開を予測し、話の流れと核を捉えようとする聞き方を強化する。「その結果・一方で」などのつなぎ言葉の挿入方法を学び、ロジックの展開を追いながら聴く癖をつける。

英語のアウトプット力に関しては、プロソディー再生練習(リズム再生、暗唱)および英語戻し(英語を和訳し→英語に訳し戻す)練習、パラフレーズ(自分の言葉で言い換える)練習を行い発話力を強化する。暗唱教材については、暗唱速度を学期末までに毎分速度で約30語短縮することを旨とする。

## 教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて資料配布。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

小松達也『通訳の技術』(研究社、2005)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下授業の進捗状況に応じ適宜調整する。

第1回 授業説明。学習データ表の説明。逐次通訳体験。

第2回 聞き間違いやすい音、聞き取りにくい音を確認。ディクテーション(以降毎週継続)。

第3回 情報の映像処理。プロソディー練習(聞き取り難い=言い難い音の確認)。

第4回 パラフレーズ(自分の言葉化)。「英語学習方法」の紹介。ディクテーション提出開始。

第5回 導入部の予測、口頭リピート・暗唱・ディクテーション修正練習(以降随時行う)。

第6回 パラグラフの展開予測。内容について日本語1分スピーチの通訳。

第7回 「エーなし」前だし訳。「つなぎ言葉」挿入練習。訳した内容を紙を見ずにパラフレーズ。

第8回 「エーなし・体言止めなし」前だし訳完成。オーバーラッピング訳体験。

第9回 ディクテーションの聞き間違いを自己修正。リズム再生・暗唱中間仕上げ。

第10回 ディクテーションの自己修正版提出。シャドーイング。

第11回 リズム再生・暗唱の速度チェック。毎分速度で約30語短縮の確認。

第12回 長文逐次通訳練習。ディクテーション試験練習。

第13回 長文逐次通訳練習。学習データ表の提出。

第14回 長文逐次通訳練習。リズム再生・暗唱完成。

第15回 総復習

## 通訳実技初歩 【昼】

### 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加 40%、総括レポートほか提出物 10%、期末テスト50%

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は事前課題をもとに展開するので、しっかりと指定された範囲の予習を行うこと。

### 履修上の注意 /Remarks

通訳は口頭作業であるため、自宅学習においても口頭練習の時間を十分に確保し、授業に臨むこと。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「言える英語」は「聞こえる英語」です。今期は英語の発話力を強化するために、口頭練習の回数をしっかり確保すること。課題が多く、少し難度の高い授業です。

### キーワード /Keywords

リンキングと音の消失、リズム再生と暗唱、ディクテーション、シャドーイング、映像処理、展開予測、パラフレーズ(自分の言葉化)、つなぎ言葉、英語戻し

# 通訳実技初歩 【昼】

担当者名 /Instructor ノリス 志津代 / Shizuyo Norris / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 5・ 3 - 6

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG381M		○		◎	○
科目名	通訳実技初歩		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

## 授業の概要 /Course Description

DP(Diploma Policy)に基づく3つの到達目標

技能：通訳の基礎的な技能を身につけている。

コミュニケーション力：異文化間コミュニケーションを積極的に進める姿勢と実力を身につけている。

自立的行動力：専門的な知識を活かして多彩な社会貢献ができる。

本クラスは英日逐次通訳の基礎力構築のため、英語の音声的特徴である Stress-timed rhythmに着目し、どのような音が「聞き取りにくい音・聞き間違いやすい音」であるかを理解し、正しく補正して聞き取れるリスニング力を養成する。正しく聴こえない音への対策として、(1) 口頭リピート練習とディクテーションを通し「正しく意味化」する練習を行う。ディクテーションでは、構文知識を活用し、自力で聞き間違い箇所を見つけ、聞こえた音にこだわらずに修正する方法を学ぶ。(2) リンキング箇所など「耳」が捉えにくい音を「口」でリズムよく再現できるように訓練を重ね、英語のProsody(強弱、長短、高低、明瞭曖昧)に留意しながら、英語のリズムを身体化する練習を行う。

リスニングでは、聴覚情報を文字で捉えずに、視覚情報に転換する映像処理方法を学ぶ。聴覚情報を視覚情報に転換することで記憶に留めやすくなる。さらに映像化しながら、パラグラフ毎に展開を予測し、話の流れと核を捉えようとする聞き方を強化する。「その結果・一方で」などのつなぎ言葉の挿入方法を学び、ロジックの展開を追いながら聴く癖をつける。

英語のアウトプット力に関しては、プロソディー再生練習(リズム再生、暗唱)および英語戻し(英語を和訳し→英語に訳し戻す)練習、パラフレージング(自分の言葉で言い換える)練習を行い発話力を強化する。暗唱教材については、暗唱速度を学期末までに毎分速度で約30語短縮することを旨とする。

## 教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて資料配布。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

小松達也『通訳の技術』(研究社、2005)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下授業の進捗状況に応じ適宜調整する。

第1回 授業説明。学習データ表の説明。逐次通訳体験。

第2回 聞き間違いやすい音、聞き取りにくい音を確認。ディクテーション(以降毎週継続)。

第3回 情報の映像処理。プロソディー練習(聞き取り難い=言い難い音の確認)。

第4回 パラフレージング(自分の言葉化)。「英語学習方法」の紹介。ディクテーション提出開始。

第5回 導入部の予測、口頭リピート・暗唱・ディクテーション修正練習(以降随時行う)。

第6回 パラグラフの展開予測。内容について日本語1分スピーチの通訳。

第7回 「エーなし」前だし訳。「つなぎ言葉」挿入練習。訳した内容を紙を見ずにパラフレージング。

第8回 「エーなし・体言止めなし」前だし訳完成。オーバーラッピング訳体験。

第9回 ディクテーションの聞き間違いを自己修正。リズム再生・暗唱中間仕上げ。

第10回 ディクテーションの自己修正版提出。シャドーイング。

第11回 リズム再生・暗唱の速度チェック。毎分速度で約30語短縮の確認。

第12回 長文逐次通訳練習。ディクテーション試験練習。

第13回 長文逐次通訳練習。学習データ表の提出。

第14回 長文逐次通訳練習。リズム再生・暗唱完成。

第15回 総復習

## 通訳実技初歩 【昼】

### 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加 40%、総括レポートほか提出物 10%、期末テスト50%

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は事前課題をもとに展開するので、しっかりと指定された範囲の予習を行うこと。

### 履修上の注意 /Remarks

通訳は口頭作業であるため、自宅学習においても口頭練習の時間を十分に確保し、授業に臨むこと。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「言える英語」は「聞こえる英語」です。今期は英語の発話力を強化するために、口頭練習の回数をしっかり確保すること。課題が多く、少し難度の高い授業です。

### キーワード /Keywords

リンキングと音の消失、リズム再生と暗唱、ディクテーション、シャドーイング、映像処理、展開予測、パラフレーズ(自分の言葉化)、つなぎ言葉、英語戻し

# 通訳実技実践 【昼】

担当者名 /Instructor ノリス 志津代 / Shizuyo Norris / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 1・ 3 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG382M	○	○		◎	
科目名	通訳実技実践			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

## 授業の概要 /Course Description

DP(Diploma Policy)に基づく3つの到達目標  
 知識：通訳理論と実技に関する総合的な知識を身につけている。  
 技能：基礎的な通訳技能を身につけている。  
 コミュニケーション力：異文化間コミュニケーションを積極的に進める姿勢と実力を身につけている。

本クラスは英日逐次通訳の基礎力向上と英日同時通訳の初歩訓練を行うため、英語の語順に着目し「英文を正確且つ迅速に捉える力」を養成する。そのために(1)英語の文構造を正しく捉え、次の品詞展開を予測するSyntax処理能力と、(2)話の展開や結論を予測し、話の要旨を捉える力を強化する。日本語への訳出力に関しては、前出し訳(first-in, first-out translation)に徹し、迅速にSyntax処理を行いながらも、聴衆に分かりやすい訳出を目指す。

リスニングの情報処理では、句・節単位の情報を4コマ漫画のように映像化し、それを日本語で「実況中継する」方法を学ぶ。同時通訳では、高速で情報が流れていくので、逐一言葉を訳しては間に合わない。心に浮かぶ情報を伝えるように要点を実況中継する練習を行う。情報への反応を高めるために、内容についての知識と語彙を高めると同時に、前出し訳では「エー」など不要な言葉を挟まずにまとめていく練習を徹底する。前出し訳の速度は、学期末では毎分40語～50語の短縮を目指す。この訓練をもとに、オーバーラッピング訳(同通の基礎練習)を導入し、英語を聞きながら日本語に訳出する練習を行う。

## 教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて資料配布。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

小松達也『通訳の技術』(研究社、2005)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下授業の進捗状況に応じて適宜調整する。

- 第1回 授業説明。学習データ表の説明。逐次通訳体験。
- 第2回 情報の映像処理。意味補正ディクテーション(以降継続)。
- 第3回 「エーなし・体言止めなし」前だし訳練習。
- 第4回 「エーなし・体言止めなし・言い直しなし」前だし訳完成。日英パラフレーズ。
- 第5回 映像化：ポーズ入りオーバーラッピング訳。日英要約練習。
- 第6回 Syntax処理：文頭から品詞展開予測。オーバーラッピング訳。
- 第7回 つなぎ言葉。起承転結「ロジック線結び」練習。
- 第8回 映像処理：実況中継風オーバーラッピング練習。拾う情報と捨てる情報。
- 第9回 「エーなし・体言止めなし・言い直しなし」前出し訳。オーバーラッピング訳中間仕上げ。
- 第10回 ディクテーション自己修正版1回目提出。前出し訳。自分の言葉で内容解説。
- 第11回 実践逐次通訳練習1：関連資料読み、ぶっつけ逐次訳に挑戦。
- 第12回 実践逐次通訳練習2：ディクテーション試験練習。
- 第13回 実践逐次通訳練習3：同通基礎練習。ディクテーション試験練習。データ表の提出。
- 第14回 実践逐次通訳練習4：同通基礎練習。
- 第15回 総復習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加 40%、提出物 10%、期末テスト50%



## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は事前の課題をもとに展開するので、しっかりと指定された範囲の予習を行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

通訳は口頭作業であるため、自宅学習においても口頭練習の時間を十分に確保し、授業に臨むこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

単に和訳するのではなく「聴衆に分かりやすい日本語とは?」と絶えず自問自答し訳出方法を工夫すること。課題が多く、少し難度の高い授業です。

## キーワード /Keywords

Syntax 処理 (英語の語順・品詞予測)、映像処理、実況中継、つながり言葉、ロジック線、パラフレーズ、前出し訳、オーバーラッピング訳、同時通訳基礎訓練、ディクテーション



# 通訳実技実践 【昼】

担当者名 /Instructor ノリス 志津代 / Shizuyo Norris / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 3・3 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG382M	○	○		◎	
科目名	通訳実技実践			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

## 授業の概要 /Course Description

DP(Diploma Policy)に基づく3つの到達目標  
 知識：通訳理論と実技に関する総合的な知識を身につけている。  
 技能：基礎的な通訳技能を身につけている。  
 コミュニケーション力：異文化間コミュニケーションを積極的に進める姿勢と実力を身につけている。

本クラスは英日逐次通訳の基礎力向上と英日同時通訳の初歩訓練を行うため、英語の語順に着目し「英文を正確且つ迅速に捉える力」を養成する。そのために(1)英語の文構造を正しく捉え、次の品詞展開を予測するSyntax処理能力と、(2)話の展開や結論を予測し、話の要旨を捉える力を強化する。日本語への訳出力に関しては、前出し訳(first-in, first-out translation)に徹し、迅速にSyntax処理を行いながらも、聴衆に分かりやすい訳出を目指す。

リスニングの情報処理では、句・節単位の情報を4コマ漫画のように映像化し、それを日本語で「実況中継する」方法を学ぶ。同時通訳では、高速で情報が流れていくので、逐一言葉を訳しては間に合わない。心に浮かぶ情報を伝えるように要点を実況中継する練習を行う。情報への反応を高めるために、内容についての知識と語彙を高めると同時に、前出し訳では「エー」など不要な言葉を挟まずにまとめていく練習を徹底する。前出し訳の速度は、学期末では毎分40語～50語の短縮を目指す。この訓練をもとに、オーバーラッピング訳(同通の基礎練習)を導入し、英語を聞きながら日本語に訳出する練習を行う。

## 教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて資料配布。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

小松達也『通訳の技術』(研究社、2005)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 以下授業の進捗状況に応じて適宜調整する。
- 第1回 授業説明。学習データ表の説明。逐次通訳体験。
  - 第2回 情報の映像処理。意味補正ディクテーション(以降継続)。
  - 第3回 「エーなし・体言止めなし」前だし訳練習。
  - 第4回 「エーなし・体言止めなし・言い直しなし」前だし訳完成。日英パラフレーズ。
  - 第5回 映像化：ポーズ入りオーバーラッピング訳。日英要約練習。
  - 第6回 Syntax処理：文頭から品詞展開予測。オーバーラッピング訳。
  - 第7回 つなぎ言葉。起承転結「ロジック線結び」練習。
  - 第8回 映像処理：実況中継風オーバーラッピング練習。拾う情報と捨てる情報。
  - 第9回 「エーなし・体言止めなし・言い直しなし」前出し訳。オーバーラッピング訳中間仕上げ。
  - 第10回 ディクテーション自己修正版1回目提出。前出し訳。自分の言葉で内容解説。
  - 第11回 実践逐次通訳練習1：関連資料読み、ぶっつけ逐次訳に挑戦。
  - 第12回 実践逐次通訳練習2：ディクテーション試験練習。
  - 第13回 実践逐次通訳練習3：同通基礎練習。ディクテーション試験練習。データ表の提出。
  - 第14回 実践逐次通訳練習4：同通基礎練習。
  - 第15回 総復習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加 40%、提出物 10%、期末テスト50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は事前の課題をもとに展開するので、しっかりと指定された範囲の予習を行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

通訳は口頭作業であるため、自宅学習においても口頭練習の時間を十分に確保し、授業に臨むこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

単に和訳するのではなく「聴衆に分かりやすい日本語とは？」と絶えず自問自答し訳出方法を工夫すること。課題が多く、少し難度の高い授業です。

## キーワード /Keywords

Syntax 処理 (英語の語順・品詞予測)、映像処理、実況中継、つながり言葉、ロジック線、パラフレーズ、前出し訳、オーバーラッピング訳、同時通訳基礎訓練、ディクテーション

# 通訳実技実践 【昼】

担当者名 /Instructor ノリス 志津代 / Shizuyo Norris / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 5・3 - 6

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG382M	○	○		◎	
科目名	通訳実技実践		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

DP(Diploma Policy)に基づく3つの到達目標  
 知識：通訳理論と実技に関する総合的な知識を身につけている。  
 技能：基礎的な通訳技能を身につけている。  
 コミュニケーション力：異文化間コミュニケーションを積極的に進める姿勢と実力を身につけている。

本クラスは英日逐次通訳の基礎力向上と英日同時通訳の初歩訓練を行うため、英語の語順に着目し「英文を正確且つ迅速に捉える力」を養成する。そのために(1)英語の文構造を正しく捉え、次の品詞展開を予測するSyntax処理能力と、(2)話の展開や結論を予測し、話の要旨を捉える力を強化する。日本語への訳出力に関しては、前出し訳(first-in, first-out translation)に徹し、迅速にSyntax処理を行いながらも、聴衆に分かりやすい訳出を目指す。

リスニングの情報処理では、句・節単位の情報を4コマ漫画のように映像化し、それを日本語で「実況中継する」方法を学ぶ。同時通訳では、高速で情報が流れていくので、逐一言葉を訳しては間に合わない。心に浮かぶ情報を伝えるように要点を実況中継する練習を行う。情報への反応を高めるために、内容についての知識と語彙を高めると同時に、前出し訳では「エー」など不要な言葉を挟まずにまとめていく練習を徹底する。前出し訳の速度は、学期末では毎分40語～50語の短縮を目指す。この訓練をもとに、オーバーラッピング訳(同通の基礎練習)を導入し、英語を聞きながら日本語に訳出する練習を行う。

## 教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて資料配布。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

小松達也『通訳の技術』(研究社、2005)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 以下授業の進捗状況に応じて適宜調整する。
- 第1回 授業説明。学習データ表の説明。逐次通訳体験。
  - 第2回 情報の映像処理。意味補正ディクテーション(以降継続)。
  - 第3回 「エーなし・体言止めなし」前だし訳練習。
  - 第4回 「エーなし・体言止めなし・言い直しなし」前だし訳完成。日英パラフレーズ。
  - 第5回 映像化：ポーズ入りオーバーラッピング訳。日英要約練習。
  - 第6回 Syntax処理：文頭から品詞展開予測。オーバーラッピング訳。
  - 第7回 つなぎ言葉。起承転結「ロジック線結び」練習。
  - 第8回 映像処理：実況中継風オーバーラッピング練習。拾う情報と捨てる情報。
  - 第9回 「エーなし・体言止めなし・言い直しなし」前出し訳。オーバーラッピング訳中間仕上げ。
  - 第10回 ディクテーション自己修正版1回目提出。前出し訳。自分の言葉で内容解説。
  - 第11回 実践逐次通訳練習1：関連資料読み、ぶっつけ逐次訳に挑戦。
  - 第12回 実践逐次通訳練習2：ディクテーション試験練習。
  - 第13回 実践逐次通訳練習3：同通基礎練習。ディクテーション試験練習。データ表の提出。
  - 第14回 実践逐次通訳練習4：同通基礎練習。
  - 第15回 総復習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加 40%、提出物 10%、期末テスト50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は事前の課題をもとに展開するので、しっかりと指定された範囲の予習を行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

通訳は口頭作業であるため、自宅学習においても口頭練習の時間を十分に確保し、授業に臨むこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

単に和訳するのではなく「聴衆に分かりやすい日本語とは？」と絶えず自問自答し訳出方法を工夫すること。課題が多く、少し難度の高い授業です。

## キーワード /Keywords

Syntax 処理 (英語の語順・品詞予測)、映像処理、実況中継、つなぎ言葉、ロジック線、パラフレーズ、前出し訳、オーバーラッピング訳、同時通訳基礎訓練、ディクテーション

# 英日翻訳演習 【昼】

担当者名 /Instructor 鮫島 千明 / Chiaki Sameshima / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG383M		◎	○		○
科目名	英日翻訳演習		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
 技能：高度な英語運用力を身につけ、翻訳する力を身につけている。  
 思考・判断・表現力：正しく英文を分析し、訳文の様々な可能性を探求することができる。  
 自立的行動力：英語力を生かし異文化に積極的に関わっていく態度を身につけている。

本授業では、機械的翻訳のような「文法と意味」の置き換えではなく、「感情、印象」の翻訳を試み、創造的・文化的翻訳を目指す。これは、ただ文法通り英語を日本語に置き換える作業ではなく、英語でその場面を経験したときに生じる感情を、日本語に置き換えて表現するということである。つまり、直訳的な意味を伝えるのではなく、元の文章にある喜怒哀楽を伝えるということである。このため、韻律やリズムが重視される詩や歌を題材にしたり、怪談など日本の古い情調を伝える民話を扱う予定である。また、学生から翻訳の対象となる題材のリクエストがあった場合、予定を変更する可能性がある。

## 教科書 /Textbooks

特に定めない。適宜プリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ※学生から翻訳の対象となる題材のリクエストがあった場合、予定を変更する可能性がある。
- 1回 イン트로ダクション
  - 2回 翻訳演習【音楽】 Popular Music
  - 3回 翻訳演習【音楽】 Rock Music
  - 4回 翻訳演習【音楽】 Folk Music
  - 5回 翻訳演習【民話】 Lafcadio Hearn, "Miminashi Hoichi"
  - 6回 翻訳演習【民話】 Lafcadio Hearn, "Yukionna"
  - 7回 翻訳演習【民話】 Changeling
  - 8回 翻訳演習【童話】 Winnie the Pooh, "Pooh invents a New Game"
  - 9回 翻訳演習【童話】 Winnie the Pooh, "In Which Eeyore Has A Birthday And Gets Two Presents"
  - 10回 翻訳演習【映画字幕】 Love Romance
  - 11回 翻訳演習【映画字幕】 Science Fiction
  - 12回 翻訳演習【詩】 Rhythm
  - 13回 翻訳演習【詩】 Rhyme
  - 14回 翻訳演習【漫談】 Humour
  - 15回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平素および課題...60%  
レポート...40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回指定された箇所を予習してください。

# 英日翻訳演習 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 英語映像翻訳 【昼】

担当者名 /Instructor 鮫島 千明 / Chiaki Sameshima / 英米学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG384M		◎	○	○	
科目名	英語映像翻訳		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
 技能：高度な英語運用力を身につけ、翻訳する力を身につけている。  
 思考・判断・表現力：正しく英語を理解し、映像を活かして訳文の可能性を探求することができる。  
 コミュニケーション力：異文化間コミュニケーションを積極的に進める姿勢を有している。

本授業では、英語の映画を題材とした吹替翻訳を行う。ある言語の音声他言語の音声に置き換える作業は制約の多い翻訳である。実際、吹替翻訳は文字テキストの翻訳の場合よりもはるかに時間的な制約を受ける。字幕翻訳も厳しい時間的な制約を受けるが、口の動きや人物のアクションのタイミングという制約は受けない。例えば、ある人物の英語での特徴ある口調や口癖はどのように吹き替えれば、視聴者に同じような印象を与えることができるだろうか。優れた吹き替え翻訳を行うには、単に意味が同じであれば良いというわけではない。口の動きに合わせ、長いセリフは長く、短いセリフは短くしなければならないし、英語での声の抑揚をどのような日本語の抑揚に置き換えれば同じ効果を生みだすことができるかということに気を配らなければならない。授業内では、グループに分かれて翻訳をし、出来た台本をもとにアフレコを行ってもらおう。かなりチャレンジングな作業である分、うまく翻訳できたときの達成感がある。

## 教科書 /Textbooks

特に定めない。適宜プリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※学生から翻訳の対象となる題材のリクエストがあった場合、予定を変更する可能性がある。

- 1回 イントロダクション
- 2回 翻訳演習 Everything Must Go 1
- 3回 翻訳演習 Everything Must Go 2
- 4回 翻訳演習 Minor Details 1
- 5回 翻訳演習 Minor Details 2
- 6回 翻訳演習 The DUFF 1
- 7回 翻訳演習 The DUFF 2
- 8回 翻訳演習 Laggies 1
- 9回 翻訳演習 Laggies 2
- 10回 翻訳演習 The Fairly OddParents 1
- 11回 翻訳演習 The Fairly OddParents 2
- 12回 翻訳演習 Albion: The Enchanted Stallion 1
- 13回 翻訳演習 Albion: The Enchanted Stallion 2
- 14回 翻訳演習 The Outcasts 1
- 15回 翻訳演習 The Outcasts 1

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平素および課題...60%  
レポート...40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回指定された箇所を予習してください。

# 英語映像翻訳 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords



# 対外経済政策論 【昼】

担当者名 /Instructor カール・マックナマラ・ページ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN301M	◎		○		△
科目名	対外経済政策論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

- DP 1 知識：対外経済政策に関する基礎的な知識を有している。  
 DP 2 思考・判断・表現：カグローバルな経済環境を正確に分析し考えを表現することができる。  
 DP 3 自立的行動力：専門的な知識を活かして多様な社会貢献をすることができる。

This course will allow students to understand how and why government policies shape our daily lives through the context of foreign economic policy. Through this course you will gain in-depth knowledge of how the global economic system works and what the roles are of the key involved stakeholders (individual countries, WTO, etc.). While the main focus will be on Japan, we shall also see how the biggest economies of the world (USA, China, Germany, EU) are intertwined and how each country's foreign economic policy has meaningful and impactful implications for the global economy.

There shall be four main sections that will be overlapping throughout the semester:

- 1) Economic theory, international trade/globalization, foreign economic policy
- 2) Japan & USA foreign economic policy: Connections and comparisons
- 3) Trade organizations & governing bodies that influence outcomes (WTO, IMF, MOFA, JETRO, etc.)
- 4) Trade Wars: Historical context, implications, results, & current affairs

The main objective for students will be to:

- Understand, in detail, how the global economy works
- Learn various economic theories
- Contrast and compare different country's economic policies and their implications
- Understand the role of organizations such as the WTO, IMF, MOFA, etc.
- Develop and strengthen analytical skills
- Improve discussion/debate ability

Requirements for this course:

- Weekly readings and/or videos
- Group discussions
- Four short quizzes
- A three-page Final Essay (You will be provided an outline and plenty of time to prepare throughout the semester)

## 教科書 /Textbooks

There is no textbook for this course.

All reading materials and videos will be available on Moodle.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

If possible, all available materials will be made accessible through the library.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 – Introduction & course overview
- Week 2 – Understanding Foreign Economic Policy: Theories, concepts, and definitions explained (1)
- Week 3 – Understanding Foreign Economic Policy: Theories, concepts, and definitions explained (2)
- Week 4 – The Global Economy: development of international trade (1)
- Week 5 – The Global Economy: who trades what and where (2)
- Week 6 – Japan's Foreign Economic Policy (1)
- Week 7 – Japan's Foreign Economic Policy (2)
- Week 8 – USA Foreign Economic Policy and its effect on the world (1)
- Week 9 – USA Foreign Economic Policy and its effect on the world (2)
- Week 10 – The role of trade organizations & governing bodies: WTO, IMF, OECD, GATT (1)
- Week 11 - The role of trade organizations & governing bodies: WTO, IMF, OECD, GATT (2)
- Week 12 – Trade Wars & Diplomacy (1)
- Week 13 – Trade Wars & Diplomacy (2)
- Week 14 – Trade Wars & Diplomacy (3)
- Week 15 – Conclusion

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- Weekly participation/assignments: 40%
- Four short quizzes: 40%
- Final essay, 2-3 pages: 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Fundamentally, this is a lecture course. However, students will be required to prepare each week before class, either with a reading, video, or both, and will be expected to discuss these materials. There shall be small group activities as well.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

このコースは基本的に英語で行いますが、日本語で記事や動画があればそれも提供します。又、計算が苦手な方は構いません。心配している方や、自信がない方はいつでもご相談ください。

## キーワード /Keywords

Economic Policy  
Economic Theory  
Globalization  
History  
Culture  
International Trade  
WTO/IMF/MOFA/JETRO

# 英米の近代文学Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 今川 京子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIT233M	◎	△	○		
科目名	英米の近代文学Ⅰ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

主にイギリスの18-19世紀文学について、資料を元に講義する。  
まず、18世紀初めことに始まったとされる近代小説発祥の時代背景として重要な産業革命について、その背景と歴史を説明し、それ以前の貴族や地主階級から市民階級の興隆から始めて、イギリスの社会背景の変化を論じ、市民階級に読まれる本として、近代小説が生まれたことを説明し、近代初期小説の特徴とその成り立ちを述べ、具体的作家と作品をいくつか取り上げ、粗筋と内容そして主題を解明し、それ以後に生まれた作家・作品に続ける。

(到達目標)

【知識】 イギリス近代文学についての基本的な知識を身につけている。

【技能】 文学を社会背景を踏まえながら読み解くスキルを身につけている。

【思考・判断・表現力】 文学を通じた社会や歴史への理解を通じて、文学と社会の関わりについて幅広い視点から考察する力を身につけている。

## 教科書 /Textbooks

『イギリス小説入門』川口喬一 著 (研究社) ISBN: 978-4-327-37505-8

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

『イギリス文学史入門』川崎寿彦 著 (研究社) ISBN: 978-4-327-37501-0

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション
2. 18世紀のイギリス社会について
3. 18世紀イギリスの市民生活について
4. イギリスの近代初期小説について
5. 近代初期作家たちについて
6. ジェーン・オースティンとその作品について
7. メアリー・シェリーとその作品について
8. シャーロット・ブロンテとその作品について
9. チャールズ・ディケンズとその作品について
10. ヴィクトリア朝の児童文学について
11. オスカー・ワイルドとその作品について
12. トマス・ハーディーとその作品について
13. ジョウゼフ・コンラッドとその作品について
14. ジョージ・オーウェルとその作品について
15. 18-19世紀イギリス文学のまとめと現代イギリス小説について

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度・貢献度・レポート 50%  
期末試験 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に予告された作家や詩人について自ら調べておくこと。

# 英米の近代文学Ⅰ【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

授業中の私語・携帯の閲覧や操作厳禁。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

イギリスの歴史や文学に興味関心のある学生を歓迎する。

## キーワード /Keywords

# 英米の近代文学Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 江頭 理江 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIT231M	◎	△	○		
科目名	英米の近代文学Ⅱ				
※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連					

## 授業の概要 /Course Description

英米の近代文学に対する関心を高めるとともに、その特質を理解するうえで必要な専門的知識を習得する。同時に英米の近代文学の基本的な研究方法や課題発見力及び解決力を身につける。

特にアメリカ文学に注目し、アメリカ文学の古典であり、アメリカ植民地時代のピューリタニズムとアメリカの独立の時代を見事に描いた Nathaniel Hawthorne の文学、超絶主義 (Transcendentalism) を唱え、アメリカの独自思想の構築に貢献した R.L. Emerson、民主主義の国アメリカの新しい、独立心の強い女を描いた Henry James の Daisy Miller、アメリカの国民的作家であり、Minority の問題に真正面から取り組んだ Mark Twain などの小説の一節を読んで、アメリカ文学の特徴とその背景にある文化、社会的状況への理解を深めていく。

なお、この授業の到達目標は以下の通りである。

- 「知識」アメリカ近代文学についての基本的な知識を身につけている。
- 「技能」文学を社会背景を踏まえながら読み解くスキルを身につけている。
- 「思考・判断力・表現力」文学を通じた社会や歴史への理解を通じて、文学と社会の関わりについて幅広い視点から考察する力を身につけている。

## 教科書 /Textbooks

『Let's Learn English from American Literature I』 (英宝社) 早瀬博範・江頭理江 編著  
適宜テキストの補充資料なども配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

『楽しく読めるアメリカ文学』 高田賢一編著 (ミネルヴァ書房)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概要のとおり、授業ごとに作品をピックアップし、作品の特徴や背景について学ぶ。また、文学作品特有の英語表現についても触れていく。

(【 】はキーワードを表す)

- 第1回：授業全体のイントロダクション
- 第2回：Nathaniel Hawthorne: Short Stories
- 第3回：Nathaniel Hawthorne: The Scarlet Letterをどう読むか？
- 第4回：Nathaniel Hawthorne: テーマは何なのか？
- 第5回：R・W・Emerson: 超絶主義とは？
- 第6回：R・W・Emerson: 超絶主義 Nature
- 第7回：Mark Twain: Adventures of Huckleberry Finn イン트로ダクション
- 第8回：Mark Twain: Adventures of Huckleberry Finn 31章をどう読むか
- 第9回：Mark Twain: Adventures of Huckleberry Finn 最終章をどう読むか？
- 第10回：Henry James: Daisy Miller イン트로ダクション
- 第11回：Henry James: Daisy Miller テーマは何なのか？
- 第12回：Edgar Allan Poe イン트로ダクション
- 第13回：Edgar Allan Poe The Black Cat
- 第14回：Edgar Allan Poe 他の作品の主題との関連
- 第15回：授業全体のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50% 毎回の課題レポート 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習は必ず行ってください。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 英米文学概論 I 【昼】

担当者名 /Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 / 2年  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIT131M	◎	△	○		
科目名	英米文学概論 I				
※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連					

## 授業の概要 /Course Description

今日、文学というどうしてもかたいイメージを持つてしまう人がいるかもしれませんが、「おもしろくなければ文学じゃない」というイギリスの作家W.S.モームの言葉にもあるように、文学史上に残っている文学作品のほとんどすべては、古今東西の実に多くの人々の関心を集め、感動を与えてきた興味深いものばかりです。文学作品が敬遠されるようになったのは、読書感想文を書くための材料として扱われたり、画一的な解釈を強要されたりといった昨今の「読書」を取り巻く環境が変化してきたためであり、それが私たちから読書の本来の楽しさを奪っているのではないのでしょうか。人間同士のかかわり、絆が希薄になりつつあると言われる今、多くのすぐれた文学作品に触れ、人間とは何かを知ること、他者に対する関心を今一度呼び起こしてくれることなのでしょう。

本講義では、長い歴史の中で詩から劇、そして小説へと発展してきた伝統あるイギリス文学の始まりから説き起こし、今日に至るまでの流れを追います。代表的な作品群については原作の豊かな英語表現にも触れることで、作品のおもしろさを共に味わえればと思います。その際、作品に関わるジャンルや技法、また読み解き方や批評方法などの基礎的な説明を加え、更には作品を生み出したイギリスの時代背景、文化背景との関わりをも探っていくことで、作品のより深い読みを目指します。

同時に、作品との関連で、人間に関する様々なテーマ（生、死、愛、宗教、想像力...）についても問題提起をします。一緒に考えていきましょう！！

(到達目標)

【知識】イギリス文学史に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】イギリスの文学作品を読むための英語力を身につけている。

【思考・判断・表現力】イギリスの文学作品を歴史的な観点で分析すると同時に、様々なテーマで読解し、作品を論じることができる。

## 教科書 /Textbooks

・必要に応じて資料を配布します (An Outline of English Literature by G.C.Thornley and Gwyneth Roberts など)。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入：文学の勤め、評価方法等
- 2回 Old English：『ベオウルフ』
- 3回 Middle English：チョーサー（『キャンタベリー物語』）
- 4回 Middle English：『エヴリマン』
- 5回 Modern English (Mod.E) (詩)：ワイアット、サレー、スペンサー、ダン
- 6回 Mod.E (随筆)：ベイコン、ジョンソン
- 7回 Mod.E (ドラマ)：シェイクスピアの四大悲劇1（『ハムレット』、『リア王』）
- 8回 Mod.E (ドラマ)：シェイクスピアの四大悲劇2（『マクベス』、『オセロ』）
- 9回 17世紀（詩）：ミルトン（『失楽園』）
- 10回 王政復古（散文等）：パニヤン、ピープス、イヴリン
- 11回 18世紀（散文等）：デフォー（『ロビンソン・クルーソー』）、スウィフト（『ガリヴァー旅行記』）
- 12回 18世紀（小説）：リチャードソン（『パメラ』）、フィールディング（『シャメラ』）
- 13回 19世紀（小説）：オーステイン（『高慢と偏見』）
- 14回 19世紀（小説等）：キャロル（『不思議の国のアリス』児童文学）、ハーディー（『テス』）
- 15回 20世紀（小説）：ロレンス（『息子と恋人』他）、総括（イギリス文学の流れと魅力の確認）

## 成績評価の方法 /Assessment Method

試験 or レポート (状況に応じて決定します)・・・100% (出席重視)

※ 2020年度は以下の形式で実施しました。

1. 課題レポート(1)(50点満点)(原則、選択、穴埋め形式)
2. 課題レポート(2)(50点満点)(記述形式)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、テキストの該当箇所に目を通しておいてください。また、授業の後は、ノートをもとに内容を整理し、配布資料にもしっかり目を通すことで、復習をしておいてください。

本講義で具体的に扱う作品はもちろん、触れるだけの作品についても積極的に読んで、文学作品の醍醐味を味わいましょう。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

イギリス文学の中でも現代に近い作品に関心を持っている人は「イギリスの現代文学」の受講をお勧めします。

## キーワード /Keywords

「詩」「劇」「小説」「伝統」「文学のおもしろさ」「想像力」「風刺」「パロディ」「児童文学」「ファンタジー」



担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIT130M	◎	△	○		
科目名	英米文学概論Ⅱ				
※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連					

## 授業の概要 /Course Description

本講義で取り扱うのはアメリカ文学である。そのアメリカ文学全体を時代を越えて貫いている複数の特徴を確認することにより、アメリカ文学の全体像を理解してもらおう。さらには、アメリカ文学の特徴が、ハリウッド映画によっても共有されている事実も実際に映像を見ることにより明らかにする。次いで、そのような文学と映画との共通性が何ゆえに生じたのかを、アメリカの社会、歴史、文化の特質に目を向けることにより理解してもらおう。文学と映画という、一見すると全く異質に見える存在が、実は、共に特定の社会の下に誕生した以上、同根の存在とならざるを得ない事実を理解してもらえたら幸いである。また、アメリカ文学を文化的背景と絡めて分析する視点も身につけてもらえたらと考えている。

(到達目標)

- 【知識】アメリカ文学に関する基礎的な知識を身につけている。
- 【技能】アメリカ文学の分析を行う基礎的スキルを身につけている。
- 【思考・判断・表現力】アメリカ文学について自分の考えを明確に表現できる。

## 教科書 /Textbooks

使用しない。必要に応じてアメリカ文学作品からの抜粋をプリント形式で配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『アメリカ文学思潮史』 福田陸太郎 中教出版
- 『アメリカ文学史 1、2、3』 亀井俊介 南雲堂
- 『アメリカ文学必須用語辞典』 スティーブン・マタソン 松柏社
- 『アメリカ文学案内』 寺門泰彦/渡辺信二 朝日出版社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方、参考文献の説明
- 2回 アメリカ文学に関する基礎知識
- 3回 アメリカ文学におけるアメリカ人としての自意識のあり方
- 4回 ハリウッド映画にみるアメリカ人としての自意識のあり方と、映画と文学の共通性が生じた文化的背景
- 5回 アメリカ文学における暴力描写
- 6回 ハリウッド映画における暴力描写と、映画と文学の共通性が生じた文化的背景
- 7回 アメリカ文学における移動描写
- 8回 ハリウッド映画における移動描写と、映画と文学の共通性が生じた文化的背景
- 9回 アメリカ文学における恋愛・結婚描写
- 10回 ハリウッド映画における恋愛・結婚描写と、映画と文学の共通性が生じた文化的背景
- 11回 アメリカ文学における超常現象描写
- 12回 ハリウッド映画における超常現象描写と、映画と文学の共通性が生じた文化的背景
- 13回 アメリカ文学における社会意識
- 14回 ハリウッド映画における社会意識と、映画と文学の共通性が生じた文化的背景
- 15回 補足説明、総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

対面授業が実施された場合：定期試験...100% 持ち込みは不可とする。  
遠隔授業が実施された場合は別途、ムードルで指示する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前：講義で取り上げる作家と作品名は事前に知らせますので、参考書等を講義前に参照し、作者と作品に関する基礎的な情報を確認しておいてください。同様に、講義で取り上げる映画も事前に周知しますので、各自で事前に鑑賞しておいて下さい。講義で取り上げる映画の大半は、図書館にソフトがあります。

授業後：講義ノートと配布プリントを再度読み直し、可能な限り講義テーマと関連した書物を閲覧し、テーマに関する知識の更なる充実を図って下さい。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 英米の現代文学 I 【昼】

担当者名 /Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIT232M	◎	△	○		
科目名	英米の現代文学 I				
※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連					

## 授業の概要 /Course Description

「幸福」について共に考えよう！！

文学作品の面白さの一つは、主人公を中心とする人物達の様々な生き様を読むことで、読者がいつのまにかその世界にすっかり引き込まれ、自分自身がまるでactor、actressになったかのように別の人生を生きることができるところにあります。人間はともすると、居心地のよい自分だけの小さな世界の中で安穩と生きることで、井の中の蛙になりがちです。そのような中、独りよがりな独善から解放され、より広く深い人間観を持つためには、文学作品を読むことはうってつけの方法と言えるでしょう。更に、より広い世界観を得るためには、自国の文学だけに満足することなく、様々な国々の文学作品に接することも必要です。

現代文学の始まりがいつなのかについては、研究者の間でも諸説入り混じっていますが、イギリス文学史においては20世紀初頭に大きな変化が見られるため、本講義では便宜上、20世紀以降の作品を主に扱うことにします。

イギリスの20世紀以降は、伝統を重んじる保守派の中から様々な領域において刷新を望む新しい力が台頭してきた、とても興味深い時代です。そのような変化が如実に反映されている文学作品の中でも、この授業では幾つかの短篇小説を読むことで、様々な人間の「幸福」の問題について一緒に考えていきましょう。授業を通して複眼的な幸福についての視点を持ちつつ議論をすることで、自ら幸福論についての課題を設定し、問題解決ができるようになることを目指してもらえればと思います。

可能であれば、授業中にグループディスカッションを複数回実施します。

(到達目標)

【知識】イギリスの現代文学に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】イギリスの現代文学に関する基礎的な知識を身につけている。

【思考・判断・表現力】文学作品をテーマに基づいて分析し、自分の意見を論理的に表現できる。

## 教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

(作品によっては英語で書かれた原作を用いることもありますが、原則として翻訳も準備します。)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示します。

# 英米の現代文学Ⅰ【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入 ( テーマ、授業の勧め方、評価方法などについての説明 )
- 2回 “The Happy Man” by W. S. Maugham、内容確認と理解
- 3回 “The Happy Man” by W. S. Maugham、議論【地位やお金と幸福】
- 4回 “The Happy Prince” by O. Wilde、内容確認と理解
- 5回 “The Happy Prince” by O. Wilde、議論【自己犠牲と幸福】
- 6回 “A Little Cloud” by James Joyce、内容確認と理解
- 7回 “A Little Cloud” by James Joyce、議論【自由や束縛と幸福】
- 8回 “Miss Brill” by K. Mansfield、内容確認と理解
- 9回 “Miss Brill” by K. Mansfield、議論【孤独の不幸】
- 10回 D.H. Lawrence による警告 ( 「現代人は愛し合えない! ?」 )
- 11回 August Is a Wicked Month by E. O'Brien、内容確認と理解、議論【男女の愛の不毛性】
- 12回 Lady Chatterley’s Lover by D.H. Lawrence、内容確認と理解
- 13回 Lady Chatterley’s Lover by D.H. Lawrence、議論【自然との関係性の回復、「触れ合い」による救いの可能性】
- 14回 幸福についての議論
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...40%、試験...60% ( 出席重視 )

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に扱う短編については、配布する資料をあらかじめ授業の前に読んでおいてください。特にグループディスカッションを実施する回については、議論に積極的に参加するためにも事前の読書が必要です。授業の理解に有益な読書等も積極的に行なってください。

それぞれの作品が終わる度に「幸福と○○」というテーマで、自分なりの幸福感を更新していってもらい、最終的に自分独自の「幸福の格言」を作ってもらいます。

作品によっては翻訳だけでなく原作 ( 英語のオリジナル ) のプリントも配布します。英語を頑張りたい人は、予めそれを訳した上で授業に参加するなど、積極的に活用してください。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

普遍的な「幸福」は果たしてあるのでしょうか。もしあるとすれば、それは一体何なのでしょう……。みんなで一緒に考えましょう！

## キーワード /Keywords

【地位やお金と幸福】、【自己犠牲と幸福】、【自由や束縛と幸福】、【孤独の不幸】、【男女の愛の不毛性】、【自然との関係性の回復、「触れ合い」による救い】

# 英米の現代文学Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 江頭 理江 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIT230M	◎	△	○		
科目名	英米の現代文学Ⅱ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

英米の現代文学に対する関心を高めるとともに、その特質を理解する上で必要な専門的知識を習得する。また、英米の現代文学の基本的な研究方法に加え、この分野に関する課題発見力、解決力を身につける。

現代の第一次世界大戦後の荒廃をロス・ジェネレーションの世代としてニヒリズムの虚無と闘ったE・Hemingwayの作品をはじめ、ユダヤ系文学、南部文学、第二次世界大戦後のポストモダニズム文学やマイノリティの文学を読んで、現代アメリカ文学を中心に、その背景と関連ある文化への理解を深めていく。

なお、この授業の到達目標は以下の通りである。

「知識」アメリカ現代文学についての基本的な知識を身につけている。

「技能」文学を社会背景を踏まえながら読み解くスキルを身につけている。

「思考・判断・表現力」文学を通じた現代社会への理解を通じて、現代社会の課題と文学の役割に関する考察を行う力を身につけている

## 教科書 /Textbooks

『Let's Learn English from American Literature II』（英宝社）早瀬博範・江頭理江 編著

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

『楽しく読めるアメリカ文学』 高田賢一他編著 (ミネルヴァ書房)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：授業のイントロダクション
  - 第2回：Ernest Hemingway: A Short Happy Life of Francis Macomber
  - 第3回：Ernest Hemingway: The Old Man and the Sea Hemingwayのテーマは何か？
  - 第4回：John Steinbeck: Of Mice and Men
  - 第5回：John Steinbeck: Of Mice and Men テーマは何か？
  - 第6回：F・S Fitzgerald : The Great Gatsby
  - 第7回：F・S Fitzgerald : The Great Gatsby テーマは何か？
  - 第8回：William Faulkner: A Rose for Emily
  - 第9回：William Faulkner: A Rose for Emily テーマは何か
  - 第10回：Saul Bellow: Seize the Day
  - 第11回：Saul Bellow: Seize the Day テーマは何か？
  - 第12回：Hisae Yamamoto: Seventeen Syllables
  - 第13回：Leslie Maron Silko:
  - 第14回：全体を通して、ポストモダニズムの文学をいかに読むべきかを考察する。
  - 第15回：授業全体のまとめ
- 定期試験

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50% 毎回の課題レポート 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと (必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です)

## 英米の現代文学Ⅱ【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ブルック 前田 / Brooke Maeda / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2単位 /Semester 1学期 1学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN205M	◎	○			△
科目名	Introduction to Statistics			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく 3 つの到達目標  
 知識：統計学に関する基礎的な知識を身につけている。  
 技能：簡単なデータ分析を行うスキルを身につけている。  
 自立的行動力：統計学への関心とキャリア意識を持ち続け、データ分析に取り組む意欲を有している。

In this course students will gain an understanding of the basic concepts in statistics and learn how to analyze data and make graphs in excel. Classes will be carried out in the computer room, and after students have an understanding of a concept they will apply it to data. Students will be expected to apply it to their interests in the real world, by collecting sets of data and analyzing them based on the concepts learned in the course. At the end of the course, each student will present the results of their data analysis in English.

## 教科書 /Textbooks

No set textbook. Materials will be distributed during class.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Additional resources may be recommended during class.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction to statistics
2. Basic statistics: mean, median, variance, standard deviation
3. Normal distribution
4. Basic data analysis and distribution graphs
5. Creating tables and graphs
6. Misleading graphs
7. Correlation
8. Regression 1
9. Regression 2
10. Time series data analysis
11. Cross data analysis
12. Individual presentations
13. Individual presentations
14. Individual presentations
15. Review and vocabulary test

(Note: Class schedule could change).

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Homework	40%
Presentation and report	40%
Vocabulary test	20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please bring a USB to class.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Knowledge about statistics is not required as the concepts will be taught at a beginner level.  
This course will mainly focus on teaching practical skills which can be applied to the real world.

## キーワード /Keywords

Statistics, data analysis.



担当者名 /Instructor 長東 航 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ACC110M	◎	○	○		
科目名	簿記論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

簿記とは、一般に、ある経済主体の経済活動および経済事象を貨幣額をもって帳簿に記録し、情報利用者が利用可能となるように集計する技術である。本講義では、企業会計において採用されている複式簿記を取り扱う。

皆さんのうち大部分が、将来、企業に就職したり企業を相手に取引をするようになるだろう。その際に、企業がもうかっているのかどうか（経営成績）や企業が倒産しないかどうか（財政状態）について判断ができなかったらどうなるだろうか。就職先の企業の業績悪化によって給与が下がったり、倒産によって職を失ったりするかもしれない。また、商品を販売した相手先の企業から、商品代金が回収できなくなってしまうかもしれない。このような事態をできるかぎり回避するためには、会計の知識が不可欠であるが、その会計の知識の基本中の基本が複式簿記や複式簿記から作成される財務諸表（企業の決算書。貸借対照表や損益計算書など）に関する知識である。したがって複式簿記に関する知識は、誰もが現代社会において生活していくうえで必要不可欠な知識であるといえよう。

複式簿記は専門的技術であるため、身につけるためには多少の訓練を要する。本講義では、すべての学生が複式簿記を修得できるように、できるだけわかりやすく説明をするとともに、問題演習にも取り組んでいくことにしたい。

（到達目標）

【知識】複式簿記に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】複式簿記に基づき財務諸表を作成するスキルを身につけている。

【思考・判断・表現力】複式簿記に基づく財務諸表の作成について、論理的に思考して作成方法を検討し、迅速かつ正確に財務諸表を作成することができる。

## 教科書 /Textbooks

渡辺裕亘・片山 寛・北村敬子編著「検定簿記講義3級商業簿記 令和3年度版」中央経済社 / ISBN未定

渡辺裕亘・片山 寛・北村敬子編著「検定簿記ワークブック3級商業簿記 令和3年度版」中央経済社 / ISBN未定

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

広瀬義州『財務会計』第13版 中央経済社 / ISBN978-4502163418

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス / 簿記の意義
- 2 貸借対照表と損益計算書
- 3 帳簿の記入方法 (1) 取引の意義、取引の分解
- 4 帳簿の記入方法 (2) 仕訳帳への記入
- 5 帳簿の記入方法 (3) 元帳への記入
- 6 試算表の作成 / 決算手続 (1) 決算予備手続
- 7 決算手続 (2) 決算本手続
- 8 中間テストと解説
- 9 現金・預金
- 10 商品売買
- 11 債権債務と手形
- 12 有形固定資産
- 13 貸倒れ
- 14 収益と費用
- 15 決算手続 (3) 8桁精算表の作成と財務諸表の作成

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験および授業中に実施される中間テストの結果により評価する。定期試験70%、中間テスト30%の割合で評点を算出する。基礎的な簿記に関する総合問題（具体的には、日商簿記検定3級程度の問題）を、迅速かつ正確に解くことができるかどうかを単位認定の判断基準とする。なお、10回程度提出してもらった課題の提出状況が良好な者には、若干の加点を行うことがある。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

上述のように、簿記は「技術」である。技術をマスターするためには、その方法を理解するだけでなく、それが体にしみつくまで練習することが必要である。したがって、講義中にもできるだけ多くの練習問題を解いてもらうつもりであるが、それにくわえて自宅での復習および問題演習を必ず行ってほしい。（50分程度。ただし、定期試験や2回実施される中間テストのためには、それに加えて各4時間程度の学習が必要になる。）

## 履修上の注意 /Remarks

簿記の学習は積み重ねの要素が強く、欠席するとその後の理解が困難になるので、必ず出席してほしい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

帳簿 決算 経営成績 財政状態 財務諸表 貸借対照表 損益計算書

担当者名 /Instructor 寺田 真一郎 / Shinichiro Terada / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 2年次  
単位 /Credits 2単位 2単位  
学期 /Semester 1学期 1学期  
授業形態 /Class Format 講義 講義  
クラス /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS211M	◎		○		△
科目名	Management Strategy			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
 知識：経営戦略に関する基礎的な知識を総合的に理解している。  
 思考・判断・表現力：組織が直面している戦略的な課題について総合的に思考して解決策を探索し、自分の考えや判断を適切な方法で発信することができる。  
 自立的行動力：積極的な議論と協働を通して組織の戦略的な問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

The aim of this course is to help students understand the overview of business strategy. For this purpose, the course is designed as a collection of strategies of main business study areas, such as competition, management, marketing, and organization.

The class style is not a one-way lecture, but rather discussions on frameworks and case studies.

Students do not need any prerequisite studies for this course. Any students, not only ones who are focusing on business studies but also the ones who are just curious about business, can enjoy this course.

## 教科書 /Textbooks

DK. (2014). THE BUSINESS BOOK: Big Ideas Simply Explained. Dorling Kindersley Limited. ISBN 978-1-4093-4126-0

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

The instructor will introduce the videos, newspaper articles, and research papers for class discussions and assignments.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

### Introduction

1. Business and strategy

### Business/competitive strategy

2. Porter's generic strategy
3. Porter's five forces/The value chain
4. Competition

### Marketing strategy

5. Differentiation
6. The future market
7. Strategic thinking

8. Mid-term quiz and review

### Product Strategy

9. Product portfolio
10. Protect core business
11. Internet business

### Organization strategy

12. Organization/ Leadership
13. Business behaviour

### Financial strategy

14. Financial risk

15. Final quiz and review

(Schedules and contents are subject to change.)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- Class participation - 20%  
Presentation, Discussion - 40%  
Mid-term and Final Quiz - 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be encouraged to review the class materials to understand the frameworks and case studies.  
Students have to take two quizzes.

## 履修上の注意 /Remarks

Students do not need any prerequisite studies, but need skills to make slides for their presentation.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Enjoy!

## キーワード /Keywords

Strategy, Competition, Marketing, Marketing, Product, Organization, Finance

担当者名 /Instructor 寺田 真一郎 / Shinichiro Terada / 英米学科

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS212M	◎		○		△
科目名	Innovation Theory			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
 知識:経営戦略に関する基礎的な知識を総合的に理解している。  
 思考・判断・表現力:組織が直面している戦略的な課題について総合的に思考して解決策を探索し、自分の考えや判断を適切な方法で発信することができる。  
 自立的行動力:積極的な議論と協働を通して組織の戦略的な問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

The aim of this course is to help students understand "Innovation", one of the areas of business studies.

The course covers the main theories/frameworks of innovation and also discuss the relating areas and disciplines. The class style is not a one-way lecture, but rather discussions on frameworks and case studies.

Students do not need any prerequisite studies for this course. Any students, not only ones who are focusing on business studies but also the ones who are just curious about business, can enjoy this course.

## 教科書 /Textbooks

The instructor will provide the book information or lecture slides in the class.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

The instructor will introduce the videos, newspaper articles, and research papers for class discussions and assignments.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Introduction  
1. Introduction  
2. What is innovation?
- Technology and Innovation  
3. Tech Innovation Theory 1  
4. Tech Innovation Theory 2  
5. Tech Innovation Theory 3
- Assignment 1  
6. Diffusion of innovation
- Innovation and other disciplines/ areas  
7. Innovation and network theories 1  
8. Innovation and network theories 2  
9. Innovation and culture  
10. Innovation and entrepreneurship  
11. Innovation and design thinking  
12. Innovation and Japan  
13. Innovation and digital platform
- Assignment 2  
14. Innovation and regional differences
- Wrap-up  
15. What do you innovate?

(Schedules and contents are subject to change.)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- Class participation - 50%  
Assignments (Mid-term and final) - 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- Students will be able to review the class materials to understand the frameworks and case studies.  
Students have to do the writing assignments between classes.

## 履修上の注意 /Remarks

- Students do not need any prerequisite studies.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- Enjoy!

## キーワード /Keywords

- Business Studies, Innovation, Technology, Society, Entrepreneurship, Network, Digital platform, Design thinking, Culture

# Tourism Policy I 【昼】

担当者名 /Instructor 口ドルフォ デルガド / Rodolfo Delgado / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLC211M	◎		○		△
科目名	Tourism Policy I			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標"  
観光学に関する基礎的な知識を身につけている。  
観光学の観点から論理的な思考・分析を行うことができる。  
ベシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

The general course objective is to give students the opportunity to develop knowledge of Tourism Policy.

The specific objectives of the course are:

- Learn the language and specialized terminology required in the Tourism Industry
- Acquire professional skills required in the service industry
- Analyze Case Studies
- Discuss innovating trends

## 教科書 /Textbooks

Tourism: Principles and Practice (English Edition) 6th Edition, Kindle Edition

Authors: John Fletcher, Allan Fyall, David Gilbert, Stephen Wanhill

Publisher: Pearson

Kindle (Digital Version) available in amazon.co.jp. Price: ¥ 5,388

Please buy the kindle (Digital Version) because the hard copy takes a long time to be delivered.

This textbook will also be used for Tourism Policy II, Introduction to Tourism Management and Tourism Seminar.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

References will be recommended.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1- Introduction to Tourism Policy I and Destinations ( Part 2. Chapter 6 of the textbook).
- 2- Destinations.
- 3- The Economic Impact of Tourism.
- 4- The Economic Impact of Tourism.
- 5- The Environmental Impact of Tourism.
- 6- The Environmental Impact of Tourism.
- 7- The Socio-cultural Impact of Tourism.
- 8- The Socio-cultural Impact of Tourism.
- 9- Sustainable Tourism.
- 10- Sustainable Tourism.
- 11- Tourism and Development Planning.
- 12- Tourism and Development Planning.
- 13- The Impact of Negative Events on Tourism and Destinations.
- 14- The Impact of Negative Events on Tourism and Destinations.
- 15- Final paper presentation.

## 成績評価の方法 /Assessment Method

25% Class Participation; 25% Essays Writing; 25% Final Presentation; 25% Final Paper

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are asked to review the course material before and after class.

## 履修上の注意 /Remarks

Please be always on time and do not miss more than 5 classes to obtain the course's credits.  
Please buy an electronic version of the textbook online at amazon.co.jp (Price: ¥ 5,388).  
The hard copy takes a long time to be delivered and it is very heavy.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Welcome to Tourism Policy I.  
Enjoy the lecturers, discussions and textbook. See you in class.

## キーワード /Keywords

Tourism, Policy, Management, Destination, Customer, Service, Business.



担当者名 /Instructor 口ドルフォ デルガド / Rodolfo Delgado / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLC212M	◎		○		△
科目名	Tourism Policy II			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
観光学に関する基礎的な知識を身につけている。  
観光学の観点から論理的な思考・分析を行うことができる。  
ベシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

The general course objective is to give students the opportunity to develop knowledge of Tourism Policy  
The specific objectives of the course are:

- Learn the language and specialized terminology required in the Tourism Industry.
- Acquire professional skills required in the service industry.
- Analyze Case Studies.
- Discuss innovating trends.

## 教科書 /Textbooks

Tourism: Principles and Practice (English Edition) 6th Edition, Kindle Edition  
Authors: John Fletcher, Allan Fyall, David Gilbert, Stephen Wanhill.  
Publisher: Pearson.  
Kindle (Digital Version) available in amazon.co.jp. Price: ¥ 5,388.  
Please buy the kindle (Digital Version) because the hard copy takes a long time to be delivered.  
This textbook will also be used for Tourism Policy I, Introduction to Tourism Management and Tourism Seminar.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

References will be recommended.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1- Introduction to Tourism Policy II and Attractions (part 3 chapter 13 of the textbook).
- 2- Attractions.
- 3- Accommodation.
- 4- Accommodation.
- 5- Events Management.
- 6- Events Management.
- 7- Intermediaries.
- 8- intermediaries.
- 9- Transportation.
- 10- Transportation.
- 11- Public Sector and Policy.
- 12- Public Sector and Policy.
- 13- Final paper presentation.
- 14- Final paper presentation.
- 15- Final paper presentation.

## 成績評価の方法 /Assessment Method

25% Class Participation; 25% Essays Writing; 25% Final Presentation; 25% Final Paper.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are asked to review the course material before and after class.

## 履修上の注意 /Remarks

Please be always on time and do not miss more than 5 classes to obtain the course's credit.

Please buy an electronic version of the textbook online at amazon.co.jp (Price: ¥5,388).  
The hard copy takes a long time to be delivered and it is very heavy.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Welcome to Tourism Policy II.  
Enjoy the lecturers, discussions and textbook. See you in class!

## キーワード /Keywords

Tourism, Policy, Management, Destination, Customer, Service, Business.

担当者名 /Instructor ブルック 前田 / Brooke Maeda / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN201M	◎		○		△
科目名	International Trade and Finance				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連  
※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく 3 つの到達目標

知識：国際貿易とファイナンスに関する基礎的な知識を総合的に身につけている。

思考・判断・表現力：国際貿易の観点からの分析をもとに、自分の意見を明確に発現することができる。

自立的行動力：国際貿易への関心とキャリア意識を持ち続け、実践的な知識を有している。

In this course students will learn about the basic concepts in trade and finance from an international perspective. The benefits of foreign trade and trade restrictions will be discussed, followed by a look at exchange rates and the foreign exchange market. This knowledge will be applied to discussions about the current global situation and analysis of case studies.

## 教科書 /Textbooks

No set textbook. Materials will be distributed during class.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Additional references may be recommended during class.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction
2. Basic concepts in economics: The production possibility frontier, comparative advantage
3. The costs and benefits of trade
4. Imports, exports and the balance of trade
5. Restrictions on trade
6. The current global trade situation
7. Group presentations: 1
8. Foreign exchange markets and exchange rates
9. Factors which affect exchange rates 1
10. Factors which affect exchange rates 2
11. Exchange rate risk
12. International investment decisions and foreign operations
13. Case studies, vocabulary test
14. Group presentations: 2
15. Group presentations: 2

(Note: Class schedule could be changed)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation	20%
Group presentation 1	20%
Group presentation 2 & Group report	40%
Vocabulary test	20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Read the preparation handout, which includes a vocabulary list, before coming to each class.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Knowledge of economics and finance is not required, as the material will be taught at a beginners level.

## キーワード /Keywords

Economics, Finance, Trade.

担当者名 /Instructor アショク アシタ / ASHOK ASHTA / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS213M	◎		○		△
科目名	Management System			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

## 授業の概要 /Course Description

The management of organizational behavior is a critically important source of competitive advantage in today's world. Every organization's members share a constellation of skills, abilities, and motivations that differentiates it from every other organization. To gain advantage, organizations must be able to capitalize on these individual differences as jobs are designed, teams are formed, work is structured, and change is facilitated. This course will provide a thorough overview of the key concepts in the field of organizational behavior, including individual, group, and organizational factors. This course will equip students to be effective members of and leaders in organizations; they will understand the basic system of management.

## 教科書 /Textbooks

Robbins Essentials of Organizational Behavior 14th, Global Edition

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

The instructor will designate additional references as needed. Students will be encouraged to read Nikkei Asia and The Economist.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.Introduction -- What is Organizational Behavior?
- 2.The Individual – Personality, Values and Individual Diversity
- 3.The Individual -- Attitudes and Job Satisfaction
- 4.The Individual -- Perception and Individual Decision Making
- 5.The Individual -- Motivation Concepts
- 6.The Individual -- Motivation: From Concepts to Applications
- 7.The Group – Group Dynamics
- 8.The Group – Team Effectiveness
- 9.The Group – Management and Leadership
- 10.The Group -- Power and Politics
- 11.The Group – Communication and Conflict
- 12.The Organization System -- Organization Structure and Hierarchy
- 13.The Organization System -- Organizational Culture
- 14.The Organization System -- Organizational Change
- 15.The Organization System – International Organization Behavior

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments (Submission of all assignments, and their quality) 55%  
Quizzes 45% (There will be three quizzes – in weeks 7, 12, and 15. Each quiz will be worth 15% of the grade.)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- Students will be expected to prepare thoroughly for each class through reading the assigned readings, watching the assigned videos and studying the relevant vocabulary.
- Review of the material covered will be needed to prepare the weekly written assignments and to prepare for the quizzes.

## 履修上の注意 /Remarks

This course will feature case studies and current examples, and will be taught completely in English.  
There will be extensive use of teamwork.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Understanding organizational behavior will give you an advantage in your future career. Organizations are how the world works, so understanding them is extremely important for everyone.

## キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor オム ウォンソブ / Eum Wonsub / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS214M	◎		○		△
科目名	Marketing			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

## 授業の概要 /Course Description

This course aims to provide a comprehensive introduction to contemporary marketing theory and practice. The course will introduce the key concepts of modern marketing management, introduce business cases in the real world, and show how strategies from the textbook can be applied to these cases. By the end of the semester, students will have developed familiarity with marketing terminology and a number of strategic and analytical approaches used by marketing managers to solve business questions.

(到達目標)

- 【知識】マーケティングに関する基礎的な知識を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】ビジネス環境を正確に分析し、事業に役立てることができる。
- 【自立的行動力】専門的知識を活かして積極的に事業展開に役立てることができる。

## 教科書 /Textbooks

University of Minnesota Libraries Publishing (2015). Principles of Marketing. This book is an open textbook, and available at: <https://open.umn.edu/opentextbooks/textbooks/principles-of-marketing>

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

The instructor will suggest appropriate references as needed.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction to Marketing (Chap. 1: Definition of marketing)
2. Marketing Strategies (Chap. 2: Value proposition, SWOT analysis, Strategic portfolio)
3. Consumer Behavior (Chap. 3: Factors of behavior, Motivation, Stages of the purchasing process)
4. Business Buyers (Chap. 4: B2B markets)
5. STP (Chap. 5: Segmentation, Targeting, Positioning)
6. Consumer Offerings (Chap. 6: Components of offerings, Product levels/lines)
7. Marketing in the Global Market (Trade, Comparative advantage, Protectionism)
8. Mid-term exam
9. Product (Chap. 7: Product development, Product life cycle)
10. Place (Chap. 8: Supply chain, Wholesaler/Retailer, Channel dynamics)
11. Promotion I (Chap. 11: Promotion mix, Advertising, Sales promotion)
12. Promotion II (Chap. 12: Public relations, Social media)
13. Price (Chap. 15: Pricing strategies, Pricing objectives)
14. Customer Relationship (Chap. 14: Loyalty, Satisfaction, Ethics)
15. Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Class Participation (Preparation, Participation) 30%, Mid-term 30%, Final (cumulative) 40%. Scores from any pop quizzes that take place will be included in the 'Class Participation' assessment method category.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Previewing and reviewing key concepts will not only help understanding, but also save time during mid-term and final exam seasons. If you preview the class materials, you will be more comfortable and more productive in class discussions, which will eventually lead to a higher grade.

## 履修上の注意 /Remarks

Previewing the materials will greatly help you to enjoy the classes as the classes will be interactive.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

If you have any questions regarding the course material before the semester, or need any help regarding the course during the semester, send me an email. I will be more than happy to assist you in your studies.

## キーワード /Keywords

Marketing, Business, Consumer, Business Strategies



# Tourism Geography ( World Heritage ) 【昼】

担当者名 /Instructor 口ドルフォ デルガド / Rodolfo Delgado / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
MCC343M	◎		○		△
科目名	Tourism Geography (World Heritage)		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
世界遺産に関する広範囲な知識を身につけている。  
観光に関する知識を活かして積極的に事業提案を行なうことができる。  
専門的な知識を活かして積極的に事業展開に役立てることができる。

The general course objective is to give students the opportunity to develop knowledge of World Heritage Sites.

The specific objectives of the course are:

- Learn specific details of World Heritage Sites.
- Acquire knowledge of the competitive advantage of World Heritage Sites to the tourists' destinations.
- Analyze World Heritage Sites.

## 教科書 /Textbooks

World Heritage Sites: Unesco (Photo Book 208) (English Edition) (2018).  
Please buy the Kindle version at amazon.co.jp. Price: ¥776.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

References will be recommended.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1- World Heritage Sites discussion.
- 2- World Heritage Sites discussion.
- 3- World Heritage Sites discussion.
- 4- World Heritage Sites discussion.
- 5- World Heritage Sites discussion.
- 6- World Heritage Sites discussion.
- 7- World Heritage Sites discussion.
- 8- World Heritage Sites discussion.
- 9- World Heritage Sites discussion.
- 10- World Heritage Sites discussion.
- 11- World Heritage Sites discussion.
- 12- World Heritage Sites discussion.
- 13- Final paper presentation.
- 14- Final paper presentation.
- 15- Final paper presentation.

## 成績評価の方法 /Assessment Method

25% Class Participation; 25% Short Homework; 25% Final Presentation; 25% Final Paper.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are asked to review the course material before and after class.

# Tourism Geography ( World Heritage ) 【昼】

専門教育科目  
English Studies 科目  
Global Business Program

## 履修上の注意 /Remarks

Please be always on time and do not miss more than 5 classes to obtain the course's credits.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

I am looking forward to discussing with you about World Heritage Sites.

## キーワード /Keywords

World, Heritage, Sites, Tourism, Competitive, Marketing, Destinations, Development.

担当者名 /Instructor オム ウォンソブ / Eum Wonsub / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS311M	◎		○		△
科目名	International Business Management		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

This course introduces the basics of international business and management. The course covers a wide range of topics in introductory international business, including international trade, regional cooperation, foreign exchange, and global marketing and management. The course will focus on introducing keywords relevant to international business and international business practices - including the background and aftermath of international business actions. By the end of the semester, students are expected to have developed familiarity with the key concepts of international business, and understand the mechanisms of international business strategies.

(到達目標)

- 【知識】国際経営に関する基礎的な知識を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】国際経営に関する理解を基にケースの分析を行なうことができる。
- 【自立的行動力】スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

## 教科書 /Textbooks

Carpenter, M. A., & Dunung, S. P. (2011). International Business. This book is an open textbook, and available at: <https://open.umn.edu/opentextbooks/textbooks/international-business>

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

The instructor will suggest appropriate references as needed.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1st class: Introduction (Chap. 1: Definition of international business, Globalization)
- 2nd class: International Trade Theory (Chap. 2-1: Comparative advantage, Factors of production, Relative price, Heckscher-Ohlin theory)
- 3rd class: Trade Systems and FDI (Chap. 2-2,3: Institution, International investment)
- 4th class: World Economies (Chap. 4: GDP, HDI, Developing & developed, Emerging countries)
- 5th class: Regional Cooperation (Chap. 5: GATT, WTO, NAFTA, EU, ASEAN)
- 6th class: International Monetary System (Chap. 6: IMF, World Bank, International monetary policy)
- 7th class: Foreign Exchange (Chap. 7: Currency, Foreign exchange, Global capital)
- 8th class: Review of key concepts & Mid-term exam
- 9th class: Import and Export (Chap. 9: Import, Export, Countertrade, Global sourcing)
- 10th class: International Business Strategy (Chap. 10: SWOT, Economies of scale & scope, International strategy)
- 11th class: Global Entrepreneurship (Chap. 11: Entrepreneurship across borders)
- 12th class: Talent Management (Chap. 12: Human resources, Selection and placement, Payment)
- 13th class: Global Innovation (Chap. 13: R&D, IPR, Types of innovation)
- 14th class: Global Marketing (Chap. 14: 4 P's, Marketing mix, Supply-chain management)
- 15th class: Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Class Participation (Preparation, Participation) 30%, Mid-term 30%, Final (cumulative) 40%. Scores from any pop quizzes that take place will be included in the 'Class Participation' assessment method category.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Previewing and reviewing key concepts will not only help understanding, but also save time during mid-term and final exam seasons. If you preview the class materials, you will be more comfortable and more productive in class discussions, which will eventually lead to a higher grade.

## 履修上の注意 /Remarks

Previewing the materials will greatly help you to enjoy the classes as the classes will be interactive.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

If you have any questions regarding the course material before the semester, or need any help regarding the course during the semester, send me an email. I will be more than happy to assist you in your studies.

## キーワード /Keywords

International Business, Business Management, Globalization, International Trade, Global Entrepreneurship

# Human Resource Strategy 【昼】

担当者名 /Instructor アショク アシタ / ASHOK ASHTA / 英米学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS312M	◎		○		△
科目名	Human Resource Strategy		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

Human resource management (HRM) is a critically important source of competitive advantage in today's world. The course develops a fundamental understanding of the role and functions of the various human resource activities in an organization, providing students with a comprehensive review of key HRM concepts, techniques and issues. Upon completion of the course, students should be able to provide strategic inputs on HRM matters in organizational settings.

## 教科書 /Textbooks

Human Resource Management, Global Edition (15th edition). Author: Joseph J. Martocchio. Available through the university bookstore. ISBN 9781292264332

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Instructor will designate additional references as needed, especially The Economist and Nikkei Asia.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Human Resource Management: An Overview
2. Business Ethics, Corporate Social Responsibility, and Sustainability
3. Equal Employment Opportunity, Affirmative Action, and Workforce Diversity
4. First quiz followed by Strategic Planning, Human Resource Planning, and Job Analysis
5. Recruitment
6. Selection
7. Review
8. Field engagement
9. Performance Management and Appraisal
10. Training and Development
11. Direct Financial Compensation (Monetary Compensation)
12. Indirect Financial Compensation (Employee Benefits)
13. Labor Unions and Collective Bargaining
14. Internal Employee Relations
15. Final quiz and summary

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments (Submission of all assignments, and their quality) 50%  
Quizzes 50% (There will be five quizzes – the first in week 4 and the last in week 15. The timing of the other three will be informed later. Each quiz will be worth 10% of the grade.)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- Students will be expected to prepare thoroughly for each class through reading the assigned readings and watching the assigned videos and studying the relevant vocabulary.
- Review of the material covered will be needed to prepare assignments and to prepare for the quizzes.
- Assignments may involve teamwork.

## 履修上の注意 /Remarks

There will be an emphasis on collaborative learning by provoking critical thinking.  
This course will feature case studies and current examples, and will be taught completely in English.  
Plagiarism will not be tolerated, and if discovered will result in your getting a zero on that assignment.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Human resource management is an organization-wide function. It will impact you as an individual employee and eventually as a manager and leader of other employees. Human resources are the fundamental building block of organizations, so understanding how to manage human resources is extremely important for your career progression.

## キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ブルック 前田 / Brooke Maeda / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 3年  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS313M	◎		○		△
科目名	Finance		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく 3 つの到達目標

知識：ファイナンスに関する基礎的な知識を総合的に身につけている。

思考・判断・表現力：ファイナンスについて論理的に思考して、自分の考えや判断を明確に表現することができる。

自立的行動力：ファイナンスへの関心とキャリア意識を持ち続け、実践的な知識を有している。

This course introduces students to investments, shares and financial markets. Students will gain knowledge on a wide range of topics relating to shares, such as the risk-return relationship, portfolios and financial crises. In addition, students will learn how to analyze and value a share, using a three-level analysis approach. This knowledge will be applied to an actual company, in the form of a group project to carry out a share analysis, and the results will be presented in English.

## 教科書 /Textbooks

No set textbook. Materials will be distributed in class.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Additional resources may be recommended during class.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction
2. The investment environment
3. The risk-return relationship
4. Diversification
5. Portfolios
6. Are markets efficient?
7. Share analysis: At the macroeconomic level and industry level
8. Share analysis: At the share level
9. The relationship between the economy and share markets
10. Financial crises
11. Group presentations
12. Group presentations
13. International diversification 1
14. International diversification 2
15. Review & vocabulary test

(Note: Class schedule could be changed)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation	30%
Group project (presentation & report)	50%
Vocabulary test	20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Read the preparation handout, which includes a vocabulary list, before coming to each class.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Knowledge about finance is not required as the concepts will be taught at a beginner level.

## キーワード /Keywords

Finance, shares, investments.



担当者名 /Instructor 後藤 純子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS314M	◎		○		△
科目名	Hospitality Management		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

This course provides an overview of travel and hospitality related industries and essential concepts and ideas of customer services and relations. Students will also learn about the background knowledge of the industry, customer motivation and needs, importance of communication as well as entry-level of marketing, sales and people management (HR) ideas.

The course takes real-world based approaches with stories and experiences and encourage students to think critically, express clearly, participate fully and enjoy.

Specific Targets in Focus (到達目標)

- 【知識】ホスピタリティに関するビジネス知識を身に着けている
- 【思考・判断・表現力】ホスピタリティービジネスに関するケース分析を行うことができる
- 【自立的行動力】スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身に着けている

## 教科書 /Textbooks

No textbook. Study materials will be provided during the classes.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Some references may be suggested during classes.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.Introduction - What is hospitality management
- 2.Working in the international airline (hospitality) business environment
- 3.Developing greater customer experience
- 4.Building customer loyalty
- 5.Case study - Hotel
- 6.Communication challenges in hospitality industry - managing customer expectations
- 7.Communication challenges in hospitality industry- customer relations/complaint handling
- 8.Case study - Airline
- 9.Service quality management
- 10.Hospitality marketing and sales
- 11.PR and reputation management
- 12.General people (HR) management
- 13.Group project - develop a customer satisfaction programme
- 14.Group project presentation
- 15.Group project presentation

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- Class participation - 50%
- Short quizzes/Assignments - 25%
- Group presentation - 25%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are expected to review the course materials before and after classes.

## 履修上の注意 /Remarks

The course is highly interactive. Most suitable for those who desire to work with people in hospitality sector.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Creating "Wow" customer experience is the key to hospitality business. Looking forward to sharing real-world experiences and learning together.

## キーワード /Keywords

Hospitality, Customer Experience, Customer Satisfaction, People Management

担当者名 /Instructor ブルック 前田 / Brooke Maeda / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 3年  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS315M	◎		○		△
科目名	Global Logistics			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく 3 つの到達目標

知識：コーポレート・ファイナンスを総合的に理解している。

思考・判断・表現力：企業の観点からの論理的な分析をもとに、業績を評価できる力を身につけている。

自立的行動力：ファイナンスへの関心とキャリア意識を持ち続け、実践的な知識を有している。

The goal of this course is to develop the analytical skills needed for making financial decisions. All companies need to continuously make decisions, and these decisions have financial implications. In this course students will learn about several different aspects of corporate financial decisions, focusing on the investment decision and the financing decision. The methods used to value potential projects and decide which to accept will be discussed, followed by a look at how to conduct a financial analysis of a company. Students will undertake a group project which analyses a specific company's financial situation and present the results in English.

## 教科書 /Textbooks

No set textbook. Materials will be distributed during class.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Additional references may be recommended during class.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction
2. Companies and their goals
3. Where do companies get funding from?
4. Management problems
5. M & A's
6. Time value of money
7. Project evaluation 1
8. Project evaluation 2
9. Financial statement analysis 1
10. Financial statement analysis 2
11. Financial statement analysis 3
12. Financial statement analysis 4
13. Group project presentations
14. Group project presentations
15. Review & vocabulary test

(Note: Class schedule could be changed)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation	20%
Project evaluation report	20%
Group project & presentation	40%
Vocabulary test	20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Read the preparation handout, which includes a vocabulary list, before coming to each class.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Knowledge of finance is not required, as the material will be taught at a beginners level.

## キーワード /Keywords

Finance, valuation, financial statements.

担当者名 /Instructor 寺田 真一郎 / Shinichiro Terada / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 3年  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS316M	◎		○		△
科目名	Venture Business			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

知識:ベンチャー・ビジネスに関する基礎的な知識を身につけている。

思考・判断・表現力:ベンチャー・ビジネスのケースについて分析を行うことができる。

自律的行動力: スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

The aim of this course is to help students understand "Entrepreneurship", and create their own "start-up" plans. ("Venture business" is a Japanese-English word.)

During the lecture, we will study the background of entrepreneurship and understand how to actually start a business. Students are asked to present the essence of required videos and textbooks in the class.

Students will be divided into groups and asked to make a start-up plan. Over the course of the classes, each group gradually build up its start-up plan and present their plan at the end of the course.

Any students can enjoy this course. You can take this course as one from your curiosity.

No prerequisite studies is necessary for taking this course.

## 教科書 /Textbooks

The instructor will provide information of the materials (books, videos) in the first class.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

The instructor will introduce the videos, articles, and papers for class discussions and presentations.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Introduction

1. Why to start a startup

Start-up ideas

2. Discovering and creating opportunities

3. How to get startup ideas

Pitch your start-ups

4. How to talk to users

5. How to talk to investors

Work together

6. How to work together

7. Hiring and culture

Plan

8. Entrepreneur's context

9. Competition is for losers

Launch

10. How to launch

11. How to get started

Priority

12. Forms of entrepreneurial ventures

13. Prioritize your time

Business plan presentation

14. Presentations 1

15. Presentations 2

(Schedules and contents are subject to change.)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation (presentation, discussion) - 50%

Business plan (presentation, report) - 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students have to be prepare presentations several times through the course.

Students have to report the final business plan at the end of the course.

## 履修上の注意 /Remarks

Students do not need any prerequisite studies.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Enjoy!

## キーワード /Keywords

Start-ups, Entrepreneurship, Business plan, Business studies

# Leadership Theory 【昼】

担当者名 /Instructor アショク アシタ / ASHOK ASHTA / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS317M	◎		○		△
科目名	Leadership Theory		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

This course follows a globally acclaimed undergraduate level textbook to review and analyze select leadership theories with attention to application in real world organizations. Students will explore how leadership theory can shed light on and point the way leadership is practiced.

## 教科書 /Textbooks

Leadership in Organizations, Global Edition (9th Edition). Authors: Gary Yukl and William Gardner

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

The instructor will designate additional references as needed, especially The Economist and Nikkei Asia.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. The Nature of Leadership
2. Leadership Behavior
3. The Leadership Situation and Adaptive Leadership
4. Decision Making and Empowerment by Leaders
5. Leading Change and Innovation
6. Power and Influence Tactics
7. Leader Traits and Skills
8. Charismatic and Transformational Leadership
9. Values-Based and Ethical Leadership
10. Dyadic Relations and Followers
11. Leadership in Teams and Decision Groups
12. Strategic Leadership in Organizations
13. Cross-Cultural Leadership and Diversity
14. Developing Leadership Skills
15. Overview and Integration

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments (Submission of all assignments, and their quality) 50%  
Quizzes 50% (There will be five quizzes – the first in week 4 and the last in week 15. The timing of the other three will be informed later. Each quiz will be worth 10% of the grade.)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- Students will be expected to prepare thoroughly for each class through reading the assigned readings, watching the assigned videos and studying the relevant vocabulary.
- Review of the material covered will be needed to prepare assignments and to prepare for the quizzes.
- Assignments may involve teamwork.

## 履修上の注意 /Remarks

There will be an emphasis on collaborative learning by provoking critical thinking.  
This course will feature case studies and current examples, and will be taught completely in English.  
Plagiarism will not be tolerated, and if discovered will result in your getting a zero on that assignment.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

The course architecture will widen perspective on leadership beyond simplistic popular approaches found in general media (magazines, television shows etc.).

## キーワード /Keywords



担当者名 /Instructor オム ウォンソブ / Eum Wonsub / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS318M	◎		○		△
科目名	Business Case Studies		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

This course aims to provide a link between contemporary marketing theory and business cases. The early part of this course will introduce the key concepts relevant to modern marketing management, and the latter part will provide an opportunity to apply analytical models to real case studies. This course will also improve your oral presentation and group work-related professional skills. During the case presentations, presenters will make strategic decisions as business consultants, and other students will critically assess their strategies as business owners.

(到達目標)

- 【知識】ビジネスのケースを分析する知識を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】ビジネスのケースについて分析及び議論を行うことができる。
- 【自立的行動力】スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

## 教科書 /Textbooks

Cases from MIT LearningEdge Case Studies, by MIT Sloan School of Management. <https://mitsloan.mit.edu/LearningEdge/Pages/Case-Studies.aspx>

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

The instructor will suggest appropriate references as needed.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction to Business Case Studies
2. Review of Marketing Strategies
3. Critical Reading of Business Cases
4. Analytical Frameworks for Business (MECE, SWOT, etc.)
5. Searching for External Resources, Reading Statistics & PowerPoint Tips
6. Answering Questions as a Consultant & Asking Questions as a Manager
7. Case Presentation 1-A
8. Case Presentation 1-B
9. Case Presentation 1-C
10. Case Presentation 1-D
11. Case Presentation 2-A
12. Case Presentation 2-B
13. Case Presentation 2-C
14. Case Presentation 2-D
15. Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Class Participation (Preparation, Participation) 60%, 2 Presentations 40%. Active participation is expected.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Careful reading of cases is required, especially when you are not presenting. For a high participation grade, you should be familiar with the cases so as to be able to ask questions to the presenters.

## 履修上の注意 /Remarks

Previewing the materials will greatly help you to enjoy the classes as the classes will be interactive.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

If you have any questions regarding the course material before the semester, or need any help regarding the course during the semester, send me an email. I will be more than happy to assist you in your studies.

## キーワード /Keywords

Business Case, Marketing, Strategy, Business Analysis, Business Strategies

# 特定課題演習 A 【昼】

担当者名 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM201M	○		○		◎
科目名	特定課題演習 A		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのキャリアマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

英語による模擬国連 ( Model United Nations ) を通じて、国際連合や国際会議の仕組みや方法の理解を進める。また国際的な議論の場で意思決定過程を体験することにより、持続可能な開発目標 ( SDGs ) をはじめ、国際問題 ( 今回は特に気候変動 ) に対する理解の深化、および英語運用力とコミュニケーション力 ( パブリック・スピーキング、二者間交渉、多数者間交渉 ) の向上を目指す。受講者には、日本大学英語模擬国連 ( JUEMUN ) に参加し、教室の枠を越えて他大学の学生と英語で議論する機会を持つことが推奨される。

DP ( Diploma Policy ) に基づく到達目標

《知識》国際問題に関する幅広い知識を身につけている。

《思考・判断・表現力》国際問題に対して学際的・複眼的に思考して解決策を探求し、適切な方法で発信できる。

《自立的行動力》国際問題への関心と基礎的知識を持ち続け、主体的に行動し、問題解決に貢献できる姿勢を身につけている。

## 教科書 /Textbooks

授業内で指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

○図書館本館 2F 英語模擬国連 ( 齊藤 ) のコーナーを参照

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回：ガイダンス ( 授業計画、模擬国連の概要、JUEMUN について )
- 第 2 回：国連の歴史と仕組み、国連憲章、持続可能な開発目標 ( SDGs )
- 第 3 回：模擬する会議に関するリサーチ --- 国際連合開発計画 ( UNDP )
- 第 4 回：担当国に関するリサーチ < 外部講師参加予定 >
- 第 5 回：模擬国連議題に関するリサーチ --- Climate Change ( 特に、SDG9、SDG12、SDG13 )
- 第 6 回：ポジション・ペーパー ( 担当国方針説明書 ) 案の作成 < 外部講師参加予定 >
- 第 7 回：ポジション・ペーパー案の加筆・修正
- 第 8 回：ポジション・ペーパーの完成
- 第 9 回：ワーキング・ペーパー ( 1 ) --- 準備
- 第 10 回：ワーキング・ペーパー ( 2 ) --- プレゼンテーション
- 第 11 回：模擬国連議事進行手順の確認、公式スピーチ原稿作成
- 第 12 回：会議シミュレーション ( 1 ) --- 公式スピーチ
- 第 13 回：会議シミュレーション ( 2 ) --- 二者間交渉、多数者間交渉
- 第 14 回：会議シミュレーション ( 3 ) --- 決議案と修正案の作成 < 外部講師参加予定 >
- 第 15 回：会議シミュレーション ( 4 ) --- 採決、振り返り

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ( 意見交換への参加度、小テスト、発表、課題提出など ) ... 70%

授業内 ( およびJUEMUN ) における模擬国連活動 ( 会議シミュレーション ) への貢献度 ... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備・学習すること。

また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと。

## 履修上の注意 /Remarks

1. JUEMUNに参加する際には大会ルールを守ることを約束する誓約書の提出が求められる。JUEMUNの詳細は第 1 回目の授業で説明する。
2. 活動にはオンライン会議が含まれる。その際には、Zoomをはじめ複数のオンラインプラットフォームを並行して使用する予定である。

## 特定課題演習 A 【昼】

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語による議論に積極的に参加していただきたい。

### キーワード /Keywords

持続可能な開発目標 (SDGs)、国際連合、気候変動、国際交渉力、グローバル人材、多様性 (diversity)

# 特定課題演習 B (ダイバーシティ) 【昼】

担当者名 /Instructor: フィオナ・クリーサー / Fiona Creaser / 英米学科, 雪丸 尚美 / 英米学科

履修年次 /Year: 1年次 / 単位 /Credits: 2単位 / 学期 /Semester: 2学期 / 授業形態 /Class Format: 講義・実習 / クラス /Class: 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM202M	○		○		◎
科目名	特定課題演習 B		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

**【到達目標】**  
 知識：多様性やジェンダーに関する基礎的な知識を身につけている。  
 思考・判断・表現力：多様性やジェンダーに関する課題について総合的に思考して解決策を探求し、自分の考えや判断を適切な方法で発信することができる。  
 自立的行動力：専門的な知識を活かして、多彩な社会貢献ができる姿勢を身につけている。

The main purpose of this course is to guide students through the fields of diversity, gender, and Second Language Acquisition. Students will have the opportunity to study about a wide range of subjects related to diversity and gender through English and Japanese. Students will be given a thorough grounding in the areas of equality and diversity, inclusion and basic human rights. Instructors will guide and encourage students to develop life skills necessary for work in an ever-increasing diverse world. Classes will be creative and instructive, including workshop style classes, seminar style classes. Guest speakers will also be invited to impart their knowledge and experience about the world.

All students are welcome. Those who are taking teacher training course will be given additional guidance how to teach the course in the future.

本授業は、ダイバーシティ論とジェンダー研究、第二言語習得研究の知見に基づき、多様性やジェンダーについての基礎的な知識を涵養することを目的とします。具体的には、LGBTQ+コミュニティ、平等、多様性と包摂や基本的な人権について、英語と日本語で学習します。授業はワークショップを取り入れながら、インタラクティブに行います。また、i-Designコミュニティカレッジの受講生にも参加を促し、学内における多様な学習者との学びを実践する機会とします。さらに、ゲストスピーカーから世界についての知識と経験を聞く機会も設けます。

外国語学部全ての学生向けです。  
 教職を目指す学生には、将来、教員として同様の授業を実施するための助言も行います。

## 教科書 /Textbooks

Materials will be provided by the instructors.  
 授業で配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

References will be introduced by the instructors.  
 授業中に紹介します。

# 特定課題演習 B (ダイバーシティ) 【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

The content will be adjusted according to students' understanding and interests.  
授業計画は以下の通りですが、履修者の理解や関心に応じて内容を調整します。

- Week 1: Why How? Gender, Diversity and Second Language Acquisition (オリエンテーション: ジェンダー研究、ダイバーシティ論、第二言語習得研究)
- Week 2: What is Gender? What is Diversity? What is SLA? (ジェンダーとは? 多様性とは? SLAとは?)
- Week 3: Breaking down the Myths of Feminism (フェミニズム)
- Week 4: Marriage Education and Career (結婚、教育とキャリア)
- Week 5: Workshop 1: Assertiveness and Assertive training (ワークショップ1: アサーティブネスの練習)
- Week 6: Gender Fluid -LGBTQ+ community (ジェンダー・フルイドとLGBTQ+コミュニティ)
- Week 7: Marriage for All (すべての人に結婚の権利を)
- Week 8: Workshop 2: Proud of PRIDE: Understanding the Importance of the LGBTQ+ Community (ワークショップ2: プライド: LGBTQ+コミュニティの重要性に対する理解)
- Week 9: Civil Rights/ Human Rights (市民の権利・人権)
- Week 10: The lives of Rosa Parks and Malala Yousafzai (ローザ・パークスとマララ・ユスフザイ)
- Week 11: Workshop 3: The Changing Face of Japan Looking inwards: Cultural diversity in Japan (ワークショップ3: 変わりつつある日本の顔)
- Week 12: Celebrating differently Abled Abilities (障がいに対する見方)
- Week 13: Different Ways of Learning, Different Minds (学び方の違い)
- Week 14: Human Rights, Educational Rights (人権、教育を受ける権利)
- Week 15: Student led Workshop (学生によるワークショップ)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

In-class participation 50%; Workshop preparation 10%; Student-led Workshop 20%; Short creative piece of writing 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習: 語彙の確認、Moodle課題など (30~60分)
- 事後学習: 毎週の授業内容の復習、ワークショップやレポートの準備 (30~60分)

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

We hope to make this course enjoyable, informative, and educational for all students.  
受講者にとって楽しくてためになる、教育的な授業にしたいと思っています。

## キーワード /Keywords

diversity and inclusion, gender, second language acquisition  
多様性と包摂、ジェンダー、第二言語習得論

# 特定課題演習C【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 堀地 明 / 中国学科  
木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM186M			○	○	◎
科目名	特定課題演習 C		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

本科目は、学内で公募する海外インターンシップ(オンラインのみでのものは含まないので注意)に参加する学生を対象に開講されます。学生自らが積極的に学外における活動に身を置き、主体的に行動し問題解決能力を身に付けることを目的としています。なお、この科目は集中講義として開講されます。

(到達目標)

[思考・判断・表現力] 多文化共生社会への深い理解に基づいて、自分の考えを発信することができる。

[コミュニケーション力] 文化的背景の異なる他者と外国語で円滑なコミュニケーションをとることができる。

[自立的行動力] 多文化共生社会の課題解決に向けて主体的に取り組み、自他ともに尊重する解決方法を模索することができる。

## 教科書 /Textbooks

特に指定はありません。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

特に指定はありません。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

夏期休業期間中に行われる学内公募の海外インターンシップに参加し、80時間以上の就業体験が必要です。そのインターンシップを挟む形で、学内において事前研修と事後学習が行われます。1学期に行われる事前研修においては、海外インターンシップに参加するにあたって、1)海外における安全管理・危機管理、2)インターンシップに臨むにあたっての心構え、について講義を行います。また、履修登録者には、海外インターンシップによって、どのような力を身に付けてきたいかをプレゼンテーションで発表してもらいます。事後研修では、海外インターンシップの内容だけでなく、参加して身につけた能力についてプレゼンテーションを行っていただきます。なお、オンラインのみでのインターンシップは対象になりませんので、注意してください。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

この科目での評価はN(認定)とし、2単位が付与されます。単位を得るためには、上記の事前事後研修への参加およびそこでのプレゼンテーション、ならびに履修登録者自らがつけた「日誌」「報告書」、さらには研修受入機関が作成した「研修終了報告書」の提出が必要です。これらのうちの一つでも欠けた場合には単位は付与されません。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に自分が訪問する国の治安状況等について、外務省のサイト等を参照して学習しておいてください。事後学習としては、インターンシップ先で身に付けた知識や能力を帰国後の日常生活において確認してください。

## 履修上の注意 /Remarks

履修登録は4月の履修登録期間に行ってもらいます。事前研修の日程は掲示で通知します。また、Moodleでのメッセージでも知らせるので、見逃しがないように注意してください。履修にあたっては、特定課題演習C取扱要領を熟読してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 留学国際活動 2 B 【昼】

担当者名 /Instructor  
フィオナ・クリーサー / Fiona Creaser / 英米学科

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 実習  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
MCC284M			○	○	◎
科目名	留学国際活動 2 B		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標  
グローバルな視点から社会の諸相を分析し、考えを述べるができる。外国語を用いて積極的にコミュニケーションを行なうことができる。  
国際人らしい良識と倫理観を持ち、主体的に行動することができる。

Study abroad is an experience that not only transforms our perspectives of other countries but it also gives us a greater understanding of the fundamental values and perspectives of home. An overseas experience of living and studying within a different culture is not only one of learning a foreign language or gaining knowledge of another society. You will grow as an individual and gain skills of intercultural competence that will prepare you for your future career.

This course will provide individual feedback to students so they may gain a deeper understanding of their overseas experience. Students will evaluate their overseas experiences in this course in order to integrate new perspectives and skill-sets into their student life in Japan. It will also motivate them to understand the value of intercultural competence and encourage them to apply their intercultural skill set to future employment or graduate school goals.

## 教科書 /Textbooks

Printed materials will be determined by the instructor according to the need of students.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Students will use online resources, library materials, and materials they have required from their overseas experience.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction
- 第2回 Preparation of outlines for presentation
- 第3回 Presentations and discussion 1 (North America)
- 第4回 Presentations and discussion 2 (Latin America/Caribbean)
- 第5回 Presentations and discussion 3 (Europe)
- 第6回 Presentations and discussion 4 (Middle East/Africa)
- 第7回 Presentations and discussion 5 (Asia)
- 第8回 Presentations and discussion 6 (Oceania)
- 第9回 Research writing guidelines for papers and final presentations
- 第10回 Peer-work and discussion according to regions: thesis outlines
- 第11回 Peer-work and discussion according to regions: draft one
- 第12回 Peer-work and discussion according to regions: draft two
- 第13回 Peer-work and discussion according to regions: final draft
- 第14回 Final presentations: Group A (study abroad)
- 第15回 Final presentations: Group B (overseas internships)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Paper- 50% Participation/Presentation- 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should have participated in approved overseas programs or internships for more than three months.

## 履修上の注意 /Remarks

All Instruction will be in English.



担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 留学国際活動 2 B 【昼】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
MCC284M			○	○	◎
科目名	留学国際活動 2 B		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく 3 つの到達目標  
 思考・判断・表現力: グローバルな視点から社会の諸相を分析し、考えを述べるができる。  
 コミュニケーション力: 外国語を用いて積極的にコミュニケーションを行なうことができる。  
 自立的行動力: 国際人らしい良識と倫理観を持ち、主体的に行動することができる。

Study abroad is an experience that not only transforms our perspectives of other countries but it also gives us a greater understanding of the fundamental values and perspectives of home. An overseas experience of living and studying within a different culture is not only one of learning a foreign language or gaining knowledge of another society. You will grow as an individual and gain skills of intercultural competence that will prepare you for your future career.

This course will provide individual feedback to students so they may gain a deeper understanding of their overseas experience. Students will evaluate their overseas experiences in this course in order to integrate new perspectives and skill-sets into their student life in Japan. It will also motivate them to understand the value of intercultural competence and encourage them to apply their intercultural skill set to future employment or graduate school goals.

## 教科書 /Textbooks

Printed materials will be determined by the instructor according to the need of students.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Students will use online resources, library materials, and materials they have required from their overseas experience.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction
- 第2回 Preparation of outlines for presentation
- 第3回 Presentations and discussion 1 (North America)
- 第4回 Presentations and discussion 2 (Latin America/Caribbean)
- 第5回 Presentations and discussion 3 (Europe)
- 第6回 Presentations and discussion 4 (Middle East/Africa)
- 第7回 Presentations and discussion 5 (Asia)
- 第8回 Presentations and discussion 6 (Oceania)
- 第9回 Research writing guidelines for papers and final presentations
- 第10回 Peer-work and discussion according to regions: thesis outlines
- 第11回 Peer-work and discussion according to regions : draft one
- 第12回 Peer-work and discussion according to regions: draft two
- 第13回 Peer-work and discussion according to regions: final draft
- 第14回 Final presentations: Group A (study abroad)
- 第15回 Final presentations: Group B (overseas internships)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Paper- 50% Participation/Presentation- 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should have participated in approved overseas programs or internships for more than three months.

## 履修上の注意 /Remarks

All Instruction will be in English.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# Global Research Project 【昼】

担当者名 /Instructor 柴田 弓子 / 英米学科, ジェニファー・ラーソンホール / Jenifer Larson-Hall / 英米学科  
フィオナ・クリーサー / Fiona Creaser / 英米学科, 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科  
ローズマリー・リーダー / Rosemary Reader / 英米学科, アショク アシタ / ASHOK ASHTA / 英米学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
MCC361M			○	○	◎
科目名	Global Research Project		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

## 授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

思考・判断・表現力：グローバルな視点から社会実践を行ない、考えを述べるができる。

コミュニケーション力：英語を用いて積極的に異文化間コミュニケーションを実践できる。

自立的行動力：国際人らしい良識と倫理観を持ち、主体的に行動することができる。

This omnibus course aims to give students opportunities to develop global awareness, grow as an individual and cultivate intercultural competence for the future career. Students in this course will have opportunities to learn together with our overseas partner university students and get ready for future global communication.

As it is a project-based learning course, students are expected to prepare for classes in advance and participate actively in each collaborative work with classmates.

## 教科書 /Textbooks

Reading materials will be provided by the instructor.

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

Students will use online resources and library materials for group presentations.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction and Team Building for Learning Exchange (Yumiko Shibata)
- 第2回 Learning Exchange with American Students Part 1 (Yumiko Shibata)
- 第3回 Learning Exchange with American Students Part 2 (Yumiko Shibata)
- 第4回 Preparing for Job Interviews in the US (Jenifer Larson-Hall)
- 第5回 Discussion on Global Issues (Sonoko Saito)
- 第6回 Cross-cultural Management (Ashok Ashta)
- 第7回 Using Humour to Communicate (Rosemary Reader)
- 第8回 Research Project 1: SDGs and Our Action Plans/Team Building (Yumiko Shibata)
- 第9回 Research Project 2: Research Tips and Group Discussions (Yumiko Shibata)
- 第10回 Research Project 3: Presentation Tips, Theme Introduction (Yumiko Shibata)
- 第11回 Introduction to British Culture (Fiona Creaser)
- 第12回 Research Project 4: Preparation and Rehearsal (Yumiko Shibata)
- 第13回 Final Presentation (Yumiko Shibata)
- 第14回 Final Presentation (Yumiko Shibata)
- 第15回 Final Presentation (Yumiko Shibata)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Class Participation and Assignments 50% Group Presentation - 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should review the course material before class to be ready for discussions in English.

## 履修上の注意 /Remarks

This course will be conducted in a classroom, but the part of the course involves online works. As Office365 applications will be mainly used for group projects, students are encouraged to bring their digital devices such as PCs and smart phones to the classroom. If you don't have one, please contact the instructor under the following email address: y-shibata@kitakyu-u.ac.jp

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

We are looking forward to seeing you in class.

## キーワード /Keywords

research, collaborative learning

# 教職論 【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

教職論は、通常の場合、4年間の教職課程への導入的性格を持つ科目である。  
本授業では、教職という仕事の社会的意義と役割、また、教員に求められる資質や倫理の内容を理解するとともに、本学出身者の若手の教員の体験報告とその後の意見交流、ベテラン教員の講演と意見交流を通して、教員という仕事の喜びや困難さを理解し、自らの進路選択を検討するとともに、めざすべき教員像を探究する。  
また、教員の職務内容の全体像と教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解するとともに、今日の学校が担うべき役割を実現していくために必要不可欠な教職員や多様な専門職種との連携の在り方について検討する。

なお、この科目は「教職に関する科目」のカリキュラムマップでは、1類 - 1 に該当する科目である。

到達目標 教職という仕事に関する基本的な知識を理解している。

## 教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回の授業で必要な資料は配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

岩田康之・高野和子編 「教職論」 学文社  
文科省 中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション 本授業の目的と進め方、「教職課程を履修する目的」に関するアンケート
2. 教育に求められる実践的指導力と学校ボランティア体験の意義(外部講師の報告)
3. 教員に求められる資質 その1 共感的理解と対話力
4. 今日の教員に求められる役割と職務内容について(講師 森恵美先生)
5. 教員に求められる資質その2 生徒指導と学級経営(学級づくり) - 実践報告を手がかりに
6. 教員に求められる資質その3 教科指導と授業づくり(本学出身の教員の実践報告と意見交流)
7. チーム学校と専門職との連携 その1 「特別なニーズ」を持つ子どもへの支援
8. チーム学校と専門職との連携 その2 被虐待・貧困状況にある子どもと家族への支援
9. 教員に求められる資質その4 特別活動と学級づくり(本学出身の教員の報告と意見交流)
10. 学級づくりに関するグループワーク
11. 現代社会における学校教育の課題 その1 セクシュアルマイノリティの生徒と学校づくり
12. 現代社会における学校教育の課題 その2 部活動・体罰問題を考える。
13. 現代社会における学校教育の課題 その3 「道徳教育」をめぐる問題を考える。
14. 若手教員からみた教員の仕事の生きがいと悩み(本学出身の中学校教員の報告と意見交流)
15. 全体のまとめと課題の説明

\* 講師の都合などにより、計画が変更になることがある点、了解されたい。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(授業内で実施するミニレポート等) 50点、レポート試験50点

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 新聞記事やテレビなどを通して日常的に生じている教育の問題に関心を持ち、自分自身の見解を持つ努力をすること
- ・ 授業での現職教員との出会いを通して、自分自身が理想とする教師像を育てていくこと
- ・ 学校現場でのボランティア体験などを通して、教師としての実践的指導力の獲得に向けての自己教育の課題に取り組むこと

## 履修上の注意 /Remarks

この授業はすべての回に出席し、毎回のミニレポートを提出してもらうことを前提として進めます。

# 教職論【夜】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では多くの学校現場の先生に来ていただいて、教師という仕事の魅力と困難さを語っていただきます。  
この半年の授業のなかで皆さん自身がめざすべき「教師像」を育んでもらえることを願っています。

## キーワード /Keywords

教職の意義と役割、教員の仕事、理想の教師像

# 教育原理【夜】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

### 課題

発達と教育、教育思想や教育史等、教育についての基礎的な知識を習得し、現代の教育における課題について学ぶ。

### 到達目標

教育に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

- ①教育に関わる基礎的な専門知識を習得する。
- ②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

(以下、平成26年度以降入学生)

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-1」に分類される科目である。

## 教科書 /Textbooks

なし。  
プリント資料配布。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じ、授業時に提示。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：教育とは何か
- 2回 教育の関係：教育のモデル・家族・学校
- 3回 生涯にわたる発達と教育：生涯発達
- 4回 発達課題と教育支援：思春期・青年期
- 5回 教育思想①：諸外国の教育思想
- 6回 教育思想②：日本の教育思想
- 7回 教育史①：西洋の教育史
- 8回 教育史②：日本の教育史
- 9回 学ぶ意欲と教育指導
- 10回 学校教育の機能：基礎集団としての学級
- 11回 学校教育の課題：学校で生じる問題
- 12回 メディアと教育：メディアと子ども・教材・方法
- 13回 国際化と教育：言語・文化
- 14回 仕事と教育：進路形成
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。  
配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。  
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 教育心理学【夜】

担当者名 山下 智也 / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

教育心理学とは、教育活動を効果的に推進するために役立つ心理学的な知見や技術を提供する学問である。

この授業では、まず【学習】分野として、幼児、児童及び生徒の教育場面に関連する学習理論を学ぶことを通して、より効果的な教育活動を展開するための教育心理学の基礎的事項について理解する。次に【発達】分野として、子どもの発達段階について学んだ上で、教育現場での個々人に応じた教育及び発達支援について理解を深める。さらに、知的障害・発達障害のある幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程についても学ぶ。また、教育心理学の知見を生かした多様な【教授法】について学ぶとともに、学級集団や子どものパーソナリティ理解、教育評価等の理解を深め、教育現場へと【応用】する術を学ぶ。

授業形態は講義とする。授業内で出される課題についてのグループディスカッション、心理学実験、プレゼンテーション等のアクティブラーニングを部分的に取り入れる。

<到達目標>

【知識】教育現場に生かすための教育心理の基礎（学習理論や教授法等）を幅広く理解している。

この科目は、履修ガイドの「教育の基礎的理解に関する科目等」カリキュラムマップの「I類-2」に分類される科目である。

## 教科書 /Textbooks

適宜レジユメを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

やさしい教育心理学 第4版 鎌原 雅彦(著), 竹網 誠一郎(著) 有斐閣

# 教育心理学【夜】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：教育心理学が心理学の分野においてどのように発展してきたのか、また教育心理学とは何を目的とした学問なのかについて学ぶ。
- 第2回：【学習①】古典的条件づけやオペラント条件づけ等の基本的な学習理論（経験説）について教育との関係から学ぶ。
- 第3回：【学習②】洞察説やサイン・ゲシュタルト説等の基本的な学習理論（認知説）について教育との関係から学ぶ。
- 第4回：【学習③】学習における動機づけや原因帰属理論について学ぶ。また動機づけを高め、維持するための働きかけ方についても学ぶ。
- 第5回：【学習④】記憶に関する基礎理論（長期記憶、短期記憶、忘却等）を学ぶ。また、学習活動における記憶の役割や記憶の定着を促す学習方法について学ぶ。
- 第6回：【発達①】発達に及ぼす遺伝要因と環境要因の相互作用の影響に焦点を当てる。特に発達における環境要因としての教育が果たす役割について理解する。
- 第7回：【発達②】発達初期における養育者との愛着形成と初期経験の重要性について理解する。また、生涯発達の視点からピアジェの認知発達理論についても学ぶ。
- 第8回：【発達③】生涯発達の視点からエリクソンのライフサイクル論を理解し、特に思春期・青年期に関して、発達段階を踏まえた適切な学習方法について理解を深める。
- 第9回：【発達④】発達障害（自閉症スペクトラムや学習障害、注意欠陥多動性障害等）の特徴について学ぶとともに、発達障害児との関わりについて理解を深める。
- 第10回：【教授法①】発見学習や有意味受容学習等の学習指導法について、その特徴と提唱された理論的背景について学ぶ。
- 第11回：【教授法②】プログラム学習やバズ学習、ジグソー学習等の学習指導法について、その長所と短所を理解し、実践場面での使い分け方について学ぶ。
- 第12回：【応用①】学級集団の諸相を仲間集団の発達の変容や測定方法など仲間関係の側面から学ぶ。また教師のリーダーシップや教師期待効果などの教師の役割についても学ぶ。
- 第13回：【応用②】教育場面での評価の形態（絶対評価、相対評価、個人内評価等）について学び、その特徴を理解する。また子どものパーソナリティ理解についても学びを深める。
- 第14回：【応用③】知能の定義や考え方の歴史の変遷や諸理論について学ぶ。また、知能の測定と知的障害の定義及び特徴について理解する。
- 第15回：【応用④】特別な支援を必要とする子ども（知的障害・発達障害等）への対応・支援や、子どもの不適応問題（いじめ・不登校等）への対応・支援について、教育心理学的観点から学ぶ。

定期試験

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・ミニレポート・・・40%  
最終試験・・・60%

（出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。）

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回回の予告を行い、関連キーワードを調べておくなど、次回までの課題を提示する（必要な学習時間の目安は60分）。  
事後学習：授業の冒頭で、前回の授業内容について振り返りをしたり、グループで発表し合ったりするため、授業で学習した学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努める。（必要な学習時間の目安は90分）

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義だけでなく、個人ワークやペアワーク、グループワークを行います。  
授業への主体的な参加を期待します。

## キーワード /Keywords

子どもの発達、子どもの学習、子どもへの関わり方

# 教育社会学【夜】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

社会学的な視点から学校教育と学校をめぐるとして、国内外の動向も紹介しながら、政策・実践課題について考えていきます。あわせて、子どもや子どもをめぐるとして社会変化についても理解を深めていきます。

日本については近年の様々な課題や政策動向など状況の変化について理解を深めます。

国外については日本との比較を念頭に置きながら、少子化への対応や、教育への考え方、取り組みの違いなどを理解し、社会全体で子どもを育成していく視点の重要性、教育の役割について説明します。

学校教育と家庭教育、社会教育（地域教育）の連携や協働についても具体的事例を取り上げながら理解を深めていきます。また、自然災害に対する子どもの安全を含めた、子どもの安全への対応についても事例を取り上げて考えます。

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

(到達目標)

【知識】

教育に関する社会学的な知識を身につけている。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回オリエンテーション ー教育に関する社会学とは
- 第2回学校をめぐるとして近年の動向 ー初等教育
- 第3回学校をめぐるとして近年の動向 ー中等教育
- 第4回子どもをめぐるとして社会の変化 ー少子高齢化、地域・社会の変容
- 第5回諸外国の子ども・子育ての動向 ー家族支援、教育支援
- 第6回諸外国の教育 ー学校教育
- 第7回諸外国の教育 ー青少年の社会参加・参画
- 第8回日本における教育政策・改革の動向
- 第9回子どもの生活の変化と指導の課題 ー家族、少子化
- 第10回子どもの生活の変化と指導の課題 ー孤食、栄養と食育
- 第11回子どもの生活の変化と指導の課題 ーメディアと遊び
- 第12回子どもの生活の変化と指導の課題 ー社会性、自主性
- 第13回学校と地域の連携 ー地域の変化、学校と地域の連携・協働、開かれた学校づくり
- 第14回学校や子ども活動での子どもの安全
- 第15回子どもの生活安全、交通安全、災害安全

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポート・・・30%、課題レポート・・・70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

子どもや教育に関する情報収集を行い、統計や社会動向、社会の反応などを踏まえて、予習に関しては授業時の小レポートに、復習に関しては課題レポートに記載すること。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

## 履修上の注意 /Remarks

教職や社会教育主事資格の関連科目とあわせて受講すると、本講義の理解がより深いものになります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実践的な取り組みを視聴覚教材を活用しながら紹介します。

## キーワード /Keywords

公教育制度、地域、連携、協働、学校安全

# 教育課程論 【夜】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

### 概要

教育課程に関わる概念や学校における教育課程編成・方法、学習指導要領に関する基礎的な知識を習得し、今日の教育課程の課題について学ぶ。

### 到達目標

教育課程に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

- ①教育課程に関わる基礎的な知識を習得する。
- ②教育課程の課題について整理し、対応策などを考えることができるようになる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 3」に分類される科目である。

## 教科書 /Textbooks

なし。

プリント（講義レジュメ及び資料）を配布。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義中に配布するプリントに提示するもの他、必要に応じ適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 教育課程の基本原則 (1) カリキュラムとは
- 第 2回 教育課程の基本原則 (2) カリキュラムの類型
- 第 3回 教育課程の変遷と学習指導要領
- 第 4回 学力と教育課程 (1) 教育課程設計の前提となる「力」
- 第 5回 学力と教育課程 (2) 学習状況調査の影響
- 第 6回 諸外国の教育課程
- 第 7回 教育課程の編成 (1) 教科教育
- 第 8回 教育課程の編成 (2) 教科外教育
- 第 9回 学習環境のデザイン
- 第10回 教育課程の評価
- 第11回 教育課程の開発
- 第12回 カリキュラム・マネジメントと学校改善
- 第13回 今日の課題と教育課程 (1) 異文化理解
- 第14回 今日の課題と教育課程 (2) ESD
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題 (試験) 70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。

配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。

発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 道徳教育指導論【夜】

担当者名 船原 将太 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

本授業では、道徳・道徳教育とは何かを問う作業から始め、現在の学校教育における道徳教育の目的と内容について学ぶ。そのために講義の前半では、私たちが日ごろ行っている些細な「正しさについての判断」を検討し、この判断の妥当性が形成される歴史的過程を追っていくこととなる。また、いくつかの現代的課題について取り上げ、道徳教育に必要な思考力を鍛える。さらに、「道徳の授業」に関する著名な教材の分析を行うとともに、実際に指導する場面を想定し、学習指導案の作成などを行っていく。このことより、道徳教育の実践的な指導力の育成をはかるものとする。

本科目の到達目標は、道徳教育指導に必要な基本的な知見を身につけているものとする。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しない。各回、必要な資料を配布し、これをもとに講義を実施する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義の際に、適宜提示するものとする。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、道徳とは何か
- 第2回：社会における「正しさの基準」について
- 第3回：道徳教育の変遷①ー戦前
- 第4回：道徳教育の変遷②ー戦後
- 第5回：「道徳」の特別教科化をめぐる諸問題
- 第6回：道徳教育の目標と各教科・特別活動等における指導内容
- 第7回：道徳教育の現代的課題①(グループ討論)
- 第8回：道徳教育の現代的課題②(グループ討論)
- 第9回：道徳教育の現代的課題③(グループ討論)
- 第10回：道徳教育の現代的課題④(グループ討論)
- 第11回：道徳科の学習指導案の作成方法
- 第12回：道徳教育の教材研究①
- 第13回：道徳教育の教材研究②
- 第14回：指導案作成
- 第15回：道徳教育の今日的な意義について

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学習指導案：50%  
コメントシート：20%  
小テスト：30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜、指示する。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別活動・キャリア教育論【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

### 授業の概要

本講義の主な内容は以下のとおりである。

1. 文科省の中学校及び高等学校の学習指導要領・特別活動の目標と内容について
2. 学級活動や学校行事、生徒会活動を通じた「人間関係形成」「社会参加」「自己実現」の課題と方法
3. 特別活動の取り組みを進めていくための教職員の共同や家庭・地域との連携の課題と方法
4. 学校における進路指導、キャリア教育の位置づけと学校教育全体を通じたキャリア教育の課題
5. 職場体験学習などの体験活動を通じたキャリア教育の意義と進め方
6. キャリアカウンセリングの基本的な課題と方法について

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

到達目標 文科省の学習指導要領「特別活動」の課題と方法についての基本的な知識を修得している。

## 教科書 /Textbooks

文科省 中学校学習指導要領解説「特別活動編」 東山書房

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

折出健二編 「特別活動」(教師教育テキストシリーズ) 学文社

○文部科学省 中学校キャリア教育の手引き

○見美川孝一郎 権利としてのキャリア教育 明石書店

○キャリア発達論 - 青年期のキャリア形成と進路指導の展開 ナカニシヤ出版

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

### 授業計画

- 1回 特別活動の目標と内容
- 2回 教育課程の中での特別活動の位置づけと各教科との関連
- 3回 学級活動の目標と内容
- 4回 学級活動の実際 その1 中学校の取り組み
- 5回 学級活動の実際 その2 高等学校の取り組み
- 6回 学級活動における対立解決プログラムの取り組み
- 7回 学校行事の目標と内容
- 8回 学校行事の実際
- 9回 生徒会活動の目標と内容
- 10回 生徒会活動の実際
- 11回 キャリア教育の課題について
- 12回 今日の若者の就労問題とキャリア教育の課題
- 13回 北九州キャリア教育研究会 夢授業の取り組み(講師 北九州キャリア教育研究会 木原大助さん)
- 14回 キャリアカウンセリングの課題と方法(ポートフォリオの活用を含む)
- 15回 中学校におけるキャリア教育の取り組み

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 30点

キャリア教育に関する学習指導案 20点

期末試験 50点

本授業は原則としてすべての授業回に出席して、課題を提出してもらうことが原則です。介護等体験などで欠席した場合には、その回のレジュメを読んで課題を提出してください。その感想文の提出をもって出席扱いとします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

この授業では多くのグループワークと意見発表の機会を設け、教師としての実践的な指導力の育成を目指します。  
大変かと思いますが、よろしくお願いします。

## 特別活動・キャリア教育論【夜】

### 履修上の注意 /Remarks

遅刻に対しては厳しく対応するので、十分に注意すること

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

### キーワード /Keywords

特別活動の目標、学級活動、生徒会活動、学校行事、キャリア教育



# 教育の方法と技術・総合的な学習の時間の指導法【夜】

教育の基礎的理解に関する科目等  
必修科目

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

近年、課題解決型授業やアクティブラーニングといった確かな学力を求めるための、教育のあり方が議論されている。この授業では、授業の構成要素である「教材・教師・生徒」の視点からそれぞれのあり方を捉えながら、授業理論やICT教育の求められる背景を講義する。また学校ごとに特色ある「総合的な学習の時間」について、その内容の取り扱いや目標のあり方を理解し、各教科との関連を踏まえて捉えるようにする。そのために、講義形式以外にもグループ活動やペアワークなど実際に作業することで教育方法の理論の一部を体験しながら、教材開発や教材研究を行っていく。

### 到達目標

【知識】 これからの子ども達に求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法、技術、情報機器及び教材の活用に関する基本的知識を身につけている

## 教科書 /Textbooks

新しい時代の教育方法 改訂版 (2019 有斐閣アルマ)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

中学校学習指導要領 (平成29年3月告示 文部科学省)  
高等学校学習指導要領 (平成30年告示 文部科学省)  
他にも授業内で随時紹介する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
  - 第2回：西洋における教育思想と教育方法の歴史
  - 第3回：日本における教育改革と教育方法の歴史
  - 第4回：現代教育方法学の論点と課題
  - 第5回：子どもは何を学ぶのか・学習とは何か
  - 第6回：「学力」について考える・学力とは何か
  - 第7回：授業のデザイン・教師・生徒・教材
  - 第8回：教育の道具・素材・環境を考える
  - 第9回：何をどう評価するのか・評価と評定・基準と規準
  - 第10回：教科外活動を構想する
  - 第11回：授業研究・授業をいかに捉えるか
  - 第12回：総合的な学習の意義と課題
  - 第13回：総合的な学習の指導計画と取り扱い
  - 第14回：教師の専門性・専門職性
  - 第15回：まとめ
- 定期試験

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 (グループワークや質疑などへの参加) (30%)  
発表・レジュメ作成 (20%)  
定期試験・課題レポート (50%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

人数によって課題の方法は変化するが、テキストについてまとめた資料 (レジュメ) を作成してもらう。  
また担当でない者も、内容について疑問点や感想などを報告してもらいたいので、事前にテキストを読んでおくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

講義の3分の2以上の出席が試験受験の前提となる。  
欠席の際は、連絡を入れるようにしましょう。



# 教育の方法と技術・総合的な学習の時間の指導法【夜】

教育の基礎的理解に関する科目等  
必修科目

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

総合的な学習の時間は、各学校や地域ごとに特色ある活動を行っています。どのような実態があるかを考えるためには、他者との交流や対話的な学びが不可欠です。

能動的・積極的な姿勢を身に着けていきましょう。

## キーワード /Keywords

# 生徒指導論【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

### 授業の概要

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義、生徒指導の3機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、問題解決的生徒指導の区別と関連などを検討していくこと
- ② 教育課程と生徒指導、生徒指導に関する法制度、生徒指導における家庭・地域・関係諸機関との連携等に関する基本的な知識・理解を修得すること
- ③ 養育環境や発達障害、セクシュアルマイノリティ等の何らかの要因による困難を抱える子どもの自立を支援する生徒指導のあり方を学習すること。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

到達目標 生徒理解と生徒指導に対する基本的な知識を修得している。

## 教科書 /Textbooks

文部科学省編 「生徒指導提要」 教育図書  
楠凡之 「虐待・いじめ 悲しみから希望へ」 高文研

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

### テキスト

#### 参考書・参考資料等

桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書  
嶋崎政男 「法規+教育で考える 生徒指導ケース100」 ぎょうせい

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

### 授業計画

- 1回 生徒指導の意義と目的 - 子どもたちの自己存在感を育むために
- 2回 生徒指導における個別指導と集団指導、積極的生徒指導と生活指導
- 3回 教育相談と生徒指導、不登校問題と生徒指導
- 4回 教育課程と生徒指導 その1 - 教科教育と生徒指導
- 5回 教育課程と生徒指導 その2 - 総合的な学習の時間、道徳教育と生徒指導
- 6回 教育課程と生徒指導 その3 - 学級づくりを通じた生徒指導
- 7回 生徒指導に関する法制度等(第7章他)
- 8回 生徒指導における規範意識の醸成をめぐる諸問題(ゼロトレランスの問題も含めて)
- 9回 生徒指導における体罰問題を考える - 家父長制的学校観を乗り越えるために
- 10回 性の多様性、セクシュアルマイノリティへの理解と性教育の課題
- 11回 生徒指導における関係諸機関の連携 - スクールカウンセラーとの連携
- 12回 生徒指導における関係諸機関の連携 - スクールソーシャルワーカーその他との連携
- 13回 青少年の自殺予防の取り組み
- 14回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その1 学校での支援
- 15回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その2 関係諸機関との連携

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート20点、試験80点

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」のテキストはしっかり読み込んで内容を修得しておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

全学の教職課程履修学生の必修科目ではありますが、人間関係学科の学生で、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの仕事に関心がある学生にも対応した内容になっているので、積極的に履修してください。

# 生徒指導論 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活指導、生徒指導の3機能、積極的生徒指導と消極的生徒指導、児童虐待問題

# 教育相談【夜】

担当者名 /Instructor 山下 智也 / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

本授業では、学校での教育相談の意義、生徒の問題行動の理解、教育相談の理論と技法（積極的傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など）を習得する。

また、不登校やいじめ、発達障害、非行、自傷・自殺、虐待等、様々な問題を表出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて検討するとともに、教育相談の組織的な体制づくりや関係諸機関との連携の課題を考察する。

<到達目標>

【知識】教育相談の意義を理解し、関連する専門的な知識を身につけている。

【思考・判断・表現力】教育相談に関する知識を元に、適切な支援の道筋を見出すことができる。

この科目は、履修ガイドの「教育の基礎的理解に関する科目等」カリキュラムマップの「II類-2」に分類される科目である。

## 教科書 /Textbooks

虐待 いじめ 悲しみから希望へ 楠凡之（著） 高文研  
その他、適宜レジュメを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

生徒指導提要 文部科学省  
Next教科書シリーズ 教育相談 津川律子、山口義枝、北村世都（著） 弘文堂  
子どものこころの支援 連携・協働ワークブック 前川あさみ（編著） 金子書房

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：本講義のオリエンテーション、教育相談の歴史
  - 第2回：学校における教育相談の現代的意義と課題
  - 第3回：教育相談とカウンセリング（カウンセリングマインドの理解も含む）
  - 第4回：子どもの問題行動の意味（子ども理解も含む）
  - 第5回：教育相談の実際①（発達障害、不登校、いじめ等）
  - 第6回：教育相談の実際②（非行、自傷・自殺、虐待等）
  - 第7回：教育相談の基本的な理論の修得（来談者中心療法等）
  - 第8回：教育相談の基本的なスキル①（受容、傾聴、共感的理解、開かれた質問等）
  - 第9回：教育相談の基本的なスキル②（感情の明確化、共感的応答、直面化等）
  - 第10回：教育相談に役立つ心理的支援①（アサーション、ブリーフセラピー等）
  - 第11回：教育相談に役立つ心理的支援②（行動療法、認知行動療法等）
  - 第12回：教育相談に役立つ心理的支援③（ストレスコーピング、ストレスマネジメント等）
  - 第13回：教育相談のための連携と協働①（保護者との相談、学内での体制づくり等）
  - 第14回：教育相談のための連携と協働②（関係諸機関との連携）
  - 第15回：本講義全体のまとめ
- 定期試験

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・ミニレポート 40%  
最終試験 60%  
(出席について、原則として3分の2以上の出席を最終試験受験資格とする。)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回次回の予告を行い、関連キーワードを調べておくなど、次回までの課題を提示する（必要な学習時間の目安は60分）。  
事後学習：授業の冒頭で、前回の授業内容について振り返りをしたり、グループで発表し合ったりするため、授業で学習した学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努める。（必要な学習時間の目安は90分）

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義だけでなく、個人ワークやペアワーク、グループワーク、ロールプレイ等を行います。  
授業への主体的な参加を期待します。

# 教育相談【夜】

## キーワード /Keywords

教育相談、いじめ、不登校、虐待

# 教育実習 1 【夜】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科  
/Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」(実習校実習)に向けての事前指導として、実習校実習に求められる指導能力の獲得に取り組む。その課題は以下の通りである。

1. 教育実習生としての基本的な心構え、社会的責任の自覚
2. 学習指導に求められる基本的な理論・知識・技術など
3. 生徒指導・学級経営に求められる基本的な理論・知識・技術など

### 到達目標

- ・教育実習(実習校実習)に臨み、学習指導や生徒指導などの基本的な知識を身につけている。
- ・教育実習(実習校実習)に臨み、学習指導や生徒指導などの基本的な技能を身につけている。

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「III類-3」に分類される科目である。

## 教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』(756円)

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

高野和子・岩田康之共編 「教育実習」 学文社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション  
教育実習及び教員採用に向けての力量形成の課題
- 2回 教育実習生の1日
- 3回 教育実習の体験から学ぶ(中学)
- 4回 教育実習の体験から学ぶ(高校)
- 5回 子どもの問題行動と生徒指導(外部講師の講演)
- 6回 特別活動の模擬授業について(4年生の実演)
- 7回 教科教育の模擬授業について(4年生の実演)
- 8回 特別活動の模擬授業 その1
- 9回 特別活動の模擬授業 その2
- 10回 教科の模擬授業 その1
- 11回 教科の模擬授業 その2
- 12回 学級づくりと学級経営案
- 13回 教育相談のロールプレイ
- 14回 学級経営・学級づくりの実際(外部講師の講演)
- 15回 全体のまとめと教育実習に向けての課題

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(60%) 学習指導案(特活、教科)などの提出物の評価(40%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業での学習内容については必ず教育実習ノートに清書をおこなうこと。  
(授業中に実習ノートに記入することは決してしないこと)

模擬授業の前には必ず指導案を作成し、十分な準備をしてから模擬授業に臨むこと

## 履修上の注意 /Remarks

この授業は全出席が原則。万一、やむを得ない事情で欠席した場合にはすみやかに教職資料室で補講を受け、学習内容を実習ノートに記載すること。  
一回でも欠席し、補講を受けてその内容の学習を行っていない場合には、授業の単位が出ないこともあるので十分に留意すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は実習校実習の約半年前に行われる授業であり、これまでの教職課程の授業科目や学校現場体験、指導体験を基盤にして、実習校実習に必要な不可欠な実践的指導力の修得をめざす科目です。  
皆さんには半年後に迫っている実習校実習に向けて、真摯な態度で授業に臨むことを期待します。

# 教育実習 1 【夜】

## キーワード /Keywords

模擬授業、実践的指導力

# 特別支援教育論【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

本授業での概要は以下の通りである。  
 ①特別な支援を必要とする子どもの障害特性や心身の発達を理解するとともに、特別な支援を必要とする子どもの教育課程と支援方法について、その背後にあるインクルーシブ教育の理念も踏まえて検討する。  
 ②貧困や虐待的な養育環境に置かれている子どもや外国にルーツを持つ子ども、セクシュアルマイノリティの子どもなど、多様な「特別なニーズ」を持つ子どもの抱える問題への理解と支援の課題を考察する。  
 ③ 学校での福祉教育や職場体験などで求められる社会福祉施設入所者に対する理解と援助の在り方について、とりわけ認知症の高齢者の問題やその支援の課題について学習する。

到達目標 特別なニーズを持つ子ども、特別支援教育に関する基礎的な知見を修得している。

## 教科書 /Textbooks

楠 凡之 2012 「自閉症スペクトラム障害の子どもへの援助と学級づくり」 高文研

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

文科省特別支援学校学習指導要領

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

### 授業計画

1. オリエンテーション + 昨年度のテキスト感想レポートの紹介
2. 特別支援教育の教育制度と教育課程
3. 発達障害・軽度知的障害の子どもに対する理解と援助
4. 自閉スペクトラム症の当事者研究
5. 外国にルーツを持つ子どもへの理解と支援 その1 日本語学習支援の取り組み
6. 外国にルーツを持つ子どもへの理解と支援 その2 学力問題とアイデンティティ問題に視点をあてて
7. セクシュアルマイノリティの子ども・青年の抱える生きづらさについて
8. 性の多様性が尊重される学級づくりの課題
9. 肢体不自由・重度心身障害児・者についての理解と支援 (外部講師)
10. 知的障害の特別支援学校での教育実践と支援の留意点(外部講師)
11. 学校における福祉教育の課題 - 高齢者・認知症の問題に視点をあてて(外部講師)
12. 被虐待児に対する理解と指導 - 不安定な愛着の問題に視点をあてて
13. インクルーシブ教育と集団づくり その1 小学校
14. インクルーシブ教育と集団づくり その2 中学校
15. インクルーシブ教育と集団づくり その3 高等学校  
全体のまとめ

注 この中の第9回目から第11回目までの授業は「介護等体験事前指導」の授業を兼ねます。  
 なお、この4回の事前指導とは別に「介護等体験事前説明会」を7月の中旬に実施します。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート 25点、平常点 25点(+ ボーナス点)、期末試験 50点

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストは早めに読んでレポートにまとめて提出すること。  
 介護等体験に行く学生は、9回目から11回目の内容を介護等体験ノートにまとめること。

## 履修上の注意 /Remarks

特別支援教育論は2019年度入学の学生から、教職課程の学生の必修科目になっています。  
 ただし、9回目から11回目の授業については、2018年度以前入学生の「介護等体験事前指導」との合同の授業となる点、ご了解いただきたい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業は全学の教職課程の学生の必修授業であると同時に、人間関係学科の専門教育科目、地域創生学群のスクールソーシャルワーカー課程の専門科目を兼ねています。  
 そのような多様な興味・関心や背景を持つ学生同士の中での学び合いを期待しています。



# 特別支援教育論【夜】

## キーワード /Keywords

特別支援教育、特別なニーズ、自閉スペクトラム症、セクシュアルマイノリティ、外国にルーツを持つ子ども

# 発達心理学【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である ( Butterworth, 1994 )。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。

また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

( 到達目標 )

【知識】発達心理学に関する基礎的な知識を身につけている。

## 教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著 『発達心理学 周りの世界とかわりながら人はいかに育つか ( いちばんはじめに読む心理学の本 3 )』 ミネルヴァ書房 ¥2750

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

文部科学省 ( 2011 ) 「生徒指導提要」

その他、授業中に適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とはどのような学問か
- 第2回 胎児期・乳児期の赤ちゃんの発達【知覚】
- 第3回 乳児期の赤ちゃんの認知と言語の発達【認知、言語】
- 第4回 赤ちゃんのもつ能力と生後1年間の変化について
- 第5回 乳児期の人との関係のはじまりについて【発達早期のコミュニケーション】
- 第6回 愛着の形成【愛着、内的作業モデル】
- 第7回 愛着の形成【成人の愛着、愛着の世代間伝達】
- 第8回 まとめ と レポート課題1
- 第9回 乳幼児期のコミュニケーション発達【共同注意】
- 第10回 他者とのコミュニケーション、心を推測する力【表象、心の理論】
- 第11回 児童期における思考の深まり【論理的思考、メタ認知】
- 第12回 自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
- 第13回 成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
- 第14回 児童生徒の心理と理解【発達障害の基本的理解】
- 第15回 まとめ と レポート課題2

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 20% レポート課題 ... 80%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業範囲を予告するので、教科書等の該当部分を予習してくる。また、授業終了後には教科書や配布プリントを用いて各自復習すること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 人権教育論【夜】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / カワシマシズヨ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2単位 学期 /Semester 1学期 1学期 授業形態 /Class Format 講義 講義 クラス /Class 2年 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

受講生が自らの人権感覚を養い、人権の主体として、人権を守り行動することを通じて、一人ひとりの尊厳と多様性が認められる差別のない社会づくりを目指す。自己や他者の人権を尊重する児童・生徒を育成するための人権教育実践ができるよう、指導方法について学ぶ。「到達目標」は豊かな知識を得ることである。

①文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」を指針として、学校における人権教育の指導方法について学ぶ。②普遍的な人権課題や、「体罰」「いじめ」など、教室の中の人権課題や個別の人権課題について学ぶ。

## 教科書 /Textbooks

特になし、資料を配布する

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

『わたしたちの人権と責任』福岡県人権啓発情報センター  
人権教育教材集『新版いのち』北九州市教育委員会  
『人権教育ハンドブック』北九州市教育委員会  
『教職員のためのLGBT(Q)支援ハンドブック』北九州市教育委員会

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 なぜ、教師にとって人権教育は必要か - 人権とは何か、命の尊重、個性の尊重 【世界人権宣言】
- 2回 学校や社会で何が起きているか - 体罰、いじめ、児童虐待、SNS・インターネットによる人権侵害
- 3回 学校における人権教育の目的と方法 - 文部科学省の「人権教育の指導法の在り方」
- 4回 人権教育の枠組み - 教科を通じた人権教育、学級運営、生徒指導、(実践例など)
- 5回 部落差別と人権 【部落差別解消推進法】
- 6回 子どもの人権 【子どもの権利条約】【児童虐待防止法】
- 7回 障がい児・者の人権 【障害者権利条約】【障害者差別解消法】【障害者虐待防止法】
- 8回 「性の多様性」と人権 【SOGI】【性自認】【性的指向】
- 9回 外国人の人権 【ヘイトスピーチ解消法】
- 10回 男性と女性の人権 【デートDV】【セクシュアル・ハラスメント】【ストーカー規制法】
- 11回 性と人権 「性的いじめ」「子どもの性被害と性加害」
- 12回 ホームレスの人々の人権 【ホームレス自立支援法】【社会的排除・社会的包摂】
- 13回 高齢者の人権 【高齢者虐待防止法】
- 14回 コロナ禍中での人権 「エッセンシャルワーカー」「トリアージ」
- 15回 振り返り

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題、テストなど総合的に評価する。評価の割合は「テスト」(40%)、課題(60%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Teamsでの授業の場合は、moodleに示された資料、特にワークシート等は印刷しておいてください。

オンデマンドの授業では、事後学習として課題提出があります。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新型コロナウイルス感染拡大の状況によって、対面ではなく、オンデマンド、Teamsなど授業形態が変わります。Moodleでお知らせします。

## キーワード /Keywords

人権教育、子どもの人権 人権課題

# 英語科教育法I【夜】

担当者名 /Instructor 森 千鶴 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

〈概要〉

この授業は中学校・高等学校の英語科教員になるための基礎的な知識と技能を身につける。特に、中学校の英語教育に中心をおき、学習指導案の書き方および基本的な指導技術を学ぶ。

< 授業の到達目標 >

- ・ 英語科教育実践の目標、学力、内容、評価に関する基本的な知識を有している。
- ・ 新学習指導要領の特徴や課題を理解している。
- ・ 英語科教育実践の諸問題とその解決の課題についての意見を述べることができる。
- ・ 英語科教育実践の諸問題を意欲的に考察し、改善を図ろうとする態度を養う。

## 教科書 /Textbooks

『中等英語教育』 深澤清治 編著 協同出版

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜プリントを配布する。

なお、以下の教科書は教職資料室に保管しています。

新里真男ほか著、SUNSHINE ENGLISH COURSE 1～3 開隆堂 2012年 310円

松本茂ほか著、ONE WORLD English Course 1～3 教育出版 2012年 310円

高橋貞雄ほか著、"NEW CROWN ENGLISH SERIES New Edition 1～3"三省堂 2012年 310円

笠島準一、関典明ほか著、NEW HORIZON English Course 1～3 東京書籍 2012年 310円

矢田裕士、吉田研作ほか著、TOTAL ENGLISH 1～3 教育出版 2012年 310円

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション
2. 英語教育の目的
3. 英語の指導法(1) コミュニカティブ・アプローチ以前
4. 英語の指導法(2) コミュニカティブ・アプローチとその後
5. より良い指導のために(1) 音声指導
6. より良い指導のために(2) コミュニケーションにつながる文法指導の基本
7. より良い指導のために(3) コミュニケーションにつながる文法指導(コミュニケーション活動)
8. 評価の方法と学習指導案の書き方
9. 学習指導案の書き方(1)
10. 学習指導案の書き方(2)
  11. 模擬授業の準備
  12. 模擬授業(中学校1年生)
  13. 模擬授業(中学校2年生)
  14. 模擬授業(中学校3年生)
15. まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 70%、提出物10%、模擬授業20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習 教科書の指定ページを読んでくる。

事後学習 課題に取り組む。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# 英語科教育法I【夜】

キーワード /Keywords

# 英語科教育法Ⅱ【夜】

担当者名 森 千鶴 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

〈概要〉  
この授業は中学校・高等学校の英語教員になるための、基礎的な知識と技能を身につけることを目的とする。特に高等学校の英語教育を中心に、学習指導案の書き方と基礎的な指導技術を学ぶ。

### < 授業の到達目標 >

- ・ 英語科教育実践の目標、学力、内容、評価に関する基本的な知識を踏まえて、授業を行う際に留意すべき事柄に関する知識を有している。
- ・ 英語科教育実践の諸問題とその解決の課題について、多角的な観点から意見を述べることができる。
- ・ 学習材を基に学習指導案を作成し、意欲的に授業を設計することができる。
- ・ 第二言語習得理論とその活用について理解し、授業指に生かすことができる。

## 教科書 /Textbooks

『中等英語教育』 深澤清治 編著 協同出版

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

適宜プリントを配布する。なお、以下の教科書は教職資料室に保管しています。  
 松本世志子ほか著、ENGLISH NOW Revised Edition I・II 開隆堂 2012年、630円  
 NEW WORLD ENGLISH COURSE I・II 三友社  
 南村俊夫著、Vivid Reading MEW EDITION第一学習社、2007年、765円  
 Onstage English Course I・II 池田書店  
 EXCEED English Series New Edition I・II 三省堂  
 田辺正美ほか著、PROMINENCE English I・II 東京書籍、2012年、630円  
 山本良一ほか著、"MAINSTREAM ENGLISH COURSE Second Edition I・II" 増進堂 2012年 570円  
 Minton, T.D. ほか著 Revised POLESTAR English Course I・II 数研出版 2012年 570円 "Revised Edition SUNSHINE English Course I・II" 開隆堂  
 田中茂範、武田修一ほか著、"PRO-VISION New Edition ENGLISH COURSE I・II" 桐原書店 2013年、650円 卯城祐司ほか著、ELEMENT English Course I・II 啓林館 2013年、650円  
 Voyager English Course NEW EDITION I・II 第一学習社  
 市川泰男、高橋和久ほか著、"NEW EDITION UNICORN 2012年、630円 ENGLISH COURSE I・II" 文英堂  
 Genius English Course Revised I・II 大修館書店 霜崎寛ほか著、CROWN English Series New Edition I・II 三省堂 2012年、630円

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. コミュニケーション能力および評価について
2. 第二言語習得と英語教育
3. 4技能統合の理念とタスクの意義 (PCPPモデル)
4. リーディングの理論と実践
5. ライティングの理論と実践
6. 4技能統合の実践方法
7. 「コミュニケーション英語I,II」指導案の考え方
8. 「コミュニケーション英語I,II」指導案の書き方
9. 「コミュニケーション英語I,II」指導案の書き方
10. モデル授業準備
11. モデル授業準備
12. モデル授業 (1)
13. モデル授業 (2)
14. モデル授業 (3)
15. まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

試験70%、提出物10%、模擬授業20% 「

# 英語科教育法II 【夜】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習 教科書の指定箇所を読んでくる。  
事後学習 学習課題に取り組む。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 自然史へのいざない【夜】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 河野 智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科 (19~)  
柳川 勝紀 / Katsunori YANAGAWA / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BI0001F	◎		○		○
科目名	自然史へのいざない				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

北九州市は化石の一大産地であり、多様で豊かな自然に囲まれた都市であるとともに、古くより交通の要衝として栄えてきた。本科目は北九州市立自然史・歴史博物館（愛称：いのちのたび博物館）を舞台とした、学芸員および北方・ひびきの両キャンパスの教員によるオムニバス講義である。多様な生命をはぐくんできた地球の歴史、そして人間の歴史に関する基礎的な知識を身に付けながら、学芸員や教員のそれぞれの分野の最先端のトピックについて学習し、北方・ひびきの両キャンパスの交流を通して、より多角的な視点から自然と歴史について学ぶ。

### 到達目標

- 【知識】自然史を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】自然史についての考え方をを用いて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】自然史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。関連のテーマに関して積極的に情報を仕入れ、自ら学び続けることができる。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

講義のテーマは下記の通り。( )内は担当者。【 】はキーワード

- 1回 ガイダンス(日高)
- 2回 植物を鍵とした生物間相互作用(真鍋)【共生】【食物連鎖】
- 3回 生命の起源を探る(柳川)【極限環境】【微生物】
- 4回 北九州市周辺の地質と化石の多様性について(太田)【化石】【ジオパーク】
- 5回 博物館を楽しむ：いのちのたびで知る脊椎動物進化(大橋)【恐竜】【脊椎動物】
- 6回 鳥類の生態と進化(中原)【適応放散】【進化的軍拡競争】
- 7回 海産無脊椎動物の行動生態学(竹下)【無脊椎動物】
- 8回 多様性生物学と進化(蓑島)【進化】【生物多様性】
- 9回 石の歌がきこえる(森)【岩石】【考古】【文理融合】
- 10回 魚類分類学と多様性(日比野)【ホロタイプ】【分類学の歴史】
- 11回 博物館見学(日高)
- 12回 フィールドの地学と歴史を楽しむ(野井)【地学と歴史のかかわり】
- 13回 人新世におけるヒトと植物の関係(河野)【人新世】【科学史】
- 14回 課題研究(日高)
- 15回 まとめ(日高)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業中ごとのMoodle課題(確認テスト、ミニレポート等)100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：授業開始前にキーワードについて自分で調べておくこと。
  - 事後学習：授業中に与えられた課題に沿って学習し、Moodle(e-learningシステム)で提出すること。
- <https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>



# 自然史へのいざない【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

- ・ 第7回～第9回は11月28日（日）博物館にて講義と見学の予定。  
（博物館までの交通費は自己負担とする）
- ・ 上記以外は遠隔授業（オンデマンド動画配信）の予定。
- ・ 第1回目Moodleで詳細について説明するので必ず閲覧すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

SDGsとの関連：

13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

# 生命と環境【夜】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BI0100F	◎		○		○
科目名	生命と環境		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。生命とはなにか。生物は何からできており、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では、(1)宇宙と生命がどのような物質からできているか、(2)生物の多様性と影響を与えてきた環境とはどのようなものか、(3)進化の原動力となった突然変異とは何かなどについて広く学ぶとともに、(4)生命や宇宙がこれまでにどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方や考え方についても学びます。

### 到達目標

- 【知識】多様な生命とそれを生み出した環境を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】多様な生命とそれを生み出した環境について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

なし。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2020年(羊土社)3080円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円
- 宇宙と生命の起源—ビッグバンから人類誕生まで 嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年(岩波ジュニア新書)990円

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ガイダンス(日高・中尾)	
2回	自然科学の基礎(1)ミクロとマクロ(日高・中尾)	【物質の単位】【自然科学】
3回	自然科学の基礎(2)宇宙で生まれた物質(中尾)	【元素】【原子】【超新星爆発】
4回	自然科学の基礎(3)生命と分子(日高)	【DNA】【タンパク質】
5回	生物の多様性(1)生物の分類と系統(日高)	【種】【学名】【系統樹】
6回	生物の多様性(2)ウイルスは生物か(日高)	【ウイルス】
7回	生物の多様性(3)単細胞生物と多細胞生物(日高)	【細胞膜】【共生説】
8回	生物の多様性(4)生態系と進化(日高)	【食物連鎖】【絶滅】【進化】
9回	生物の多様性(5)多様な生命(日高)	【生物多様性】
10回	遺伝子の多様性(1)遺伝子の名前(日高)	【突然変異】【遺伝学】
11回	遺伝子の多様性(2)多様性を生む生殖(日高)	【有性生殖】【減数分裂】
12回	科学的な方法とは(1)科学と疑似科学(日高・中尾)	【血液型】【星座】
13回	科学的な方法とは(2)太陽と地球の環境(中尾)	【太陽活動】【地球温暖化問題】
14回	科学的な方法とは(3)人類の起源(日高)	【ミトコンドリア】
15回	質疑応答とまとめ(日高)	

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中ごとのMoodle課題(確認テスト、ミニレポート等)100%

# 生命と環境【夜】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。  
事後学習：授業中の課題に沿って学習し、Moodle (e-learningシステム) で提出すること。  
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

## 履修上の注意 /Remarks

- ・ 高校で生物を履修していない者は教科書または参考書を入手し、授業に備えること。
- ・ 遠隔授業 ( オンデマンド動画配信 ) の予定。
- ・ 詳細については第1回目にMoodle上で説明するので必ず閲覧すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基盤教育センターの専任教員・日高 ( 生物担当 ) および中尾 ( 物理担当 ) による自然科学の入門講座です。この分野が苦手な者や初めて学ぶ者も歓迎します。参考書やインターネットを活用し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んで下さい。暗記中心の受験勉強とは違った楽しみが生まれるかもしれません。

## キーワード /Keywords

SDGsとの関連：  
13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

# 環境問題概論 【夜】

担当者名  
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV100F	◎		○		○
科目名	環境問題概論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

【少人数による対話型（教員と受講生の双方向）の授業】

農林水産業の第一次産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」について、基礎的な知識を充足することを目的とする。望ましい人間と自然、または自然を介した人と人との関係性について、環境問題に対する総合的な理解を促すことが狙いである。

また、農林水産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」についての知識を生かし、SDGs（持続可能な開発目標）に関するテーマとして、③食の問題、④捕鯨問題、⑥・⑩山の管理（治水・利水）、そして②経済優先の消費活動に関すること等をテーマに、持続可能な社会となるための考え方を模索する授業である。

（到達目標）

【知識】人間と自然の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】人間と自然の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】人間と自然の関係性における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

特になし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション -環境問題を見る視点について-
- 第2回 資源の在り方を問う
- 第3回 日本の捕鯨の行方
- 第4回 日本人の自然観
- 第5回 環境と経済の関係性
- 第6回 山を管理するとは？
- 第7回 環境問題の原因と焼畑農業
- 第8回 里山の開発① -なぜ里山の宅地開発問題が生じるのか？-
- 第9回 里山の開発② -映画監督 高畑勲氏からのメッセージ-
- 第10回 里山の開発③ -動物視点で見る真の共生の形-
- 第11回 「農業」と SATOYAMAイニシアティブ① -農業の多面的機能-
- 第12回 「農業」と SATOYAMAイニシアティブ② -「共生」社会の在り方-
- 第13回 復習
- 第14回 レポート試験の実施 (※レポート試験は日程が前後する可能性があります)
- 第15回 総括 -おわりに-

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発言の回数やその内容：50%

レポート試験：50%

# 環境問題概論 【夜】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本授業は、最終試験での成績評価をするウエイトが高くなっている。そのため、各自で毎回の授業後にレポート試験に向けた復習をすることが求められる。また、授業で使用するスライド資料は、学習支援フォルダに掲載しているため、事前の予習も試みてもらいたい。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境問題の中でも本授業は都市環境問題や地球温暖化等の問題ではなく、自然環境に特化した授業となる。  
特に専門的な知識は必要ないが、中学生レベルの生物および、安易な生態学（食物連鎖等）的な基礎的な知識に対する言及や説明を行うことを想定し、履修していただきたい。

## キーワード /Keywords

SDGs3.「健康と福祉」、SDGs 6.「安全な水とトイレ」、SDGs12.「作る責任使う責任」、SDGs14.「海の豊かさ」、SDGs15.「森の豊かさ」に強い関連がある、

# 安全保障論【夜】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS111F	◎		○		○
科目名	安全保障論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

安全保障について多角的に検討する授業です。中盤からは防衛問題が中心となります。安全保障・防衛に関心がある受講者はもちろんですが、もともとあまり関心がない、全く知らない、という受講者でも理解できるように丁寧な解説を心がけます。ぜひ、受講してください。

動画は、各回、編集カットをほどこし、BGMやテロップを付け、youYube仕様で配信します。なるべく楽しく学習できるような動画を作りたいと思っています。

### 到達目標

- 【知識】安全保障を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断】安全保障上の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】安全保障に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

なし。レジュメを用意します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし。適宜指示。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業は15回で、1回45～60分程度、動画視聴してもらいます。以下は、昨年度配信した動画タイトルですが、今年度は、多少、整理したり、新作も作りしたいと思います。(19タイトルありますが、19回授業があるわけではありません)

- 1 ガイダンス / 安全保障の考え方その1 (抑止について)
- 2 安全保障の考え方その2 (国際環境について)
- 3 安全保障とは何か / 専守防衛と日本
- 4 安全保障と外交
- 5 自衛隊の海外派遣
- 6 安全保障の非軍事的な側面
- 7 日米同盟と自衛隊
- 8 自衛隊の任務
- 9 防衛出動 / 存立危機事態と集団的自衛権
- 10 海上警備行動
- 11 企画動画
- 12 安全保障流の地図の読み方
- 13 スクランプル
- 14 弾道ミサイル防衛 (BMD)
- 15 イージス・アショアと代替

## 成績評価の方法 /Assessment Method

1～3回に一度、小テストを実施し、その合計点から成績評価を行います。  
小テスト(8回)100%、ただし、小テストの実施回数は若干前後する可能性があります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

掲示板を用意するので、質問や感想がある場合、書き込んでください。また、YouTube配信なので、コメント欄も活用できます。

頻繁に小テストがあるので、何回でも動画を視聴して、理解することが事後学習ですが、関連動画の視聴もお勧めします。

## 履修上の注意 /Remarks

通信環境を整えてください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく退屈しないように、面白い動画づくりを心がけます。

## キーワード /Keywords

# 現代の国際情勢【夜】

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科, 大平 剛 / 国際関係学科  
ローズマリー・リーダー / Rosemary Reader / 英米学科, 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科  
白石 麻保 / 中国学科, 久木 尚志 / 国際関係学科  
篠崎 香織 / 国際関係学科, 柳 学洙 / 国際関係学科  
政所 大輔 / Daisuke MADOKORO / 国際関係学科, 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
IRL003F	◎		○		○
科目名	現代の国際情勢				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

現代の国際情勢を、政治、経済、社会、文化などから多面的に読み解きます。近年、国際関係および地域研究の分野で注目されている出来事や言説を紹介しながら講義を進めます。

### 到達目標

- 【知識】現代の国際情勢を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】現代の国際情勢について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】現代の国際情勢に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

使用しません。必要に応じてレジュメと資料を配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
  - 第2回 北 日系アメリカ人の歴史と今日(1) 概況と歴史【アメリカ合衆国】【日系人】【エスニシティ】
  - 第3回 北 日系アメリカ人の歴史と今日(2) 現代のエスニシティ状況への視座【アメリカ合衆国】【日系人】【エスニシティ】
  - 第4回 阿部 米中の技術覇権争いと日本経済【貿易摩擦】【DX革命】【知的財産権】
  - 第5回 政所 国際連合の活動と日本【集団安全保障】【国連中心主義】【多国間外交】
  - 第6回 政所 国内紛争と国連平和活動【「新しい戦争」】【平和維持活動】【平和構築】
  - 第7回 久木 2010年代以降のイギリス(1)【政権交代】【国民投票】
  - 第8回 久木 2010年代以降のイギリス(2)【EU離脱】
  - 第9回 篠崎 東南アジアの多文化・多宗教社会【イスラム教】【上座仏教】【自律史観】
  - 第10回 篠崎 世界文化遺産ベナン島ジョージタウンを歩こう【マレーシア】【マラッカ海峡】【華僑華人】【イスラム教】【ヒンドゥー教】
  - 第11回 リーダー Humour in British Politics (イギリス政治におけるユーモア)【British politics (イギリス政治)】【Protest (抵抗)】【Humour (ユーモア)】
  - 第12回 白石 中国経済の課題と展望【経済成長】【SNA】【投資】
  - 第13回 柳 朝鮮半島の冷戦体制と南北分断【朝鮮戦争】【体制競争】【民族主義】
  - 第14回 柳 北朝鮮の核開発と北東アジアの安全保障【冷戦体制】【駐留米軍】【対話と圧力】
  - 第15回 下野 台湾の多元化社会【民主化】【中国】【移民】
- ※都合により変更もあり得ます。変更がある場合は授業で指示します。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(各担当者ごとに最低1回は行います。最少9回、最大14回)100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の担当者の指示に従ってください。授業終了後には復習を行ってください。



## 履修上の注意 /Remarks

この授業は、複数の教員が、各自の専門と関心から国際関係や地域の情勢を論じるオムニバス授業です。授業テーマと担当者については初回授業で紹介します。

小テストを実施する際は、授業の最後に行います。授業中は集中して聞き、質問があればその回のうちに出してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では今の国際情勢を様々な角度から取り上げていきます。授業を通じて自分の視野を広げていくきっかけにしてください。

## キーワード /Keywords

SDGsとの関連

第4回 阿部 9「産業・技術革命」

第5回、第6回 政所 16「平和と公正」

第9回、第10回 篠崎 11「まちづくり」

第12回 白石 17「グローバル・パートナーシップ」

第15回 下野 5「ジェンダー平等」、16「平和と公正」

# 近代史入門【夜】

担当者名 藤田 俊 / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS110F	◎		○		○
科目名	近代史入門		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

本授業では、第一次世界大戦から太平洋戦争終結までの日本近代史を講義します。授業を通して、学校教育や日常生活の中で学んできた「史実」の根拠となっている史料や諸研究に触れ、「史実」の実態をより深く理解すると共に、「史実」を相対化して歴史を多角的に捉える力の修得を目指します。その上で、近代日本の歴史が、現代の政治・外交・軍事・社会・文化・メディア等のあり方にいかなる影響を与えているのかを考え、各履修生が歴史を身近なものとして捉えられるようにします。

- ・ 本授業の到達目標  
「知識」  
→日本の近代史を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。  
「思考・判断・表現力」  
→日本の近代史について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。  
「自立的行動力」  
→日本の近代史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

テキストの指定はありません。教員作成のレジユメ・画像・映像等を使用して講義します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業の中で適宜紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 大学で学ぶ歴史
- 第2回 現代の起点としての第一次世界大戦
- 第3回 言論の「中立」化
- 第4回 国際協調体制と戦争の違法化
- 第5回 1920年代の日本と中国
- 第6回 近代日本と災害
- 第7回 政治の大衆化
- 第8回 軍縮をめぐる政治と世論
- 第9回 満洲事変と「熱狂」の創出
- 第10回 政党政治の崩壊と軍の政治的台頭
- 第11回 日中戦争の諸相
- 第12回 新体制運動
- 第13回 日米交渉・日米開戦
- 第14回 戦時体制下における情報・宣伝・報道
- 第15回 太平洋戦争の終結と聖断

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験70%、日常の授業への取り組み30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後は、レジユメ等の配布資料や各自が作成したノートを読み返し、授業中に紹介した参考文献にも目を通しておいて下さい。

# 近代史入門【夜】

基盤教育科目  
教養教育科目  
世界(地球)科目

## 履修上の注意 /Remarks

第1回授業において、授業の進め方や受講する上での注意事項について説明しますので、受講希望者は必ず出席して下さい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 現代社会と文化【夜】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ANT210F	◎		○		○
科目名	現代社会と文化				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

グローバルな現代世界において、異なる文化同士の共生が必要とされている。しかし、どの文化とも共生が可能になる万能のマニュアルのようなものは存在しない。ケースに応じて対応する能力が必要であり、本講義では、現代社会が抱える文化に関する問題を取り上げながら、判断のための基礎知識を身につけることを目的とする。講義の前半は、「文化を知る」という行為そのものが持つ政治的意味について講義を行う。後半は、私たちが異なる文化を持つ人々とも認識を共有していると考えがちな身体に関する文化についての講義を行う。外国の文化については解説を無批判にうのみにしてしまいがちであるが、文化を理解することについての前提が正しいか常に問い返すことができるような総合的な知識の獲得をめざす。

(到達目標)

【知識】現代社会と文化の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】現代社会と文化の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】現代社会と文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。ただし、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。また、講義に関する映画（有料動画の場合もあります）を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません（観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書を用いた課題などは指示します）。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 池田光穂・奥野克巳編 2007『医療人類学のレッスン』学陽書房
  - 太田好信編 2012『政治的アイデンティティの人類学』
  - 塩原良和 2010『変革する多文化主義へ』法政大学出版局
  - 陳天璽 2005『無国籍』新潮社
  - 本多俊和ほか 2011『グローバル化の人類学』放送大学教育振興会
- ※そのほか必要に応じて講義中に指示する

# 現代社会と文化【夜】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：授業の説明 / 本講義において文化とは何を意味するのか

第I部 現代社会において異文化を理解すること

第2回 文化を「知る」とはどういうことか？

第3回 ナショナリズムと文化

第4回 「未開の人々」へのエキゾチズム

第5回 植民地主義と文化

第6回 レポートについての注意と課題レポート①の説明

第7回 マイノリティ文化の保護と多文化主義

第8回 多文化主義の可能性と限界

第9回 国籍・人種などの分類の不明瞭さ

第10回 課題レポート①の解説と課題レポート②の説明

第II部 文化の違いを超えて？

第11回 近代・ポスト近代という時代の認識と文化

第12回 身体近代化

第13回 医療の持つ権力と文化

第14回 癒しの多様性

第15回 課題レポート②の解説と課題レポート③の説明

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート（3回）60%、毎回の授業課題 40%

毎回の授業課題については、提出時期や授業への貢献により得点が変わります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 毎回何らかの課題があります。計画的に取り組みましょう。
- ・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。
- ・ 講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。
- ・ 高校レベルの世界史、地理、現代社会などに自信がない学生は、背景となる事象を知らないままにせず、調べておきましょう。高校の教科書は図書館にあります。

## 履修上の注意 /Remarks

- ・ 遠隔授業の場合は、オンデマンド配信となりますが、毎回の課題は提出時期により得点が変わるので、計画的に受講すること。
- ・ 受講にあたっては、基本的なPC操作環境が整っていることが望ましいです。
- ・ 評価方法や電子ブックの閲覧方法などは第一回の講義で説明します。
- ・ 提出課題において剽窃などの不正が発覚した場合、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 講義で自分が学んだことを用いて、現代の文化に関する問題を自分なりに理解しようとするのが重要です。意欲的な学生の受講を歓迎します。
- ・ 「異文化理解の基礎」を受講済みの学生は理解が深まると思います。

## キーワード /Keywords

文化、ナショナリズム、マイノリティ、グローバリゼーション、多文化主義、身体、SDGs10 不平等をなくす、SDGs 16 平和と公正

# アカデミック・スキルズI【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1学期未修得者再履

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES101F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズI		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、大学生活に必要な「考える力」の基礎となるスキルを身に付けることである。様々な問題が発生する現代社会においては、こうすれば大丈夫という誰にも共通な正解が存在しない。しかし、その正解のない課題について考えていく姿勢が大切である。考えることは、学びを深めていく上で大切な能力のひとつであり、「考える力」の習得こそが、複雑で予想しがたい現代社会を生き抜いていくための基盤を作り上げる。本授業では、様々なテーマを題材にアクティブ・ラーニングの授業形態を取りながら、以下の2点に関する能力の習得を目指す。また、大学での学びや生活に必要な知識や情報リテラシーについての学習も行う。

- ・ 情報技術を活用して、自分の考えを表現することができる。
- ・ 正解のない課題の解決に向けて、諦めることなく考え抜くことができる。

(到達目標)

- 【技能】大学生活に必要な「考える力」の基礎となる技能を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、大学ポータルサイトの説明【ID、パスワード等】
- 2回 情報リテラシー1【大学ICT環境、e-Learningシステム等】
- 3回 情報リテラシー2【情報モラル、情報セキュリティ、著作権等】
- 4回 情報リテラシー3【文書作成】
- 5回 情報リテラシー4【表計算、グラフ】
- 6回 情報リテラシー5【情報リテラシーの振り返り】
- 7回 大学での学びや生活について【剽窃と引用、キャンパス・マナー】
- 8回 考える力1【受け取る力の説明】
- 9回 考える力2【受け取る力の演習】
- 10回 考える力3【処理する力の説明】
- 11回 考える力4【処理する力の演習】
- 12回 考える力5【発信する力の説明】
- 13回 考える力6【発信する力の演習】
- 14回 振り返り
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題への積極的な参加 ... 70%

宿題や振り返りレポート ... 30%

ただし、授業中に実施する情報リテラシー(情報モラル・情報セキュリティ、文書作成・表計算)の必須課題に合格しなければならない。

# アカデミック・スキルズI【夜】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当者の指示に従い、毎回、授業開始前までに必要な授業の準備を行い、授業終了後に学んだことを振り返り、まとめておくこと。また、大学生活で欠かせない情報リテラシー能力の習熟には日々の練習が欠かせないため、正規の授業時間外の時間に、パソコン自習室や自宅にて積極的に操作練習を行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。また、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もある。詳細は、授業中に説明する。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各回に適したワークや質疑応答等を繰り返しながら、授業を展開していく。このため、積極的に授業に参加して欲しい。

## キーワード /Keywords

考える力、情報リテラシー、アクティブ・ラーニング

# 情報社会への招待【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 講義 /Class クラス 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF100F		◎	○		
科目名	情報社会への招待		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、現在の情報社会を俯瞰的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎とし、変化し続ける情報技術と正しくつき合えるような適応力を身につけることを目指します。

(到達目標)

【技能】 情報社会を正しく理解するために必要な技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】 情報社会の課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

また、この授業で学ぶICT（情報通信技術）は、国連が定めたSDGs（持続可能な開発目標）のうち、「4．質の高い教育をみんなに」「8．働きがいも経済成長も」「9．産業と技術革新の基盤をつくろう」「10．人や国の不平等をなくそう」「17．パートナーシップで目標を達成しよう」に関連していると考えています。授業を通じて、これらの目標についても考えを深めてみてください。

## 教科書 /Textbooks

なし。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし。随時紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル、炎上、個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光、音、匂い、味、触覚、電気】
- 3回 コンピュータはどのようにして情報を取り扱うか【2進数、ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置、出力装置、解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU、メモリ、記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS、拡張子とアプリケーション、文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換、パケット交換、LAN、IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名、DNS、サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン、位置情報、GPS、GIS、プライバシー】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス、スパイウェア、不正アクセス、詐欺、なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信、ファイアウォール、クッキー、セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア、防犯カメラ、ライブログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン、Wikipedia、フリーミアム、クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権、コンテンツのデジタル化、クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】



# 情報社会への招待【夜】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「Moodle」に授業資料を提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます(必要な学習時間の目安は予習60分、復習60分)。  
その他、ICTに関するニュースを視聴するなど、日常的、能動的に情報社会に関する事柄に興味をもつことをお勧めします。

## 履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

## キーワード /Keywords

情報社会，ネットワーク，セキュリティ，SDGs 4．質の高い教育を，SDGs 8．働きがい・経済成長，SDGs 9．産業・技術革命，SDGs 10．不平等をなくす，SDGs 17．パートナーシップ

# ことばの科学 【夜】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIN110F	○	○	◎		
科目名	ことばの科学		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語はじめその他の言語のデータをもとに、「ことば」について考えていきます。

### [到達目標]

- DP1 知識：言語の様々な側面を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。  
 DP2 技能：ことばの規則性を正しく理解するために必要な技能を身につけている。  
 DP3 思考・判断・表現力：言語学に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている

## 教科書 /Textbooks

漆原 朗子（編著）『形態論』（朝倉日英対照言語学シリーズ第4巻）。朝倉書店、2016年。¥2700＋税。  
 配布資料・その他授業中に指示

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 大津 由紀雄（編著）『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』。ミネルヴァ書房、2009年。
- スティーヴン・ピンカー（著）椋田 直子（訳）『言語を生みだす本能（上）・（下）』。NHKブックス、1995年。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ことばの不思議
- 第2回 ことばの要素
- 第3回 ことばの習得
- 第4回 普遍文法と個別文法
- 第5回 ことばの単位(1)：音韻
- 第6回 連濁
- 第7回 鼻濁音
- 第8回 ことばの単位(2)：語
- 第9回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第10回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第11回 ことばの単位(3)：文
- 第12回 動詞の自他
- 第13回 日本語と英語の受動態
- 第14回 数量詞
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度・参加度...10% 課題・期末試験...90%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：授業時に指示した文献の講読
- 事後学習：授業で扱った内容に関する課題の提出

## 履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 現代人のこころ【夜】

担当者名 /Instructor 福田 恭介 / Kyosuke Fuikuda / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PSY003F			◎	○	○
科目名	現代人のこころ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

現代を生きているわれわれの「こころ」について考えていきます。「こころ」というと、通常は、笑ったり、悲しんだり、怒ったりといったことを引き起こしているものと思いがちです。「こころ」を科学的に調べるにはどうすればいいのでしょうか？医療現場のように血液を採集してその人の「身体の状態」はわかっても、その人の「こころ」がわかるわけではありません。

「こころ」はそれだけではありません。目の前のリンゴを見て指さすこと、これも「こころ」が引き起こしているものです。なぜなら、目の網膜に映ったリンゴを、目の網膜の中にあるのではなく、あそこのテーブルの上にあるものと判断しているからです。さらに、リンゴは真っ赤で、嘔むと口中に果汁が染みわたり、美味しそうだと思うこと、これも「こころ」の一部です。

「こころ」は目に見えるものではないので、「こころ」を知るために心理学では行動を観察することから始まります。観察するとは、行動だけでなく、質問にハイ・イイエで答える単純なものから、実験室でモニター画面を見て答えてもらったり、そのときの身体の反応を測ったりするものまでさまざまです。心理学の研究者は、さまざまな側面から「こころ」についてアプローチを行っています。

こういった基礎的な面を明らかにした上で、「こころ」の問題で苦しさや困難さを抱えている人たちを支えていこうとするのです。この授業では、さまざまな側面から「こころ」がどのように見えるのかについて考えていきます。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】現代人のこころを取り巻く諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

【自立的行動力】現代人のこころを取り巻く課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

教科書は指定しません。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 福田恭介 (2018) ペアレントトレーニング実践ガイドブック - きつとうまくいく。子どもの発達支援 あいり出版
- 行場次朗・箱田裕司 (2014) 新・知性と感性の心理 - 認知心理学最前線 - 福村出版
- 神奈川LD協会編 (2006) ふしぎだね!?LD(学習障害)のおともだち ミネルヴァ書房
- 三浦麻子・佐藤博 (2018) なるほど！心理学観察法 北大路書房
- 丸野俊一・子安増生 (1998) 子どもが「こころ」に気づくとき ミネルヴァ書房
- 奥村隆 息子と僕のアスペルガー物語 <https://gendai.ismedia.jp/list/serial/okumura>
- 諏訪利明・安倍陽子編 (2006) ふしぎだね!?自閉症のおともだち ミネルヴァ書房
- 諏訪利明・安倍陽子編 (2006) ふしぎだね!?アスペルガー症候群「高機能自閉症」のおともだち ミネルヴァ書房
- 高山恵子編 (2006) ふしぎだね!?ADHD(注意欠陥多動性障害)のおともだち ミネルヴァ書房
- やまだようこ (1987) ことばの前のことば 新曜社

# 現代人のこころ【夜】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1: 心理学とは：さまざまな「こころ」の側面
- 2: 知覚1：ものが見えるとは？
- 3: 知覚2：色はなぜ見える？
- 4: 知覚3：形はなぜ見える？
- 5: 知覚4：どうやって奥行きや動きを判断している？
- 6: 目の動きを観察して「こころ」を探る
- 7: まばたきを観察して「こころ」を探る
- 8: 注意1：どうして騒がしい中でも会話ができるのか？
- 9: 注意2：意外と見落としやすい注意の機能
- 10: 数秒間の記憶によってストーリーは作られる
- 11: 昔の記憶は忘れることはない
- 12: 発達1：「こころ」どのように芽生えてくる？
- 13: 発達2：「こころ」はどのようにして人とやりとりできる？
- 14: 発達3：発達に苦手さを抱えるのはなぜ？
- 15: まとめ：いろいろな「こころ」の側面

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中のコメント：40点  
レポート：30点  
期末試験：30点

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：Moodleにあげた資料を読んでください。  
事後：授業で取り上げた内容についてコメントを書いてください。

レポート：もっとも関心のある本やウェブサイトを読んで、所定の書式のレポートに5,000字程度で要約し、200字程度のコメントを書いてください。レポートを書くのは前期で1回限りです。所定の書式は最初の授業で紹介します。

## 履修上の注意 /Remarks

1. 授業を聞いて毎回コメントを書いてもらいます（事後学習）。
2. 次の時間、書かれたコメントの一部には回答したいと思います。
3. 配付資料やコメントへの回答には、関連する本やウェブサイトを紹介しますので、それに目を通すと理解が深まります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に積極的に参加できるようないろいろな仕掛けを用意したいと思います。

## キーワード /Keywords

知覚，目の動き，注意，短期記憶，長期記憶，ワーキングメモリ，心の発達，発達障害

# 企業と社会【夜】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS001F	○		◎		○
科目名	企業と社会		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

企業は、現代社会においてそれなしでは成り立たない存在です。諸個人は一生を通じて何らかの形で企業と関わっていかざるをえません。企業を経営するとは、企業の経営者だけの問題ではなく、企業に関わるすべての人間にとっての問題です。この授業の狙いは、社会の中で企業がどのような原理で存在し、これまで歴史的にどのような側面を有してきたのか、また逆にそのような企業が社会に対してどのような影響を与えているか、現代社会においてこれからの企業はどのように経営されていくべきかを考えることにあります。

(到達目標)

- 【知識】 企業と社会に関する諸問題を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】 企業と社会の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】 企業と社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論 第4版』有斐閣アルマ、2018年、2310円

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 三戸公『会社ってなんだ』文真堂、1991年(○)
- 三戸公『随伴的結果』文真堂、1994年(○)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス 【企業の社会における意味の変遷】【6つの企業観】
- 第2回企業と「豊かな社会」【現代における財・サービスの豊かさ】
- 第3回「株式会社」の仕組み① 【株式会社の歴史】【株式会社の機能と構造】
- 第4回「株式会社」の仕組み② 【株式会社の機能と構造】【上場と非上場】
- 第5回社会における「大企業」の意味① 【大企業とは何か】【所有と支配】
- 第6回社会における「大企業」の意味② 【商業社会と産業社会】【企業の性格の変化】
- 第7回社会における「大企業」の意味③ 【官僚制】【科学的管理の展開】
- 第8回社会における「大企業」の意味④ 【環境問題】【随伴的結果】
- 第9回社会における「大企業」の意味⑤ 【コーポレート・ガバナンス】【企業倫理】
- 第10回「家」としての日本企業① 人事における日本企業特有の現象【日本企業と従業員】【契約型と所属型】
- 第11回「家」としての日本企業② 日本企業特有の組織原理【階級制】【能力主義】【企業別組合】
- 第12回「家」としての日本企業③ 日本企業の行動様式【日米の株式会社の違い】【企業結合様式の独自性】
- 第13回「家」としての日本企業④ 「家」の概念 【日本企業の独自性】【家の論理】
- 第14回「家」としての日本企業⑤ 今後の日本的経営 【原理と構造】【家社会】
- 第15回総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・60% 小テスト・・・40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキスト該当箇所を読んでおいてください。授業後に該当箇所を再読し、復習しておいてください。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)  
また、適宜、任意のレポート課題を出します。  
また該当箇所の参考文献をよく読んでおいてください。

# 企業と社会【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

## キーワード /Keywords

財・サービス 株式会社 大企業 家の論理 社会的器官

SDGs8. 働きがい・経済成長、SDGs12. 作る・使う責任、SDGs15. 環境保全、等の問題と強く関連する。

# 社会哲学入門 【夜】

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR110F			◎		
科目名	社会哲学入門		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

社会哲学とは、平たく言えば、「社会って何なの？」に答える学問です。哲学の一つのヴァリエーションです。西洋の哲学は、2500年以上も前に始まったと言われます。そのあいだに、社会の形もさまざまに変化してきました。今日の社会は、大戦以前の社会とは違いますよね。社会の変化に応じて、哲学が提示する答え（理論）も変化してきました。それでは、これまでにどんな社会があり、哲学はそれをどのように説明してきたのでしょうか？この問いを考えていくのが本講義です。

今年度は、まずは、社会の構成要素である「人間」と「共同体」を、西洋哲学の歴史を辿りつつ考えます。これは基礎編ですね。次に、現代に目を移し、現代に特有の社会的な事象とそれに答える哲学的理論（ジェンダー論、フェミニズム論、優生思想、正義論など）を見ていき、私たちが直面する社会のあり方とそこに潜む問題を考察します。こっちは、応用編です。最後に、COVID(コビット)-19との関係の中で私たちの社会は今後どうあるべきか、どこへむかうのか、どうなったらいいのか、一緒に考えていきたいとも思います。

### 【到達目標】

《思考・判断・表現力》哲学的課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

\* この講義は、哲学や倫理学、社会学とも密接な関係にあるので、関連講義を合わせて履修すると理解が深まります。ちなみに、僕が担当する講義には、「倫理思想史」があります。

## 教科書 /Textbooks

特定の教科書はありません。テキストを使用する場合は、授業内で配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- プラトン『国家』(上下), 岩波文庫
- 重田園江『社会契約論 ホッブズ、ヒューム、ルソー、ロールズ』, ちくま新書
- S. サリー『ジュデイス・バトラー』, 青土社
- 米本昌平等『優生学と人間社会』, 講談社現代新書
- 植村邦彦『市民社会とは何か 基本概念の系譜』, 平凡社新書
- 神島裕子『正義とは何か』, 中公新書

などなど。

\* 授業中にもご紹介します。



# 社会哲学入門 【夜】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン：哲学って何？社会って何？
- 第2回 【古代】人間って何？①：善き生と徳（プラトン、アリストテレス）
- 第3回 【古代】共同体って何？①：支配と民主制（プラトン、アリストテレス）
- 第4回 【中世】人間って何？②：神と被造物（アウグスティヌス）
- 第5回 【中世】共同体って何？②：愛の共同体（アウグスティヌス）
- 第6回 【近代】共同体って何？③：社会契約と国家（ホッブス、ロック、ルソー、カント）
- 第7回 【近代】人間って何？③：自由と権利（カント）
- 第8回 【近現代】人間って何？④：産業の奴隷（マルクス）
- 第9回 【近現代】共同体って何？④：社会主義と資本主義（ハイエク）
- 第10回 【現代】公共性って何？：プライベートとパブリック（ハーバーマス）
- 第11回 【現代】正義って何？：平等と格差（ロールズ）
- 第12回 【現代】フェミニズムって何？：男女の平等と差異
- 第13回 【現代】ジェンダーって何？：ジェンダーとセックス（バトラー）
- 第14回 【現代】優生思想って何？：命の法的管理
- 第15回 【現代】COVID-19と共にどう生きたらいいのか？

\*（ ）の中は、その回に扱う主な思想家ですが、それ以外の思想家も扱います。書いてないところは、その理論全体をおさえることを目標にしています。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の小テスト 45%
- （ オンデマンドの場合は、グーグルフォームを使用します。 ）
- ・ 期末テスト 55%

\* 授業を5回欠席した場合は、テストを受けても成績評価の対象とはなりません。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 各回の最後に、その次の回に関連するキーワードをお伝えしますので、それについて辞典・事典やネットで調べてきましょう。僕のところに質問に来てもいいです。このキーワードに関連する問題が、小テストでは出題されます。

## 履修上の注意 /Remarks

- ・ 初回は、いわゆるイントロダクション（導入）ですが、講義全体の進め方や成績の付け方についても説明するので、必ず出席してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大人数の講義になり、おそらくオンデマンド講義になると思われませんが、なるべく双方向の講義になるようにしたいですね。哲学は、対話の学問で、一人ではできません、わかりません。一緒に勉強していきましょう。僕は、教員ですが、みなさんのリアクションや質問で学ぶことがたくさんあります（今までそうでしたので）。「教え-教えられる」関係ではなくて、「互いに教え合う」関係になりましょう。みなさんの積極的な参加を楽しみにしています！

## キーワード /Keywords

哲学、倫理学、社会学、社会哲学

# 市民活動論 【夜】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE001F	○			◎	○
科目名	市民活動論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものか、日本の現実を歴史的に振り返り、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしなが授業を進めて行く予定である。到達目標としては受講生が自分なりの「政治参加」のあり方を柔軟に考えられるようになることである。

「SDGs」の目標の中の「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

(到達目標)

【知識】市民活動を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【コミュニケーション】他者と協働して、市民活動に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【行動力】市民活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業の中で適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
  - 2回 検討の枠組みについて
  - 3回 枠組みを使った民衆行動の分析① - 政治と経済
  - 4回 枠組みを使った民衆行動の分析② - 市民
  - 5回 市民活動の<萌芽>① - 政治と経済
  - 6回 市民活動の<萌芽>② - 市民
  - 7回 市民活動の<再生>① - 政治と経済
  - 8回 市民活動の<再生>② - 市民
  - 9回 市民活動の<広がり>① - 政治と経済
  - 10回 市民活動の<広がり>② - 市民
  - 11回 中間まとめ
  - 12回 北九州市における市民活動のうねり
  - 13回 今日の市民活動の<展開>① - 政治と経済
  - 14回 今日の市民活動の<展開>② - 市民
  - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加姿勢... 40%

期末試験... 60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合があります。その際の積極的な参加が求められます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

この講義は「SDGs」世界を変えるための17の目標に幅広くあてはまるものですが、とくに「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

# 地域福祉論 【夜】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW011F	○			◎	○
科目名	地域福祉論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

- ・ 地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂 等を含む）について理解する。
- ・ 地域福祉の主体と対象について理解する。
- ・ 地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。

（到達目標）

【知識】 地域福祉を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【コミュニケーション力】 他者と協働して、地域福祉に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】 地域福祉に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

採用予定のテキストが2021年8月頃発行予定のため、授業時に指示させていただきます。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

志賀信夫・ 畠中亨（2016）『地方都市から子どもの貧困をなくす 市民・ 行政の今とこれから』旬報社  
福祉士養成講座編集委員会編（2015）『新・ 社会福祉士養成講座〈9〉地域福祉の理論と方法-地域福祉論』中央法規  
難波利光・ 坂本毅啓編（2017）『雇用創出と地域-地域経済・ 福祉・ 国際視点からのアプローチ-』大学教育出版  
その他、適宜授業中に紹介します

## 授業計画・ 内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域福祉の基本的考え方と理念【構造的アプローチ、機能的アプローチ】
- 2回 地域福祉の発展過程 1【セツルメント運動、シーボーム報告、グリフィス報告】
- 3回 地域福祉の発展過程 2【高齢化、社会福祉八法改正、非貨幣的ニード】
- 4回 地域福祉の理念【人権尊重、社会連帯】
- 5回 地域福祉の理念【ノーマライゼーション、福祉コミュニティ】
- 6回 地域包括ケアと地域共生社会【地域包括ケア、多機関協働、生活困窮者自立支援】
- 7回 地域のとらえ方と福祉圏域【コミュニティ、圏域、アソシエーション】
- 8回 コミュニティソーシャルワークの考え方【チームアプローチ、ニーズ】
- 9回 コミュニティソーシャルワークの方法【地域福祉計画、ケアマネジメント】
- 10回 貧困と地域福祉活動【社会福祉協議会、貧困の連鎖】
- 11回 障害者と地域福祉活動【総合支援法、成年後見制度、QOL】
- 12回 高齢者と地域福祉活動【地域包括支援センター、民生委員、社会福祉法人】
- 13回 女性と地域福祉活動【子育て支援、一人親家庭】
- 14回 子どもと地域福祉活動【児童館、保護司】
- 15回 災害と地域福祉活動【非常時や災害時における法制度、福祉避難所、災害ボランティア】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に指示する課題の提出・・・40% 期末試験・・・60%

## 事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、教科書や参考文献の講義内容に関する箇所を読み込んだり、関連する情報の収集などを行って下さい。

事後学習としては、講義で学んだことを通して、自分の住んでいる地域について調べたり、新聞等の記事に書かれている地域福祉に関するニュースについて調べて考察をしてください。授業中に課題が出た場合は、必ず取り組むようにして下さい。

## 履修上の注意 /Remarks

この科目は、基盤教育科目として開講される科目ですが、地域創生学群において社会福祉士養成課程における科目「地域福祉の理論と方法」に含まれる科目のひとつ（もうひとつは地域創生学群専門科目の「コミュニティワーク論」）でもあります。2019年度以降の地域創生学群入学生で、社会福祉士国家試験受験資格取得を希望される場合は、この科目の履修が必要です。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これからも地域で生活をしていくための教養として、「福祉のまちづくり」について一緒に考えてみましょう。

## キーワード /Keywords

SDGs1.貧困をなくそう、SDGs3.健康と福祉を、SDGs4.不平等をなくす、SDGs11.まちづくり、福祉のまちづくり、少子高齢化、子どもの貧困、コミュニティソーシャルワーク、社会福祉士

# メンタル・ヘルス【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PSY001F					◎
科目名	メンタル・ヘルス				※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

授業のねらい、テーマ

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルなタフさがなければ生活人としての活動は難しい世相である。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされ、ストレスに関連した多くの疾病に見舞われる危険も多くなっている。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。

本講義では一般的な心理学やアドラー心理学や森田療法を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を多角的かつ発達の視点からとらえ日々の生活と人生を充実させるためのストレスマネジメントの力を身につけることを目標とする。またメンタルに関連するソーシャルヘルス（社会的健康）やSDGs（持続可能な開発目標）にも触れる。具体的には青年期と成人期の心の健康（SDGs 3）や平和と暴力（SDGs 16）をテーマに持続可能な豊かな社会を求めよう行動するかを皆で考える授業である。

（到達目標）【自立的行動力】自分自身の心の健康に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

テキスト 「こころと人生」中島俊介 編著 ナカニシヤ出版 2017 定価2000円

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「森田療法」 岩井 寛 著 講談社現代新書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール

- 第1回 メンタルヘルスとは……メンタルヘルスの歴史・最近の推移・受講上の注意
- 第2回 心の健康と人生……人間の発達・社会と心理学・生涯発達の理論
- 第3回 胎児・乳幼児のこころの健康……胎児の能力・誕生の危機・乳児の課題
- 第4回 幼児期・学童期の心の健康……自律と積極性・しつけ・勤勉性と劣等感
- 第5回 思春期の心理学……思春期の特徴とその対応。適応の困難さと向き合う
- 第6回 青年期……同一性（アイデンティティ）の心理・LGBTの理解
- 第7回 若い成人期……親密性の発達。働く上でのメンタルヘルス
- 第8回 ライフスタイル診断とこころの健康……うつ病・神経症など
- 第9回 発達障害についての理解 1…ADHD・LD・アスペルガーなどの基本的知識
- 第10回 発達障害についての理解 2…実際の対応の仕方、留意点
- 第11回 成人期の心の健康……生きがい・職場の心理学
- 第12回 老年期の心の健康……高齢者と認知症の心理
- 第13回 平和と暴力 1……社会的健康を阻害する暴力
- 第14回 平和と暴力 2……人権と対話の文化を・SDGs（持続可能な開発目標）の理解
- 第15回 講義のまとめ……講義のまとめ ふりかえり

## 成績評価の方法 /Assessment Method

①毎回の授業への参加熱意と態度（40％）②定期試験もしくは期末課題レポート（60％）

# メンタル・ヘルス【夜】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

心理学一般に関する様々な知識があれば理解は深まりやすい。日頃の生活の中で心理学や社会学、また科学的手法に関わるテーマについて自分の興味を深めていくような態度を習慣にすることが大切だと考える。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に対する質問や感想を小片紙に書いてもらうので積極的な姿勢で毎回の授業に取り組んでほしい。

## キーワード /Keywords

SDGs 3「健康と福祉」、SDGs 16「平和と公正」に強い関連がある。

# フィジカル・ヘルス 【夜】

担当者名 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS001F				○	◎
科目名	フィジカル・ヘルス		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

そこで、本授業では、自分自身の健康について身体的・精神的・社会的側面から考え（講義）、年齢、性別、障がいの有無にかかわらず、誰でもできる運動を取り入れ（実習）、生涯にわたる健康の自己管理能力や社会で生きる自立的行動力を養うことを目指していく。

### <到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

## 教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて紹介

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 (講義) 運動と身体の健康
- 3回 (実習) 仲間づくりを意図したウォーミングアップ
- 4回 (実習) 運動強度測定
- 5回 (講義) 運動の効果(精神的側面)
- 6回 (実習) ウェイトトレーニングのやり方
- 7回 (実習) 体脂肪を減らすトレーニング
- 8回 (講義) 運動の効果(身体的側面)
- 9回 (実習) レクリエーションスポーツ①(車椅子ソフトボール)
- 10回 (実習) レクリエーションスポーツ②(ベタンク)
- 11回 (実習) レクリエーションスポーツ③(キンボール)
- 12回 (実習) レクリエーションスポーツ④(アルティメット)
- 13回 (講義) 運動の効果(社会的側面)
- 14回 これからのスポーツ
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践していただくこと。運動前、運動後には自宅でも体ほぐし運動(ストレッチや体操)を実施し、怪我防止に努めること(ストレッチや体操に関しては授業内で紹介する)。



## 履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）  
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。  
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

運動ができる（得意）、できない（不得意）などは一切関係ありません。楽しく気軽に受講できると思います。

## キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

# フィジカル・エクササイズII ( バドミントン ) 【夜】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自立的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

### <到達目標>

- 【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション ( 授業の展開方法や履修についての諸注意 )
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト ( ヘアピン・クリアー )
- 5回 基本的な打ち方とフライト ( ドロップ )
- 6回 サービスの練習
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム ( リーグ戦 )
- 15回 スキル獲得テスト②

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。運動前、運動後には自宅でも軽く運動 ( ストレッチや体操 ) を実施し、怪我防止に努めること ( ストレッチや体操に関しては授業内で紹介する )。

# フィジカル・エクササイズII ( バドミントン ) 【夜】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・デザイン科目

## 履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。  
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。  
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。  
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

## キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある